

札幌市文化財調査報告書
X

1 9 7 6

札幌市教育委員会

札幌市文化財調査報告書 X

S 153 遺 跡

1976・3

札幌市教育委員会

例 言

1. 本書は、札幌市白石区厚別町下野幌19番地を中心とする札幌市厚別軽工業団地内に存在する遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査は、昭和48年8月から11月、昭和49年5月から10月の2ヶ年にわたって実施した。
3. 本調査は、札幌市教育委員会文化財調査員加藤邦雄の担当のもとに、同上野秀一、同羽賀憲二、高橋和樹、内山真澄の協力のもとに遂行した。
4. 本書のまとめは、主として内山真澄の協力のもとに加藤邦雄があたり、分担執筆については文末に氏名を明記した。
5. 発掘調査は、上記5名のほかに、主として下記の人々が従事した。

慶応大学大学院生 高杉博章，横浜市立滝頭小学校教諭 二戸芳雄，国学院大学学生 扇原和枝。

大原勢司，笠井衛二，斎藤城徳，長谷川克浩，山下芳教，藤井則明，伊藤加代子，大原ひな（旧姓吉嶋），笠井雅子（旧姓森本），酒井洋子，小尾栄子，佐々木裕美子，市瀬知子，横地桂子，和田ひとみ。
6. 遺物整理，挿図浄浄等は，下記の人々による。

小尾栄子，佐々木裕美子，伊藤加代子，酒井洋子，横地桂子，笠井衛二，大原勢司。（以上順不同，敬称略）
7. 石質の肉眼による鑑定は，北海道開拓記念館 赤松守雄氏にお願いした。
8. 放射性炭素による年代測定は，学習院大学理学部教授 木越邦彦氏による。
9. 発掘期間中はもとより，整理，報告書出版にいたるまでの3年間にわたって，北海道内外の多くの研究者はもとより，札幌市開発局より多くの協力とご理解を賜った。

目次

序	
例言	
第1章 発掘にいたる経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第3章 発掘調査の方法と遺跡の層序	3
第1節 発掘調査の方法	3
第2節 遺跡の層序	3
第4章 遺構及び出土遺物	5
第1節 遺構及び出土遺物	5
第2節 発掘区出土遺物	177
第5章 若干の問題点	184
第6章 結語	199

挿 図 目 次

- 第 1 図 遺跡附近地図
第 2 図 遺跡地形図及び発掘区配置図（別紙折込）
第 3 図 遺構関連図（別紙折込）
第 4 図 遺跡地層柱状図
第 5 図 第 2, 3, 4, 5, 6 号ピット実測図
第 6 図 第 7, 8, 10A, 10B, 10C 号ピット実測図
第 7 図 第 9, 11, 12, 13 号ピット実測図
第 8 図 第 14, 15, 16, 17 号ピット実測図
第 9 図 第 18, 19, 20, 23, 24 号ピット実測図
第 10 図 第 25, 26, 28, 29 号ピット実測図
第 11 図 第 30, 31, 31A, 32 号ピット実測図
第 12 図 第 33, 34, 35, 36, 37 号ピット実測図
第 13 図 第 38, 39, 40, 41, 42, 43 号ピット実測図
第 14 図 第 44, 45, 46, 48, 49 号ピット実測図
第 15 図 第 47, 52 号ピット実測図
第 16 図 第 51, 53, 54, 55 号ピット実測図
第 17 図 第 50, 56, 57, 58 号ピット実測図
第 18 図 第 59, 60, 62, 63, 67 号ピット実測図
第 19 図 第 64, 65, 66 号ピット実測図
第 20 図 第 68, 69, 70, 72, 73 号ピット実測図
第 21 図 第 74, 75, 76 号ピット実測図
第 22 図 第 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83 号ピット実測図
第 23 図 第 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90 号ピット実測図
第 24 図 第 91, 96 号ピット実測図
第 25 図 第 92, 95, 98 号ピット実測図
第 26 図 第 97, 99, 100, 101, 102, 103 号ピット実測図
第 27 図 第 105, 108 号ピット実測図
第 28 図 第 104, 106, 107, 109, 111, 112 号ピット実測図
第 29 図 第 110, 110A, 113, 114, 115 号ピット実測図
第 30 図 第 116, 118, 119, 121, 125 号ピット実測図
第 31 図 第 122, 124, 126, 128, 130 号ピット実測図
第 32 図 第 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137 号ピット実測図
第 33 図 第 138, 140, 141, 142 号ピット実測図
第 34 図 第 61, 71, 93, 117, 127 号ピット実測図
第 35 図 第 120, 139, 146, 147, 148, 151, 152, 196 号ピット実測図
第 36 図 第 144, 145, 149, 201, 202, 203, 205, 206, 207, 209 号ピット実測図
第 37 図 第 154, 155, 156, 157, 159 号ピット実測図
第 38 図 第 153, 158, 160, 161, 162, 165, 167 号ピット実測図
第 39 図 第 163, 164, 168, 169, 170, 175, 178 号ピット実測図
第 40 図 第 171, 172, 173, 174, 179, 180 号ピット実測図
第 41 図 第 176, 177, 181, 186, 187, 192 号ピット実測図
第 42 図 第 184, 185, 191, 198, 199 号ピット実測図
第 43 図 第 194, 195, 196, 204 号ピット実測図
第 44 図 第 200, 210, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221 号ピット実測図
第 45 図 第 212, 213, 222, 223, 224, 225 号ピット実測図
第 46 図 第 211, 226, 227, 228, 229, 234, 396 号ピット実測図
第 47 図 第 230, 231, 232, 233, 235, 236, 369, 398, 468 号ピット実測図
第 48 図 第 208, 237, 238, 239, 240, 245, 246, 247, 248 号ピット実測図
第 49 図 第 153, 182, 183, 188, 189, 190 号

- ピット実測図
- 第50図 第241, 242, 243, 249, 250, 251号
ピット実測図
- 第51図 第244, 252, 253号ピット実測図
- 第52図 第254, 255, 256, 257, 258, 259,
260, 262, 266, 282号ピット実測図
- 第53図 第193, 261, 263, 264, 265, 277,
278号ピット実測図
- 第54図 第267, 268, 269, 270, 287号ピット
実測図
- 第55図 第271, 272, 273, 274, 288, 289号
ピット実測図
- 第56図 第275, 276, 279, 280, 281, 292,
293, 797号ピット実測図
- 第57図 第283, 284, 285, 286, 290, 291,
294, 295, 317号ピット実測図
- 第58図 第296, 297, 298, 299, 300号ピット
実測図
- 第59図 第301, 302, 303, 304, 305, 309,
310, 311号ピット実測図
- 第60図 第306, 307, 308, 313, 318, 798号
ピット実測図
- 第61図 第197, 312, 314, 315, 316, 319,
320号ピット実測図
- 第62図 第312, 322, 323, 324, 325, 327,
328号ピット実測図
- 第63図 第326, 329, 330, 331, 332, 335,
799号ピット実測図
- 第64図 第333, 334, 336, 337, 338号ピット
実測図
- 第65図 第339, 340, 341, 342, 343, 346,
347号ピット実測図
- 第66図 第344, 345, 349号ピット実測図
- 第67図 第350, 351, 352, 353, 355, 356,
358, 359号ピット実測図
- 第68図 第357, 363, 364, 372, 374号ピット
実測図
- 第69図 第354, 360, 361, 362, 365, 368,
373号ピット実測図
- 第70図 第366, 367, 370, 371, 375, 378,
379号ピット実測図
- 第71図 第377, 380, 381, 382, 383, 384,
800号ピット実測図
- 第72図 第386, 387, 388, 389, 390, 391,
392, 393号ピット実測図
- 第73図 第385, 394, 395, 397, 399号ピット
実測図
- 第74図 第400, 402, 404, 406, 407, 415,
416号ピット実測図
- 第75図 第405, 417, 418, 419, 420号ピット
実測図
- 第76図 第409, 410, 411, 441号ピット実測図
- 第77図 第414号ピット実測図
- 第78図 第412, 413, 421, 422, 423, 424,
425号ピット実測図
- 第79図 第426, 427, 428, 429, 430, 431,
432, 444号ピット実測図
- 第80図 第433, 434, 435, 436, 437, 438,
439, 440, 442, 443号ピット実測図
- 第81図 第445, 446, 447, 448, 449, 450,
451, 452, 453, 454, 466号ピット実
測図
- 第82図 第455, 456, 457, 458, 459, 460,
461, 462, 463, 464, 465, 467号ピ
ット実測図
- 第83図 第469, 470, 471, 472, 473, 474,
475, 476, 478号ピット実測図
- 第84図 第477, 479, 480, 481, 482, 483,
484, 485, 486号ピット実測図
- 第85図 第487, 488, 489, 490, 493, 494,
495号ピット実測図
- 第86図 第492, 496, 498, 499, 517号ピット
実測図
- 第87図 第500, 501, 502, 503, 504, 505,
507, 508, 522号ピット実測図
- 第88図 第509, 510, 511, 512, 513, 514,
515, 516, 518号ピット実測図
- 第89図 第519, 521, 524, 525, 535, 567号
ピット実測図
- 第90図 第523, 527, 528, 529, 530, 532,
533, 534, 536, 630, 632号ピット実
測図

第91図	第537, 538, 539, 540, 542, 543, 544, 547, 552号ピット実測図		711, 713号ピット実測図
第92図	第541, 545, 546号ピット実測図	第114図	第712, 715, 716, 718, 722, 724号ピット実測図
第93図	第548, 549, 550, 551号ピット実測図	第115図	第721, 723, 726, 727, 728号ピット実測図
第94図	第553, 566, 569, 572, 574, 577号ピット実測図	第116図	第729, 730, 731, 733, 734号ピット実測図
第95図	第554, 555, 556, 557, 558, 559, 560号ピット実測図	第117図	第732, 735, 736, 738号ピット実測図
第96図	第561, 562, 563, 564, 565, 568, 570, 571号ピット実測図	第118図	第737, 739, 740, 741, 743, 744号ピット実測図
第97図	第575, 576, 578, 579号ピット実測図	第119図	第742, 745, 746, 747, 748, 749号ピット実測図
第98図	第580, 581, 582, 583, 584, 585, 587, 588, 589号ピット実測図	第120図	第750, 752, 753, 754, 756号ピット実測図
第99図	第590, 591, 592, 593, 594, 595, 596, 597号ピット実測図	第121図	第757, 758, 759, 760, 761号ピット実測図
第100図	第598, 599, 600, 601, 602, 603, 604, 605号ピット実測図	第122図	第762, 763, 764, 765, 767号ピット実測図
第101図	第606, 607, 608, 609, 610, 611, 615, 616, 617, 681号ピット実測図	第123図	第768号ピット実測図
第102図	第612, 613, 614, 618, 619号ピット実測図	第124図	第770, 772, 774, 775, 776号ピット実測図
第103図	第620, 621, 622, 623, 624, 625, 626, 627, 628, 629号ピット実測図	第125図	第766, 769, 771, 773号ピット実測図
第104図	第631, 633, 634, 635号ピット実測図	第126図	第777, 778, 779, 780, 787, 788, 792号ピット実測図
第105図	第636, 637, 638, 639, 640, 641, 642, 643号ピット実測図	第127図	第781, 782, 783, 784, 785, 786, 791, 794号ピット実測図
第106図	第644, 649, 650, 651, 652, 653, 717号ピット実測図	第128図	第789, 790, 793, 795号ピット実測図
第107図	第654, 655, 656, 657, 658, 659, 665, 666号ピット実測図	第129図	第1, 21, 22号ピット実測図
第108図	第660, 661, 662, 663, 667, 668, 669号ピット実測図	第130図	第27, 129, 143号ピット実測図
第109図	第670, 671, 672, 673, 674, 675, 676, 677, 678号ピット実測図	第131図	第123, 348, 376, 401, 403号ピット実測図
第110図	第679, 680, 681, 682, 683, 684, 685, 686号ピット実測図	第132図	第408, 520, 531, 586, 645, 646, 647, 696号ピット実測図
第111図	第687, 688, 689, 690, 691, 692, 693, 694, 695号ピット実測図	第133図	第506, 648, 664, 700, 725号ピット実測図
第112図	第697, 698, 699, 702, 703, 704号ピット実測図	第134図	第701, 714, 719, 720, 751, 755号ピット実測図
第113図	第705, 706, 707, 708, 709, 710,	第135図	遺構出土土器拓影
		第136図	〃
		第137図	〃
		第138図	〃

第139図	遺構出土土器拓影	第171図	発掘区出土土器拓影
第140図	〃	第172図	〃
第141図	〃	第173図	〃
第142図	〃	第174図	〃
第142図	〃	第175図	発掘区出土土器底部実測図
第143図	〃	第176図	発掘区出土土器実測図
第144図	〃	第177図	遺構出土土器実測図
第145図	〃	第178図	〃
第146図	〃	第179図	〃
第147図	〃	第180図	〃
第148図	〃	第181図	〃
第149図	〃	第182図	〃
第150図	〃	第183図	〃
第151図	〃	第184図	〃
第152図	〃	第185図	〃
第153図	〃	第186図	〃
第154図	〃	第187図	第502号ピット出土玉実測図
第155図	〃	第188図	第205号ピット出土鉄器実測図
第156図	〃	第189図	発掘区出土土器実測図
第157図	〃	第190図	〃
第158図	〃	第191図	〃
第159図	遺構出土土器底部実測図	第192図	〃
第160図	〃	第193図	〃
第161図	遺構出土土器実測図	第194図	〃
第162図	〃	第195図	〃
第163図	〃	第196図	〃
第164図	発掘区出土土器拓影	第197図	〃
第165図	〃	第198図	〃
第166図	〃	第199図	〃
第167図	〃	第200図	〃
第168図	〃	第201図	〃
第169図	〃	第202図	〃
第170図	〃		

図版目次

- 図版一 遺跡全景（昭和48年発掘終了時）
図版二 発掘遺構全景（昭和48年発掘終了時）遺跡近景
図版三 第32号ピット 第41号ピット
図版四 第51, 53, 54, 55号ピット 第47, 52号ピット
図版五 第91号ピット
図版六 第91, 96号ピット 第155, 156, 169号ピット
図版七 第158号ピット 第162, 163, 164, 164, 165, 170, 193号ピット
図版八 第167号ピット 第179号ピット
図版九 第200号ピット 第200, 210, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221号ピット
図版十 第205, 206, 207号ピット 第222, 223, 224号ピット
図版十一 第235号ピット 第241, 242, 243号ピット
図版十二 第253号ピット
図版十三 第296, 297, 298, 299, 300号ピット 第306, 307, 308号ピット
図版十四 第329号ピット 第350, 351号ピット
図版十五 第352, 353号ピット 第360, 361, 362号ピット
図版十六 第364, 374号ピット 第371号ピット
図版十七 第383号ピット
図版十八 第403号ピット 第416号ピット
図版十九 第412, 413号ピット 第476号ピット
図版二十 第502号ピット
図版二十一 第523号ピット 第613号ピット
図版二十二 第633号ピット 第701号ピット
図版二十三 第706, 707, 708号ピット 第745, 746号ピット
図版二十四 第766号ピット 第779号ピット
図版二十五 第2号ピット 第12号ピット 第14号ピット 第18号ピット
図版二十六 第20号ピット 第23号ピット 第24号ピット 第26号ピット
図版二十七 第44号ピット 第47号ピット 第48号ピット 第51, 52, 53, 54, 55号ピット
図版二十八 第87号ピット 第100号ピット 第110号ピット 第121号ピット
図版二十九 第128号ピット 第130号ピット 第131号ピット 第139号ピット
図版三十 第140号ピット 第157号ピット 第158号ピット 第168号ピット
図版三十一 第187号ピット 第192号ピット 第295号ピット 第313, 318号ピット
図版三十二 第314号ピット 第320号ピット 第323, 324号ピット 第325号ピット
図版三十三 第326号ピット 第340号ピット 第342号ピット 第343号ピット
図版三十四 第349号ピット 第354号ピット 第356号ピット 第375号ピット
図版三十五 第380, 381号ピット 第382号ピット 第385号ピット 第394号ピット
図版三十六 第419号ピット 第421号ピット 第445, 466号ピット 第496号ピット
図版三十七 第497, 517号ピット 第500号ピット 第508号ピット 第510号ピット
図版三十八 第514号ピット 第516号ピット 第519号ピット 第530号ピット
図版三十九 第533, 534号ピット 第552号ピット 第607, 608号ピット 第614号ピット
図版四十 第615号ピット 第631号ピット 第634号ピット 第635号ピット

図版四十一	第652号ピット 第654, 655号ピット 第656, 665, 666号ピット 第658号ピット	(写真番号はピット番号)	図版五十三	遺構出土土器 (")
図版四十二	第660号ピット 第661, 662号ピット 第667号ピット 第669号ピット		図版五十四	" (")
図版四十三	第674号ピット 第678号ピット 第687号ピット 第697号ピット		図版五十五	" (")
図版四十四	第698号ピット 第705号ピット 第710号ピット 第712号ピット		図版五十六	" (")
図版四十五	第720, 723号ピット 第728号ピット 第731号ピット 第732号ピット		図版五十七	" (")
図版四十六	第737号ピット 第739号ピット 第741号ピット 第757号ピット		図版五十八	" 第91号ピット出土石器
図版四十七	第762号ピット 第770号ピット 第779号ピット 第789号ピット		図版五十九	"
図版四十八	第790号ピット 第791号ピット 第793号ピット 第795号ピット		図版六十	"
図版四十九	第1号ピット 第21, 22号ピット 第21号ピット 第22号ピット		図版六十一	" (写真番号はピット番号)
図版五十	第27号ピット 第143号ピット 第348号ピット 第376号ピット		図版六十二	" (")
図版五十一	遺構出土土器 (写真番号はピット番号)		図版六十三	" (")
図版五十二	"		図版六十四	第502号ピット出土玉
			図版六十五	発掘区出土土器, 石器 第205号ピット出土鉄器
			図版六十六	発掘区出土石器
			図版六十七	"
			図版六十八	"
			図版六十九	"
			図版七十	"
			図版七十一	"

表 目 次

第 1 表 ピットの構築年代と形態分類（別紙折
込）

第 2 表 遺構出土石器一覧表

第 3 表 第 502 号ピット出土玉一覧表

第 4 表 発掘区出土石器一覧表

第1章 発掘にいたる経過

本遺跡は、厚別軽工業団地造成工事に伴って、昭和47年春に発見された。当時は、教育委員会内部に独自で発掘調査を実施する体制が確立されておらず、その取り扱いにあたって種々なる方向から検討を加えた結果、近時とみに文化財対策が大きな社会問題化されているところから、札幌市においても、これに対応すべく新しい体制を確立することとなった。この方針にもとづき、体制づくりに専念するとともに、かかる先人の遺跡は、広く市民共有の財産として後世に伝えうる必要があるとの立場から、その現状保存の可否についても幾度となく協議を重ねてきた。しかし、遺跡発見の時点で軽工業団地の造成は、すでに遺跡部分を残して完成しており、これを保存することは、軽工業団地の基礎的な設計から練りなおさなくてはいけないこと、もし保存するとしても島状に浮き出た状態の火山灰地形の現状を保存することが困難である等々の事情により、事前調査を実施することに決定された。

一方、教育委員会の体制確立も急務のこととされ、昭和47年10月3名の嘱託職員が赴任したが、しかし、本遺跡の他にも更に早急に解決しなければいけない状況にある遺跡が多数あることからこれらを優先的に処理することとした。

昭和48年に到り、春から即刻調査に着手するよう準備を進めていたのであるが、前年秋以来の遺跡の発掘に専念するとともに、基本調査としての分布調査を実施している途次において、更に破壊に直面している新たなる遺跡の出現により、本遺跡の発掘は更に延期せねばならなかった。この間本遺跡にかかる工事を担当する部局には、特段の配慮を賜わった。これらの遺跡の調査を一段落させ、本遺跡の調査に着手したのは発見以来実に1年有余を過ぎた昭和48年9月1日のことである。

発掘調査着手にあたって、遺跡の表面採集、工事により露頭にあらわれた遺構の状態、また解決すべき問題となっている他遺跡の処理等、並びに常時調査に専念できるのは調査員1名のみという現状から、発掘調査そのものも2年計画とせざるを得なかった。また発掘調査の進行にともない発見される遺構は、当初の予想を大幅にうわまわるものであり、調査の前途は、誠に暗いものであった。しかし、市開発局の好意ある配慮により、十分とまではいかなくても現状ではほぼ満足すべき予算と日程を組めたこと、調査期間中を通じて調査補助の役割を果たしてくれる人達に恵まれたこと等もあって、昭和49年10月15日に無事調査を終了することができた。

今、日本各地で埋蔵文化財に関する多くの問題を聞くにつれ、本遺跡の調査にあたって、何ら問題はなかったといい難いが、多くの事例から見れば、工事施行原因者、調査主体者の意志の交流が極めてスムーズに行なわれ、多大の成果を挙げることでできた調査であるといえよう。今後も、本遺跡の調査例を範として更なる前進に向けて努力と研鑽を重ねてゆく心算りである。

第2章 遺跡の位置と環境

本遺跡は、札幌市白石区厚別町小野幌19番地を中心として広がる台地上に位置し、北から西は海拔約12mの豊平川扇状地、通称大谷地原野に面する。他の方向は海拔40~60mのいわゆる野幌丘陵へと連なる。このあたり一帯は支笏噴出堆積物によって形成されており、雨水による浸蝕がはげしく、比高5~10m内外の小支谷が多く見受けられる。

本遺跡を乗せる台地は、海拔約27mであり、西側は野津幌川が北へ流れ、東側はやはり北へ流れる野津幌川の小支流に挟まれる幅約200mの舌状を呈する。この台地先端部には、縄文時代早期の遺跡が見られる。更に同じ台地上の東側には、縄文時代早期、中期、後期、晩期の小遺跡が群在している。しかし、これらはいずれも土器が散発的に見られる遺跡ばかりで、本遺跡を形成するに足る規模の大きなものは見られない。

更に遺跡の位置を微視的に見ると、比高約12mの浸蝕谷が南から北へ入り込んでいる。谷頭には、1年中枯れることのない豊富な湧水が見られる。遺跡はこの谷をとりまく如く状態で存在している。遺跡の広がる台地西側の一部はすでに工事により削平されており、谷も約10mにわたって埋め立てられているが、残る地形と地形図から原地形を復元すると、谷の西側部の台地は標高27mの線で囲まれる最頂部があり、西側に見られる小支谷に挟まれる狭い舌状台地となり、野津幌川氾濫原へと続く。谷の東側は標高28mによって囲まれる最頂部が見られ、台地中心部へと続く。その南側はすでに削平されているが、小さな解析谷が多く見られ、野津幌川氾濫原へ面している。

第3章 発掘調査の方法と遺跡の層序

第1節 発掘調査の方法

軽工業団地造成にともなう工事により遺跡の破壊が決定している地域内を発掘調査の対象とした。予定地内の一部に塀がまわされているために、略南東-北西に見られる塀を基線とし、10 m 単位に区画し、これより略南西方向へ直角をとり、1辺10 m×10 mの大グリットを設定した。この呼称は南東-北西の基線は南東からA, B, Cとし、更に北東-南西基線は北東からⅠ, Ⅱ, Ⅲとした。この10 mの大グリットを更に2 m×2 mの小グリット25個に分割し、北東から、南西に向けて1, 2, 3と呼ぶ(第3図)。即ち各小発掘区はC-VII-20の如く名称で呼ぶこととしている。

当初は遺構の確認を主目的とし、この小発掘区4面につき1面を発掘する方法を用いたが墓壇と思われるピットの発見が著るしく、全面発掘を実施した。

昭和48年度発掘地点は、南東が谷を埋め立てる際に土砂をわずかに削平しており、この部分ではすでに幾つかのピットの上部が削除されており、底面近くの輪郭が明確に現われていた。更に南西部も造成により台地が削平されており、この部分にも幾つかのピットの輪郭が現われていた。北西部は敷地外のため今回の調査予定から除外した。発掘総予定面積は約10,000 m²であり、昭和48年度は約2ヶ月の調査期間で約800 m²を全掘し、墓壇とおぼしきピット132個を完掘した。

昭和49年度は、昭和48年と未発掘部分全域を調査した。両年度合計の発掘面積は、10,500 m²である。

第2節 遺跡の層序

発掘地点の層序はほぼ均一であり、およそ次の通りである。上層は表土黒色土で有機物混りのシルトである。中層は約10 mの厚さに火山灰が堆積しており、礫分はほとんど含まれず、軽石が見られる。シルト質砂に分類される。下層は火山灰質砂でやはりシルト質砂に分類される。厚さ5 mまで確認されている。上位火山灰層との境界附近から深度11 mまでは少量の有機物が混入している。これは火山噴出の休止、或は勢力の衰えを示すものであろう。

以上の堆積をボーリング記録図によって示せば第4図の如くなる。第Ⅰ層は黒色腐植土、中層は色調より4層に分類することができる。第Ⅱ層ローム質の黄褐色粘土である。第Ⅲ層は淡桃色火山灰、第Ⅳ層灰色火山灰、第Ⅴ層黄灰色火山灰、第Ⅵ層灰色火山灰砂、第Ⅶ層黄灰色火山灰砂となる。第Ⅰ層と第Ⅱ層との間には漸移的な変化が見られる。これを第Ⅱ'層褐色土とする。

遺構はすべて第Ⅱ層において確認することができ、その底面は第Ⅱ', Ⅱ層である。ただ、第Ⅱ', Ⅱ層は本台地上に一樣の厚さをもって広がっていないために、掘り込みの深いピットではとこ

により第Ⅲ層を掘り込んでいる。

参考までに、低地部のボーリング記録図を第5図に掲げておく。ボーリング記録図（第4図）の右側層序は、発掘調査等の所見をもとにこちらで加筆した。

尚、ボーリング調査のデータは、軽工業団地造成にともない、札幌工営社の実施した調査結果の一部を転載したものである。記して謝意を表する。

第4章 遺構及び出土遺物

第1節 遺構及び出土遺物

本節では、本遺跡発見の遺構と、その出土遺物に関して簡単に触れよう。

遺構の記述方法は、①直径または長径×短径、②発掘時の深さ、③平面形と断面形の分類、④平面形と深さによる分類、⑤ピット構築時代、⑥石の存否であり、ついで遺構の層位、その概要、遺物となっている。(遺物：)として記してあるものは、遺構からの出土遺物の総数である。(土器：)、(石器：)と銘記して記してあるものは、図、拓本等に載せてあるものを示す。尚、挿図、図版中の各遺物につけられている番号は、ピット番号であり、複数の遺物を載せてあるものは、次の如く記している。尚、拓影、実測図の示してある土器によって遺構の構築年代を決定しているとは限らない。

(例(ピット番号)—(遺物の番号), 20-1, 20-2)

第1号ピット(第129図, 図版四十九)

①222×47 ②101 ③ ④ ⑤ ⑥不明

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒褐色土(軟), 底面に厚さ10cmの黒色土が全体に見られる。

概要：壁は東西北ともに下方を袋状に掘り込んである。

遺物：早2, 続(C₁2), 不21, 磨石1, フレーク8

第2号ピット(第5図, 図版二十五)

①108×104 ②43 ③AA ④Ⅳc ⑤早期 ⑥11(上面2, 底面9)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒褐色土(Ⅱよりやや明るい), Ⅳ明褐色土

概要：底面南側に小ピットあり。石は掘り込み面の南側に2個, 他は底面に見られた。

遺物：早32, 石鏃1, 削器1

土器(第135図) 2-1~8 東釧路Ⅲ式土器

石器(第177図) 2-1 柳葉形石鏃 2-2 有茎石銛ないし石槍の柄部破片

第3号ピット(第5図)

①122×123 ②56 ③AB ④Ⅳd ⑤晩期 ⑥1(底面)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ茶黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ褐色土(地山粒子を含む) Ⅴ暗褐色土 Ⅵ褐色土(Ⅴよりやや暗い) Ⅶ暗黒褐色土(ほぼⅢに同じ) Ⅷ黒褐色土(軟弱) Ⅸ黒褐色土(Ⅷ

より硬い) X 褐色土

概要：ピット北東壁に攪乱がある。底面は平坦である。

遺物：早3, 中2, 晩2, 不3, フレーク2

土器 (第135図) 3-1 東銅路Ⅲ式土器, 3-2 タンネットウL式土器

第4号ピット (第5図)

①55×51 ②8.5 ③AA ④I a ⑤不明 ⑥

層位：I 黒色土

概要：壁はやや傾斜し皿状を示す。底面は平坦である。

遺物：なし

第5号ピット (第5図)

①120×113 ②35 ③AA ④IV c ⑤晩期 ⑥

層位：I 暗黒色土 II 黒色土 III 黒褐色土 IV 黒褐色土 (暗黒色のブロック混入) V 黒褐色土 (黒色のブロック混入) VI 褐色土 VII 暗褐色土

概要：円形、摺鉢状、底面は平坦である。

遺物：晩4

土器 (第135図) 5-1 タンネットウL式土器

第6号ピット (第5図)

①108×86 ②27 ③AA ④IV c ⑤中期 ⑥

層位：I 黒色土 II 黒褐色土 III 暗黒褐色土 IV 暗褐色土 (地山ブロックを多量に混入) V 褐色土

概要：東側壁に攪乱による浅いピットがある。

遺物：中3, フレーク1

土器 (第135図) 6-1, 2 伊達山式土器

第7号ピット (第6図)

①135×108 ②35 ③BD ④IV c ⑤恵山 ⑥

層位：I 黒色土 II 暗黒色土 III 褐色土 IV 暗褐色土 (地山粒子を含む) V 黒褐色土 VI 暗褐色土 VII 暗褐色土 (VIより硬い) VIII 暗黒褐色土 IX 暗黄褐色土 X 黄褐色粘土(軟)

概要：東側壁の一部に攪乱がある。

遺物：中1, 晩3, 不9, 削器1, フレーク3

土器 (第135図) 7-1, 2, 3 タンネットウL式土器

石器 (第177図) 7 縦形削器

第8号ピット (第6図)

①114×100 ②33 ③AA ④Ⅳc ⑤中期 ⑥6 (中層)

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ黒褐色土 Ⅵ褐色土

概要：上面に厚さ5cm, 24×15, 36×30の焼土が見られた。底面は平坦である。

遺物：早3, 中1

土器 (第135図) 8-1, 2 東釧路Ⅲ式土器, 8-3 伊達山式土器

第9号ピット (第7図)

①70×69 ②9 ③AA ④Ⅱa ⑤不明 ⑥6 (底面)

層位：Ⅰ黒色土

概要：皿状を示し、全体的に河原石が見られた。

遺物：なし

第10A号ピット (第6図)

①90×88 ②27 ③AA ④Ⅲc ⑤晩期 ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ木根の攪乱 Ⅱ黒色土 (地山ブロック混入) Ⅲ黒色土 (地山ブロック多量に混入) Ⅳ黒色土 (地山ブロック少量混入) Ⅴ暗黒褐色土 Ⅵ暗褐色土 Ⅶ黒色土 (地山ブロック混入) Ⅷ褐色土

概要：四基重複である。西端をA, 東端をC, 中央北をB, 南をDとし、一度に述べる。4ピットの新旧関係は、Dが最も古く、次がC, 新しいのはA, Bである。A, Bの新旧関係は不明。

遺物：出土遺物は、4ピット総じて述べる。早2, 中1, 晩4, 不2, 石鏃1, フレーク3, 早は、Dピット下層より検出された。

土器 (第135図) 10-1, 2 東釧路Ⅲ式土器

石器 (第177図) 10 柳葉形石鏃

第10B号ピット (第6図)

①110×93 ②27 ③ ④ ⑤ ⑥

第10C号ピット (第6図)

①75×70 ②27 ③AA ④ⅡC ⑤晩期 ⑥

第10D号ピット

①不明 ② ③ ④ ⑤ ⑥

第11号ピット (第7図)

①93×88 ②45 ③A A ④Ⅲ c ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土 Ⅵ暗褐色土 Ⅶ暗褐色土 (Ⅵよりやや明るい) Ⅷ褐色土 (Ⅴよりやや明るい)

概要：西壁やや緩やかに立ち上り，東壁は垂直である。底面は平坦である。

遺物：早2，中1，晩1，不4，フレーク2

土器 (第135図) 11-1 東釧路Ⅲ式土器

第12号ピット (第7図，図版二十五)

①110×109 ①46 ②A B ④Ⅳ c ⑤晩期 ⑥19 (下層)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗褐色土 (地山ブロック混入) Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗褐色土 (地山ブロック混入) Ⅴ黒褐色土 Ⅵ褐色土

概要：壁は底面近くで直立し，東側に攪乱がある。底面は中央がやや低い。配石は全体的に見られ，組石中2個は石皿，16個が二次的な火を受けている。

遺物：早5，中5，晩9，組石中に砥石2，擦石1，フレーク3

土器 (第135図) 12-3 東釧路Ⅲ式土器，12-1，2 縄文時代晩期土器

石器 (第183図) 12 石皿破片を再使用した砥石 (第185図) 12 擦石

第13号ピット (第7図)

①140×130 ②60 ③A B ④Ⅴ d ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒褐色土 (地山粒子混入) Ⅴ暗黒褐色土 Ⅵ暗褐色土 Ⅶ褐色土 Ⅷ暗褐色土 (Ⅵよりやや暗い)

概要：底面中央がやや低い。

遺物：早1，中1，続 (恵山3)

土器 (第135図) 13-1 東釧路Ⅲ式土器 13-2~4 恵山式土器

第14号ピット (第8図，図版二十五)

①102×87 ②20 ③A C ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 (地山粒子混入) Ⅱ暗黒褐色土 (地山ブロック混入) Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黄褐色粘土

概要：底面は平坦，西側に小ピットがある。

遺物：なし

第15号ピット (第8図)

①87×85 ②35 ③A A ④Ⅲ c ⑤晩期 ⑥18 (下層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：南側に攪乱がある。壁は垂直，底面は平坦，配石は全面に見られ12個が二次的な火を受けている。

遺物：晩5，続8，不1，フレーク1

土器 (第135図) 15-1～5 タンネットウL式土器

第16号ピット (第8図)

①114×104 ②37 ③A A ④Ⅳ c ⑤晩期 ⑥8 (中層，底面)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黄褐色土 (Ⅰのブロック混入) Ⅲ褐色土 (地山ブロック混入) Ⅳ暗褐色土 (地山ブロック若干混入) Ⅴ暗黒褐色土 Ⅵ褐色土

概要：配石は全体的に見られ，2個は掘り込み面に直立している。

遺物：中3，晩1，フレーク1

土器 (第135図) 16-1，2 伊達山式土器，16-3 タンネットウL式土器

第17号ピット (第8図)

①118×110 ②52 ③ ④ ⑤ ⑥6 (下層)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰのブロック混入) Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗褐色土 (地山粒子混入) Ⅵ褐色土 (地山ブロック混入) Ⅶ褐色土 Ⅷ地山ブロック

概要：底面は中央に向かって低くなる。配石は北に扁しており，5個は焼けている。第21号ピットと重複しており，本ピットの方が新しい。

遺物：中4，続1 (壁面より)，砥石1，フレーク2

土器 (第135図) 17-1～4 伊達山式土器

石器 (第183図) 17 砥石

第18号ピット (第9図，図版二十五)

①74×73 ②28 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥10 (底面)

層位：Ⅰ攪乱 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 (地山ブロック混入) Ⅴ黒褐色土 (地山ブロック混入) Ⅵ褐色土 Ⅶ黒褐色土

概要：北と南に攪乱がある。壁は南から西にかけ緩やかに立ちあがる。配石は全体に広がり，6個は二次的な火を受けている。

遺物：早2，晩1，フレーク1

土器 (第135図) 18-2，3 東釧路Ⅲ式土器，18-1 タンネットウL式土器

第19号ピット (第9図)

①76×60 ②22 ③AD ④Ⅱb ⑤不明 ⑥22 (中層)

層位：上層に黒色土，次に黒褐色土，底面近くには褐色土がかなり厚く見られた。

概要：断面はボウル状を示し，全面に石が見られ，うち15個は二次的な火を受けている。

遺物：石皿1

石器 (第186図) 19 石皿

第20号ピット (第9図，図版二十六)

①69×60 ②28 ③AA ④Ⅱc ⑤後北C₂ ⑥1 (中層)

層位：Ⅰ攪乱 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土

概要：西側に一部攪乱があり，底面は平坦である。

遺物：中2，統 (C₂1)

土器 (第135図) 20-1，2 伊達山式土器，20-3 後北C₂式土器

第21号ピット (第129図，図版四十九)

①289×84 ②91 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ攪乱 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒色土 (地山ブロック混入) Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土 Ⅵ褐色土
Ⅶ黒色土 Ⅶの下に再びⅥが見られる。

概要：西側は新しく構築された第22号ピットに一部破壊され，南東も新しく構築された第17号ピットにより切断されている。

遺物：搔器1，フレーク1

石器 (第177図) 21 縦形搔器

第22号ピット (第129図，図版四十九)

①141×80 ②113 ③ ④ ⑤TA ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒色土 (地山ブロック混入) Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土 Ⅵ褐色土 Ⅶ黒色土

概要：第21号ピットの西側を切断し構築している。壁は下部で垂直を示す。南側は下方で一度袋状に掘り込んでいる。第21号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：早1，中1，晩1，不2，フレーク1

土器 (第135図) 22-3 東釧路Ⅲ式土器 22-1 伊達山式土器 22-2 タンネットウL式土器

第23号ピット (第9図，図版26)

①95×88 ②21 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥2 (下層)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ褐色土

概要：壁は垂的に近く、底面は平坦である。

遺物：なし

第24号ピット (第9図, 図版26)

①97×88 ②58 ③A A ④Ⅲ d ⑤北大 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土(黒色土と地山が漸移的变化を示す)
Ⅴ暗黒褐色土(地山粒子を多量に含む) Ⅵ褐色土 Ⅶ暗褐色土 Ⅷ褐色土(地山ブロックを含む)

概要：西側壁はやや彎曲した立ち上りを示し、東側壁は急である。上部はゆるやかに広がる。

遺物：早1, 晩1, 続(北大2), 不3, フレーク1

第25号ピット (第10図)

①78×66 ②21 ③A D ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土(Ⅰより硬い) Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土 Ⅵ黄褐色粘質土

概要：壁はなだらかでボウル状を示す。

遺物：フレーク1

第26号ピット (第10図, 図版二十六)

①106×99 ②44 ③A B ④Ⅳ c ⑤中期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土(地山粒子混入) Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土

概要：南西側に攪乱を受けている。壁は急な立ち上りを示し、底面は平坦である。

遺物：中2, 不1

土器(第135図) 26-1, 2 伊達山式土器

第27号ピット (第130図, 図版五十)

①172×125 ②182 ③ ④ ⑤T A ⑥

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒色土(Ⅱよりやや暗い) Ⅴ黒褐色土 Ⅵ暗褐色土
Ⅶ黒褐色土(Ⅲよりやや明るい) Ⅷ褐色土(軟) Ⅸ黒色土 X褐色土(黒色土混入) Xの下部に再びⅣ, X, Ⅸが交互に見られる。

概要：壁の立ち上りは、下部が垂直に近く上部はゆるやかになる。焼土が径50cmにわたって見られた。

遺物：続1

第28号ピット (第10図)

①140×137 ②46 ③A B ④Ⅳ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土(硬) Ⅳ暗褐色土(軟) Ⅴ暗褐色土(Ⅳよりやや暗い) Ⅵ褐色土

概要：南側に攪乱を受けており、プランは明確でない。

遺物：早2, 晩7, 不3, 石斧破片1, フレーク1

土器(第135図) 28-1~7 タンネットウL式土器

第29号ピット (第10図)

①102×97 ②38 ③A A ④Ⅳ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土(硬) Ⅳ暗褐色土(Ⅲより更に硬い) Ⅴ暗褐色土(軟) Ⅵ褐色土

概要：壁は急に立ち上り、東側に張り出しがある。底面は平坦である。

遺物：早2, 中1

土器(第136図) 29-1, 2 東鉏路Ⅲ式土器

第30号ピット (第11図)

①89×83 ②17 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ褐色土

概要：壁は直立し、底面は平坦である。

遺物：フレーク1

第31号ピット (第11図)

①100×90 ②32 ③A D ④Ⅲ c ⑤晩期 ⑥1

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ褐色土 Ⅴ暗黄褐色土 Ⅵ暗黄褐色土(Ⅴよりやや明るい) Ⅶ黒褐色土 Ⅷ暗黒褐色土 Ⅸ暗褐色土 X褐色土 Ⅸ, Xは、第31A号ピットⅢ, Ⅳに同じである。

概要：南西側は第31A号ピットと重複、北西側は攪乱により削られている。底面中央はやや窪んでいる。

遺物：早1, 晩2, 続1

土器(第136図) 31-1, 2 タンネットウL式土器

第31A号ピット (第11図)

①96×89 ②20 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：第31号ピットの層位の項参照のこと。

概要：壁の立ち上りはゆるやかで、底面は西側にかけてやや低くなる。第31号ピットと重複。

遺物：なし。

第 32 号ピット (第 11 図, 図版三)

①106×96 ②24 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥13 (下層)

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土

概要：壁面、底面ともに硬くしっかりしている。焼土が上面径約 60 cm にわたってみられた。石は底面より浮き上がった状態で全体的に見られ、そのうち 3 個が二次的な火を受けていた。尚、焼土中より少量の木炭が検出された。

遺物：なし

第 33 号ピット (第 12 図)

①131×117 ②37 ③A D ④Ⅳ c ⑤晩期 ⑥1

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ攪乱 (西側)

概要：壁立ち上りは緩らかで、断面はボウル状を呈する。

遺物：早 2, 晩 2, フレーク 1

土器 (第 136 図) 33-2, 3 タンネットウ L 式土器

第 34 号ピット (第 12 図)

①94×79 ②55 ③A A ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥3 (上層)

層位：セクション設定位置を誤り明確になしえなかった。

概要：上面に 20×12cm の焼土が確認された。石 1 個は二次的な火を受けている。上層より多量の木炭を検出。壁は直立し、底面は平坦である。

遺物：中 3, 晩 13 (一括), 続 3

土器 (第 136 図) 34-1~5 タンネットウ L 式土器

第 35 号ピット (第 12 図)

①90×81 ②40 ③A A ④Ⅲ c ⑤北大 ⑥2 (上層, 下層)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 (Ⅳよりやや明るい) Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土

概要：壁は、西及び北側で垂直に立ち上り他は緩やかである。焼石 1 個が下層より検出された。

遺物：早 2, 中 7, 続 (D 5 北大 1), 擦 1, 不 2, 磨石 2, フレーク 1

土器 (第 136 図) 35-1, 2 トコロ第 6 類土器 35-3, 4 後北 D 式土器 35-5 北大式土器

第36号ピット (第12図)

①103×101 ②41 ③AD ④Ⅳc ⑤不明 ⑥1

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土(Ⅱよりやや明るい) Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土

概要：壁は緩やかな立ち上りを示し、断面はボウル状である。中央南側に石1個が確認された。

遺物：早1, 中1

第37号ピット (第12図)

①82×76 ②22 ③AA ④Ⅱb ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗褐色土(Ⅰより軟らかい) Ⅲ暗褐色土(硬いブロック混入)

概要：壁は西側が急で、東側は緩やかな立ち上りを示す。

遺物：晩2, 石鏃1

土器(第136図) 37-1, 2 タンネットウL式土器

石器(第177図) 37 大形有茎石鏃

第38号ピット (第13図)

①85×77 ②21 ③AA ④Ⅱb ⑤晩期 ⑥7(3中層, 4下層)

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒褐色土 Ⅵ褐色土

概要：上面南に径30cmの焼土がみられた。配石中3個は二次的な火を受けていた。

遺物：早1, 晩4, 続1, 不2, フレーク2

土器(第134図) 38-1~4 タンネットウL式土器

第39号ピット (第13図)

①107×103 ②30 ③AA ④Ⅳc ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗褐色土(Ⅳより明るい) Ⅵ褐色土

概要：東壁に比して西壁は緩やかである。底面は平坦である。

遺物：早2, 晩1, 不2

土器(第136図) 39-2 東釧路Ⅲ式土器

第40号ピット (第13図)

①90×81 ②21 ③AD ④Ⅲb ⑤早期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅰ, Ⅱは地山ブロックを混入している。

概要：壁の立ち上りは緩やかで、断面はボウル状を呈する。

遺物：早3, 続1, フレーク1

土器 (第 136 図) 40-1, 2 東釧路Ⅲ式土器

第 41 号ピット (第 13 図, 図版三)

①48×47 ②19 ③AD ④I b ⑤後北D ⑥

層位: I 黒色土 II 黒色土 (地山ブロック混入) III 褐色土 (地山に I の粒子混入) IV 暗黒褐色土

概要: 口径に比して底径が極端に小さく, 壁は緩やかである。木炭を少量検出。

遺物: 早 1, 晩 1, 続 (D-括)

土器 (第 161 図) 41 は, 高さ約 19cm, 口径推定約 20cm, 底径推定約 8cm である。口唇に刻み目を有する隆起帯をめぐらし, 胴部に縦位の帯継文を施文する。(第 136 図) 41-1, 両者とも後北 D 式土器。

第 42 号ピット (第 13 図)

①95×90 ②19 ③AA ④III b ⑤早期 ⑥

層位: I 暗褐色土 (地山ブロック混入) II 暗褐色土 (地山粒子混入) III 暗黒褐色土 (地山ブロック混入) IV 褐色土

概要: 壁は緩やかに立ち上り, 底面は東側に従ってやや高くなる。

遺物: 早 2, 晩 1, 不 2, フレーク 3

土器 (第 136 図) 41-1 タンネットウ L 式土器

第 43 号ピット (第 13 図)

①97×89 ②38 ③AA ④III c ⑤不明 ⑥ 2 (上面)

層位: I 暗黒色土 II 暗褐色土 III 暗褐色土 (II よりやや明るい) IV 黒褐色土 V 暗黒褐色土 VI 褐色土

概要: 壁は緩やかに立ち上り, 摺鉢状を呈する。上面に径約 30cm の焼土が確認された。

遺物: 晩 2

土器 (第 136 図) 43-1, 2 タンネットウ L 式土器

第 44 号ピット (第 14 図, 図版二十七)

①92×85 ②30 ③AA ④III c ⑤不明 ⑥ 6 (2 上面, 4 底面)

層位: I 黒色土 II 暗褐色土 III 暗褐色土 (II よりやや暗い) IV 暗褐色土 (III より軟らかい) V 黒褐色土 VI 黒褐色土 (V より硬く地山ブロック若干混入) VII 褐色土

概要: 壁は急で, 底面は平坦である。石は北側上面, 南側底面にあり, その内 1 個は焼石である。

遺物: 晩 1, フレーク 1

土器 (第 136 図) 44-1 タンネットウ L 式土器

第 45 号ピット (第 14 図)

①88×88 ②21 ③AD ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位: I 黒色土 II 暗褐色土 (II よりやや明るい) IV 黄褐色土

概要: 壁はなだらかに立ち上り, 断面はボウル状である。

遺物: 早 1

土器 (第 136 図) 45-1 東釧路Ⅲ式土器

第 46 号ピット (第 14 図)

①75×75 ②21 ③AD ④II b ⑤不明 ⑥

層位: I 褐色土 II 暗褐色土 III 黒色土 IV 暗黒褐色土

概要: 西壁はゆるやかに立ち上る摺鉢状である。

遺物: なし

第 47 号ピット (第 15 図, 図版二十七)

①105×94 ②49 ③AA ④II c ⑤後北 C₂ ⑥3 (下層)

層位: I 暗黒色土 II 暗黒褐色土 III 黒褐色土 IV 黒色土 V 暗褐色土 VI 黒褐色土 (III よりやや軟らかい) VII 暗黒褐色土 (II より軟らかい) VIII 暗褐色土 (V より軟らかい) IX 暗褐色土 (VIII より軟らかく, 木炭粒を含む)

概要: 北側で第 52 号ピットと重複している。本ピットのほうが古い。壁下方は垂直で, 上方は緩やかに立ち上る。石 3 個が底面近くより出土した。

遺物: 中 1, 晩 1, 統 (C₂1)

土器 (第 136 図) 47-1 縄文時代中期土器 47-2 タンネットウ L 式土器 47-3 後北 C₂ 式土器

第 48 号ピット (第 14 図, 図版二十七)

①106×105 ②42 ③AA ④IV c ⑤不明 ⑥10 (下層, 底面)

層位: I 暗黒色土 II 黒色土 (褐色土のブロックを含む) III 暗褐色土 IV 暗褐色土 (III よりやや暗い) V 黒褐色土 VI 褐色土

概要: 壁は約 45° の立ち上りを示し, 摺鉢状である。上面中央に 25×15cm の焼土が見られた。配石は全面にあり, そのうち 2 個は二次的な火を受けていた。

遺物: 中 1

第 49 号ピット (第 14 図)

①108×104 ②45 ③AD ④IV c ⑤不明 ⑥8 (底面)

層位：上層より，暗褐色土，暗黒褐色土，褐色土の順である。

概要：南東側は攪乱により壁の確認はできない。更に東側も掘り込み面上方は攪乱を受けている。西側壁は緩やかに立ち上る。

遺物：北海道式石冠 1

石器（第 183 図） 49 北海道式石冠

第 50 号ピット（第 17 図）

①110×103 ②54 ③A D ④Ⅳ c ⑤晩期 ⑥5（3 上面，2 下層）

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ褐色土（地山ブロック混入）Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土 Ⅵ暗褐色土（地山ブロック混入）

概要：壁はゆるやかに立ち上る。底面は平坦な摺鉢状である。

遺物：早 4 晩 3 不 2 擦石 1

土器（第 136 面） 50-1～4 東釧路Ⅲ式土器 50-5 タンネットウ L 式土器

石器（第 185 図） 50 擦石

第 51 号ピット（第 16 図，図版四，二十七）

①110×103 ②54 ③A A ④Ⅳ c ⑤ ⑥

層位：

概要：北側の掘り込み面上端は，第 53，54 号ピットの構築によって破壊されている。新旧関係は古い順に，第 55，51，54，53 号ピットとなる。

遺物：早 6

土器（第 136 図） 51-1，2 東釧路Ⅲ式土器

第 52 号ピット（第 15 図，図版四，二十七）

①75×73 ②57 ③A B ④Ⅱ d ⑤晩期 ⑥16（底面）

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗褐色土（Ⅲより暗い）Ⅴ暗黒褐色土 Ⅵ暗褐色土（Ⅲよりやや明るい地山ブロックを含む）Ⅶ褐色土 Ⅷ暗褐色土（Ⅵよりやや明るい地山ブロックを含む）

概要：南側で第 47 号ピットと重複している。本ピットが新しい。底面全体に配石が見られた。そのうち 7 個は焼石である。

遺物：早 5 中 1 晩 3 不 1

土器（第 137 図） 52-1～3 東釧路Ⅲ式土器 52-4～6 タンネットウ L 式土器

第 53 号ピット（第 16 図，図版四，二十七）

①114×101 ②35 ③A A ④Ⅳ c ⑤晩期 ⑥13（上面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黄褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土（Ⅳよりやや暗い）

概要：壁は急傾斜を示し、底面は平坦である。四基の複合である。第51号ピット参照，13個の石が南側に扁在した。そのうち6個は火を受けている。

遺物：早6 晩1 続1 不2 フレーク1

土器（第137図） 53-1～5 東釧路Ⅲ式土器 53-6 タンネットウL土器

第54号ピット（第16図，図版四，二十七）

①106×102 ②54 ③AA ④Ⅳd ⑤不明 ⑥12（下層）

層位：Ⅶ暗黒褐色土（軟）Ⅷ暗褐色土（やや硬い）Ⅸ黒褐色土 X暗褐色土 XI暗褐色土（Xより軟弱）XII褐色土

概要：壁は急に立ち上り、底面は平坦である。12個の石が底面よりやや浮いた状態で北に扁在した。2個は二次的な火を受けている。本ピットは四基重複である。第51号ピット参照。

遺物：早1

第55号ピット（第16図，図版四，二十七）

①103×91 ②54 ③AA ④Ⅲd ⑤後北C₂ ⑥

層位：

概要：壁は急であり、断面は摺鉢状を示す。本ピットは四基重複である。第51号ピット参照。

遺物：続（C₂1）

土器（第137図） 55-1 後北C₂式土器

第56号ピット（第17図）

①182×175 ②46 ③AB ④Ⅴc ⑤不明 ⑥

層位：上層より、黒色土、黒色土（地山ブロックを含む）、黒色土（軟）、底面近くでは、暗褐色土（地山の軟らかいブロックを含む）

概要：南側に張り出しをもつ不整円形である。壁は緩やかに立ち上る。底面は西から東に傾斜している。

遺物：早5（底部） 晩4 続（C₁, C₂, D）6 擦1 不1 石皿破片1 フレーク3

土器（第137図） 56-8 東釧路Ⅲ式土器 56-1～5 タンネットウL式土器 56-6 続縄文式土器 56-7 後北C₁式土器

第57号ピット（第17図）

①59×58 ②9 ③AD ④Ⅰa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土

概要：円形皿状の小型ピットである。

遺物：なし

第 58 号ピット (第 17 図)

①80×70 ②28 ③AA ④ⅡC ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土 Ⅵ暗褐色土

概要：壁は西側で一部階段状を呈する。底面は東にしたがいやや高くなる。

遺物：なし

第 59 号ピット (第 58 図)

①100×99 ②14 ③AA ④Ⅲb ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：壁は急に立ち上り、底面は平坦である。西側で第 63 号ピットと重複。第 63 号ピットのほうが古い。

遺物：晩1 続1

土器 (第 137 図) 59-2 後北 C₂ 式土器

第 60 号ピット (第 18 図)

①136×121 ②42 ③AA ④Ⅴc ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ攪乱 Ⅱ黒褐色土 (攪乱を受けた様相を示す) Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ褐色土 Ⅴ黄褐色土

概要：東壁が急で他はゆるやかな立ち上りを示す。底面は東より西へ傾斜している。

遺物：早1 中2 晩3 不1

土器 (第 137 図) 60-1~2 東釧路Ⅲ式土器 60-3~5 (タンネットウL式土器)

第 61 号ピット (第 34 図)

①90×79 ②40 ③AA ④Ⅲc ⑤後北D ⑥1

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい)

概要：円形、摺鉢状のプランを呈する。

遺物：続 (C₂, D一括)

土器 (第 161 図) 61は後北 C₂ 式土器注口部, (第 137 図) 61-1, 2 後北D式土器

第 62 号ピット (第 18 図)

①113×102 ②48 ③AB ④Ⅳc ⑤後北D ⑥7 (下層底面, 1個は軽石)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 (褐色ブロック混入) Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ黒褐色土 Ⅵ暗褐色土 (Ⅲよりやや明るい)

概要：壁の立ち上りは、下方が急傾斜、上方は緩やかである。石7個が下層と底面に存在した。

そのうち1個は軽石、2個は焼石で、東に扁して見られた。

遺物：早1 中1 晩4 続(D2) 不1 石皿または砥石破片1 フレーク1
土器(第137図) 62-1~4 タンネットウL式土器 62-5 後北D式土器

第63号ピット(第18図)

①87×86 ②41 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅳ黄褐色粘土 Ⅴ黒色土 Ⅵ黄褐色粘土 Ⅶ黄褐色粘土(軟) Ⅷ黄褐色粘土ブロック

Ⅸ黄褐色土(やや暗い)

概要：壁は急で底面中央より西に約10cmの段差が見られる。第59号ピットと重複。第59号ピットが新しい。

遺物：なし

第64号ピット(第19図)

①154×140 ②51 ③BA ④Vd ⑤不明 ⑥1

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒褐色土 Ⅵ暗褐色土 Ⅶ褐色土

概要：壁は底面より急に立ち上り、途中から緩やかな傾斜となる。ほぼ中央に焼石が1個見られた。西側で第66号ピット、南側で攪乱ピットと重複し、第66号ピットが古い。掘り込み面中央に径60cm、厚さ12cmの焼土が見られた。

遺物：早1 中1 晩2 続1 不1

土器(第137図) 64-1 東釧路Ⅲ式土器 64-2, 3 タンネットウL式土器

第65号ピット(第19図)

①100×98 ②36 ③AD ④Ⅲc ⑤不明 ⑥4(3下層, 1底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黄褐色土

概要：壁は緩やか、底面はやや彎曲する。第66号ピットと重複。第66号ピットが古い。

遺物：続4

土器(第137図) 65-1~3 続縄文時代土器

第66号ピット(第19図)

①87 ②16 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅳ暗褐色土のみがみられた。

概要：西側は第65号ピット、東側は第64号ピットと重複し、両者よりも古い。円形、ボウル状を示す。

遺物：なし

第 67 号ピット (第 18 図)

①78×78 ②30 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗黒褐色土（Ⅱより暗い）

概要：西壁がゆるやかな立ち上りを示し、底面はほぼ平坦である。

遺物：早 1 中 1 不 1

土器（第 137 図） 67-1 縄文時代中期土器

第 68 号ピット (第 20 図)

①113×108 ②50 ③A A ④Ⅳ c ⑤後北 D ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土（火山灰が均一に混入） Ⅲ暗黒褐色土（火山灰がまだらに混入） Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土（Ⅳよりやや暗い） Ⅵ黒褐色土 Ⅶ暗黒褐色土（Ⅱに近似する） Ⅷ黒色土 Ⅸ褐色土

概要：東壁がやや緩やかで他は急傾斜である。底面は中央部が低くなっている。

遺物：早 5 中 1 晩 2 続 (C₁, D) 18 不 8

土器（第 137 図） 68-1, 2 後北 C₁ 式土器 68-3~12 後北 D 式土器

第 69 号ピット (第 20 図)

①44×32 ②13 ③B B ④Ⅰ a ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：不整楕円形、断面はボウル状である。

遺物：フレーク 1

第 70 号ピット (第 20 図)

①47×47 ②13 ③A D ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土

概要：円形の小ピットである。断面はボウル状である。

遺物：晩 2

第 71 号ピット (第 34 図)

①112×106 ②51 ③A C ④Ⅳ d ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗褐色土（Ⅳより明るい） Ⅵ褐色土

概要：円形、摺鉢状で東壁はほぼ垂直に立ち上る。底面中央に窪みを持つ。

遺物：なし

第72号ピット (第20図)

①112×98 ②46 ③AA ④Ⅳc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黒色土（木炭を含む） Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗褐色土（Ⅳより軟らかい） Ⅵ暗黒褐色土 Ⅶ暗褐色土（乳灰色火山灰が若干混入）

概要：東壁に攪乱が見られる。ピット外，南約30cmに，長辺50cm，短辺30cm，厚さ5cmの板状の石が置かれていた。

遺物：早1 フレーク1

第73号ピット (第20図)

①95×81 ②49 ③AD ④Ⅲc ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黄褐色粘土（軟弱） Ⅴ黒色土（地山ブロック混入） Ⅵ黄褐色粘土 Ⅶ黄褐色粘土ブロック

概要：壁の下方は急で，上方がゆるやかである。覆土はグリット発掘時に若干掘りすぎたためⅠ層が削られた。層位はⅡ層からである。

遺物：晩1 統（C₂一括）

土器（第138図） 73-3 タンネットウL式土器 73-1, 2 後北C₂式土器

第74号ピット (第21図)

①96×95 ②38 ③AB ④Ⅲc ⑤不明 ⑥1

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒褐色土

概要：西壁は垂直で，東壁は緩やかである。底面は西に向って高くなる。石1個がピット内東より検出された。

遺物：晩1

土器（第138図） 74-1 タンネットウL式土器

第75号ピット (第21図)

①359×325 ②58 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗褐色土（Ⅲより明るい） Ⅵ暗褐色土（Ⅴより明るい） Ⅶ褐色土 Ⅷ黒色土（地山ブロックを少量混入） Ⅸ褐色土（Ⅶよりやや暗い） X黄褐色粘土 XI乳白色粘土 XII褐色粘土 XIII黄褐色粘土 XIV黄褐色粘土ブロック XV暗黒色土

概要：発掘前の平面プランは，黒色土が環状にめぐっており，図中破線で囲まれる部分は，地山の黄褐色土が見られた。黒色土は，約10cmの厚さで，黄褐色粘土の下部に入り込んでいる。

遺物：中3 晩2 統（A2 北大2） 不20 削器1 フレーク1

土器 (第 138 図) 75-1 縄文時代中期土器 75-4, 5 タンネットウ L 式土器 75-2, 3 後北 A 式土器
75-6, 7 北大式土器

石器 (第 177 図) 75 矩形剥片の一側縁に背の高い刃部を施した削器

第 76 号ピット (第 21 図)

①96×84 ②25 ③A A ④Ⅲ b ⑤ ⑥

層位: Ⅰ 黒色土 Ⅱ 暗黒色土 Ⅲ 暗黒褐色土 Ⅳ 暗褐色土 (地山粒子混入)

概要: 壁は急に立ち上り, 底面は平坦である。

遺物: 晩 7 (一点朱塗 P-5) フレーク 1

土器 (第 138 図) 76-1~5 タンネットウ L 式土器

第 77 号ピット (第 22 図)

①92×89 ②32 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥ 1 (上面)

層位: Ⅰ 暗黒色土 Ⅱ 暗黒褐色土 Ⅲ 黒褐色土 Ⅳ 黒色土 Ⅴ 褐色土

概要: 壁は緩やかに立ち上り, 底面は若干彎曲している。南壁近くの上面に石 1 個あり。

遺物: フレーク 1

第 78 号ピット (第 22 図)

①52×43 ②7 ③A D ④Ⅰ a ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ 暗黒色土 Ⅱ 暗褐色土

概要: 円形, 皿状を示すプランである。西側は第 79 号ピットに切られている。第 79 号ピットが新しい。

遺物: なし

第 79 号ピット (第 22 図)

①88×87 ②6 ③A D ④Ⅲ a ⑤不明 ⑥ 4 (底面, 内 1 個は石皿)

層位: Ⅰ 暗黒色土

概要: 円形皿状のプランである。第 78 号ピットを切って構築している。第 78 号ピットが古い。人頭大の石 4 個が検出され, 内 1 個は石皿であった。

遺物: 続 2 石皿 1 (S-3)

土器 (第 138 図) 79-1, 2 後北式土器

石器 (第 186 図) 79 石皿

第 80 号ピット (第 22 図)

①112×102 ②39 ③A D ④Ⅳ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒褐色土（Ⅰよりやや明るい） Ⅳ暗褐色土（Ⅴよりやや暗い） Ⅴ暗褐色土

概要：底面中央が低くなっている。円形摺鉢状のピットである。木炭少量がⅢ層北東より検出された。

遺物：中2 晩2 続5 不3 フレーク3

第81号ピット（第22図）

①75×71 ②24 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥1（石冠破片）

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗褐色土（Ⅰよりやや暗い） Ⅲ暗黒色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：壁は垂直で、底面は平坦である。

遺物：晩1 石冠1

石器（第183図） 81 石冠

第82号ピット（第22図）

①80×74 ②20 ③AD ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要：壁は緩やかに立ち上り、断面はボウル状である。

遺物：なし

第83号ピット（第22図）

①67×65 ②10 ③AA ④Ⅱa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ褐色土

概要：この附近一帯は谷の埋め立てによって表土が削平されピット底面部のみが残存したものと思われる。円形を呈するピットであるが断面形は現存部では皿状である。

遺物：晩1

第84号ピット（第23図）

①66×64 ②11 ③AA ④Ⅱa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土

概要：地山が東に傾斜するため、東壁は西壁に比して低くなる。上部が削平されているため、ピットの底面部のみが残されたものと思われる。第83号ピット参照。

遺物：中1

第85号ピット（第23図）

①66×56 ②10 ③AA ④Ⅰa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：西側にしたがって底面が高くなる。整地作業により底面部のみ残存。現存部のみでは底面と壁の区別が明瞭でない。

遺物：なし

第86号ピット（第23図）

①86×83 ②30 ③AA ④Ⅲc ⑤晩期 ⑥1（中層）

層位：Ⅰ攪乱 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形、摺鉢状のプランである。Ⅲ下面より人頭大の石1個が検出された。

遺物：晩3 不3

土器（第138図） 86-1～3 タンネットウL式土器

第87号ピット（第23図，図版二十八）

①98×93 ②29 ③AA ④Ⅲc ⑤晩期 ⑥6（底面）

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土

概要：円形プランで摺鉢状を呈する。配石は6個で、5個は北、1個は南、そのうち4個は焼石はある。

遺物：晩4

土器（第138図） 87-1～4 タンネットウL式土器

第88号ピット（第23図）

①72×70 ②20 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土（褐色ブロック混入） Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土が壁沿に堆積している。

概要：円形プランで壁は垂直である。

遺物：晩1 砥石破片1

第89号ピット（第23図）

①94×75 ②25 ③BA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黒褐色土（Ⅳよりやや明るい） Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土（Ⅰより明るい） Ⅵ暗褐色土（Ⅴよりやや暗い）

概要：楕円形で、摺鉢状の断面形である。

遺物：晩2 不1 フレーク1

土器（第138図） 89-1, 2 タンネットウL式土器

第 90 号ピット (第 23 図)

①96×90 ②34 ③A A ④Ⅲ c ⑤恵山 ⑥2 (下層)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 ピットの断面形と同じ状態でみられた。

概要：南壁が張り出した不整形円形プランで、南壁の立ち上りは緩やかである。焼石 2 個検出。

遺物：中 1 晩 8 統 (底部 2) 不 4

土器 (第 161 図) 90 は器面にこまかい縄文を施文する。縄文時代恵山式土器であろう。(第 138 図) 90-1, 2 タンネットウ L 式土器 90-3 縄文式土器

第 91 号ピット (第 24 図, 図版五, 六)

①138×130 ②70 ③A C ④V d ⑤恵山 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土 Ⅵ黒褐色土 (Ⅳよりやや明るい) Ⅶ褐色土 (Ⅴよりやや暗い) Ⅷ褐色土 (Ⅶより軟らかい)

概要：円形で下方がやや広がる袋状のピットである。ピットの外、西に約 40 cm のかなり厚い焼土が見られた。第 96 号ピットと重複している。両者の関係は第 96 号ピットが古く構築されている。

遺物：中 1 晩 3 統 (恵山完形土器 2) 不 2 削器 3 ナイフ 1 石鏃 13 石斧 2 砥石破片 1 擦石 1 フレーク 3

土器 (第 161 図) 91-1 は現存高 17.8 cm, 現存口径 12.5 cm, 底径 5.1 cm, 口縁部欠失している。器形は頸部が直立し、口縁がやや外反する。肩部より胴部にかけてわずかに膨みを見せる。底部は揚底である。口縁部に横走る沈線を 6 条めぐらし、その下部に斜行する縄文帯が見られる。更に肩部に 3 条の横走沈線を配し、その下位に曲線の沈線による文様を形づくる。以下 2~3 条 1 組の縦位の縞縄文を配する。底部に穿孔が見られるが、意識的なものであるか否か明瞭でない。成形は約 3 cm 巾の粘土紐を用いている。色調は黄褐色で一部に炭化付着が見られる。91-2 は、高さ 11.6 cm, 口径 11.9 cm, 底径 4 cm である。口縁部がやや外反し、胴部にわずかの膨みが見られ、底部が直立し、揚底となる。口唇に 4 個の B 状突起が見られ、刻み目をつける。頸部に横走る 4 条の沈線をめぐらし、これと口唇を結ぶ、斜行沈線を配する。以下山形沈線、横走る沈線、波状沈線により文様を作る。地文としては、細かい粒子の縄文がつけられる。土器内面は口唇の突起を囲む如くに 2 本の沈線を配し、3 本 1 組の縄文が施文される。内面には横方向の器面調整が行なわれている。色調は表面は黄褐色で内面は黒色である。

石器 (第 178 図) 91-1~13 は黒燿石製石鏃である。無柄のもので左右対称形となる整然としたものが多い。91-13, 1 点のみが有柄である。13 点ともに底面から発見された。91-14 はパイプエースのナイフで左右対称でいわゆる靴形石器に近い形態と言えようか。91-15, 16 は縦長剝片を利用した削器で、15 はバルブの見られる以外の側縁に刃部を作り出し、16 は 1 側縁にのみ加工を加えて刃部としている。91-17 はやや巾広の剝片の 1 側を刃部としている。91-18 は大型の石斧で、刃部は磨製仕上をほどこし、それ以外はかなり荒い仕上をしている。側面は片側がやや扁平とな

る。刃部には、成形によってつけられる擦痕とは明らかに異なるやや太めの擦痕が刃と直角に見られる。91-19は前者と同様な作成をしている。やや小型である。側面から見ると片側は、若干内彎しており、扁平片刃に近いものである。扁平な側の刃部には短かい太い擦痕が、他の面にはこれより長い同様な擦痕が認められる。(第183図) 91-1 砥石破片 (第185図) 91-2 擦石

第92号ピット (第25図)

①382×295 ②100 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黄褐色粘土 Ⅲ黄褐色粘土(やや白みを帯びる) Ⅳ黄褐色粘土(Ⅲより白みを帯びる) Ⅴ黄褐色粘土ブロック Ⅵ黄褐色粘土(Ⅳより更に白みを帯びる) Ⅶ黄褐色粘土(やや赤味を帯びる) Ⅷ火山灰

概要：黒色土が環状に落ち込む、いわゆる風倒木の跡といわれているものと同類。

遺物：なし

第93号ピット (第34図)

①121×117 ②50 ③A A ④Ⅳc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土(Ⅱより明るい) Ⅳ褐色土

概要：円形、摺鉢状のピットである。

遺物：なし

第94号ピット (欠番)

第95号ピット (第25図)

①106×88 ②32 ③A B ④Ⅲc ⑤晩期 ⑥1(底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗褐色土(Ⅲよりやや明るい) Ⅴ暗褐色土(Ⅲよりやや暗い) Ⅵ黒色土(Ⅱより軟らかい)

概要：東、北壁は緩らかな傾斜である。底面より焼石が一個検出された。

遺物：晩60(一点朱塗り) 続1 石鏃 1 砥石1 フレーク2

土器(第161図)95は、底径推定7.8cm、縄文を地文とし、底面にも縄文を施文する。(第138、139図) 95-1~15。いずれもタンネトウL式土器

石器(第177図)95 黒耀石製無柄石鏃、重さ1.3g (第183図) 95 砥石

第96号ピット (第24図, 図版六)

①207×48 ②83 ③ ④ ⑤T B ⑥

層位：Ⅰ攪乱 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土(Ⅲよりやや明るい) Ⅴ褐色土(硬) Ⅵ褐色土(軟) Ⅶ黒褐色土

概要：壁の立ち上りは、掘り込み面より30cm下部までやや緩傾斜となり、下方は急傾斜である。両端は垂直である。第91号ピットの構築により底面部を残して破壊されている。

遺物：晩3 統2 不2

第97号ピット (第26図)

①105×105 ②42 ③AA ④Ⅳc ⑤晩期 ⑥4 (中層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗褐色土 (Ⅲより暗い)

概要：正円形、摺鉢状のプランである。

遺物：晩88

土器 (第139図) 97-1~18 タンネットウL式土器

第98号ピット (第25図)

①59×59 ②8 ③AD ④Ⅰa ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：正円形、皿状のプランである。

遺物：晩3

土器 (第139図) 98-1, 2 (タンネットウL式土器)

第99号ピット (第26図)

①80×79 ②23 ③AA ④Ⅱb ⑤晩期 ⑥1 (下層)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：壁は急傾斜で、底面は平坦である。南側底面近くで石1個が出土した。

遺物：中2 晩11 不2 フレーク2

土器 (第139図) 99-1~5 タンネットウL式土器

第100号ピット (第26図, 図版二十八)

①55×48 ②21 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥12 (上面~中層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅳ暗褐色土 (Ⅱよりやや暗く

地山ブロック混入)

概要：円形、摺鉢状の小型ピットである。上面から中層にかけて小礫12個が検出された。

遺物：なし

第101号ピット (第26図)

①97×96 ②28 ③AA ④Ⅲc ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形で摺鉢状を呈する。中央北側より炭化物が少量検出された。

遺物：晩 53 フレーク 1

土器（第 139 図） 101-1~11 タンネットウ L 式土器

第 102 号ピット（第 26 図）

①56×45 ②22 ③A D ④ I b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：壁は急傾斜を示し、口径に比して底径が極端に小さくなる。第Ⅰ層より炭化物が少量検出された。

遺物：なし

第 103 号ピット（第 26 図）

①58×56 ②22 ③A D ④ I b ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ褐色土

概要：円形のボウル状である。径 13×11cm、深さ 11cm の小ピットが確認された。

遺物：晩 14 続（D 1） 不 3 フレーク 2

土器（第 140 図） 103-1~4 タンネットウ L 式土器 103-5 後北 D 式土器

第 104 号ピット（第 28 図）

①71×66 ②19 ③A A ④ II b ⑤晩期 ⑥ 1（中層）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗黒褐色土

概要：円形の摺鉢状である。中層より割石 1 個が出土した。

遺物：晩 13 続 6 不 10 フレーク 1

土器（第 140 図） 104-1~3 タンネットウ L 式土器

第 105 号ピット（第 27 図）

①402×150 ②12 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒色土

概要：不整形を呈し、南側から西壁 3 分の 1 にかけて丸味をおびる壁となる。北壁と西壁中、南壁にそれぞれ浅いピットが見られる。底面は平坦である。本ピットの性格については不明である。本ピット内に第 108 号ピットが内包されている。

遺物：晩 32 続 32 擦 11 スクレイパー 1 石皿 1 フレーク 9

土器（第 140 図） 105-1~6 タンネットウ L 式土器 105-9~11 後北 A 式土器 105-12 後北 B 式土器 105-15 後北 C₂ 式土器 105-31, 14 後北 D 式土器 105-16, 17 北大式土器 105-7, 8 擦文式土器

石器(第177図) 105 縦形削器 (第184図) 105 石皿で第289号ピット出土の石皿と同一のものである。

第106号ピット(第28図)

①59×59 ②15 ③AD ④I b ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒褐色土

概要: 正円形, ボウル状のピットである。

遺物: なし

第107号ピット(第28図)

①65×65 ②20 ③AA ④II b ⑤晩期 ⑥1

層位: I 暗黒褐色土 II 黒褐色土

概要: 正円, 摺鉢状である。焼石1個が北西壁ぎわから出土した。

遺物: 早1 中1 晩11 続(C₂3) 不2

土器(第140図) 107-1 東釧路Ⅲ式土器 107-2 タネネトウL式土器 107-3~5 後北C₂式土器

第108号ピット(第27図)

①86×83 ②42 ③AA ④III c ⑤晩期 ⑥

層位: II 暗黒色土 III 焼土 IV 黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状である。第105号ピット内に構築されている。

遺物: 晩6 続(C₂1, D8) フレーク1

土器(第140図) 108-1~3, 5 タネネトウL式土器 108-6 後北C₂式土器

第109号ピット(第28図)

①140×138 ②11 ③AA ④V b ⑤晩期 ⑥

層位: I 暗黒褐色土 II 暗褐色土 III 黄褐色土

概要: 南壁がなだらかに立ち上り, 張り出し部分が見られる。不整円形である。北東にやや大きいピット4個, 西側に小さな深いピット2個が見られる。

遺物: 晩8 続1 擦3 不1 フレーク12

土器(第140図) 109-1~3 タネネトウL式土器

第110号ピット(第29図, 図版二十八)

①126×120 ②76 ③AA ④IV d ⑤不明 ⑥10(9中層, 1底面)

層位: I 暗褐色土 II 暗黒色土 III 暗黒褐色土(Iよりやや暗い) IV 黒褐色土 V 黒色土 VI 黒

褐色土 (Ⅳよりやや明るい) Ⅶ暗褐色土 Ⅷ黒褐色土 (Ⅵよりやや明るい) Ⅸ褐色土

概要：南西部が攪乱により破壊を受けている。北東部は第110A号ピットと切り合っている。壁は急で深い。第110A号ピットよりも古い。石が10個検出され、内2個は二次的な火を受けている。

遺物：晩51 統12 擦1 搔器1 フレーク2

土器 (第140図) 110-1~6, 7, 8 タンネットウL式土器 110-9~11 後北B式土器 110-12 後北C₂式土器 110-13, 14 後北D式土器

石器 (第177図) 110 搔器 (小形)

第110A号ピット (第29図)

①82 ②10 ③AA ④Ⅰa ⑤不明 ⑥1 (上層)

層位：Ⅴ黒色土 (第110号ピットのⅤとは区別することが出来た)

概要：南西部にて第110号ピットと重複する。円形、フライパン状である。北壁上層より石1個が検出された。第110号ピット参照。

遺物：晩3 フレーク2

第111号ピット (第28図)

①76×76 ②29 ③AC ④Ⅱc ⑤北大 ⑥3 (底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗黒褐色土 ⅡとⅣ、ⅢとⅤは、それぞれ同じ層であり交互に堆積している。

概要：壁は垂直で、底面は堅く平坦である。石3個が底面より検出された。

遺物：晩14 統(C₁, C₂3 北大式完形土器1) 削器2 フレーク3

土器 (第161図) 111-1 底径推定9cm, 111-2 高さ10.3cm, 口径14cm, 底径5.7cmいずれも北大式土器 (第141図) 111-1~3 タンネットウL式土器 111-4, 5 後北C₁式土器

石器 (第177図) 111-1 縦形搔器 111-2 搔器 (小形)

第112A号ピット (第28図)

①93×86 ②24 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒色土 (攪乱を受けている)

概要：西壁が緩やかに立ち上がり、底面西側がやや高くなっている。3個重複である。西端A (本ピット)、東端B、南端をCとする。Aに附属して小ピット1個が見られた。新旧関係は、AよりもBが古く、Cは不明である。

遺物：晩8 統(D6) 不1

土器 (第141図) 112-1, 2, 3 タンネットウL式土器 112-4, 5

後北D式土器

第 112 B 号ピット (第 28 図)

①67×37 ②6 ③BD ④Ⅱ ⑤ ⑥

層位：

概要：不整楕円，皿状のピットである。第 112 A 号ピット参照。

遺物：なし

第 112 号ピット C (第 28 図)

①不明 ② ③AA ④Ⅲ b ⑤不明

層位：

概要：第 112 A 号ピット参照。

遺物：なし

第 113 号ピット (第 29 図)

①96×89 ②19 ③AA ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥4 (底面)

層位：Ⅰ黒褐色土 (地山粒子混入) Ⅱ褐色土

概要：不整円形，フライパン状を示す。拳大の石 4 個が底面より出土した。

遺物：晩 3 不 1

土器 (第 141 図) 113-1, 2 タンネットウ L 式土器

第 114 号ピット (第 29 図)

①114×111 ②10 ③AA ④Ⅳ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：北壁をのぞき緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。

遺物：中 晩 2 搔器 1

土器 (第 141 図) 114-1, 2 タンネットウ L 式土器

第 115 号ピット (第 29 図)

①66×59 ②15 ③AA ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土

概要：円形，フライパン状である。

遺物：晩 1 続 1

第 116 号ピット (第 30 図)

①60×57 ②10 ③AA ④Ⅰ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：円形，皿状のピットである。

遺物：晩1

土器（第141図） 116-1 タンネットウL式土器

第117号ピット（第34図）

①96×86 ②37 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒色土

概要：円形，摺鉢状である。底面は東に向って若干高くなる。

遺物：搔器1

石器（第180図） 117 搔器

第118号ピット（第30図）

①67×60 ②27 ③AD ④I b ⑤晩期 ⑥6（底面）

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒褐色土

概要：攪乱が著るしく，ほとんど原形を保っていない。特に西側は木の根による攪乱が広く見られる。東側の石が存在した部分のみが墓壇の用に供したピットであろう。ピットの外，北に63×36 cmの焼土が見られたが直接附随するものか否か不明である。底面に石6個が存在した。

遺物：晩10 続（D7） 石斧刃部片1 フレータ2

土器（第141図） 118-1～8 タンネットウL式土器 118-9～11後北D式土器

石器（第180図） 118 磨製石斧破片

第119号ピット（第30図）

①85×84 ②29 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土（粘土ブロック混入） Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒褐色土

概要：壁は垂直で，底面は平坦である。

遺物：晩8 続1 不1

土器（第141図） 119-1, 2 タンネットウL式土器

第120号ピット（第35図）

①91×85 ②43 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥1（底面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土（地山粒子混入） Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は西側に向って若干高くなる。底面北壁ぎわより石1個が出土した。

遺物：なし

第 121 号ピット (第 30 図, 図版二十八)

①112×110 ②43 ③A C ④IV c ⑤晩期 ⑥9 (中層)

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 暗黒褐色土 (II よりやや暗い) IV 暗黒褐色土 (II よりやや明るい) V 黒色土 (地山ブロック混入)

概要: 正円形で垂直な壁を持つ。底面北側にわずかな窪みが見られた。石 9 個が発見され、内 1 個は二次的な火を受けている。

遺物: 中 2 晩 17 続 3 擦 2 石鏃 2 破片石器 1 フレーク 1

土器 (第 141 図) 121-1~5 タンネットウ L 式土器 121-6 後北 A 式土器 121-7 擦文式土器

石器 (第 180 図) 121-1 大形無茎石鏃 121-2 無茎石鏃 121-2 矩形剥片の削器

第 122 号ピット (第 31 図)

①89×85 ②16 ③A A ④III b ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 暗褐色土 III 褐色土

概要: 円形で壁は緩やかな立ち上りである。西側で第 124 号ピットと重複している。両者の関係は、本ピットが新しい。

遺物: 晩 1 続 2 北大 1 擦 1 剥片石器 1 フレーク 2

土器 (第 141 図) 122-1 タンネットウ L 式土器 122-2 後北 A 式土器 122-3, 4 北大式土器

石器 (第 180 図) 122 矩形剥片の削器

第 123 号ピット (第 131 図)

①147×93 ②123 ③ ④ ⑤T A ⑥

層位: I 黒色土 II 黒褐色土 III 暗褐色土 IV 黒色土 V 褐色土 VI 黒褐色土 (薄い黒色土)

概要: 長楕円形のピット, いわゆる T ピットと呼ばれる類である。

遺物: なし

第 124 号ピット (第 31 図)

① 115×97 ② 11 ③ A D ④ IV b ⑤ 不明 ⑥ 1 (底面)

層位: I 黒色土

概要: 浅い皿状の円形プランである。西側に攪乱が見られる。東側は第 122 号ピットと重複している。中央やや東の底面から石が 1 個出土した。

遺物: なし

第 125 号ピット (第 30 図)

①67×67 ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：盗掘によって完掘され詳細は不明である。

遺物：なし

第 126 号ピット (第 31 図)

①81×73 ②42 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒褐色土(Ⅱよりやや暗い) Ⅳ暗褐色土(やや暗い) Ⅴ暗褐色土 Ⅵ黒褐色土(ⅡとⅢの中間色) Ⅶ暗褐色土(Ⅴより暗い) Ⅷ暗褐色土(Ⅶより軟らかい)

概要：東側壁は垂直に近く、西側に従って緩やかとなる。底面は平坦である。

遺物：晩1 不2 フレーク1

第 127 号ピット (第 34 図)

①63×58 ②22 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗黒褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈する小型のピットである。底面北側より石1個が出土した。

遺物：なし

第 128 号ピット (第 31 図, 図版二十九)

①84×77 ②32 ③A A ④Ⅲ c ⑤後北D ⑥7 (底面)

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒色土(軟)

概要：円形、摺鉢状である。石7個が底面より出土し、内1個は焼石である。Ⅲ層からかなりまとまった木炭が検出された。

遺物：晩8 統8 不2

土器(第141図) 128-1, 2 タンネットウL式土器 123-3 後北C₂式土器 128-4~7 後北D式土器

第 129 号ピット (第 130 図)

①227×63 ②100 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土, その下部は、堅い褐色土, 黒色土, 軟らかい褐色土, 底面上に厚さ10cmの黒色土

概要：壁は東西とも下方で垂直, 上方では緩やかである。南壁は下部で一度袋状に掘り込まれている。

遺物：剥片石器1

石器(第180図) 129 矩形剥片の削器

第 130 号ピット (第 31 図, 図版二十九)

①75×74 ②34 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥18 (底面)

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗褐色土 (Ⅲより軟らかい)

概要: 壁は緩やかに立ち上り, 断面は摺鉢状である。底面全面に積み重さなった状態で, 18 個の石がみられ, 内 1 個は赤色顔料の附着したものが認められた。

遺物: なし

第 131 号ピット (第 32 図, 図版二十九)

①81×78 ②42 ③A A ④Ⅱ c ⑤後北 A ⑥4 (底面)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗褐色土 (Ⅲより暗い) Ⅴ黒色土 (Ⅵより硬い)
Ⅵ黒色土 Ⅶ暗褐色土 (Ⅲより暗い) Ⅷ焼土 (Ⅵ中にブロック状に見られる) Ⅸ黒色土 (Ⅵより軟らかい)

概要: 壁はほぼ垂直に近く, 底面は南側がやや低くなっている。底面に 4 個の石が存在した。

遺物: 続 (A 6, D 2)

土器 (第 142 図) 131-1~6 後北 A 式土器 131-7, 8 後北 D 式土器

第 132 号ピット (第 32 図)

①94×82 ②24 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土

概要: 円形, 摺鉢状である。底面は西側がやや高くなる。

遺物: 晩 5

土器 (第 142 図) 132-1~3 タンネットウ L 式土器

第 133 号ピット (第 32 図)

①72×71 ②22 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土

概要: 東側壁が西側よりもなだらかである。底面は中央に向って若干窪む。

遺物: 早 1 晩 5 剝片石器 1 フレーク 1

土器 (第 142 図) 133-1 東釧路Ⅲ式土器

石器 (第 180 図) 133 円形搔器

第 134 号ピット (第 32 図)

①60×54 ②21 ③A D ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ褐色土 (Ⅲより暗い)

概要：壁面がやや乱雑に構築され、断面形はボウル状を呈する。

遺物：晩1

土器（第142図） 134-1 タンネットウL式土器

第135号ピット（第32図）

①69×62 ②12 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形でなだらかな壁を持つフライパン状のピットである。

遺物：中1

第136号ピット（第32図）

①83×80 ②34 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒色土（地山ブロック混入）Ⅳ暗黒褐色土（Ⅰよりやや明るい）Ⅴ暗黒褐色土（Ⅳより暗い）Ⅵ暗褐色土

概要：円形、摺鉢状で底面は平坦である。

遺物：晩1 フレーク2

第137号ピット（第32図）

①71×59 ②13 ③AD ④I ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：円形、皿状のピットである。底面は西へ緩やかに高くなる。炭化物がわずかに検出された。

遺物：なし

第138号ピット（第33図）

①122×119 ②42 ③AB ④Ⅳc ⑤不明 ⑥3（1上面，2底面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱよりやや暗い）Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土

概要：円形、摺鉢状である。第142号ピットと重複している。本ピットが新しい。石が上面から1個、底面から2個発見された。内1個は二次的な火を受けている。

遺物：晩5 続（A2）

土器（第142図） 138-1～3 タンネットウL式土器 138-4 後北A式土器

第139号ピット（第35図，図版二十九）

①105×103 ②60 ③AB ④Ⅳd ⑤後北D ⑥4（中層）

層位：Ⅰ黒色土（地山ブロック混入）Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土（Ⅲより明るい）

概要：壁は下方で垂直に近く、上方で緩やかな開口部を持つ円形のプランである。北側壁で一部袋状に掘り込んでいる。中層南壁沿から大型の石2個と西側から小石2個が出土した。

遺物：続(D3), 石斧1

石器(第182図) 139 定角式局部磨製石斧

第140号ピット(第33図, 図版三十)

①107×96 ②19 ③AA ④Ⅳb ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土(Ⅱよりやや暗い)

概要：攪乱が著しく、その形状を明確には出来ない。ピットの外、東に径50cmの焼土があった。本ピットとの関係は不明である。

遺物：続(C₂7)

土器(第161図) 140, (第142図) 140-1~5 後北C₂式土器

第141号ピット(第33図)

①80×51 ②16 ③BA ④Ⅱb ⑤恵山 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：不整円形、皿状を示す。ピット中央に径20×18cm、深さ11cmの小ピットが存在する。

遺物：恵山一括, フレーク1

土器(第161図) 高さ15cm, 口径推定12cm, 底径推定6cm, 揚底の恵山式土器

第142号ピット(第33図)

①75×75 ②22 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土(Ⅰより明るい)

概要：東側が第138号ピットに切断されている。第138号ピット参照。

遺物：フレーク1

第143号ピット(第130図, 図版五十)

①222×81 ②121 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ暗褐色土(やや堅い) Ⅴ黒色土 Ⅵ褐色土(軟)

この下に再びⅤが見られる。

概要：壁は底面よりやや垂直に近い状態で、上方が緩やかである。南壁下部は袋状に掘り込んである。底面巾は約17cmと極端に狭い。

遺物：晩2

第 144 号ピット (第 36 図)

①66×57 ②29 ③AA ④Ⅱc ⑤晩期 ⑥1

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：不整円形，摺鉢状を呈する。掘り込み面に焼土が40×30 cmの範囲で見られた。セクションは他に類似するものが少ない特徴的な層を示している。石1個が出土している。北西側で第149号ピットと重複している。新旧関係については不明である。

遺物：晩5 続(恵山1) 不6 石斧破片1

土器(第142図) 144-1, 2タンネットウL式土器

第 145 号ピット (第 36 図)

①107×97 ②29 ③AA ④Ⅳc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形摺鉢状を呈するプランである。東壁は緩やかに立ち上る。

遺物：続(A1, C₂) 不4 石斧破片1

土器(第142図) 145-1後北D式土器

石器(第177図) 145 石斧の破片

第 146 号ピット (第 35 図)

①87×82 ②13 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ褐色土

概要：円形，フライパン状である。西壁に小ピットが1個ある。本ピットは第147号，第148号，第796号ピットと重複している。第147号ピットよりは新しいが，他のものと新旧関係は不明である。

遺物：晩3 続(A1) 擦2

土器(第142図) 146-1タンネットウL式土器

第 147 号ピット (第 35 図)

①89 ②51 ③AA ④Ⅱd ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土(Ⅰより明るい) Ⅲ暗黒褐色土(硬) Ⅳ暗褐色土(軟)
Ⅴ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状である。第146号ピット参照。

遺物：晩8

土器(第142図) 147-1, 2タンネットウL式土器

第 148 号ピット (第 35 図)

①87 ②45 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位:

概要: 本ピットは四基重複の北側にあり, 円形, 摺鉢状を呈する。第 146 号ピット参照。

遺物: なし

第 149 号ピット (第 36 図)

①80 ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位:

概要: 円形を呈すると思われるが, 半分以上が第 144 号ピットとの切り合いで失なわれているため詳細は不明である。新旧関係は不明である。第 144 号ピット参照。

遺物: なし

第 150 号ピット (第 37 図)

①165×120 ②13 ③C A ④V b ⑤晩期 ⑥1 (上面)

層位: I 暗褐色土 II 暗黒褐色土 III 黒褐色土

概要: 本来は隅丸方形を呈するものと思われるが, 西側に張り出しがあり, 南側には浅い小型のピット状の窪みがある。北側より木炭が検出されている。上面に石 1 個を確認した。

遺物: 晩 12 削器 1 フレーク 1

土器 (第 142 図) 150-1~3 タンネットウ L 式土器

石器 (第 177 図) 150 片面調整の削器

第 151 号ピット (第 35 図)

①76 ②31 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位: I 黒褐色土 II 暗褐色土 III 暗黒褐色土 IV 暗褐色土 (II より明るい) V 暗黒褐色土 (III より明るい)

概要: 攪乱により北西 3 分の 1 が失なわれている。底面西側に窪みがある。

遺物: 中 3 晩 2 続 1 (C₂ 3, 北大 1) 石鏃 1 フレーク 2

土器 (第 142 図) 151-1, 2 縄文時代中期土器

石器 (第 177 図) 151 有茎石鏃の未成品

第 152 号ピット (第 35 図)

①88×80 ②12 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥10 (底面)

層位: I 褐色土 II 暗褐色土

概要：南側に張り出しを持つ円形，皿状のピットである。10個の石が底面全体に壙がりを持って存在した。

遺物：晩1 不2

第153号ピット（第49図）

①76 ②13 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土（木炭を多量に含む）Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土（Ⅲより暗い）

概要：円形である。西側は第189号ピットとの重複である。新旧関係は，本ピットが古い。

遺物：なし

第154号ピット（第37図）

①91×86 ②23 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥1（底面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状のピットである。底面は平坦で中央部より石1個が検出された。

遺物：早1 晩2 続（A1 C₁ C₂1 北大6） 不2 フレーク1

土器（第142図） 154-1 東釧路Ⅲ式土器 154-2, 3 タンネットウL式土器 154-6 後北C₁式土器 154-4 後北C₂式土器 154-5 北大式土器

第155号ピット（第37図，図版六）

①117 ②26 ③AA ④Ⅳc ⑤不明 ⑥1（上層）

層位：Ⅰ黒色土（焼土混入）Ⅱ黒色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗黒褐色土

概要：緩やかな立ち上りの壁を持つ，円形，摺鉢状のピットである。上層より石1個を検出した。本ピットは第156号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：晩6 続（C₂2 D1） 不3 石皿破片1 搔器2 フレーク3

土器（第142図） 155-1 縄文時代晩期土器，155-2 後北D式土器

石器（第177図） 155-1 円形搔器 155-2 円形搔器

第156号ピット（第37図，図版六）

①92 ②18 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥6（底面）

層位：

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面全体に6個の石が見られた。第155号ピットと重複し，本ピットが新しい。第155号ピット参照。

遺物：中1 晩5 続（北大1） 不10

土器（第142図） 156-1～3 縄文時代晩期土器 156-4 北大式土器

第 157 号ピット (第 37 図, 図版三十)

①83×83 ②21 ③A C ④Ⅲ b ⑤晩期 ⑥9 (底面)

層位: I 暗褐色土 II 暗黒褐色土 III 暗褐色土 (I より明るい) IV 黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。底面中央に石が見られた。

遺物: 晩 5 続 (B 1 北大 1) フレーク 1

土器 (第 142 図) 157-1, 2 縄文時代晩期土器 157-3 後北 B 式土器

第 158 号ピット (第 38 図, 図版七, 三十)

①74×71 ②35 ③A A ④Ⅱ c ⑤晩期 ⑥1 (上層)

層位: I 暗褐色土 II 黒褐色土 III 黒褐色土 (II より明るい) IV 暗褐色土 (I より明るい)
V 黒褐色土 (III より明るい)

概要: 円形, 摺鉢状である。上層より石 1 個, 中層より晩期土器 2 個体が出土した。

遺物: 晩一括 晩 22 続 (D 3) 底部 1 フレーク 6

土器 (第 161 図) 158-1 は, 高さ 13.7 cm, 口径約 23 cm, 底径 8 cm, 縄文を地文とする。2 個対になる把手があり, 底部より口縁に向って大きく開く。口唇部をめぐる沈線とこれに直交する刻み目が見られる。底部はやや彎曲する。158-2 は, 高さ約 12cm, 推定口径 31.5cm, 推定底径 12cm, 縄文を地文とする。恐らく 2 個対になる把手があったものと思われる。口唇に縄文を施文し, 更に刻み目と沈線を配する。把手内側にも縄文と沈線による文様が見られる。両者ともにタンネトウ L 式土器の仲間として扱えられよう (第 143 図) 158-1~4 タンネトウ L 式土器, 158-5, 6 後北 D 式土器

第 159 号ピット (第 37 図)

①68×61 ②12 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒褐色土 II 褐色土 III 暗褐色土

概要: 円形, フライパン状のピットである。南側に小ピット 1 個がある。

遺物: 晩 2 続 (C₂1) 不 2

土器 (第 143 図) 159-1, 2 縄文時代晩期土器

第 160 号ピット (第 38 図)

①95 ②22 ③A A ④Ⅲ b ⑤晩期 ⑥

層位: I 褐色土 II 黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状である。底面は東に向って若干高くなる。本ピットは東側で第 161 号ピット, 北側で第 166 号ピットと重複する。新旧関係は, 第 160 号ピットが一番古く, 第 161 号ピットと第 166 号ピットの関係は不明である。

遺物：晩12, 続(C₂またはD3, 北大3) 不10 フレーク12
土器(第143図) 160・161-1~6 タンネットウL式土器

第161号ピット(第38図)

①115 ②20 ③AA ④IV b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒褐色土(Ⅱより明るい) Ⅳ褐色土 Ⅴ黒褐色土(Ⅱより暗い)

概要：円形, 摺鉢状のプランである。底面は東側が若干高くなっている。西側で第160号ピットと重複している。第160号ピット参照。

遺物：なし

第162号ピット(第38図, 図版七)

①74×63 ②7 ③AA ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位：

概要：南側に一部攪乱を受けている。円形, 皿状である。東壁に2個の小ピットを有する。

遺物：晩2 続(北大1)

第163号ピット(第39図, 図版七)

①110×100 ②35 ③AA ④IV c ⑤後北D ⑥1(底面)

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ黒褐色土(粘土小ブロック混入) Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土(粘土小ブロック混入) Ⅴ褐色土 Ⅵ黄褐色土 第164号ピットのセクションを含む。

概要：円形, 摺鉢状を呈する。北壁に3個の小ピットを持つ。西側で第164号ピットと重複する。第164号ピットが新しい。

遺物：晩27 続1 続(D1 北大11) 不13 石斧破片1 フレーク10

土器(第143図) 163-1, 2, 4, 5 タンネットウL式土器 163-3 後北A式土器 163-6 後北D式土器
163-7, 8 北大式土器

石器(第177図) 163 石斧の破片

第164号ピット(第39図, 図版七)

①120 ②17 ③AA ④IV b ⑤不明 ⑥2(底面)

層位：

概要：円形のピットである。西壁, 南壁, 中央部に小ピット1個ずつ配する。北側に攪乱と思われるピット2個が見られる。第163号ピット参照。

遺物：なし

第 165 号ピット (第 38 図, 図版七)

①88×79 ②19 ③AA ④Ⅲ b ⑤北大 ⑥15 (底面)

層位:

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。多量の骨片が検出された。底面全体に 15 個の石がある。西南部に小張り出しを持ち, 西壁と南壁に小ピットが存在した。石が多くセクションの実測は不可能であった。

遺物: 晩 2 続 (北大 22) 不 15 削器 1 敲打器 1 フレーク 19

土器 (第 143 図) 165-1 タンネットウ L 式土器 165-2, 3 北大式土器

石器 (第 177 図) 165 横長剥片を素材にした削器 (第 183 図) 165 敲打器

第 166 号ピット (第 38 図)

①92 ②10 ③ ④ ⑤不明 ⑥1 (上面)

層位:

概要: 円形のピットである。中央部に小ピット 1 個を有する。上面から石 1 個が出土した。南側で第 160 号ピットと重複している。第 160 号ピット参照。

遺物: 晩 7 続 (北大 1) 搔器 1 フレーク 1

石器 (第 177 図) 166 円形搔器

第 167 号ピット (第 38 図, 図版八)

①89×82 ②17 ③AA ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位: I 黒褐色土 II 暗黒褐色土 III 暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状で, 西壁は垂直に立ち上り, 東壁は緩やかである。北側に小ピット 1 個を有する。

遺物: 晩 3 続 (C₂3) 不 13 すり石破片 1 フレーク 2

土器 (第 143 図) 167-1 タンネットウ L 式土器

第 168 号ピット (第 39 図, 図版三十)

①85×77 ②27 ③AA ④Ⅲ c ⑤晩期 ⑥6

層位: I 暗黒褐色土 II 黒色土 (木炭を多量に含む) III 黒褐色土 IV 黒色土 V 暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状で, 底面はほぼ平坦である。石 2 個が出土した。

遺物: 晩 6

土器 (第 143 図) 168-1 タンネットウ L 式土器

第 169 号ピット (第 39 図・図版六)

①117×95 ②15 ③A A ④Ⅳ 6 ⑤不明 ⑥ 1 (底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：不整円形，フライパン状である。石 1 個が底面西側より出さした。

遺物：晩 4 続 (C₂3) 不 3 フレーク 2

第 170 号ピット (第 39 図，図版七)

①78×73 ②15 ③A A ④Ⅲ b ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要：円形，フライパン状である。南西壁直下に浅い落ち込みが見られた。

遺物：晩11

土器 (第 143 図) 170-1, 2 縄文時代晩期土器

第 171 号ピット (第 140 図)

①93 ②25 ③A A ④Ⅲ c ⑤晩期 ⑥ 3 (中層)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ褐色土

概要：円形，摺鉢状である。北西に小張り出し部が見られる。中層より 3 個の石が出土している。東側より貝殻が少量発見された。南側で第 172 号ピットと重複している。新旧関係は第 171 号ピットが古い。

遺物：晩11 石鏃 1 フレーク 72

土器 (第 143 図) 171-1~3 タンネットウ L 式土器

第 172 号ピット (第 40 図)

①102 ②28 ③A D ④Ⅳ c ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土

概要：円形，ボウル状である。北側で第 171 号ピットと重複している。第 171 号ピット参照。

遺物：晩18 続 (C₂2) フレーク 3

土器 (第 143 図) 172-1~7 縄文時代晩期土器

第 173 号ピット (第 40 図)

①117 ②26 ③A A ④Ⅳ c ⑤晩期 ⑥ 1 (上面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (地山ブロック混入)

概要：円形，摺鉢状を呈する。西壁ぎわに石 1 個が存在した。南側で第 174 号ピットと重複し，第 174 号ピットが古く構築されている。

遺物：晩31 続1 続（北大2） すり石破片2 スクレイパー1
土器（第144図）137-1～5 タンネットウL式土器
石器（第177図）173・174 搔器の破片

第174号ピット（第40図）

①115 ②23 ③AA ④Ⅲb ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。壁は緩やかに立ち上る。北側で第173号ピットと重複している。第173号ピットが新しい。第173号ピット参照。

遺物：晩4

土器（第144図）174-1，2 縄文時代晩期土器

第175号ピット（第39図）

①83×77 ②23 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。南壁に比して北壁は緩やかである。

遺物：なし

第176号ピット（第41図）

①85 ②25 ③BA ④Ⅲb ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗褐色土（地山土混入）

概要：楕円形，摺鉢状を呈する。ピットの外北に小ピット（28×24 cm）が存在するが本ピットとの関係は不明である。東側で第177号ピットと重複している。新旧関係は，本ピットが古く構築されている。

遺物：晩6 続（A2，C₂1 D1）フレーク1

土器（第144図）176-1～5 タンネットウL式土器

第177号ピット（第41図）

①114 ②24 ③AA ④Ⅳb ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土（地山ブロック混入） Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。中央に2個，南側に1個の小ピットが確認されている。南側は第176号ピットと重複している。第176号ピットが古い。

遺物：なし

第 178 号ピット (第 39 図)

①51×46 ②10 ③BA ④I a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ褐色土

概要：不整形で底面はいびつな小型のプランである。

遺物：なし

第 179 号ピット (第 40 図, 図版八)

①104×94 ②21 ③AA ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥10 (上層, 下層)

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ褐色土

概要：円形, 摺鉢状を呈する。東壁に小ピット 1 個, 中央で 10 個の石が確認されている。

遺物：なし

第 180 号ピット (第 40 図)

①108×98 ②61 ③AA ④Ⅳ d ⑤晩期 ⑥ (上層)

層位：Ⅰ黒色土 (粘土粒を多量に含む) Ⅱ黒色土 (Ⅰよりも粘土粒を多量に含む) Ⅲ黒色土 (粘土粒を若干含む) Ⅳ黒色土 (Ⅲより少ない) Ⅴ黒色土 (粘土粒を含まない)

概要：円形, 摺鉢状である。壁は垂直に立ち上る。東南壁近くの上層から 3 個の石が発見された。

遺物：晩 19 統 (A 1, C₁2, C₂2 D 5 北大 12) 削器 1 フレータ 14

土器 (第 144 図) 180-1~5 タンネットウ L 式土器 180-6, 7 後北 C₁ 式土器 180-8, 9 北大式土器

石器 (第 177 図) 180 横長剥片を素材にした削器

第 181 号ピット (第 41 図)

①105×93 ②14 ③AA ④Ⅲ b ⑤晩期 ⑥ (底面)

層位：Ⅰ黒色土 (粘土粒を多量に含む)

概要：円形, フライパン状を呈する。東壁上方, 北西壁上方は攪乱を受けている。南東底面より石 2 個が発見された。

遺物：晩一括 統 (北大 9) 削器 1

土器 (第 144 図) 181-1~6 タンネットウ L 式土器

石器 (第 177 図) 181 縦長剥片を素材にした削器

第 182 号ピット (第 49 図)

①93 ②23 ③AA ④Ⅲ b ⑤晩期 ⑥ 5 (底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面北側より5個の石が検出された。南側で第183号ピットと重複している。第183号ピットが古く構築されている。

遺物：第183号ピット参照

第183号ピット (第49図)

①96×94 ②31 ③AA ④Ⅲc ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土（Ⅱより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。北側で第182号ピットと重複している。

遺物：晩26 続（C₂またはD1，北大4） フレーク2

土器（第144図） 183-1～3 タンネットウL式土器

第184号ピット (第42図)

①95 ②32 ③AA ④Ⅲc ⑤北大 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ褐色土 Ⅴ黒褐色土（Ⅰより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。南側で第198号ピットを切り，西側で第185号ピットを切って構築している。第185号，第198号ピットよりも新しい。

遺物：早1，中2，晩15 続（C₂4，D1，北大5） 石冠破片1 削器1 フレーク10

土器（第144図） 184-1 東釧路Ⅲ式土器 184-2，3 タンネットウL式土器

石器（第177図） 184 縦形削器

第185号ピット (第42図)

①237×136 ②9 ③CA ④Vb ⑤土師 ⑥

層位：Ⅰ黒色土

概要：隅丸長方形のプランである。南側に53×31cmの長方形のピットを配し，北壁に径約30cm，中央部に2個の小ピットを持つ。北東隅には第191号ピットを内包する状態である。南東では第184号ピットと重複している。新旧関係は古い順に第191号，第185号，第184号ピットである。

遺物：晩1，土師器一括 フレーク1

土器（第161図） 185 土師器

第186号ピット (第41図)

①88 ②20 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥1（底面）

層位：Ⅰ木炭 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢を呈する。多量の木炭が発見された（第Ⅰ層）。底面より石1個を発見した。東側で第187号ピットと重複し，第187号ピットが古い。

遺物：晩5，続（恵山1，B1，C₂1）

土器（第144図）186-1 タンネットウL式土器 186-2 恵山式土器 186-3 後北C₂式土器

第187号ピット（第41図，図版三十一）

①50 ②95 ③ ④ ⑤柱穴状 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅲ褐色土（硬） Ⅳ褐色土（軟）

概要：柱穴状で，他に本ピットに類似するものはない。西側で第186号ピットと重複。第186号ピット参照。

遺物：なし

第188号ピット（第49図）

①97 ②11 ③ ④ ⑤ ⑥1（中層）

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土（地山ブロック混入）

概要：不整形を呈する。攪乱によるピットであろう。第190号ピットと重複し，本ピットが新しい。第190号ピット参照。

遺物：晩2，続縄1 続（A2） 不10 フレーク1

土器（第144図）188-1，2 縄文時代晩期土器 188-3 続縄文時代土器

第189号ピット（第49図）

①77 ②24 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：

概要：円形，摺鉢状を呈する。東側で第153号ピットと重複している。第153号ピット参照。

遺物：晩2 続（A2，C₂1） 不3 フレーク1

土器（第145図）189-1 タンネットウL式土器 189-2，3 後北A式土器

第190号ピット（第49図）

①123×118 ②14 ③AA ④Vb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土（木炭を含む） Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。南側で第188号ピットと重複している。本ピットが古い。

遺物：晩3

第191号ピット（第42図）

①73×67 ②26 ③AD ④Ⅱc ⑤不明 ⑥1（底面）

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面より石1個が出土している。第185号ピットの北東隅に存在

し、本ピットが古い。第199号ピット参照。

遺物：晩3 統（北大2） 搔器1 フレーク5

石器（第177図）191 搔器（焼けている）

第192号ピット（第41図，図版三十一）

①98×89 ②43 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥1（下層）

層位：Ⅰ暗黒褐色土（地山ブロック混入，硬）Ⅱ暗黒褐色土（地山ブロック多量に混入，硬）

Ⅲ暗褐色土（地山ブロック多量に混入，軟）Ⅳ暗褐色土（地山ブロック混入，軟）Ⅴ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。壁は垂直に近く，南壁がやや緩やかに立ち上る。下層より石1個が検出されている。

遺物：晩1，統（A1，C₂2，D4）不2 搔器1

土器（第145図）192-1縄文時代晩期土器 192-2後北A式土器 192-3後北D式土器

石器（第177図）192 縦形搔器

第193号ピット（第53図）

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：南壁の一部が確認されたのみである。西側は第261号ピット，東側は第263号ピット，北側は第278号ピットと重複している。第261号ピットより古く，他とは不明である。

遺物：なし

第194号ピット（第43図）

①77 ②34 ③AA ④Ⅲc ⑤北大 ⑥3（下層）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。下層より石3個を検出している。東側で第195号ピットと重複している。本ピットは4個重複の中で西端に位置する。新旧関係は古いものより，第204号，第196号，第195号，第194号ピットとなり，本ピットが一番新しい。

遺物：晩2 統（A1 C₂2 北大1） 擦文1 削器1

土器（第145図）194-1タンネットウL式土器 194-2後北A式土器 194-3擦文式土器

石器（第177図）194 削器（焼けている）

第195号ピット（第43図）

①137 ②34 ③BA ④Ⅳc ⑤北大 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：楕円形，摺鉢状を呈する。南壁上方は攪乱を受けている。西側は第194号ピット，東側は

第 196 号ピットと重複している。第 194 号ピット参照。

遺物：晩 5 続 (C₂2 D 4 北大 5) 石核 2 フレーク 5

土器 (第 145 図) 195-1, 4 縄文時代晩期土器, 195-2 北大式土器 (片口注口の一部) 195-3 北大式土器

石器 (第 179 図) 195-1, 2 扁平石核

第 196 号ピット (第 43 図)

①133 ②16 ③A A ④V b ⑤後北 ⑥6 (底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土

概要：円形，フライパン状を呈する。南側に大きな張り出しを持つ。中央と北側にそれぞれ 1 個の小ピットを有する。底面に 5 個の石が見られた。西側で第 195 号ピット，北側で第 204 号ピットと切り合う。新旧関係は第 194 号ピット参照。

遺物：晩 2 続 (C₂2 北大 2) 不 4

土器 (第 145 図) 196-1 タンネットウ L 式土器 196-2, 3 北大式土器

第 197 号ピット (第 61 図)

①105×87 ②10 ③A A ④Ⅲ a ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ黒色土

概要：不整形円形，フライパン状を呈する。北側に 1 個の石が見られた。第 319 号ピットとほぼ接する状態で見られる。

遺物：なし

第 198 号ピット (第 42 図)

①91 ②16 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒褐色土

概要：円形，フライパン状である。北側で第 184 号ピットに切られ，東側で第 199 号ピットと重複している。新旧関係は第 184 号，第 199 号ピットよりも古い。第 199 号ピット参照。

遺物：なし

第 199 号ピット (第 42 図)

①108×95 ②21 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥5 (中層)

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒色土 (Ⅱより暗い) Ⅳ黒色土 (木炭を含む) Ⅴ暗黒褐色土 Ⅵ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。掘り込み面に焼土が確認された (第Ⅰ層)。西側で，第 189 号ピットと重複している。本ピットが新しい。

遺物：晩1

第200号ピット（第44図，図版九）

①62 ②17 ③AA ④Ⅱb ⑤北大 ⑥1（中層）

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ褐色土 第220号ピット参照。

概要：円形，摺鉢状を呈すると思われる。西側は攪乱により大きく破壊されている。石1個が中層より出土している。底面より北大式の土器1個体が発見された。第221号ピットと重複しているが，攪乱により新旧関係は不明である。

遺物：晩24 続（恵山3 A1 B1 C₂8 D7 北大一括，北大28） 擦文29 不（底部）1
削器2 砥石破片1 フレーク51

土器（第161図）200 高さ14cm，口径16.3cm，底径7cm，口縁部に注口の見られる北大式土器である。（第145図）200-3～5，7タンネットウL式土器 200-1，2，6（恵山式土器）200-8 後北B式土器 200-9，10 後北C₂式土器 200-12～16 北大式土器 200-17～19 擦文式土器

石器（第179図）200-1，2 縦形削器

第201号ピット（第36図）

①63 ②20 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黄褐色粘土ブロック Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土 Ⅵ褐色土

概要：不整形円形，摺鉢状を呈する。第202号，第203号ピットとの3個重複で，新旧関係は不明である。層位は3基を一括して述べた。

遺物：晩3 続（D1，北大1） フレーク2

土器（第145図）201-1 縄文時代晩期土器 201-2 北大式土器

第202号ピット（第36図）

①87 ②12 ③ ④ ⑤不明 ⑥1

層位：

概要：円形，フライパン状を呈する。東側で第203号ピット，西側で第201号ピットと重複している。第201号ピット参照。

遺物：晩4，続（C₂1） 不3 フレーク2

土器（第145図）202-1，2 縄文時代晩期土器 202-3 後北C₂式土器

第203号ピット（第36図）

①63 ②16 ③AD ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：

概要：円形，摺鉢状を呈する。西側で第202号ピットと重複している。第201号ピット参照。

遺物：石核1，削器1，フレーク2

石器（第179図）203-1 扁平石核 203-2 削器

第204号ピット（第43図）

①73 ②16 ③BD ④Ⅱb ⑤晩期 ⑥2（底面）

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ褐色土

概要：不整楕円形，ボウル状を呈する。底面より石2個が発見された。南側で第196号ピットと切り合っている。4個重複のピット中，一番古く構築されている。第194号ピット参照。

遺物：なし

第205号ピット（第36図 図版十）

①102 ②13 ③AA ④Ⅳb ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，フライパン状である。東側で第206号ピットと重複している。本ピットが古い。

遺物：晩1 統（D2） 不3 鉄器1

土器（第145図）205-1 後北D式土器

鉄器（第187図）長さ現存7.1cm，巾23cm，厚さ約0.6cmである。刃子破片であろうか。

第206号ピット（第23図）

①77 ②19 ③AA ④Ⅱb ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。西側で第205号ピットと重複する。本ピットが新しい。北側で第207号ピットと接するが新旧関係は不明である。

遺物：晩10

第207号ピット（第36図，図版十）

①90 ②26 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥16（下層）

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。16個の石が底面よりやや浮上して北西に扁して見られた。ほぼ中央に小ピット1個を有している。南側で第206号ピットと接するが新旧関係は不明である。

遺物：晩4，統（後北5） 底部（高坏脚部）1，フレーク71

土器（第145図）207-1 縄文時代晩期土器

第208号ピット（第48図）

①73×71 ②13 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥1（上面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。石1個が中央上面に見られた。

遺物：なし

第209号ピット（第36図）

①93×83 ②8 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥2（上面，下層）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，皿状を呈する。南壁に1個，北部に1個の小ピットを有する。

遺物：晩1 統（恵山2 C₂またはD4，北大1）

第210号ピット（第44図，図版九）

①95 ②28 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。壁は若干袋状を示している。東側で第219号ピット，北側で第220号ピットと重複し，第220号ピットより古く，第219号ピットとの関係は不明である。

遺物：石鏃1

石器（第179図）210 石鏃未成品

第211号ピット（第46図）

①77×64 ②37 ③AA ④Ⅱc ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土（Ⅰより軟らかい） Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒色土（Ⅱより軟らかい） Ⅵ暗黒褐色土 Ⅶ攪乱

概要：円形，摺鉢状を呈する。北側の一部が攪乱を受けている。

遺物：早2 晩1 統（A1 C₁1 C₂17）

土器（第146図）211-1，2東釧路Ⅲ式土器 211-4縄文時代晩期土器 211-3後北A式土器 211-7後北C₁式土器 211-8～12後北C₂式土器

第212号ピット（第45図）

①133 ②56 ③AB ④Ⅳd ⑤不明 ⑥1

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ焼土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ黒色土（木炭を含む） Ⅵ黒褐色土 Ⅶ暗黒褐色土 Ⅷ褐色土

概要：円形摺鉢状を呈する。北東に張り出しを有し，東西南北の各壁に小ピットを配する。北，南壁に存在する小ピットは第213号ピットに入りこんでいるが，本ピットに付属するものと思われる。西側で第213号ピットと重複している。本ピットが新しい。

遺物：なし

第213号ピット (第45図)

①86 ②13 ③AA ④Ⅲb ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土

概要：円形，フライパン状を呈する。北に扁して3個の石が発見されている。東側で第212号ピットと重複し，本ピットが古い。第212号ピット参照。

遺物：晩13 続(A3 C₂2 北大10) 不8 削器1 フレーク4

土器(第146図) 213-2 縄文時代晩期土器 213-1, 5 後北C₂式土器 213-3, 6 北大式土器

石器(第179図) 213 縦形削器

第214号ピット (第44図 図版九)

①91 ②35 ③AB ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土

概要：不整円形，摺鉢状を呈する。第218号，第219号，第220号ピットと重複している。新旧関係は第219号ピットより古く，第218号ピットとは不明である。9個連続ピットの1つである。

遺物：なし

第215号ピット (第44図 図版九)

①70 ②32 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥1

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黄褐色粘土 Ⅳ暗褐色土(Ⅱより明るい) Ⅴ暗褐色土(Ⅳより明るい) Ⅵ黒色土

概要：不整円形，摺鉢状を呈する。石1個が出土している。第215号，第218号ピットと重複している。第216号，第218号ピットより新しい。

遺物：すり石破片3

第216号ピット (第44図 図版九)

①61×57 ②15 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ褐色土 Ⅲ黒色土

概要：不整円形，摺鉢状を呈する。西側で第215号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第217号ピット (第44図 図版九)

①70 ②28 ③AA ④Ⅱc ⑤不明 ⑥1 (下層)

層位：

概要：円形，摺鉢状を呈する。南壁ぎわに大きな石1個が見られた。東壁，西壁，中央にそれぞれ1個の小ピットを配する。北東で第216号ピットに接する様に存在している。セクションは不明である。

遺物：なし

第218号ピット（44第図 図版九）

①98 ② ③B ④Ⅲ ⑤ ⑥

層位：

概要：楕円形を呈するであろう。第214号，第215号，第219号ピットと重複している。第219号ピットより古い。他のものとの関係は不明である。

遺物：なし

第219号ピット（第44図 図版九）

①88 ②16 ③AD ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：

概要：円形，皿状のピットであろう。第210号，第214号，第218号，第220号ピットと重複している。新旧関係は第214号ピットよりも新しく，第220号ピットより古い。他との関係は不明である。9個連続ピットの1つである。

遺物：なし

第220号ピット（第44図 図版九）

① ②9 ③D ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗褐色土 Ⅵ黄褐色土 Ⅵ以下は攪乱である。

概要：西壁が確認されただけである。他は第210号，第214号，第219号，第221号，第220号ピットと重複のため不明である。西壁に1個，北側に2個の小ピットを有する。本ピットは9個連続ピットの1つである。新旧関係は，第210号，第214号，第219号，第221号ピットより新しい。

遺物：なし

第221号ピット（第44図 図版九）

① ②8 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：西壁の一部が確認されたのみで，他は攪乱と他ピットとの重複により不明である。第220号ピット・セクション参照のこと。南側で第214号ピット，西側で第220号ピットと重複し，第214号ピットより新しい。

遺物：なし

第 222 号ピット (第 45 図 図版十)

①60 ②18 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土

概要：不整楕円形，ボウル状を呈する。東壁に比して西壁は緩やかである。北側で第 223 号ピットと重複している。第 223 号ピットより古い。

遺物：晩 4 続 (A 1, B 1, D 1, 北大 1) 擦文 1, 不 14, 不 (底部) 2

土器 (第 146 図) 222-1, 2 縄文時代晩期土器 222-3 後北 A 式土器 222-4 北大式土器

第 223 号ピット (第 45 図, 図版十)

①100 ②41 ③BA ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥ 1 (西壁上)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅲ褐色土 Ⅳ褐色土 (Ⅲより硬い) Ⅴ暗褐色土 Ⅵ黒褐色土

概要：不整楕円形，摺鉢状を呈する。東壁に比べ，西壁は緩やかに立ち上る。西壁上に石 1 個が確認された。南側で第 222 号ピットと，西側で第 224 号ピットと重複し，両者よりも新しい。第 222 号，第 224 号ピット参照。

遺物：晩 2, 石冠 1, フレーク 1

土器 (第 146 図) 223-1 縄文時代晩期土器

第 224 号ピット (第 45 図 図版十)

①95×86 ②19 ③AA ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土 (Ⅰより明るい) Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状である。南壁に 2 個，東側に 1 個の小ピットを配する。東側で第 223 号ピットと重複している。本ピットが古い。

遺物：晩 6 続 (C₂ または D 1) 不 2 フレーク 1

第 225 号ピット (第 45 図)

①98×97 ②46 ③AC ④Ⅲ c ⑤後北 D ⑥ 3 (東 1 壁上)

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ暗黒褐色土 (地山ブロック混入) Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅱより地山ブロックを多く含む) Ⅵ黒褐色土 (Ⅳより地山ブロックを多く含む) Ⅶ黒褐色土 (焼土混入) Ⅷ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。壁は垂直である。東壁上に 1 個，他に 2 個の石が出土した。掘り込み面に 70×60 cm の焼土が見られた。

遺物：晩 12 続 (A 3, C₁2 C₂5 D 7) フレーク 5

土器（第146図）225-1, 2 縄文時代晩期土器 225-3 後北A式土器 225-7 後北C₂式土器 225-5, 6, 8~12 後北D式土器

第226号ピット（第46図）

①80 ②15 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土（Ⅰより暗い）

概要：円形，フライパン状を呈する。底面中央に小ピット状の窪みを有する。東側に1個，東壁に1個の小ピットが見られる。北側は破壊を受けている。西側は第234号ピットと重複しており，新旧については不明である。

遺物：なし

第227号ピット（第46図）

①96×72 ②13 ③BD ④Ⅲb ⑤晩期 ⑥7（上層，底面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：楕円形，皿状である。東側に扁して石7個が発見された。

遺物：晩5 続（C₂1）不4 すり石破片1 フレーク1 骨1

土器（第146図）227-1 縄文時代晩期土器 227-2 後北C₂式土器

第228号ピット（第46図）

①98×97 ②38 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ黒褐色土（Ⅳより明るい）Ⅵ暗黒褐色土（Ⅲより暗い）Ⅶ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。

遺物：なし

第229号ピット（第46図）

①106 ②7 ③B ④Ⅳb ⑤ ⑥

層位：

概要：現存部は，不整楕円形で皿状を示す。壁上方に3個の小ピットが見られる。本ピット上面より，ピットの外，北にかけ95×60cmの焼土が見られた。南側で第396号ピットと重複しているが新旧関係は不明である。第396号ピット参照。

遺物：なし

第230号ピット（第47図）

①81 ②13 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。北壁に小ピット1個を有し，南側は第398号ピットと重複している。本ピットが新しい。

遺物：なし

第231号ピット（第47図）

①72 ②23 ③AA ④Ⅱc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。ピット上面の東側よりピット外に50×30cmの焼土（第Ⅰ層）が見られる。西側で第468号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。

遺物：なし

第232号ピット（第47図）

①62 ②8 ③AA ④Ⅰa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。西壁に小ピット1個を配している。東側で第233号ピットと重複しており，本ピットが古い。第233号，第369号ピット参照。

遺物：なし

第233号ピット（第47図）

①58 ②6 ③AA ④Ⅰa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土（炭化物混入）

概要：円形，フライパン状を呈する。北側に小ピット1個を有し，西側は第232号ピット，東側は第369号ピットと重複している。第232号ピットより新しく，第369号ピットより古い。

遺物：なし

第234号ピット（第46図）

① ②15 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：南側の壁が確認されただけで他は破壊されている。断面形は皿状を示すと思われるが，全容は不明である。東側で第226号ピットと重複している。新旧関係は不明である。

遺物：晩1 続（北大1） フレーク1

土器（第147図）243-1 北大式土器

第 235 号ピット (第 47 図, 図版十一)

①115×113 ②18 ③AD ④Ⅳ b ⑤後北 C₂ ⑥10 (底面)

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要: 不整形, フライパン状を呈する。西壁に 1ヶ所張り出し部を持つ。中央底面に 10 個の石が見られた。南側に 3 個の小ピットを有する。

遺物: 晩統 (B 1 C₂ 2 D 1) 不 12 フレーク 4

土器 (第 147 図) 235-1 縄文時代晩期土器 235-3 後北 B 式土器 235-4 後北 C₂ 式土器 235-2 後北 D 式土器

第 236 号ピット (第 47 図)

①85 ②31 ③AB ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥1 (上層)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒色土 (地山ブロック混入)

概要: 不整形, 摺鉢状を呈する。西側は底面近くまで破壊されている。東側に二段の掘り込みが見られる。

遺物: 中 1 晩 2 統 (A 2, B 1) 不 4 石鏃 1

土器 (第 147 図) 236-1 縄文時代中期土器 236-3 後北 B 式土器

石器 (第 179 図) 石鏃

第 237 号ピット (第 48 図)

①103 ②22 ③AD ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土

概要: 楕円形, 摺鉢状を呈する。南側で第 238 号ピットと重複している。本ピットが古い。

遺物: 不 1

第 238 号ピット (第 48 図)

①107 ②41 ③AA ④Ⅳ c ⑤晩期 ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい)

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。北側で第 237 号ピットと重複する。本ピットが新しい。

遺物: 晩 1

土器 (第 147 図) 238-1 縄文時代晩期土器

第 239 号ピット (第 48 図)

①80 ②41 ③AA ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅲより明るい) Ⅴ暗黒褐色土

(Ⅳより明るい) Ⅵ暗黒褐色土(地山ブロック混入) Ⅶ褐色土 Ⅷ黒褐色土 Ⅸ暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。南側で第 240 号ピットと重複し, 本ピットが新しい。

遺物: フレーク 2

第 240 号ピット (第 48 図)

①63 ②18 ③BA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要: 楕円形, フライパン状を呈する。東壁に小ピット 1 個を有し, 北側で第 239 号ピットと重複している。本ピットが古い。

遺物: なし

第 241 号ピット (第 50 図, 図版十一)

①101 ②30 ③BA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥11 (底面)

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土(Ⅰより明るい) Ⅳ黒色土(Ⅱより明るい)
Ⅴ黒褐色土

概要: 不整楕円形, 摺鉢状を呈する。底面北側に扁して 11 個の石が見られた。北側で第 242 号ピットと重複している。古いものより, 第 243 号, 第 242 号, 第 241 号ピットの順である。

遺物: 晩 4, 統縄 4, 統(C₂3, 北大 1) 不 3, フレーク 5

土器(第 147 図) 241-243-1 タンネットウ L 式土器 241-243-2 後北 A 式土器 241-243-3 後北 C₂ 式土器 241-243-4 北大式土器

第 242 号ピット (第 50 図, 図版十一)

①98 ②22 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。底面より石 1 個が発見された。南側で第 241 号ピット, 北側で第 243 号ピットと重複する。新旧関係は, 第 241 号ピットより古く, 第 243 号ピットより新しい。

第 241 号ピット参照。

遺物: 第 241 号ピット参照

第 243 号ピット (第 50 図, 図版十一)

①81 ②38 ③AD ④Ⅲc ⑤不明 ⑥1

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土(Ⅰより暗い) Ⅳ暗黒褐色土(Ⅱより明るい)

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。西側壁は上方緩やかで, 下方が急な傾斜を示す。南側で第 243 号ピットと重複する。本ピットが古く, 第 242 号ピットが新しい。第 241 号ピット参照。

遺物: 晩 3, 統(恵山 1, A 1) フレーク 1

土器 (第 147 図) 243-1, 2 タンネットウ L 式土器 243-3 恵山式土器

第 244 号ピット (第 51 図)

①246 ②12 ③CA ④V b ⑤北大 ⑥

層位: I 黒色土 II 焼土 III 木炭 IV 暗黒褐色土

概要: 隅丸長方形を呈する。ピット上面に焼土と木炭の分布が大きく見られた。南側で第 252 号ピット, 東側で第 253 号ピットと重複する。本ピットが他の二者より新しい。

遺物: 晩 1, 続 (恵山 1)

第 245 号ピット (第 48 図)

①76 ②14 ③AA ④II b ⑤不明 ⑥ 1 (底面)

層位: I 黒褐色土 II 暗黒褐色土 III 暗褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。西壁に 44×35cm のピットが見られる。東側は第 246 号ピットと重複し, 本ピットが新しい。

遺物: 晩 1, 続 (D 1) フレーク 1

土器 (第 147 図) 245-1 タンネットウ L 式土器 245-2 後北 D 式土器

第 246 号ピット (第 48 図)

①68 ② 8 ③AA ④II a ⑤不明 ⑥ 2 (上層)

層位: I 暗黒褐色土 II 暗褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。西側に小ピット 1 個を有し, 南壁と北壁に 1 個ずつの石が見られた。西側は第 245 号ピットと重複している。本ピットが古い。

遺物: なし

第 247 号ピット (第 48 図)

①87×82 ②11 ③AA ④III b ⑤晩期 ⑥

層位: I 暗褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。壁に沿って 7 個の小ピットが見られた。

遺物: 晩 5

第 248 号ピット (第 48 図)

①76×68 ②48 ③AA ④II c ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒色土 II 暗黒褐色土 III 黒色土 (地山ブロック混入) IV 黒色土 V 暗黒褐色土 (II より明るい)

概要: 円形, 摺鉢状を呈するが, セクションから見ると, 平面を共有する 2 個のピットの可能性

も考えられる。第Ⅲ層が新しく構築されたピットの底面とも考えられるが確たる証はない。

遺物：なし

第 249 号ピット (第 50 図)

①75 ②5 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土（地山粒子混入）

概要：不整形を示し、断面は皿状である。北側で第 250 号ピットと重複している。3 個連続ピットの 1 つである。新旧関係は、古いものより第 251 号、第 250 号、第 249 号ピットの順である。

遺物：なし

第 250 号ピット (第 50 図)

①80 ②26 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土（地山粒子混入） Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈する。西側に小ピット 1 個が見られる。南側で第 249 号ピット、西側で第 251 号ピットと重複している。新旧関係は、第 249 号ピットより古く、第 251 号ピットより新しい。

遺物：晩 1，フレーク 2

土器（第 147 図）250-1 縄文時代晩期土器

第 251 号ピット (第 50 図)

①70 ②19 ③A D ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土（木炭混入） Ⅱ暗褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈する。中央に小ピット 1 個が見られる。東側で第 250 号ピットと重複している。第 249 号ピット参照。

遺物：なし

第 252 号ピット (第 51 図)

①86 ②28 ③A A ④V c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ灰褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土 V 黒色土（Ⅲより明るい） Ⅵ黒褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈する。北側で第 244 号ピットと重複している。第 244 号ピット参照。

遺物：なし

第 253 号ピット (第 51 図，図版十二)

①138×135 ②46 ③A c ④Ⅲ c ⑤後北 A ⑥23（底面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面に接し 23 個の石が見られた。北側に小ピット 1 個を有する。西側で第 244 号ピットと重複する。第 244 号ピット参照。

遺物：晩 1，統（A一括），石斧の破片 1，フレーク 1

土器（第 161 図）253 高さ推定 29cm 口径 21.3cm 底径推定 6cm 爪形文と縄文を配する 後北A式土器

石器（第 179 図）253 打製石斧の破片

第 254 号ピット（第 52 図）

①78 ②10 ③AD ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ褐色土

概要：円形，皿状を呈する。南側で第 255 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：晩 2，統（C₂1），フレーク 1

第 255 号ピット（第 52 図）

①97 ②20 ③AA ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土（地山ブロック混入） Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。南側が張り出し状になる。南壁に小ピット 1 個を有する。

北側で第 254 号ピットと重複し，本ピットが新しい。第 254 号ピット参照。

遺物：晩 2，統（C₂1）

第 256 号ピット（第 52 図）

①50 ②16 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：不整形を呈する。南側に浅い窪みが見られる。第 257 号，第 258 号，第 262 号ピットとの 4 個連続ピットである。新旧関係は，本ピットが一番新しい。

遺物：なし

第 257 号ピット（第 52 図）

①64 ②19 ③AA ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥1（中層）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：円形，ボウル状を呈する。中央に 1 個の石が見られる。4 個連続ピットの 1 つである。新旧関係は，第 258 号ピットより新しく，第 256 号，第 262 号ピットとは不明である。

遺物：なし

第 258 号ピット (第 52 図)

①75 ②26 ③AA ④Ⅱc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。北側で第 257 号ピット，西側で第 256 号，第 262 号ピットと重複する。新旧関係は第 257 号ピットより古く，他とは不明である。

遺物：晩 3，続縄 1，続（北大 1）

土器（第 147 図） 258-1 北大式土器

第 259 号ピット (第 52 図)

①97×79 ②40 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土（Ⅱより明るい） Ⅳ黒色土（Ⅰより明るい） Ⅴ黒色土（Ⅰより暗い） Ⅵ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。

遺物：晩 1，続（C₂3）

土器（第 147 図） 259-1 縄文時代晩期土器 259-2 後北C₂式土器

第 260 号ピット (第 52 図)

①80×78 ②37 ③AD ④ⅡC ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土 Ⅵ暗褐色土（Ⅴより明るい）

概要：円形，ボウル状を呈する。

遺物：なし

第 261 号ピット (第 53 図)

①83×76 ②20 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥8（底面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面に 8 個の石が見られた。東側で第 193 号ピットと重複し，本ピットが新しい。7 個連続ピットの 1 基である。

遺物：なし

第 262 号ピット (第 52 図)

①90 ②5 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：北側で第 256 号，第 258 号ピットに切られているため，形状は不明である。本ピットが古

く、他は新しく構築されている。4個連続ピットである。第256号、第257号、第258号ピット参照。

遺物：なし

第263号ピット（第53図）

①195 ②25 ③CA ④Vb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土

概要：隅丸長方形を呈する。西側に大きく攪乱が見られる。北側で第264号ピット、西側で第278号、第193号ピットと重複している。新旧関係は第264号ピットより新しい。他とは不明である。

遺物：統（A₂、C₂3、北大1）

土器（第147図）263-265-1、2後北A式土器 263-265-3後北C₂式土器

第264号ピット（第53図）

① ②10 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：円形、皿状を呈する。南側で第263号ピット、北側で第265号ピットと重複し、西側は攪乱を受けている。新旧関係は、第263号ピットより古く、他とは不明である。第263号ピット参照。

遺物：第263号ピット参照。

第265号ピット（第53図）

①60 ②10 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：第264号ピットと重複し、西側は攪乱を受けているため全容は不明である。新旧関係も不明。

遺物：第263号ピット参照。

第266号ピット（第52図）

①120×111 ②18 ③AA ④Ⅳb ⑤晩期 ⑥1（下層）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ焼土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土

概要：円形、フライパン状を呈する。北側に石1個と60×30cmの焼土が確認された。東壁に2個の小ピットが見られた。

遺物：晩7、統（C₂の底部1、北大1）不1

土器（第147図）266-1縄文時代晩期土器

第 267 号ピット (第 54 図)

①96 ②23 ③A A ④Ⅲ b ⑤北大 ⑥1

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。上面に石 1 個が見られた。南側で第 268 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：晩 2，統 (B 1，C₂ 2，北大 21)，フレーク 1

土器 (第 147 図) 267-1, 2 縄文時代晩期土器 267-3 後北 B 式土器

第 268 号ピット (第 54 図)

①173 ②9 ③C A ④V a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：隅丸長方形を呈する。第 267 号，第 269 号ピットと重複し，両者より新しい。

遺物：なし

第 269 号ピット (第 54 図)

①77 ②23 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈する。南側で第 268 号ピット，北側で第 270 号ピットと重複し，両者より古い。

遺物：フレーク 1

第 270 号ピット (第 54 図)

①109 ②13 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。南側で第 269 号ピット，北側で第 287 号ピットと重複し，第 269 号ピットより新しく，第 287 号ピットより古い。

遺物：早 1，晩 1，統 (D 2，北大 1)

土器 (第 147 図) 270-1 後北 D 式土器 270-2 北大式土器

第 271 号ピット (第 55 図)

①125 ②30 ③B D ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 (焼土，木炭を含む) Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅳ褐色土
Ⅴ暗褐色土

概要：円形，ボウル状を呈する。北側で第 272 号，第 273 号ピットと重複する。第 272 号ピット

より新しく、第 273 号ピットとの関係は不明である。

遺物：晩 6，続縄 2，続（恵山 3，A 4，C₁ 8，C₂ 1，D 5，北大 5），不 27，石斧 1

土器（第 147 図）271-276-1, 2, 5 後北 A 式土器 271-276-6 後北 C₂ 式土器 271-276-4 後北 D 式土器

石器（第 179 図）271，276 定角式磨製石斧

第 272 号ピット（第 55 図）

① ②51 ③A B ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒色土（Ⅱより明るい）Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土 Ⅵ暗黒褐色土（Ⅰより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。第 271 号，第 273 号，第 274 号，第 288 号ピットと重複し，第 271 号，第 273 号，第 288 号ピットより古い。

遺物：第 271 号ピット参照。

第 273 号ピット（第 55 図）

①108 ②13 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：楕円形，フライパン状を呈する。北側で第 272 号，第 274 号ピットと重複する。第 272 号ピットより古く，第 274 号ピットとの関係は不明である。

遺物：第 271 号ピット参照。

第 274 号ピット（第 55 図）

① ②26 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，ボウル状を呈する。第 272 号，第 273 号，第 288 号ピットと重複している。第 273 号，第 288 号ピットより新しく，第 272 号ピットとの関係は不明である。

遺物：第 271 号ピット参照。

第 275 号ピット（第 56 図）

①129 ②28 ③B D ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより暗い） Ⅲ暗黒褐色土（地山ブロック混入）

概要：楕円形，ボウル状を呈する。西側で第 276 号ピットと重複する。本ピットが古い。北側に攪乱による大きな落ち込みが見られる。

遺物：なし

第 276 号ピット (第 56 図)

①88 ②36 ③A D ④Ⅲ C ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅲ暗褐色土

概要：円形，ボウル状である。東側で第 275 号ピットと重複する。本ピットが新しい。

遺物：なし

第 277 号ピット (第 53 図)

①57 ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：南側に攪乱が見られる。小形のピットである。底面にはやや大きなピットを有する。攪乱のため重複関係，セクションは不明である。

遺物：なし

第 278 号ピット (第 53 図)

①89 ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：不整形円形を呈する。東側は攪乱と第 263 号ピットと重複しており，南側は第 193 号ピットと重複している。新旧関係は不明である。

遺物：なし

第 279 号ピット (第 56 図)

①90 ②28 ③A D ④Ⅲ c ⑤後北 D ⑥

層位：Ⅰ黒色土（木炭を含む） Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，皿状を呈する。

遺物：晩 2，続（C₂ 2，D 4，北大 1），不 1，石皿破片 1，フレーク 1

土器（第 147 図） 279-1 後北 C₂ 式土器 279-3 後北 D 式土器 279-2 北大式土器

第 280 号ピット (第 56 図)

①82 ②7 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土

概要：円形，皿状を呈する。西側で第 281 号ピットと重複する。古いものより第 280 号，第 281 号，第 797 号ピットの順である。

遺物：フレーク 1

第 281 号ピット (第 56 図)

①83 ②31 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒色土 Ⅴ黒褐色土 Ⅵ暗褐色土 Ⅶ黒色土 Ⅷ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。セクションの第Ⅳ層までが第 797 号ピットで，本ピットは第Ⅴ層以下である。東側で第 280 号ピットと重複している。古いものより第 280 号，第 281 号，第 797 号ピットの順である。

遺物：統 (C₂1)

土器 (第 148 図) 281-1 後北C₂式土器

第 282 号ピット (第 52 図)

①52 ②13 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：

遺物：

第 283 号ピット (第 57 図)

①84 ②10 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 284 号ピット (第 57 図)

①68 ②10 ③AA ④Ⅱa ⑤北大 ⑥2 (底面)

層位：Ⅰ黒色土

概要：円形，皿状である。石 2 個が発見された。東側で第 285 号ピットと重複する。第 285 号ピットより新しい。

遺物：晩 1，統 (北大 2)

第 285 号ピット (第 57 図)

①76 ②11 ③BD ④Ⅱ ⑤ ⑥ 2 (南壁土)

層位：Ⅰ黒褐色土

概要：不整楕円形，皿状のプランである。東側で第 286 号ピット，西側で第 284 号ピットと重複する。第 284 号ピットより古く，第 286 号ピットより新しい。

遺物：なし

第 286 号ピット (第 57 図)

①76 ②26 ③A A ④Ⅱ c ⑤後北C₂ ⑥1 (下層)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。石1個が下層から発見された。西側で第285号ピットと重複し，本ピットが古く構築されている。

遺物：統 (C₂12, D 3), 不5, フレーク1

土器 (第148図) 286-1~5 後北C₂式土器

第 287 号ピット (第 54 図)

① ②35 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 (焼土を含む) Ⅱ黒色土 Ⅲ焼土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：不整形を呈する。いわゆる風倒木の跡であろうか。地表面に3ヶ所の焼土が見られた。南側で第270号ピットと重複している。本ピットが新しい。

遺物：晩1, 統 (A 2, D 2), 搔器1

土器 (第148図) 287-1 後北A式土器 287-3 後北D式土器

石器 (第179図) 287 円形搔器 (焼けている)

第 288 号ピット (第 55 図)

①158 ②12 ③A A ④V b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：不整円形，皿状を呈する。西壁の一部に攪乱を受けている。南側で第272号，第274号ピットと重複している。第272号ピットより新しく，第274号ピットより古い。

遺物：なし

第 289 号ピット (第 55 図)

①63×57 ②13 ③A A ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥9 (底面)

層位：Ⅰ黒褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈する。全面に9個の石が見られる。

遺物：石皿1

石器 (第184図) 289 石皿，第105号ピット出土の石皿と接合する。

第 290 号ピット (第 57 図)

①94×93 ②28 ③A B ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土（硬） Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒色土 Ⅴ暗黒褐色土（Ⅲより明るい）
Ⅵ暗褐色土 Ⅶ褐色土 Ⅷ黒色土 Ⅸ暗褐色土

概要：南北に張り出しを有する不整円形，摺鉢状のプランである。底面は平坦である。

遺物：晩3，続（C₂1，D2），不1

土器（第148図） 290-1 タンネットウL式土器 290-2 後北D式土器

第291号ピット（第57図）

①86 ②29 ③AB ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。西側で第317号ピットと重複しており，本ピットが新しい。

遺物：なし

第292号ピット（第56図）

①73×69 ②22 ③AA ④Ⅱb ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。南側に径47cmのピット状の張り出しを持つ。

遺物：晩2

第293号ピット（第56図）

①73×70 ②33 ③AD ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土（Ⅰより明るい） Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒色土（Ⅲより明るい）
Ⅵ暗褐色土（Ⅳより暗い） Ⅶ褐色土

概要：円形，ボウル状を呈する。

遺物：晩3，続（A1），フレーク1

土器（第148図） 293-1 タンネットウL式土器 293-2 後北A式土器

第294号ピット（第57図）

①107×103 ②11 ③AD ④Ⅳ ⑤ ⑥3（底面）

層位：Ⅰ黒色土

概要：円形，皿状のプランを呈し，西壁は底面との区別は出来ない。3個の石が存在した。

遺物：続（D1，北大1），不1，フレーク1

土器（第148図） 294-1 北大式土器

第295号ピット（第57図，図版三十一）

①78×74 ②28 ③AA ④Ⅱc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土（Ⅰより硬い） Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状である。

遺物：続（恵山1），不1，フレーク2

第296号ピット（第58図，図版十三）

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 9

層位：

概要：第299号，第300号ピットとの重複で全容は明らかでない。現存部に9個の石が認められた。新旧関係は本ピットが古く構築されている。第300号ピット参照。

遺物：なし

第297号ピット（第58図，図版十三）

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：第298号，第299号，第300号ピットとの重複である。東壁の一部が確認されたのみで全容は不明である。新旧関係は第298号，第299号ピットより新しく，第300号ピットとの関係は不明である。

遺物：なし

第298号ピット（第58図，図版十三）

①80×75 ②17 ③ ④ ⑤ ⑥4（上層）

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土（地山粒子混入）

概要：円形，摺鉢状を呈する。北壁に小ピット1個を有する。上層より4個の石が発見された。第297号，第300号ピットと重複し，両者より古く構築されている。

遺物：石皿1

石器（第183図） 298 石皿

第299号ピット（第58図，図版十三）

①88×85 ②30 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥2（上層）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土（地山粒子混入）

概要：円形，摺鉢状を呈する。第296号，第297号，第300号ピットと重複し，第297号，第300号ピットより古く，第296号ピットより新しい。

遺物：続（北大1）

土器（第148図） 299-1 北大式土器

第 300 号ピット (第 58 図, 図版十三)

①190×156 ②26 ③AA ④I c ⑤北大 ⑥37 (上面)

層位: I 黒色土 II 黒色土 (軟) III 黒褐色土 (地山粒子混入)

概要: 隅丸長方形を呈する。地表面に 37 個の配石を持つ。西壁, 東壁に小ピットが見られる。西側上面に焼土が 50×50cm の範囲で見られた。南側で第 296 号, 第 297 号, 第 298 号, 第 299 号ピットと重複する 5 連ピットである。新旧関係は, 第 298 号, 第 299 号ピットより新しく, 他のものとは不明である。

遺物: 晩 8, 続縄 3, 続 (C₂4, D 6, 北大18), 土師 2, 不28, 搔器 2, フレーク14

土器 (第 148 図) 300-1~3 タンネットウL式土器 300-4~6 後北A式土器 300-7, 8 後北C₂式土器 300-9 北大式土器 300-10, 11, 13 土師器

石器 (第 179 図) 300-1, 2 円形搔器

第 301 号ピット (第 59 図)

①50×45 ②19 ③AD ④I b ⑤後北D ⑥

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土

概要: 円形, ボウル状の小型ピットである。

遺物: 続 (D 3), 石 (朱染) 1

第 302 号ピット (第 59 図)

①110×85 ②10 ③BA ④III a ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 黒褐色土 III 褐色土

概要: 楕円形, フライパン状を呈する。西壁に小ピット状の掘り込みが確認された。

遺物: 晩 1, 続縄 1

第 303 号ピット (第 59 図)

①56×46 ②21 ③AA ④I b ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒褐色土 (硬) II 暗黒褐色土 (軟)

概要: 円形, 摺鉢状で底面が平坦な小型ピットである。

遺物: 晩 3, 続 (C₂2, D 3), 不 1

第 304 号ピット (第 59 図)

①108×107 ②15 ③AA ④IV b ⑤不明 ⑥ 1 (上面)

層位: I 暗黒褐色土 II 黒褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。西壁上面に石 1 個が見られた。

遺物：なし

第 305 号ピット (第 59 図)

①99×95 ②15 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥6 (底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い) Ⅲ褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。底面に壁に沿って6個の石が見られた。

遺物：なし

第 306 号ピット (第 60 図, 図版十三)

①213×117 ②25 ③C A ④V b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ地山土の張床

概要：隅丸長方形を呈する。南西部で第 307 号, 第 308 号ピットと重複し, 両者より新しい。

遺物：晩 4, 続縄 1, 続 (C₂ 4, D 6, 北大 11), 不 (底部) 2

土器 (第 148 図) 306-2 続縄文時代土器 306-1 後北 D 式土器 306-3~6 北大式土器

第 307 号ピット (第 60 図, 図版十三)

① ②29 ③A A ④Ⅲ c ⑤後北 C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土 (木炭を含む) Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅲより明るい) V 地山粘土の張床

概要：円形，摺鉢状を呈する。西壁は第 308 号ピットの壁上方と共有し, 第 V 層が張床となっている。北側で第 306 号ピット, 下層に第 308 号ピット, 南側で第 798 号ピットと重複関係にある。第 306 号ピットより古く, 第 308 号, 第 798 号ピットより新しい。

遺物：続縄 1, 続 (C₂ 4, D 2) 削器 1

土器 (第 148 図) 307-1, 2 後北 D 式土器

石器 (第 179 図) 307 削器

第 308 号ピット (第 60 図, 図版十三)

①118 ②55 ③A A ④Ⅳ d ⑤後北 C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈する。第 307 号, 第 798 号ピットと重複している。第 307 号ピットより古く, 第 798 号ピットより新しい。

遺物：続 (A 1, C₂ 2, D 2, 北大 8), 不 15

土器 (第 148 図) 308-1 後北 A 式土器 308-2, 3 後北 C₂ 式土器

第 309 号ピット (第 59 図)

①70 ②4 ③AD ④Ⅱ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：不整形円形，皿状を示す。西側に小張り出しを有する。

遺物：なし

第 310 号ピット (第 59 図)

①67×62 ②13 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。南側に張り出しを有する。

遺物：なし

第 311 号ピット (第 59 図)

①122×93 ②12 ③BA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：不整形円形，フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 312 号ピット (第 61 図)

①65 ②23 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土 (木炭を含む) Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。北東，北西に張り出しを持つ。ピットの外西に小ピット状の掘り込みが見られる。第Ⅱ層中に木炭を多量に含む。

遺物：続 (B 1, D 2) 不 4, 不 (底部) 1

土器 (第 148 図) 312-1 後北 B 式土器

第 313 号ピット (第 60 図, 図版三十一)

①90 ②36 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅳ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。北側で第 318 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：晩 1, 続 (D 1, 北大 1), 不 1

土器 (第 148 図) 313-2 北大式土器

第 314 号ピット (第 61 図, 図版三十二)

①113×110 ②48 ③AA ④Ⅳc ⑤北大 ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 (焼土を含む) Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅲより暗い)
Ⅴ黒色土 (Ⅰより明るい) Ⅵ黒褐色土 Ⅶ黒色土 (Ⅰより暗い) Ⅷ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面中央に大型の石1個が見られた。

遺物：統 (恵山1, C₂6, 北大9), 不 (底部) 3, フレーク5

土器 (第148図) 314-1~3 後北C₂式土器 314-4, 5 北大式土器

第315号ピット (第61図)

①89×86 ②21 ③AD ④Ⅲb ⑤不明 ⑥2

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土

概要：円形，ボウル状を呈する。南側に2個の石が見られた。

遺物：晩2, 統縄3, 統 (C₂2), 搔器1

石器 (第179図) 315 円形搔器

第316号ピット (第61図)

①94×83 ②22 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥3

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈する。3個の石が見られた。

遺物：統縄2, 統 (C₂1, 北大1)

第317号ピット (第57図)

①68 ②15 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：円形，ボウル状を呈する。東側で第291号ピットと重複する。本ピットが古い。

遺物：なし

第318号ピット (第60図, 図版三十一)

①88 ②7 ③AA ④Ⅲa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。東側にピット状の張り出しを持ち，小ピット1個を配する。南側で第313号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第319号ピット (第61図)

①60×50 ②18 ③AD ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：円形，皿状の小型のピットである。第197号ピットとはほぼ接する。

遺物：続5，すり石破片1

第320号ピット（第61図，図版三十二）

①98×95 ②47 ③A C ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより暗い） Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。

遺物：晩3，続（北大3），不2，フレーク1

土器（第149図） 320-1 タンネットウL式土器 320-2，3 北大式土器

第321号ピット（第62図）

①113×113 ②32 ③A A ④Ⅳ c ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土（Ⅲより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。北壁上方の一部に攪乱を受けている。

遺物：晩2，続（C₂2，D16，北大6），不6，フレーク1

土器（第149図） 321-2 タンネットウL式土器 320-1，3 後北D式土器

第322号ピット（第62図）

①65×63 ②38 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥1（底面）

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ黒褐色土（Ⅲより明るい） Ⅵ暗黒褐色土（Ⅳより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。西壁に比して東壁は緩やかである。東側底面より石1個が発見された。

遺物：続縄2，続（A1，D1）

第323号ピット（第62図，図版三十二）

①76 ②13 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥7（底面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ張り床粘土

概要：円形，フライパン状を呈する。底面に7個の石が見られた。東側で第324号ピットと重複している。本ピットが新しい。

遺物：続縄8，続（恵山2，B1，C₂1，D2，北大5），不1

土器（第149図） 323・324-2，3（恵山式土器） 323・324-1，4 後北A式土器

第 324 号ピット (第 62 図, 図版三十二)

①63 ②34 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥3 (底面)

層位: Ⅰ暗黒褐色土 (地山粒子混入) Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。底面に 3 個の石が見られた。西側で第 323 号ピットと重複し, 本ピットが古く構築されている。

遺物: 第 323 号ピット参照。

第 325 号ピット (第 62 図, 図版三十二)

①210×111 ②18 ③C A ④V b ⑤北大 ⑥

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土

概要: 隅丸長方形を呈する。底面は平坦であり, 長軸の方向はほぼ東一西である。

遺物: 晩 1, 続縄 2, 続 (D 2, 北大 6), 不 1, フレーク 1

土器 (第 149 図) 325-1 タンネットウ L 式土器 325-2 後北 D 式土器 325-3 北大式土器

第 326 号ピット (第 63 図, 図版三十三)

①103×74 ②10 ③B A ④Ⅲ a ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ黒色土

概要: 不整円形, フライパン状を呈する。

遺物: 晩 1, 続 (A 1, C₂ 1, 北大 4), 不 11, フレーク 3

土器 (第 149 図) 326・327-1 後北 A 式土器 326・327-2 北大式土器

第 327 号ピット (第 62 図)

①80×70 ②11 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ黒褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。西壁に張り出しを有し, 南側に小ピット 1 個が見られる。

遺物: フレーク 2, 第 326 号ピット参照。

第 328 号ピット (第 62 図)

①65×59 ②16 ③A A ④Ⅱ b ⑤後北 A ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い) Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。底面は東に向って若干高くなる。

遺物: 続縄 7, 続 (A 2, D 1)

土器 (第 149 図) 328-1, 2 後北 A 式土器

第 329 号ピット (第 63 図, 図版十四)

①113×82 ②B Ⅲ ③BA ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥30 (上層, 底面)

層位: I 黒色土

概要: 楕円形, 摺鉢状を呈する。全面に 30 個の石が上層より底面まで見られた。東壁上方に一部張り出しが見られる。

遺物: 統縄 2, 統 (A 1, 北大 1), 石皿 2

土器 (第 149 図) 329-1 後北 A 式土器

石器 (第 184 図) 329-1, 2 石皿

第 330 号ピット (第 63 図)

①76×71 ②36 ③AD ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒色土 II 暗黒褐色土 III 黒色土 IV 暗黒褐色土 (I より明るい)

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面が若干彎曲する。

遺物: なし

第 331 号ピット (第 63 図)

①104×104 ②15 ③AA ④IV b ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒褐色土 II 暗黒褐色土 (I より暗い) III 暗褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈し, 南壁に小ピット 1 個を配する。

遺物: 晩 1, 統 (北大 1), 不 1

第 332 号ピット (第 63 図)

①70 ②13 ③AA ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位: I 暗褐色土 II 黒色土

概要: 不整形円形, フライパン状を呈し, 北壁に小ピット 1 個を配する。北側で第 799 号ピットと重複し, 本ピットが古い。

遺物: 統縄 2, 統 (A 3, C₂ 1, D 1), 不 1

土器 (第 149 図) 332-1, 2 後北 A 式土器 332-3 後北 D 式土器

第 333 号ピット (第 64 図)

①129×91 ②51 ③ ④ ⑤ ⑥

層位: I 暗黒褐色土

概要: 不整形, 皿状である。東側に 2 個, 北側に 1 個の小ピットを配する。西側で第 334 号ピットと重複し本ピットが古い。

遺物：続（恵山1，D1，北大4）

第334号ピット（第64図）

①99×83 ②22 ③A A ④Ⅲ b ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ褐色土 Ⅲ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。東側で第333号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：続（恵山2，A1，D8，北大5），不2，フレーク1

土器（第149図） 334-1，3 恵山式土器 334-2 後北A式土器 334-4 後北D式土器

第335号ピット（第63図）

①97×87 ②11 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥1（西壁上）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，西壁上に1個の石が確認された。北側と南側に小ピットを有する。

遺物：なし

第336号ピット（第64図）

①104 ②15 ③A D ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：不整円形，ボウル状を呈する。西壁に小ピット1個を有する。西壁に比べ東壁がやや急な立ち上りを示している。東側で第337号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第337号ピット（第64図）

①110 ②8 ③C A ④V a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土

概要：不整隅丸長方形を呈する。西壁1個，北壁1個，東壁2個の小ピットを配し，西側で第336号ピット，南側で第338号ピットと重複し，両者より古い。

遺物：なし

第338号ピット（第64図）

①100×88 ②73 ③A A ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥1（底面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒褐色土（Ⅲより明るい） Ⅴ暗褐色土 Ⅵ褐色土 Ⅶ暗褐色土（Ⅴより暗い）

概要：円形，摺鉢状を呈する。床面東壁近くから石1個が発見された。北側で第337号ピットと

重複し、本ピットが新しい。

遺物：なし

第 339 号ピット (第 65 図)

①132×125 ②41 ③AA ④IV c ⑤後北A ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒色土(焼土混入) Ⅴ黒色土(Ⅰより暗い)
Ⅵ褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈する。底面は東側が低くなる。

遺物：続縄4, 続(A1)

第 340 号ピット (第 95 図, 図版三十三)

①60×54 ②17 ③AD ④I b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土

概要：円形、ボウル状を呈し、北壁に4個の小ピットを有する。

遺物：なし

第 341 号ピット (第 65 図)

①101×74 ②23 ③BD ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土

概要：楕円形、ボウル状を呈し、北東に張り出しを持つ。

遺物：続(恵山1, A1)

第 342 号ピット (第 65 図, 図版三十三)

①84×73 ②13 ③AA ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ焼土 Ⅲ黒色土

概要：円形、フライパン状を呈する。底面は西側が若干低くなる。

遺物：続(A1, D1) 不3

第 343 号ピット (第 65 図, 図版三十三)

①83×80 ②24 ③AA ④Ⅲ b ⑤後北D ⑥9 (下層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒色土(Ⅱより暗い) Ⅴ暗褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、中央部下層に9個の石が見られた。ピットの外西壁に接して小ピット状の掘り込みがある。

遺物：続(D5)

第 344 号ピット (第 66 図)

① ②18 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ 暗黒褐色土

概要：不整形円形，皿状を示すと思われる。北西壁に小ピット 1 個を配する。ピットの外北に 50×45 cm のピット状の掘り込みが認められ，北側に張り出しを有する。西側は第 345 号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。南側に木の根と思われる不定形の落ちこみが存在する。

遺物：続縄 1，続（恵山 1，A 1，C₂ 4，D 6，北大 5）擦文 2，不 5，フレーク 3

土器（第 149 図） 344-1 続縄文時代土器 344-2 後北 A 式土器 344-3 後北 C₂ 式土器 344-4，5 擦文式土器

第 345 号ピット (第 66 図)

① ②11 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：西壁が確認されたのみで全容は不明である。東側で第 344 号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。ピットの外北に小ピット 1 個が存在する。

遺物：なし

第 346 号ピット (第 65 図)

①45×44 ②22 ③A A ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ 黒褐色土（地山ブロック混入）

概要：円形，摺鉢状を呈する。第 347 号ピットの東側を掘り込んで構築している。第 347 号ピットが古い。

遺物：なし

第 347 号ピット (第 65 図)

①99×91 ②11 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ 暗黒褐色土 Ⅱ 暗黒褐色土（Ⅰより暗い）

概要：円形，フライパン状を呈する。第 346 号ピットを内包し，北東壁に小張り出しを有する。本ピットが古い。

遺物：なし

第 348 号ピット (第 131 図，図版五十)

①152×92 ②111 ③ ④ ⑤T A ⑥

層位：Ⅰ 黒色土 Ⅱ 暗黒褐色土 Ⅲ 黒褐色土 Ⅳ 黒褐色土（Ⅲより暗い） Ⅴ 褐色土 Ⅵ 黒褐色

土 (Ⅳより暗い) Ⅶ褐色土 Ⅷ暗黒褐色土

概要: 長楕円形のプランを呈する。東・西壁は垂直に立ち上る。底面中央に3個の小ピットが見られた。

遺物: 晩1

第349号ピット (第66図, 図版三十四)

①92×71 ②29 ③AA ④Ⅲc ⑤後北C₂ ⑥1 (北壁上)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土 (木炭を含む) Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。北壁に小ピットが1個あり, 北壁上に石が1個見られた。

遺物: 続 (C₂4)

第350号ピット (第67図, 図版十四)

①102×82 ②51 ③AB ④Ⅲd ⑤不明 ⑥10 (底面)

層位: Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒色土 Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅵ暗褐色土 (Ⅲより明るい) Ⅶ暗黒褐色土 (Ⅴより暗い)

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。南側で第351号ピットと重複している。本ピットが新しい。

遺物: 晩1, 続繩5, 続 (恵3, A2, D1) 不1, 搔器1, フレーク1

土器 (第149図) 350-1~3 恵山式土器

石器 (第179図) 350 円形搔器

第351号ピット (第67図, 図版十四)

①51×47 ②20 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。南側底面が若干低い。西側で第350号ピットと重複している。本ピットが新しい。

遺物: 続 (恵山1)

第352号ピット (第67図, 図版十五)

①88×77 ②15 ③AA ④Ⅲb ⑤後北D ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い) Ⅲ暗褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。西側で第353号ピットと重複し, 本ピットが古い。

遺物: 晩1, 続 (D2, Dまたは北大4) 不1, 石鏃1, 削器1, フレーク1

土器 (第149図) 352-21 後北D式土器

石器 (第179図) 352-1 無茎石鏃 352-2 縦形削器

第 353 号ピット (第 67 図, 図版十五)

①103 ②42 ③A A ④Ⅳ c ⑤後北D ⑥2 (底面)

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅲより明るい)

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。石 2 個が底面より発見された。東側で第 352 号ピットと重複し, 本ピットが新しい。

遺物: 続縄 2, 続 (D 6)

土器 (第 149 図) 353-1 後北D式土器

第 354 号ピット (第 69 図, 図版三十四)

①63×54 ②15 ③A A ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位: 暗黒褐色土 Ⅱ焼土 Ⅲ暗褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈し, 東側に小張り出しを有する。底面東側が若干高くなる。西側底面に石 1 個が存在した。

遺物: 不 1, 敲石 1, フレーク 1

石器 (第 179 図) 354 敲石

第 355 号ピット (第 67 図)

①63×54 ②9 ③A A ④Ⅰ a ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。

遺物: なし

第 356 号ピット (第 67 図, 図版三十四)

①120×115 ②35 ③A A ④Ⅳ c ⑤後北D ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い) Ⅳ暗褐色土 (焼土含む) Ⅴ焼土 Ⅵ暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。

遺物: 続縄 2, 続 (A 1, C₂ 1, C₂またはD 2, D 5, 北大 1) 不 8, 不 (底部) 1

土器 (第 149 図) 356-2 後北C₂またはD式土器 356-3 後北D式土器

第 357 号ピット (第 68 図)

①263×173 ②8 ③C A ④Ⅴ a ⑤後北D ⑥1 (上面)

層位: Ⅰ黒色土

概要：隅丸長方形を呈する。南側内部に第372号ピットがある。北西隅に小ピット1個を有する。南西隅上面より石1個が発見された。本ピットが古い。

遺物：統（恵山1，B1，D1，北大1）不9

土器（第149図）357・872-1 恵山式土器 357・372-3 北大式土器

第358号ピット（第67図）

①74 ②6 ③BD ④Ⅱa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ 黒色土

概要：楕円形，皿状を呈する。南側で第359号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：統（A1）不1

土器（第149図）358-1 後北A式土器

第359号ピット（第67図）

①40 ② ③A ④Ⅰ ⑤ ⑥

概要：円形の小形ピットである。中央に小ピット1個を有する。北側で第358号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第360号ピット（第69図，図版十五）

①108 ②20 ③AA ④Ⅳb ⑤後北A ⑥

層位：Ⅰ 黒色土 Ⅱ 暗黒色土 Ⅲ 暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。東壁に小ピット1個を有する。南側で第361号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：統縄4，（A5，C₁2，C₂2，北大1）

土器（第149図）360-1，2 後北A式土器

第361号ピット（第69図，図版十五）

①128 ②10 ③AA ④Ⅳa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ 黒色土

概要：円形，フライパン状を呈する。北側で第360号ピット，南側で第362号ピットと重複し，両者より古い。

遺物：晩1，統縄2，統（C₂1，D1，北大1）

土器（第149図）361-1 縄文時代晩期土器

第 362 号ピット (第 69 図, 図版十五)

①122 ②13 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥2 (底面)

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土

概要: 円形, フライパン状を呈し, 2 個の石が底面より発見された。北側で第 361 号ピットと重複し, 本ピットが新しい。

遺物: 続縄 5, 続 (B 1, C₂5) フレーク 1

土器 (第 149 図) 362-1 後北 B 式土器

第 363 号ピット (第 68 図)

①88 ②44 ③A B ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い)

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面は平坦である。

遺物: なし

第 364 号ピット (第 68 図, 図版十六)

①100 ②62 ③A A ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥9 (底面)

層位: Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ褐色土 (Ⅲより明るい) Ⅴ暗黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面は平坦である。底面より 9 個の石が発見された。一部は第 374 号ピットにより切られている。新旧関係は本ピットが古い。

遺物: なし

第 365 号ピット (第 69 図)

①89×79 ②12 ③A A ④Ⅲ b ⑤後北 A ⑥

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。東壁に小ピット 1 個を有する。

遺物: 続 (A 1)

土器 (第 149 図) 365-1 後北 A 式土器

第 366 号ピット (第 70 図)

①99×79 ②15 ③B A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要: 楕円形, フライパン状を呈する。

遺物: 続縄 1, 続 (恵山 1, C₂1) 不 1

土器 (第 149 図) 366-1 後北 A 式土器

第 367 号ピット (第 70 図)

①69×67 ②8 ③AA ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，皿状を呈する。

遺物：なし

第 368 号ピット (第 69 図)

①117 ②44 ③AA ④Ⅳ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ黒褐色土（地山ブロック混入） Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。西側で第 373 号ピットと重複し，北西部に張り出しを有する。本ピットが古い。

遺物：なし

第 369 号ピット (第 47 図)

①80×80 ②13 ③AA ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。西側で第 233 号ピットと重複している。本ピットが新しい。

遺物：続縄 1，フレーク 3

第 370 号ピット (第 70 図)

①103×73 ②21 ③BD ④Ⅱ b ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土（Ⅳより暗い）

概要：楕円形，ボウル状を呈する。二段の掘り込みが見られ，二段目は径 47cm の正円を呈する。南側に 2 個の小ピットを配する。

遺物：続縄 1，続（恵山 1，D 4）

土器（第 149 図）370-1 恵山式土器

第 371 号ピット (第 70 図，図版十六)

①95×92 ②66 ③AC ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥20（底面）

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土（Ⅰより暗い） Ⅴ焼土 Ⅵ褐色土
Ⅶ暗黒褐色土（Ⅳより暗く軟らかい）

概要：円形，摺鉢状の深いピットである。底面全体に 20 個の石を有し，石は中層までおよぶ。

遺物：続縄 3，続（A 2，C₂ 5，D 1）搔器 2，削器 1，フレーク 1，骨が検出されている。

土器 (第 149 図) 371-1 後北A式土器 371-2 後北D式土器

石器 (第 179 図) 371-1, 2 縦形搔器 371-3 円形小形搔器

第 372 号ピット (第 68 図)

①58 ②23 ③AD ④I b ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒色土 II 暗黒褐色土 III 黒色土 IV 褐色土 V 暗褐色土

概要: 不整円形, ボウル状を呈し, 第 357 号ピットに内包される様に存在している。北東に小型ピットが見られ, 南東部に張り出しがある。本ピットが新しい。

遺物: 第 357 号ピット参照

第 373 号ピット (第 69 図)

①70 ②23 ③AD ④II b ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土

概要: 円形, ボウル状を呈する。東側で第 368 号ピットと重複し, 本ピットが新しい。

遺物: なし

第 374 号ピット (第 68 図, 図版十六)

①115×75 ②32 ③BA ④III c ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 黒色土 IV 暗黒色土 V 褐色粘質土

概要: 楕円形, 摺鉢状を呈し, 第 364 号ピットの上方部を切り, 東壁を共有する。本ピットが新しい。

遺物: なし

第 375 号ピット (第 70 図, 図版三十四)

①111×95 ②28 ③AA ④III c ⑤恵山 ⑥I

層位: I 黒色土 II 黒褐色土 III 暗黒褐色土 IV 暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。南側から大型の石 1 個が発見された。

遺物: 続 (恵山 1) 石錘 1

石器 (第 186 図) 375 石錘

第 376 号ピット (第 131 図, 図版五十)

①148×86 ②127 ③ ④ ⑤TA ⑥

層位: I 暗黒色土 II 暗黒褐色土 III 褐色土 VI 暗褐色土 V 黄褐色粘土質 VI 黒色土

概要: 平面は長楕円形である。長軸の壁が垂直に立ち上る。

遺物: なし

第 377 号ピット (第 71 図)

①154×139 ②22 ③A A ④V b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，底面は平坦である。

遺物：統繩 1，統 (C₂ 2)

第 378 号ピット (第 70 図)

①80×72 ②17 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。東壁に比べ西壁は緩やかに立ち上る。

遺物：統繩 4

第 379 号ピット (第 70 図)

①60 ②7 ③B A ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位：黒色土

概要：楕円形，フライパン状を呈する。南側に張り出しが見られる。

遺物：なし

第 380 号ピット (第 71 図，図版三十五)

①101 ②75 ③A A ④Ⅲ d ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅲより暗く，軟らかい)

概要：円形，摺鉢状を呈する。中央部より土器 1 個体が発見された。南西で第 381 号，第 800 号ピットと重複し，第 381 号ピットより古い。第 800 号ピットとの関係は不明である。

遺物：統 (C₂一括)

土器 (第 162 図) 380 口径推定 13 cm 底径 6 cm 高さ 7 cm 片側に注口を有する。後北C₂式土器

第 381 号ピット (第 71 図，図版三十五)

①90 ②20 ③A A ④Ⅱ b ⑤北大 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。北側で第 380 号，第 800 号ピットと重複している。新旧関係は第 380 号ピットより新しく構築されている。第 800 号ピットとの関係は不明である。

遺物：統 (北大底部 1)

第 382 号ピット (第 71 図, 図版三十五)

①90×74 ②20 ③A C ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥2 (底面)

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 東側底面から石 2 個が発見された。

遺物: なし

第 383 号ピット (第 71 図, 図版十七)

①82×74 ②17 ③A A ④II b ⑤土師 ⑥

層位: I 暗黒色土 II 暗黒褐色土 (焼土を含む) III 暗黒色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 東側底面が若干底くなる。西側で土師式土器が発見された。

遺物: 統 (C₂ 2) 土師器 (一括)

土器 (第 162 図) 383 口径 14 cm 底径約 10 cm 高さ 4.9 cm 1 段の稜を有する内黒の土師式土器

第 384 号ピット (第 71 図)

①76×73 ②20 ③A A ④II b ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 暗褐色土 III 黒褐色土

概要: 円形, 摺体状を呈する。

遺物: なし

第 385 号ピット (第 73 図, 図版三十五)

①125×120 ②62 ③A B ④IV d ⑤北大 ⑥1 (西壁面)

層位: I 暗黒褐色土 II 黒色土 III 黒褐色土 IV 黒色土 V 暗黒褐色土 (I より暗い) VI 褐色土 VII 黒褐色土 VIII 暗褐色土 IX 褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 壁上方部が緩やかに広がる。西壁より石 1 個が発見された。

遺物: 晩 1, 統縄 3, 統 (恵山 1, D 4, 北大 3)

土器 (第 149 図) 385-1 恵山式土器

第 386 号ピット (第 72 図)

①53 ②8 ③A A ④I a ⑤不明 ⑥1 (下層)

層位: I 暗黒褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。西側より石 1 個が発見された。第 387 号ピットとはほぼ接するが新旧関係は不明である。

遺物: 統縄 13, 統 (A 1, C₂ 3) フレーク 1

土器 (第 150 図) 386~393-1 後北A式土器

第 387 号ピット (第 72 図)

①106 ②16 ③AA ④IV b ⑤不明 ⑥2 (下層)

層位: I 暗黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 東側に 2 個の石を有する。西側で第 386 号ピットとほぼ接し, 北側で第 389 号ピットと重複する。第 389 号ピットより古い。

遺物: 第 386 号ピット参照

第 388 号ピット (第 72 図)

①75×61 ②12 ③AA ④II b ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土

概要: 不整形円形, フライパン状を呈する。第 392 号ピットとほぼ接する。

遺物: 第 386 号ピット参照

第 389 号ピット (第 72 図)

① ②6 ③ ④ ⑤ ⑥

層位: I 黒色土

概要: 隅丸長方形を呈するプランであろう。西側で第 387 号ピットと重複し, 北側で第 390 号, 第 391 号ピットと重複している。本ピットはこの 3 者よりも新しい。

遺物: 第 386 号ピット参照

第 390 号ピット (第 72 図)

①98 ②31 ③AA ④III c ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 暗褐色土 III 褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。西壁は垂直に立ち上るが, 東壁は緩やかである。第 389 号, 第 393 号ピットと重複し, 両者より古い。

遺物: 第 386 号ピット参照

第 391 号ピット (第 72 図)

①97×84 ②13 ③AA ④II b ⑤不明 ⑥

層位: I 黒褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。南側で第 389 号ピット, 北側で第 393 号ピットと重複し, 第 389 号ピットより古く, 第 393 号ピットとの関係は不明である。

遺物: 第 386 号ピット参照

第 392 号ピット (第 72 図)

①63 ②26 ③A D ④I c ⑤不明 ⑥

層位：I 黒色土 II 暗黒褐色土

概要：円形，ボウル状である。西側で第 393 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：第 386 号ピット参照

第 393 号ピット (第 72 図)

①146 ②11 ③A A ④V b ⑤不明 ⑥

層位：I 黒色土

概要：不整形円形，フライパン状を呈する。東側で第 392 号ピット，南側で第 390 号，第 391 号ピットと重複し，第 390 号，第 392 号ピットより新しく，第 391 号ピットとの関係は不明である。

遺物：第 386 号ピット参照

第 394 号ピット (第 73 図，図版三十五)

①105×101 ②86 ③A A ④IV c ⑤後北C₂ ⑥3 (底面)

層位：I 暗黒褐色土 II 黒色土 III 暗褐色土 IV 暗黒褐色土 (I より明るい) V 暗黒色土 VI 暗褐色土 (III より明るい) VII 焼土 VIII 暗黒褐色土 (I より暗い) IX 暗黒褐色土 (IV より暗い) X 暗褐色土 (VI より暗い)

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面より石 3 個が発見された。

遺物：続 (A 1, C₁ 1, C₂ 11, D15) 搔器 1, フレーク 2

土器 (第 150 図) 394-1 ~ 5 後北C₂式土器

石器 (第 179 図) 394 円形搔器

第 395 号ピット (第 73 図)

①163×102 ②12 ③C A ④V a ⑤不明 ⑥

層位：I 黒色土 II 黒色土 (I より明るい) III 暗黒褐色土 IV 暗黒色土

概要：隅丸長方形を呈する。北東隅に小ピット 1 個が見られる。

遺物：なし

第 396 号ピット (第 46 図)

①130 ②11 ③A A ④V a ⑤北大 ⑥

層位：I 暗黒褐色土

概要：不整形円形，皿状を呈する。西壁に小ピット 1 個を有する。北側で第 229 号ピットと重複する。新旧関係は不明である。

遺物：統（恵山2，C₂1，北大1）擦文1，不5

土器（第150図）396-1後北C₂式土器 396-2擦文式土器

第397号ピット（第73図）

①100×73 ②10 ③BA ④Ⅲa ⑤後北C₂ ⑥5（底面）

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈する。底面に5個の石が見られる。南壁に小ピットを配する。

遺物：統（C₂一括，C₂30）

土器（第150図）397-1～5後北C₂式土器

第398号ピット（第47図）

①132 ②13 ③BA ④Ⅳb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ褐色土

概要：楕円形，フライパン状を呈する。北側で第230号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：統繩3，統（C₂2）

第399号ピット（第73図）

①88×73 ②31 ③AD ④Ⅲc ⑤北大 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土（Ⅰより硬い） Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，ボウル状を呈する。

遺物：統（C₂3，D1，北大6）フレーク1

土器（第150図）399-1北大式土器

第400号ピット（第74図）

①114×97 ②12 ③AA ④Ⅳb ⑤不明 ⑥2（中層）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ焼土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，東壁に小ピット1個を有する。

遺物：統繩10，統（恵山1，C₂4，D2）不（底部）1，搔器1，フレーク1

土器（第150図）400-1後北A式土器 400-2，3後北D式土器

石器（第179図）400 搔器

第401号ピット（第131図）

①158×107 ②118 ③ ④ ⑤TA ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅰより暗い） Ⅳ暗黒褐色土（Ⅲより暗い）

V 黒色土 VI 暗黒褐色土 (IV より暗い) VII 黒色土 (V と同じ) VIII 暗褐色土 IX 黒褐色土
X 黒褐色土 (IX より明るい)

概要：長楕円形を呈し、西壁は袋状に掘り込まれている。底面に4個の小ピットが見られる。
遺物：なし

第402号ピット (第74図)

①103×103 ②42 ③AA ④IV c ⑤不明 ⑥2 (上面, 下層)

層位：I 黒色土 II 暗褐色土 III 暗黒褐色土 IV 黒褐色土 V 褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面は平坦である。

遺物：続縄2, 続(北大1)

第403号ピット (第131図, 図版十八)

①132×94 ②109 ③ ④ ⑤TA ⑥

層位：I 黒色土 II 暗褐色土 III 褐色土(粘土質) IV 黒色土 V 褐色土(火山灰質) VI 黒褐色土

概要：平面は長楕円形を呈する。東壁は袋状に掘り込まれている。底面中央に2個の小ピットがある。

遺物：続(C₂2) 不(底部) 1

第404号ピット (第74図)

①65×57 ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：円形、摺鉢状を呈し、西壁に小ピット1個を配する。

遺物：なし

第405号ピット (第75図)

①102 ②13 ③AA ④IV b ⑤不明 ⑥

層位：暗黒褐色土

概要：ほぼ円形を呈すると思われる。東側で第420号ピットと重複しており、全容は不明である。本ピットが古い。

遺物：早2, 中1, 晩(底部)1, 続縄9, 続(A3, C₂4, 北大8) 不3

土器(第150図) 405-1 縄文時代中期土器 405-2, 3 後北D式土器

第406号ピット (第74図)

①104×96 ②11 ③AA ④IV b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，底面はほぼ平坦である。

遺物：なし

第407号ピット（第74図）

①97×87 ②15 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面中央が若干の窪みを見せる。

遺物：なし

第408号ピット（第132図）

①233×34 ②98 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土（火山灰質）

概要：長楕円形のプランを呈する。壁の立ち上りは垂直に近い。

遺物：中1，搔器1

石器（第179図）408 円形搔器

第409号ピット（第76図）

①52 ②43 ③AB ④Ⅲc ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより暗い）Ⅳ暗黒褐色土（Ⅱより明るい）

V暗黒褐色土（Ⅲより暗い）Ⅵ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁上方が開く。第410号，第441号ピットと重複し，両者より新しい。

遺物：中1，晩2，続縄6，続（C₂3）

第410号ピット（第76図）

① ②52 ③AA ④Ⅱd ⑤晩期 ⑥7（下層，底面）

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより暗い）Ⅲ焼土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗黒褐色土（Ⅰより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。下層より底面にかけて，7個の石が確認された。第409号，第441号，第441号ピットと重複し，第409号ピットより古く，第411号ピットより新しい。第441号ピットとの関係は不明である。

遺物：晩4，フレーク1

第 411 号ピット (第 76 図)

①65 ②116 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅰより暗い）Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土 Ⅵ黒色土

概要：長楕円形のプランを呈する。北壁は袋状に掘り込み、東西の壁は垂直である。北側で第 410 号ピット、南側で第 414 号ピットと重複し、両者より古い。

遺物：早 1, 中 1

土器 (第 150 図) 411-1 縄文時代中期土器

第 412 号ピット (第 78 図, 図版十九)

①84×75 ②48 ③AA ④Ⅱc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土（Ⅱより暗い）

概要：円形、摺鉢状を呈し、開口部が若干広がる。

遺物：続縄 2, 削器 1, フレーク 1

石器 (第 179 図) 412・413 縦形削器

第 413 号ピット (第 78 図, 図版十九)

①98×98 ②43 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥11 (下層-底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅰより明るい）Ⅳ暗褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、下層より底面に 11 個の石が見られた。

遺物：続 (C₂ または D7) 第 412 号ピット参照。

第 414 号ピット (第 77 図)

①313×111 ②12 ③BA ④Vb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより明るい）Ⅲ褐色土

概要：不整長楕円形を呈し、他のピットと比べ異形である。本ピットの性格は不明である。第 411 号ピットと重複し、本ピットが新しい。

遺物：中 2, 晩 1, 続縄 2, 続 (北大 3), 不 1, フレーク 1

土器 (第 150 図) 414-1 縄文時代中期土器 414-2 北大式土器

第 415 号ピット (第 74 図)

①86×52 ②36 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面は平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上る。

遺物：続縄1，続（恵山1，A1，B2），不2

土器（第150図）415-1 後北A式土器 415-2, 3 後北B式土器

第416号ピット（第74図，図版十八）

①65×58 ②16 ③AA ④I b ⑤後北C₂ ⑥

層位：I 黒色土 II 暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：続（A1，C₂1）

土器（第150図）416-1 後北C₂式土器

第417号ピット（第75図）

①97×92 ②36 ③AA ④III c ⑤恵山 ⑥

層位：I 暗黒褐色土 II 暗黒色土 III 暗褐色土 IV 黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：続（恵山3，D1）

土器（第150図）417-1~3 恵山式土器 417-4 後北D式土器

第418号ピット（第75図）

①78×70 ②42 ③AA ④II c ⑤後北C₂ ⑥2（下層）

層位：I 暗黒褐色土 II 黒色土 III 暗黒褐色土 IV 黒色土（IIより明るい） V 黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：中2，続縄8，続（C₂8，北大2）

土器（第150図）418-1 トコロ第6類土器 418-2 後北式C₂式土器 418-3 北大式

第419号ピット（第75図，図版三十六）

①93×88 ②39 ③AB ④III c ⑤後北D ⑥6（底面）

層位：I 黒色土 II 暗黒色土 III 黒褐色土 IV 暗黒褐色土 V 暗褐色土 VI 暗黒色土（IIより明るい） VII 暗褐色土（Vより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁下方は垂直に近いが，中位から上方はやや緩やかに立ち上る。底面に6個の石が見られた。

遺物：続（C₂またはD1，D2）

第420号ピット（第75図）

①142 ②23 ③CA ④V b ⑤不明 ⑥

層位：I 暗黒褐色土 II 暗黒色土 III 暗褐色土

概要：隅丸長方形を呈する。北東上面に径 65×30 cm の焼土が確認された。西側で第 405 号ピットと重複し、本ピットが新しい。

遺物：なし

第 421 号ピット (第 78 図 図版三十六)

①83×73 ②27 ③A A ④Ⅱ c ⑤後北 C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅳ黒褐色土 (Ⅲより暗い)

概要：円形、摺鉢状を呈する。南側に小ピット 1 個を有する。

遺物：早 1, 晩 1, 続 (A 1, C₁ 1, C₂ 2, D 1)

土器 (第 162 図) 421 口径 24.9cm, 高さ現存 17.7cm, 後北 C₂ 式土器 (第 150 図) 421-1 タン
ネトウ L 式土器 421-2 後北 A 式土器 421-3 後北 C₁ 式土器 421-4 後北 D 式土器

第 422 号ピット (第 78 図)

①67×66 ②24 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥ 1 (東壁上)

層位：Ⅰ攪乱 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面は平坦である。石 1 個が発見された。

遺物：石斧破片 1

石器 (第 181 図) 422 石斧

第 423 号ピット (第 78 図)

①58×56 ②37 ③A C ④Ⅰ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土 (Ⅱより明るい)

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面は平坦で、壁は垂直に立ち上る。

遺物：晩 1, 続縄 3, 続 (A 2)

第 424 号ピット (第 78 図)

①88×85 ②37 ③A A ④Ⅲ c ⑤晩期 ⑥ 1 (底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黄褐色粘土 Ⅳ黒色土 (地山粒子混入)

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面は平坦である。底面中央よりやや西側から石が 1 個発見された。

遺物：晩 9, 続縄 5, 続 (D 2)

土器 (第 150 図) 424-1, 2 後北 D 式土器

第 425 号ピット (第 78 図)

①84×72 ②30 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土（Ⅰより暗い） Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：統繩 2

第 426 号ピット（第 79 図）

①83 ②38 ③A A ④Ⅲ c ⑤晩期 ⑥ 2（上層）

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。上層より石 2 個が出土した。東側で第 444 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：早 1，晩 30，統（C₂ または D 1，D 5，北大 1）不 12，フレーク 3

土器（第 151 図）426-1 東釧路Ⅲ式土器 426-2~4 タンネットウ L 式土器 426-5 後北 D 式土器

第 427 号ピット（第 79 図）

①91×86 ②35 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗褐色土（Ⅰより明るい） Ⅲ暗褐色土（Ⅱより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。北側で第 428 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：早（底部）1，中 1，晩 7

土器（第 151 図）427-1 縄文時代中期土器 427-2~4 タンネットウ L 式土器

第 428 号ピット（第 79 図）

①92 ②60 ③A A ④Ⅲ d ⑤恵山 ⑥25（下層）

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅳ黒色土（Ⅱより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。下層全面に 25 個の石が見られる。南側で第 427 号ピット，東側で第 429 号ピットと重複し，第 427 号ピットより古く，第 429 号ピットより新しい。

遺物：晩 7，統（恵山 2，C₂ 1，北大 3）

土器（第 151 図）428-1~3 タンネットウ L 式土器 428-4 後北 C₂ 式土器

第 429 号ピット（第 79 図）

①102 ②20 ③A A ④Ⅳ b ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，中央に小ピットを有する。西側で第 428 号ピットと重複し，本ピットが古く構築されている。

遺物：晩 1，統繩 1

第 430 号ピット (第 79 図)

①63 ②6 ③A A ④ I a ⑤不明 ⑥

層位：I 暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，北側で第 431 号ピットと重複する。本ピットが古い。

遺物：晩 1

第 431 号ピット (第 79 図)

①87 ②27 ③A A ④ III c ⑤不明 ⑥ 3 (下層)

層位：I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。北壁に比べ南壁は緩やかに立ち上る。南側で第 430 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：晩 2，続縄 1，続 (恵山 1)，フレーク 1

土器 (第 151 図) 431-1, 2 恵山式土器

第 432 号ピット (第 79 図)

①105×103 ②58 ③A A ④ IV d ⑤晩期 ⑥

層位：I 暗黒褐色土 II 黒褐色土 (硬) III 黒褐色土 (軟) IV 暗褐色土 V 暗褐色土 (IV より暗い)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：晩 10，続 (恵山 1，A 5，B 1，D 1)，フレーク 1

土器 (第 151 図) 432-1~4 後北 A 式土器 432-5 後北 B 式土器 432-6 後北 D 式土器

第 433 号ピット (第 80 図)

①95 ②14 ③A C ④ III b ⑤不明 ⑥ 3 (下層)

層位：I 黒色土 II 暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。3 個の石が認められた。北側で第 443 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：晩 1，続縄 3，続 (A 1，C₁ 2，C₂ 2，D 2)，フレーク 1

土器 (第 151 図) 433-3 タンネットウ L 式土器 433-1 後北 A 式土器 433-2 後北 C₂ 式土器

第 434 号ピット (第 80 図)

①73×72 ②25 ③A B ④ II b ⑤不明 ⑥

層位：I 暗黒色土 II 黒色土 III 暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。

遺物：なし

第 435 号ピット (第 80 図)

①76×75 ②7 ③A D ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

概要：円形，皿状を呈する。

遺物：続 (北大1)，不3

第 436 号ピット (第 80 図)

①68×67 ②13 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，底面は平坦である。

遺物：続 (C₂またはD1)，フレーク1

第 437 号ピット (第 80 図)

①70×68 ②27 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅴ黒色土 Ⅵ暗黒褐色土 (Ⅳより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：続 (A2，C₂またはD2)，不3

土器 (第 151 図) 437-1，2 後北A式土器

第 438 号ピット (第 80 図)

①62×60 ②8 ③A A ④Ⅲ a ⑤不明 ⑥10 (中層-底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土
Ⅵ黒褐色土 (Ⅳより暗い)

概要：円形，摺鉢状を呈する。10個の石が中層から底面にかけて発見された。

遺物：晩1，続 (C₂1)，不1，石皿破片1

土器 (第 151 図) 438-1 後北C₂式土器

第 439 号ピット (第 80 図)

①62×60 ②8 ③A A ④Ⅰ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。西壁は緩やかに立ち上る。

遺物：続縄1，続 (北大1)，石器1

石器 (第 181 図) 439 両面体石器の破片

第 440 号ピット (第 80 図)

①80×68 ②8 ③BA ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 441 号ピット (第 76 図)

①91 ②20 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：円形を呈する。第 409 号，第 410 号ピットと重複し全容は明らかに出来なかった。第 409 号ピットより古く，第 410 号ピットとの関係は不明である。

遺物：なし

第 442 号ピット (第 80 図)

①95×78 ②57 ③BA ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥12 (底面)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒色土 (Ⅱより明るい) Ⅴ暗黒褐色土 Ⅵ暗黒褐色土 (Ⅴより暗い)

概要：不整円形，摺鉢状を呈する。12 個の石が底面に見られた。

遺物：続 (恵山 1, A 2, C₂ または D 1, 北大 1), 不 3, フレーク 9

土器 (第 151 図) 442-1 恵山式土器

第 443 号ピット (第 80 図)

①41 ②9 ③AD ④Ⅰ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土

概要：円形，皿状の小型ピットである。南側で第 433 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第 444 号ピット (第 79 図)

①79 ②10 ③AA ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。西側で第 426 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第 445 号ピット (第 81 図, 図版三十六)

①83 ②29 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥1 (上層)

層位: I 暗黒褐色土 II 暗黒色土 III 焼土 IV 黒色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。上層より大形の石 1 個が出土した。第 III 層は焼土で径 50×30 cm の広がりで見られた。西側で第 466 号ピットと重複するが, 新旧関係は不明である。

遺物: 続 (A 1, C₂1), 不 2

第 446 号ピット (第 81 図)

①63×60 ②5 ③A A ④I a ⑤不明 ⑥4 (底面)

層位: I 暗褐色土

概要: 不整円形, フライパン状を呈する。石 4 個が発見された。北側に張り出しを有し, 西壁に小ピット 1 個を配する。

遺物: なし

第 447 号ピット (第 81 図)

①70×59 ②7 ③B A ④I a ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。

遺物: なし

第 448 号ピット (第 81 図)

①59×55 ②5 ③A A ④I a ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。

遺物: なし

第 449 号ピット (第 81 図)

①71 ②43 ③A A ④II c ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位: I 暗黒褐色土 II 暗黒褐色土 (I より暗い) III 黒色土 IV 褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。底面中央から石 1 個が出土した。東側で第 450 号ピットと重複し, 本ピットが古く構築されている。

遺物: 早 2, 続縄 1, 続 (A 1, C₁2, C₂1), 不 10, 搔器 2, フレーク 1

土器 (第 151 図) 449-2 後北 A 式土器 449-3, 4 後北 C₁ 式土器

石器 (第 181 図) 449-1, 2 円形搔器

第 450 号ピット (第 81 図)

①67 ②11 ③A ④Ⅱ ⑤ ⑥

層位：

概要：円形，皿状を呈する。西側で第 449 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第 451 号ピット (第 81 図)

①82×76 ②10 ③AA ④Ⅱ a ⑤後北 C₂ ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，皿状を呈する。底面中央から石 1 個が出土した。北壁に小ピット 1 個を有する。

遺物：続 (C₂ 3, C₂ または D 9, D 3), フレーク 1

土器 (第 151 図) 451-1, 3 後北 C₂ 式土器 451-2 後北 D 式土器

第 452 号ピット (第 81 図)

①70×62 ②11 ③AA ④Ⅱ b ⑤後北 C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。

遺物：続 (C₂ 1)

第 453 号ピット (第 81 図)

①77×75 ②14 ③AA ④Ⅱ b ⑤後北 C₂ ⑥2 (底面)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。南側底面から石 2 個が出土した。

遺物：続 (C₂ 2)

第 454 号ピット (第 81 図)

①80×78 ②30 ③AA ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。西側底面より石 1 個が出土した。

遺物：なし

第 455 号ピット (第 82 図)

①59×53 ②15 ③AA ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土

概要：円形，フライパン状を呈する。北側底面より大型の石1個が出土した。

遺物：晩1，続(C₂2)

第456号ピット (第82図)

①104×98 ②39 ③AA ④Ⅳc ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒褐色土(Ⅲより暗い) Ⅴ暗褐色土
Ⅵ暗褐色土(Ⅴより暗い)

概要：円形，摺鉢状を呈する。北壁上に35×20cmの焼土が見られた。

遺物：続(C₂3, D7)

土鏝(第151図)456-1 後北D式土器

第457号ピット (第82図)

①93×58 ②40 ③AA ④Ⅲc ⑤後北C₂ ⑥1(底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒褐色土(Ⅲより暗い) Ⅴ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，西壁に比べ東壁は緩やかな立ち上りを示す。北壁上面に20×10cmの焼土が見られた。底面中央より石1個が出土した。

遺物：続(C₂4, D11), フレーク1

土器(第151図)457-1 後北D式土器

第458号ピット (第82図)

①73×70 ②12 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥1(上面)

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ黒色土

概要：円形，フライパン状を呈する。北側上面に石1個と，貝殻が見られた。

遺物：なし

第459号ピット (第82図)

①58×53 ②12 ③AD ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ褐色土

概要：円形，皿状を呈する。

遺物：なし

第460号ピット (第82図)

①51×48 ②22 ③AA ④Ⅰb ⑤後北C₂ ⑥1(下層)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。中央下層より石1個が出土した。

遺物：続 (C₁1, C₂7)

土器 (第 151 図) 460-1~3 後北 C₂ 式土器

第 461 号ピット (第 82 図)

①76×69 ②21 ③AA ④Ⅱb ⑤後北 C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い) Ⅲ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面はやや彎曲する。

遺物：続 (A1, C₂ または D5), 不1

土器 (第 151 図) 461-1 後北 A 式土器

第 462 号ピット (第 82 図)

①54×48 ②11 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈する。東壁は緩やかな立ち上りを示す。

遺物：なし

第 463 号ピット (第 82 図)

①66×61 ②22 ③AA ④Ⅰb ⑤後北 C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：不整円形，摺鉢状を呈する。西壁は垂直で，東壁はやや緩やかである。

遺物：続 (C₂2), 不2, 不 (底部) 1

第 464 号ピット (第 82 図)

①43×43 ②11 ③AA ④Ⅰb ⑤後北 C₂ ⑥1 (上面)

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。中央上面に石 1 個が存在した。

遺物：続 (C₂2)

第 465 号ピット (第 82 図)

①55×54 ②14 ③AD ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，ボウル状を呈する。

遺物：なし

第 466 号ピット (第 81 図, 図版三十六)

①75 ② ③A ④Ⅱ ⑤ ⑥

層位:

概要: 円形を呈するであろう。東側で第 445 号ピットと重複するが, 新旧関係は不明である。

遺物: なし

第 467 号ピット (第 82 図)

①72 ②8 ③BA ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要: 楕円形, フライパン状を呈し, 北壁に小ピット 1 個を有する。

遺物: なし

第 468 号ピット (第 47 図)

①60 ②13 ③AD ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗褐色土

概要: 円形, ボウル状を示す。ピット内北側に小ピット 1 個を有する。東側で第 231 号ピットと重複している。新旧関係は不明である。

遺物: なし

第 469 号ピット (第 83 図)

①99×66 ②38 ③BA ④Ⅲ c ⑤後北 C₂ ⑥2 (底面)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅳ褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。東壁上方は緩やかな立ち上りを示し, 底面中央より石 2 個が出土した。

遺物: 統 (C₂1) 不 2 不 (底部) 1

第 470 号ピット (第 83 図)

①80×63 ②21 ③AA ④Ⅱ C ⑤不明 ⑥2 (南壁)

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。西壁に比べ東壁は緩やかに立ち上る。

遺物: 晩 2, 統 (C₁1) 不 4 フレーク 1

土器 (第 152 図) 470-1 後北 C₁ 式土器

第 471 号ピット (第 83 図)

①64 ②14 ③AD ④I b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。底面は東側に向って高くなる。南壁に攪乱を受けている。

遺物：なし

第 472 号ピット (第 83 図)

①67×63 ②15 ③AA ④II b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。東壁に比べ西壁は緩やかに立ち上る。西壁に一部攪乱を受けている。

遺物：なし

第 473 号ピット (第 83 図)

①83×81 ②40 ③AA ④III c ⑤晩期 ⑥2(底面)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土(Ⅱより暗い) Ⅳ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面より石2個が出土した。

遺物：晩1, 不1

第 474 号ピット (第 83 図)

①81×76 ②43 ③AA ④II c ⑤後北D ⑥1

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土(Ⅱより明るい)

Ⅵ暗黒褐色土(Ⅴより明るい) Ⅶ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。東壁上方に一部張り出しが見られる。

遺物：続縄2 続(C₂またはD1 D2) 不2

土器(第154図) 474-1 後北D式土器

第 475 号ピット (第 83 図)

①82×80 ②43 ③AC ④III c ⑤後北C₂ ⑥5

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁は垂直の立ち上りを示している。石が5個発見された。

遺物：早1, 続(C₂4, C₂またはD4)

土器(第157図) 475-1, 2 後北C₂式土器

第 476 号ピット (第 83 図 図版十九)

①78×68 ②38 ③A A ④Ⅱ c ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土(地山粒子混入) Ⅲ暗黒褐色土(Ⅰより明るい) Ⅳ黒色土
Ⅴ暗黒褐色土(地山ブロック混入)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。底面全体から土器が出土した。

遺物：続(D一括，C₂一括)

土器(第162図) 476 底径9.2cm，高さ現存10cm，後北D式土器，(第152図) 476-1~3
後北C₂式土器

第 477 号ピット (第 84 図)

①79×74 ②16 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈し，底面は平坦である。

遺物：続(A1，B1，C₂1) フレー71

土器(第152図) 477-1 後北B式土器

第 478 号ピット (第 83 図)

①58×48 ②7 ③A A ④Ⅰ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈し，北壁に小ピットを有する。

遺物：なし

第 479 号ピット (第 84 図)

①87×86 ②37 ③A A ④Ⅲ c ⑤後北C₂ ⑥2(底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土(Ⅰより暗い) Ⅴ暗黒褐色土(Ⅰより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面中央に2個の石が見られた。

遺物：続(C₂2)

第 480 号ピット (第 84 図)

①58×56 ②10 ③A A ④Ⅰ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土

概要：不整円形，フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 481 号ピット (第 84 図)

①78×72 ②22 ③A A ④Ⅱ b ⑤後北D ⑥7 (中層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (地山粒子混入) Ⅲ黒色土

概要：不整円形，フライパン状を呈する。7個の石が第Ⅱ層から発見された。

遺物：晩1，続 (C₂ 2 C₂ または D 4 D 1)

土器 (第 152 図) 481-1, 後北 C₂ 式土器, 481-2 後北 D 式土器

第 482 号ピット (第 84 図)

①63×60 ②25 ③A C ④Ⅰ b ⑤後北D ⑥3 (中層)

層位：暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。壁は垂直である。中層より石3個が発見された。

遺物：続 (後北5)

土器：(第 152 図) 482-1 後北式土器

第 483 号ピット (第 84 図)

①72×67 ②32 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅲ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁は急傾斜の立ち上りを示す。

遺物：晩1，続 (C₁ 1)

土器 (第 152 図) 483-1 タンネットウ L 式土器

第 484 号ピット (第 84 図)

①91×82 ②31 ③A A ④Ⅲ c ⑤後北 C₂ ⑥1 (上層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黄褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土 (地山ブロック混入) Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅵ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。上層より石1個が発見された。

遺物：続 (C₂ 1)

第 485 号ピット (第 84 図)

①90×58 ②14 ③B A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：不整楕円形，フライパン状を呈し，南底面に段差を認めることができる。

遺物：なし

第 486 号ピット (第 84 図)

①98×86 ②37 ③A A ④Ⅲ c ⑤後北 D ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 (地山ブロック混入) Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は南側が若干低くなる。

遺物：統 (C₁ 1, C₂ または D 8, D 2, 北大 1)

土器 (第 152 図) 486-1 後北 C₁ 式土器, 486-2 北大式土器

第 487 号ピット (第 85 図)

①95×86 ②21 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。南側に石 1 個が確認された。

遺物：なし

第 488 号ピット (第 85 図)

①194×101 ②9 ③C A ④Ⅴ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (地山ブロック混入)

概要：隅丸長方形を呈し，フライパン状の断面形を示す。

遺物：なし

第 489 号ピット (第 89 図)

①62×60 ②15 ③A A ④Ⅰ b ⑤後北 C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は東側が若干高くなる。南側に土器が一括して見られた。

遺物：統 (C₁ 1, C₂ 3)

土器 (第 152 図) 489-1~3 後北 C₂ 式土器

第 490 号ピット (第 85 図)

①63×59 ②15 ③A A ④Ⅰ b ⑤後北 C₂ ⑥1 (南壁上)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅳ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は若干彎曲する。南壁に石 1 個が見られた。北壁から土器が一括して発見された。

遺物：統 (C₂ 一括)

土器 (第 162 図) 高さ現存 19 cm, 口径 32 cm, 大型の後北 C₂ 式土器

第 491 号ピット (第 85 図)

①55×48 ②5 ③A ④I ⑤後北D ⑥

層位：I 黒褐色土

概要：不整円形，皿状を呈する。

遺物：続 (D一括)

土器 (第 152 図) 491-1, 2 後北D式土器

第 492 号ピット (第 86 図)

①63×63 ②11 ③AD ④I b ⑤後北C₂ ⑥1 (底面)

層位：I 黒色土 II 暗褐色土

概要：円形，皿状を呈する。中央に石 1 個がある。

遺物：続 (C₂8) 狭長鏃 1, フレーク 1

土器 (第 152 図) 492-1 後北C₂式土器

石器 (第 181 図) 492 狭長鏃の破片

第 493 号ピット (第 85 図)

①77×66 ②27 ③AA ④II c ⑤晩期 ⑥1 (上層)

層位：I 暗黒色土 II 黒色土 III 暗黒褐色土 IV 暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。壁は垂直に近い。上層から石を 1 個発見した。

遺物：晩 1, 続繩 6, 続 (B2, C₂1)

土器 (第 152 図) 493-1, 2 後北B式土器

第 494 号ピット (第 85 図)

①117×93 ②15 ③BA ④IV b ⑤後北C₂ ⑥

層位：I 暗黒褐色土

概要：不整楕円形，フライパン状を呈する。底面西側が若干高くなる。

遺物：続 (C₂4)

土器 (第 152 図) 494-1 後北C₂式土器

第 495 号ピット (第 85 図)

①76 ②21 ③AA ④II b ⑤後北C₂ ⑥

層位：I 黒色土 II 暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。東側は攪乱によって破壊され，全容を明らかにすることは出来ない。

遺物：続 (C₂ 2)

第 496 号ピット (第 86 図, 図版三十六)

①109×103 ②33 ③AA ④IV c ⑤不明 ⑥12 (下層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い) Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅲより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁は垂直に近い。12個の石が下層から発見された。

遺物：晩1，続 (A 1, C₂ または D 3) 不3

土器 (第 152 図) 496-1 縄文時代晩期土器, 496-2 後北A式土器

第 497 号ピット (第 86 図, 図版三十七)

①102 ②41 ③AA ④IV c ⑤不明 ⑥3 (下層)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅲより明るい) Ⅵ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。下層より3個の石が発見された。東側で第517号ピットが本ピットを切って構築されている。

遺物：なし

第 498 号ピット (第 86 図)

①100×88 ②49 ③AA ④IV c ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅲより暗い) Ⅵ暗黒褐色土 (Ⅱより明るい) Ⅶ暗褐色土 (硬) Ⅷ暗褐色土 (軟) Ⅸ黒褐色土 X 褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。壁は垂直に近い。

遺物：晩3，続縄7，フレーク2

土器 (第 152 図) 498-1, 2 続縄文時代土器

第 499 号ピット (第 86 図)

①92×91 ②6 ③AD ④Ⅲ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ褐色土

概要：円形，皿状を呈する。西側壁を切って，性格不明の70×45 cmの浅いピットが見られた。

遺物：なし

第 500 号ピット (第 87 図, 図版三十七)

①91×87 ②21 ③AA ④Ⅲ b ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：晩1，統（恵山1，A1，C₂2，D16）

土器（第152図） 500-1 恵山式土器，500-2 後北C₂式土器，500-3 後北D式土器

第501号ピット（第87図）

①55 ②10 ③AA ④Ⅰa ⑤北大 ⑥2（底面）

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土（地山粒子混入）Ⅳ黒色土

概要：不整円形，フライパン状を呈する。2個の石が底面より出土した。西側で第522号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：統（D3，北大4）石皿1

石器（第184図） 501石皿

第502号ピット（第87図，図版二十）

①91×77 ②28 ③AC ④Ⅲc ⑤北大 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土（地山ブロック混入）Ⅳ暗褐色土（地山ブロック多量に混入）

概要：不整円形，摺鉢状を呈する。壁は一部袋状に掘り込まれ，他は垂直である。底面中央より切り玉が検出された。東側（袋状掘り込み部）より小型の完型土器2個体が発見された。

遺物：統繩3，統（北大2個体）フレーク4，玉54

土器（第162図） 502-1 口径10.2cm，底径6.1cm，高さ7.8cm，口唇部に刻み目を有する注口土器 502-2 口径8.7cm，底径5.2cm，高さ5.8cm，片口注口土器 とともに完形で北大式土器，玉（第187図） 総数54個が出土した。厚さ1.0m/mから4.5m/m，太さ3.2m/mから3m/mである。

第503号ピット（第87図）

①70×70 ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：円形を呈する。

遺物：晩2，統繩3

第504号ピット（第87図）

①71 ②12 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより暗い）

概要：円形，フライパン状を呈する。東側は攪乱を受け，南側は第505号ピットと重複し，本ピ

ットが新しい。

遺物：続（B1）

土器（第152図） 504-1 後北B式土器

第505号ピット（第87図）

①116 ②5 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：北側で第504号ピット，南側で第506号ピット，東側は攪乱を受けているためプランは明らかにできない。新旧関係は，第504号ピットより古く，第506号ピットより新しい。

遺物：続（C₁1）

第506号ピット（第133図）

①133×77 ②108 ③ ④ ⑤TA ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ黒色土 Ⅴ暗黒褐色土 Ⅵ暗黒褐色土 Ⅶ黒色土 Ⅷ黄褐色粘質土 Ⅸ黒褐色土（一部暗褐色土） X黄褐色粘質土 XI褐色粘質土 XII黄褐色土（Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅶの黒色土は順に明るくなる）

概要：平面形は長楕円形を呈し，短軸断面形は深い摺鉢状に近い。北側上方で第505号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。

遺物：なし

第507号ピット（第87図）

①95×68 ②11 ③BA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土

概要：楕円形，フライパン状を呈する。北側底面が若干高くなる。

遺物：なし

第508号ピット（第87図，図版三十七）

①82×81 ②24 ③AA ④Ⅲb ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒色土 Ⅵ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面は西側がやや高くなる。

遺物：続縄6，続（C₁1，C₂2） 不1

土器（第152図） 508-1 後北C₂式土器

第509号ピット（第88図）

①83×82 ②36 ③AB ④Ⅲc ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒色土 Ⅴ暗黒褐色土（Ⅰより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁上方が緩やかに立ち上る。底面は平坦である。

遺物：晩3，続（C₂1） 不3

土器（第152図） 509-1 縄文時代晩期土器，509-2 後北C₂式土器

第510号ピット（第88図，図版三十七）

①89×76 ②12 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥10（底面）

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土

概要：円形，フライパン状を呈する。底面に6個の石が見られた。

遺物：石鏃1

石器（第181図） 510 無茎石鏃

第511号ピット（第88図）

①73×68 ②14 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土（Ⅲより暗い） Ⅴ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面西側が若干高くなる。

遺物：続縄2

第512号ピット（第88図）

①66×66 ②16 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。ピットの外北西に小ピットが存在するが，本ピットとの関係は不明である。

遺物：なし

第513号ピット（第88図）

①85×82 ②25 ③AA ④Ⅲb ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより暗い） Ⅳ暗黒色土 Ⅴ黒褐色土 Ⅵ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：続縄1，続（C₂2，C₂またはD8，D4）

土器（第152図） 513-1 続縄文時代土器，513-2 後北C₂式土器

第514号ピット (第88図, 図版三十八)

①66×65 ②9 ③AA ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥1

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要: 不整円形, フライパン状を呈する。東壁に小ピットが見られる。

遺物: なし

第515号ピット (第88図)

①78×66 ②5 ③AA ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ黒色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。西壁は攪乱を受け不明である。

遺物: なし

第516号ピット (第88図, 図版三十八)

①100×97 ②55 ③AB ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状で, 壁上方がゆるやかに開く。底面は平坦である。

遺物: なし

第517号ピット (第86図, 図版三十七)

①79×79 ②27 ③AA ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥2 (中層, 底面)

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅱより明るい)
Ⅴ黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。東壁から石2個が出土した。西側で第497号ピットと重複し, 本ピットが新しい。

遺物: 晩1, 続(D1) 不1, すり石破片1, フレーク1

第518号ピット (第88図)

①66×57 ②9 ③AD ④Ⅰ a ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要: 不整円形, 皿状を呈し, 北壁に小ピット1個を有する。

遺物: 不1

第519号ピット (第89図, 図版三十八)

①68×63 ②36 ③AA ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ焼土 Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土
概要：円形，摺鉢状を呈する。上面に37×20 cmの焼土が見られる。
遺物：なし

第520号ピット (第132図)

①373×67 ②128 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒褐色土 (Ⅱより少し明るい) Ⅴ暗褐色土 (火山灰質) Ⅵ黒褐色土 (Ⅳより明るい)

概要：平面は長楕円形を呈する。壁は垂直に近い立ち上りを示す。

遺物：なし

第521号ピット (第89図)

①58 ②5 ③AD ④Ⅰa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：円形，皿状を呈する。東側で第567号ピットと重複し，全容は不明である。本ピットが古い。

遺物：フレーク4，搔器1

石器 (第181図) 521 円形搔器

第522号ピット (第87図)

①49 ②4 ③AD ④Ⅰa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土

概要：不整円形，皿状を呈する。西側に小ピット1個を有する。西側で第501号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第523号ピット (第90図，図版二十一)

①87 ②17 ③BD ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土

概要：不整楕円形，ボウル状を呈する。西側で第632号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：搔器1

石器 (第181図) 523 円形搔器

第524号ピット (第89図)

①162×152 ②58 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅳ黒褐色土（Ⅱより暗い） Ⅴ黒褐色土 Ⅵ暗褐色土（Ⅰより暗い） Ⅶ暗褐色土（Ⅵより暗い） Ⅷ暗褐色土（Ⅰより明るい） Ⅸ褐色土（Ⅰより明るい） X黒褐色土（木炭，焼土を含む） 全体に地山粒子を含む。

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面に焼土が見られた。底面から10数本の炭化木材が南—北を向いて並んだ状態で発見された。

遺物：晩1 続縄21 続（恵山1，A3，B2，C₁3，C₂1） 搔器1 フレーク2
土器（第152図） 524-1 恵山式土器 524-4~6 後北A式土器 524-2 後北C₁式土器
石器（第181図） 524 円形搔器

第525号ピット（第89図）

①72×68 ②15 ③AA ④Ⅱb ⑤後北C₂ ⑥

層位：黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。東側で第535号ピットと接する。

遺物：続（C₂またはD3）

第526号ピット（第89図）

①90×87 ②10 ③AD ④Ⅲa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土

概要：不整円形，皿状を呈する。

遺物：なし

第527号ピット（第90図）

①67×65 ②12 ③AA ④Ⅱb ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。底面東側が若干高くなる。

遺物：続（C₂1）

第528号ピット（第90図）

①80×60 ②56 ③BA ④Ⅱd ⑤後北C₂ ⑥7（下層）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより暗い）

概要：円形，摺鉢状を呈する。下層から石7個が出土した。中層から土器片が出土した。

遺物：続（B1，C₂一括，C₂1，D9） フレーク4

土器（第162図） 528 口径27.8cm，高さ現存約20cm，後北C₂式土器（第153図） 528-1
後北B式土器 528-2 後北C₂式土器

第 529 号ピット (第 90 図)

①67×63 ②7 ③A D ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：円形，皿状を呈し，南東壁に小ピット 1 個を配する。

遺物：なし

第 530 号ピット (第 90 図 図版三十八)

①80×75 ②15 ③A A ④Ⅱ b ⑤北大 ⑥3

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，南壁に 2 個，中央に 1 個の小ピットが見られる。

遺物：統 (北大 3) 削器 1 フレーク 1

石器 (第 181 図) 530 縦形削器

第 531 号ピット (第 132 図)

①292×57 ②108 ③ ④ ⑤T B ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土 (火山灰) Ⅵ暗黒褐色土
Ⅶ褐色土 Ⅷ暗黒褐色土

概要：平面は長楕円形を呈する。壁の立ち上りは垂直である。

遺物：なし

第 532 号ピット (第 90 図)

①70×60 ②20 ③A A ④Ⅱ b ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ褐色土

概要：不整円形，摺鉢状を呈し，底面東側が若干高くなる。

遺物：統 (C₂ 1) 礫器 1

石器 (第 図) 532 礫器

第 533 号ピット (第 90 図 図版三十九)

①74 ②8 ③A D ④Ⅱ a ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：円形，皿状を呈する。北壁に楕円形の小ピット 1 個を有する。南側で第 534 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：統 (D 1)

第 534 号ピット (第 90 図 図版三十九)

①112 ②24 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位: I 黒色土 II 暗黒色土 III 暗黒褐色土 IV 黒褐色土 V 褐色土 VI 暗黒色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 壁は緩やかに立ち上る。北側で第 533 号ピットと重複し, 東側は攪乱を受けている。底面南東より石 1 個が出土している。新旧関係は本ピットが新しい。

遺物: 続縄 9 続 (C₂1)

第 535 号ピット (第 89 図)

①82×57 ②6 ③B A ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土

概要: 不整楕円形, 皿状を呈する。西壁と中央に 1 個ずつ小ピットを配し, 西側で第 525 号ピットと接する。

遺物: なし

第 536 号ピット (第 90 図)

①62 ②10 ③A D ④Ⅰ a ⑤不明 ⑥

層位: I 暗褐色土

概要: 不整円形, 皿状を呈する。西側で第 630 号ピットと接する。

遺物: なし

第 537 号ピット (第 91 図)

①73 ②12 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒褐色土 II 暗褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈する。西側で第 538 号, 第 540 号ピットと重複し, 両者より古い。

遺物: 第 537 号ピット～第 540 号ピット一括, 続 (A 1, C₂2, C₂または D 4, D 3, 北大 1) 不 1, フレーク 2

第 538 号ピット (第 91 図)

①106 ② ③A ④Ⅳ ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒褐色土 II 暗黒色土 III 黒色土 IV 暗黒褐色土 (I より明るい) V 暗黒褐色土 (IV より暗い)

概要: 円形を呈する。南側で第 537 号, 第 539 号, 第 540 号ピットと重複し, 三者よりも新しく構築されている。

遺物：第 537 号ピット参照

第 539 号ピット (第 91 図)

①76 ②11 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い)

概要：円形，フライパン状を呈し，東壁にピット 1 個を有する。西側より大型土器片が出土している。東側で第 538 号，第 540 号ピットと重複し，両者より古い。

遺物：続 (C₂一括，D 一括，D 6)，第 537 号ピット参照

土器 (第 163 図) 539-1 口径 30cm，高さ現存約 17cm，後北C₂式土器 539-2 口径 29.8cm，高さ現存 18cm，後北D式土器

第 540 号ピット (第 91 図)

① ②17 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。東側で第 537 号ピット，西側で第 539 号ピット，北側で第 538 号ピットと重複する。第 537 号，第 539 号ピットより新しく，第 538 号ピットとの関係は不明である。

遺物：続 (C₂1)，不 2，不 (底部 1)，第 537 号ピット参照

土器 (第 153 図) 540-1 後北C₂式土器

第 541 号ピット (第 92 図)

①183×180 ②39 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰよりやや明るい) Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ黒褐色土 (Ⅲより暗い) Ⅵ褐色土 (硬) Ⅶ褐色土 (軟) Ⅷ焼土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面に 3 ケ所の焼土と炭化木材が多量に発見されている。多くのピットと異なり，かなり大型である。

遺物：石斧 1

石器 (第 181 図) 541 定角式磨製石斧

第 542 号ピット (第 91 図)

①82×73 ②11 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。南東壁に小ピット 1 個を有する。

遺物：搔器未成品 1

石器 (第 181 図) 542 搔器未成品

第 543 号ピット (第 91 図)

①67×56 ②12 ③A A ④I b ⑤不明 ⑥

層位：I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 544 号ピット (第 91 図)

①89×87 ②33 ③A B ④III c ⑤後北C₂ ⑥

層位：I 暗黒褐色土 II 暗褐色土 III 暗黒褐色土 (I より暗い) IV 暗黒褐色土 (III より明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁上方がゆるやかに立ち上る。底面は平坦である。

遺物：早 1，続 (A 1，C₂ 1，C₂ または D 5)，不 6，フレーク 1

土器 (第 153 図) 544-1 東鉤路 III 式土器 544-2 後北C₂ 式土器

第 545 号ピット (第 92 図)

① ②24 ③ ④ ⑤不明 ⑥

層位：I 暗黒褐色土 II 暗褐色土 III 褐色土 IV 暗褐色土 (II より明るい) V 暗黒褐色土

概要：不整形円形，摺鉢状を呈する。西壁に小ピット 1 個を有し，北側で第 546 号ピットと重複する。新旧関係は不明である。

遺物：続 (B 1)

土器 (第 153 図) 545-1 後北 B 式土器

第 546 号ピット (第 92 図)

①68 ②32 ③A A ④II c ⑤不明 ⑥

層位：I 暗黒色土 II 暗黒褐色土 III 黒色土 IV 暗黒褐色土 (II より明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈し，東側底面が若干高くなる。南側で第 545 号ピットと重複するが，新旧関係は不明である。

遺物：なし

第 547 号ピット (第 91 図)

①87×85 ②35 ③A A ④III b ⑤後北C₂ ⑥

層位：I 暗褐色土 II 暗褐色土 (I より暗い) III 暗黒褐色土 (II より暗い) IV 暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が若干彎曲している。

遺物：晩 1，中 1，続 (A 1，C₁ 10，C₂ 6，D 1)，フレーク 1

土器 (第 153 図) 547-1 タンネットウ L 式土器 547-2 後北 A 式土器 547-3~5 後北C₁ 式土器

第 548 号ピット (第 93 図)

①81 ②33 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅳ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，北壁に張り出しを有する。西側に小ピット 1 個が見られる。南側で第 549 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：晩 1，統（恵山 1）

土器（第 153 図） 548-1，2 恵山式土器

第 549 号ピット (第 93 図)

①135 ②13 ③A A ④V b ⑤後北A ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅲ黒褐色土 Ⅳ褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈し，東壁に小ピット 1 個を有する。北側で第 489 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：統縄 1，削器 1

土器（第 153 図） 549-1 後北A式土器

石器（第 181 図） 549 縦形削器（焼けている）

第 550 号ピット (第 93 図)

①90×86 ②56 ③A A ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土（Ⅳより暗い） Ⅵ暗褐色土 Ⅶ褐色土

概要：円形：摺鉢状を呈し，底面が若干彎曲する。

遺物：晩 4，統（C₂3），フレーク 1

土器（第 153 図） 550-1

第 551 号ピット (第 93 図)

①136×129 ②70 ③A A ④V d ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗褐色土（Ⅳより明るい） Ⅵ暗黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅶ暗黒色土 Ⅷ焼土 Ⅸ暗褐色土 X黒色土（硬） XI暗黒褐色土（Ⅵより明るい） XII黒色土（軟） XIII褐色土（火山灰質） XIV暗褐色土（Ⅴより暗い） XV淡赤色火山灰 XVI暗黒褐色土（Ⅴより暗い） XVII黄褐色粘質土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。

遺物：早 1，晩 7，統（C₂1），フレーク 4

土器 (第 153 図) 551-1~2 タンネットウ L 式土器 551-5 後北 C₂ 式土器

第 552 号ピット (第 91 図, 図版三十九)

①70×65 ②18 ③AD ④I a ⑤不明 ⑥4 (中層)

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 暗褐色土

概要: 円形, ボウル状を呈する。中層から石 4 個が発見された。

遺物: なし

第 553 号ピット (第 94 図)

①109×108 ②22 ③AA ④IV b ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒褐色土 II 黒色土 III 暗黒褐色土 (I より明るい) IV 暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 東側にピット状の張り出しを有する。北側で第 577 号ピットと重複し, 本ピットが新しい。

遺物: なし

第 554 号ピット (第 95 図)

①97 ②25 ③AA ④III b ⑤後北 C₂ ⑥

層位: I 暗黒褐色土 II 暗黒褐色土 (I より明るい) III 暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面はほぼ平坦である。西側で第 555 号ピットと重複し, 新旧は不明である。

遺物: 晩 1, 続 (A 2, C₂ または D 2), 不 1, フレーク 1

土器 (第 153 図) 554-1 縄文時代晩期土器

第 555 号ピット (第 95 図)

①85 ②21 ③A ④III ⑤不明 ⑥

概要: 円形を呈する。東側で第 554 号ピット, 西側で第 556 号ピットと重複し, 両者より古い。

遺物: なし

第 556 号ピット (第 95 図)

①90 ②49 ③AA ④III c ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 暗褐色土 IV 暗黒褐色土 (II より暗い)

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。東側で第 555 号ピットと重複し, 本ピットが新しい。

遺物: 続 (A 1)

土器 (第 153 図) 556-1 後北 A 式土器

第 557 号ピット (第 95 図)

①123×106 ②17 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，南側に小ピット 1 個を有する。

遺物：なし

第 558 号ピット (第 95 図)

①87×83 ②39 ③A A ④Ⅲ c ⑤後北D ⑥7 (底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅲより明るい)
Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅳより明るい) Ⅵ暗黒褐色土 (Ⅴより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面に 7 個の石を配する。

遺物：晩 5 続 (D 6)，不 7

土器 (第 153 図) 558-1, 2 後北D式土器

第 559 号ピット (第 95 図)

① ②19 ③ ④ ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。東側は攪乱によって半壊している。

遺物：晩 5，続縄 1，不 2

第 560 号ピット (第 95 図)

① ②74 ③A A ④Ⅳ d ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黄褐色粘質土 Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅱより明るい)
Ⅵ黄褐色火山灰質土

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁は下方に比べて上方が開く。東側は攪乱により半壊している。

遺物：なし

第 561 号ピット (第 96 図)

①72×66 ②20 ③A A ④Ⅱ b ⑤後北C₂ ⑥1 (中層)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。北側中層より石 1 個が出土している。

遺物：続 (C₂1)

第 562 号ピット (第 96 図)

①116×84 ②43 ③BA ④Ⅳc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅱより明るい) Ⅵ
黄褐色土 Ⅶ暗褐色土

概要：不整円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：晩 1，続 (A 4, C₂)，不 1

土器 (第 153 図) 562-1 後北 A 式土器

第 563 号ピット (第 96 図)

①108×100 ②53 ③AA ④Ⅳd ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ焼土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土 Ⅵ暗褐色土 (Ⅳより暗い)
Ⅶ暗褐色土 (Ⅵより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁は下方に比べ上方がやや開く。掘り込み面に 2ヶ所の焼土が確認された。底面より石 1 個が出土した。

遺物：続縄 3，続 (後北 2，北大 1)，フレーク 2

土器 (第 153 図) 563-1, 2 後北式土器

第 564 号ピット (第 96 図)

①58×57 ②11 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ炭化物混入 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，底面西側が若干高くなる。

遺物：なし

第 565 号ピット (第 96 図)

①64×60 ②11 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい，木炭を含む) Ⅲ暗褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 566 号ピット (第 94 図)

①84×80 ②6 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，皿状を呈し，東側半分は壁の立ち上りを明確に出来なかった。

遺物：なし

第 567 号ピット (第 89 図)

①68 ②12 ③AA ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥1 (中層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。西側中層より石 1 個が出土した。西側で第 521 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：続 (A 1)，不 1，フレーク 1

第 568 号ピット (第 96 図)

①59×52 ②12 ③AA ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈し，南壁に小ピット 1 個を有する。

遺物：なし

第 569 号ピット (第 94 図)

①79×66 ②7 ③AA ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，底面は平坦である。

遺物：なし

第 570 号ピット (第 96 図)

①70 ②12 ③AA ④Ⅱ b ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，中央部より土器が一括して発見された。東側で第 571 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：続縄一括

土器 (第 162 図) 570 高さ現存 14.7cm，底径 11cm，続縄文時代土器

第 571 号ピット (第 96 図)

①112 ②31 ③BA ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い) Ⅳ黒色土

概要：楕円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。西側で第 570 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第572号ピット (第94図)

①63 ②21 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土（木炭を含む） Ⅱ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。南側で第573号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第573号ピット (第94図)

①83 ②26 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は若干彎曲する。北側で第572号ピット，西側で第574号ピットと重複し，両者よりも新しく構築されている。

遺物：なし

第574号ピット (第94図)

①54 ②8 ③AA ④Ⅰa ⑤不明 ⑥1（南壁上）

層位：Ⅰ黒色土

概要：円形，フライパン状を呈する。東側で第573号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第575号ピット (第97図)

①66 ②19 ③AA ④Ⅱb ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。南側で第576号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：統（A1，D3）

土器（第153図） 575-1 後北A式土器 575-2 後北D式土器

第576号ピット (第97図)

①83 ②11 ③BA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥1（北壁上）

層位：Ⅰ黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，南側に小ピット2個を有する。北壁上に石1個が見られた。北側で第575号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：晩1，統縄1

第 577 号ピット (第 94 図)

①88 ②23 ③AA ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅳ黒色土

概要：不整形円形，摺鉢状を呈する。南側で第 553 号ピット，北側で第 578 号ピットと重複し，両者より古い。

遺物：なし

第 578 号ピット (第 97 図)

①262×233 ②58 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより暗い） Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土 Ⅵ暗褐色土（Ⅴより暗い） Ⅶ暗褐色土（Ⅴより明るい） Ⅷ黒褐色土（Ⅳより明るい） Ⅸ暗黒褐色土（Ⅰより明るい） X暗褐色土（Ⅶより暗い） XI暗黒褐色土（焼土木炭を含む） XII暗褐色土（XIIより明るい） XIII褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面西側に焼土，炭化木材が十数点確認されている。西側で第 577 号ピットと重複し，本ピットが新しい。多くのピットに比べ大型である。

遺物：早 1，晩 1，続（C₁1，C₂1，D 3），不 8，不（底部）1，フレーク 3

土器（第 153 図） 578-1 東釧路Ⅲ式土器 578-2 タンネットウ L 式土器 578-3 後北 C₂ 式土器

第 579 号ピット (第 97 図)

①108×85 ②11 ③BA ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土

概要：楕円形，フライパン状を呈し，底面はほぼ平坦である。

遺物：中 4，晩 3，続（A 1，B 1，C₁1，C₂2），不 8，石匙 1，フレーク 2

土器（第 153 図） 579-1 伊達山式土器 579-2 後北 C₁ 式土器 579-3，4 後北 C₂ 式土器

石器（第 181 図） 579 縦形石匙

第 580 号ピット (第 98 図)

①63 ②18 ③AA ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ木炭 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土（Ⅰより明るい） Ⅴ暗黒褐色土（Ⅲより暗い） Ⅵ暗黒褐色土（Ⅲより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。南側で第 581 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：続縄 3，ナイフ 1，フレーク 1

石器（第 181 図） 580 石槍ないし両面加工のナイフ

第 581 号ピット (第 98 図)

①44 ②13 ③AD ④I b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，ボウル状の小ピットである。北側で第 580 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第 582 号ピット (第 98 図)

① ②27 ③AA ④IV c ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，南側は攪乱を受け半壊し，全容は不明である。

遺物：晩 5，続 (C₂3)，不 2

第 583 号ピット (第 98 図)

①97×91 ②39 ③AA ④Ⅲ c ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い) Ⅳ褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が若干彎曲する。

遺物：晩 9，続 (C₂1)，不 2

土器 (第 153 図) 583-1～3 タンネットウ L 式土器

第 584 号ピット (第 98 図)

①88×80 ②40 ③AA ④Ⅲ c ⑤晩期 ⑥ 5

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより暗い) Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅲより軟かい)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。

遺物：早 1，晩 8，続 (A 1，C₁1，D 1)，不 8，フレーク 3

土器 (第 153 図) 584-1 東釧路Ⅲ式土器

第 585 号ピット (第 98 図)

①77×67 ②17 ③AA ④Ⅱ b ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土 (Ⅱより暗い)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。東壁に小ピット 1 個を有する。

遺物：晩 5，続 (A 1，C₁1)，不 14，フレーク 1

土器 (第 153 図) 585-1 タンネットウ L 式土器 585-2 後北 C₁ 式土器

第 586 号ピット (第 132 図)

①292 ②101 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土（Ⅱより暗い） Ⅳ黒褐色土

概要：平面は長楕円形を呈する。壁の立ち上りは垂直である。

遺物：なし

第 587 号ピット (第 98 図)

①65 ② ③ ④ ⑤ ⑥1 (下層)

層位：

概要：円形のプランである。東側で第 588 号ピットと重複し、本ピットが古い。

遺物：晩10, 統 (C₂1, D1)

土器 (第 153 図) 587-1 タンネットウL式土器 587・588-1~6 タンネットウL式土器 587・588-7 後北C₂式土器

第 588 号ピット (第 98 図)

①89 ②24 ③AA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 (攪乱) Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗黒色土

概要：円形、摺鉢状を呈する。東側は攪乱を受け、西側は第 587 号ピットと重複する。本ピットが新しい。

遺物：第 587 号ピット参照

第 589 号ピット (第 98 図)

① ②39 ③AA ④Ⅳc ⑤晩期 ⑥6 (下層)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅱより軟かい)

概要：円形、摺鉢状を呈する。南側は攪乱を受け半壊し、全容は不明である。石 6 個が下層から発見された。

遺物：晩2, 統 (C₂1), 不5

土器 (第 154 図) 589-1, 2 縄文時代晩期土器

第 590 号ピット (第 99 図)

① ②46 ③AA ④Ⅳc ⑤不明 ⑥4 (中層, 底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈する。中央から 4 個の石が発見された。南側は攪乱によって半壊し、全容は明らかでない。

遺物：晩2，統（B1，C₂1，D1），不5

土器（第154図） 590-1 タンネットウL式土器 590-2 後北B式土器

第591号ピット（第99図）

①92×88 ②30 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥3（底面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土（地山ブロック混入） Ⅲ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面は平坦である。底面中央から石3個を発見した。

遺物：なし

第592号ピット（第99図）

①67 ②10 ③BA ④Ⅱb ⑤後北D ⑥2（底面）

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：不整楕円形，皿状を呈し，北壁は明らかでない。石2個が出土した。

遺物：晩3，統繩1，統（C₂またはD4，D3，北大2），不7

土器（第154図） 592-1 タンネットウL式土器 592-2 統繩文時代土器

第593号ピット（第99図）

①82×75 ②6 ③AA ④Ⅲa ⑤不明 ⑥1（底面）

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，南壁に攪乱を受けている。

遺物：統（BまたはC₁1），フレーク1

第594号ピット（第99図）

①88×77 ②8 ③AD ④Ⅲa ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：不整円形，皿状を呈する。

遺物：なし

第595号ピット（第99図）

①114×91 ②54 ③AB ④Ⅲd ⑤晩期 ⑥18（底面）

層位：Ⅰ褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅵ黒褐色土（Ⅴより軟かい）

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁上方が若干広がる。底面全体に18個の石が見られた。

遺物：晩11，統（恵山2，B2，C₁3），不16，フレーク1

土器（第154図） 595-3 縄文時代晩期土器 595-1，2 恵山式土器 595-4，5 後北B式土器

第 596 号ピット (第 99 図)

①76×71 ②18 ③AA ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥2 (上層, 下層)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面は平坦である。

遺物: フレーク 1

第 597 号ピット (第 99 図)

①62×60 ②28 ③AA ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥5 (中層, 下層)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 (Ⅰより明るい) Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅱより明るい)

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面は平坦である。5 個の石を有する。

遺物: なし

第 598 号ピット (第 100 図)

①63×60 ②14 ③AA ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈し, 中央に小ピット 1 個を有する。

遺物: なし

第 599 号ピット (第 100 図)

①98×92 ②44 ③AA ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥14 (底面)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面は平坦である。底面に 14 個の石を有する。

遺物: なし

第 600 号ピット (第 100 図)

①77×77 ②32 ③AC ④Ⅱ c ⑤後北D ⑥6 (底面)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ暗褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅴ暗褐色土 (Ⅳより暗い)

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面に 6 個の石を有する。

遺物: 晩 1, 続 (D15), 敲打器 1, フレーク 1

石器 (第 185 図) 600 敲打器

第 601 号ピット (第 100 図)

①77×77 ②16 ③AA ④Ⅱ b ⑤後北D ⑥

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，南側に小ピット1個が見られる。

遺物：続（D一括）

第602号ピット（第100図）

①157×91 ②8 ③ ④ ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：隅丸長方形を呈する。北壁に攪乱を受けているため全容を明らかにすることが出来なかった。

遺物：続（B1），不1，フレーク1

土器（第154図） 602-1 後北B式土器

第603号ピット（第100図）

①58 ②18 ③AC ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈するであろう。北側で第604号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第604号ピット（第100図）

①82 ②38 ③AD ④Ⅲc ⑤後北B ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒色土 Ⅴ暗黒褐色土（Ⅲより暗い）

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が湾曲する。南側で第603号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：続（B1）

土器（第154図） 604-1 後北B式土器

第605号ピット（第100図）

①50×43 ②31 ③AD ④Ⅰc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，ボウル状を呈し，東壁が急傾斜である。

遺物：なし

第606号ピット（第101図）

①60×50 ②10 ③BA ④Ⅰa ⑤不明 ⑥2（上面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：楕円形，フライパン状を呈し，底面はほぼ平坦である。上面に2個の石を有する。

遺物：なし

第 607 号ピット (第 101 図, 図版三十九)

①70 ②13 ③AD ④Ⅱb ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：不整円形，ボウル状を呈する。北側で第 608 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：続 (C₂3)，フレーク 4

土器 (第 154 図) 607・608-1 後北C₂式土器

第 608 号ピット (第 101 図, 図版三十九)

①70 ②26 ③AA ④Ⅱc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ褐色土 (第 607 号ピットの壁を構築したものか)

遺物：第 607 号ピット参照

第 609 号ピット (第 101 図)

①58 ②17 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈するであろう。東側で第 617 号ピットと重複し，全容は明らかでない。

本ピットが古い。

遺物：なし

第 610 号ピット (第 101 図)

①75×68 ②23 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ茶褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。

遺物：続 (恵山 1，A 2，C₁1，C₂2)，不 1

土器 (第 154 図) 610-1，2 後北A式土器 610-3 後北C₁式土器

第 611 号ピット (第 101 図)

①72×68 ②30 ③AC ④Ⅱc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土 (Ⅱより明るい) Ⅴ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：続縄 2，フレーク 1

第 612 号ピット (第 102 図)

①118×115 ②28 ③A D ④Ⅳ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ火山灰 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が若干彎曲する。

遺物：続繩 1，フレーク 4

第 613 号ピット (第 102 図，図版二十一)

①113×100 ②83 ③A A ④Ⅳ d ⑤後北C₁ ⑥30 (底面)

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土（Ⅰより明るい） Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土（Ⅲより明るい） Ⅵ褐色土 Ⅶ褐色土（Ⅵより明るい） Ⅷ褐色土（Ⅶより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。底面全体に 30 個の石が見られた。

遺物：晩 1，続 (C₁ 2)，不 2

土器 (第 154 図) 613-1, 2 後北C₁式土器

第 614 号ピット (第 102 図，図版三十九)

①104×98 ②75 ③A A ④Ⅳ d ⑤不明 ⑥12 (底面)

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより暗い） Ⅳ黒色土 Ⅴ黒褐色土 Ⅵ黒色土 Ⅶ暗褐色土 Ⅷ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，西壁が灣曲して立ち上る。底面に 12 個の石を有する。

遺物：晩 1，続繩 1

第 615 号ピット (第 101 図，図版四十)

①88×84 ②39 ③A B ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより暗い） Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅳ暗黒褐色土（Ⅲより明るい） Ⅴ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。壁上方がやや広がる。東側で第 616 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：続繩 3

第 616 号ピット (第 101 図)

①85×80 ②38 ③A A ④Ⅲ c ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅴ黒色土 Ⅵ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。底面中央より一括して土器が出土した。西側で

第 615 号ピットと重複し、本ピットが古い。

遺物：晩 1，続縄 1，続（後北 1，C₁ 1，C₂ 一括，D 一括），フレーク 4

土器（第 162 図） 616 口径 18.2cm，高さ現存 16cm，底部を欠く，後北 D 式土器（第 154 図）

616-2 タンネットウ L 式土器 616-1 恵山式土器 616-3 後北 C₁ 式土器 616-4 後北式土器

第 617 号ピット（第 101 図）

①74 ②28 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。西側で第 609 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第 618 号ピット（第 102 図）

①79×73 ②31 ③A A ④Ⅱ c ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土（Ⅱより明るい） Ⅳ茶褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が平坦である。

遺物：晩 8，フレーク 2

土器（第 154 図） 618-1～5 タンネットウ L 式土器

第 619 号ピット（第 102 図）

①95×83 ②14 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土（粒子が荒い） Ⅱ黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 620 号ピット（第 103 図）

①75×71 ②38 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土（Ⅱより暗い） Ⅴ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：フレーク 1

第 621 号ピット（第 103 図）

①78×71 ②37 ③ ④ ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ攪乱 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土（Ⅲより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈する。

遺物：晩1

第622号ピット (第103図)

①108×98 ②14 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，底面は若干彎曲する。

遺物：早2，晩5，続縄2，フレーク1

土器 (第154図) 622-1東劔路Ⅲ式土器

第623号ピット (第103図)

①108×106 ②12 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗褐色土 (Ⅰより暗い)

概要：不整形円形，フライパン状を呈し，東側底面が若干窪む。

遺物：なし

第624号ピット (第103図)

①78×67 ②27 ③A A ④Ⅱ c ⑤恵山 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が若干彎曲する。

遺物：晩1，続 (恵山11 C₂3) 不8，フレーク1

土器 (第154図) 624-1～4恵山式土器

第625号ピット (第103図)

①62×53 ②27 ③A D ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥1 (上層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。北側上層から石1個が出土した。

遺物：石皿破片1

第626号ピット (第103図)

①73 ②35 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土 (Ⅱより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が若干彎曲する。東側で第629号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：晩4

土器 (第154図) 626～628-1, 2タンネットウシ式土器

第 627 号ピット (第103図)

①66 ②22 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，東側で第628号ピット，西側で第629号ピットと重複し，両者より新しい。

遺物：第629号ピット参照

第 628 号ピット (第103図)

①75 ②12 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈し，西側で第627号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：第626号ピット参照

第 629 号ピット (第103図)

①86 ②8 ③ ④ ⑤不明 ⑥

層位：

概要：円形，フライパン状を呈する。東側で第627号ピット，西側で第626号ピットと重複し，その全容は明らかでない。両者より古い。

遺物：なし

第 630 号ピット (第90図)

①74 ②15 ③A D ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土

概要：不整円形，ボウル状を呈する。東側で第536号ピットと接する。

遺物：なし

第 631 号ピット (第104図，図版四十)

①108×100 ②35 ③A A ④Ⅳ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅳ暗黒褐色土（Ⅰより暗い）

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：なし

第 632 号ピット (第90図)

①83 ②16 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，東側で第523号ピットと重複する。本ピットが古く構築されている。

遺物：なし

第 633 号ピット (第104図 図版二十二)

①93×90 ②40 ③A A ④Ⅲ c ⑤後北C₂ ⑥25 (底面)

層位：Ⅰ褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，東壁が袋状に掘り込まれている。底面は平坦である。底面全体に25個の石があった。

遺物：早3，晩8，続(A 2，B 1，C₂ 1) フレーク 3

土器 (第154図) 633-2後北B式土器 633-1後北C₂式土器

第 634 号ピット (第104図 図版四十)

①125×123 ②83 ③A A ④Ⅳ d ⑤不明 ⑥7 (底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅵ暗黒褐色土 (Ⅱより明るい) Ⅶ褐色土 Ⅷ黒褐色土 (Ⅳより暗い) Ⅸ暗褐色土 X褐色土 (火山灰)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。底面より7個の石が出土している。

遺物：なし

第 635 号ピット (第104図 図版四十)

①111×108 ②18 ③A A ④Ⅳ b ⑤後北A ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：不整形円形，フライパン状を呈し，北側に一部張り出しを有する。

遺物：晩1，続(A 2) 不10

土器 (第154図) 635-1，2後北A式土器

第 636 号ピット (第105図)

①125×110 ②11 ③A A ④Ⅳ a ⑤後北B ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：不整形円形，皿状を呈する。

遺物：続(B 2) 不3 フレーク 1

土器 (第154図) 636-1後北B式土器

第 637 号ピット (第105図)

①97×85 ②24 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅳ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁の立ち上りは緩やかである。

遺物：続（A 1 C₂ 4） 不1

土器（第 154 図） 637-1 後北A式土器 637-2 後北C₂式土器

第 638 号ピット (第 105 図)

①85×75 ②32 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は東側が高くなる。西壁に比べ，東壁は緩やかに立ち上る。

遺物：早1， 晩1， 続（恵山1） 不3

土器（第 154 図） 638-1 縄文時代晩期土器

第 639 号ピット (第 105 図)

①98 ②11 ③A A ④Ⅲ b ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：不整形円形，フライパン状を呈する。南壁に攪乱を受けている。北側で第 640 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：早5 晩6 続（恵山1） フレーク1

土器（第 154 図） 639・640-1， 639-2 東釧路Ⅲ式土器 639-1 恵山式土器

第 640 号ピット (第 105 図)

①77 ②24 ③A D ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。南側で第 639 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：第 639 号ピット参照

第 641 号ピット (第 105 図)

①122 ②15 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ黒褐色土（粘土粒を含む） Ⅲ暗褐色土

概要：不整形円形，フライパン状を呈する。北西壁に一部攪乱を受けている。

遺物：晩1 続（B 1） 不1

土器（第 154 図） 641-1 タンネットウL式土器

第 642 号ピット (第 105 図)

①80×49 ②12 ③BD ④Ⅱb ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ攪乱 Ⅱ黒色土

概要：楕円形，皿状を呈する。墓壙か否かは不明である。

遺物：早3，晩5，続縄2，擦石1

土器 (第 154 図) 642-1, 2 東釧路Ⅲ式土器 642-3, 4 縄文時代晩期土器

石器 (第 185 図) 642 擦石

第 643 号ピット (第 105 図)

①67×63 ②27 ③AA ④Ⅰc ⑤後北D ⑥2 (底面)

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。底面より石2個が出土した。南側に小ピット1個が見られる。

遺物：続 (C₂またはDの底部1) フレーク1

第 644 号ピット (第 106 図)

①115×85 ②22 ③BA ④Ⅳb ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ褐色土

概要：不整楕円形，ボウル状を呈し，北東壁上方に攪乱を受けている。

遺物：晩1，続 (恵山1 C₂9) 不2 削器1

土器 (第 154 図) 644-1 恵山式土器 644-2, 3 後北C₂式土器

石器 (第 181 図) 644 削器 (横形)

第 645 号ピット (第 132 図)

①76 ②21 ③AD ④Ⅱb ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土

概要：円形，ボウル状を呈し，南側で第 646 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：晩1 石皿1

石器 (第 184 図) 645 石皿

第 646 号ピット (第 132 図)

①201×53 ②116 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 (第 645 号ピットのⅠより明るい) Ⅱ褐色土 (Ⅲより明るい) Ⅲ褐色土
Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土 (Ⅲよりやや暗く，Ⅱとほぼ同じ) Ⅵ暗褐色土 Ⅶ褐色土 (やや暗い) Ⅷ

暗褐色土

概要：長楕円形を呈する。壁の立ち上りは垂直である。北側上方は第 645 号ピットにより切られている。本ピットが古い。

遺物：なし

第 647 号ピット (第 132 図)

①212×58 ②87 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ黒褐色土

概要：長楕円形を呈し、壁の四周は下方が若干袋状に掘り込んである。

遺物：なし

第 648 号ピット (第 133 図)

①196×56 ②128 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ黒褐色土

概要：長楕円形を呈する。

遺物：中 1

土器 (第 155 図) 648-1 縄文時代中期土器

第 649 号ピット (第 106 図)

①100×97 ②50 ③AA ④Ⅳc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面が若干彎曲する。

遺器：晩 1 続縄 1 続 (恵山 1)

土器 (第 155 図) 649-1 続縄文時代土器

第 650 号ピット (第 106 図)

①107×102 ②55 ③AD ④Ⅳd ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗褐色土 (Ⅲより明るい) Ⅵ褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面が彎曲する。

遺物：早 1, 晩 1 不 1 石器 1

土器 (第 155 図) 650-1 縄文時代早期土器

石器 (第 181 図) 650 半両面体石器ないし石筥

第 651 号ピット (第 106 図)

①81×76 ②31 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥2 (底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，西側底面に石 2 個を有する。

遺物：なし

第 652 号ピット (第 106 図)

①63 ②12 ③AA ④Ⅰb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，北側で第 717 号ピットと重複する。新旧関係は不明である。

遺物：なし

第 653 号ピット (第 106 図)

①84×75 ②17 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：不整形円形，フライパン状を呈し，東壁に小ピット状の浅い掘り込を有する。

遺物：なし

第 654 号ピット (第 107 図 図版四十一)

①111×106 ②46 ③AA ④Ⅳc ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅴ暗褐色土 Ⅵ暗褐色土 (Ⅴより暗い) Ⅶ暗褐色土 (Ⅵより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈し，南壁は彎曲した立ち上りを示す。北側で第 655 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：早 5，晩 4

土器 (第 155 図) 654-1 縄文時代晩期土器

第 655 号ピット (第 107 図 図版四十一)

①73×64 ②13 ③AD ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：円形，ボウル状を呈する。南側で第 654 号ピットを重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第 656 号ピット (第 107 図, 図版四十一)

①78 ②17 ③A A ④Ⅱ b ⑤晩期 ⑥

層位: Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。西側で第 665 号ピットと重複する。本ピットが古い。

遺物: 晩 5, 続縄 1

土器 (第 155 図) 656・665・666-2 縄文時代晩期土器 656・665・661-1 後北A式土器

第 657 号ピット (第 107 図)

①69×65 ②20 ③A D ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ黒色土

概要: 円形, ボウル状を呈する。

遺物: なし

第 658 号ピット (第 107 図 図版四十一)

①83×73 ②14 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥ 1 (南壁)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要: 不整円形, ボウル状を呈する。南壁から石 1 個が発見された。

遺物: なし

第 659 号ピット (第 107 図)

①63×61 ②37 ③A C ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ焼土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。ピットの外に 60×45 cm の焼土があった。

遺物: なし

第 660 号ピット (第 108 図 図版四十二)

①104×91 ②33 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥ 2 (中層・下層)

層位: Ⅰ黒色土 (焼土を含む) Ⅱ暗黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要: 不整円形, 摺鉢状を呈する。中層と下層から石が各 1 個ずつ発見された。北側に 25×20 cm の焼土が見られた。

遺物: 晩 2, 続 (A 2, C₁4, C₂1, D 1) 削器 1, 石皿 1

土器 (第 155 図) 660-1 タンネトウL式土器 660-2, 3 後北A式土器 660-4 後北C₁式土器

石器 (第 181 図) 660 縦形削器 (第 184 図) 660 石皿

第 661 号ピット (第 108 図 図版四十二)

①77×75 ②18 ③A C ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：早 1，晩 1，統 (A 1 C₂ 2) 不 6 剥片 2 フレーク 3

第 662 号ピット (第 108 図 図版四十二)

①78×63 ②17 ③B A ④Ⅱ b ⑤北大 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：楕円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。南側は第 661 号ピットと近接する。

遺物：統 (北大 1) 石鏃 1

土器 (第 155 図) 662-1 北大式土器

石器 (第 181 図) 662 柳葉形石鏃

第 663 号ピット (第 108 図)

①83×81 ②41 ③A A ④Ⅲ c ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。西壁は垂直に立ち上る。

遺物：中 1，晩 3，統縄 1

土器 (第 155 図) 663-2 縄文時代晩期土器 663-1 統縄文時代土器

第 664 号ピット (第 133 図)

①208×46 ②96 ③ ④ ⑤T B ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒色土 (やや褐色が入る)

概要：平面形は溝状を示す。壁の立ち上りは垂直に近い。

遺物：不 (底部) 1 フレーク 3

第 665 号ピット (第 107 図 図版四十一)

①81 ②32 ③A D ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が若干彎曲する。東側で第 656 号ピット，西側で第 666 号ピットと重複し，第 656 号ピットより新しく，第 666 号ピットとの関係は不明である。

遺物：第 656 号ピット参照

第 666 号ピット (第 107 図 図版四十一)

①80 ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：円形を呈し、断面形は不明である。東側で第 665 号ピットと重複するが、新旧は不明である。

遺物：第 656 号ピット参照

第 667 号ピット (第 108 図 図版四十二)

①120×119 ②61 ③A B ④Ⅳ d ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土（焼土を含む）Ⅱ焼土Ⅲ暗黒褐色土Ⅳ黒褐色土Ⅴ黒色土Ⅵ暗黒褐色土（Ⅲより明るい）Ⅶ黒褐色土（Ⅳより明るい）Ⅷ褐色粘質土Ⅸ暗褐色土Ⅹ褐色火山灰質土Ⅺ暗黒褐色土（Ⅵより明るい）

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面は平坦である。西壁上方に張り出しを有する。中央に70×60cmの焼土が見られた。

遺物：続縄1（底部）、続（C₂1）不6

第 668 号ピット (第 108 図)

①83×82 ②13 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土Ⅱ暗黒褐色土Ⅲ暗褐色土

概要：円形、フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 669 号ピット (第 108 図, 図版四十二)

①83×75 ②4 ③A A ④Ⅲ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形、皿状を呈する。南側に深さ22cmの小ピットを有する。

遺物：中1, 晩1, 不4 フレーク1

土器（第 155 図） 699-1 伊達山式土器 669-2 縄文時代晩期土器

第 670 号ピット (第 109 図)

①71×67 ②10 ③A A ④Ⅱ a ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形、フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 671 号ピット (第 109 図)

①86×78 ②12 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 672 号ピット (第 109 図)

①78×74 ②46 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土（Ⅲより明るい） Ⅴ暗黒褐色土（Ⅳより明るい） Ⅵ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状をし，底面は平坦である。

遺物：続縄 1，続（北大 1）フレーク 3

土器（第 155 図） 672-1 続縄文時代土器 672-2 北大式土器

第 673 号ピット (第 109 図)

①83×77 ②37 ③B C ④Ⅲ c ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が若干彎曲する。

遺物：続（B 1，C₂29）

土器（第 163 図） 673 口径 25cm，高さ現存 17.5cm 後北C₂式土器

第 674 号ピット (第 109 図，図版四十三)

①77×72 ②22 ③A A ④Ⅱ b ⑤後北D ⑥ 6（中層）

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，中層より石 6 個が出土している。

遺物：早 1，晩 1，続（恵山 1，C₁1，C₂1，D 4）すり石 1

土器（第 155 図） 674-2 恵山式土器 674-1 後北C₁式土器 674-3 後北C₂式土器

第 675 号ピット (第 109 図)

①77 ②23 ③ ④ ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈するであろう。北側は攪乱により半壊しているため全容は明らかでない。

遺物：続（恵山 4，C₂2）石斧未成品 1 フレーク 1

土器 (第 155 図) 675-1 恵山式土器
石器 (第 181 図) 675 石斧の未成品

第 676 号ピット (第 109 図)

①96×85 ②17 ③A A ④Ⅲ b ⑤後北C₁ ⑥

層位: I 黒褐色土 II 暗黒褐色土 III 黒色土

概要: 不整形円形, フライパン状を呈し, 西壁は皿状の立ち上りを示す。

遺物: 続 (C₁ 1)

第 677 号ピット (第 109 図)

①104×78 ②15 ③B A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 黒褐色土

概要: 楕円形, フライパン状を呈し, 底面は平坦である。

遺物: なし

第 678 号ピット (第 109 図 図版四十三)

①74×74 ②24 ③A A ④Ⅱ b ⑤後北A ⑥

層位: I 黒褐色土 II 暗黒褐色土 III 暗褐色土 IV 暗黒褐色土 (II より暗い)

概要: 不整形円形, 摺鉢状を呈する。

遺物: 続 (A 1)

第 679 号ピット (第 110 図)

①56×51 ②13 ③A A ④I b ⑤不明 ⑥

層位: I 焼土 II 黒色土 III 褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面が若干彎曲する。

遺物: なし

第 680 号ピット (第 110 図)

①91×88 ②52 ③A C ④Ⅲ d ⑤後北C₂ ⑥

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 暗黒褐色土 (焼土を含む) IV 暗黒褐色土 (II より明るい)
V 褐色土 VI 褐色土 (V より明るい)

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。ピットの外南に小ピットを有する。

遺物: 晩 8, 続 (恵山 3, A 6, C₂ 6 C₂ または D 4) 不 15 不 (底部) 1 石鏃 1, 搔器 1

土器 (第 155 図) 680-1~3 恵山式土器 680-4 後北A式土器

石器 (第 182 図) 680-1 無茎石鏃 680-2 縦形搔器

第 681 号ピット (第 110 図)

①91×62 ②44 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥1 (下層)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒色土 (Ⅰより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈する。下層より石1個が出土した。

遺物：なし

第 682 号ピット (第 110 図)

①100×93 ②55 ③AB ④Ⅲd ⑤不明 ⑥4 (1上層, 3底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ焼土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。上層に1個，底面に3個の石が見られた。東側で第683号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：早1，晩1，続(恵山2) 不3 削器1，フレーク11

土器(第155図) 682-1 2 恵山式土器

石器(第182図) 682 矩形剥片を素材にした削器

第 683 号ピット (第 110 図)

①93×85 ②37 ③AD ④Ⅲc ⑤早期 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が彎曲する。西側で第682号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：早3，フレーク1

土器(第155図) 683-1 縄文時代早期土器

第 684 号ピット (第 110 図)

①103 ②41 ③AA ④Ⅳc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土(地山ブロック混入) Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。東側で第685号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第 685 号ピット (第 110 図)

① ②31 ③AA ④Ⅱc ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土

概要：不整形円形，摺鉢状を呈する。東側底面より石1個が出土した。西側で第684号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第 686 号ピット (第 110 図)

①62×60 ②12 ③A D ④ I b ⑤恵山 ⑥

層位：I 黒色土

概要：不整形円形，ボウル状を呈する。

遺物：続縄 1，続（恵山 1）

土器（第 155 図） 686-1 続縄文時代土器

第 687 号ピット (第 111 図 図版四十三)

①83×70 ②21 ③B A ④ III b ⑤不明 ⑥ 3（底面）

層位：I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 暗褐色土

概要：楕円形，摺鉢状を呈する。底面に 3 個の石が見られた。

遺物：続縄 1，続（恵山 2，C₂1）

土器（第 155 図） 687-1 続縄文時代土器

第 688 号ピット (第 111 図)

①68×60 ②42 ③A B ④ II c ⑤不明 ⑥

層位：I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 暗褐色土（II より明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。壁上方はゆるやかに立ち上る。

遺物：なし

第 689 号ピット (第 111 図)

①64×58 ②37 ③A B ④ I c ⑤不明 ⑥

層位：I 黒色土 II 暗褐色土 III 暗褐色土（II より暗い） IV 褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，北側壁がやや緩やかに立ち上る。

遺物：早 1，晩 1，続（恵山 1） フレーク 1

土器（第 155 図） 689-2 東釧路 III 式土器 689-1 恵山式土器

第 690 号ピット (第 111 図)

①48×43 ②18 ③A A ④ I b ⑤不明 ⑥

層位：I 暗黒色土 II 黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。

遺物：なし

第 691 号ピット (第 111 図)

①95×74 ②23 ③A D ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：不整円形，ボウル状を呈する。

遺物：なし

第 692 号ピット (第 111 図)

①82×78 ②17 ③A C ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。

遺物：晩 2，続 (A 2)，不 2

第 693 号ピット (第 111 図)

①70×65 ②31 ③A A ④Ⅱ c ⑤後北 D ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。

遺物：早 3，晩 6，続 (C₂ 2，D一括)，不 (小形) 1，削器 1

土器 (第 155 図) 693-1 東釧路Ⅲ式土器 693-2 縄文時代晩期土器 693-3, 4 後北 D 式土器

石器 (第 182 図) 693 矩形剝片を素材にした削器

第 694 号ピット (第 111 図)

①111×95 ②16 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈する。

遺物：なし

第 695 号ピット (第 111 図)

①67×56 ②15 ③B D ④Ⅱ b ⑤後北 A ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：不整楕円形，ボウル状を呈する。

遺物：続 (A 1)

第 696 号ピット (第 132 図)

①256×48 ②99 ③ ④ ⑤T B ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ褐色土 Ⅵ黒色土

概要：溝状を呈する。壁の立ち上りは垂直に近い。

遺物：なし

第 697 号ピット (第 112 図, 図版四十三)

①78×73 ②61 ③AC ④Ⅱd ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。壁はほぼ垂直である。

遺物：続縄 6，不 1

第 698 号ピット (第 112 図, 図版四十四)

①106×104 ②69 ③AC ④Ⅳd ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒色土 (Ⅰより暗い) Ⅲ焼土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗褐色土 Ⅵ黒褐色土
Ⅶ黒褐色土 (Ⅵより暗い)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。壁は直立する。

遺物：晩 7，続 (恵山 1，A 2，B 1，C₁ 2，C₂ または D 4)，不 9

土器 (第 155 図) 698-3 恵山式土器 698-1 後北 B 式土器 698-2, 5 後北 C₁ 式土器

第 699 号ピット (第 112 図)

①83×73 ②30 ③AA ④Ⅲc ⑤後北C₂ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。東壁に比べ西壁はやや緩やかに立ち上る。

遺物：続縄 1，続 (C₂ の底部 1，D 1)，不 1

土器 (第 155 図) 699-1 続縄文時代土器

第 700 号ピット (第 133 図)

①228×72 ②124 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗褐色土 (Ⅲより暗い) Ⅴ褐色土 Ⅵ黒褐色土
(軟) Ⅶ暗褐色土 (軟)

概要：平面形は溝状を呈し，壁は垂直に近い立ち上りを示す。

遺物：なし

第 701 号ピット (第 134 図, 図版二十二)

①207×55 ②98 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ褐色土 Ⅴ黒褐色土 Ⅵ褐色土

概要：平面形は溝状を呈する。壁の立ち上りは垂直に近く、東西両壁は袋状に掘り込まれている。

遺物：なし

第702号ピット (第112図)

①77 ②50 ③AA ④Ⅱc ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土(焼土混入) Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒色土 Ⅴ暗褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面は平坦である。南側で第703号ピットと重複し、本ピットが新しい。

遺物：早4, 晩9, ナイフ1, フレーク2

土器(第156図) 702・703-1, 2 縄文時代早期土器 702・703-3 東釧路Ⅲ式土器 702・703-4 縄文時代晩期土器

石器(第182図) 702 両面加工の柄のあるナイフ

第703号ピット (第112図)

①71 ②14 ③BA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土

概要：楕円形、フライパン状を呈する。北側で第702号ピットと重複し、本ピットが古い。

遺物：第702号ピット参照。

第704号ピット (第112図)

①103×87 ②38 ③AD ④Ⅲc ⑤恵山 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土(攪乱) Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒色土(Ⅱより明るい) Ⅴ暗褐色土
Ⅵ黒褐色土 Ⅶ黒色土(木炭混入)

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面は彎曲する。

遺物：早1, 統(恵山12)

土器(第156図) 704-1~4 恵山式土器

第705号ピット (第113図, 図版四十四)

①93×84 ②43 ③AD ④Ⅲc ⑤後北A ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈する。

遺物：統(A1), 石鏃1

土器(第156図) 705-1 後北A式土器

石器(第182図) 705 有茎石鏃

第706号ピット (第113図, 図版二十三)

①92 ②41 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗褐色土 (地山ブロック混入)

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面は平坦である。東壁下方で一部袋状に掘り込まれている。東側で第707号・第708号ピットと重複し, 両者よりも新らしい。

遺物: 統 (恵山2, A1), 不3

土器 (第156図) 706-1 恵山式土器

第707号ピット (第113図, 図版二十三)

①87 ②28 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。北側で第708号ピット, 西側で第706号ピットと重複しているため, 全容は不明である。新旧関係は, 第706号ピットより古く, 第708号ピットより新しい。

遺物: なし

第708号ピット (第113図, 図版二十三)

①90 ②56 ③A A ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ暗褐色土 (地山ブロック混入) Ⅱ暗褐色土 (地山粒子混入)

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。第707号, 第706号ピットと重複し, 両者よりも古い。

遺物: なし

第709号ピット (第113図)

①118×90 ②41 ③A A ④Ⅳ c ⑤恵山 ⑥

層位: Ⅰ暗黒色土 Ⅱ焼土 Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土 Ⅴ暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 40×35 cm の焼土が見られる。

遺物: 早1, 統 (恵山3, C₂1), 不6

土器 (第156図) 709-3 縄文時代早期土器 709-1, 2 恵山式土器

第710号ピット (第113図, 図版四十四)

①76 ②29 ③A A ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥1 (下層)

層位: Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。北側下層から石1個が出土した。南側で第711号ピットと重複し, 本ピットが古い。

遺物: なし

第 711 号ピット (第 113 図)

①99 ②38 ③A C ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅳ暗黒褐色土（Ⅰより暗い）
Ⅴ暗黒褐色土（地山粒子混入）

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。北側で第 710 号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第 712 号ピット (第 114 図，図版四十四)

①103×97 ②50 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土（硬） Ⅱ暗黒色土（軟） Ⅲ黒色土 Ⅳ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：なし

第 713 号ピット (第 113 図)

①55×50 ②21 ③A D ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は湾曲する。

遺物：早 3，統繩 1

土器（第 156 図）713-1～3 東釧路Ⅲ式土器

第 714 号ピット (第 134 図)

①191×61 ②118 ③ ④ ⑤T B ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ褐色土 Ⅴ黒色土

概要：平面形は溝状を呈する。西壁は袋状に掘り込まれ，他は垂直に近い立ち上りを示す。

遺物：なし

第 715 号ピット (第 114 図)

①83 ②22 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。

遺物：なし

第716号ピット (第114図)

①98 ②30 ③BD ④Ⅲc ⑤晩期 ⑥1 (下層)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：不整楕円形，ボウル状を呈する。中央部下層より石1個が発見されている。北西は攪乱を受けている。

遺物：晩一括

土器 (第156図) 716-1～3 タンネットウL式土器

第717号ピット (第106図)

①44 ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：円形を呈し，断面形は不明である。北側の大半を小ピットが占め，南側では第652号ピットと重複している。新旧関係は不明である。

遺物：なし

第718号ピット (第114図)

①118×108 ②50 ③AB ④Ⅳc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ黒褐色土 (Ⅲより暗い) Ⅴ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面が若干彎曲する。壁上方は大きく広がる。

遺物：なし

第719号ピット (第134図)

①224×71 ②103 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ褐色土 (火山灰質) Ⅳ暗褐色土

概要：平面形は溝状を呈する。北壁は袋状に掘り込まれ，他は垂直に近い立ち上りを示す。

遺物：なし

第720号ピット (第134図，図版四十五)

①231×63 ②123 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ褐色土 (火山灰質) Ⅳ暗褐色土

概要：平面形は溝状を呈する。南北両壁は袋状に掘り込まれ，他は垂直に近い立ち上りを示す。

遺物：なし

第 721 号ピット (第 115 図)

①110×110 ②53 ③A B ④Ⅳ d ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁上方がやや広がる。

遺物：なし

第 722 号ピット (第 114 図)

①80 ②17 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈するであろう。西側に攪乱を受け，全容は明確ではない。

遺物：統 (恵山 1, C₁1), 不 1, 削器 1

石器 (第 182 図) 722 縦形削器

第 723 号ピット (第 115 図, 図版四十五)

①81 ②18 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ褐色土

概要：円形，皿状を呈するであろう。東側に攪乱を受けているため全容は不明である。

遺物：早 1, 晩 1

土器 (第 156 図) 723-1 東釧路Ⅲ式土器

第 724 号ピット (第 114 図)

①78 ②11 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈するであろう。北側は攪乱を受けて半壊しているため全容は不明である。

遺物：なし

第 725 号ピット (第 133 図)

①168 ②125 ③ ④ ⑤T A ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ黒色土 (Ⅰより明るい) Ⅴ黒色土 (Ⅰより暗い) Ⅵ黒色土 (Ⅴより明るい) Ⅶ暗褐色土 Ⅷ暗色土 Ⅸ褐色土 (火山灰質土) X暗褐色土 (火山灰質土)

概要：平面は長楕円形を呈し，断面形は深い摺鉢状を呈する。南東側で第 726 号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第 726 号ピット (第 115 図)

①95 ②48 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ白色火山灰 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ黒色土（Ⅲより軟らかい） Ⅴ暗褐色土 Ⅵ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦であろう。北側で第 725 号ピット，南側で第 727 号ピットと重複し，第 725 号ピットより新しい。第 727 号ピットとの関係は不明である。

遺物：なし

第 727 号ピット (第 115 図)

①91 ②35 ③A D ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：

概要：円形，ボウル状を呈するであろう。北側で第 726 号ピットと重複するが新旧関係は不明である。

遺物：なし

第 728 号ピット (第 115 図，図版四十五)

①126×124 ②38 ③A A ④Ⅳ c ⑤不明 ⑥1 (中層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅰより暗い） Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。西側中層より石 1 個が出土した。

遺物：なし

第 729 号ピット (第 116 図)

①60 ②20 ③A D ④Ⅰ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：円形，ボウル状を呈する。北側は攪乱により半壊している。

遺物：なし

第 730 号ピット (第 116 図)

①120 ②21 ③A A ④Ⅳ b ⑤後北 D ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈するであろう。南側壁上方は攪乱を受け，北側は第 733 号ピットと重複するため全容は明らかでない。本ピットが古い。

遺物：続 (D一括)

第 731 号ピット (第 116 図, 図版四十五)

①91×91 ②38 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥1 (底面)

層位: I 暗黒褐色土 II 黒色土 III 暗黒褐色土 (I より暗い)

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面は平坦である。底面より石 1 個が出土した。

遺物: なし

第 732 号ピット (第 117 図, 図版四十五)

①126×110 ②10 ③AA ④Ⅳa ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 黒褐色土 III 暗褐色土 IV 褐色土

概要: 円形, フライパン状を呈し, 南側に 1 個, 南壁上に 3 個の小ピットを有する。

遺物: 続縄 1

土器 (第 156 図) 732-1 続縄文時代土器

第 733 号ピット (第 116 図)

①150 ②21 ③AA ④Ⅴb ⑤不明 ⑥

層位: I 暗黒褐色土 II 黒色土 III 暗黒褐色土 (I より暗い) IV 黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈するであろう。南側で第 730 号ピット, 北側で第 734 号ピットと重複しているため全容は不明である。第 730 号ピットより古く, 第 734 号ピットより新しい。

遺物: 早 2, 晩 5, 続縄 1, 不 1, フレーク 1

土器 (第 156 図) 733・734-1, 2 東釧路Ⅲ式土器

第 734 号ピット (第 116 図)

①143 ②28 ③AA ④Ⅴc ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 暗褐色土 III 黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈する。南側で第 733 号ピットと重複し, 本ピットが新しい。

遺物: 第 733 号ピット参照。

第 735 号ピット (第 117 図)

①178×138 ②22 ③BA ④Ⅴb ⑤不明 ⑥

層位: I 灰黒色土 II 白色火山灰 III 暗茶褐色土 IV 暗褐色土

概要: 不整楕円形, ボウル状を呈する。

遺物: なし

第 736 号ピット (第 117 図)

①120×108 ②40 ③A C ④Ⅳ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。南側に50×35cmの焼土が見られた。

遺物：削器 1，砥石 1

石器 (第 181 図) 736 削器 (縦形ナイフ) (第 183 図) 736 砥石

第 737 号ピット (第 118 図，図版四十六)

①110×93 ②68 ③A C ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥7 (底面)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 (粒子が荒い) Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅴ黒色土 (Ⅲより暗い) Ⅵ暗褐色土 Ⅶ黒色土 (Ⅴより暗い) Ⅷ暗黒褐色土 (Ⅳより暗い)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面南に扁し，7個の石を有する。

遺物：フレーク 1

第 738 号ピット (第 117 図)

①97×84 ②41 ③A B ④Ⅲ c ⑤後北 C₂ ⑥3 (1 上層，2 底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅳ黒褐色土 Ⅴ黒色土 Ⅵ暗黒褐色土 (Ⅱより明るい) Ⅶ暗黒褐色土 (Ⅵより明るい)

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。北側上層から 1 個，底面から 2 個の石が出土した。

遺物：晩 4，続 (恵山 2，A 2，C₂ の底部 1，D 1) 不 1，砥石 1

土器 (第 156 図) 738-1，2 恵山式土器，738-3 後北 D 式土器

石器 (第 183 図) 738 砥石

第 739 号ピット (第 118 図，図版四十六)

①99×98 ②53 ③A A ④Ⅲ d ⑤不明 ⑥2 (底面)

層位：

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面に 2 個の石が見られた。

遺物：早 3，晩 21，続縄 2，続縄 (底部) 2，続 (B 1，C₁ 1，C₂ 5) 不 19，敲石 1

土器 (第 156 図) 739-3，4 縄文時代晩期土器，739-1，5 後北 A 式土器，739-2 後北 C₁ 式土器，739-6，7 後北 C₂ 式土器

石器 (第 186 図) 739 石皿

第740号ピット (第118図)

①84×68 ②28 ③BA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥1(上層)

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土(Ⅰより明るい) Ⅲ暗褐色土

概要：不整楕円形を呈する。底面中央が低くなる。

遺物：なし

第741号ピット (第118図, 図版四十六)

①77×74 ②35 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土 Ⅳ褐色土

概要：円形, 摺鉢状を呈し, 西側底面が低くなる。

遺物：統繩1, 削器1

土器(第156図) 741-1 統繩文時代土器

石器(第182図) 741 削器

第742号ピット (第119図)

①82×75 ②34 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形, 摺鉢状を呈し, 底面が若干彎曲する。

遺物：なし

第743号ピット (第118図)

①82 ②18 ③AD ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形, 皿状を呈するであろう。西側で第744号ピットと重複し, 本ピットが古い。

遺物：早3, 晩8, 統(恵山1) 石斧破片1, 削器1,

土器(第156図) 743-1 東釧路Ⅲ式土器, 743・744-2, 4 縄文時代晩期土器 743・744-3 恵山式土器

石器(第182図) 743-1 磨製石斧破片, 743-2 削器(小形)

第744号ピット (第118図)

①98 ②22 ③BA ④Ⅲb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：楕円形, 摺鉢状を呈する。西側で第743号ピットと重複し, 本ピットが新しい。

遺物：第743号ピット参照

第 745 号ピット (第 119 図, 図版二十三)

①57×53 ②22 ③A D ④ I b ⑤不明 ⑥

層位: I 黒色土 II 黒褐色土 III 暗褐色土

概要: 円形, ボウル状を呈する。

遺物: なし

第 746 号ピット (第 119 図, 図版二十三)

①76×68 ②27 ③A D ④ II c ⑤後北 D ⑥

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 暗褐色土

概要: 円形, ボウル状を呈する。

遺物: 統 (D一括)

土器 (第 163 図) 746 底径 7 cm, 高さ現存約 7 cm, 片側に穴のあいた瘤を有する後北 D 式土器

第 747 号ピット (第 119 図)

①77 ②21 ③A A ④ II b ⑤晩期 ⑥

層位: I 暗褐色土 II 暗黒褐色土 III 黒色土 IV 黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈するであろう。北西側に攪乱を受けているため全容は不明である。

遺物: 晩 9, 統 (B 1, C₂ 1)

土器 (第 156 図) 747-1 縄文時代晩期土器, 747-2 後北 C₂ 式土器

第 748 号ピット (第 119 図)

①132×120 ②47 ③A B ④ V c ⑤晩期 ⑥

層位: I 黒色土 II 暗黒褐色土 III 暗黒褐色土 (II より明るい) IV 暗褐色土 V 褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 開口部が広がる。

遺物: 晩 6, 統 (恵山 1) 不 2

土器 (第 156 図) 748-1 縄文時代晩期土器, 748-2 恵山式土器

第 749 号ピット (第 119 図)

①116 ②53 ③A B ④ IV d ⑤後北 C₂ ⑥ 6 (北壁)

層位: I 黒色土 II 黒褐色土 III 暗褐色土 IV 褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈するであろう。北壁に 2 個の石を有す。西側と東側に攪乱を受けているため全容は不明である。

遺物: 統 (A 4, B 1, C₁ 2, C₂ 一括) フレーク 2

土器 (第 163 図) 749 口径 22 cm, 高さ現存 21 cm, 後北 C₂ 式土器 (第 156 図) 749-2, 4 後北

A式土器 749-3 後北 C₁ 式土器

第 750 号ピット (第 120 図)

①114×105 ②33 ③AD ④IV c ⑤不明 ⑥2(上層・下層)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土(Ⅱより暗い) Ⅳ暗褐色土 Ⅴ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，壁の立ち上りは緩やかである。

遺物：なし

第 751 号ピット (第 134 図)

①179×53 ②80 ③ ④ ⑤TB ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ黒色土

概要：平面形は溝状を呈し，壁は四周とも立ち上りは垂直に近い。

遺物：なし

第 752 号ピット (第 120 図)

①137×112 ②21 ③CA ④IV b ⑤早期 ⑥4(上面)

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ焼土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土

概要：楕円形，フライパン状を呈し，東壁に小ピット 1 個を有する。南側上面に 4 個の石があり東側に 30×20 cm の焼土が見られた。

遺物：早 2

第 753 号ピット (第 120 図)

①128×108 ②21 ③AA ④IV b ⑤不明 ⑥16(底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土(炭化物混入) Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，中央部に小ピット 1 個を有する。16 個の小型の石が底面から出土した。中央部に多量の木炭が見られた。

遺物：なし

第 754 号ピット (第 120 図)

①57×56 ②21 ③AC ④I b ⑤恵山 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：晩 2，続(恵山一括) 不 1

土器(第 163 図) 754 高さ現存約 21cm，口縁部と底部を欠く恵山式土器

第 755 号ピット (第 134 図)

①201×67 ②110 ③ ④ ⑤T B ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ褐色土 Ⅴ暗褐色土(軟)

概要：平面形は溝状を呈する。東西両壁は袋状に掘り込まれ、他は垂直に近い立ち上りを示す。

遺物：なし

第 756 号ピット (第 120 図)

①117×114 ②33 ③A A ④Ⅳ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ焼土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗黒褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、焼土がピット全体に広がって見られた。

遺物：早 2, 晩 2, 統(B 1, C₂底部 1) 石鏃 1 フレーク 3

土器(第 156 図) 756-1 後北 B 式土器 756-2 後北 C₂ 式土器

石器(第 182 図) 756 無茎石鏃

第 757 号ピット (第 121 図, 図版四十六)

①98×96 ②50 ③A A ④Ⅲ c ⑤後北 D ⑥ 3 (下層)

層位：Ⅰ灰黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ焼土 Ⅵ黒褐色土 Ⅶ褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面はほぼ平坦である。南側下層から石 3 個が出土した。

遺物：統(D一括)

第 758 号ピット (第 121 図)

①78 ② ③ ④ ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土(Ⅰより明るい) Ⅲ暗褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈するであろう。南側で古い攪乱を掘り込んで構築し、その後、新しい攪乱により南西部が破壊されたものと思われる。

遺物：早 2, 晩 1, 統(恵山 1, 北大 2) 不 4, フレーク 2

土器(第 156 図) 758・759-1 縄文時代早期土器 758・759-2 縄文時代晚期土器 758・759-3 恵山式土器 758・759-4, 5 北大式土器

第 759 号ピット (第 121 図)

①115×103 ②32 ③A A ④Ⅳ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形、摺鉢状を呈し、底面はほぼ平坦である。

遺物：早 2, 晩 4, 統(恵山 2, B 2) 不 2

土器（第157図）759-1 東釧路Ⅲ式土器 759-2・3 恵山式土器 759-4・5 後北B式土器

第760号ピット（第121図）

①86×84 ②32 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥2（下層）

層位：Ⅰ灰黒色土（火山灰混入）Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。中央下層から2個の石が出土した。

遺物：早3，続（B1，D3）不1，石斧未成品1，フレーク3

土器（第157図）760-1～3 東釧路Ⅲ式土器 760-4 後北B式土器 760-5 後北D式土器

石器（第182図）760 石斧未成品の破片

第761号ピット（第121図）

①102×96 ②25 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥1（底面）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，北側底面から石1個が出土した。

遺物：晩3，続縄1，続（A1，B1）フレーク1

土器（第157図）761-1 続縄文式土器 761-2 後北A式土器

第762号ピット（第122図，図版四十七）

①117×107 ②60 ③A A ④Ⅳ d ⑤不明 ⑥12（下層）

層位：Ⅰ暗黒褐色土（焼土混入）Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗黒褐色土（地山粒子混入）
Ⅴ褐色土 Ⅵ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。東壁上方が若干張り出す。下層から石12個が出土した。

遺物：なし

第763号ピット（第122図）

①86×80 ②34 ③A C ④Ⅲ c ⑤後北D ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒色土 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ焼土 Ⅴ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。焼土が50×35cmにわたって見られた。

遺物：続（D4）不7，フレーク1

土器（第157図）763-1・2 後北D式土器

第764号ピット（第122図）

①78×74 ②35 ③A C ④Ⅱ c ⑤不明 ⑥1（底面）

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ黒色土

概要：正円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。北側底面より石1個が出土した。

遺物：なし

第765号ピット（第122図）

①72×70 ②43 ③AA ④Ⅱc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土

概要：正円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：なし

第766号ピット（第125図，図版二十四）

①127×116 ②72 ③AB ④Ⅳd ⑤後北D ⑥30（下層一底面）

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗黒褐色土（Ⅰより明るい） Ⅲ黒色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗黒褐色土（漸移的） Ⅵ暗黒褐色土（軟） Ⅶ暗褐色土 Ⅷ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。下層より底面にわたって全面に30個の石が見られた。

遺物：早1，晚1，続（恵山3，B1，D2，北大1）不（小型底部1）削器1 搔器1 フレーク2

土器（第157図）766-1 縄文時代晚期土器 766-2～4 恵山式土器 766-5 後北B式土器 766-6，7 後北D式土器

石器（第182図）766-1 削器 766-2 搔器

第767号ピット（第122図）

①105×105 ②20 ③AD ④Ⅳb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈する。西側に小ピット状の窪みが見られた。

遺物：早5，続縄2，続（C₁2）不4 フレーク2

土器（第157図）767-1・2 続縄文時代土器

第768号ピット（第123図）

①333×212 ②20 ③CA ④Ⅴb ⑤不明 ⑥1（下層）

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ攪乱 Ⅲ暗黒褐色土 Ⅳ暗褐色土

概要：不整楕円形の大型ピットで，他に類似のプランを見る事が出来ない。壁の立ち上りは，あまり明瞭でない。中央下層から石1個が出土した。北西側に攪乱を受けている。本ピットの性格は不明である。

遺物：なし

第769号ピット (第125図)

①96×90 ②9 ③AA ④Ⅲa ⑤不明 ⑥17 (底面)

層位:

概要: 円形, フライパン状を呈する。底面から多数の礫が出土した。

遺物: 早1, 続 (恵山1) 不1

土器 (第157図) 769-1 恵山式土器

第770号ピット (第124図, 図版四十七)

①121×115 ②77 ③AB ④Ⅳd ⑤後北A ⑥4 (上層)

層位: Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ焼土 Ⅲ暗黒褐色土 (Ⅰより明るい) Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅲより明るい)

Ⅴ暗黒褐色土 (Ⅳより明るい) Ⅵ黒色土 Ⅶ黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面は平坦である。壁の立ち上りは, 西壁が垂直に近く, 東壁はやや緩やかである。焼土は60×40cmの広がりがある。

遺物: 続 (A8, B1, D4) 不65, 不 (底部) 1, 削器1, 搔器1, フレーク5

土器 (第157図) 770-1, 3, 4 後北A式土器 770-2 後北B式土器 770-5~9 後北D式土器

石器 (第182図) 770-2 縦形削器 770-1 円形搔器

第771号ピット (第125図)

①113×105 ②73 ③AB ④Ⅳd ⑤後北D ⑥2 (中層)

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 (Ⅰより暗い) Ⅳ暗黒褐色土 (Ⅱより暗い) Ⅴ黒色土 (Ⅲより暗い) Ⅵ暗黒褐色土 (Ⅳより暗い) Ⅶ黒色土 (Ⅴより暗い) Ⅷ暗黒褐色土 (Ⅱより明るい) Ⅸ暗褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面は平坦である。中層より2個の石が出土した。

遺物: 続 (A2, D3, 北大1) 不14, フレーク1

土器 (第157図) 771-1, 2 後北D式土器 771-3 北大式土器

第772号ピット (第124図)

①70×65 ②26 ③AA ④Ⅱc ⑤不明 ⑥

層位: Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗黒褐色土

概要: 円形, 摺鉢状を呈し, 底面は平坦である。

遺物: 続 (後北7)

土器 (第157図) 772-1 後北式土器

第773号ピット (第125図)

①94×86 ②13 ③A A ④Ⅲ b ⑤不明 ⑥5 (上層)

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，底面はほぼ平坦である。南側上層から5個の石が出土した。

遺物：なし

第774号ピット (第124図)

①112×98 ②23 ③A A ④Ⅳ b ⑤後北D ⑥3

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。南側から3個の石が出土した。

遺物：続 (D一括) 石皿破片2，フレーク1

土器 (第157図) 774-1，2 後北D式土器

第775号ピット (第124図)

①110×96 ②15 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈し，底面が若干彎曲する。

遺物：早2，晩1，続縄1，続 (D1) 不1，砥石1，フレーク7

土器 (第157図) 775-1 縄文時代晩期土器 775-2 続縄文時代土器

石器 (第182図) 775 砥石

第776号ピット (第124図)

①85 ②26 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 (地山粒子混入) Ⅲ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面北側がやや低くなる。西壁上方に攪乱を受けている。

遺物：早2，続縄1 続 (恵山底部1) 不14，フレーク2

土器 (第158図) 776-1，2 東釧路Ⅲ式土器 776-3 続縄文時代土器

第777号ピット (第126図)

①90×88 ②46 ③A A ④Ⅲ c ⑤不明 ⑥5 (北壁上)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ褐色土 Ⅲ暗褐色土 Ⅳ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。北側壁上から5個の石が出土した。

遺物：晩1，続縄1，続 (恵山2，A1，B1，D2，北大1) 不 (底部) 1，搔器1

土器 (第158図) 777-2 恵山式土器 777-3 後北A式土器 777-1，4 後北D式土器

石器 (第 182 図) 777 円形小形搔器

第 778 号ピット (第 126 図)

①100×95 ②19 ③A D ④Ⅲ b ⑤晩期 ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：晩 2

第 779 号ピット (第 126 図，図版二十四，四十七)

①70×64 ②57 ③A C ④Ⅱ d ⑤不明 ⑥11 (中層—底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。中層より底面にかけて 11 個の石が出土した。

遺物：早 2 続縄 (底部) 1，続 (C₂1, D1, 北大1) 不 (底部) 1，削器 2，石冠 1

土器 (第 158 図) 779-1 後北C₂式土器 779-3 北大式土器

石器 (第 182 図) 779 矩形剥片に簡単な加工をした削器 (第182図) 779 削器 (横形) (第 183 図) 779 北海道式石冠

第 780 号ピット (第 126 図)

①62 ②13 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：不整楕円形を呈し，北側に張り出しを有する。南側で第 788 号ピットと重複する。

遺物：なし

第 781 号ピット (第 127 図)

①80 ②10 ③A A ④Ⅲ a ⑤後北C₂ ⑥2 (北壁)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，北壁で石 2 個を配する。

遺物：早 2，続 (C₂一括) 不 3 フレーク 4

土器 (第 163 図) 高さ 4.9 cm 口径 12.6 cm 底径推定 8.7 cm 底面にも器面と同様な文様を施文する。後北C₂式土器

第 782 号ピット (第 127 図)

①101 ②22 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥4 (下層—底面)

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。南側に3個，北側に1個の石が下層から底面にかけて出土した。西側で第783号ピットと重複し，本ピットが新しい。

遺物：なし

第783号ピット（第127図）

①114 ②22 ③A A ④Ⅳ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。東側で第782号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第784号ピット（第127図）

①130×107 ②25 ③A C ④Ⅳ b ⑤恵山 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ黒褐色土

概要：不整円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。

遺物：続（恵山4）石鏃1

土器（第158図）784-1， 2 恵山式土器

石器（第182図）784 無茎石鏃

第785号ピット（第127図）

①73 ②14 ③A A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，東側で第786号ピットと重複し，本ピットが古い。

遺物：なし

第786号ピット（第127図）

①85 ②11 ③B A ④Ⅱ b ⑤不明 ⑥6（上層）

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ褐色土

概要：不整楕円形，フライパン状を呈する。上層から6個の石が発見された。

遺物：なし

第787号ピット（第126図）

①93 ②10 ③A A ④Ⅲ a ⑤不明 ⑥2（底面）

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ暗褐色土

概要：不整円形，フライパン状を呈するであろう。北側で第788号ピットと大きく重複し，その

全容は明らかでない。底面より石2個が出土した。新旧関係は不明である。

遺物：不4，フレーク2

第788号ピット（第126図）

① ②15 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥12（底面）

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈するであろう。北側で第780号ピット，南側で第787号ピットと重複し，全容は明らかではない。底面全体に12個の石を有する。第780号ピットより古く，第787号ピットとの関係は不明である。

遺物：なし

第789号ピット（第128図，図版四十七）

①97 ②68 ③AB ④Ⅲd ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土（Ⅰより明るい） Ⅳ暗褐色土 Ⅴ暗褐色土（Ⅳより明るい） Ⅵ暗褐色土（Ⅴより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。西壁上方に攪乱を受けている。

遺物：なし

第790号ピット（第128図，図版四十八）

①128×110 ②16 ③BA ④Ⅳb ⑤不明 ⑥1（下層）

層位：Ⅰ暗黒褐色土 Ⅱ黒褐色土

概要：円形，フライパン状を呈し，南側下層から石1個が出土した。

遺物：晩1，統（C₂またはD1）

土器（第158図）790-1 縄文時代晩期土器

第791号ピット（第127図，図版四十八）

①85×74 ②41 ③AA ④Ⅲc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ褐色土 Ⅳ暗褐色土 Ⅴ黒色土（Ⅰより明るい） Ⅵ褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：早2，統縄2，不1

第792号ピット（第126図）

①78 ②22 ③AA ④Ⅱb ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ黒色土 Ⅱ暗褐色土 Ⅲ暗褐色土（地山ブロック混入） Ⅳ褐色土 Ⅴ暗黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。南西部に攪乱を受けている。

遺物：早1，統（A2，B1）不4

土器（第158図）792-1，2後北A式土器

第793号ピット（第128図，図版四十八）

①112×111 ②63 ③AA ④Ⅳd ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ焼土 Ⅱ黒色土 Ⅲ暗黒色土 Ⅳ攪乱 Ⅴ暗褐色土 Ⅵ黒褐色土 Ⅶ暗褐色土（Ⅴより暗い） Ⅷ黒色土（Ⅱより暗い） Ⅸ黒褐色土（Ⅵより明るい）

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面はほぼ平坦である。

遺物：晩2，統縄1，統（恵山2，A2，B2，C₁1，D1，北大1）不2 くぼみ石1

土器（第158図）793-2，5縄文時代晩期土器 793-1後北A式土器 793-4後北C₁式土器 793-3後北D式土器

第794号ピット（第127図）

①76×69 ②30 ③AA ④Ⅰc ⑤不明 ⑥

層位：Ⅰ暗褐色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ暗黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅳ暗褐色土（Ⅰより明るい） Ⅴ黒色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。

遺物：なし

第795号ピット（第128図，図版四十八）

①99×93 ②35 ③AC ④Ⅲc ⑤不明 ⑥3（中層）

層位：Ⅰ暗黒色土 Ⅱ暗黒褐色土 Ⅲ黒色土 Ⅳ暗黒褐色土（Ⅱより明るい） Ⅴ黒色土（Ⅲより暗い） Ⅵ黒褐色土

概要：円形，摺鉢状を呈し，底面は平坦である。西側から木炭，南側中層から3個の石が出土した。

遺物：フレーク4

第796号ピット（第35図）

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：円形，皿状を呈すると思われるが明確ではない。中央に小ピット1個を有する。第146号，第147号，第148号ピットと重複している。第146号ピット参照。

遺物：

第 797 号ピット (第 56 図)

①53 ②10 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：円形，皿状を呈するであろう。第 281 号ピットと重複する。

遺物：なし

第 798 号ピット (第 60 図)

① ②53 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ黒褐色土 Ⅱ黄褐色粘土

概要：円形，摺鉢状を呈するであろう。西壁の一部がセクションにより確認されただけで，他は第 307 号，第 308 号ピットにより切断されているため全容は不明である。

遺物：なし

第 799 号ピット (第 63 図)

①67 ②6 ③ ④ ⑤ ⑥

層位：Ⅰ暗黒褐色土

概要：不整形円形，皿状を呈するであろう。南側は半分以上第 332 号ピットと重複し，全容は不明である。新旧関係は本ピットが新しい。

遺物：なし

第 800 号ピット (第 71 図)

①90 ② ③ ④ ⑤ ⑥

層位：

概要：楕円形を呈すると思われるが，東側で第 380 号ピット，南側で第 381 号ピットと重複しているため全容は不明である。新旧関係も不明である。

遺物：

第2節 発掘区出土遺物

A 土 器

発掘区出土土器は、縄文時代早期、中期、晩期、統縄文時代、擦文時代の広汎にわたっている。次に大きく分類し、その概略に触れる。

第Ⅰ群土器

縄文時代早期の土器が主体であり、次の2類に分けることが出来よう。

第1類土器（第164図1～15, 22, 23）

絡縄体圧痕文、撚紐圧痕文、縄文を主体とするものである。口唇部に撚紐圧痕文をつけ表面に絡縄体圧痕文をつけるもの（1）、撚紐圧痕文の横走するもの（3, 4, 5）、縦走するもの（2, 6, 7, 8, 9）がある。10, 11は、横走する組紐圧痕文と縄文の組合せによるもの。12, 13は、縄文を主体とする。15は、上段に縦走する組紐圧痕文、中段に横走する組紐圧痕文を施し、下段に絡縄体圧痕を施文する。22, 23は、絡縄体圧痕を施す。

第2類土器（第164図16～19）

貝殻条痕文および同腹縁文を主体とする。17は、口唇に刻み目を施し、以下横走する条痕をつける。19は、貝殻腹縁文を施す。

第Ⅱ群土器

縄文時代中期の土器を主体とする。大きく分けて2つに分けられよう。

第1類土器（第164図25～28）

口唇に折り返し、または貼付の肥厚体をめぐらし、縄文を施文する（25～27）。胴部破片に貼付帯の見られるものがある（28）。

第2類土器（第164図29～40）

口唇部の横走する連続刺突文と、頸部をめぐる円形工具による刺突文が主体となり、地文として、表裏に縄文を施文する（29）。口縁部破片で、円形刺突文はみられないが、連続刺突文を施文するもの（30～32）がある。表裏共に縄文の施文されているもの（34～37）等がある。

第Ⅲ群土器（第165図41～87, 第166図88～128, 第167図131～151）

第Ⅲ群土器としたものは、縄文時代晩期に属するものである。

41～85は、縄文を主体とするものである。41～55は、口唇部に刻み目を施文し、更に縄文をつける。56～60は、地文としての縄文と口唇部の刻み目を主体とする。58～70は、口唇に縄文をつける。71～75は、地文としての縄文のみ見られるものである。78, 79は、口唇裏側に撚紐を押圧する。80～84は、大型の突起を有する器形の土器である。81は、くの字に外反する器形で突起頂部に1対の刻み目を有し、穿孔が見られる。82は、口唇部に刻みを有する土器。87は、口縁部裏面に横走沈線と縄文を施文する。88～92は、縄文を施文し、裏面に沈線による文様帯を有するも

ので、92では、穿孔が見られる。93は、表面に縄文と沈線による文様を施し、裏面にも沈線の見られる例であり、やはり穿孔が見られる。96~128は、いずれも地文としての縄文と沈線による文様を構成するものである。96~99は、いずれも沈線による三角形の文様を作出する。10~107は、横走沈線を主体とし、口唇部に縄文、或は刻み目を施文する。108~114は、横走沈線と縄文を主体とする。115~119は、横走沈線の下部に円形竹管様の工具により刺突文をめぐらす。120~124は、沈線により工字文風の文様を作出する。125, 126は、横走沈線に、縦走する沈線を配する。127は、突起を有する土器で、突起部には刻み目をつけた隆起帯にかこまれる三角形の無文帯を有する。内面にも沈線と縄文による文様が見られる。128は、無文帯を大きく持つ。131~135は、前述の土器より小型の器形のものが多く、地文としての縄文と細目の沈線による文様を有する。136は、B状に近い貼瘤を有し、沈線による文様を作る。143も同様な土器の破片であろう。137~139は、沈線による曲線の文様を描く。141, 146, 147は、いわゆる爪形文を施文する例である。

第Ⅳ群土器 (第167図153~173, 第168図176~187)

統縄文時代の土器で沈線による文様構成を主体となすものである。

153~157は、縄文に横走する沈線を配するもので、153, 156, 157は、口縁部が外反する。158は、口唇の刻み目と、横走する縄文と同じく横走する連続刺突を配し、沈線による三角形を形づくる。159, 162は、口唇の刻み目と、横走する沈線に縦走する2本の短い沈線をつける。八の字形の文様をつけるもの(171)も見られる。167, 170は、沈線による連続弧状を描くものである。176, 187も、沈線を主体とする土器である。

第Ⅴ群土器 (第176図2, 第168図188~205, 第169図206~222, 228)

いわゆる後北A式土器と呼ばれているもの、あるいは、それに近いものを本群とした。

第176図2は、底部のみを欠く土器である。口縁部に爪形の刺突文を数列めぐらし、これよりY字状の貼付帯をつけ、以下斜行の刻み目と縞状縄文と爪形文を施文し、以下縄文である。いわゆる縞状縄文と三角列点文を主体とする土器群であり、口唇部には例外なく刻み目を有する横走する沈線を用いるもので、裏面にも統縄文を施すもの(198)、同じく横走沈線と、これを連続する如く配される斜行の刻み目状の沈線を配するもの(202, 203)、縞状縄文、三角列点文、斜行の刻み目状の沈線を配するもの(201, 204, 206~213)、これらの文様要素のすべて持ち合せ、刻み目のある隆起帯を配するもの(214~217)、沈線による鋸歯状文を作出する(228)などがある。

第Ⅵ群土器 (第169図223~227, 229~249)

刻み目を有する隆起帯と、三角列点文、斜行する刻み目状の沈線等を主体とするものである。口唇部には、例外なく刻み目がつけられる。刻み目を有する隆起帯を三角形、四角形状に配するもの(233, 243, 246~249)が最も多く、弧を描くもの(244, 245, 250)は少ない。

第Ⅶ群土器 (第170図251~272)

微隆起線により弧状を描き、縞状縄文と列点文が主体となる。

第Ⅷ群土器 (第176図3, 第170図273~288)

口唇部にめぐらす数条の隆起線上に刻み目をつけ、三角列点文と縞状縄文と、更にこれを囲む状

態で配する微隆起線文が主体となる。

第Ⅸ群土器 (第176図4, 第171図289~310)

第176図4は、波状口縁で、縞状縄文と、三角列点文による文様を描く。口唇部にめぐらす刻み目をつける数条の隆起線と、縞状縄文でやや直線的に描く文様を有するものである。

第Ⅹ群土器 (第176図5, 第171図311~329, 第172図330~367)

北大式と呼ばれているものを一括した。

第176図5は、無文の注口土器。311, 312は、縄文を施文口縁部に外側からの円形刺突文を有するもので、311は、口唇部にも文様を有する。同じく縄文を施文し、これに、微隆起線文を配するもの(313)、微隆起線と円形刺突文を有するもの(314~318)、爪形刺突文と沈線文、円形刺突文を配するもの(322~324)、頸部にかけて縦位のハケ様工具による整形痕が見られ、沈線で格子状文を形づくったもの(325, 327, 328)がある。320以下は無文のもので、口縁部に一段ないし二段の円形刺突文の見られるもの(330~341)。341~367は、無文のものであるが、焼成等から、この群に入れてもよいであろう。

第Ⅺ群土器 (第171図329, 第172図370)

土師系の土器であり、329は深鉢形、370は、明瞭な陵を有する内黒の杯形土器である。

第Ⅻ群土器 (第172図372~380)

擦文時代の土器を一括した。372~377は、いずれも深鉢形の土器の口縁部から頸部の破片であり数条の横走沈線が見られる。378~380は、第Ⅺ群に属するものであるかもしれないが、一応本群に入れた。壺形土器である。

B 土器底部

第173図1~11は、第Ⅰ群第Ⅰ類土器に属するものであろう。器形は、いずれも底面に移行する直前に大きく外反する。縄文を施文し、縦位の撚紐を押圧するもの(1~3)、指頭状の押圧を行うもの(4, 5)、組紐圧痕と縦位の撚紐圧痕によるもの(7, 10)がある。第173図14, 15, 16, 第175図1, 2は、第Ⅰ群第Ⅱ類土器に属しよう。器形は、第Ⅰ類土器ほど外反しない。第173図14, 15, 第175図1は、横位の貝殻条痕文を施文し、第173図16, 第175図2は、無文である。

第173図12, 13, 17, 18は、第Ⅱ群土器に属するもので、縄文を施する。

第173図19~36は、第Ⅲ群土器である。底面へ緩やかに移行するものが多く、26, 31の如く鋭角になるものは、非常に少なく、底面にも縄文を施文する例が多い。

第175図4~46は、第Ⅳ群以降の土器に属するものであり、4~15は、揚底となっており第Ⅳ群から第Ⅷ群に、16, 17は第Ⅸ群に、19~46は、第Ⅹ群から第Ⅻ群に属するものであろう。

以上Ⅻ群に分けて述べた土器は、第Ⅰ群第Ⅰ類としたものは、東釧路Ⅲ式に、第Ⅰ群第Ⅱ類としたものは、沼尻式土器あたりに比定できようか。

第Ⅱ群第Ⅰ類土器は、伊達山式土器、第Ⅱ群第Ⅱ類土器は、トコロ第6類であろう。

第Ⅲ群土器は、一括の時期とすることには、かなり問題の含むものであろう。本遺跡出土のもの大半は、種々問題もあろうが大きく見て従来より一般的にタンネトウL式土器と総称されていたものとして捉えることができよう。ただ、第176図131～147の土器は、やや古く位置づけられるべきであらう。

第Ⅳ群土器は、いわゆる恵山式土器の系統を行くものであり、第Ⅴ群土器は、大きく見て後北A式土器として捉えられようか。

第Ⅵ群は、後北B式土器、第Ⅶ群は、後北C₁式土器、第Ⅷ群は、後北C₂式土器、第Ⅸ群は、後北D式土器、第Ⅹ群は、北大式土器といえよう。

第Ⅺ群は、土師器、第Ⅻ群は、擦文式土器である。

C 石 器

本遺跡からは、約230点の石器が出土している。石器の器種としては、石鏃、石銛、各種のナイフ状石器及び削器、搔器及び靴型石器、円錐形石核、各種の石斧、敲石、石錘、砥石(含凹石)、各種の擦石などがある。

本遺跡から出土した土器は、前述した通り縄文時代早期末～前期初頭、中期後半、晚期中葉と末葉、続縄文時代全般(含北大式)、擦文時代初頭などであるが主体を占めるものは、タンネトウL式、恵山式、後北A式の縄文晩期末～続縄文初頭のグループと後北C₂、D、北大式の続縄文時代末期のグループである。従って、発掘区から出土した石器は、おおむねこれら2つの時期に伴出した例が多いと判断されるが、正確な土器型式との伴出関係は明らかではない。従って、事実記載に主眼をおき、形態型式論を基準に分類した。石質は、とくに断らない。第3表を参照にして頂きたい。

1. 石 鏃 (第189図1～41)

1～26までは無茎石鏃、27～41までは有茎石鏃である。無茎石鏃は、大きく3つの型式に分けることができる。(1)は、尖頭部の長さ(a)と最大幅(b)との比($\frac{a}{b}$) (以後指数という)は、1.2～1.9の枠内に収まる例で、尖頭部の長さに対して、逆刺部分の幅がやや広いものである。1～17までがそれに相当する。(2)は、指数が2.0～3.3の枠内に入り狭長の例で、全長が、15～25mm程の小形のものである。18～22が相当する。(3)は、指数が2.4～3.1の枠内に入り、(2)とほぼ同じ値であるが、全長が27～34mmで、長いものである。23～26がこれに相当する。加工は、すべて両面ないし半両面加工であるが、1、12、13、15、16、22例においては、素材面が幅広く残っている。素材は、縦長、横長剥片の両者を利用しており、特にまとまりはない。なお、24は平坦な押圧剥離が細かく入っており、縄文早期の狭長鏃に類似している。重量は、11、21の0.2gを最小とし、最大は26の1.9gであるが特にまとまりはない。

有茎石鏃に関しては、大きく二型式に分けられる。(1)は、指数2.9前後にくるもので、尖頭部が狭長で、全長も比較的長く、逆刺の作出が不明瞭な例である。27～30これに相当する。(2)は、指数が1.0～2.1の枠内に収まるもので、逆刺が明瞭で、全長は、1.7～3.3mm程で短かい例である。31～39がこれに当る。加工は、殆ど両面加工である。ただし、29と38には、幅広く素材面が

残り、半面加工である。重量は38の0.3gを最小とし、最大は27の1.8gで、特にまとまりはない。

40, 41は、以上の分類の範疇から外れるもので、41は、石鏃の未成品と思われる。

なお、10の先端エッジはまめつしており、25は、b面上端に深い擦痕が観察される。また22は、先端部分が焼けている。

2. 石 鋸 (第189図42~48)

42, 43は、全長6cm余の大形の例である。42は基部が長く、43は尖頭部が長い。素材面は、43のa面に幅広く残っていて、素材が横長剥片であったことが判る。また、尖頭部の先端が少しまめつしている。44, 45は、全長4cm余の尖頭部の形態が正三角形に近い例である。共にb面に素材面が残っている。46~48は、破片である。ただし、48は大きさからいって、石槍の茎部片の可能性もある。

3. ナイフ状石器及び削器 (第190図49~71, 第191図72~91, 第192図92~118, 第194図153~166, 第200図208)

ナイフ状石器及び削器としたものには、種々のものを含むが、大きく4型式に分けられる。(1)は、つまみのついた例で、所謂「石匙」といわれるものである。全例が縦形である。49~61が、これに相当する。49, 50, 53は、縦長剥片を素材にして、その背面、全面ないし側縁に加工を加えている。このうち50は、b面右側縁にも挟い一列の加工がある。つまみは両面から加工を加えていて明瞭である。51は、横長剥片を素材にし、b面右側縁にも加工がある。52は、一次剝離面で、ここに加工が集中する。b面には原石面が幅広く残っている。54は、両面に原石面があり、原石が極めて扁平なものであった事が判る。半両面加工である。a面右エッジがまめつしている。55, 56は、縦長剥片を素材に、a面に側縁加工をしているが、つまみの作出はあまり明確ではない。共にb面は全体にまめつしている。57, 58は、やや不定の縦長剥片を素材にしたもので、59は横長剥片を素材にしたものである。いずれも、つまみの作出は顕著ではない。57のb面には、全体に細かく浅い傷がある。60は、石匙の先端部破片である。(2)は、つまみはないが、尖頭部を一端に作出している例である。62~72がこれに当る。62~65, 68, 72は、片面加工ないし側縁加工であるが、b面の側縁にも加工がある例である。素材は、65, 68を除いて縦長剥片である。65と68は、横長剥片である。66, 67, 69, 70は、a面全周に比較的背の高い加工を施こし、b面には70を除いて加工は認められない。67を除いて、素材は縦長剥片である。69以外は、いずれも上端を欠損する。69のb面バルブ付近には、斜めに深い傷が観察される。71は、両面加工の例で、柄部を作出する傾向がある。先端及び柄部は欠損している。(3)は、縦長剥片を素材にし、その側縁に二次加工を施こしたものである。73~91が、これに相当する。73, 74は、a面左側縁とb面上部から左側縁にかけて加工がある。74には、a面右中央にも少し加工が入っている。両例共b面には明瞭な擦痕がある。なお、74はa面が一次剝離面である。75は、b面が一次剝離面であるが、ポジティブバルブである。a面両側縁と下端に加工がある。76~79は、剥片の両側縁に比較的粗な二次加工を施こしたものである。78, 79では、b面に擦痕がある。80~84はやや幅広の縦長剥片のa面の両側縁ないし一側縁に粗な加工をした例である。83には、b面に擦痕がある。85, 86は破片である。87, 88は、

a 面両側縁を下端に、入念な加工が入った例である。89 の母型は、大形の両面体石器ないしは扁平石核である。b 面に母型の剝離面が残っている。90, 91 は、a 面両側縁に二次加工をしたものである。91 は、挟長の素材を利用している。

92~114 は縦形ないし矩形の剝片の側縁に二次加工を加えたものである。98, 99, 104 は、加工が一次剝離面側にある。99, 101~103 には、a 面ないし b 面に擦痕が観察される。115, 116 は三角形の矩形剝片に 2 面ないし 3 面に比較的背の高い加工を施している。117 はノッチ状に加工が入っている。118 は半両面加工である。(4) は、153~166 で横長ないし矩形剝片を素材にした例である。160, 163, 166 例を除いては、加工に一つのパターンがある。即ち、a 面下端と a 面ないし b 面の一侧縁を加している。本遺跡における特徴的なナイフ状石器の 1 つである。153, 158, 162, 164 の b 面には、擦痕がある。160, 163, 166 は、円形搔器に近い例であるが、b 面にも加工があり、刃部はハマグリ状になる。208 は、大形の横長剝片の一侧に二次加工を加えたものである。

4. 搔器及び靴型石器 (第 193 図 120~146, 第 194 図 147~152)

120~145 は、搔器である。120, 121, 123, 137 は、やや幅広の例である。122, 124~136 は、円形搔器である。122, 124, 130 は、一次剝離面側に加工がある。127, 129, 135, 136 の b 面は、ネガティブバルブで、扁平石核を利用した可能性もある。138, 139 は破片である。138 は焼けている。140~145 も小形の例であるが、短形で、背の高い刃部加工は、一端のみである。132, 139, 144, 144 の b 面には、擦痕がある。146~152 は、靴型石器である。146 は、柄を作出している。147 は、片面加工に近く、b 面右にも加工がある。刃部は斜めである。148 は、一端の刃部加工は、比較的背が高いが、刃部は斜めである。149~152 は、いずれも黒耀石の例で、両面ないし半両面加工であるが、いずれも一端に斜めの刃部を作出している。152 には、b 面に擦痕がある。

5. 扁平石核 (第 192 図 119)

119 は、円錐形の剝片石核である。打面は調整されている。

6. 石斧及び同未成品 (第 195 図 167~174, 第 196 図 175~187, 第 197 図 188~193, 第 198 図 194~199, 第 199 図 200~205)

167 は、扁平な河原石の一端に研磨し、刃部とした局部磨製の石斧である。168 は、扁平に荒割りし研磨したもので、刃部は使用によって刃こぼれしている。169 は、扁平な河原石の側縁を一部荒割りし、刃部部分のみを軽く研磨している。170 は、擦切磨製石斧で、刃部の使用痕は顕著であり、刃部はやや片刃的である。171 は、入念に全面研磨されているが、素材は荒割り礫かと思われる。172 は、荒割りした素材を入念に研磨した例で、挟長のもので、所謂「平のみ形石斧」(上野 1973) に相当しよう。173 も挟長の例で、a 面の研磨は入念であるが、b 面は粗い。断面形は、カマボコ形で、「丸のみ形石斧」に近い形態である。a 面刃部とその上、そして b 面の刃部の一部に使用痕がある。174 は、擦切石斧の可能性もある。刃部は片刃的である。175 は、片刃石斧である。176~185 は、磨製石斧の柄部ないし刃部の破片である。186 は、石斧の形態を呈し、入念に研磨されているが、下端に、刃部を作出しておらず、かなり丸味をもっている。素材は、擦切の可能性はある。187, 188 は、大形で、扁平な石斧の破片である。189, 205 は、特異な例で、断面形が角柱状

である。小破片のため全体形は窺いえない。190～204は、石斧の未成品で、荒割りしただけの例である。ただし、193、195、196、199、201、203、204は、一部研磨している。また、196、200例では、繰り返しの敲打をした跡がある。

7. 敲石 (第199図206, 207, 第202図234)

206は、扁平、狭長な河原石の一端に、敲いた跡がある。207は、a面左側縁に繰り返しの敲打の跡がある。234は、柄付の例である。側縁を打割して、細身に柄部を作出している。下端には、繰り返しの敲打の跡がある。

8. 石錘 (第200図210～215)

いずれも、両端に紐かけの打欠きがある石錘である。214例を除いては、すべて河原石をそのまま利用している。214は、全面研磨されており、砥石を再利用したものかもしれない。重量は、90～150gである。

9. 砥石 (第201図216～225)

いずれも砂岩質の石材を用いた砥石である。216～223は、扁平な例である。224、225は、棒状の例で、224は、断面が三角形で、三面を利用し、a面下部は、へこんでいる。225は、断面が四角形で、四面を利用し、各面2個ずつのへこみがある。この2例に関しては、所調「凹石」とみることもしらる。

10. 擦石 (第201図226, 第202図227～233)

227、228、231、234は、北海道式石冠の破片である。226は、扁平な河原石の一侧を擦っている。b面も研磨している。229、230、233は、断面が三角形の河原石の一稜を擦面とした石器である。230、233に関しては、幅広い側面も研磨している。

11. 環頭石器 (第200図209)

円形に研磨整形された石器で、中央部に両側から、くぼみを作出している。また側縁は面取りされ、繰り返しの敲打をうけている。環頭石斧の未成品の可能性もあるが、性格はつかみかねる。

(上野 秀一)

第5章 若干の問題点

A 墓壇の形態分類と構築時期について

本遺跡から発見されたピットは、総数 805 個であり、そのうち墓壇と思われるもの 769 個、溝状遺構 31 個、木炭を多量に混入しており墓壇と考え難いもの 2 個、いわゆる風倒木痕といわれているもの 2 個である。

これらのうち墓壇と思われるピットについて、平面形、断面形、その大きさ、深さ等により分類したものが別表に示すもので、その分類基準はA図に示すものによる。分類基準に用いた数値は、明確な意識のもとに用いたものではなく、種々問題を含むものといえようが、ここではあえてその危険をおかし、分類を試みた。

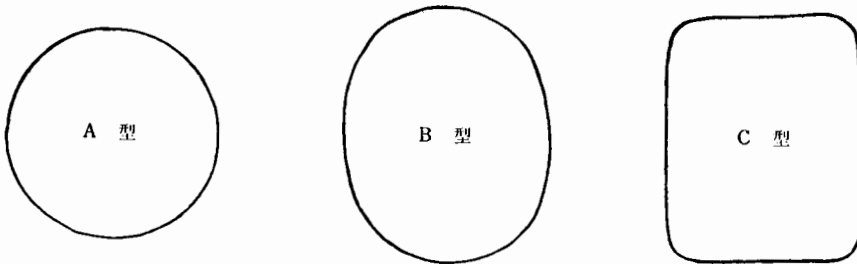
I 平面形による分類

- 1 A型-正円形を呈するもの。長径、短径の差が10 cmを越えないもの (A図)
- 2 B型-長径、短径の差が10 cm以上のもの (A図)
- 3 C型-隅丸方形を呈するもの (A図)

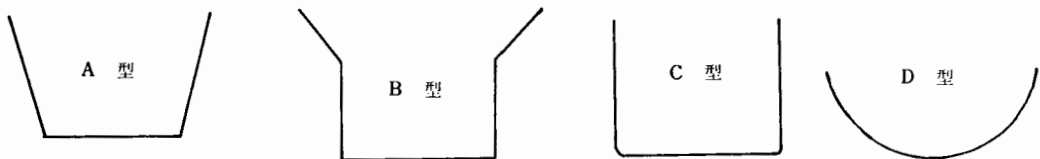
II 断面形による分類

- 1 A型-壁の立ち上りが傾斜を示し、底面と明確に区別出来るもの (A図)

1 平面形による分類



2 断面形による分類



A図ピットの形態分類図

- 2 B型-壁下方の立ち上りがやや急で、上方が緩やかになるもの (A図)
- 3 C型-壁の立ち上りが垂直に近いもの (A図)
- 4 D型-壁の立ち上りが緩やかで、底面と壁の区別が明確でないもの (A図)

Ⅲ 平面の大きさによる分類

- 1 I型-直径又は長径が 65 cm 以下のもの
- 2 II型-直径又は長径が 66 cm ~ 80 cm のもの
- 3 III型-直径又は長径が 81 cm ~ 100 cm のもの
- 4 IV型-直径又は長径が 101 cm ~ 130 cm のもの
- 5 V型-直径又は長径が 130 cm 以上のもの

Ⅳ 深さによる分類

- 1 a型-深さ 10 cm 以下のもの
- 2 b型-深さ 11 cm ~ 25 cm 以内のもの
- 3 c型-深さ 26 cm ~ 50 cm 以内のもの
- 4 d型-深さ 51 cm 以上のもの

以上の分類に従い、第1表の読み方を説明すれば、次のとおりである。

時代 区分		I (平面形の大きさによる分類)				II	IV	V			
		a (深さによる分類)	b	c	d			a	b	c	d
早期	A B (断面形による分類) (平面形による分類)	65 ↓ 時代区分が確実なもの	(65) ↓ 時代区分がやや確実なもの	— 65 ↓ ピット上面に石があるもの	— 65 ↓ ピット中位に石があるもの			65 ↓ ピット底面に石があるもの	△65 ↑ 小ピットの発見されたもの	□65 ↑ 骨粉と思われるものが発見されたもの	×65 ↑ 木炭が発見されたもの

以上の分類によれば、本遺跡発見の墓壙と思われるピット群の中で、最も多い形態は次の如くなる。

I 平面形による分類

A型-625個, B型-59個, C型-14個

II 断面形による分類

A型-516個, B型-42個, C型-35個, D型-105個

III 平面形の大きさによる分類

I型-89個, II型-193個, III型-250個, IV型132個, V型-34個

IV 深さによる分類

a型-75個, b型-311個, c型-256個, d型-56個

前述の結果に従えば, 平面形による分類のうち円形プランを呈するものが最も多く全体の約89%をしめることになる。次いで断面形ではA型とするいわゆる摺鉢形に近い形態を示すものが最も多く全体の約74%となる。

平面形の大きさでは, III型とする81cm~100cmの大きさのものが全体の約35%, 次いでII型とする66cm~80cmの大きさのものが約27%, IV型とする101cm~130cmの大きさのものが約19%となる。

深さについては, これはあくまでも発掘時点での遺構確認面であって, 構築時の掘り込み面とは, かなりの差が見られようが, 一つの指針となりうると考え分類した。全体的に見れば, b型とする11cm~25cmの深さをもつものが最も多く, 約44%も占めている。次いでc型とした26cm~50cmの深さのものが約36%である。

以上の結果を総合的に見ると, 本遺跡発見の墓壙群の形態ではAA III b型, 即ち平面プランが円形(A型)で, 断面形がいわゆる摺鉢状(A型)を呈し, 平面の大きさが81cm~100cm(III型)のもので, 深さ11cm~25cm(b型)を呈するものが最も多く, 次いで平面形, 断面形ともにAA型で, 大きさ66cm~80cm(II型), 深さ26cm~50cm(c型)のもの(AA II c型)が多いと言えよう。

次に, これらの墓壙群の構築年代と第1表による分類と構築年代の特徴, ならびに各時代の墓壙の特徴と若干の問題点について触れてみたい。

本遺跡の発掘によって発見された遺物を見ると縄文時代早期, 同中期, 同晩期, 続縄文時代, 擦文時代の広汎な時期にわたっている。それらの出度頻度は, 縄文時代晩期のものが最も多く, 次いで続縄文時代の中で後北C₂式土器, 恵山式土器, 後北D式土器, 後北A式土器, 北大式土器である。後北式土器のなかでもB式, C₁式土器はかなり数が少なく, 縄文時代早期, 中期, 擦文式土器は数片を数えるのみである。

これらの土器を出土するなかで, 遺構構築の年代を決定しうる状態で遺物の出土した墓壙は, 第1表でも明らかなように極度に少なく, 縄文時代中期1個, 同晩期22個, 続縄文時代恵山期5個, 後北A期1個, 後北C₂期18個, 後北D期19個, 北大期7個, 土師器を出土するもの3個の総計76個であり, 全体の9.8%にしかならない。更に加えて, やや大型の土器破片を出土し, 不確定ながらも時代を決定しうる要素を持ち合せている墓壙を加えても, かろうじて全体の35.2%, 271個の墓壙の構築年代が同定しうるのみである。これとほぼ同数の墓壙からは, 土器片及び石器が散発的に発見出来るのみであり, 更に, ほぼ同数の墓壙(?)からは, 全く何ら遺物を検出することなく時代を決定づけることは, 全く不可能であった。

第1表にかかげた資料をもとに, 本遺跡発見の墓壙群について大略的に見れば次の如くとなる。ピットの形態は, 縄文時代早期より続縄文時代終末にかけて, 平面形が円形で, 断面形が摺鉢

形、またはボウル状を呈するものが一般的である。これらの中に各時代ともに平面形が楕円形を呈するものが混じる。これらの一連の流れのなかで、その様相に大きな変革をもたらす時期が統縄文時代末期に見ることができる。統縄文時代末期にいたると、従来まで平面形が円形ないし楕円形を呈する墓壇に混じて、隅丸方形の平面形を呈するものが見られるようになる。

このような形態の変化も、北海道の墓壇については極めて一般的な傾向といえることができる。

次に、各時代の墓壇の様相について、その概略を記し、それらのものが、北海道の墓壇のありかたのなかでいかなる特徴を示すものであるか簡単に触れる。

縄文時代早期に比定できる墓壇の総数は5個を数えるのみである。このなかで確実に早期に比定しようと断定できるものは一例もない。墓壇の形態は、平面形が円形(A型)を呈するものが最も多く、C型に属する第752号ピット(第120図)は不整形を呈するものである。断面形は摺鉢形(A型)のもの、ボウル形(D型)を呈するものの二種ある。大きさは81cm~130cm(Ⅲ、Ⅳ型)のもののみで、深さ11cm~25cm(b、c型)の間にある。

出土遺物は、土器片、石片のみが見られ、早期の墓壇としては、楕円形の平面形が見られない点を除き、形態、出土遺物ともに一般的なあり方を示すものと言えよう。

縄文時代中期に比定しうるものは8個であり、そのうち第8号ピット(第6図)を除き、積極的に中期の所産と断定しうるものはない。

形態の窺えるもの3個のうち2個は、平面形円形(A型)を呈し、他の1個は、楕円形(B型)を呈する。断面形は、摺鉢形(A型)のもの、B型の二者が見られる。3個のうち楕円形の平面を呈するものは、大きさがⅢ型であり、深さC型に属する。他のものは、いずれもⅣ型で深さC型である。

出土遺物は、土器片、石片の出土を見たのみである。

早期、中期に属すると考えられるものでは、石組の見られたものは一例もなかった。

晩期に比定しうると考えられるものは、総数77個であり、このうちの22個が完形または大型の土器片を出土し、確実に晩期の所産であると言い切ることができよう。晩期に比定しうるものは、単一の土器形式の時期に構築されたものではなく、晩期初頭的なものから統縄文時代にまで組み入れられると思われる。ただ、この中では晩期末のいわゆるタンネットウL式土器とそれに近い時期のものが最も多く見られる。

墓壇の形態は、平面形が円形(A型)を呈するものが最も多く66個を数え、楕円形(B型)を呈するもの11個、不整形(C型)を呈するもの1個である。断面形は摺鉢形(A型)を示すものが最も多く、次いでD型のもの、B型、C型の順である。平面形の大きさでは、Ⅲ型のものが最も多く、次いでⅡ型、Ⅳ型、Ⅴ型となりⅠ型のものが3個のみ見られる。深さではb型、c型が多く、51cm以上のd型に属するものもわずかに見られ、更にa型のものが一例ある。

出土遺物は、壇口面、壇底面の両者ともに発見される場合が少なく、完形土器とやや完形に近い土器の2個を壇内から出土した第158号ピット(第38図、第161図158-1.2)が唯一の例外的なものとして取り上げることができるにすぎない。他の墓壇のは、すべて大型の土器片あるいは晩期

の土器片が主体的に、墳底に接し、または、石組の下部から発見されているのみである。

出土する石器の種類も、鏃、削器、石斧、フレークが主体であり他の遺跡と何ら変わることがなく、硬玉等の出土は見られなかった。

遺物の出土状況の中で、やや注意を必要と思われるものに次のようなものがある。第105号ピット(第27図)の石組中から発見された石皿(第184図105)は、第289号ピット(第55図)発見の石皿(第184図289)と同一個体であり、両者接合の結果約1/4程度を欠くものとなった。この両ピットは、直線距離にしておよそ35m程はなれている。第105号ピットは、平面形が明確にされておらず、墓墳としての機能を有するものであるか否かについて、かなり疑問を有する形態である。これに対して第289号ピットは、形態上から墓墳と考えるに異論のないところであり、その墳底面から石組の一部に使用されて、前記の石皿が発見された。このように同一の石皿が2つのピットあるいは場所にまたがって発見される事実から 1) 両者の墓墳が全く同一時期に構築され、何らかの事情により一個の石皿を破碎して、別々のピットに使用した。2) 第289号ピット構築の際に石皿を破碎し、一方を石組として使用し、他方を墓墳上面に置いたものが、後世の外的営力によって第105号ピットの位置まで運ばれた。3) 第105号ピットに使用されていた石皿の半分を、第289号ピット構築にあたって無作為的に石組に使用したと考える三様が考えられようか。この三様の考えの中から一つのみを摘出することは困難であり、また前記三様の他に更に様々な考えもできうることもできようが、ここでは第3番目の考えが最も妥当なものと思われる。この考えを肯定しうる資料として第12号ピット(第7図)、第50号ピット(第17図)、第642号ピット(第105図)から発見された断面三角形の擦石(いわゆる北海道式石冠の一種)がある。この種の擦石は、一般的に縄文時代早期の土器に共伴するものである。確かに前述の3個のピットからは、縄文時代早期に比定しうる土器片が若干出土しており、早期の所産と考えられないこともないが、全体的な土器の出土状況から晩期に構築されたと考えることがより妥当性があると言えよう。

これらのピットからの擦石の出土状態を見ると、第12号ピットは墳底面近くの19個の石組中に見られ、第50号ピットでは墳口面に見られた3個のうち1つである。上述の発見状態は、後世の混入とは考え難く、構築時に意識的に置かれたものといえよう。

以上の事実から見ると、墓墳の墳口面であれ、あるいは墳底面であれ石組に使用される石は、それ程厳選されることなくかなり手近かなところから無作為的に集められたということができよう。

石組中に石皿を使用する例は、第739号ピット(第118図、第186図739)にも見られる。

本遺跡の墓墳群に石組が見られるようになるのは、時代の確定しているもので見る限り縄文時代晩期以降からであり、墳口面、墳底面ともに見られるもの相半ばしており、使用される石も、大型の石器、例えば石皿、擦石、敲石等から、河原石を打ち欠いたもの、人頭大の河原石まで様々見られる。

以上、晩期に比定しうる墓墳の特徴的なものの二、三について述べたが、なかでもとりわけ77個の墓墳のうち完形土器を副葬するものが一例という事実は、あまりにも貧弱な様相を呈しているように思われる。しかし、重松和男の集成資料(重松1972)によれば、縄文時代の墓墳全般を通じて、

墳内に完形土器を副葬する例は、極めて少ないようである。特に、北海道の墓制の上で大きな変革をもたらす後期の静内・御殿山遺跡（河野・藤本他 1953）をはじめ斜里・朱木栗沢遺跡（河野 1955）などの豊富な副葬品を出土する遺跡においてさえも墳内から完形土器の出土例は極めて少ない、特に前者においては一例も見ることが出来ず出土土器の多くは、墳口面に見られるものでその発見数も全体の約 11%程度である。また、墳口面、墳内とを問わず副葬品の全く見られないものが全体の約 64%あり、遺物の種類の多様さを除けば、本遺跡のあり方と大きく変わるものではない。

この傾向は、晩期に至っても、大きく変化することなく、完形土器が墳内から副葬品として発見される例は、極めて少ないようである。例えば、本遺跡に時間的、距離的に近い千歳・ママチ遺跡（石川 1971）においても 101 個のピットのうち、完形土器あるいは完形に近い土器を出土したものは 6 例のみである。また、恵庭・柏木川遺跡（高橋 1971）でも、擦文時代の墓墳 1 個を含む 135 個のピット群が発見されているが、完形土器を出土したものは、擦文時代の墓墳 1 個と縄文時代晩期の 2 個のみである。他の 132 個のピットの構築時代がいずれの時期に含まれるか明確にはできないが、遺跡全体の遺物の出土状況から見るとその多くは縄文時代晩期に構築されたと考えることができるようである。更に、距離的にやや遠くなるが東川・幌倉沼遺跡（佐藤 1966）でも 45 個のピットのうち 8 個のピットから完形土器を出土しているのみである。また鶴川・花岡遺跡（大場・扇谷 1964）でも 20 個のピットのうち完形土器を出土したものは 2 個のみである。

前述の遺跡の遺物の少ないピット、あるいは遺物を全く出土しないピットのすべてが、晩期に同定しうるか否かについて大いに問題を含むものであり、また、それらのすべてが墓墳であるか否かの議論もあろう。ここでは、一応それらの問題を保留して考えるならば、本遺跡発見の晩期の墓墳と考えるピット群の中から完形土器の発見が一例のみである事実は、その出土の割合が、前述の遺跡群のありかたから見て、やや低いと言えるが、全く特異な様相であるとはいききれない。

出土遺物のすべてについて個々の遺跡および遺構について見ると、個々にわずかに個性が見られるが、総体的に見るならば東川・幌倉沼遺跡のピット内からの土器片の出土数が多い点、千歳・ママチ遺跡の墳口面からの遺物の出土数が多い点の 2 点を除けば、晩期の墓墳の様相はおおよそ本遺跡のものに近似すると言えよう。

また、北海道の墓墳の多くに認められるベンガラ存在については、本遺跡では明確には検出できなかった。他遺跡の例、特に前述の遺跡に限って見れば、東川・幌倉沼遺跡 1 個、恵庭・柏木川遺跡 2 個、鶴川・花岡遺跡 4 個のピットから発見されているのみで、その量、発見数は決して多くはないようである。

縄文時代晩期の墓墳の中で、時期的に本遺跡と時期的に近い大洞 C₂、A 式の土墳墓のあり方について詳細に対比検討する必要がある。この時期のものとしては現在のところ蘭越・大照寺遺跡（竹田、1970）、木古内・札刈遺跡（野村他 1973）などがある。特に、木古内・札刈遺跡のものは、方形に近い平面形態を呈するピットであり、明らかに本遺跡例などとは異なる。

今後は、いわゆる大洞式土器の文化圏と本遺跡のような北海道的な様相の強い土器を有する文化圏での墓墳のあり方に十分な留意をはらっていかねばならぬ。

統繩文時代恵山式期の所産と考えられるものは15個であり、そのうち5個が確実に恵山期と同定しうる。

墓墳の形態は、平面形が円形（A型）のものが主体であり、楕円形（B型）のものが2例見られる。断面形の形状では摺鉢形（A型）のもの8個、壁が垂直に立ちあがる（C型）のもの3個、ボウル形のもの（D型）3個である。平面形の大きさではⅠ型～Ⅴ型まで見られ、深さもb型からd型まで見られる。

出土遺物は、第91号ピット（第24図）から完形土器2個（第161図91-1. 2）と石鏃13、石斧2、ナイフ1、削器1（第178図1～15. 18. 19）が出土している。1つの墓墳からの遺物の出土量と種類では、各時代を通じて最も豊富な出土量を示している。また、墓墳の形態もACVdに分類される。平面形の大きさⅤ型で深さd型を呈するものは、各時代を通じて見ても、この他に3個発見されているにすぎない。

第91号ピットの墳底面からの遺物の出土状態は、南北両側壁に片寄った状態で見られ、想像をたくましくすれば、遺体は東西方向に安置されていたものといえようか。この他に第796号ピットからは、底部を欠く半完形の土器（第163図796）が発見されている。

土器以外の遺物では、第375号ピット（第70図）底面から大型の石錘状の石器（第186図375）が発見されている。これに類する石器は、札幌・坊主山遺跡（畑196）（札幌市教育委員会遺跡番号T310遺跡）周辺からも出土している。T310遺跡は縄文時代早期から擦文時代に至る遺跡であり、その石器の所属する年代については明らかにすることができない。本号ピットもただ1片の土器片が墳底から発見されているのみで、確実に恵山期のピットであると同定するにはかなり危険がともなう。また前述のように、墓墳の石器は副葬されたもの以外は、手近かなところより運んで使用する傾向が見られるので、このような大型の石錘状の石器を恵山期の遺物と断定することは、差し控えなければならない。

恵山式期に属するものでは、出土遺物にかなりの多様性を見出すことができるようになる。例えば石狩・紅葉山33号遺跡（藤本・木村1963）では、完形土器の出土例は見られないが、石鏃、玉類等の出土がある。また道南地方の恵山期の墓のかなり多くから完形土器の副葬が報告されるようになり、石器類の器種も激増する。

後北A式期に属するものは14個であり、そのうち2個の墓墳から完形に近い土器が出土しており、確実に後北A期と言うことができよう。

墓墳の形態は、平面形が楕円形（B型）のもの一例を除いて、他はすべて円形（A型）を呈する。断面形は摺鉢形（A型）のものが最も多く、D型のもの2個、B型、C型のもの各1個である。大きさは、Ⅱ型、Ⅲ、Ⅳ型がほぼ同数見られる。深さは、b型、c型が一般的で、d型のものが一例のみ見られる。

出土遺物は、第253号ピット（第51図）、第678号ピット（第109図）からそれぞれ完形に近い土器が出土している（第161図253、第163図678）。

後北B式期に属するものは4個であり、確実にB式期と断定しうるものは一例もない。

墓墳の形態は、円形プラン（A型）のみで、断面形は、A型、D型の2者がある。大きさは、Ⅲ型、Ⅳ型に属し、Ⅳ型のものは、深さ10cm以下（a型）である。

出土遺物は、土器破片が主体である。

後北A、B期に属するものの墓墳からは、明確に金属器の伴出するものが知られるようになるなど、完形土器その他の副葬が多くなるのが一般的な傾向であり、本遺跡のものは、他遺跡の該期の墓墳に比し、極端に出土遺物が少ないと言えよう。

後北C₁式期に比定しうるものは2例のみである。形態的には、平面、断面ともにA型を呈し、大きさはⅢ型、Ⅳ型である。深さはd型の深いものが見られる。

後北C₂式期に同定せしむることができた墓墳は、縄文時代晩期に所属するものに次いで多くなる。確実に時代を決定できるものは18個で、不確定ながら時代を決定しえたもの43個を加えて、該時期のものは総計61個である。

その形態は、平面形では円形（A型）を呈するものが最も多く、楕円形（B型）を呈するものは5個のみである。断面形では、摺鉢形（A型）のものが最も多く、B型6個、C型2個、D型4個である。平面形の大きさでは、Ⅱ型、Ⅲ型のものが多く、次いでⅠ型、Ⅴ型、Ⅳ型の順となる。深さではC型が多く次いでb型となり、a型、d型は非常に少ない。

出土遺物は、完形土器、あるいは完形に近いものの副葬が多くなり、約10点近くの土器が出土している。

後北D式期のものとしては54個の墓墳がある。このうち20個は時代を確定することができ、他のものは、不確定ながら本期に属させた。

形態は、円形（A型）の平面プランを有するものが最も多く、楕円形（B型）のものが2個見られる。この他に本期の特徴としては、隅丸方形（C型）の平面プランを有する第357号ピット（第68図）の出現である。これは縄文時代の墓墳に見られた不整形のプランではなく、かなり規格化した形態を有するものである。ただ、深さを見ると、10cm以下（a型）の深さを有するものであり、確実に墓墳として使用したと認定するには、一抹の不安を感じる。

断面形の形態は、摺鉢形（A型）のものが最も多く、次いでD型、B型、C型とほぼ同数見られる。大きさでは、Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型のものが多く、Ⅴ型を示すものは方形の一例のみである。深さでは、b型、c型が多く、a型2個、d型3個である。

出土遺物は、第41号ピット（第13図）出土土器（第161図41）や、第601号ピット（第100図）出土土器（第163図601）などがある。また、第539号ピット（第91図）から、後北C₂式とD式に編入しうる2個の土器が出土している。第163図539-1は、いわゆる後北C₂式土器であり、第163図539-2は、後北D式の要素が多分に多い土器と言えよう。これは、近ごろ一部で言われているように後北C₂式とD式土器が同一の時期に属するものとする考えに肯定的な資料と言えよう。

その他の副葬品では、第205号ピット（第36図）から刀子破片と思われる鉄器（第188図）が出土している。

後北 C₂、D 式の時期に至っても、副葬品の質と量は多様であり、一個の墓壙から多量の完形土器の出土する例などが見られる。ただ、札幌・N 162 遺跡(上野他 1974)に見られる後北式の墓壙と考えられるピットからの遺物の出土量は非常に少なく、後北式期の一般的な様相とかなり異なるものが見られる。本遺跡例でも、副葬品の全体的な量は、札幌・N162 遺跡を除く他遺跡のそれに比べてかなり少ないと言えよう。このことは、野幌丘陵西端から札幌扇状地にかけての該時期の墓壙の地域的な特色として捉えることも可能であろう。

北大式期に比定しうるものは総計 30 個である。このうち確実に該期に同定しうるものは 7 個である。

本期の墓壙の形態は、依然として円形(A 型)を呈するものが主流を占めており、楕円形(B 型)のものも若干見られる。これらの中にあつて、規格化された隅丸方形(C 型)に属するものの出現が見られる。この形態のものは、後北 D 式期にも一例存在したが、前述の如く深さと層堆積の面から、遺構として確定するには一抹の不安があり、本遺跡での確実な遺構としての初現は、この時期ということができよう。

断面形の形態では、A 型が多く、B 型 3 個、C 型、D 型各 1 個である。平面形の大きさでは、平面形が円形(A 型)のものではⅡ型からⅢ型まで見られる。深さでは a 型のもは一例のみで b 型、c 型が平均的である。平面形が隅丸方形(c 型)のものでは、深さは意外と浅く a 型、b 型である。

出土遺物は、第 111 号ピット(第 28 図)に見られるような植木鉢に似た形態の土器(第 161 図 111-1.2)を出土するもの、第 200 号ピット(第 44 図)出土の注口土器(第 161 図 200)、第 502 号ピット(第 87 図)出土の注口及び片口注口土器(第 162 図 502-1.2)がある。後者の 3 点の土器は、北大式というより後北式の趣きが強いのと言ふこともできよう。

隅丸方形の平面形を有するものでは、第 306 号ピット(第 60 図)、第 325 号ピット(第 62 図)からは、北大式土器の大型破片が出土している。

土器以外の出土遺物では、第 502 号ピットから第 187 図に掲げる玉 54 個が出土している。

土師器を出土する墓壙は、3 個であり隅丸方形の第 185 号ピット(第 42 図)を除いて、他のものはすべて円形(A 型)を呈する。断面形は、摺鉢形(A 型)と壁の垂直に近い立ち上がりを示す形(C 型)がある。平面形の大きさは、Ⅱ型とⅢ型であり、深さは b 型、c 型に属する。

出土遺物は、第 185 号ピットと第 383 号ピット(第 71 図)からは、形態的にほぼ同一様式の内黒の坏形土器(第 161 図 185・第 162 図 383)が出土している。

土師器を出土する第 185 号ピットと北大式土器を出土する第 184 号ピットは重複関係にあり、第 185 号ピットの方が古く構築されている。

北大式、土師器を出土する隅丸方形の形態を有するピットの長軸は、大略次のとおりである。第 185 号ピット北々西—南々東、第 244 号ピット西—東、第 325 号、第 395 号ピット西南西—東北東、第 337 号ピット北東—南西、第 306 号、第 357 号ピット北—南となる。この長軸方向は、かなりバラツキが認められ、千歳・ウサクマイ遺跡(桜井他 1975)、余市・天内山遺跡(巖山・松下 1971)の如くある一定の方向性を示すことがない。

墓壇の形態では、北大式、土師器にかけては、円形、楕円形、隅丸方形のものが同一時期に混在して見られることが一般的であり、続縄文文化から擦文文化への大きな胎動が窺える。

なお、本遺跡から発見された墓壇と考えられるピットのうち、約 628 個については遺物を全く検出できなかったか、あるいは、遺物を検出しても時代を確定することができなかったものである。前述のとおり、本遺跡のピットは、縄文時代早期、中期、晩期、続縄文時代全般にわたって構築されたものである。この時期に営なまれた墓壇には、副葬品を伴うものと、そうでないものとが必ず混在しあっていることを考えると、本遺跡のこれらのピットを、いずれの時代に比定しうるかについては、不明と言わざるをえない。ただ、重松和夫の集成した資料に基づけば、続縄文時代に比定しうる墓の多くは副葬品をとまなりことが一般的になってくるといふ事実から、大胆な推測をすれば、本遺跡の遺物を全く検出できなかったピットの多くは、縄文時代に構築されたものと言うこともできようか。しかし、重松の資料によると後北C-D式期の墓壇はすべて副葬品を伴うことになっているが、札幌で調査したN 162 遺跡の例を見ると、一言のもとに副葬品が伴うと指摘できないようでもある。

遺物の出土しないピットの中では、大きさと深さの分類でいう | a 型のものがかなり見られる。これらのなかには、平面の大きさが直径約 30 cm 前後のものが見られ、はたして墓壇としての機能を有していたものか否か不明のものがかなりある。このような小型のものは、晩期の恵庭・柏木川遺跡、続縄文期斜里・チブスケ遺跡(佐藤他 1959) など 2, 3 見受けられる。成人の埋葬施設としては、明らかに小さすぎるものであり、幼児用の墓としてとらえることもできよう。例えば、東北地方では縄文時代中期大木 8 b, 9 式期から増えて来る甕(壺)棺墓については、北海道では野村(野村1967)によって紹介されたものが見られる程度であり、発見数が極めて少ないところから、この方面からの追求もさりながら、各遺跡における小ピットの存在にも十分留意していかなければなるまい。

次に、各墓壇の覆土であるが、大きくわけて二様に分けられる。即ち、実測図中暗黒色土、また黒色土が明瞭に見られるものと、そうでないものがある。このような差異についても札幌・N 162 遺跡で行ったような検討が必要となろう。

副葬品を多数出土するピットが、同時期の墓壇群の中でどのような位置に存在するものであるか、また、集落内での各堅穴住居跡から発見される遺物相と、墓壇群のなかに見られる個々のピットの副葬品の様相との間に何らかの関連が認められるか否かについても検討を要しよう。ただ、この問題に関しては、後述の如く各墓壇にとまなり集落の判明しない例が多いために、かなりむずかしいと言えよう。しかし、直接的には結びつかなくても、同一時期の集落の堅穴住居跡と墓壇の個々の遺物相を詳細に検討することによって、ある程度の大胆な仮説をたてられるかもしれない。例えば、縄文時代後期から墓壇間の副葬品の格差が激しくなるわけであるが、これらが各個人の所有形態をあらわすものであるが、階級制の萌芽によるものか、または生業の分業形態によるものである等の問題の解決への一助となしうることはできよう。

最後に、これらの墓壇を構築した集落に関してであるが、縄文時代早期に属する遺跡は本遺跡と極めて近く、同一台地上の東側に S 237 遺跡(羽賀 1976) 見られる。S 237 遺跡は、確実な遺構の発

見は見られないが、焼土2～3箇所が存在し、墓墳が全く発見されないところより生活関連遺跡と見ることができよう。この時期では、住居跡と墓墳がかなり近接して見られるようであり(沢1969)本遺跡とS237遺跡の場合にも、有機的な関連にあるのかもしれない。

その他の時代においては、本遺跡の場合には、両者の関係について全く不明である。ただ、札幌市教育委員会では、市内の遺跡分布について、かなり明確な資料(札幌市教育委員会1976)を有しているので、今後は、この資料の検討を通じて、本遺跡構築にともなう集落について追求してゆきたい。

以上、かなり冗漫ではあるが、本遺跡の墓墳群と思われるピット群について概述してきた。北海道の墓に關しては、重松和男による詳細な論考があるので、この報告のなかでは、各時代の大まかな説明にあたっては、一つ一つ類例を挙げて説明していない。重松論文以後北海道の墓墳と思われる遺跡の報告には次のようなものがある。札幌・N293遺跡(上野他1974)、札幌・N309遺跡(上野他1975)、浦幌・十勝太若月遺跡(後藤他1975)、松前・大尺内遺跡(小柳他1975)、函館・西桔梗B₂、E₂地点(佐藤1974)、紋別柳沢19地点(松下他1975)、釧路・柏恋フンコタンチャシ(沢他1975)、釧路・北斗遺跡(沢他1975)などがある。

B 墓墳構築上の台地占地の問題

本遺跡の墓墳群は、南から北に浸入する谷をとりまく状態の台地上に構築されている。発掘された墓墳のすべての時代を確定しうるわけではないが、一応縄文時代早期から続縄文時代終末までの広汎な時期にわたって構築された墓墳が、各時代毎に如何なる占地意識のもとに構築されたものであるか簡単に触れてみたい。

縄文時代早期に構築されたと考えられる墓墳は、谷の西側の台地上の先端部に多く見られる。東側台地上にも2個の早期の墓墳が見られるが、これらも先端部に近い位置にある。

縄文時代中期に比定しうる墓墳は、西側台地上の先端部附近にのみ位置し、他の場所には認められない。

縄文時代晩期の墓墳は、谷の中心線から西側の台地上全面に多く見られ、東側台地上の全面にも散発的に見られる。一括土器を墳内から出土する墓墳も西側の台地上にのみ限定して見られた。

続縄文時代恵山式期の墓墳は、縄文時代のそれのように、台地上の特定の場所に集中して見られることなく、台地上の全面にわたって散見できる。そのなかで、特に西側の台地中程の谷寄りに一括土器を出土する3個が集中して構築されていた。

後北A、B、C₁式期になると、縄文時代の墓墳が主として西側台地上に偏在していたのに対し、谷の中心線から東側の台地上により集中して見られ、西側の台地上には1個を見るのみである。

同じく後北C₂、D式期では、再び台地の全面にわたって墓墳が見られるようになるが、とりわけ、東西の台地上の先端部には少なく、谷の奥の台地上に特に集中して見られる。土師器ならびに北大式土器を出土する墓墳は、土師器を出土するものは、谷の奥の台地上、北大式土器を出土するものは、谷の奥の台地上から西側の台地に集中して見られるようになる。

以上の分布状態は、総計 697 個の墓墳のうち時代の判明しえた 271 個の墓墳について述べたものである。他の 426 個の墓墳の帰属する年代が全く不明であるために、墓墳構築に際しての明確な占地を把握することは困難である。ただ、前述の墓墳の台地上における発見状況は、表土層の発掘にあたって発見された土器の時代別分類による分布とも、おおよそ軌を一にするものであり、本台地上の墓墳構築にあたっての占土地利用のあり方を、大略的にとらえているものと言えよう。

C 特殊な遺構について

本遺跡の一般的な墓墳、あるいは後述の溝状遺構とやや異質なピットが 3 個発見されている。第 524 号ピット (第 89 図)、第 541 号ピット (第 92 図)、第 577 号ピット (第 97 図) である。この 3 個は、いずれも円形ないしやや楕円形の平面プランを呈し、大きさは小さなもので直径 150 cm、大きなもので直径 250 cm を算し、深さ 40 cm ないし 60 cm である。

ピットの最大の特徴は、底面に略々南北に整然と並ぶ炭化木材と焼土、そして茅状の炭化物が見られることである。

出土遺物は、第 524 号ピットでは、続縄文時代全般にわたる土器片少量と円形搔器 (第 152 図・第 181 図)、第 541 号ピットでは石斧 1 点 (第 181 図 541)、第 578 号ピットでは、縄文時代早期、晩期、続縄文時代後北 C₁、C₂、D 式の土器片 (第 153 図) が散見されるのみで、時代を明確に決定しうるに十分な資料は、全く認められなかった。ただ、第 524 号、第 578 号ピットの遺物の出土状況から見ると、後北式の新しい時代に位置づけられるようである。

本遺構の性格について知る手懸りとなるピットの構造を知るうえで、底面に見られる炭化材がかなり示唆的である。いずれの炭化材もすべて底面上に焼土と混じて発見されており、茅類の炭化物が見られるところより、一種の上屋をもっていたものと思われる。本遺跡の他のピットの中にも、覆土中からかなりの量の木炭を出土している例がある。しかし、この 3 個のピット程整然と、しかも上屋構造の存在を窺うことのできる状態で発見されたものは一例も見られない。

炭化材の出土状態からすれば、ピット上の覆いは、円錐形のものではなく、片流れ、あるいは塙口面に差し渡す状態で木材を置き、その上を茅状のもので葺いたものと推測される。

これらのピットの性格についてであるが、続縄文時代後半の墓墳には、これらと同様か、あるいはより大きい墓墳もかなり見受けられることより、形態の上からは、墓墳とすることに特別に異論はない。しかし、前述の如く炭化材を出土し、上屋としての覆いが考えられることより、積極的に墓墳と断定することはやや疑問といわなければなるまい。上屋を有するものとしては、住居としての用途も考えられないこともないが、床面に炉等の施設の欠如していることなどから積極的に肯定しえない。

D 溝状遺構について

本遺跡で発見されたピット群のなかに、関東地方以北で普遍的に発見されており、「陥し穴」として取り扱われている溝状の特殊な遺構がある。遺構の発見総数は 31 個であり、大きく次の 2 つ

の形態に分類できよう。

A 型

平面形がいわゆる溝状に近い形態のものである。長軸に対して短軸のしめる比率が極めて小さなもの。

第 1 号, 第 17 号, 第 21 号, 第 96 号, 第 129 号, 第 143 号, 第 408 号, 第 411 号, 第 502 号, 第 531 号, 第 586 号, 第 646 号, 第 647 号, 第 648 号, 第 696 号, 第 700 号, 第 701 号, 第 714 号, 第 719 号, 第 720 号, 第 751 号, 第 755 号の 22 個である。

B 型

平面形の長軸に対し, 短軸のもつ比率が大きいもので, 楕円形に近い形態を示す。

第 22 号, 第 27 号, 第 123 号, 第 348 号, 第 376 号, 第 401 号, 第 403 号, 第 506 号, 第 725 号の 9 個である。この型に属するものの底面には, 小ピットの存在が認められるものが数例ある。

これらの遺構のあり方は, 一見してかなり整然とした配列のもとに構築されている。A 型のものでは, 大きく分けてピットが等高線に対して平行に構築される一群と, 直行して構築される一群の 2 種ある。更にこれを大きく見ると, ある程度の規則をもって直線上に列をなして配列されている。台地の先端部から第 647 号, 第 719 号ピットによる第 1 列, 西側台地の第 21 号ピットと東側台地の第 520 号ピットによる第 2 列, 同じく西側台地の第 129 号, 第 1 号, 第 96 号ピットと東側台地の第 586 号, 第 531 号ピットからなる第 3 列, 同じく西側台地の第 411 号, 第 143 号ピットと東側台地の第 408 号ピットによる第 4 列と分けることが可能であろうか。更に, 等高線に対し直交して構築されるピット群のうちで第 646 号, 第 648 号, 第 664 号, 第 696 号, 第 700 号, 第 701 号, 第 714 号, 第 751 号, 第 755 号ピットからなる第 5 列がある。

このうち, 第 1 列から第 4 列は, いずれも等高線に直交するピット列を構成し, 第 5 列は, 台地縁辺部に等高線に対し平行するピット列を形成する。

B 型とするピット群についても, A 型とほぼ同様な事実が認められる。即ち, 個々のピットの構築は, 等高線に直交して構築されるものと, 平行して構築されるものの 2 種ある。第 22 号, 第 27 号ピットによる第 1 列は後者であり, 第 348 号, 第 376 号, 第 401 号, 第 506 号ピットによる第 2 列と, 第 725 号, 第 123 号ピットによる第 3 列は前者の類に入れられる。

次に, これらのピット群の構築時期についてであるが, ピット内からの出土遺物が貧弱であり, 特にピット底面からの遺物の検出が全くされなかったので, 正確な構築時期は全く不明である。ただ, 本遺跡の場合墓墳と考えられるピットとの重複関係にあるものが数例あるために, 大まかな構築時代について捉えられるものがある。

A 型に属するもので墓墳との重複が見られたのは, 第 96 号, 第 411 号, 第 646 号ピットである。このうち第 96 号ピットは, 完形の恵山式土器 2 点を出土する第 91 号ピットより明らかに古い時期に構築されており (第 24 図), 第 411 号ピットと第 646 号ピットは, 縄文時代晩期の土器を出土する第 410 号, 第 646 号ピットより明らかに古く構築されている。この重複関係の結果に基づけば, A 型に属するものは, 縄文時代晩期末葉以前に構築されたものと断定できよう。構築の上限につい

ては、明確に決定しうる要素を全く持ち合せていない。ピット内の覆土上層から散発的に発見される遺物は、第 22 号、第 411 号ピットから発見された縄文時代早期の土器片が最も古く、その他の 2、3 のピットから縄文時代中期、晩期の土器片が散見できる程度である。

B 型に属するピットは、墓壙との重複関係が非常に少なく、わずかに第 725 号ピットと第 726 号、第 727 号ピットとの重複が認められるのみである。この関係では、第 725 号ピットがより古く構築されている事実を認めることができるが、第 726 号、第 727 号ピットから遺物が全く発見されていないため、構築時期について明らかにすることができない（第 133 図）。

A 型と B 型の構築時代差については、両者が完全に重複している例がなく明らかにできない。ただ、A 型の第 21 号ピットと B 型の第 22 号ピットがかなり近接して構築されており、この両者の関連セクションを見る限り、B 型の方が新しく構築されていると言える（第 129 図）。

以上、本遺跡発見のピットの構築時代に触れて来たわけであるが、北海道の他遺跡で構築時代についてのある程度適確な判断を下しうるものに函館空港第 4 遺跡（石本他 1975）がある。第 4 遺跡での該種遺構は、いわゆる銭亀沢層火山灰（4,470±100 B. P.）を切って構築されている事実がある。

さて、該種遺構の性格についてあるが、構築時代を明確に決定する要素が何ら発見できないのと同様に、性格を決定できる要素は、全く検出されていない。該種遺構の発見の状態は、本遺跡の如く墓壙と同一台地上に発見される静内・御殿山遺跡（河野・藤本 1961）、集落と同一台地上から発見される函館空港内の遺跡、単独で発見される札幌・S 293 遺跡（上野他 1975）などが見られる。こられのうち前 2 者の遺跡のうち、函館空港遺跡では、明らかに集落にともなわないものと結論づけられている。静内・御殿山遺跡では、墓壙としてとり扱われている。札幌・S 293 遺跡の単独発見例から見ると、該種遺構が単独、あるいは集合することにより、他の遺構と組み合わせられることがなくとも、十分にその機能を果していたものと思われる。

性格を決定する上で、確たる証が得られていないので、早急に断定することは慎まなければなるまいが、現時点では函館空港第 1 地点（函館市教委 196）で注目され、横浜・霧ヶ丘遺跡（今村他 1973）の調査により広くいわれるようになった「陥し穴」と考えることが、最も説得力のある意見といえようか。

E いわゆる風倒木跡について

本遺跡で発見された遺構に混じて、全く特異な形態を示すピットがある。第 75 号ピット（第 21 図）、第 92 号ピット（第 25 図）である。大きさは、長径約 400 cm、短径約 300 cm、深さ 60 cm から 100 cm である。

ピットの確認面での平面プランを見ると、北側に黒色土の落ち込みが見られ、南側では幅 5～10 cm の黒色土が環状にめぐらされており、中心部は地山土がやや盛り上って見られる。北側あるいは南側の黒色土中からは、土器片、石器等が発見されている。黒色土以外の層からは、全く遺物が検出されないのも大きな特色である。

さて、このような様相を呈するピットは、道央以南の全道にわたって見ることができ、更に、東北、関東地方にも多くの類例が見られる。発見の状態の中で注目を要するのは、札幌・S 253 遺跡（高橋 1975）の如く先史時代の遺跡と断定しえない地点からも多数発見されている。このような発見状況を見ると、能登健（能登 1974）が述べる如く風倒木跡と考えることができよう。

F 焼土について

本遺跡を形成する台地上から、前述のピット群に混在して 73 箇所におよぶ焼土が発見された。第 3 図中のローマ数字で表記してあるものである。焼土は、谷より東側の台地により多く認められ、墓壇のあり方とは対照的な状態を示す。ことに谷の奥の台地上にはわずかに数個を数えるのみである。

これらの焼土のすべてが、本遺跡を形成する遺構の構築と時を同じくするものであるか否かについては、明確な判断を下しえない。更に、遺構のなかでも、墓壇あるいは溝状の遺構に伴なうものであるか否かも全く不明である。発掘時の所見では、焼土の多くが墓壇に属するものと考えるのが最も妥当であると思われた。

墓壇群を形成する同一遺跡から焼土の発見される例は、幾つかの遺跡で見られることであり、特に異質なものではないといえよう。従来の説では、このような焚火の跡は、夜間の埋葬を考えるもの、焼土中から獣骨等の発見があるところより、葬送儀礼にともなう食料供献を行なうもの等が考えられている。

本遺跡の焼土を見ると、一度の焚火では、とうてい堆積しえないと思われる程多くの焼土が見られるものが全体の約 1/3 ほど見られ、他の 2/3 は少量の焼土しか見られない。これに加えて墓壇内の覆土中に、焼土の存在が認められたものは 55 個にものぼっている。

これらの焼土が、夜間の埋葬、あるいは食料供献用等の同一の目的をもっているならば、本遺跡の場合、全体の墓壇の約 1/3 の埋葬にあたって焚火が行なわれたということができようか。

ただ、本遺跡の場合には、これらの焼土が如何なる目的のもとに使用されたものであるかについて、積極的に解明すべき手がかりは一切発見できなかった。焼土の分布範囲と墓壇の分布範囲との関係を見ると、縄文時代晩期、続縄文時代恵山式後北 A、C₂、D 式土器を出土する墓壇の見られる地域により多く分布するようである。ただ、縄文時代晩期と続縄文時代恵山式期の墓壇の分布の主体は、むしろ台地の西側にあることから焼土との直接的な関連は、やや薄くなるかもしれない。壇内から焼土の発見された墓壇の年代は、縄文時代早期 1、中期 1、晩期 4、続縄文時代恵山式期 3、後北 A 式期 1、C₁ 式 1、C₂ 式期 4、D 式期 7、土師器 2、北大式期 3 で縄文晩期と続縄文時代北 C₂ 後式期以後に多くなる傾向がある。

第6章 結 語

以上、本遺跡の発掘によって発見された805個のピット群と73箇所の焼土群について概述して来た。

本遺跡発見の多くのピットについては、かなり断定的に墓墳として取り扱ってきたわけであるが、確実に墓墳として認定すべき何ものも持ち合せていないので、かなり異論も多いかとも思う。例えば、千歳・ママチ遺跡、恵庭・柏木川遺跡などでも、遺物を全く検出しないか、あるいは少量しか検出しない数多くのピットを発掘しているが、墓墳として報告されたものは、全体の約1割程度である。本遺跡の場合も時代別には、かなりのバリエーションが認められるが、総合的なピットのあり方は、前記二者の遺跡に極めて相似するところが多い。報告書の取りまとめ方の姿勢としては、前二者の如く遺物がやや多く出土し、時代の確定しうるものについて詳細に報告し、ある程度の考察を加える方法と、本報告の如く、すべての遺構について図示し簡単な説明を加える方向の二者があるようである。これは、それぞれに一長一短があり一言のもとにいずれが正しいとも言いかねる問題を含んでいるかもしれない。例えば、前者の姿勢では、遺物の出土しない遺構の様相がわからないが、同時期の遺構の問題については、詳細に知ることができるであろう。後者では、各遺構の概略についてある程度正確な様相が捉えられるが、ともすれば説明が画一的単調になるとともに、種々の制約（例えば金銭的、時間的なもの、更には個人の力量）から詳細な考察を行なえない場合がある。むしろ、行政的な目的のもとに実施された調査でも、この二者を立派に備えているものが多いが、本報告についてふりかえった場合、私は後者の立場を取って作成して来たわけであるが、今こうして結語を書く段階に至ってみると、力量不足のために種々不備な点が目立ち、公けにしたくない心境になって来る。例えば、個々の遺構の説明にあたっては、もう少し詳しく記述すべきであったろうし、土器型式の認識が不十分なためにピットの構築時代の同定がやや大まかであったり、同一ピット内出土の遺物が、2,3の挿図にわたって配されたりしている。更に墓域をある程度全面発掘しながら、何ら新しい見解を導き出せない点、葬送儀礼についての民族、民俗学的な素養がないために、発見された焼土、木炭等について何ら解決を得られなかった点など、いろいろ挙げていけば紙数に限りがないと思われる。

ただ、幸いなことに、北海道の墓については、重松和男氏の意欲的な論考と資料集成があるので、本報告の墓墳の分析にあたっては、ぜひ併せ読まれない。また、本報告についての疑問な点等については、誠意お答えいたし、幾らかでも本書の不備の穴うめをいたしてゆきたいと考えている。

□ 引用・参考文献

- 石川 徹・佐藤 一夫 1971『ママチ遺跡』千歳市教育委員会
今村 啓爾 1973「霧ヶ丘遺跡の土壌群に関する考察」『霧ヶ丘』
石本 省三ほか 1975「函館空港第4地点遺跡」北海道考古学11
上野 秀一編 1974『N162遺跡』札幌市文化財調査報告書Ⅴ 札幌市教育委員会
上野 秀一編 1974『N293遺跡』札幌市文化財調査報告書Ⅵ 札幌市教育委員会
上野 秀一編 1975『N309遺跡』札幌市文化財調査報告書Ⅶ 札幌市教育委員会
上野 秀一・高橋 和樹 1975『S293遺跡』札幌市文化財調査報告書Ⅷ 札幌市教育委員会
大場 利夫・扇谷 正康 1964「勇払郡鶴川遺跡」北方文化研究報告19
久保 泰ほか 1975『松前町大尺内遺跡発掘報告』松前町教育委員会
河野 広道 1955「斜里町先史時代史」斜里町史
河野 広道・藤本 英夫ほか 1953『御殿山ケールン群発掘報告書』を始め多数の文献がある。
河野 広道・藤本 英夫 1961「御殿山墳墓群について一第三次発掘報告」考古学雑誌46-4
後藤 秀彦ほか 1975『十勝太若月一第三次調査』浦幌町教育委員会
沢 四郎 1969「釧路川流域の先史時代」釧路叢書11『釧路川』
沢 四郎ほか 1975『釧路市桂恋フシココタンチャン調査報告』釧路市立郷土博物館
沢 四郎ほか 1975『釧路市北斗遺跡調査概要』釧路市教育委員会
佐藤 忠雄・相川正義 1959『知床半島チブスケ遺跡』斜里町教育委員会
佐藤 忠雄 1966『幌倉沼の墳墓』東川町教育委員会
重松 和男 1971「北海道の古墳墓について」北方文化研究 5
重松 和男 1972「北海道の古墳墓について」北方文化研究 6
桜井 清彦・藤本 英夫ほか 1975『烏柵舞』
札幌市教育委員会 1976『札幌市遺跡台帳(付分布図)』札幌市文化財調査報告書Ⅱ
竹田 輝雄 1970『港大照寺遺跡』蘭越町教育委員会
高橋 和樹 1975『S253遺跡』札幌市文化財調査報告書Ⅹ 札幌市教育委員会
高橋 正勝 1971『柏木川』北海道文化財保護協会
千代 肇編 1974『西桔梗』函館圏開発事業団
野村 崇 1967「馬追丘陵発見の3個の土器」北海道考古学 3
野村 崇ほか「木古内町札刈遺跡の第二次発掘調査概報」開拓記念館調査報告 4
羽賀 憲二 1976「道央部に於ける縄文時代早期平底土器群の様相について」北海道考古学12
畑 宏明 1966「札幌市平岸坊主山遺跡」“Aynu Moshiri”Ⅱ
函館市教育委員会『函館空港整備事業の内遺跡発掘調査実績報告書』
藤本 英夫・木村 英明 1963『紅葉山遺跡』石狩町教育委員会
松下 亘ほか 1975『柳沢第19地点』紋別市教育委員会
峰山 巖・松下 亘ほか 1971『天内山』余市町教育委員会
能登 健 1974「発掘調査と遺跡の考察」信濃26-3

第2表 遺構出土石器一覽表

図版番号	出土地区	名 称	全 長	最大幅	最大厚	重 量	石 質	備 考
第177図	Pit 2-1	石 鍬	mm 27	mm 10	mm 4	g 0.9	Obs.	S-1
"	Pit 2-2	"	19	16	5	1.5	Obs.	S-2
"	Pit 7	縦形削器	54	29	8	12.3	Sha.	S-1
"	Pit 10A	石 鍬	29	8	3	0.8	Obs.	S-4
第183図	Pit 12	砥石	(165)	(111)	82	2,270		S-17
第185図	"	擦石	96	184	46	1,000	Py.-an.	S-1
第183図	Pit 17	砥石	63	58	20	130	Sa.	
第186図	Pit 18	石 皿 } " } " }	145	71	49	5,950	Py.-an.	S-18 S-7
第177図	Pit 21	縦形搔器	54	45	23	43.8	Obs.	
"	Pit 37	石 鍬	49	16	4	1.5	Obs.	
第183図	Pit 49	北海道式石冠	(91)	64	65	470	Ho.-an.	S-5
第185図	Pit 50	擦石	(140)	85	64	780		S-1
第177図	Pit 75	削器	49	34	13	29.8	Sha.	S-1
第183図	Pit 79	石 皿	127	88	89	1,300	Py.-an.	S-3
"	Pit 81	石 冠	84	(59)	60	390	Ho.-an.	S-1
第178図	Pit 91	石 鍬	28	12	2	0.7	Obs.	S-1
"	"	"	28	12	3	0.9	Obs.	S-2
"	"	"	24	10	4	0.8	Obs.	S-3
"	"	"	25	12	2	0.7	Obs.	S-4
"	"	"	27	12	3	0.8	Obs.	S-5
"	"	"	24	10	4	0.6	Obs.	S-6
"	"	"	26	12	3	0.8	Obs.	S-7
"	"	"	24	11	3	0.6	Obs.	S-8
"	"	"	21	9	2	0.5	Obs.	S-9
"	"	"	21	10	3	0.5	Obs.	S-10
"	"	"	18	10	3	0.5	Obs.	S-11
"	"	"	20	11	3	0.5	Obs.	S-12
"	"	"	35	10	4	1.0	Sha.	S-13
"	"	ナ イ フ	19	37	12	47.8	Sha.	S-14
"	"	削器	62	27	10	19.6	Obs.	S-15
"	"	"	62	18	7	9.2	Obs.	S-16
"	"	"	47	40	6	12.4	Obs.	S-17
"	"	石 斧	151	53	30	400	Gre.-Sch.	S-18
"	"	"	121	51	19	240	Gre.-Sch.	S-19
第183図	Pit 91-1	砥石破片	(61)	(56)	(18)	70		S-3
第185図	Pit 91-2	擦石	(92)	(59)	40	310		
第177図	Pit 95	石 鍬	33	13	3	1.3	Obs.	
第183図	"	砥石	(115)	(84)	83	1,300		S-7
第177図	Pit105	削器	41	20	4	3.6	Sha.	
第184図	"	石 皿	169	102	91	1,850	Py.-an.	S-17

図版番号	出土地区	名 称	全 長	最大幅	最大厚	重 量	石 質	備 考
第 177 図	Pit110	搔 器	mm 26	mm 38	mm 6	g 9.9	Obs.	
"	Pit111-1	"	49	34	10	19.0	Obs.	S-6
"	Pit111-2	" (小形)	27	22	3	2.1	Obs.	S-7
第 180 図	Pit117	搔 器 (?)	34	24	8	7.2	Obs.	
"	Pit118	石 斧	(31)	(30)	(12)	10.8	Gre.-Sch.	
"	Pit121-1	石 鏃	44	18	4	3.0	Obs.	S-1
"	Pit121-2	"	28	16	3	1.3	Obs.	S-2
"	Pit121-3	削 器	30	28	5	4.4	Obs.	S-3
"	Pit122	"	46	45	10	23.4	Obs.	
"	Pit129	"	42	62	7	15.6	Obs.	
"	Pit133	円形搔器	27	38	11	14.2	Obs.	
第 182 図	Pit139	石 斧	76	33	11	44.9	Gre.-Sch.	
第 177 図	Pit145	"	(70)	48	(17)	150	Bl.-Sch.	
"	Pit150	削 器	(20)	24	4	3.4	Chc.	
"	Pit151	有茎石鏃の未成品	24	14	3	1.0	Obs.	
"	Pit155-1	搔 器	23	30	7	6.0	Obs.	S-1
"	Pit155-2	"	25	27	7	4.4	Obs.	S-2
"	Pit163	石 斧	50	26	18	37.5	Gre.-Sch.	
"	Pit165	削 器	41	32	7	7.3	Obs.	
第 183 図	"	敲 打 器	140	50	39	360	Sa.	S-4
第 177 図	Pit166	搔 器	35	23	8	6.5	Obs.	stone retoucher
"	Pit {173 174}	"	(25)	38	10	9.9	Obs.	
"	Pit180	削 器	22	37	7	6.9	Obs.	
"	Pit181	"	51	29	13	18.3	Obs.	
"	Pit184	"	(32)	18	6	4.2	Sha.	
"	Pit191	搔 器	16	34	6	3.6	Obs.	
"	Pit192	"	41	28	11	9.1	Obs.	
"	Pit194	削 器	(24)	33	6	5.2	Obs.	
第 179 図	Pit195-1	扁 平 石 核	24	33	21	20.5	Obs.	S-1
"	Pit195-2	"	32	26	14	12.9	Obs.	S-2
"	Pit200-1	削 器	32	18	7	3.8	Obs.	S-1
"	Pit200-2	"	49	19	7	7.2	Chc.	S-2
"	Pit203-1	扁 平 石 核	46	30	20	32.5	Shc.	S-1
"	Pit203-2	削 器	25	23	4	3.6	Obs.	S-2
"	Pit210	石 鏃	20	10	3	0.7	Obs.	
"	Pit213	削 器	45	23	5	4.7	Obs.	
"	Pit236	石 鏃	(43)	(10)	7	3.2	Obs.	
"	Pit253	石 斧	(49)	41	17	47.2	Gre.-Sch.	
"	Pit {271 276}	"	104	36	16	105	Bl.-Sch.	
"	Pit287	搔 器	21	19	8	4.3	Obs.	
第 184 図	Pit289	石 皿	145	245	90	4,430	Py.-an.	S-9
第 183 図	Pit298	"	110	58	89	720	Py.-an.	S-56

図版番号	出土地区	名 称	全 長	最大幅	最大厚	重 量	石 質	備 考
			mm	mm	mm	g		
第 179 図	Pit300-1	搔 器	23	19	6	2.9	Obs.	S-1
"	Pit300-2	"	30	(25)	11	8.6	Obs.	S-2
"	Pit307	削 器	29	26	6	5.0	Obs.	
"	Pit315	"	27	13	9	4.0	Obs.	
第 184 図	Pit329-1	石 皿	233	152	116	6,410	Py.-an.	S-3
"	Pit329-2	"	206	162	115	4,320	Py.-an.	S-18
第 179 図	Pit350	搔 器	19	28	5	4.5	Obs.	
"	Pit352-1	石 鏃	17	11	2	0.4	Obs.	S-1
"	Pit352-2	削 器	32	14	4	2.2	Obs.	S-2
"	Pit354	敲 石	138	30	20	120	Sa.	
"	Pit371-1	削 器	35	11	2	1.3	Obs.	S-1
"	Pit371-2	"	36	18	9	7.2	Obs.	S-2
"	Pit371-3	搔 器	17	24	7	2.8	Obs.	S-3
第 186 図	Pit375	石 錘	390	184	108	10,500	Py.-an.	S-1
第 179 図	Pit394	搔 器	14	18	3	1.1	Obs.	
"	Pit400	削 器	34	22	10	8.5	Obs.	
"	Pit408	搔 器	17	32	10	6.7	Obs.	
"	Pit ^{{412} ₄₁₃	削 器	36	17	4	3.1	Obs.	
第 181 図	Pit422	石 斧	(61)	50	36	150	Bl.-Sch.	
"	Pit439	両面体石器の破片	28	15	7	4.4	Obs.	
"	Pit449-1	搔 器	25	23	12	6.7	Obs.	S-1
"	Pit449-2	削 器	37	34	7	4.1	Obs.	S-2
"	Pit492	挟 長 鏃	36	11	3	2.1	Obs.	
第 184 図	Pit501	石 皿	(200)	(121)	55	2,110		S-1
第 181 図	Pit510	石 鏃	21	11	2	0.5	Obs.	
"	Pit521	搔 器	24	33	8	6.8	Obs.	
"	Pit523	"	27	36	9	8.0	Obs.	
"	Pit524	"	30	49	17	24.7	Obs.	
"	Pit530	削 器	60	23	9	9.9	She.	
第 180 図	Pit532	礫 器	62	58	22	110	Bl.-Sch.	
第 181 図	Pit541	石 斧	(59)	(48)	(11)	50	Gre.-Sch.	
"	Pit542	搔 器 (未成品?)	37	37	9	16.4	Obs.	
"	Pit549	搔 器	34	21	4	2.7	Obs.	
"	Pit579	石 匙	35	12	5	3.0	She.	
"	Pit580	両面加工のナイフ	(29)	(23)	5	3.2	Obs.	
第 185 図	Pit600	敲 打 器	164	119	51	1,050	Py.-an.	S-5
"	Pit642	石 冠 (擦石)	171	115	68	1,710	Sa.	
第 181 図	Pit644	削 器 (横形)	24	31	7	6.6	Obs.	
第 184 図	Pit645	石 皿	123	168	56	1,550	Py.-an.	S-2
第 181 図	Pit650	削 器	68	30	13	26.7	Sha.	
第 184 図	Pit660	石 皿	140	89	81	1,140	Py.-an.	S-2
第 181 図	"	削 器	36	18	6	4.4	She.	

図版番号	出土地区	名 称	全 長	最大幅	最大厚	重 量	石 質	備 考
第 181 図	Pit662	石 鍬	mm (17)	mm 9	mm 3	g 0.6	Obs.	
"	Pit675	石 斧	69	48	18	100	Gre.-Sch.	
第 182 図	Pit680-1	石 鍬	16	16	3	0.6	Bl.-Sch.	S-1
"	Pit680-2	削 器	34	29	5	4.6	Obs.	S-2
"	Pit682	"	28	18	6	2.7	Obs.	
"	Pit693	"	32	30	10	7.8	Obs.	
"	Pit702	ナ イ フ (削器)	72	36	15	36.1	Sha.	
"	Pit705	石 鍬	30	11	3	1.1	Obs.	
"	Pit722	削 器	40	17	7	5.2	Obs.	
第 181 図	Pit736	"	49	19.5	6	6.6		
第 183 図	"	砥 石	(61)	(75)	42	310		
"	Pit738	"	92	67	20	150	Sa.	
第 186 図	Pit739	敲 石	278	226	76	8,300	Py.-an.	S-2
第 182 図	Pit741	削 器	45	25	12	13.2	Sha.	
"	Pit743-1	石 斧	(55)	(28)	18	28.6	Sha.	S-1
"	Pit743-2	削 器	25	13	6	2.2	Obs.	S-2
"	Pit756	石 鍬	14	(16)	2	0.5	Obs.	
"	Pit760	石 斧 (未成品)	65	63	9	53.8	Gre.-Sch.	
"	Pit766-1	削 器	29	18	7	3.0	Obs.	
"	Pit766-2	搔 器	25	26	5	3.2	Obs.	
"	Pit770-1	"	20	23	6	2.8	Obs.	S-1
"	Pit770-2	削 器	37	18	6	3.8	Obs.	S-2
"	Pit775	砥 石	56	54	20	89.7	Horn.	
"	Pit777	搔 器	17	18	5	1.7	Obs.	
第 181 図	Pit779	削 器	29	22	10	5.0	Obs.	
第 182 図	"	" (横形)	35	42	8	12.2	Obs.	
第 183 図	"	北 海 道 式 石 冠	65	(73)	59	450	Py.-an.	S-3
第 182 図	Pit784	石 鍬	23	14	4	1.2	Obs.	

第3表 第502号ピット出土玉一覧表

図版番号	出土地区	名 称	外 径	内 径	最大厚	重 量	石 質	備 考
186- 1	ピット 502	玉	mm 6.2	mm 2.8	mm 4.6	g 0.25	Sch.	
2	"	"	6.2	2.3	4.0	0.2	Sch.	
3	"	"	5.95	3.25	3.5	0.19	Sch.	
4	"	"	5.9	2.0	4.1	0.23	Sch.	
5	"	"	5.15	1.8	2.5	0.12	Sch.	
6	"	"	4.0	1.5	3.25	0.1	Sch.	
7	"	"	4.95	1.8	2.5	0.1	Sch.	
8	"	"	3.25	1.65	3.3	0.09	Sch.	
9	"	"	2.9	1.8	2.85	0.12	Sch.	
10	"	"	4.6	1.85	2.3	0.02	Sch.	
11	"	"	4.45	1.75	2.5	0.09	Sch.	
12	"	"	4.35	1.8	2.15	0.1	Sch.	
13	"	"	4.1	1.8	1.9	0.08	Sch.	
14	"	"	4.5	1.8	2.05	0.09	Sch.	
15	"	"	4.55	1.7	2.95	0.1	Sch.	
16	"	"	4.75	1.75	2.25	0.09	Sch.	
17	"	"	5.0	1.9	2.8	0.11	Sch.	
18	"	"	4.5	1.8	2.25	0.09	Sch.	
19	"	"	4.1	1.5	2.35	0.08	Sch.	
20	"	"	4.55	1.8	2.55	0.08	Sch.	
21	"	"	3.95	1.45	2.0	0.06	Sch.	
22	"	"	4.55	1.75	2.05	0.09	Sch.	
23	"	"	3.7	1.35	2.25	0.07	Sch.	
24	"	"	4.45	1.8	1.8	0.08	Sch.	
25	"	"	3.9	1.5	2.3	0.09	Sch.	
26	"	"	4.5	1.8	2.15	0.09	Sch.	
27	"	"	4.45	1.8	1.9	0.09	Sch.	
28	"	"	4.3	1.8	1.95	0.09	Sch.	
29	"	"	4.75	1.8	1.85	0.09	Sch.	
30	"	"	4.75	1.8	1.8	0.09	Sch.	
31	"	"	4.6	1.8	1.7	0.09	Sch.	
32	"	"	4.3	1.7	1.7	0.07	Sch.	
33	"	"	4.65	1.8	1.6	0.08	Sch.	
34	"	"	4.3	1.8	1.8	0.08	Sch.	
35	"	"	4.25	1.75	2.0	0.08	Sch.	
36	"	"	4.55	1.75	2.0	0.09	Sch.	
37	"	"	4.45	1.8	1.55	0.08	Sch.	
38	"	"	4.4	1.8	1.8	0.09	Sch.	
39	"	"	4.4	1.8	1.65	0.08	Sch.	
40	"	"	4.35	1.7	1.65	0.07	Sch.	
41	"	"	4.55	1.75	1.6	0.08	Sch.	

図版番号	出土地区	名 称	外 径	内 径	最大厚	重 量	石 質	備 考
186-42	ピット 502	玉	mm 4.45	mm 1.7	mm 1.5	g 0.07	Sch.	
43	"	"	3.95	1.55	2.1	0.08	Sch.	
44	"	"	4.15	1.8	1.95	0.08	Sch.	
45	"	"	4.45	1.7	1.6	0.07	Sch.	
46	"	"	4.1	1.65	1.85	0.07	Sch.	
47	"	"	4.05	1.45	1.0	0.04	Sch.	
48	"	"	4.1	1.25	1.35	0.04	Sch.	
49	"	"	3.8	1.45	1.8	0.03	Sch.	
50	"	"	4.1	1.25	1.1	0.02	Sch.	
51	"	"	4.05	1.45	0.85	0.01	Sch.	
52	"	"	3.35	1.4	1.25	0.01	Sch.	
53	"	"	3.4	1.45	0.95	0.01 以下	Sch.	
54	"	"	3.0	1.45	0.85	0.01 以下	Sch.	

第4表 発掘区出土石器一覧表

図版番号	出土地区	名 称	全 長	最大幅	最大厚	重 量	石 質	備 考
第189図 1	表 採	石 鏃	mm 27	mm 15	mm 3	g 1.2	Sha.	1.8
" 2	B-Ⅳ-24	"	23	16	3	1.1	Obs.	1.4
" 3	表 採	"	24	17	3	0.9	Obs.	1.4
" 4	"	"	21	16	3	0.8	Obs.	1.3
" 5	"	"	(22)	17	3	1.0	Obs.	1.5
" 6	"	"	(17)	17	2	0.6	Obs.	1.2
" 7	"	"	(21)	15	3	0.7	Obs.	1.7
" 8	"	"	22	14	3	0.9	Obs.	1.6
" 9	"	"	(17)	14	3	0.7	Obs.	1.4
" 10	"	"	13	11	4	0.7	Obs.	1.2
" 11	"	"	13	11	2	0.2	Obs.	1.2
" 12	E-Ⅷ-6-B	"	(25)	22	5	2.1	Obs.	1.3
" 13	表 採	"	(21)	16	4	1.4	She.	1.6
" 14	"	"	(21)	(14)	5	1.6	Obs.	1.4
" 15	B-Ⅵ-12	"	23	15	4	1.5	Obs.	1.5
" 16	表 採	"	17	(13)	4	0.6	Obs.	1.3
" 17	"	"	(18)	(16)	4	1.2	Obs.	
" 18	"	"	(18)	(9)	4	0.9	Obs.	
" 19	"	"	(18)	12	2	0.6	Obs.	1.7
" 20	"	"	(19)	8	2	0.4	Obs.	2.6
" 21	"	"	15	5	2	0.2	Obs.	3.0
" 22	"	"	22	7	2	0.3	Obs.	3.1
" 23	"	"	(33)	11	4	1.5	Obs.	3.2
" 24	"	"	(27)	10	2	0.7	Obs.	
" 25	"	"	27	11	3	1.1	Obs.	2.5
" 26	"	"	32	13	5	1.9	Obs.	2.5
" 27	"	"	34	12	5	1.8	Obs.	2.8
" 28	"	"	(22)	14	4	1.6	Obs.	
" 29	"	"	(24)	(13)	3	1.0	Obs.	
" 30	"	"	(20)	13	5	1.6	Obs.	
" 31	"	"	33	17	5	1.6	Obs.	1.2
" 32	"	"	(25)	16	4	1.6	Obs.	
" 33	"	"	(23)	14	4	0.9	Obs.	1.4
" 34	"	"	(24)	13	4	0.9	Obs.	1.7
" 35	"	"	(22)	(14)	4	0.7	Obs.	1.0
" 36	D-Ⅶ-22	"	27	10	3	0.6	Obs.	2.0
" 37	表 採	"	19	9	3	0.4	Obs.	1.4
" 38	"	"	17	11	2	0.3	Obs.	1.2
" 39	E-Ⅹ-71	"	(20)	10	4	0.8	Obs.	
" 40	表 採	"	38	17	6	3.7	Obs.	1.3
" 41	C-Ⅶ-6-B	"	39	21	6	4.3	Obs.	1.3

図版番号	出土地区	名 称	全 長	最大幅	最大厚	重 量	石 質	備 考
第189図 42	表 採	石 鋸	64	20	8	9.0	Obs.	1.6
" 43	E-VII-2	"	61	21	6	7.5	Obs.	1.7
" 44	D-VIII-16	"	42	23	6	4.4	Obs.	0.9
" 45	C-VI-12	"	41	25	7	4.4	Obs.	
" 46	E-VII-7-B	"	(18)	17	4	1.3	Obs.	
" 47	表 採	"	(26)	19	4	1.9	Obs.	
" 48	"	"	(33)	23	6	4.2	Obs.	
第190図 49	"	石 匙	69	28	9	19.1	Sha.	
" 50	M-VII	"	83	21	8	12.9	Sha.	
" 51	B-VI-20	"	60	17	9	10.5	Sha.	
" 52	表 採	"	54	19	9	8.3	Sha.	
" 53	"	"	51	23	9	9.1	Sha.	
" 54	"	"	52	18	7	7.9	Obs.	
" 55	C-I-10	"	45	17	7	6.9	Obs.	
" 56	D-VI-4	"	45	20	8	7.3	Obs.	
" 57	E-VI-14	"	46	26	13	14.0	Obs.	
" 58	表 採	"	54	18	9	7.5	Obs.	
" 59	E-I-24	"	37	14	5	2.3	Obs.	
" 60	表 採	"	(17)	12	6	1.4	Obs.	
" 61	"	"	(26)	16	3	1.5	Sha.	
" 62	"	削 器	68	25	9	15.2	Sha.	
" 63	O-V	"	55	30	11	14.1	Sha.	
" 64	表 採	"	54	35	10	21.4	Sha.	
" 65	"	"	46	23	6	5.9	Sha.	
" 66	"	"	50	33	8	16.6	Obs.	
" 67	C-III	"	40	18	12	9.5	Sha.	
" 68	表 採	"	63	30	9	18.7	Sha.	
" 69	B-IV-1	"	41	21	10	6.8	Obs.	
" 70	表 採	"	33	15	4	2.5	Obs.	
" 71	B-VII-25-B	"	43	31	10	12.5	Obs.	
第191図 72	表 採	"	44	16	4	3.3	Obs.	
" 73	E-IX-51	"	68	17	10	9.5	Obs.	
" 74	B-V-25	"	62	26	13	19.4	Obs.	
" 75	B-IV-8	"	41	27	10	18.4	Obs.	
" 76	E-I-24	"	79	32	14	40.2	Aga.	
" 77	D-VII-11-B	"	44	16	7	7.8	Obs.	
" 78	C-VII-21	"	54	31	8	16.6	Obs.	
" 79	B-V-25	"	48	24	13	14.3	Obs.	
" 80	B-II-23	"	(41)	35	9	15.6	Che.	
" 81	表 採	"	67	36	12	27.8	Obs.	
" 82	B-IV-25-B	"	67	38	11	25.0	Obs.	
" 83	B-III-3	"	(36)	33	8	17.7	Obs.	

図版番号	出土地区	名 称	全 長	最大幅	最大厚	重 量	石 質	備 考
第191図 84	A-Ⅲ-23	削 器	mm 51	mm 32	mm 9	g 12.6	Sha.	
" 85	表 採	"	(18)	22	6	2.9	Sha.	
" 86	"	"	24	20	9	3.5	Obs.	
" 87	E-VII-25-B	"	(21)	18	4	3.2	Obs.	
" 88	表 採	"	33	18	5	3.8	Obs.	
" 89	D-II-11	"	41	23	9	6.2	Obs.	
" 90	H-IV-22	"	36	18	5	3.3	Obs.	
" 91	表 採	"	(33)	9	3	1.4	Obs.	
第192図 92	D-VII-9-B	"	42	26	9	9.4	Obs.	
" 93	表 採	"	38	34	11	11.7	Obs.	
" 94	C-VII-16-B	"	32	21	5	2.7	Obs.	
" 95	L-VII	"	31	22	9	5.1	Obs.	
" 96	表 採	"	25	16	5	3.0	Sha.	
" 97	B-III-10	"	45	24	8	8.1	Obs.	
" 98	O-IX-3	"	42	23	6	6.8	Obs.	
" 99	C-VIII-7-B	"	36	18	6	4.0	Obs.	
" 100	D-VI-20	"	39	18	7	5.2	Obs.	
" 101	F-I-13	"	31	16	6	2.8	Obs.	
" 201	D-IX-24-B	"	30	17	6	3.1	Obs.	
" 103	表 採	"	31	14	6	2.7	Obs.	
" 104	B-II-11	"	32	17	5	2.9	Obs.	
" 105	E-VIII-23-B	"	34	17	5	3.4	Obs.	
" 106	表 採	"	31	23	6	4.4	Obs.	
" 107	C-VIII-12-B	"	30	20	4	1.9	Obs.	
" 108	L-III	"	34	36	9	9.2	Obs.	
" 109	表 採	"	37	29	11	11.5	Obs.	
" 110	"	"	30	22	4	2.5	Obs.	
" 111	"	"	29	18	3	2.0	Obs.	
" 112	"	"	24	20	3	1.4	Obs.	
" 113	"	"	17	15	2	0.8	Obs.	
" 114	D-VII-3	"	29	27	4	3.4	Obs.	
" 115	B-VI-20	"	35	32	9	9.2	Obs.	
" 116	B-VI-25	"	19	24	6	3.0	Obs.	
" 117	B-VI-1	"	27	25	5	3.5	Obs.	
" 118	表 採	"	27	27	5	4.1	Obs.	
" 119	B-I-13	扁 平 石 核	27	23	25	13.8	Obs.	
第193図 120	B-II-5	円 型 搔 器	44	37	7	10.8	Obs.	
" 121	表 採	"	31	40	9	14.2	Obs.	
" 122	"	"	23	33	8	7.4	Obs.	
" 123	C-II-2	"	27	39	11	12.6	Obs.	
" 124	表 採	"	30	28	8	8.4	Obs.	
" 125	B-VI-20	"	27	32	14	11.4	Obs.	

図版番号	出土地区	名 称	全 長	最大幅	最大厚	重 量	石 質	備 考
第193图126	B-V-7	円 型 搔 器	mm 15	mm 18	mm 8	g 2.4	Obs.	
" 127	B-III-15	"	20	27	13	9.6	Obs.	
" 128	A-IV-19	"	26	23	8	4.1	Obs.	
" 129	B-II-2	"	19	25	12	5.8	Obs.	
" 130	E-III-15	"	21	22	7	4.7	Obs.	
" 131	A-III-25	"	20	23	8	5.2	Obs.	
" 132	表 採	"	20	22	4	2.1	Obs.	
" 133	B-V-10	搔 器	20	23	9	4.0	Obs.	
" 134	B-IV-14	"	23	21	6	3.1	Obs.	
" 135	B-III-12	"	21	20	9	4.1	Obs.	
" 136	表 採	"	25	22	15	7.1	Obs.	
" 137	"	"	18	31	8	5.1	Obs.	
" 138	B-IV-14	"	12	24	6	2.6	Obs.	
" 139	B-IV-11	"	13	24	6	2.4	Obs.	
" 140	表 採	"	30	20	7	3.9	Obs.	
" 141	"	"	33	26	8	6.7	Obs.	
" 142	D-II-11	"	39	29	13	12.0	Obs.	
" 143	C-VI-9	"	32	21	10	6.4	Obs.	
" 144	A-IV-19	"	32	24	7	4.6	Obs.	
" 145	B-V-19	"	38	21	8	4.2	Obs.	
" 146	B-IV-14	靴 型 石 器	32	28	5	4.9	Obs.	
第194图147	表 採	"	54	36	12	23.5	Sha.	
" 148	D-VIII-24-Y	"	30	21	8	7.1	Sha.	
" 149	G-II-2	"	28	14	4	2.3	Obs.	
" 150	D-VI-15-B	"	28	19	5	3.0	Obs.	
" 151	表 採	"	32	24	10	6.9	Obs.	
" 152	C-VIII-13	"	29	21	9	6.0	Obs.	
" 153	C-VIII-20-B	削 器	35	47	8	14.4	Obs.	
" 154	表 採	"	36	49	10	14.6	Obs.	
" 155	E-VI-14	"	33	44	10	12.0	Obs.	
" 156	B-VI-24	"	30	41	7	9.8	Obs.	
" 157	C-VII-6-B	"	26	34	7	5.6	Obs.	
" 158	C-VI-12	"	21	31	11	7.9	Obs.	
" 159	D-VII-24-B	"	29	37	8	10.5	Obs.	
" 160	表 採	"	33	32	11	11.8	Obs.	
" 161	"	"	(20)	26	9	6.4	Obs.	
" 162	A-IV-19	"	29	52	13	17.7	Obs.	
" 163	B-IV-1	"	26	25	9	7	Obs.	
" 164	C-VI-25-B	"	29	41	8	9.3	Obs.	
" 165	表 採	"	18	39	8	5.9	Obs.	
" 166	D-IX-3	"	27	32	8	7.6	Sha.	
第195图167	E-I-10	石 斧	112	48	17	14.0	Gre.-Sch.	

図版番号	出土地区	名 称	全 長	最大幅	最大厚	重 量	石 質	備 考
第195図168	E-IX-2-B	石 斧	mm 94	mm 36	mm 15	g 80	Fal.	
" 169	表 採	"	(85)	41	17	100	Gre.-Sch.	
" 170	L-VIII	"	92	34	17	90	Gre.-Sch.	
" 171	表 採	"	70	31	11	50	Gre.-Sch.	
" 172	E-VIII-14-B	"	98	37	14	70	Gre.-Sch.	
" 173	I-I-4	"	112	26	23	110	Gre.-Sch.	
" 174	表 採	"	92	31	14	80	Gre.-Sch.	
第196図175	"	"	64	27	14	40	Gre.-Sch.	
" 176	B-V-12	"	(62)	33	10	40	Gre.-Sch.	
" 177	B-IV-13	"	(51)	26	5	9.5	Bl.-Sch.	
" 178	E-VIII-13-B	"	(34)	30	6	15.6	Bl.-Sch.	
" 179	表 採	"	(34)	39	8	17.0	Gre.-Sch.	
" 180	D-VI-15-B	"	(38)	35	8	23.0	Gre.-Sch.	
" 181	表 採	"	(42)	37	8	24.9	Bl.-Sch.	
" 182	"	"	(31)	38	12	18.4	Gre.-Sch.	
" 183	"	"	(24)	(40)	9	10.5	Gre.-Sch.	
" 184	"	"	(26)	53	14	24.4	Gre.-Sch.	
" 185	"	"	(22)	(37)	12	19.6	Gre.-Sch.	
" 186	L-VIII	"	90	39	18	110	Bl.-Sch.	
" 187	表 採	"	(54)	64	20	190	Gre.-Sch.	
第197図188	C-VII-9-B	"	(42)	86	30	160	Gre.-Sch.	
" 189	B-IV-12	"	48	39	32	100	Horn.	
" 190	L-VII	石斧(未成品?)	122	45	18	140	Bl.-Sch.	
" 191	E-VI-10-B	石 斧	130	41	25	190	Gre.-Sch.	
" 192	L-VI	"	96	48	20	150	Bl.-Sch.	
" 193	E-VII-14-B	"	82	43	22	130	Gre.-Sch.	
第198図194	B-III-18	"	74	48	17	110	Bl.-Sch.	
" 195	表 採	"	82	38	9	60	Bl.-Sch.	
" 196	E-IX-19-Y	"	104	40	20	130	Gre.-Sch.	
" 197	D-VII-12-B	"	(112)	42	18	140	Gre.-Sch.	
" 198	L-VII	"	(91)	45	14	100	Bl.-Sch.	
" 199	表 採	"	94	49	15	120	Bl.-Sch.	
第199図200	E-VIII-20-Y	石 斧(未成品)	(79)	42	22	100	Gre.-Sch.	
" 201	表 採	石 斧	(82)	30	15	60	Bl.-Sch.	
" 202	B-V-24	"	(76)	27	11	50	Gre.-Sch.	
" 203	表 採	"	(79)	24	11	40	Bl.-Sch.	
" 204	B-IV-18	"	(53)	26	15	40	Gre.-Sch.	
" 205	表 採	"	(68)	54	32	160	Py.-an.	
" 206	L-VII	敲 石	134	39	13	140	Bl.-Sch.	
" 207	L-III	"	122	36	8	170	Horn.	
第200図208	表 採	削 器	59	92	24	150	Mu.	
" 209	L-VIII	環 状 石 器	95	50	35	250	Sa.	

図版番号	出土地区	名 称	全 長	最大幅	最大厚	重 量	石 質	備 考
第200図210	表 採	石 錘	mm 79	mm 59	mm 18	g 110	Py.-an.	
" 211	"	"	77	61	19	150	Py.-an.	
" 212	E-IX	"	69	47	16	100	Py.-an.	
" 213	C-VII-23	"	60	63	15	90	Mu.	
" 214	表 採	"	(49)	36	15	50	Sa.	
" 215	B-IV-17	垂 玉	3.96	1.3	7.5	9.6	Sch.	
第201図216	B-III-14	砥 石	90	52	27	150	Tu.-Sa.	
" 217	表 採	"	74	57	25	150	Sa.	
" 218	O-VII	"	83	62	22	200	Sa.	
" 219	C-VII-13	"	83	50	22	200	Sa.	
" 220	表 採	"	70	64	29	160	Sa.	
" 221	B-I-11	"	66	60	23	110	Sa.	
" 222	"	"	(93)	(75)	(24)	180		
" 223	表 採	"	87	37	10	50	Sa.	
" 224	"	凹 石	132	43	27	200	Sa.	
" 225	"	"	131	41	34	310	Sa.	
" 226	"	"	68	83	23	160	Mu.	
第202図227	D-VII-17	"	(71)	(17)	(36)	60	Py.-an.	
" 228	C-IV-25-B	"	77	(49)	(45)	250	Ho.-an.	
" 229	"	"	(76)	(56)	(52)	220		
" 230	K-VII	"	161	88	60	1,430	Py.-an.	
" 231	C-VII-B	"	(48)	(77)	(52)	350	Ho.-an.	
" 232	E-VIII-23	"	(53)	(26)	(62)	110	Ho.-an.	
" 233	"	"	67	167	47	800	Py.-an.	
" 234	"	蔽 石 (柄付)	173	111	47	750	Py.-an.	

[石質略号]

Aga. (Agate) : メノウ, Bl.-Sch. (Black Schist) : 黒色片岩

Che. (Chert) : 珪岩, Tal. (Talc) : 滑石

Gre.-Sch. (Green Schist) : 緑色片岩

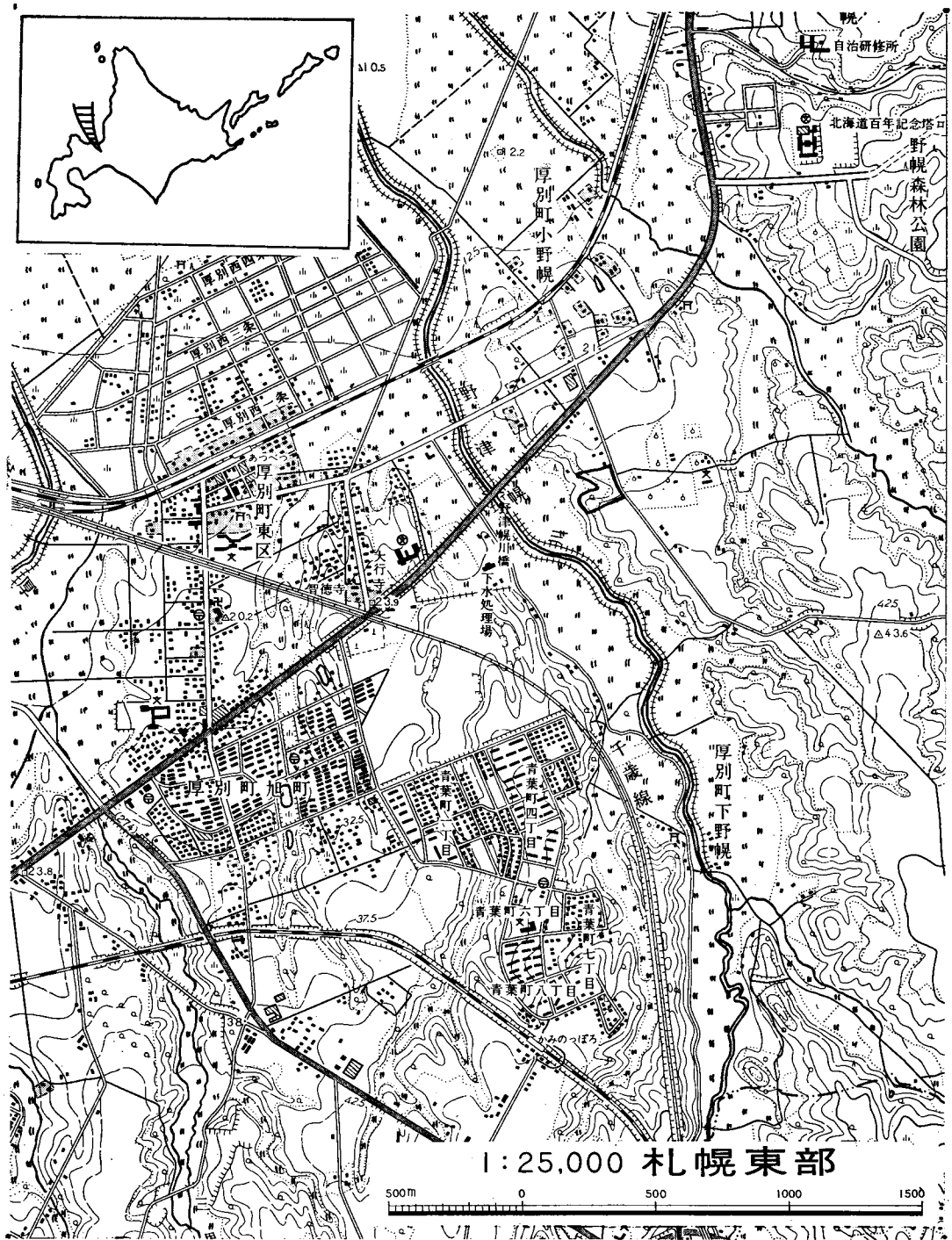
Ho.-an. (Hornblende Andesite) : 角閃石安山岩

Horn. (Hornfels) : (ホルンフェルス), Mu. (Mud Stone) : 泥岩

Obs. (Obsidian) : 黒輝石, Py.-an. (Two Pyroxene Andesite) : 複輝石安山岩

Sa. (Sand Stone) : 砂岩, Sha. (Hard Shale) : 硬質頁岩

Tu.-Sa. (Tuffaceous Sandstone) : 凝灰質砂岩



第1図 遺跡附近地形図

「本書に掲載した地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2.5万分の1地形図を複製したものである。

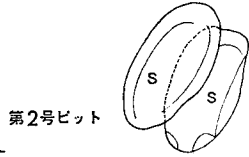
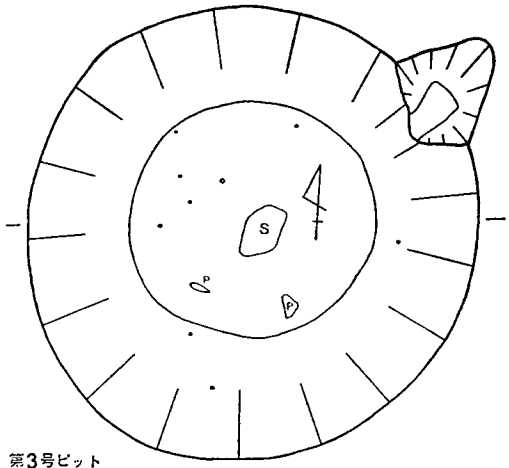
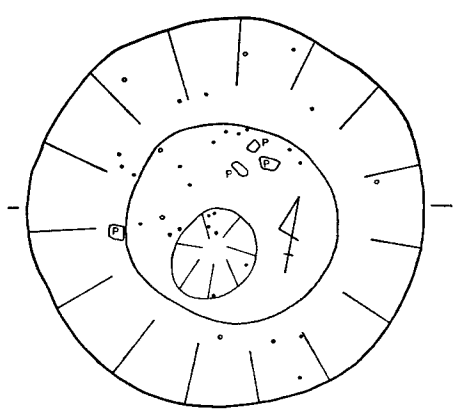
(承認番号) 昭49道復, 第57号

標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	柱状図	名称	硬軟	排水色	水位
12.98	0.50	0.50		砂質シルト	極軟	灰褐色	W.L. 0.20m
12.18	1.30	0.80		火山灰	極軟	灰褐色	
	2			泥炭	極軟	黒褐色	
8.68	4.80	3.50		泥炭混シルト	極軟	灰	
7.18	6.30	1.50		泥炭混シルト	極軟	灰	
	8			泥炭混砂質シルト	極軟	灰	
3.18	10.30	4.00		小礫中砂	締	灰	
0.18	13.30	3.00		砂礫	締	灰	
-1.02	14.50	1.20		砂質シルト	硬	灰	
-4.52	18.00			砂質シルト	硬	灰	

1 低地部ボーリング資料

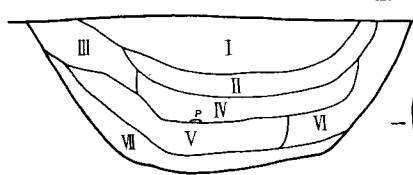
標高 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	柱状図	名称	硬軟	排水色	水位	層位
27.40	0.50	0.50		表土	軟	黒灰		I
	1			火山灰	縮	黄褐色	W.L. 8.00	II
	2					淡桃色		III
	3					IV		
	4					IV		
	5			火山灰砂	縮	黄灰色	W.L. 8.00	V
	6					VI		
	7					VI		
	8					VI		
	9					VI		
17.90	10.00	9.50		火山灰砂	縮	灰色	W.L. 8.00	VI
	11					VI		
	12					VI		
	13					VI		
	14			VI				
12.90	15.00	5.00		火山灰砂	縮	黄灰色	W.L. 8.00	VII
	15					VII		
	16					VII		

2 台地部ボーリング資料



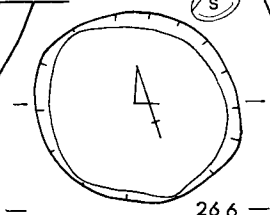
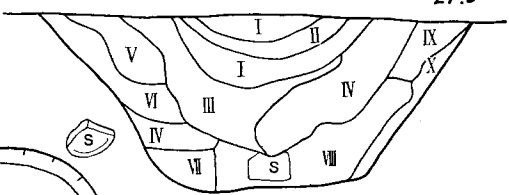
第2号ピット

27.4 -



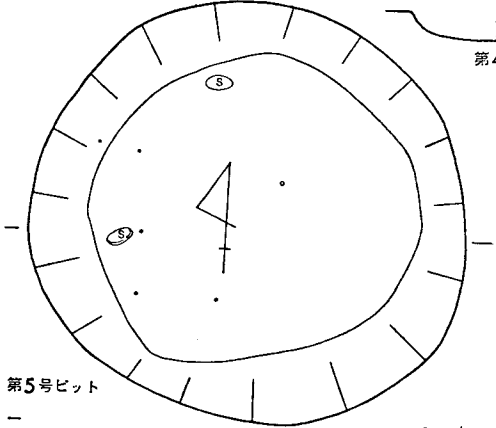
第3号ピット

27.3 -



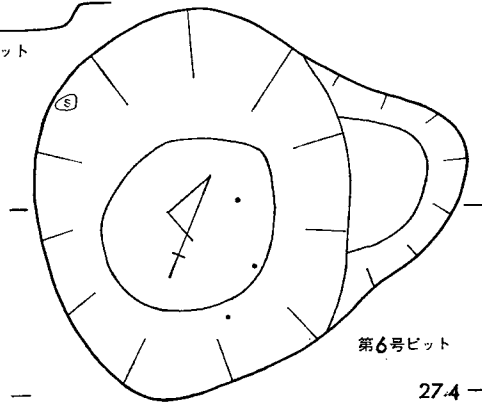
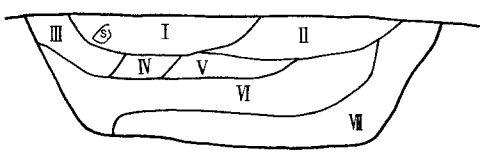
26.6 -

第4号ピット



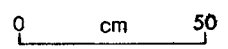
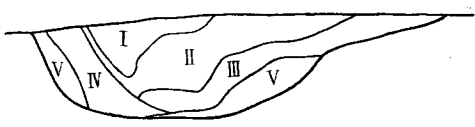
第5号ピット

27.4 -

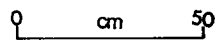
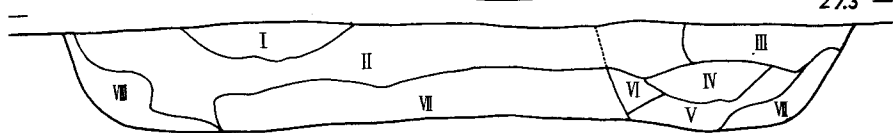
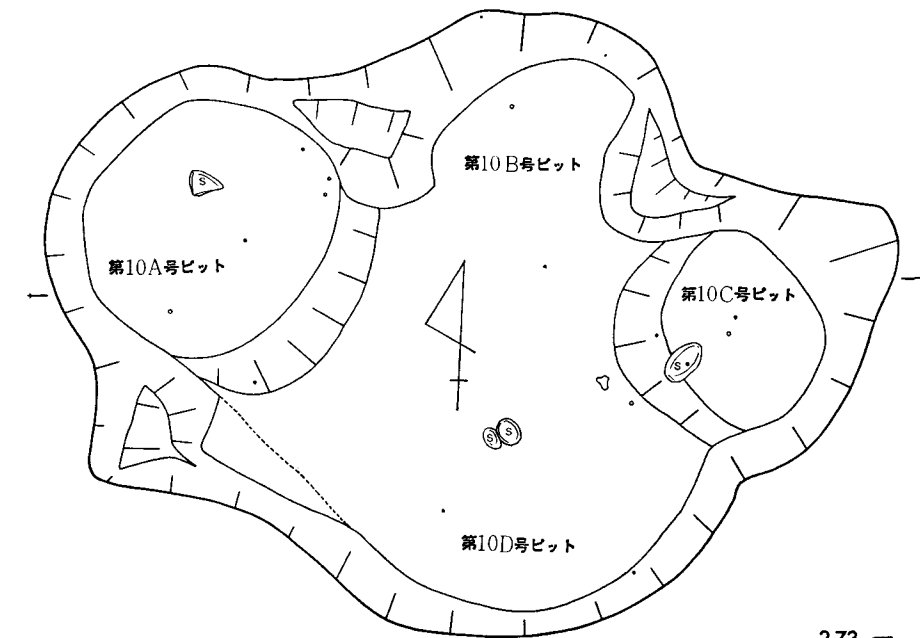
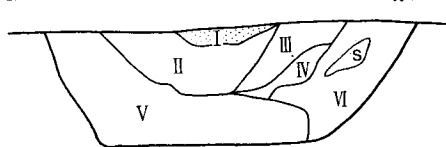
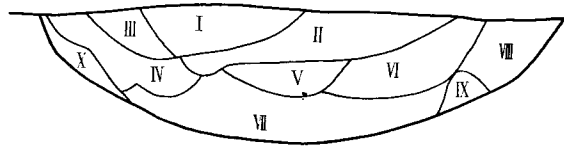
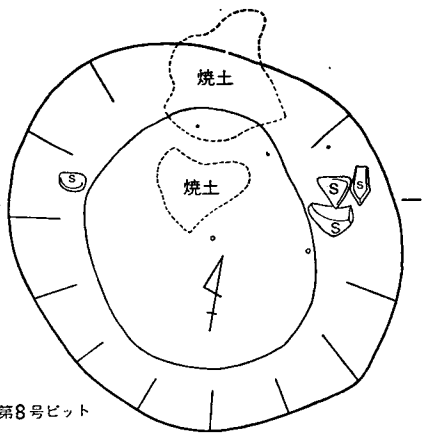
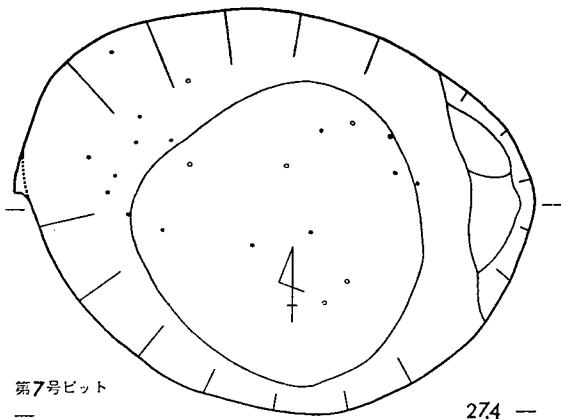


第6号ピット

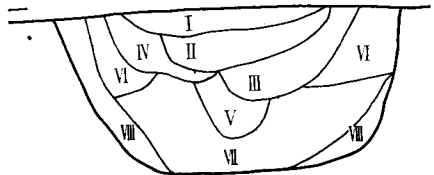
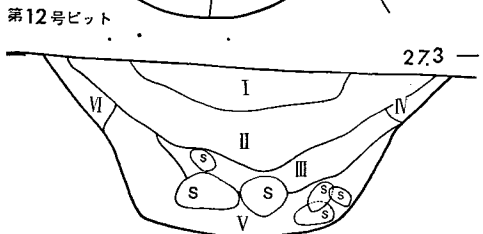
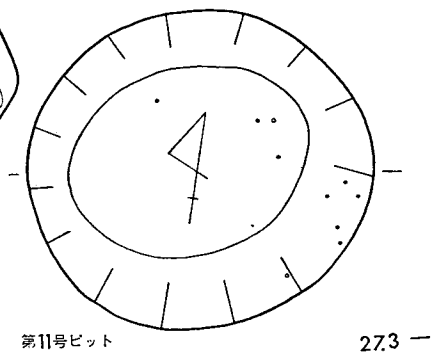
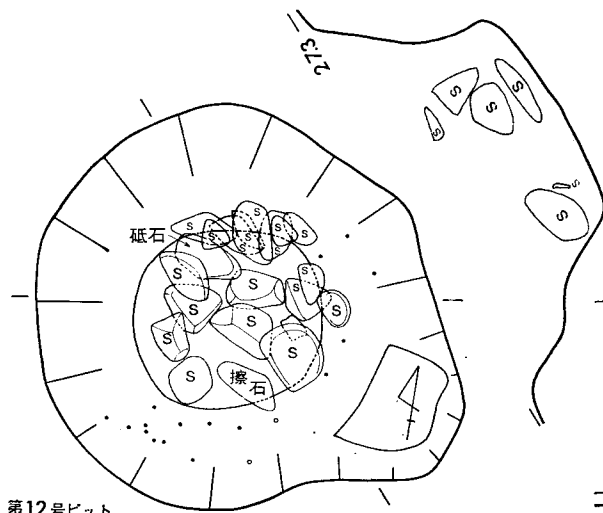
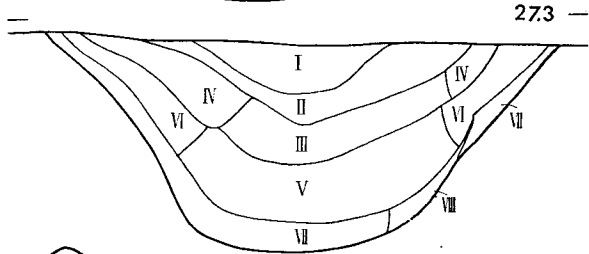
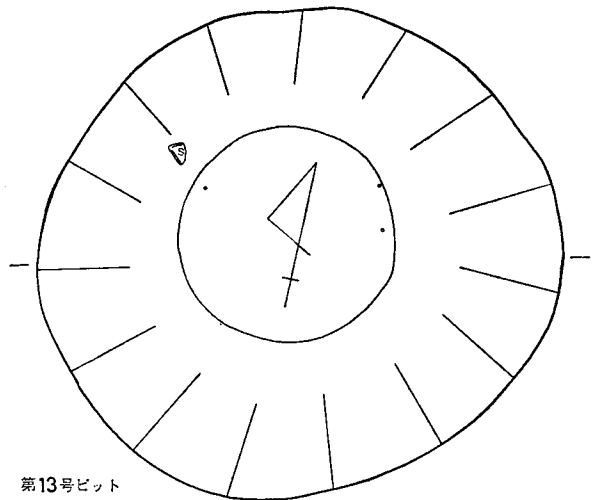
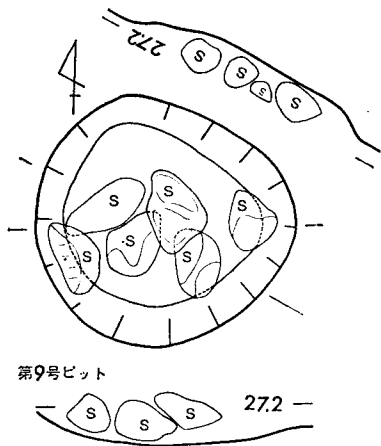
27.4 -



第5図 遺構実測図

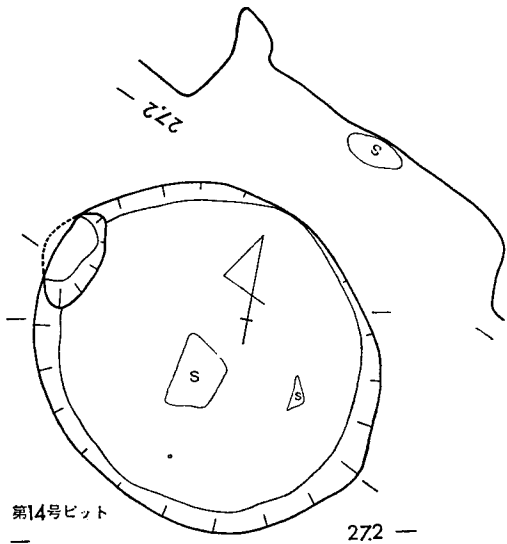


第6図 遺構実測図



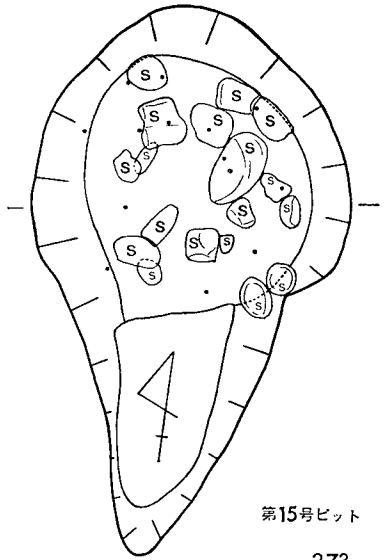
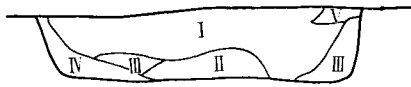
0 cm 50

第7図 遺構実測図



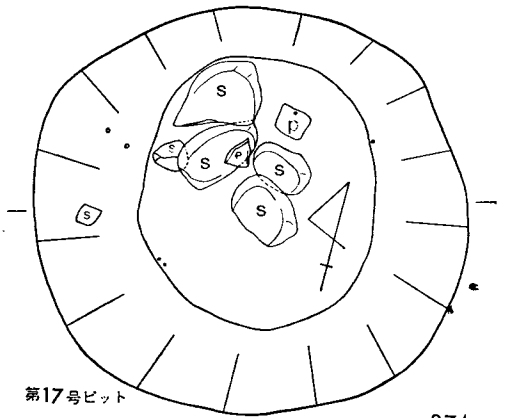
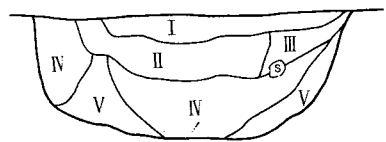
第14号ピット

272 —



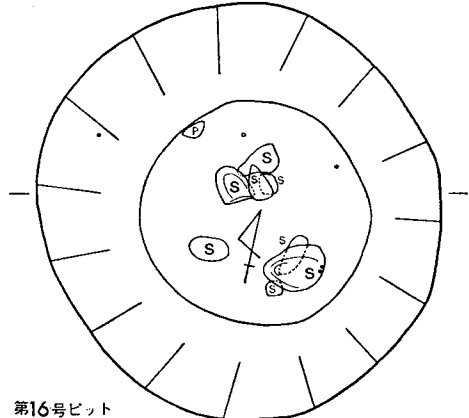
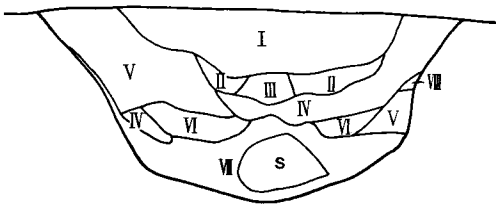
第15号ピット

273 —



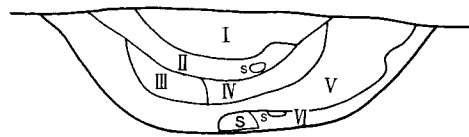
第17号ピット

274 —



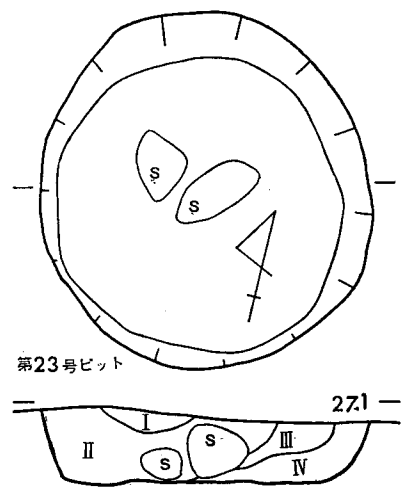
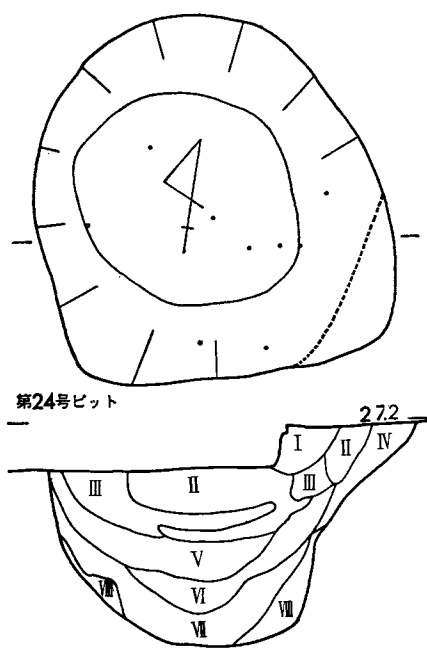
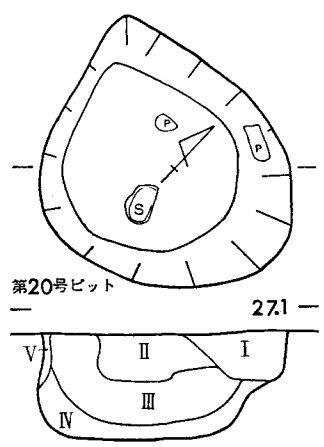
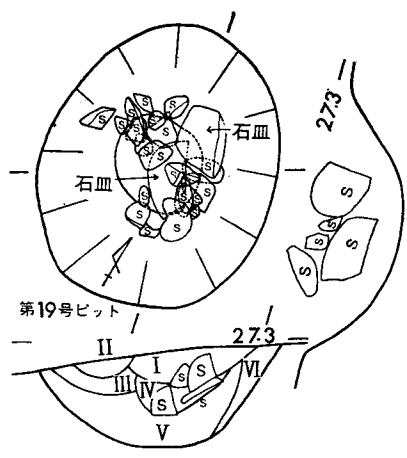
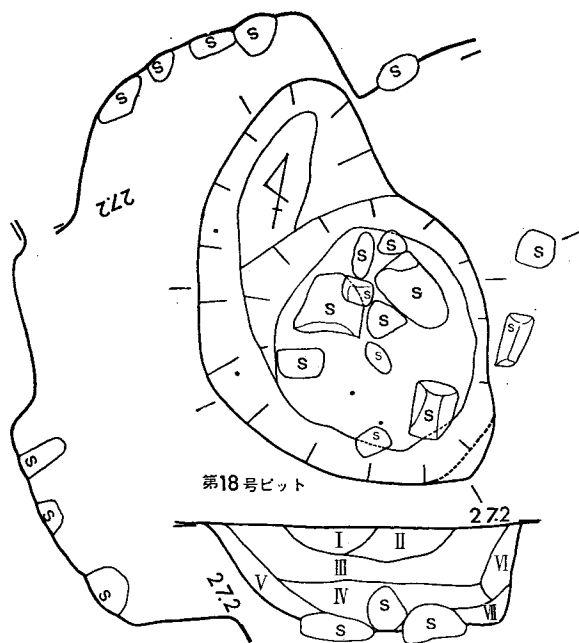
第16号ピット

274 —



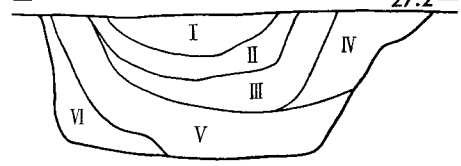
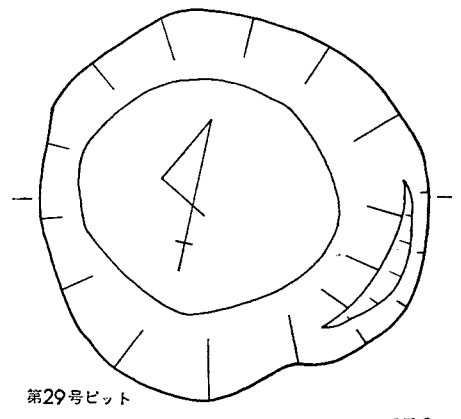
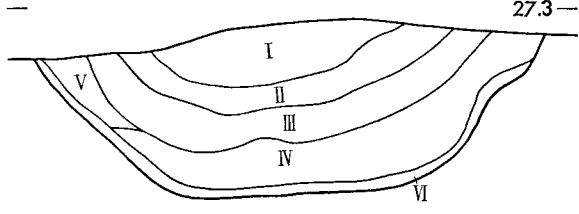
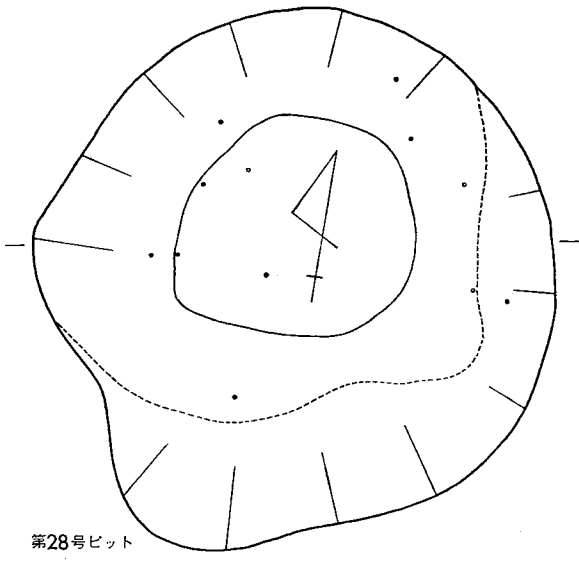
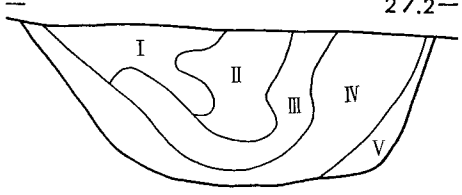
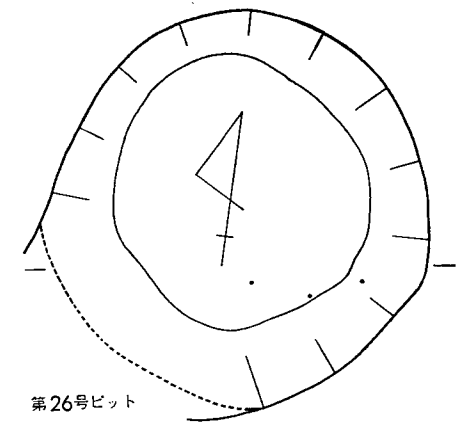
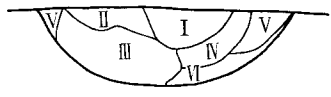
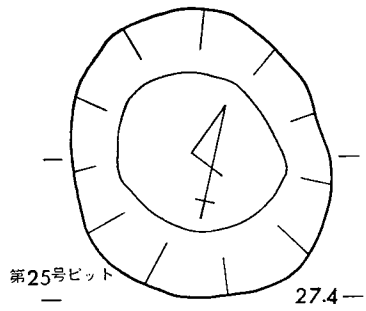
0 cm 50

第8図 遺構実測図



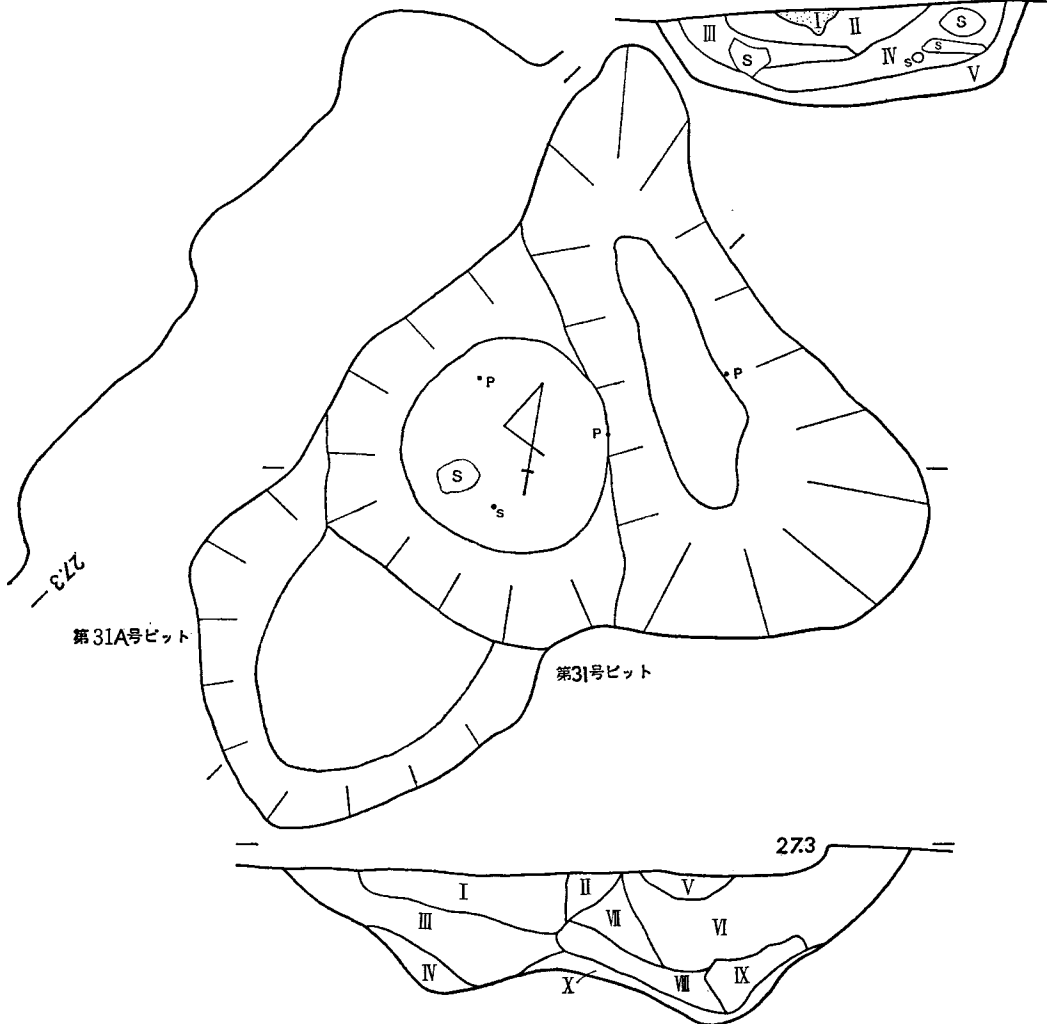
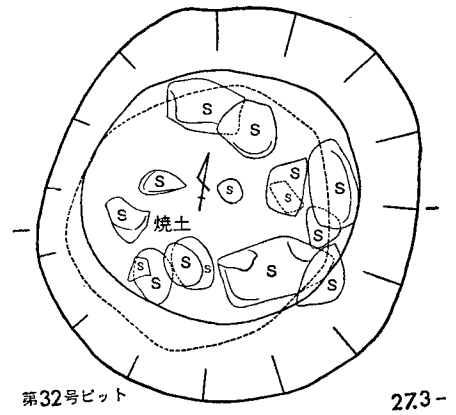
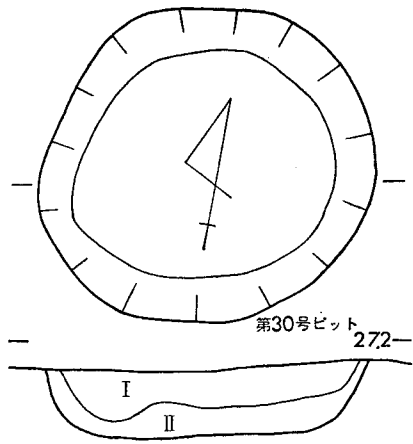
0 cm 50

第9図 遺構実測図



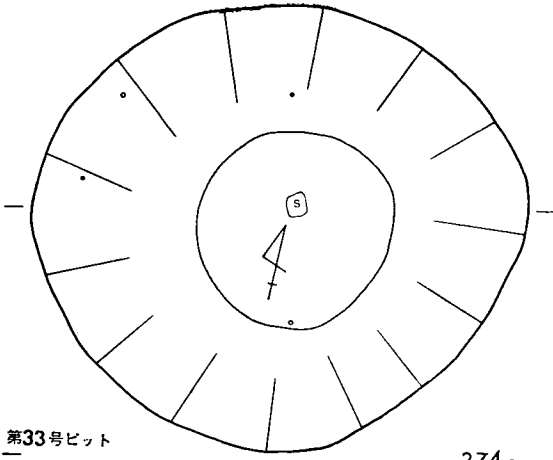
0 cm 50

第10図 遺構実測図



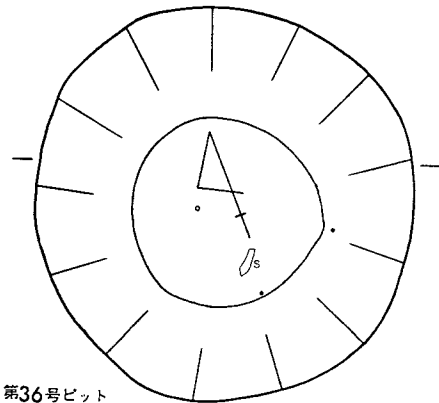
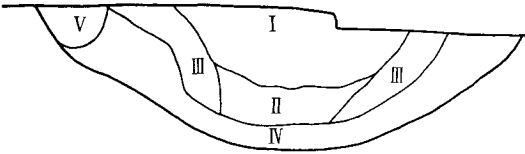
0 cm 50

第11図 遺構実測図



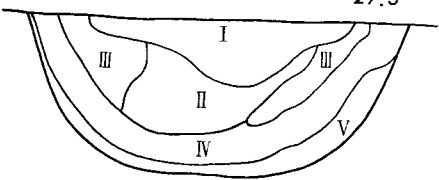
第33号ピット

27.4 —

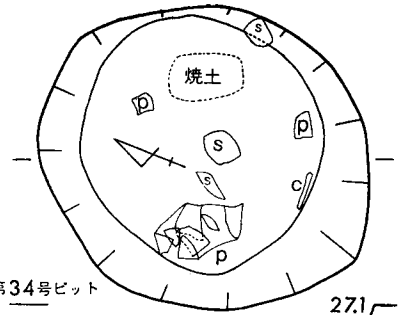


第36号ピット

27.3 —

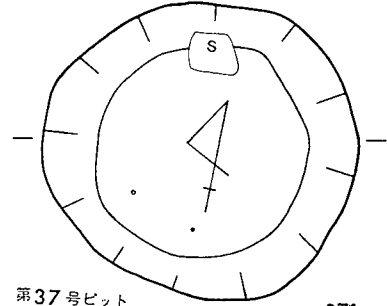


0 cm 50



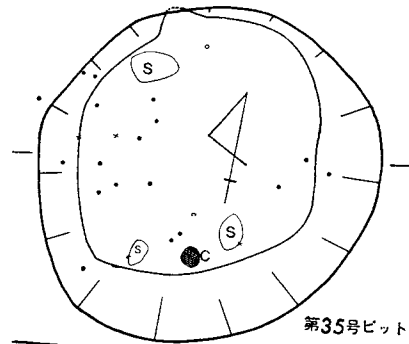
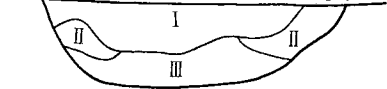
第34号ピット

27.1 —



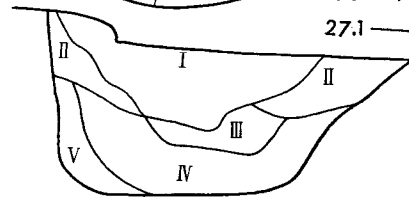
第37号ピット

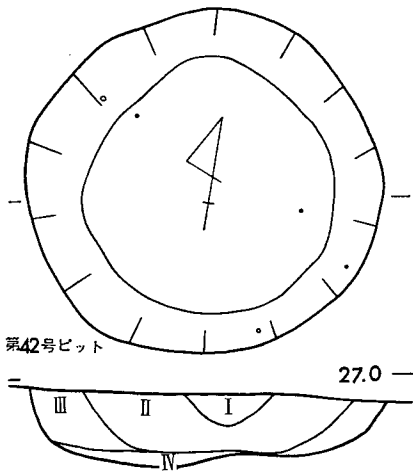
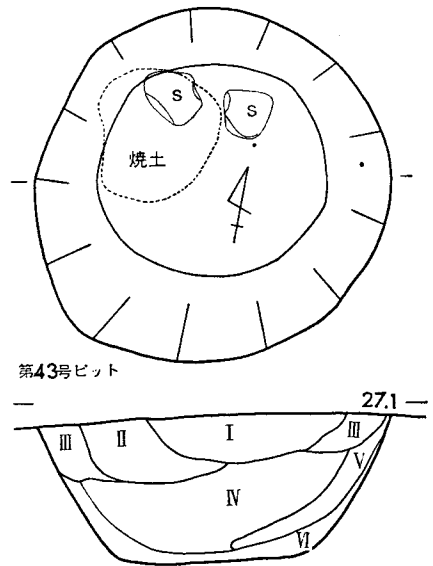
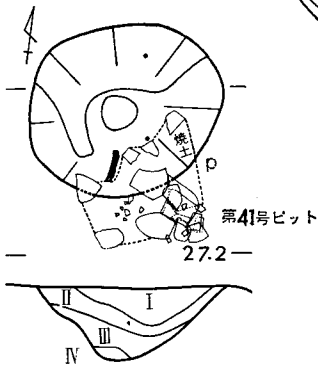
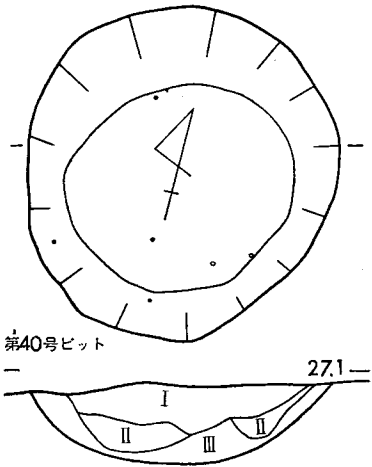
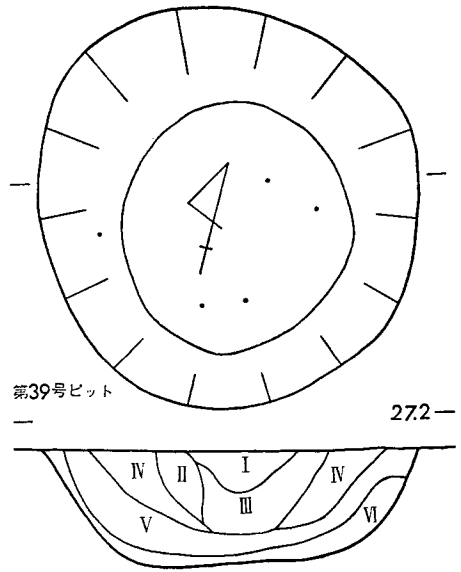
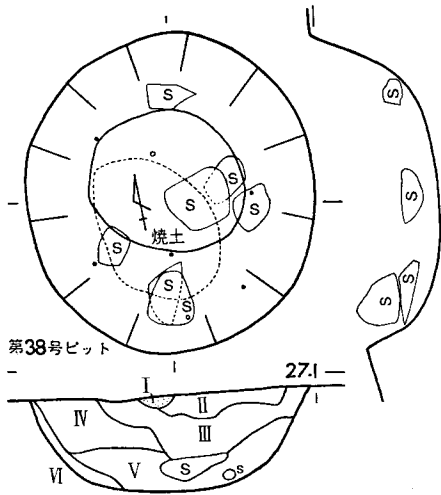
27.1 —



第35号ピット

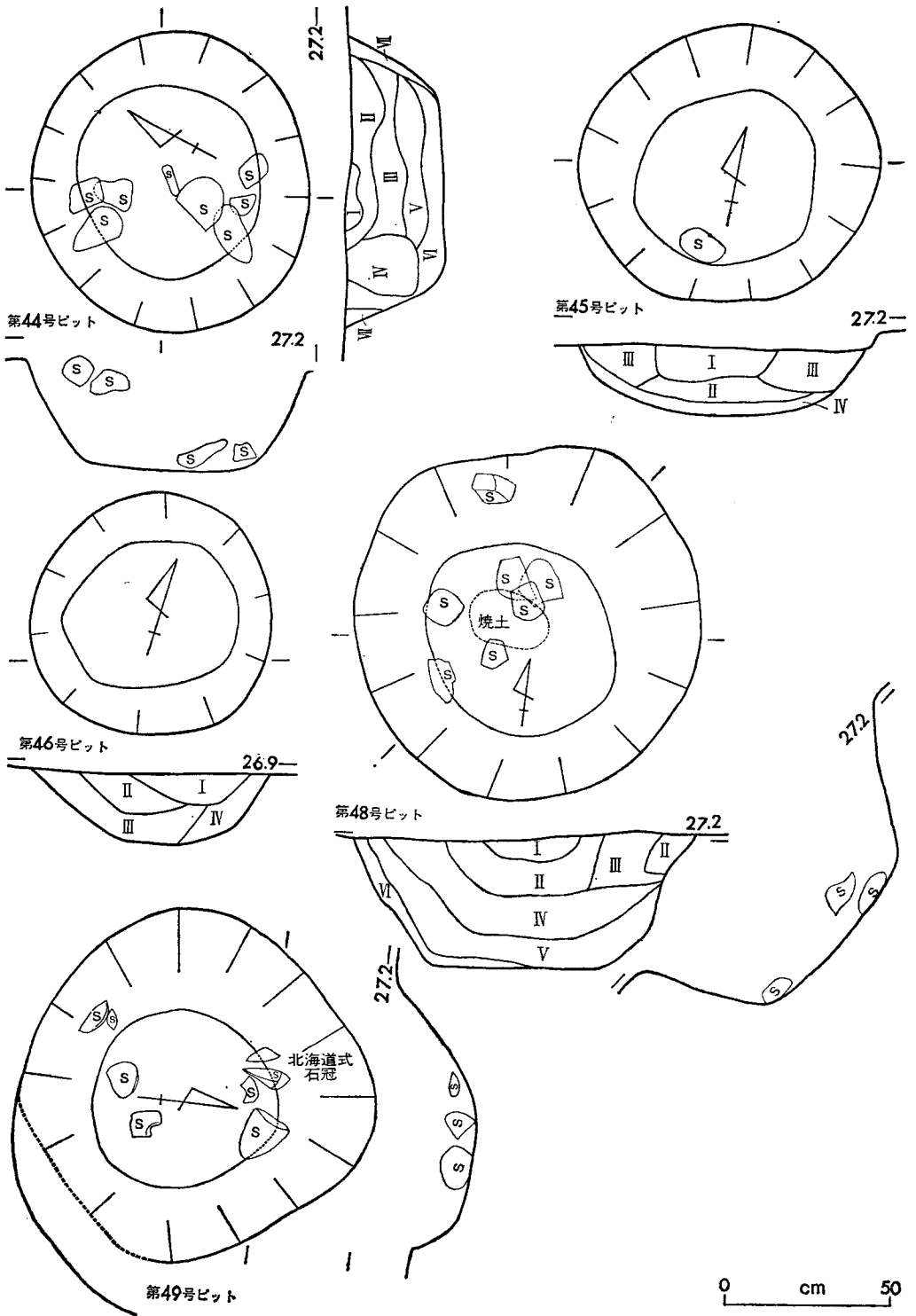
27.1 —



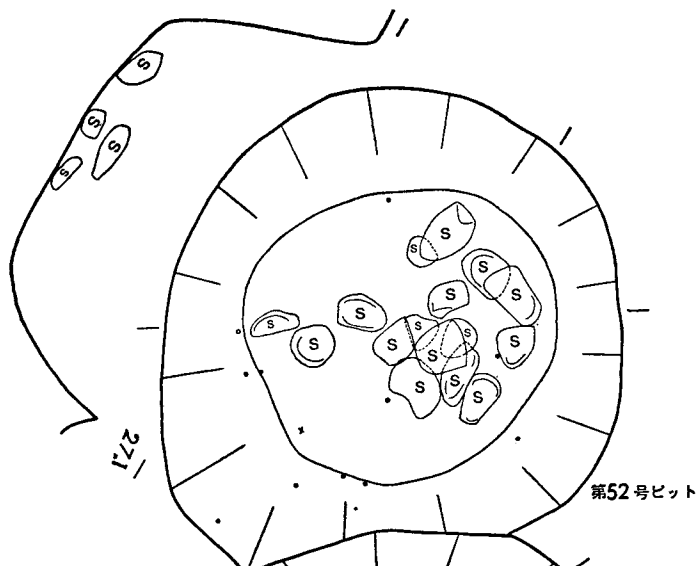


0 cm 50

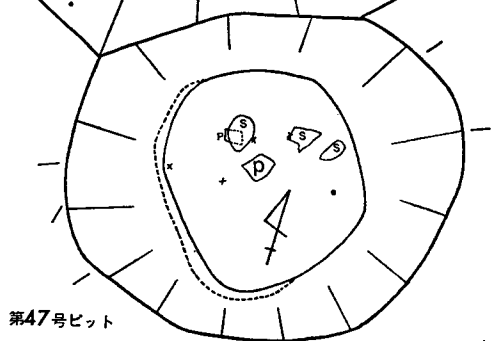
第13図 遺構実測図



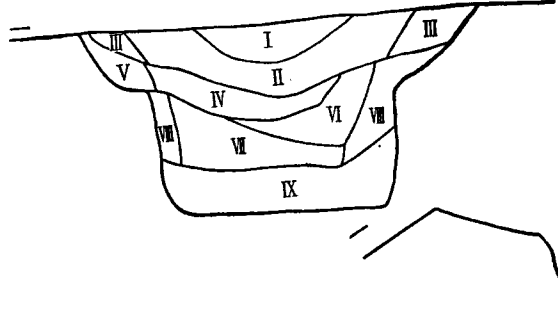
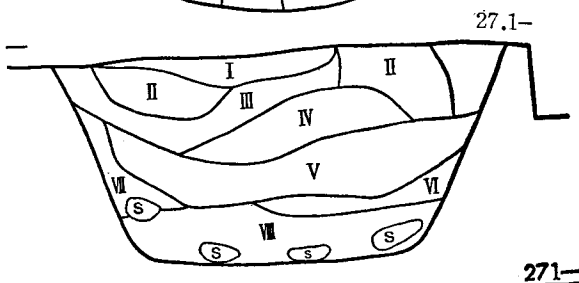
第14図 遺構実測図



第52号ピット

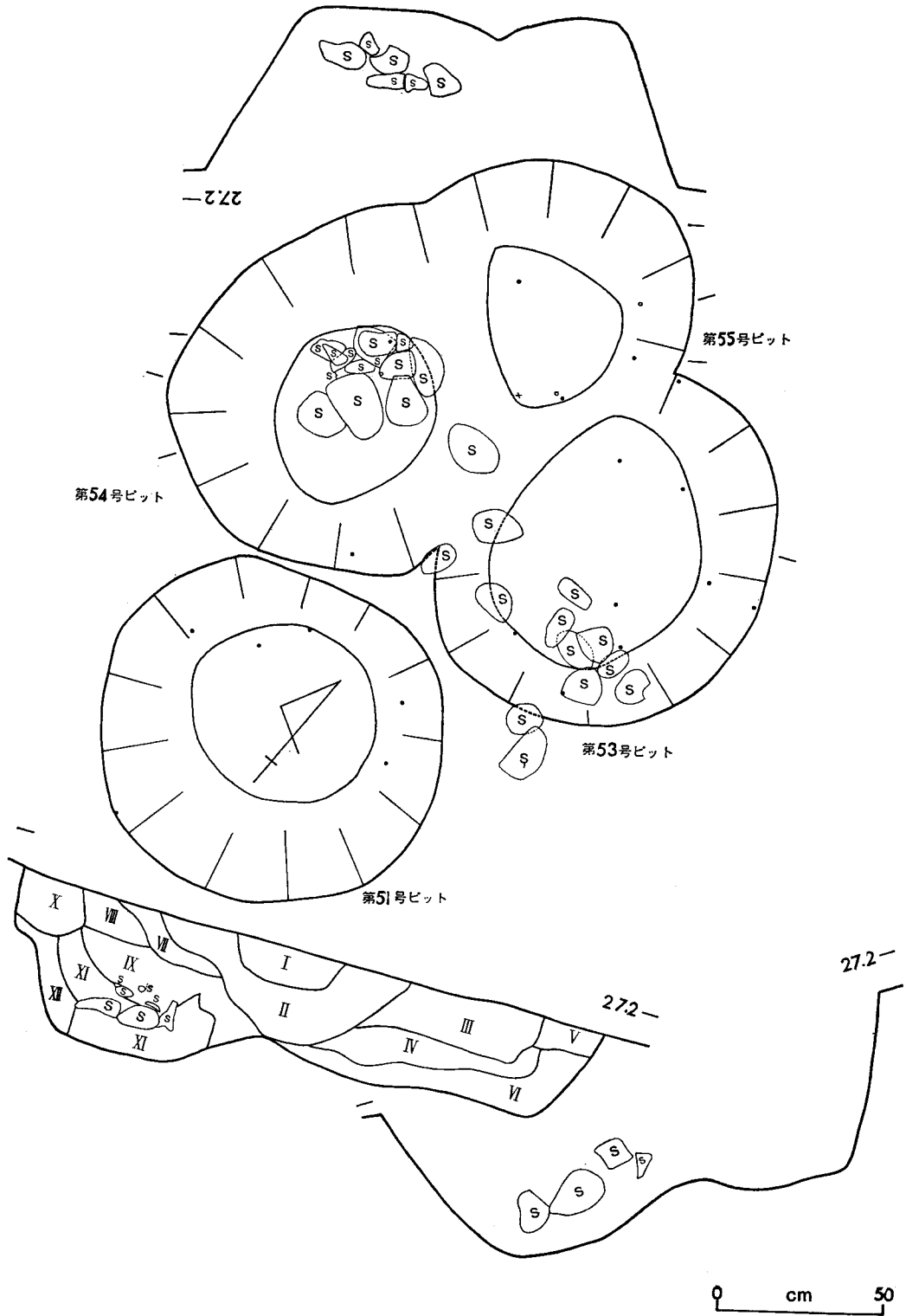


第47号ピット

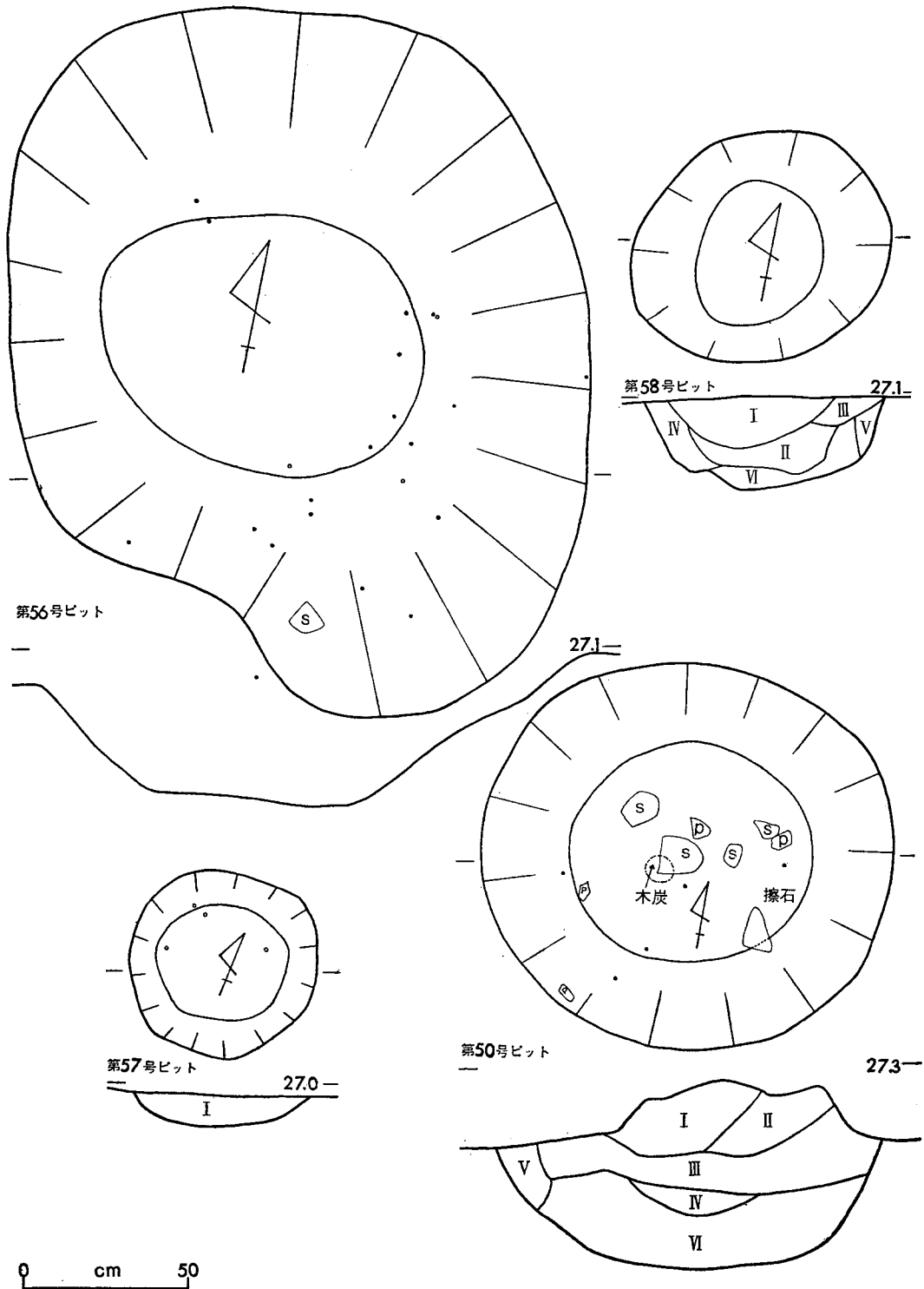


0 cm 50

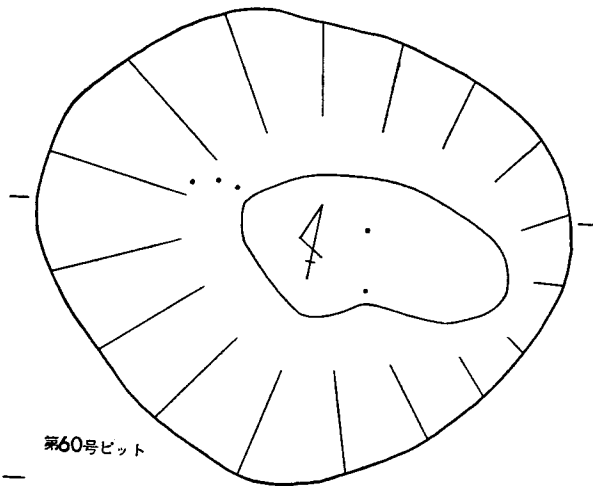
第15図 遺構実測図



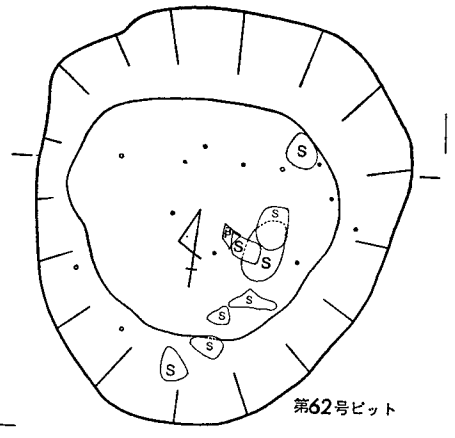
第16図 遺構実測図



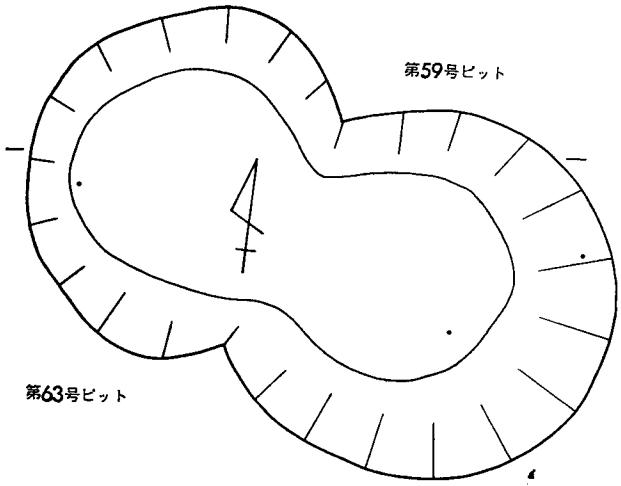
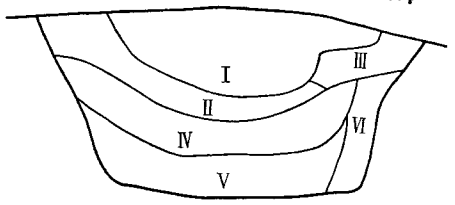
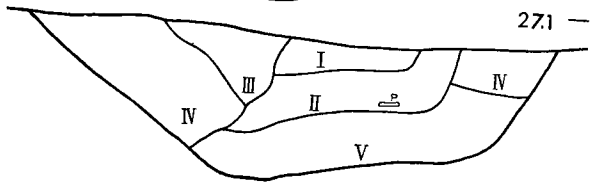
第17図 遺構実測図



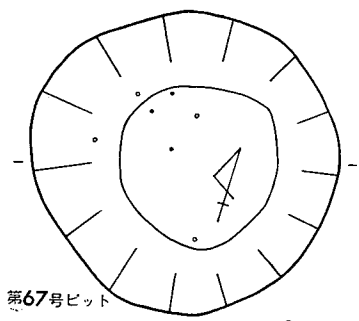
第60号ピット



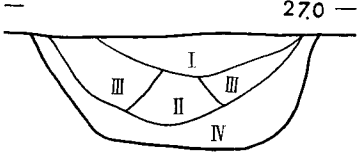
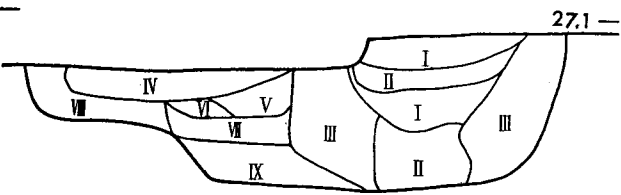
第62号ピット



第59号ピット

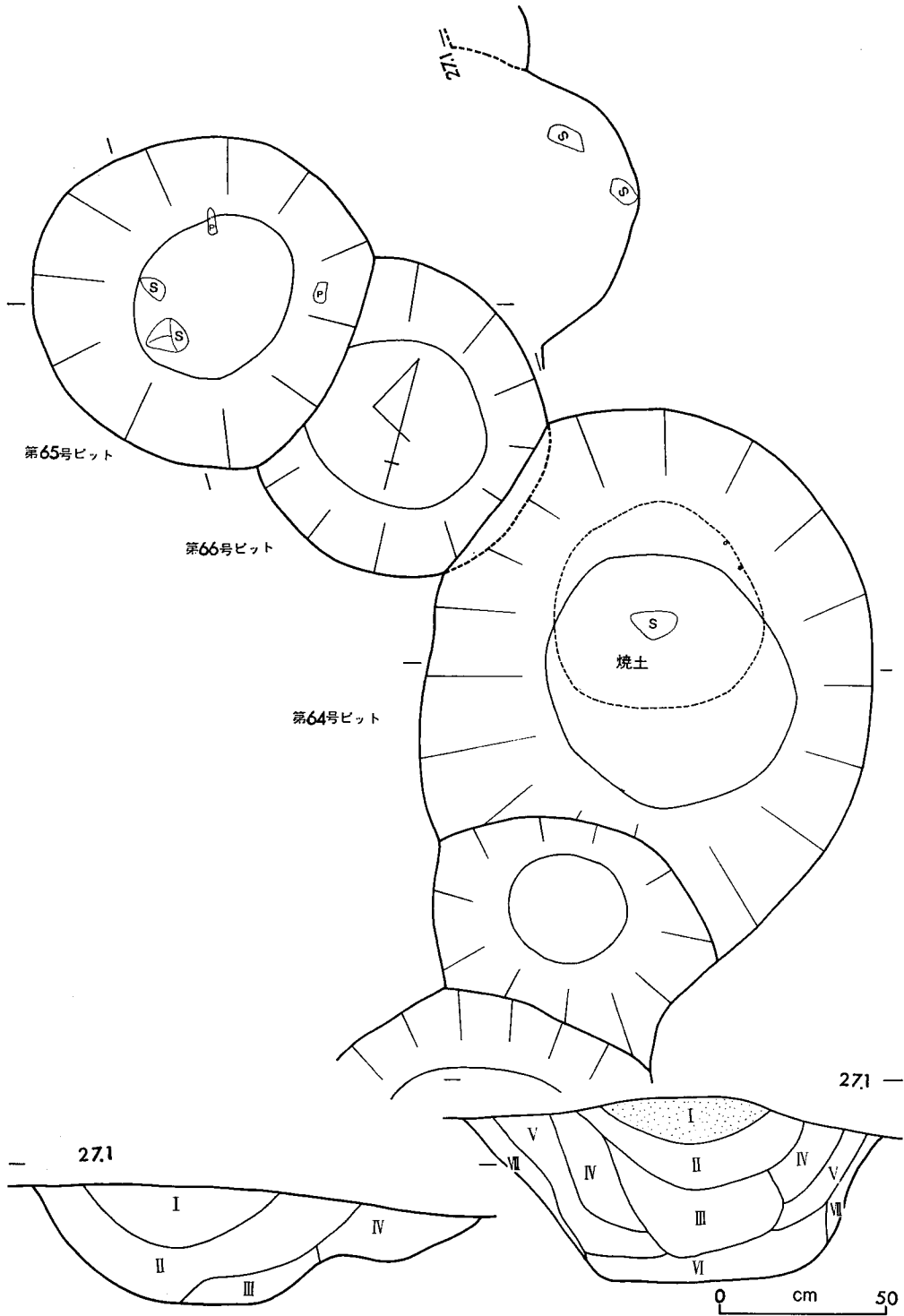


第67号ピット

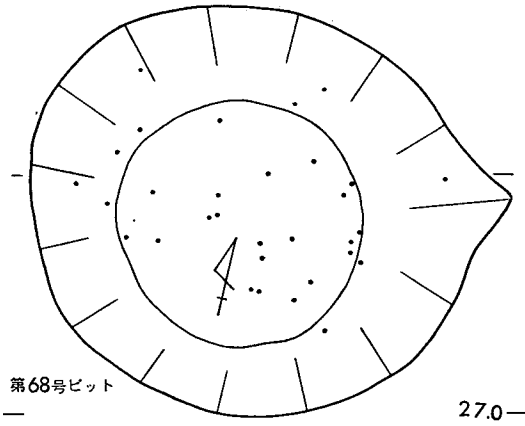


0 cm 50

第18図 遺構実測図

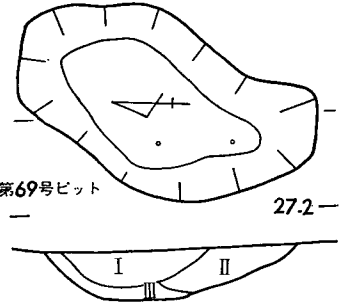
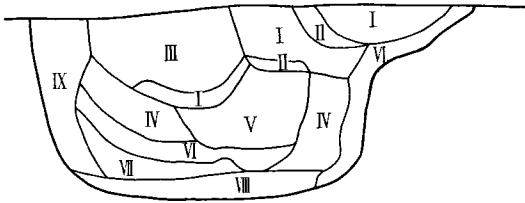


第19図 遺構実測図



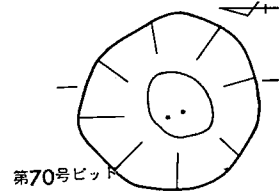
第68号ピット

27.0-



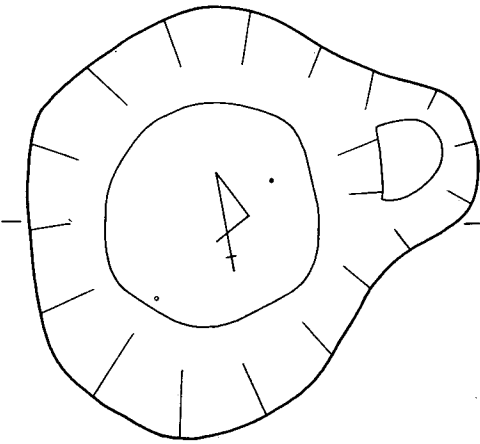
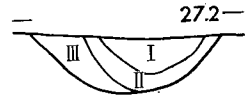
第69号ピット

27.2-



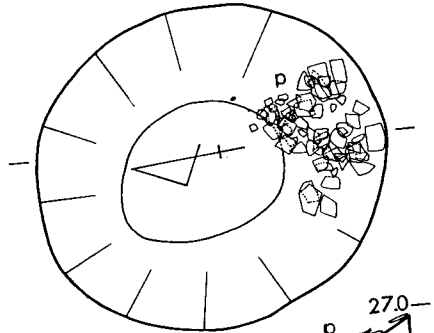
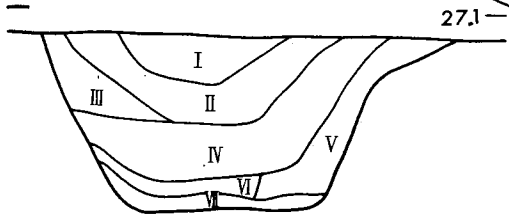
第70号ピット

27.2-



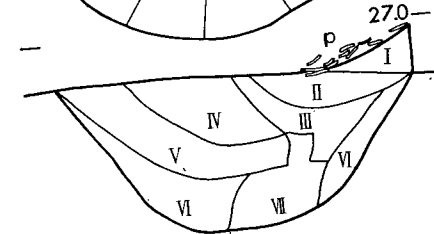
第72号ピット

27.1-



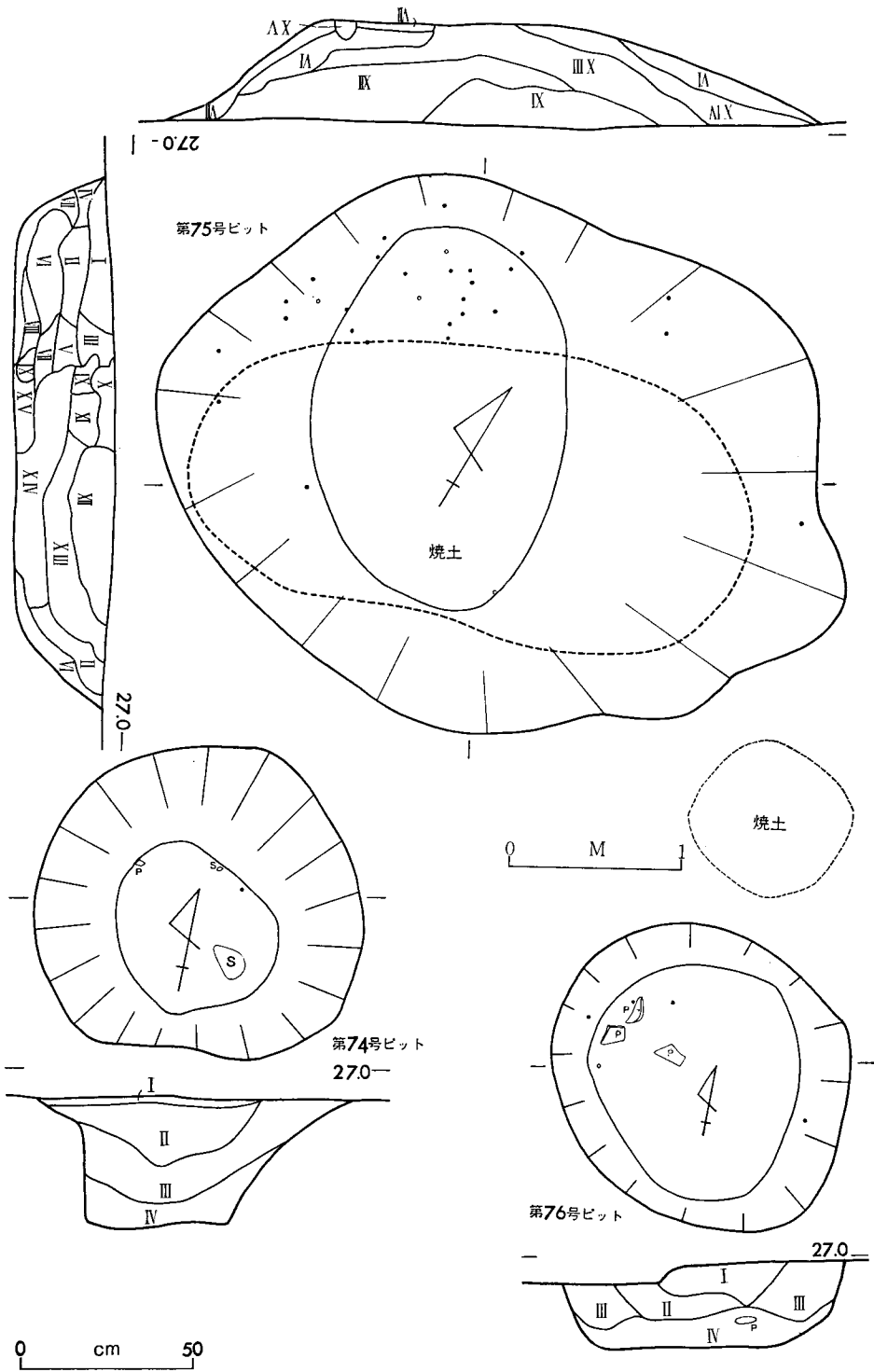
第73号ピット

27.0-

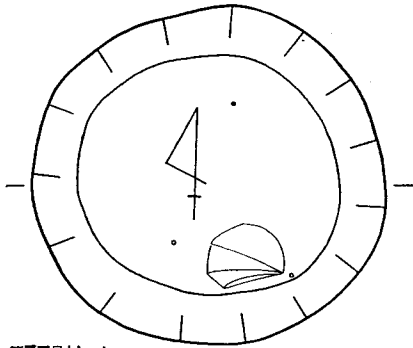


0 cm 50

第20図 遺構実測図

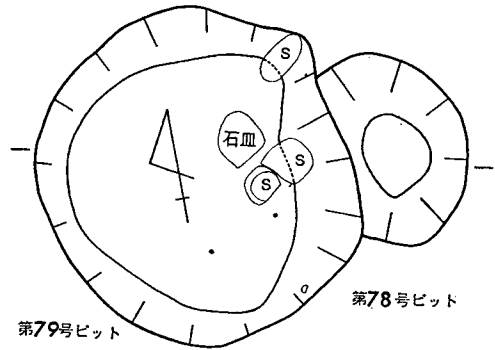
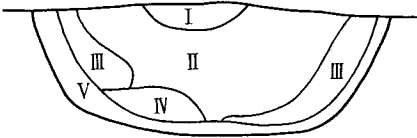


第21図 遺構実測図



第77号ピット

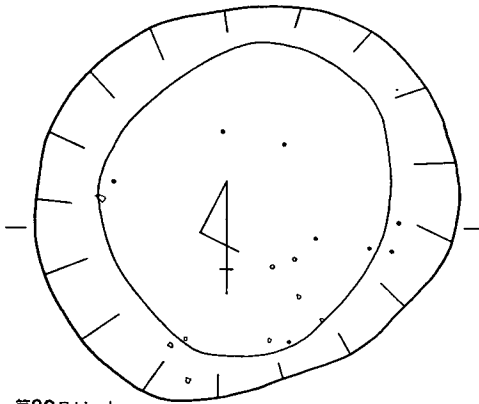
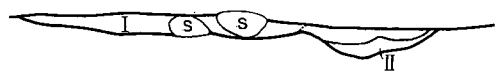
27.1



第79号ピット

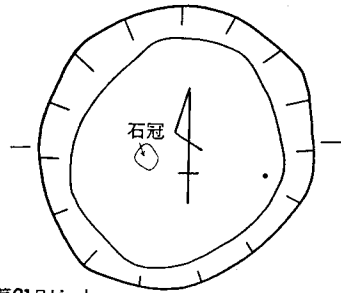
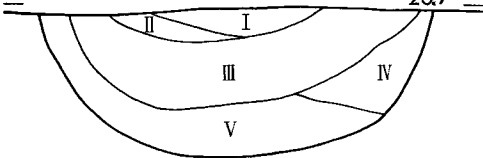
第78号ピット

26.8



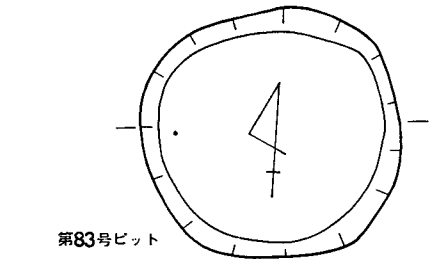
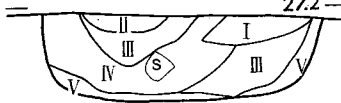
第80号ピット

26.7



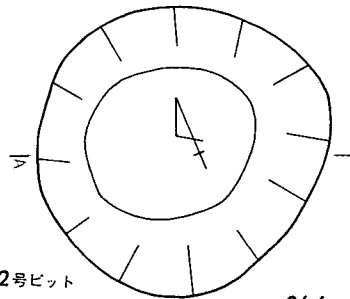
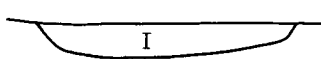
第81号ピット

27.2



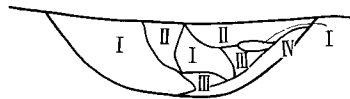
第83号ピット

27.1

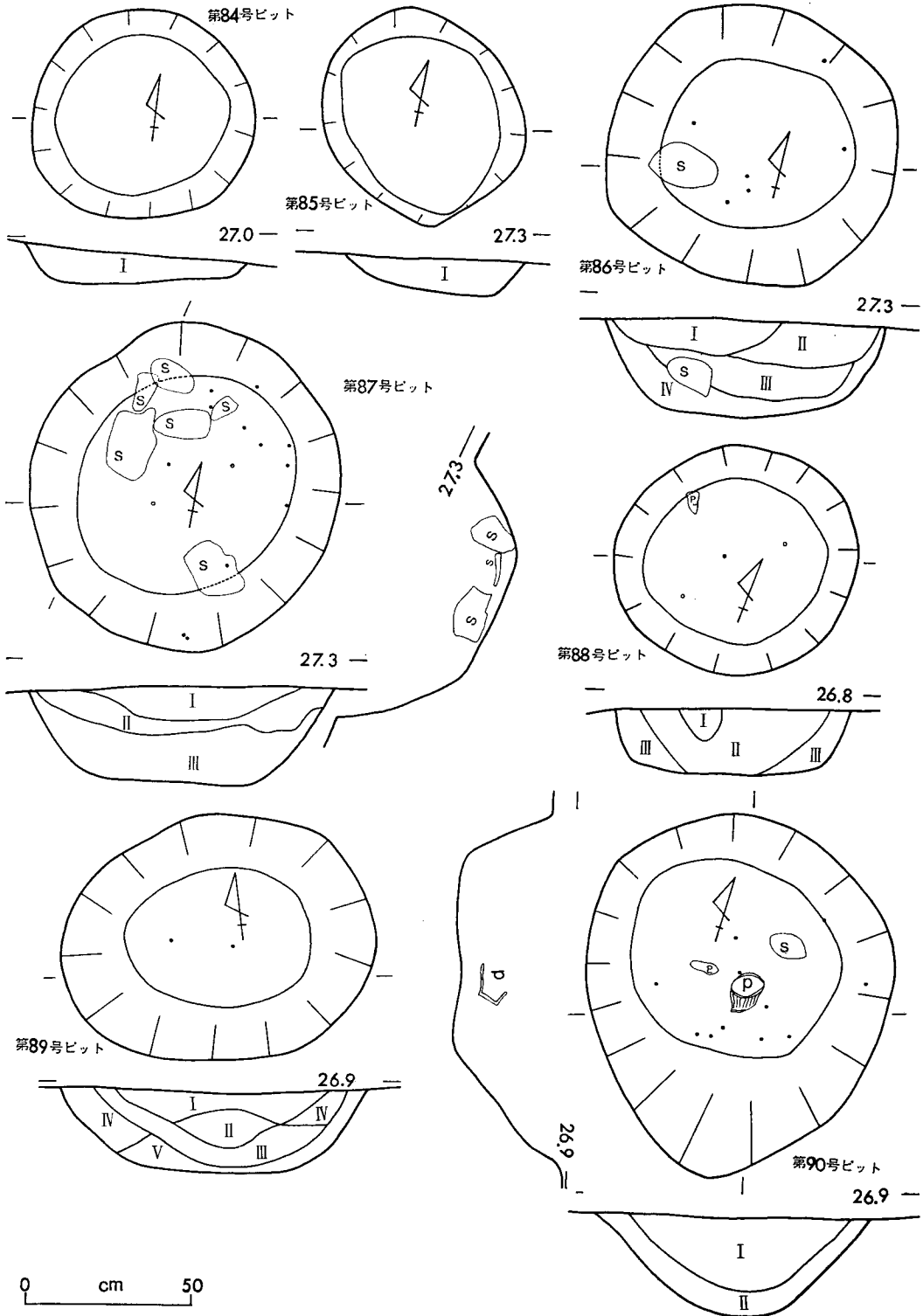


第82号ピット

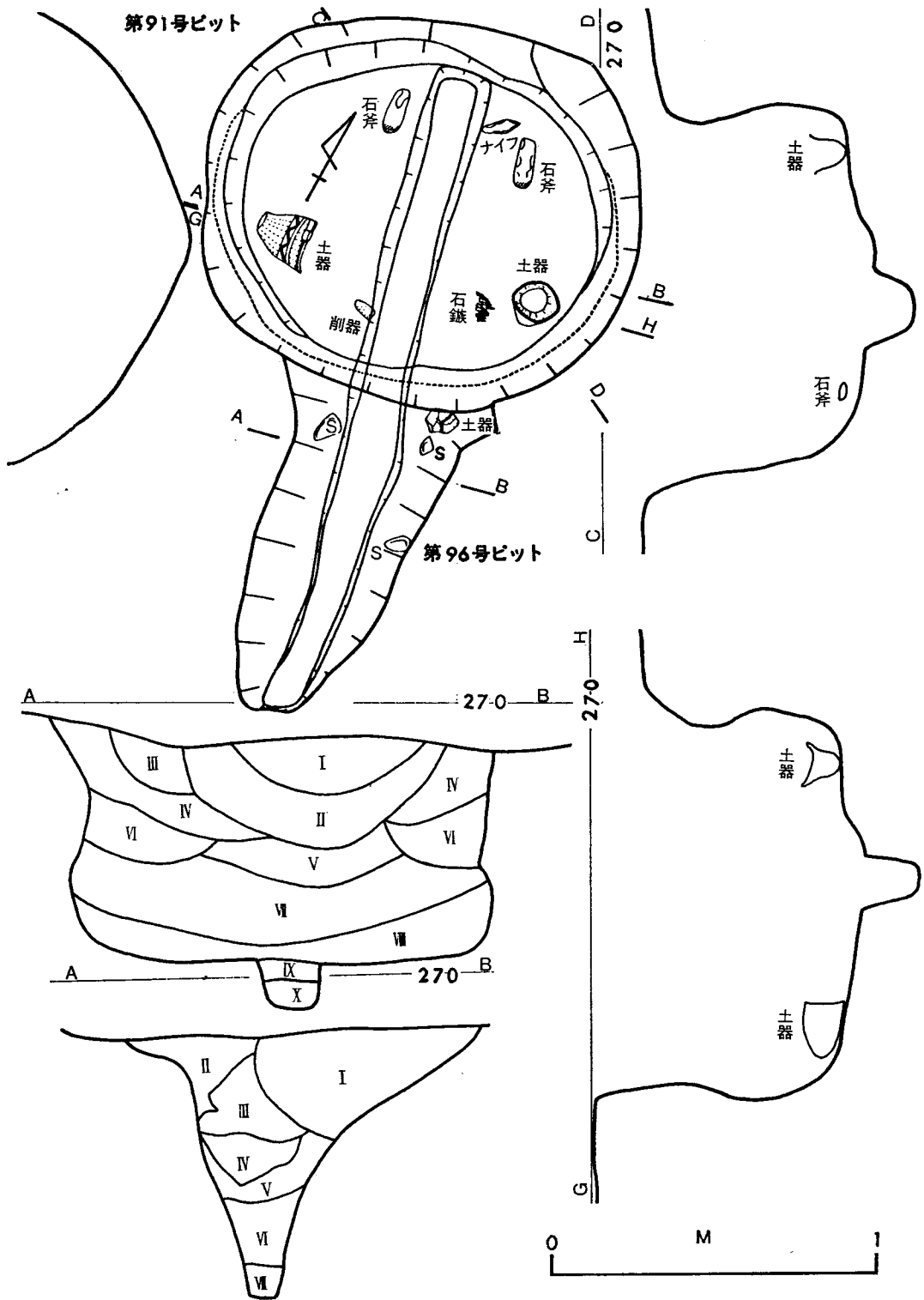
26.6



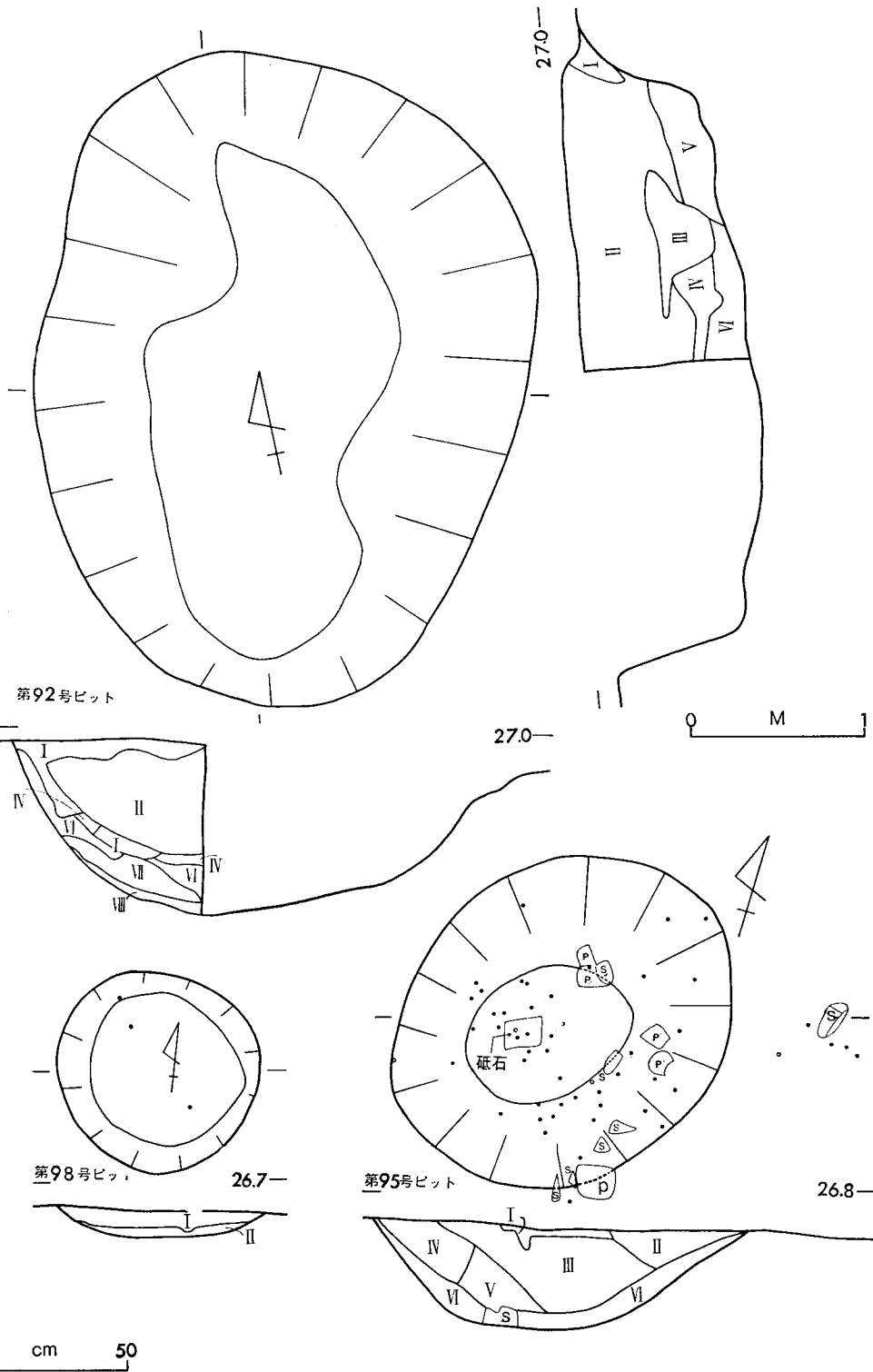
0 cm 50



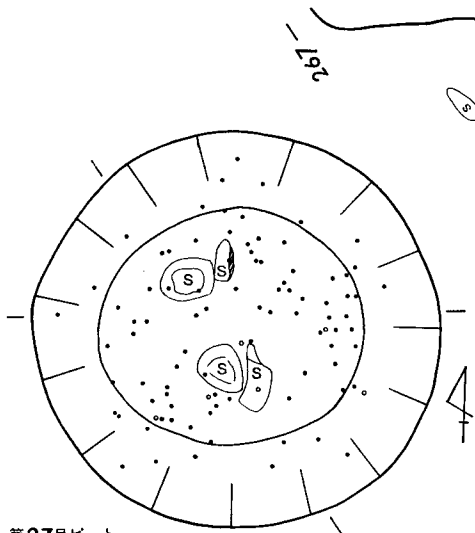
第23図 遺構実測図



第24図 遺構実測図

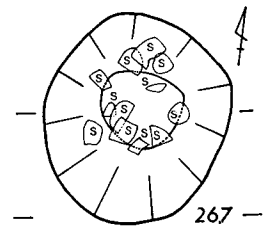
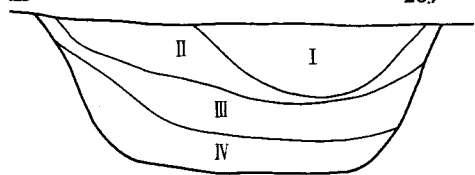


第25図 遺構実測図

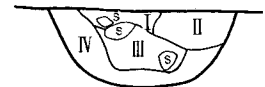


第97号ピット

26.7



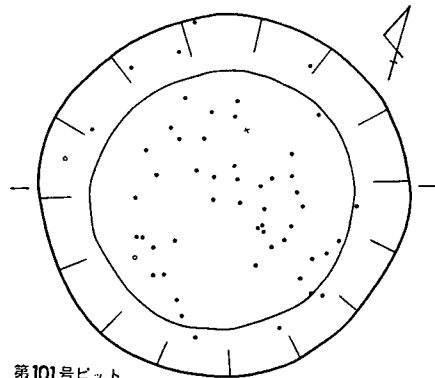
26.7



26.7

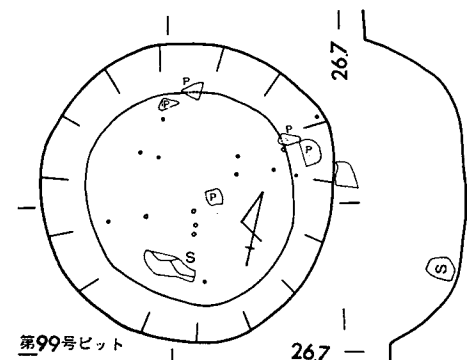
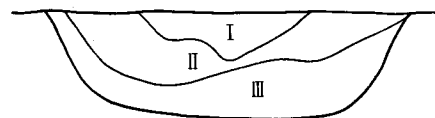


第100号ピット



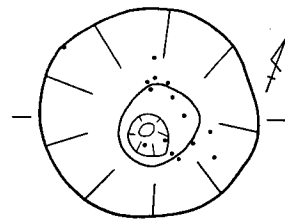
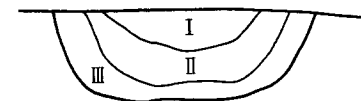
第101号ピット

26.7

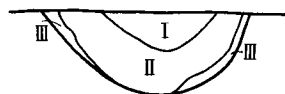


第99号ピット

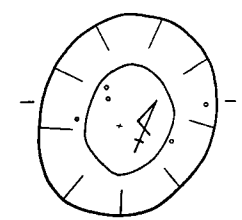
26.7



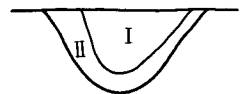
26.7



第103号ピット



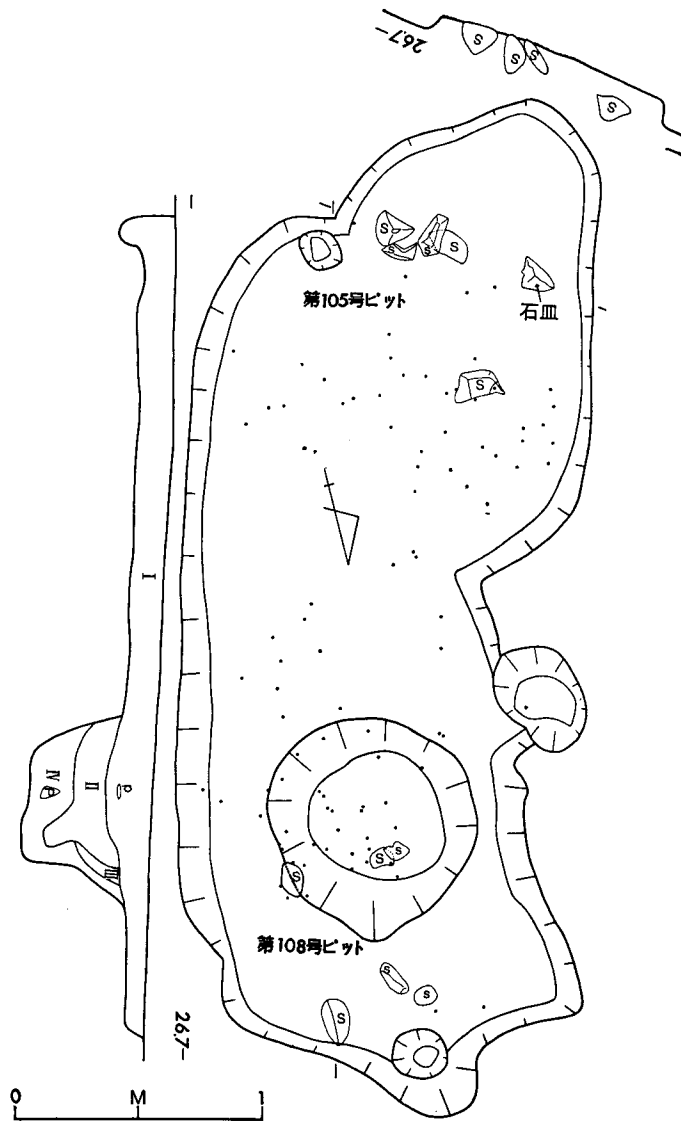
26.7



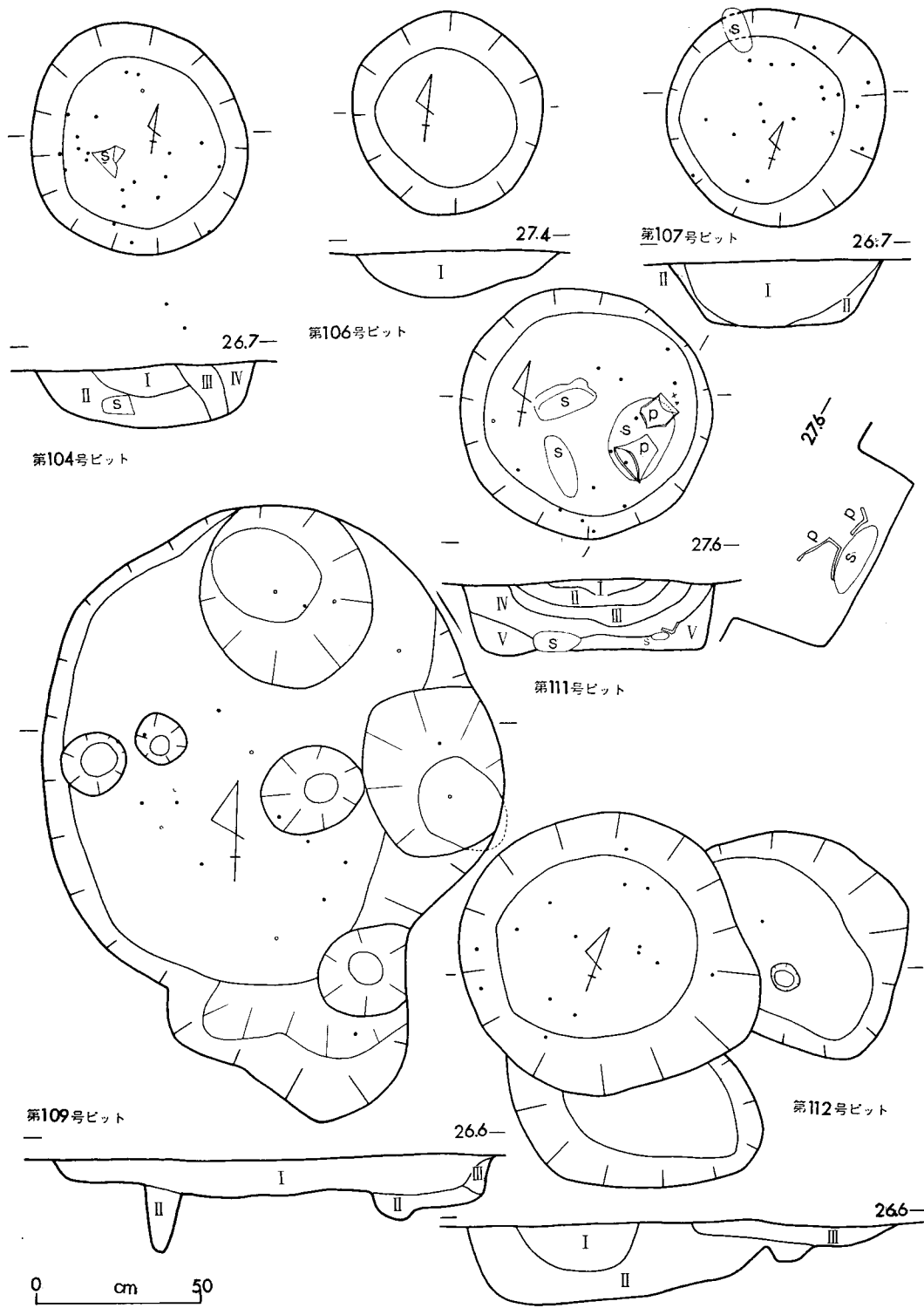
第102号ピット

0 cm 50

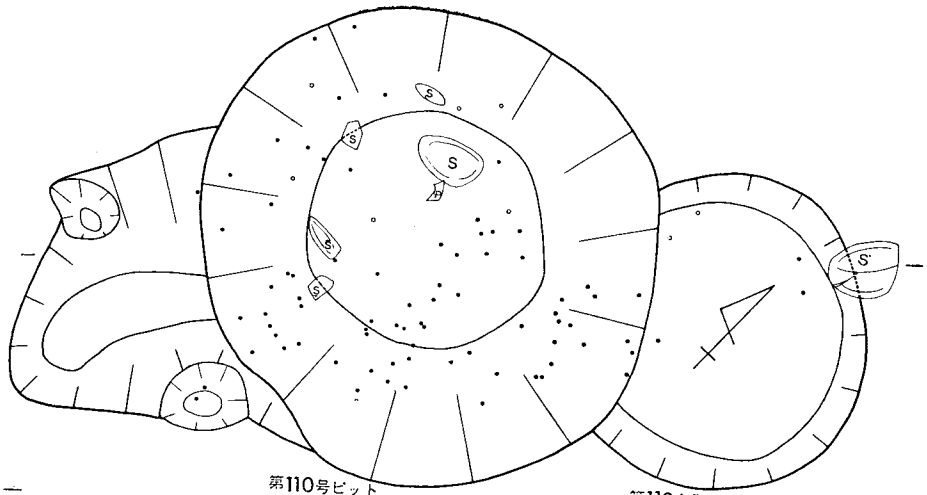
第26図 遺構実測図



第27図 遺構実測図



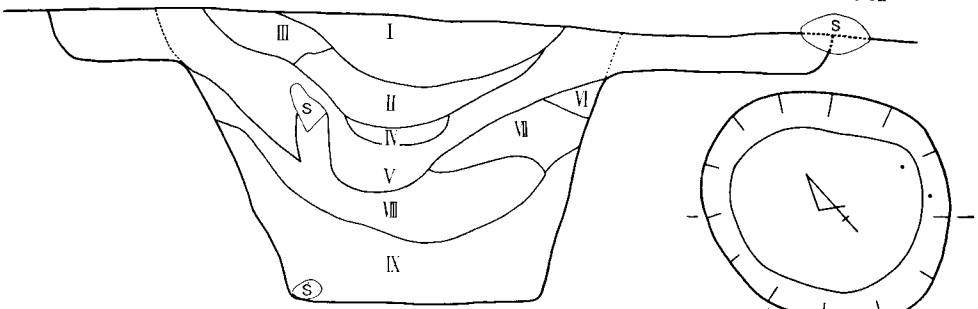
第28図 遺構実測図



第110号ピット

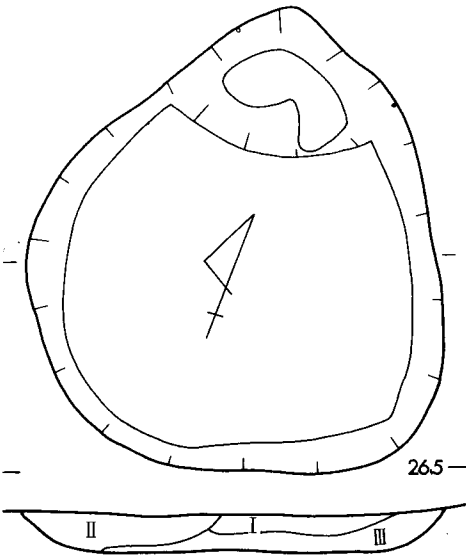
第110A号ピット

26.7—



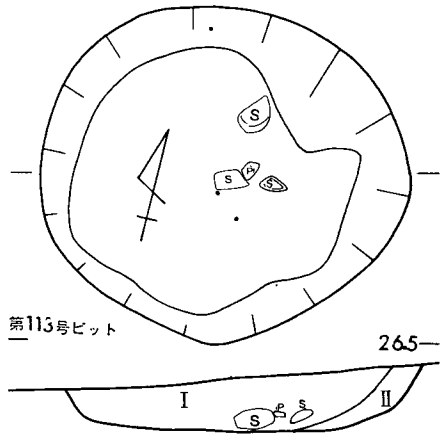
26.5—

第115号ピット



26.5—

第114号ピット

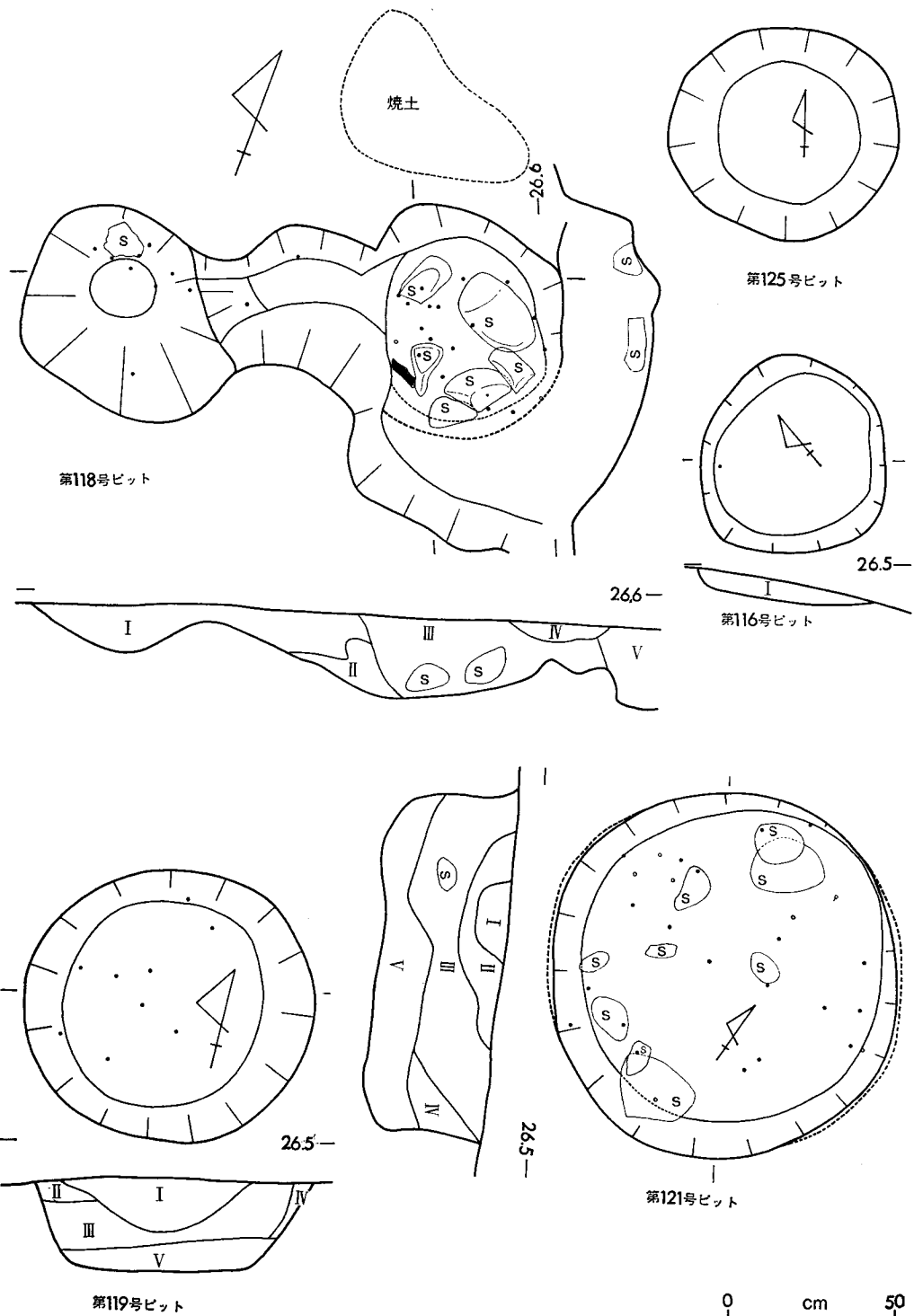


第113号ピット

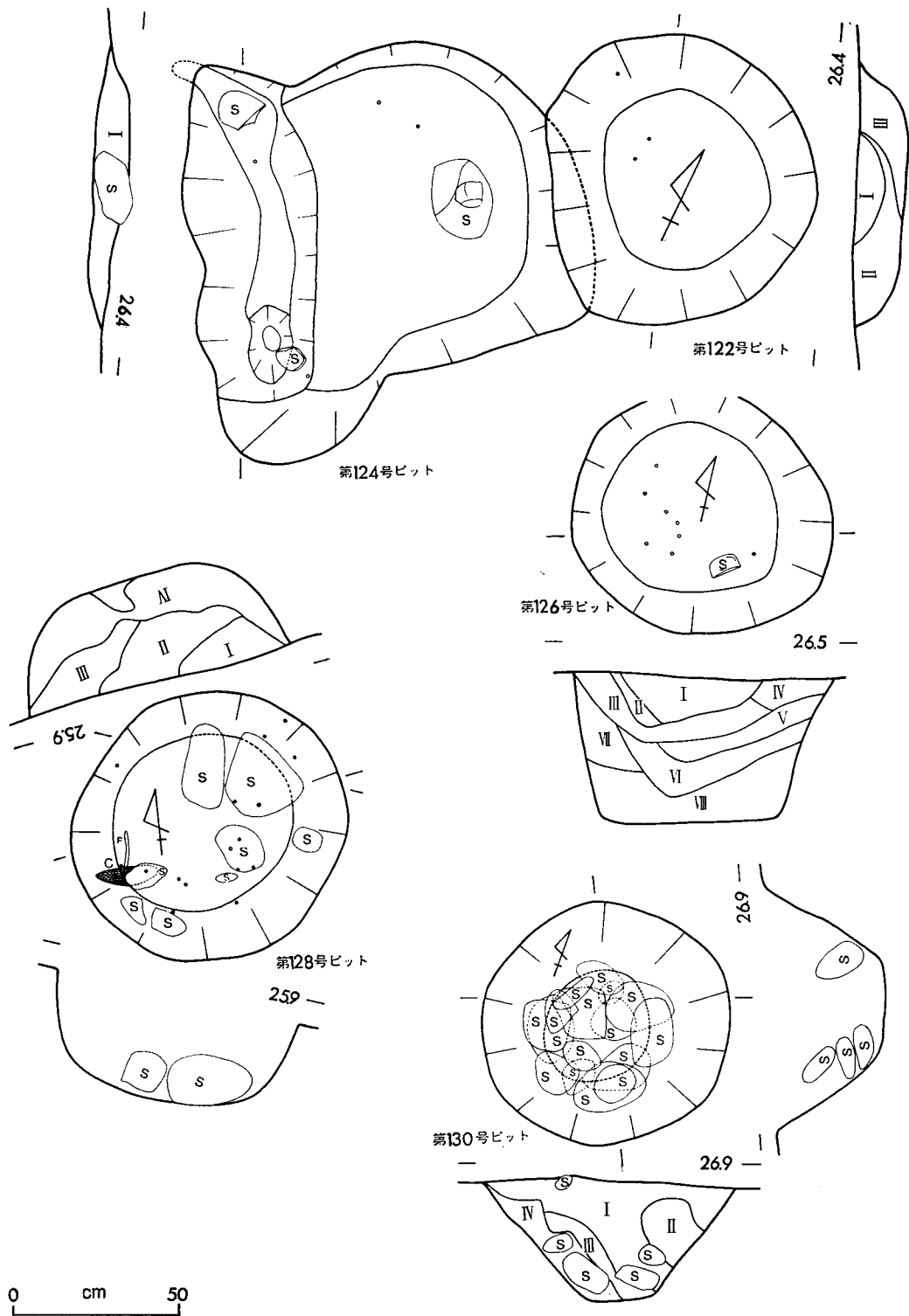
26.5—

0 cm 50

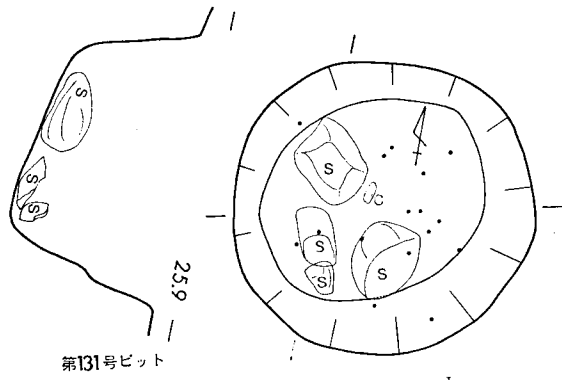
第29図 遺構実測図



第30図 遺構実測図

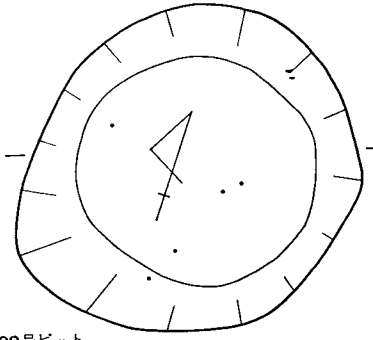


第31図 遺構実測図



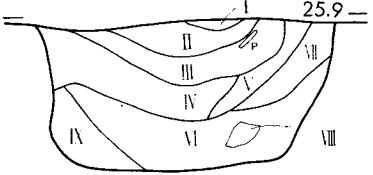
第131号ピット

25.9

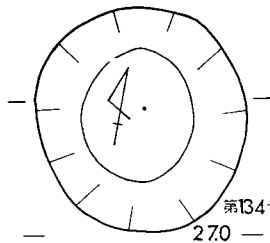
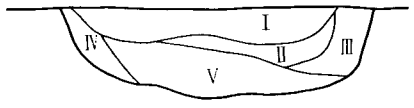


第132号ピット

26.7

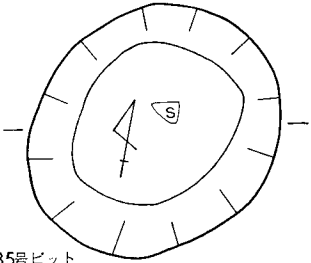


25.9



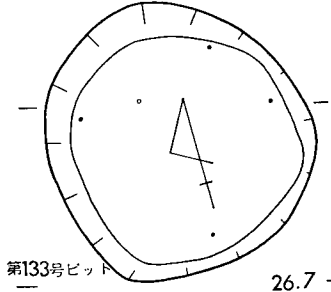
第134号ピット

27.0



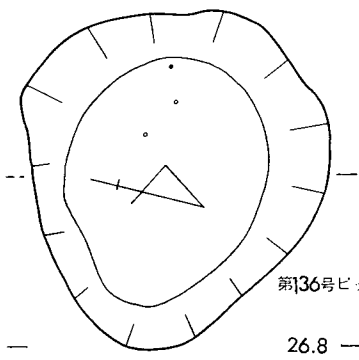
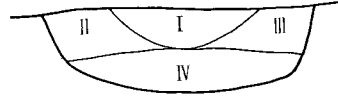
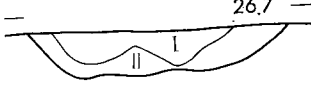
第135号ピット

26.7



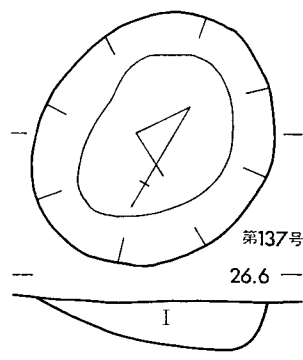
第133号ピット

26.7



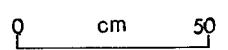
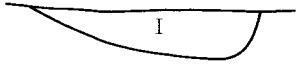
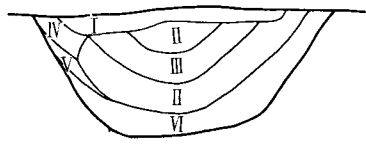
第136号ピット

26.8

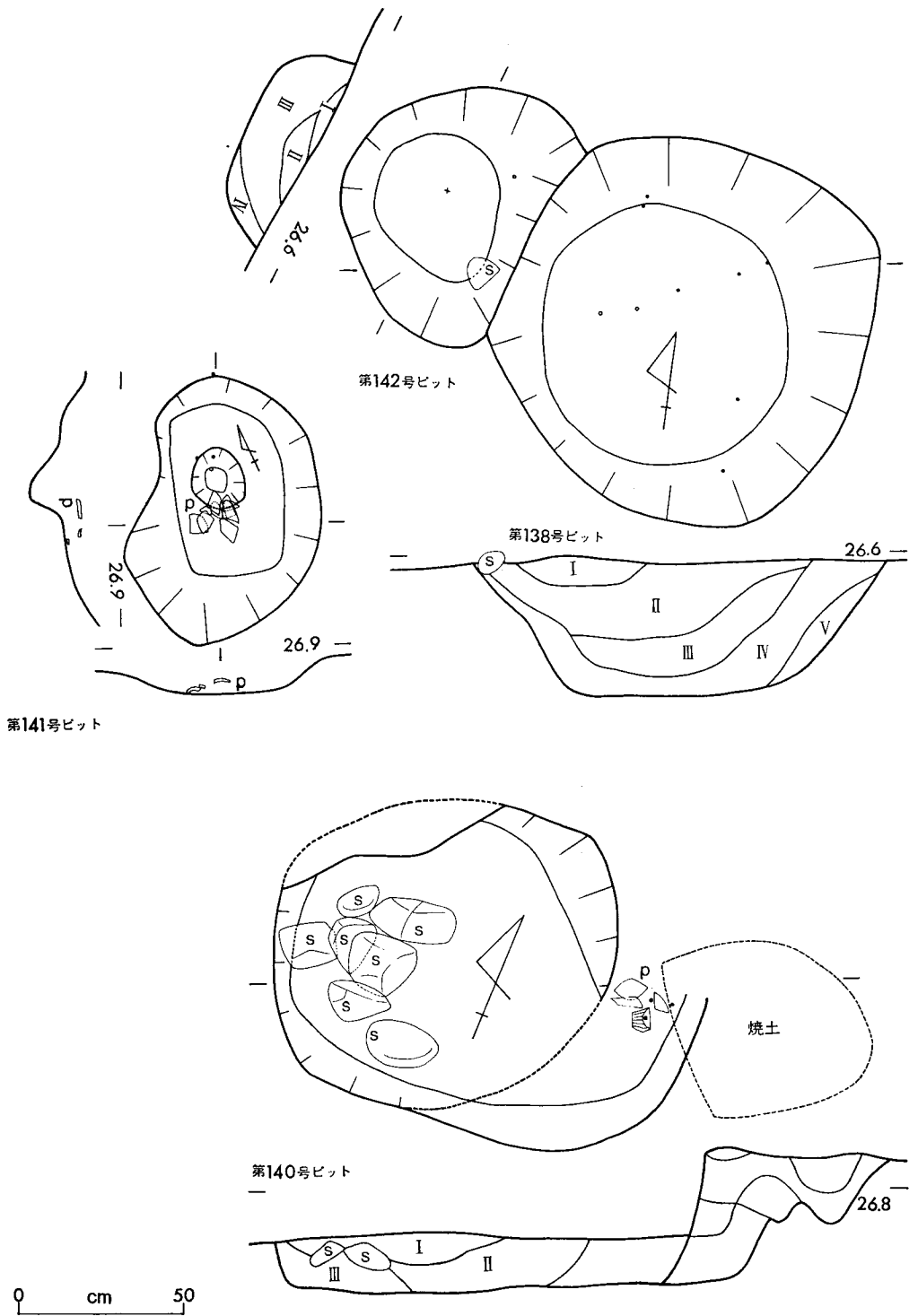


第137号ピット

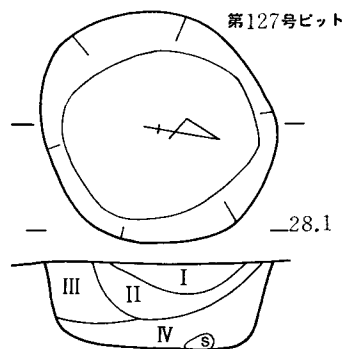
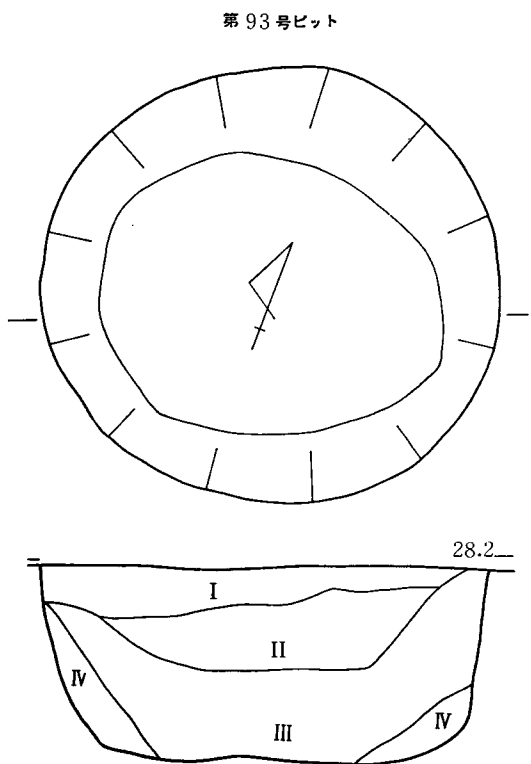
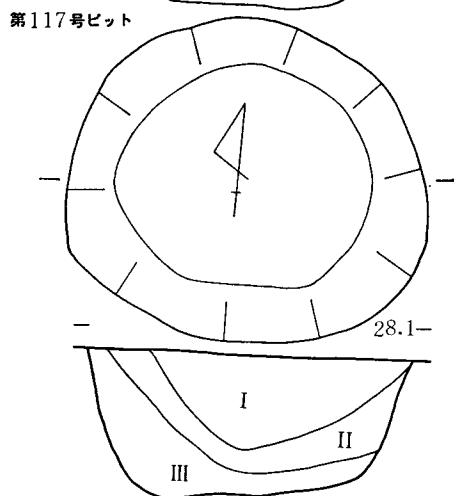
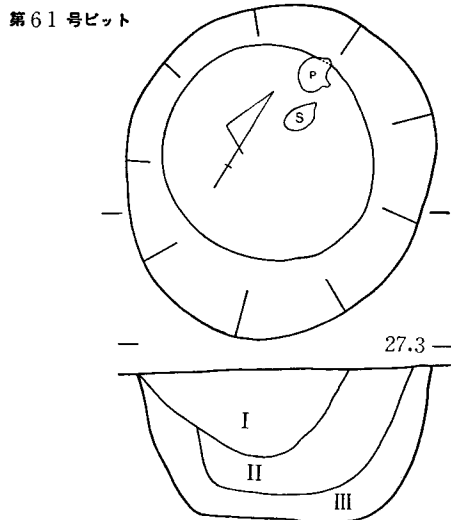
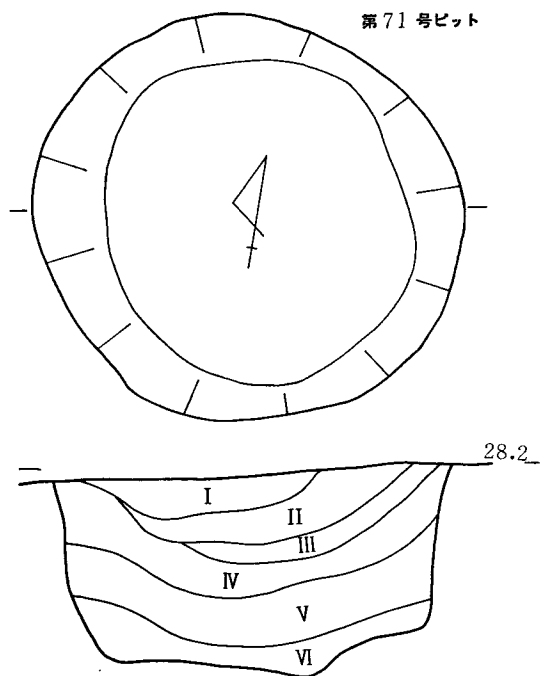
26.6



第32図 遺構実測図



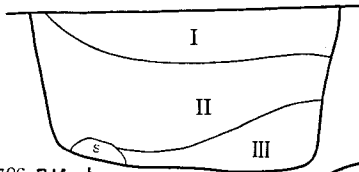
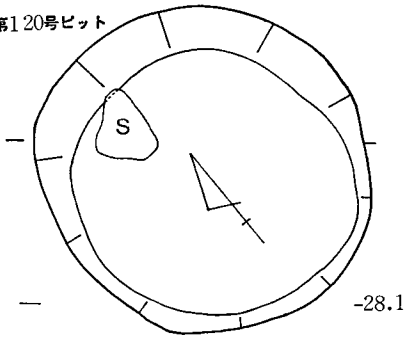
第33図 遺構実測図



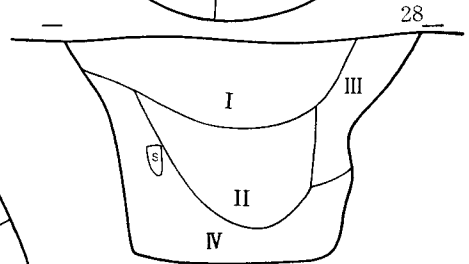
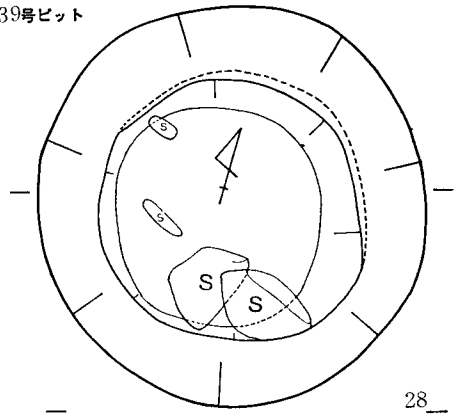
0 cm 50

第34図 遺構実測図

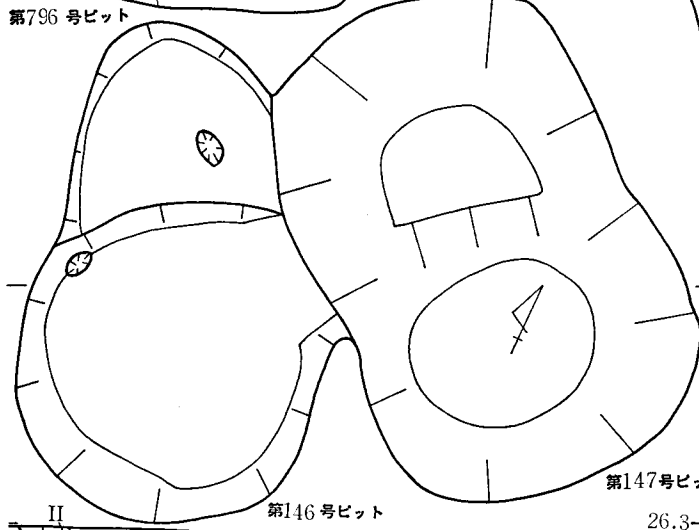
第120号ピット



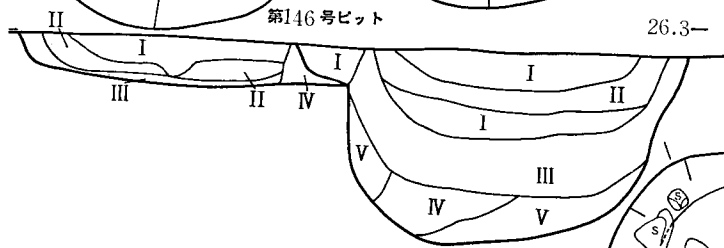
第139号ピット



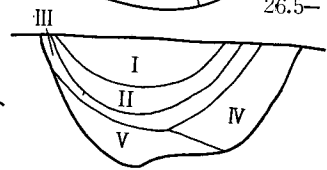
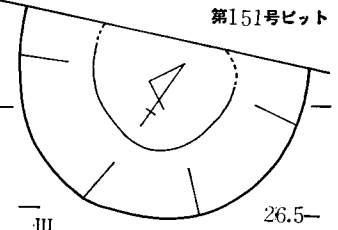
第796号ピット



第148号ピット



第151号ピット

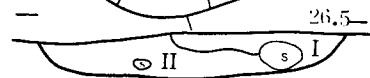
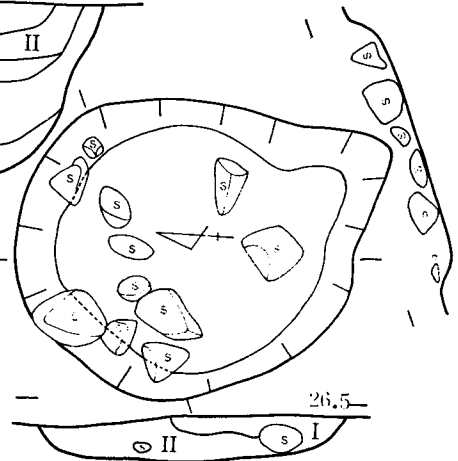


第147号ピット

26.3-

第146号ピット

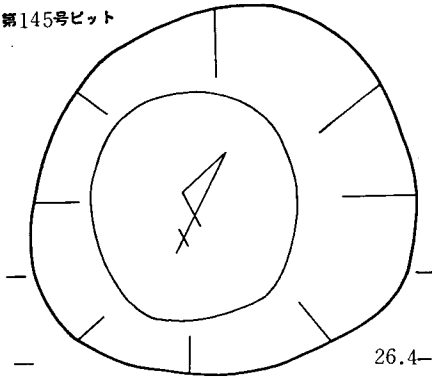
第152号ピット



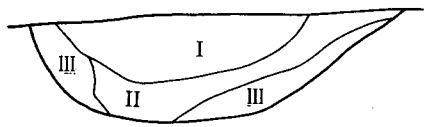
0 cm 50

第35図 遺構実測図

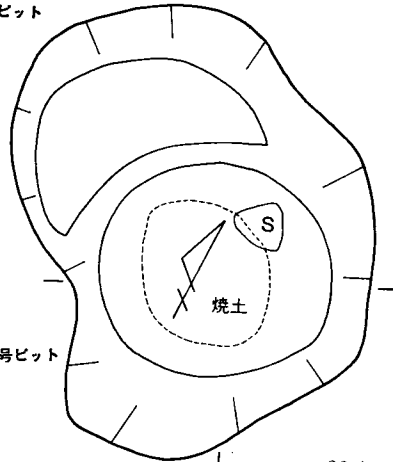
第145号ビット



26.4-

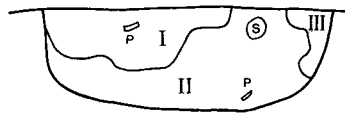


第149号ビット



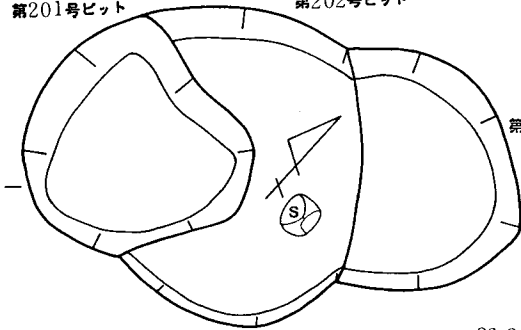
26.4-

第144号ビット



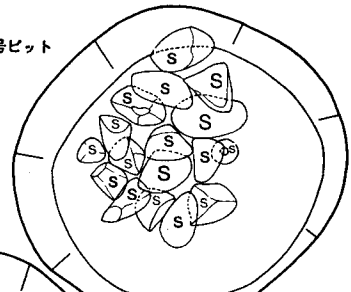
第201号ビット

第202号ビット



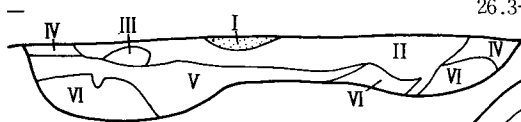
第203号ビット

第207号ビット



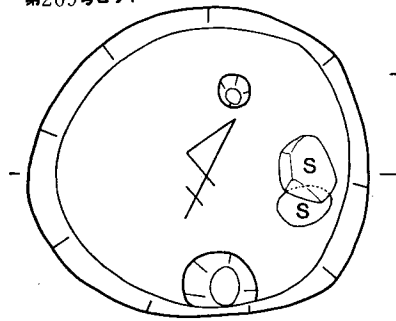
26.3-

第205号ビット

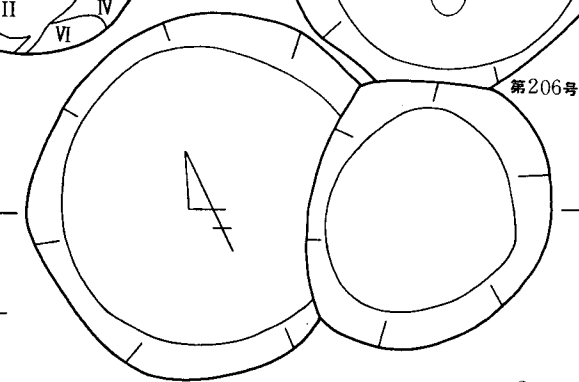
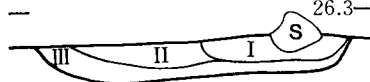


第206号ビット

第209号ビット



26.3-



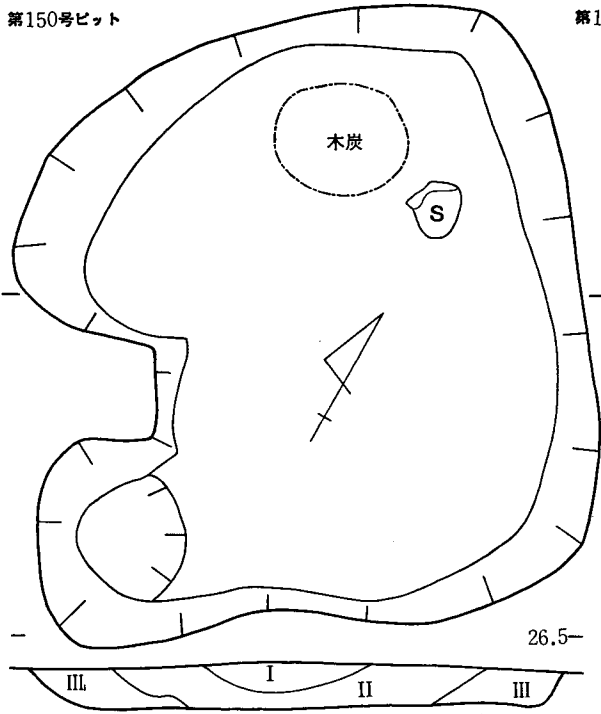
26.3-



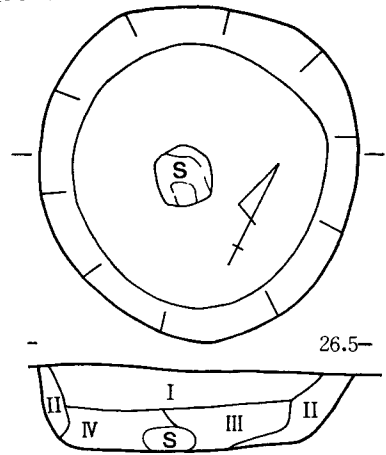
0 cm 50

第36図 遺構実測図

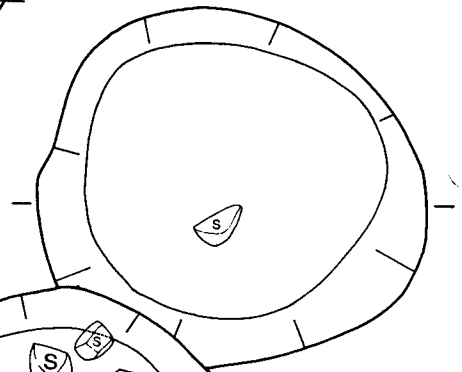
第150号ピット



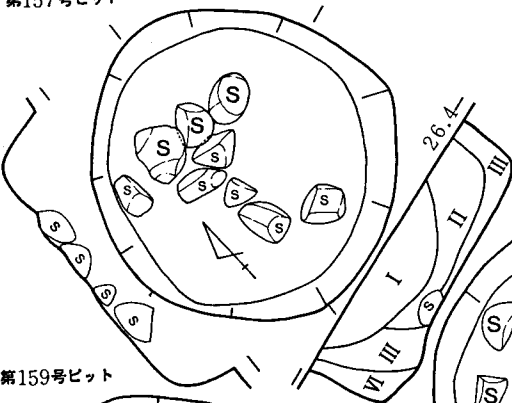
第154号ピット



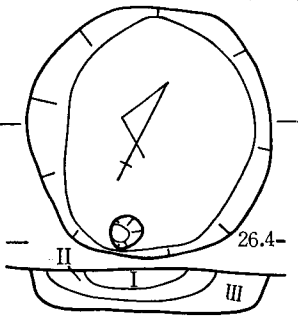
第155号ピット



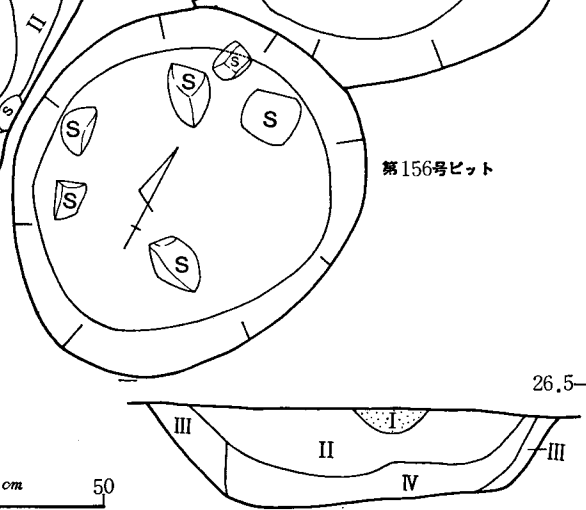
第157号ピット



第159号ピット

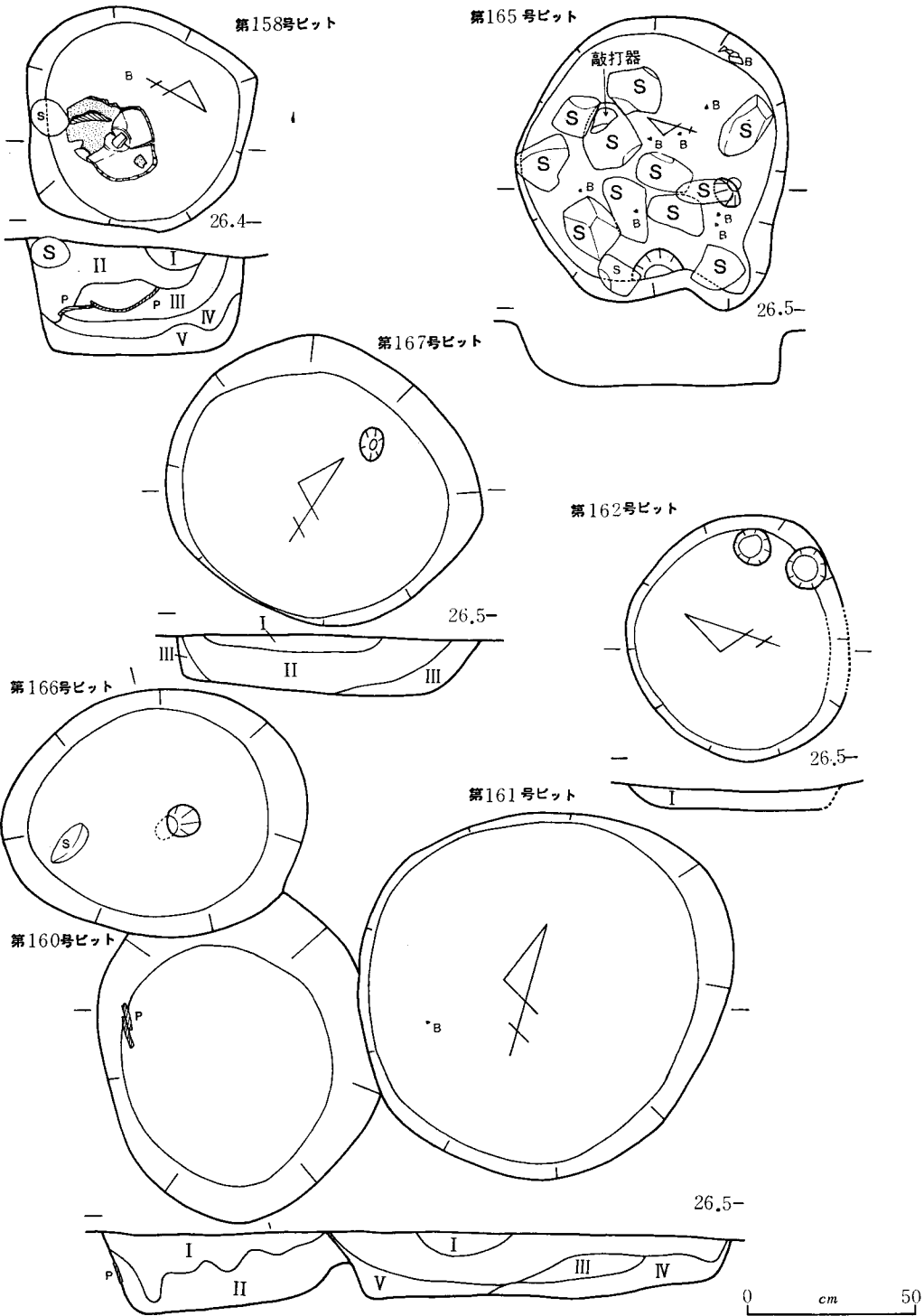


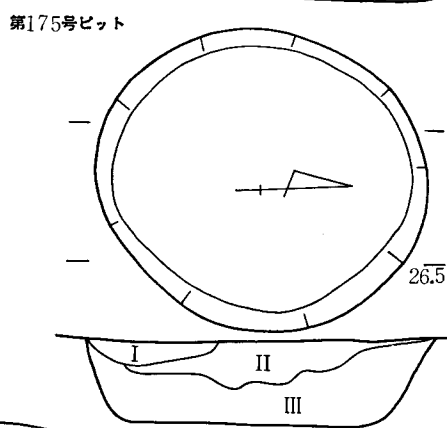
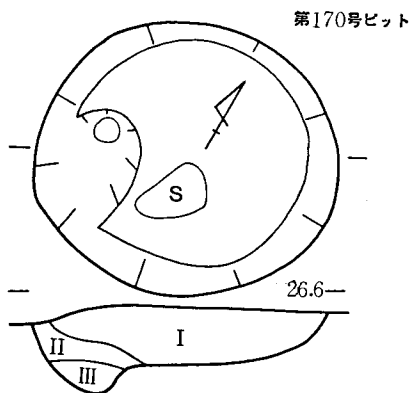
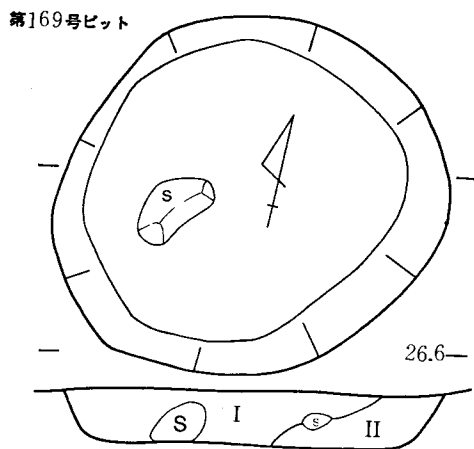
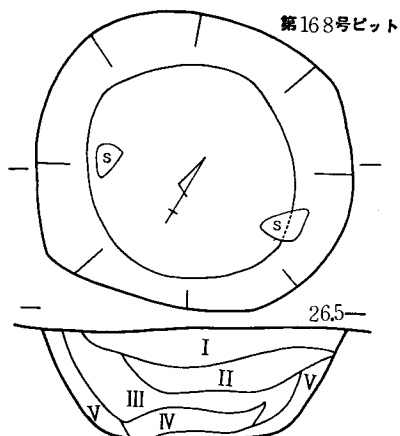
第156号ピット



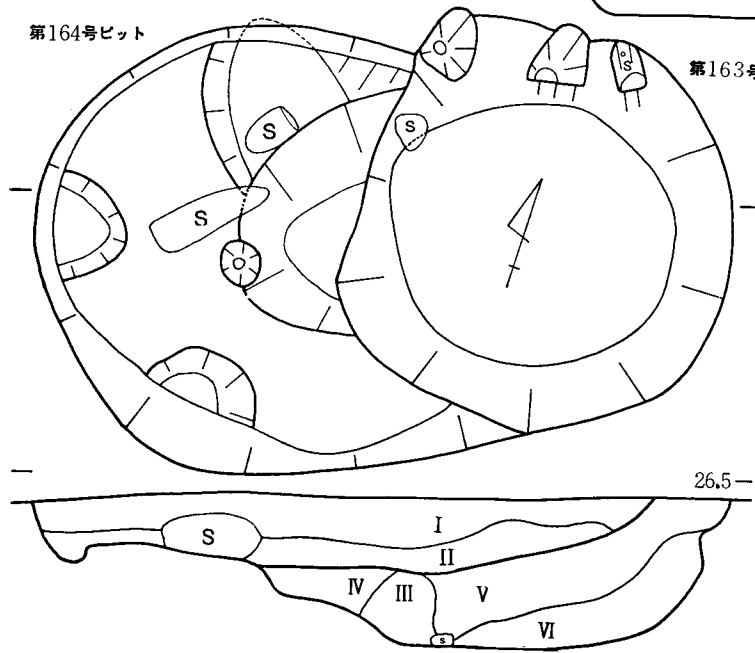
0 cm 50

第37図 遺構実測図



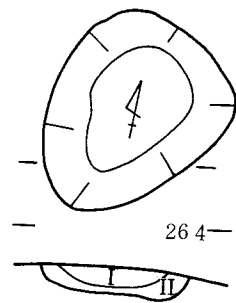


第164号ビット

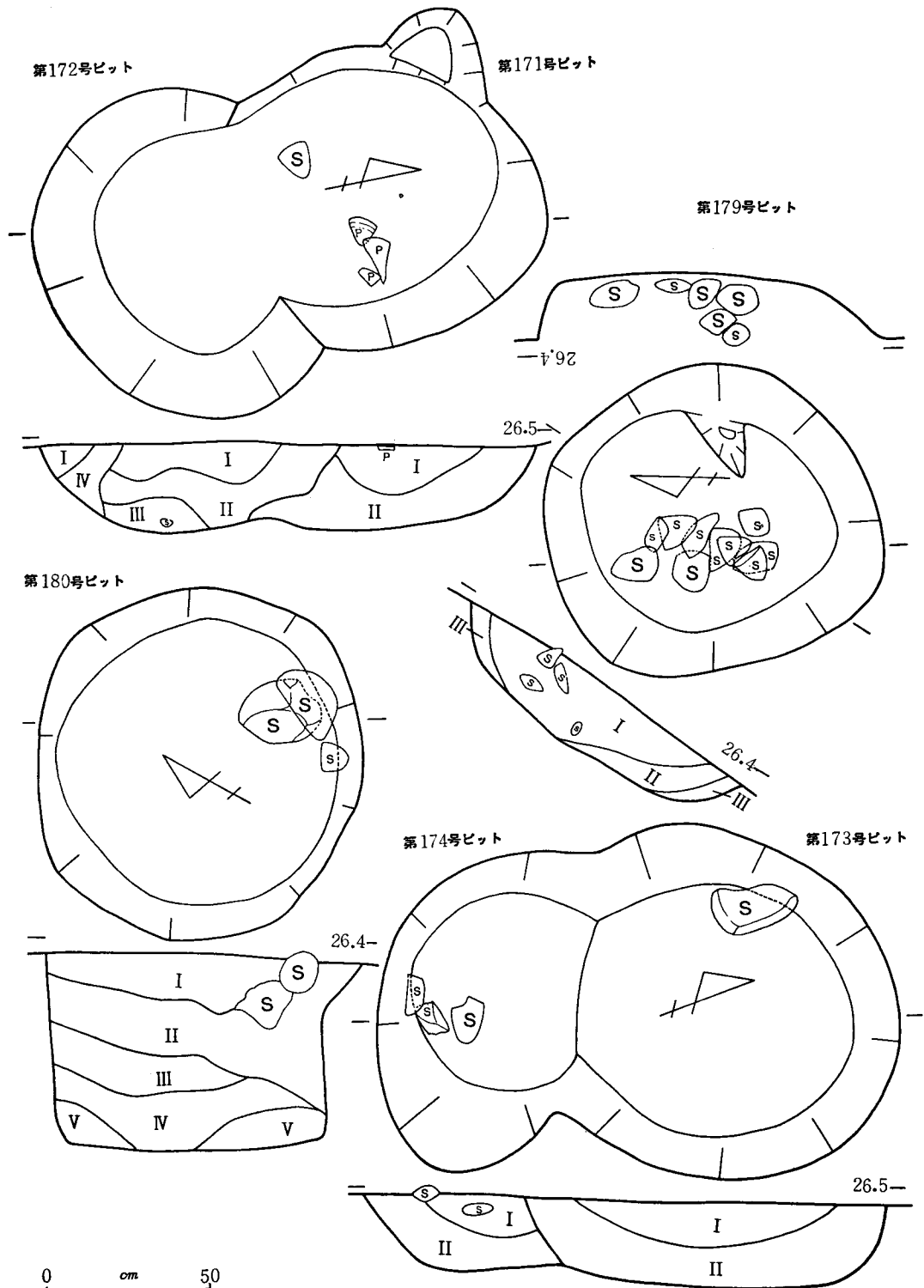


第163号ビット

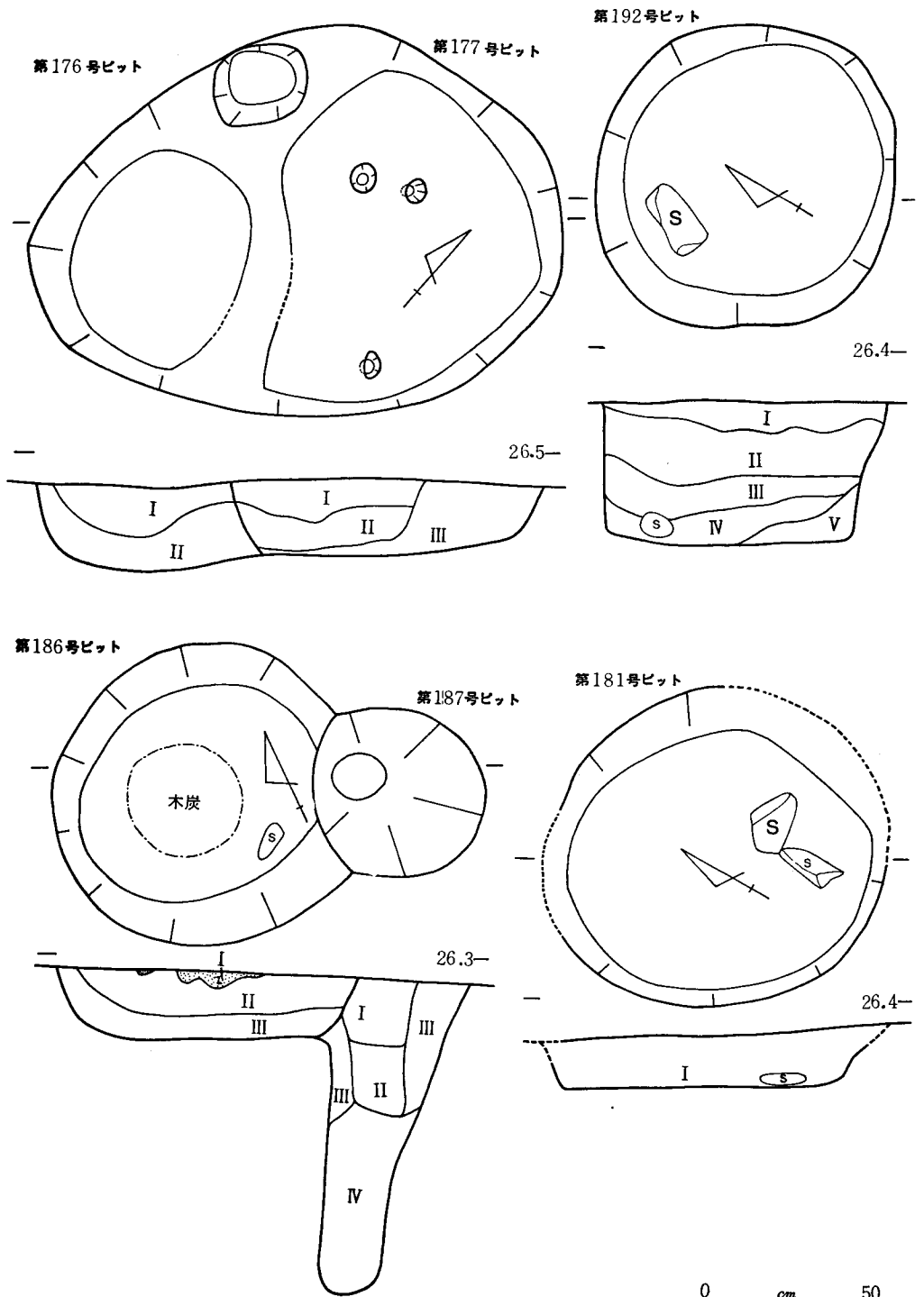
第178号ビット



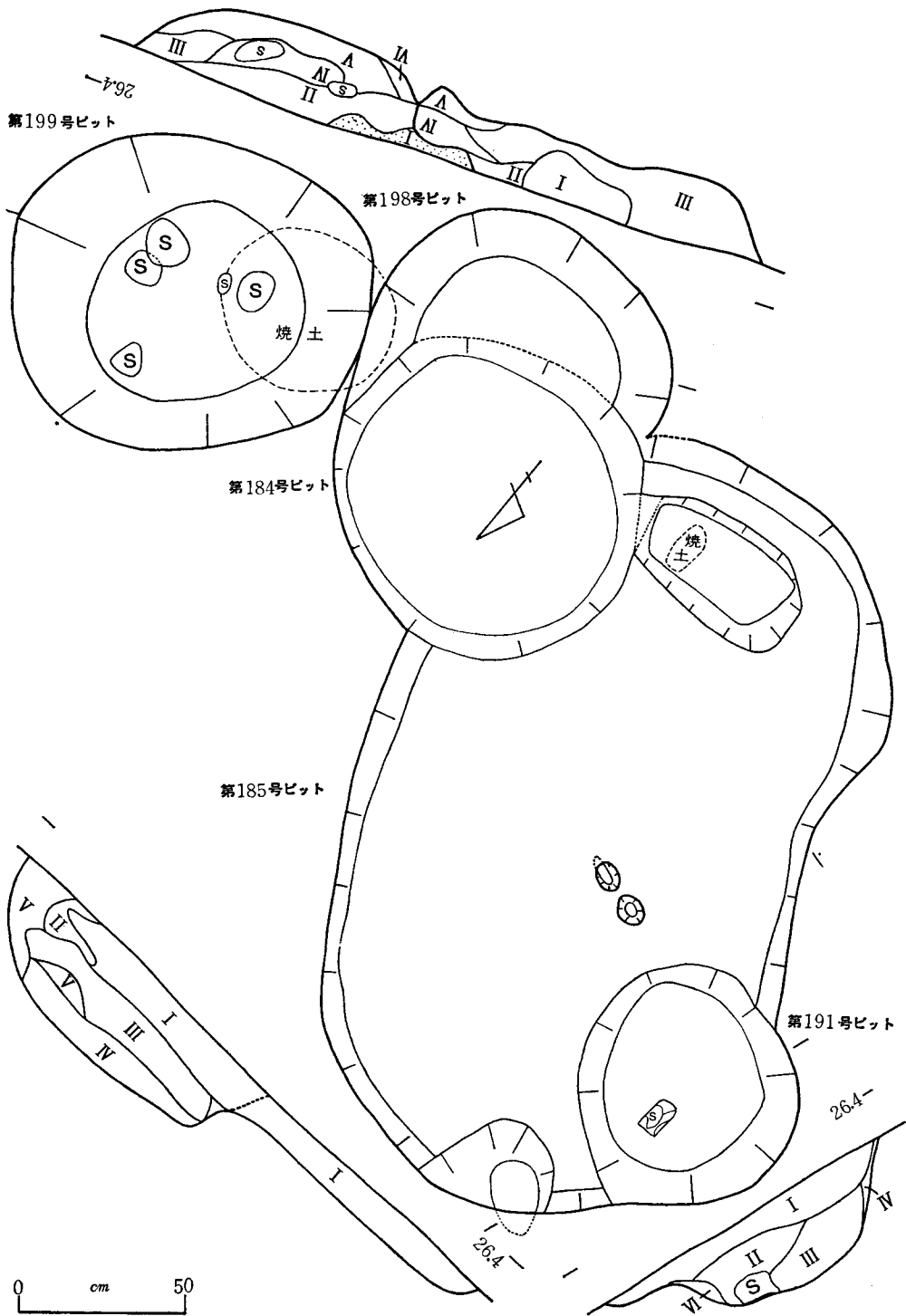
第39図 遺構実測図



第40図 遺構実測図

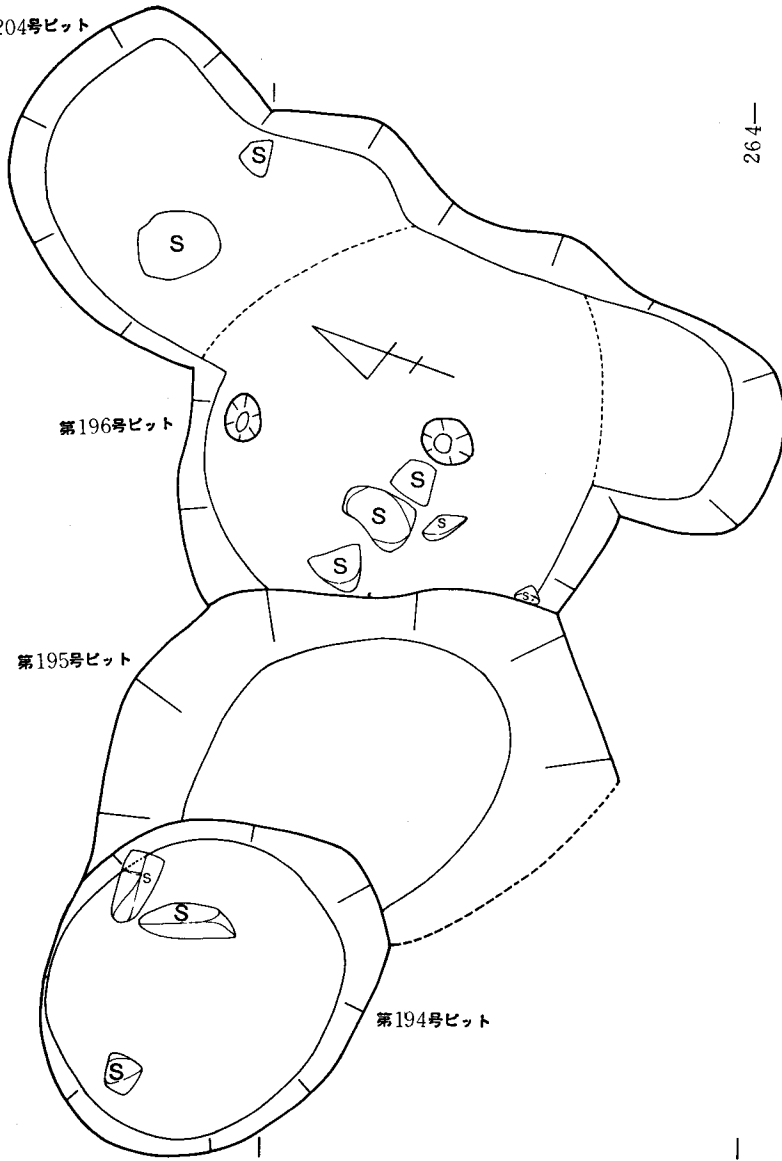


第41図 遺構実測図



第42図 遺構実測図

第204号ビット

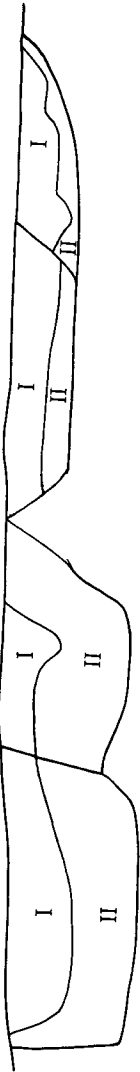


第196号ビット

第195号ビット

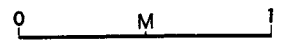
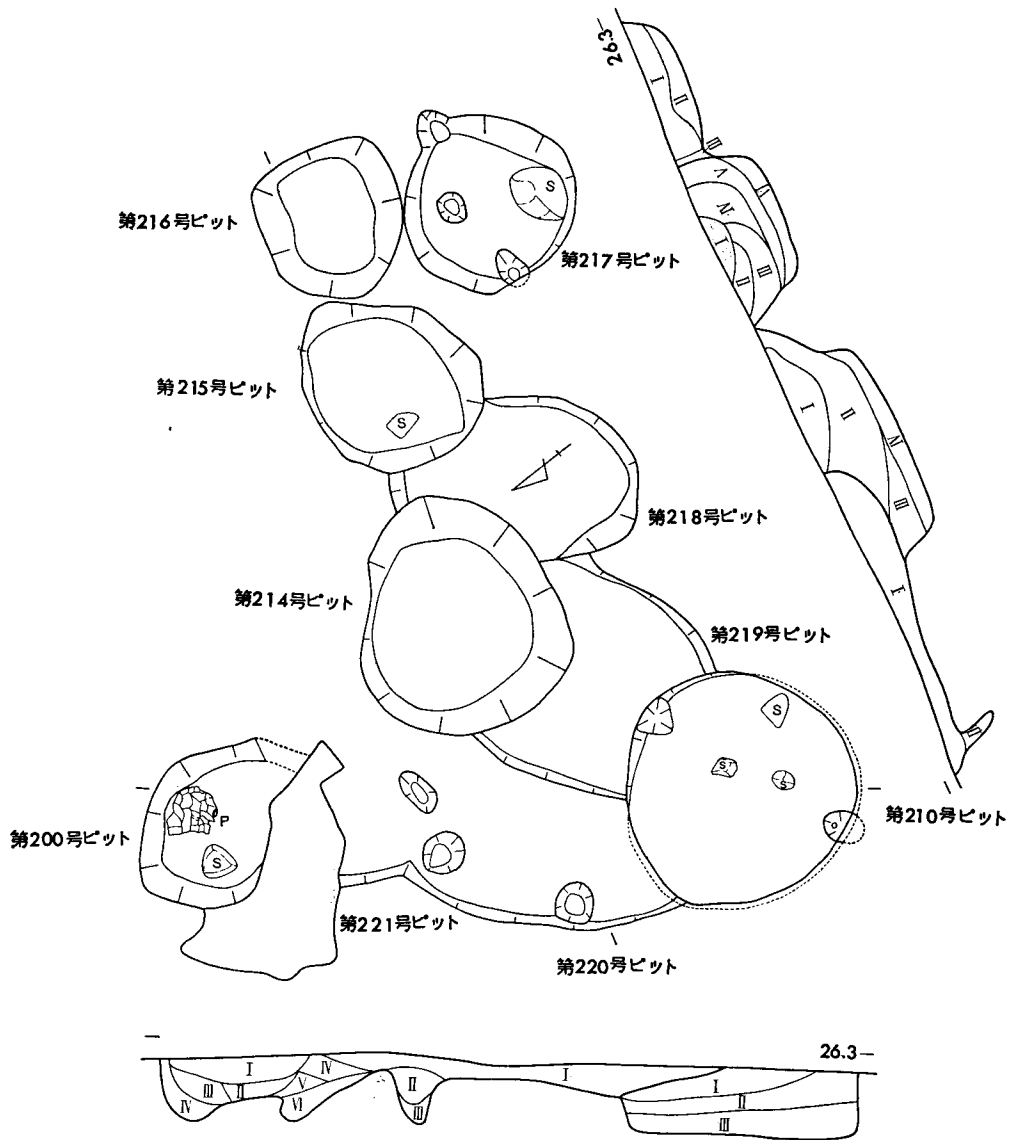
第194号ビット

264—

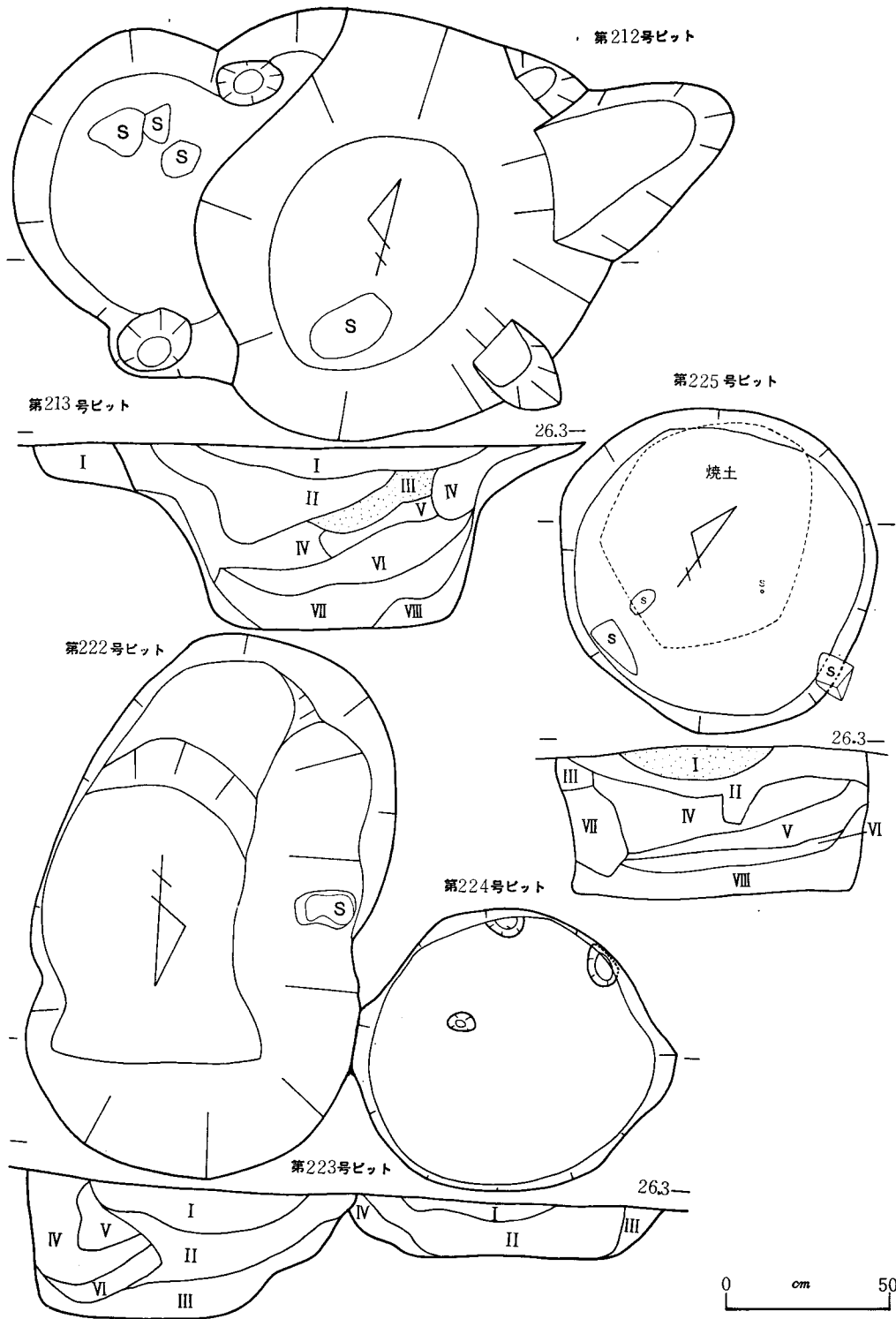


0 cm 50

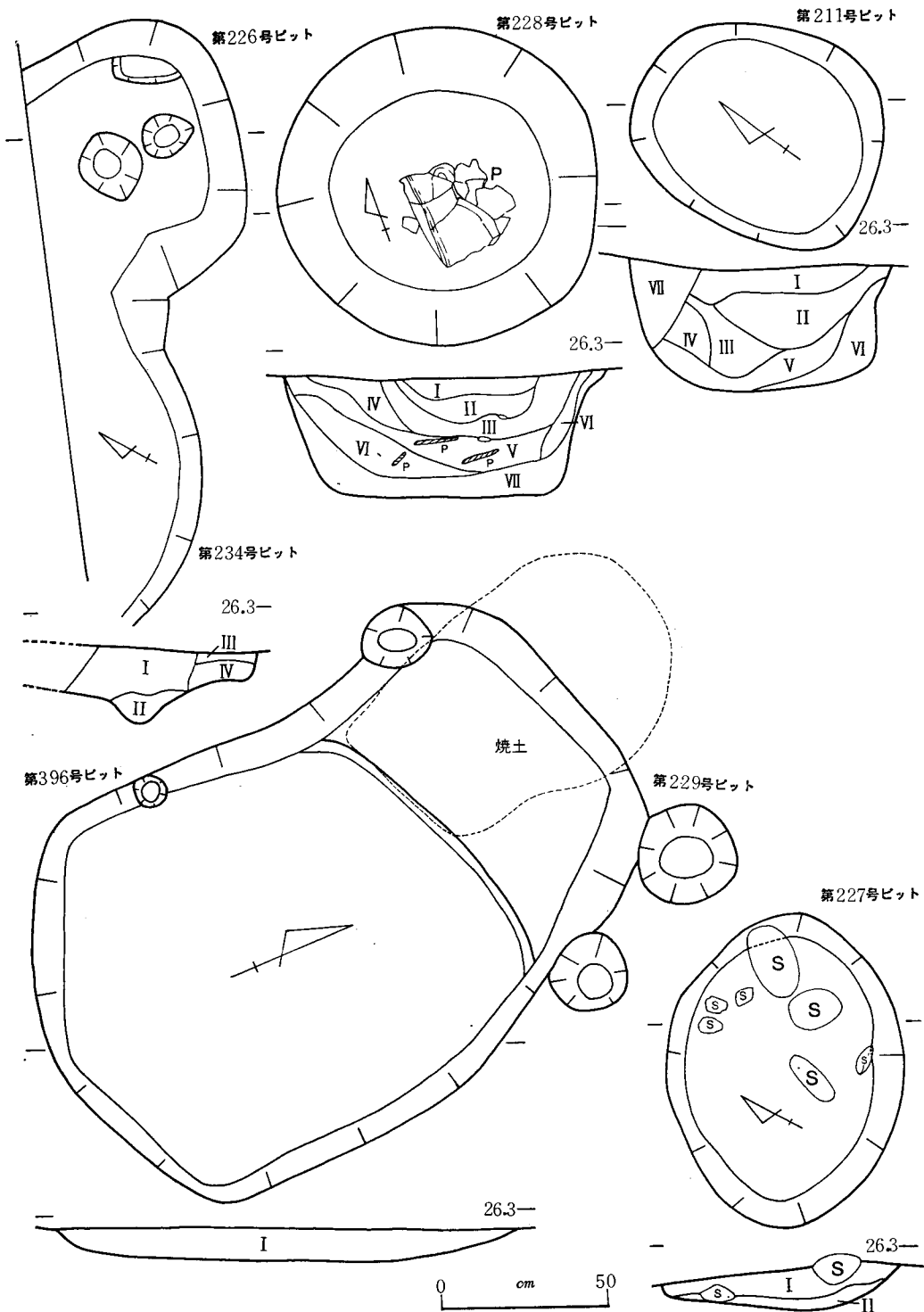
第43図 遺構実測図



第44図 遺構実測図



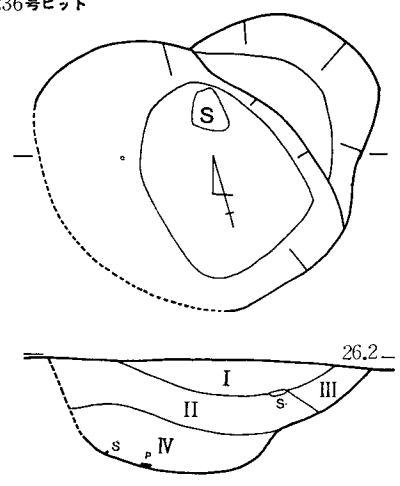
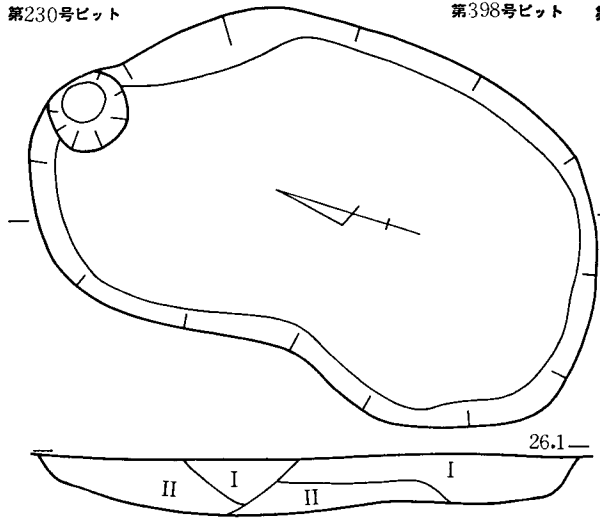
第45図 遺構実測図



第46図 遺構実測図

第230号ピット

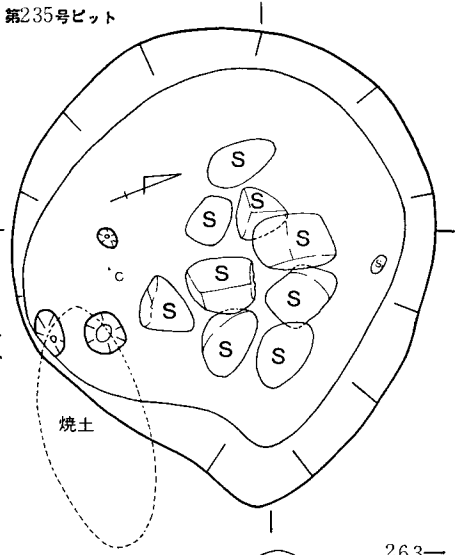
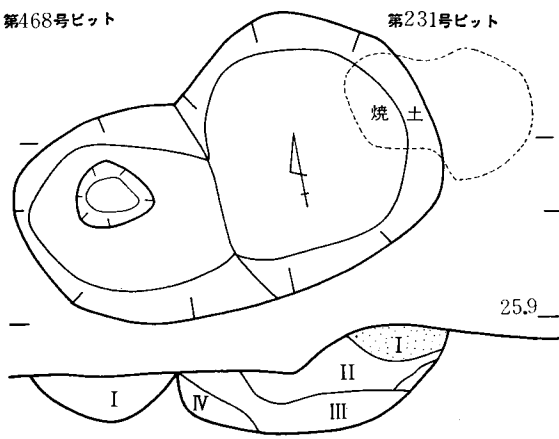
第398号ピット 第236号ピット



第468号ピット

第231号ピット

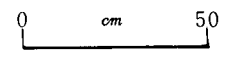
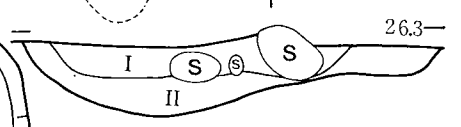
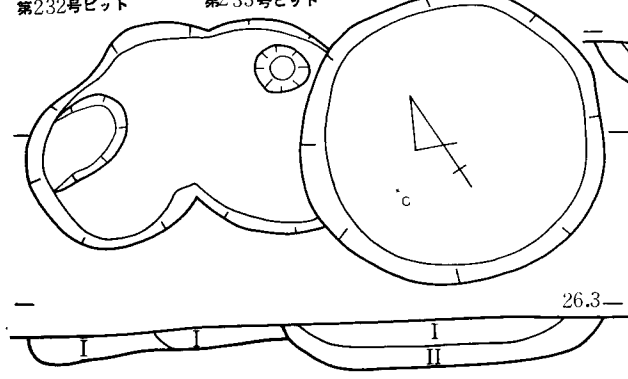
第235号ピット



第232号ピット

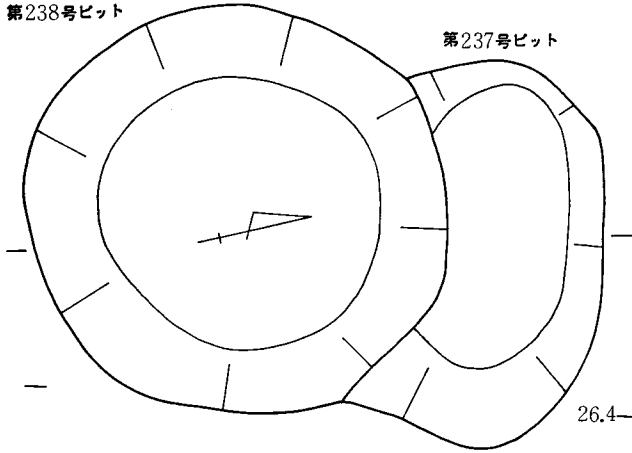
第233号ピット

第369号ピット

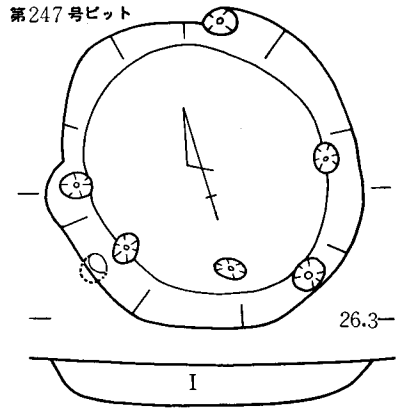


第47図 遺構実測図

第238号ビット

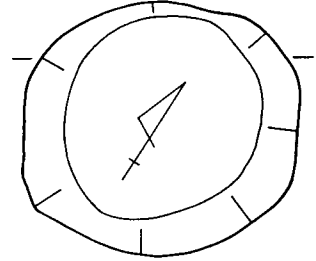


第237号ビット



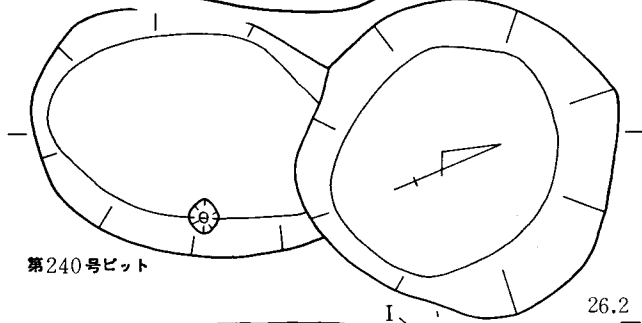
26.3-

第248号ビット



26.2-

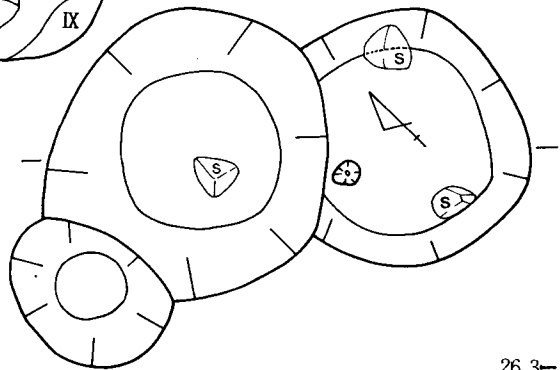
第239号ビット



第240号ビット

26.2

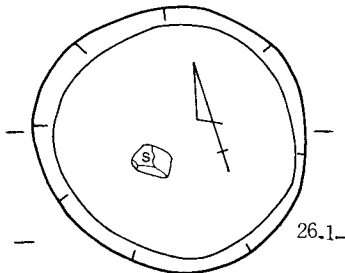
第246号ビット



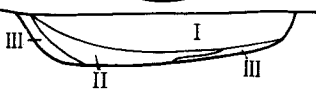
第245号ビット

26.3-

第208号ビット



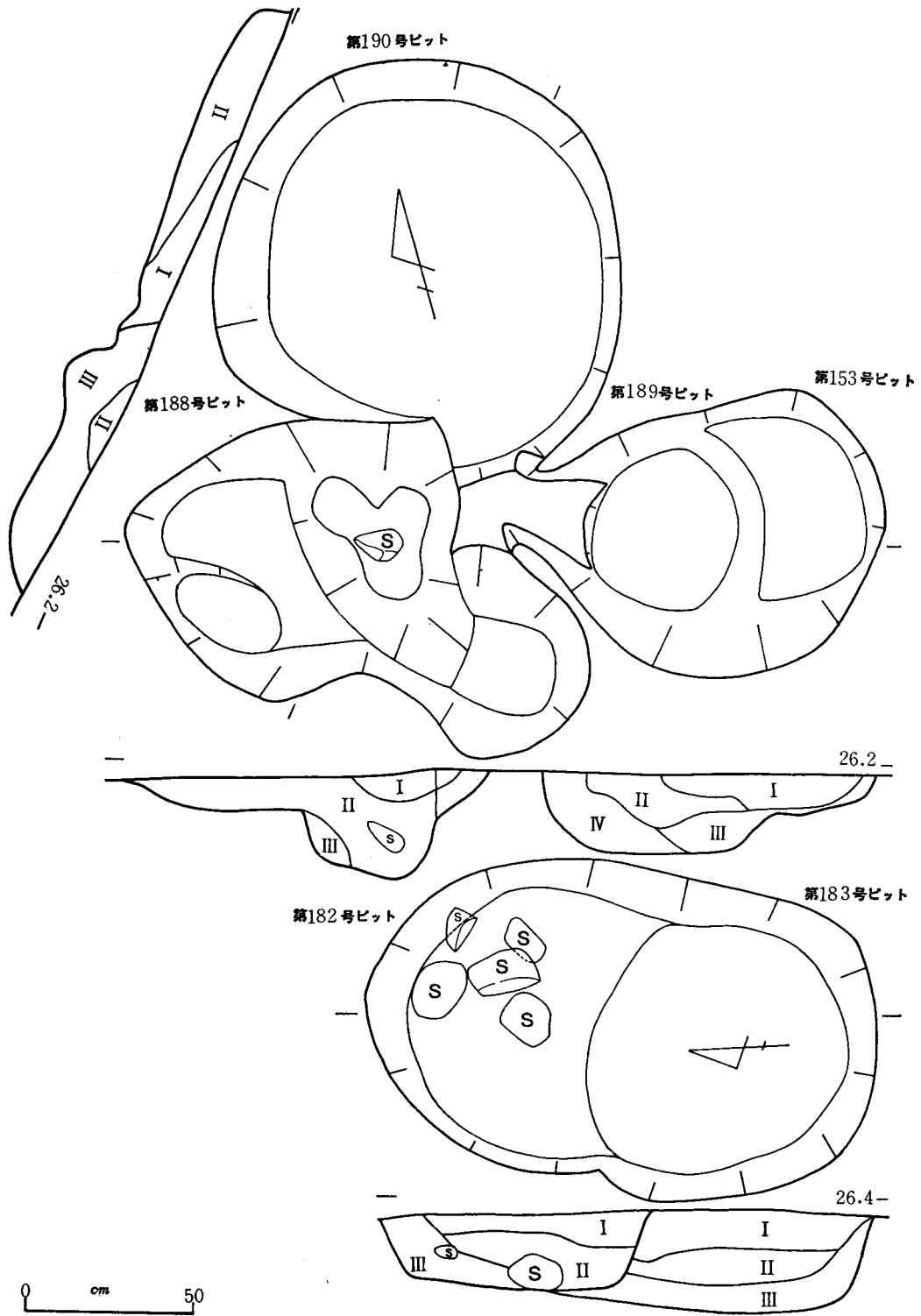
26.1-



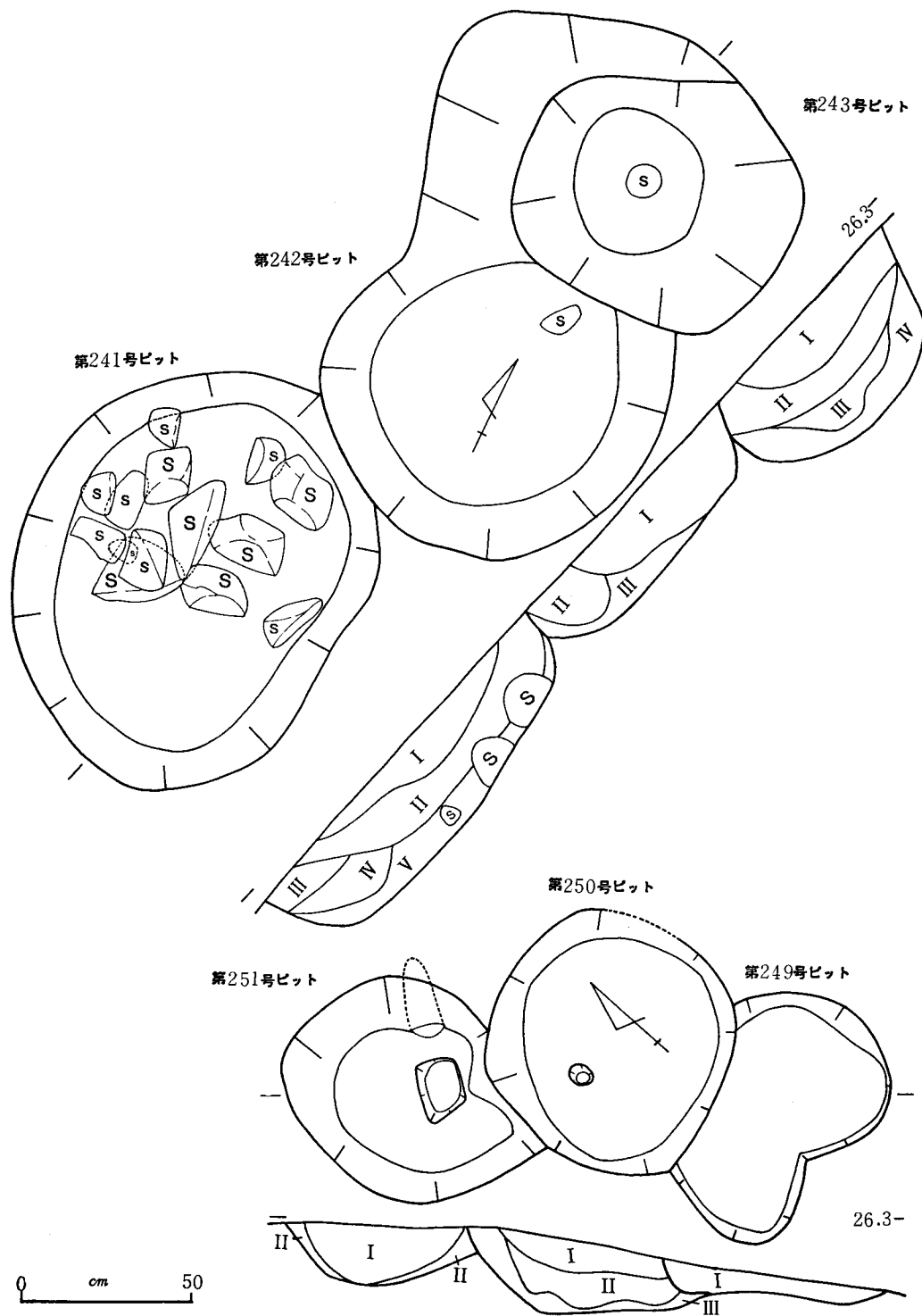
0 cm 50



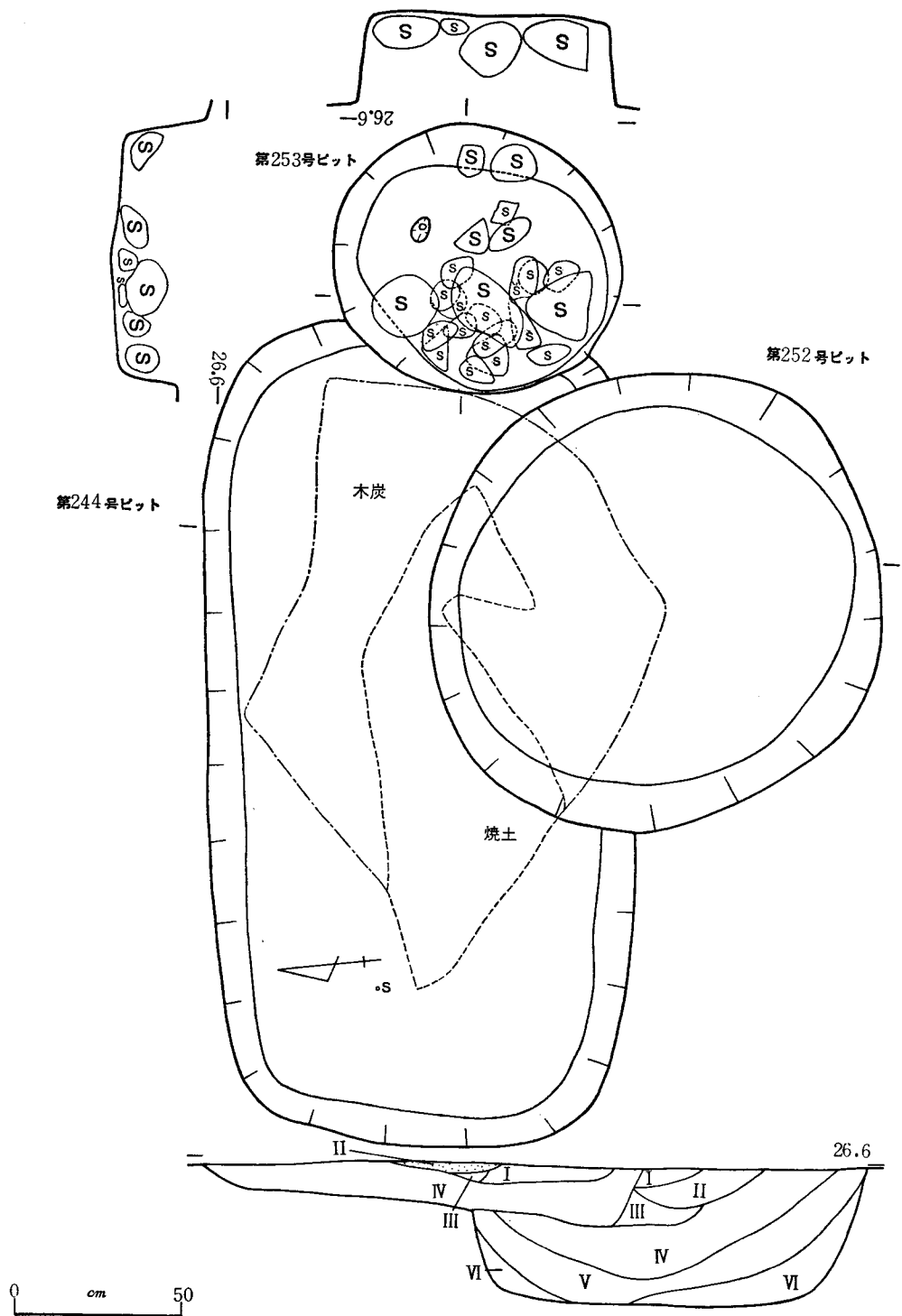
第48図 遺構実測図



第49図 遺構実測図

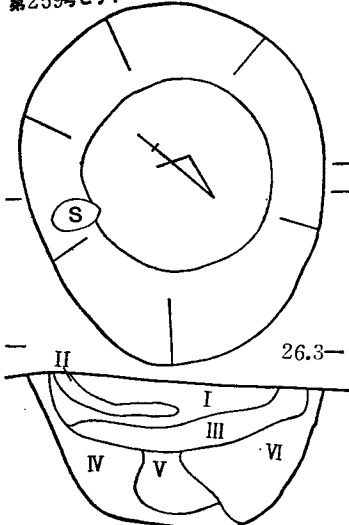


第50図 遺構実測図

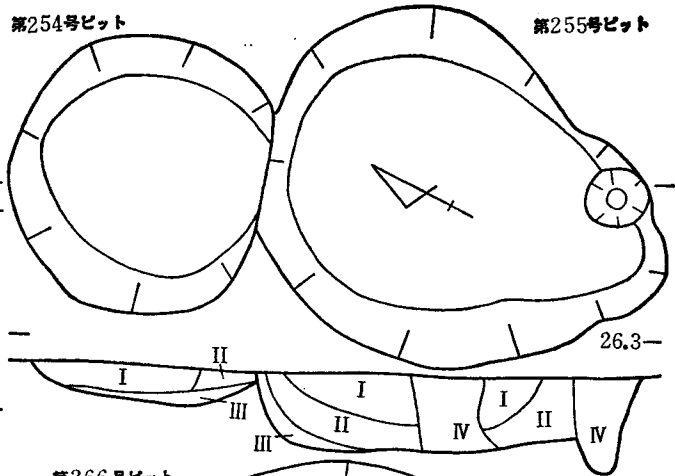


第51図 遺構実測図

第259号ピット

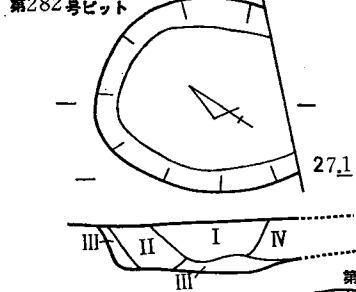


第254号ピット

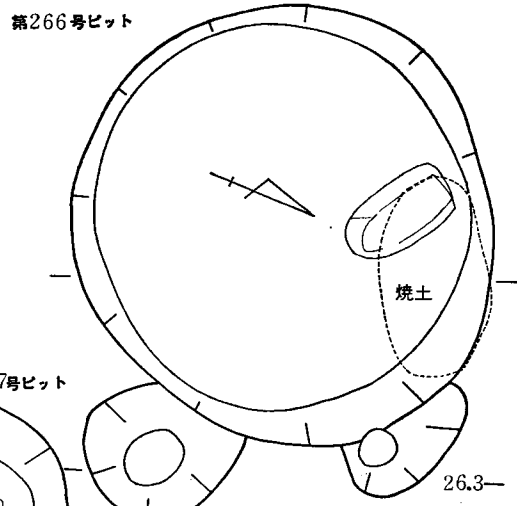


第255号ピット

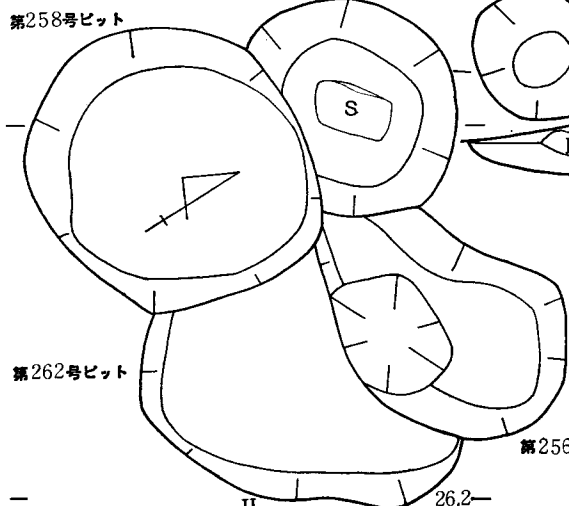
第282号ピット



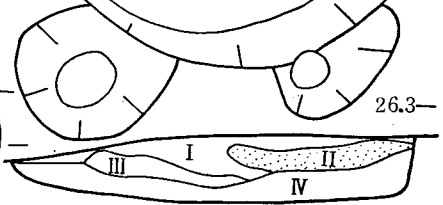
第266号ピット



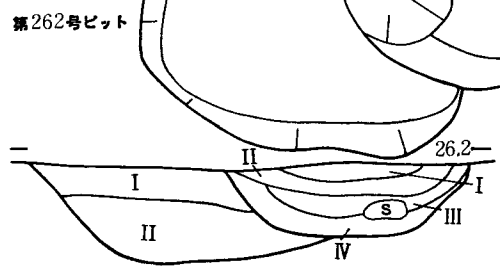
第258号ピット



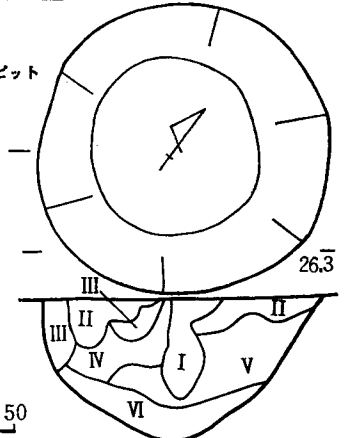
第257号ピット



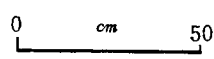
第262号ピット



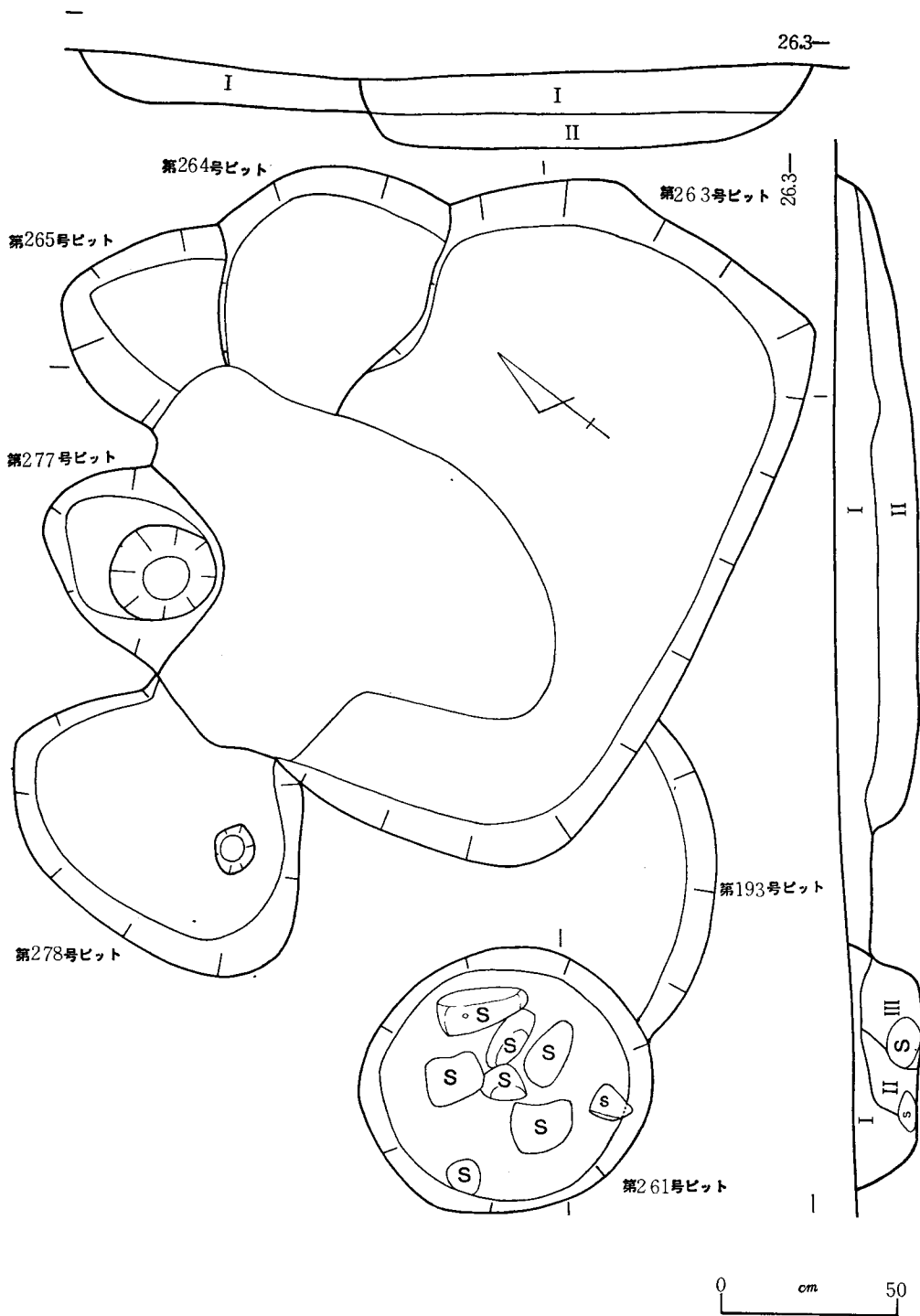
第260号ピット



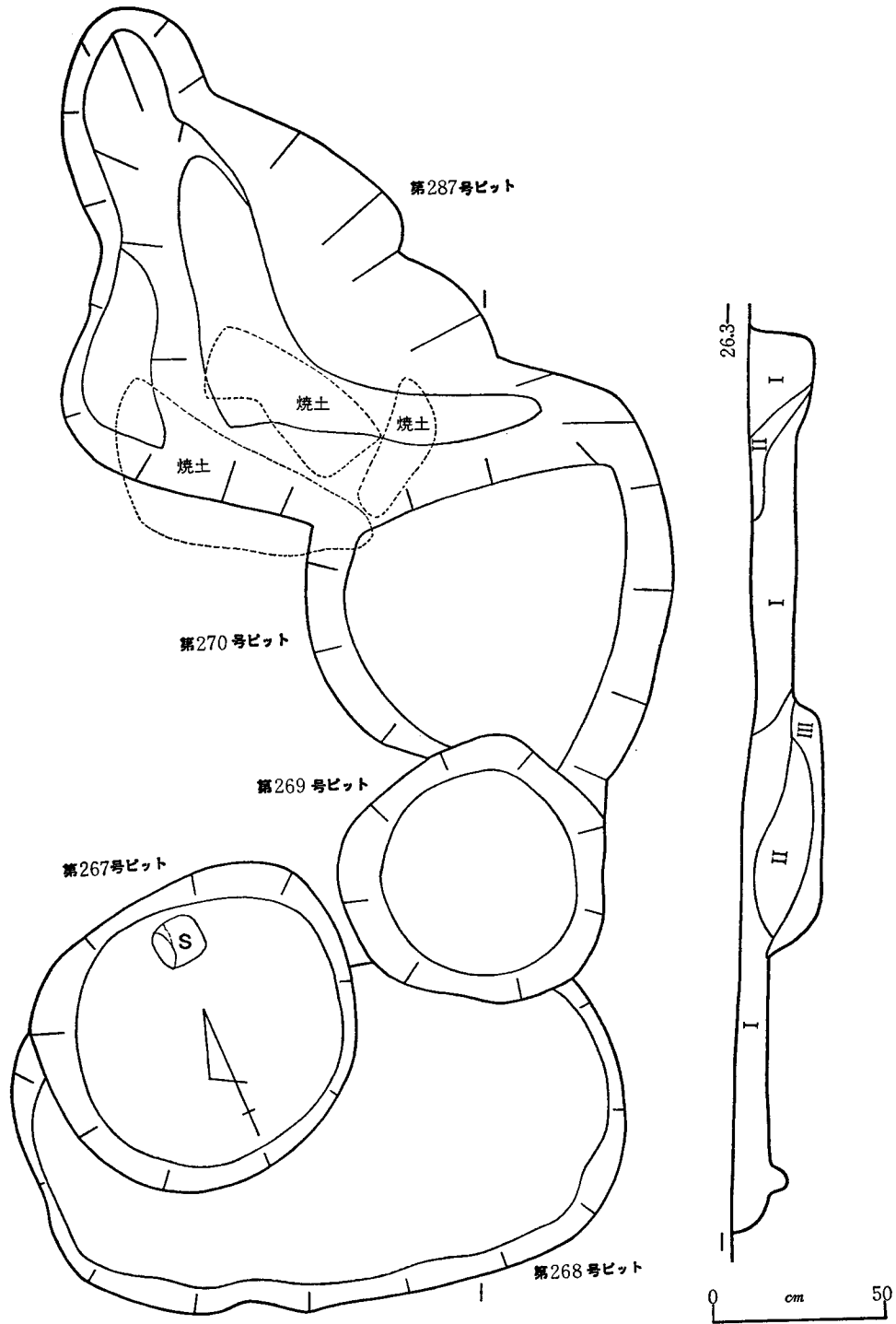
第256号ピット



第52図 遺構実測図

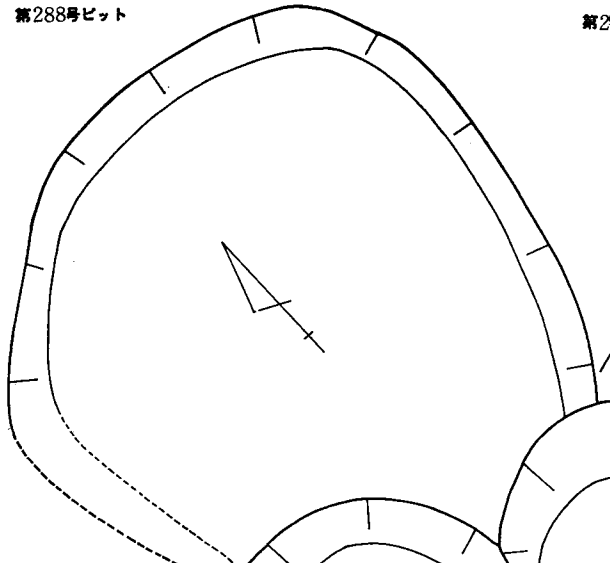


第53図 遺構実測図

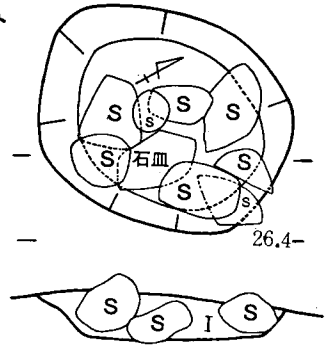


第54図 遺構実測図

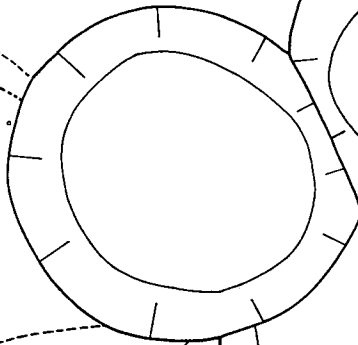
第288号ビット



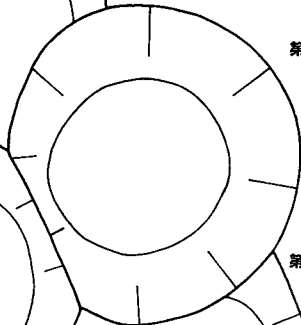
第289号ビット



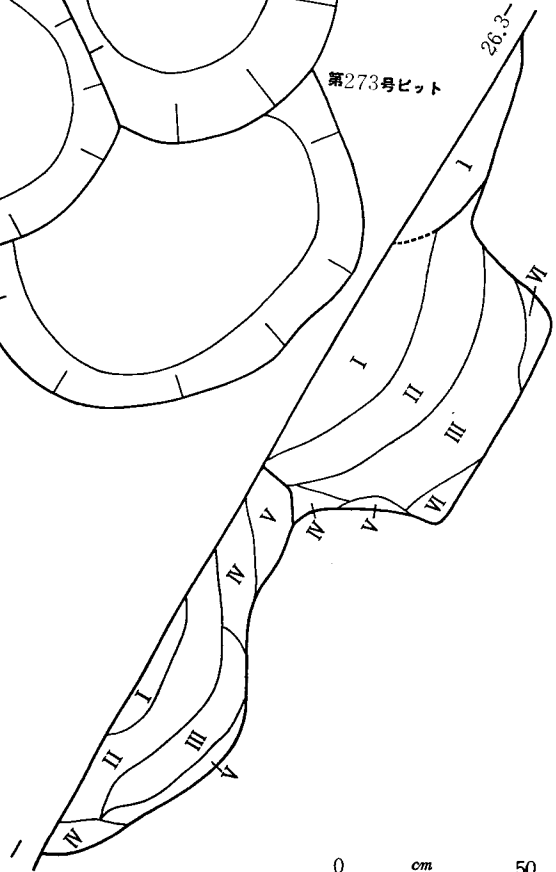
第272号ビット



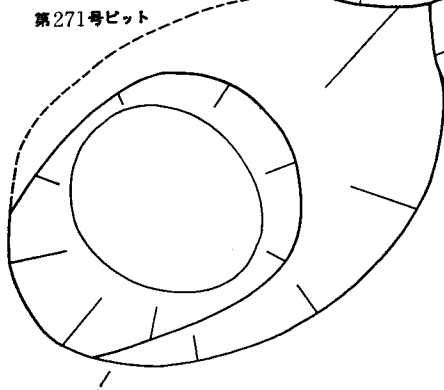
第274号ビット



第273号ビット

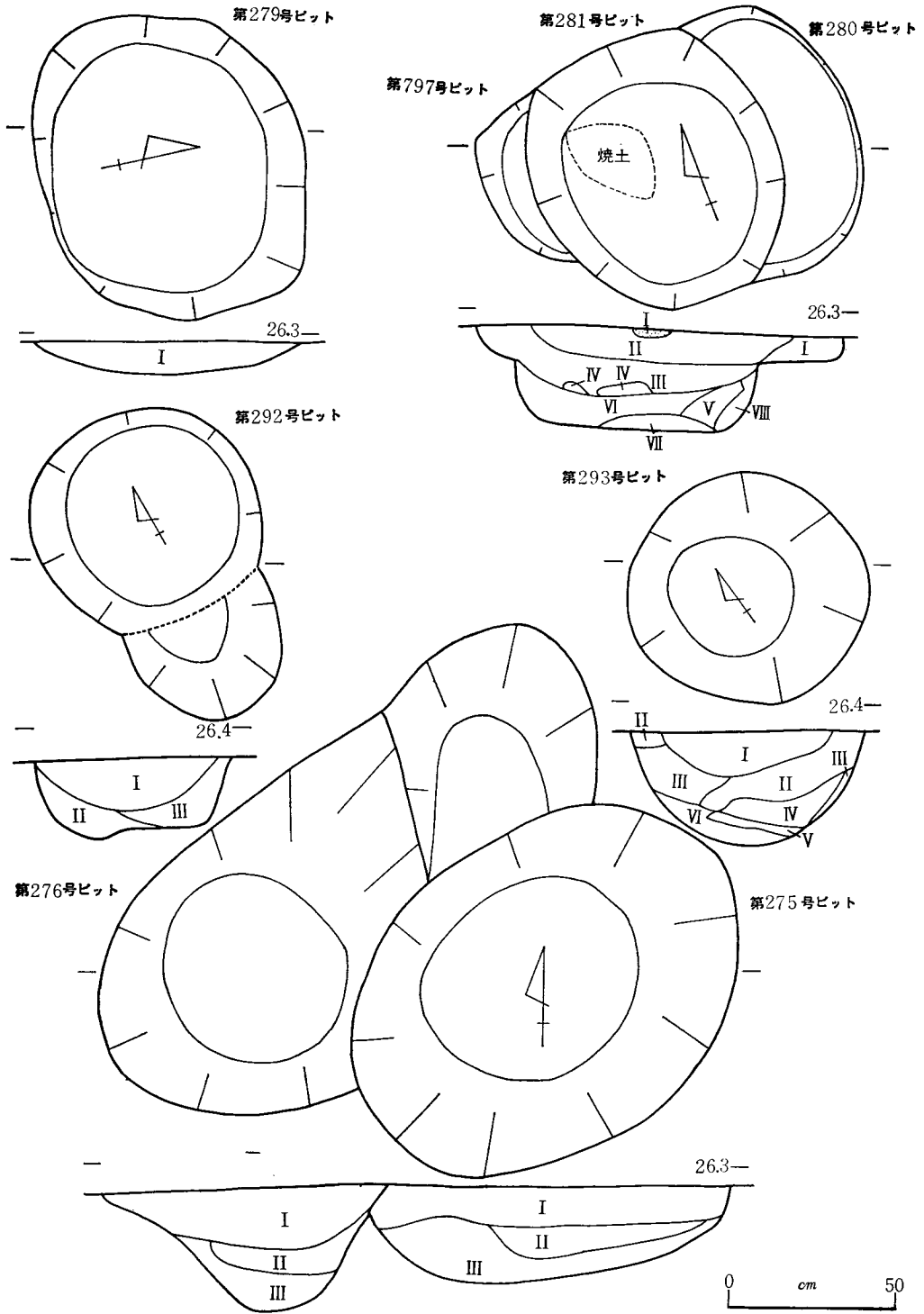


第271号ビット

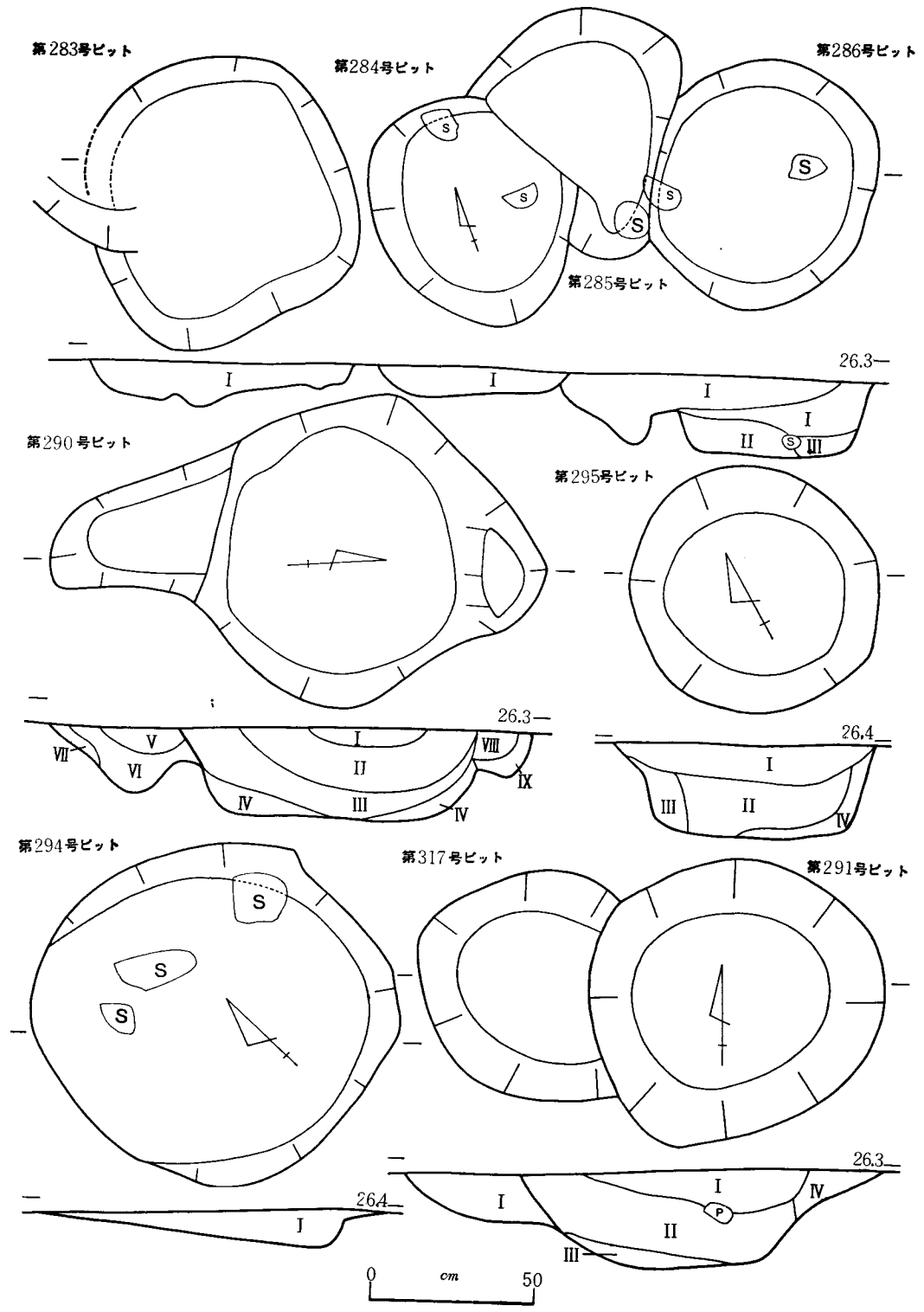


0 cm 50

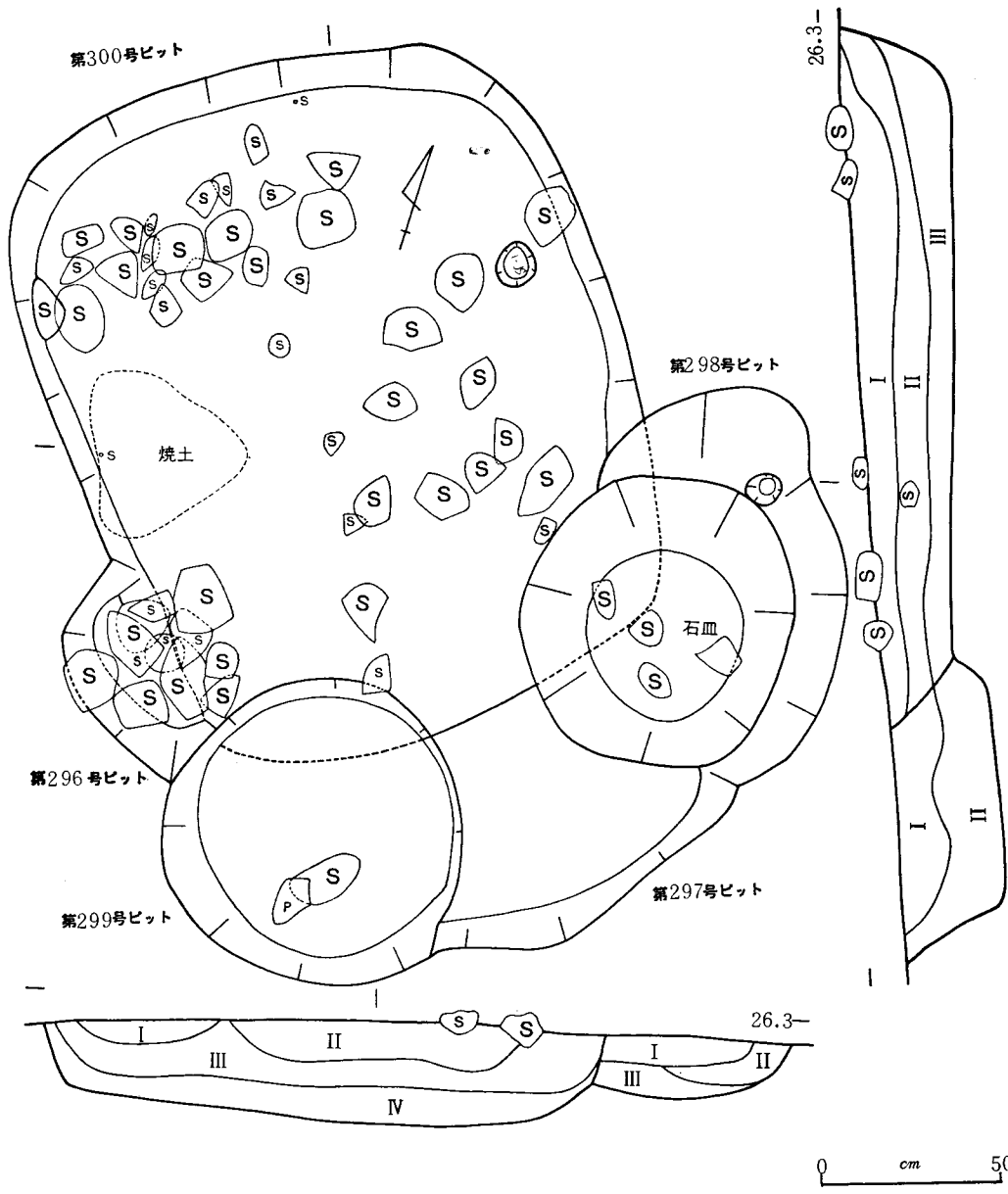
第55図 遺構実測図



第56図 遺構実測図

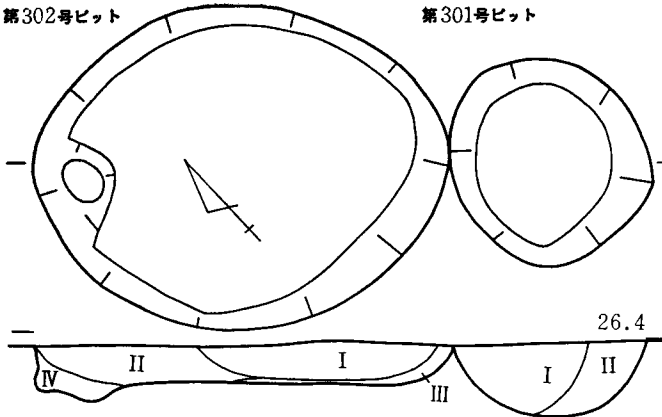


第57図 遺構実測図

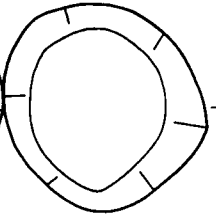


第58図 遺構実測図

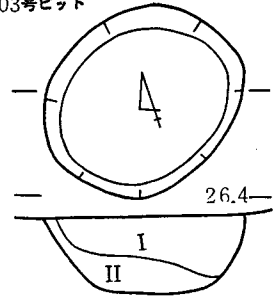
第302号ビット



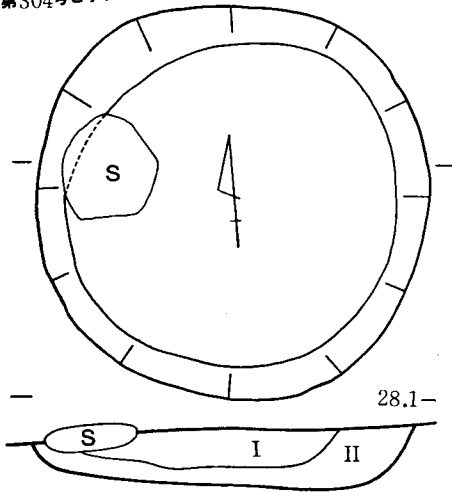
第301号ビット



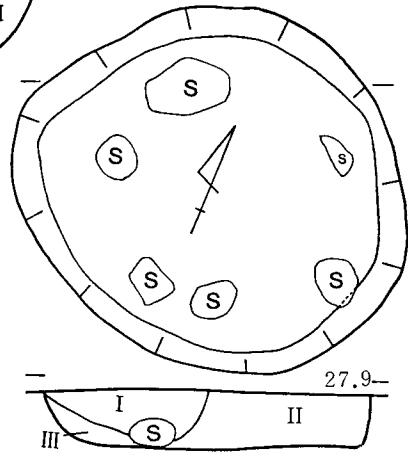
第303号ビット



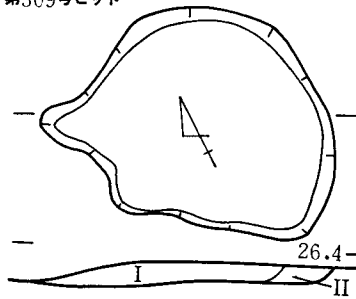
第304号ビット



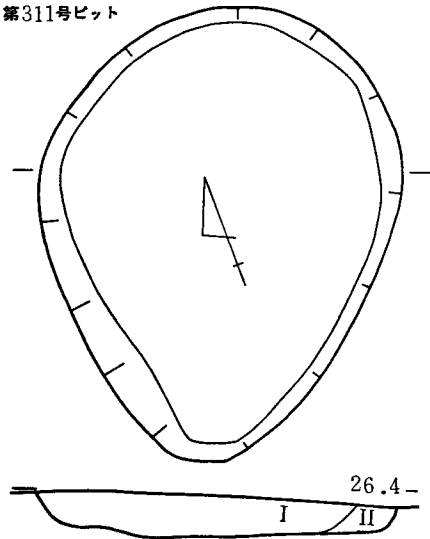
第305号ビット



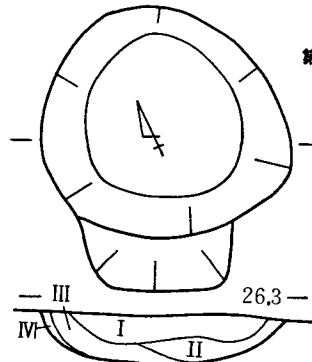
第309号ビット



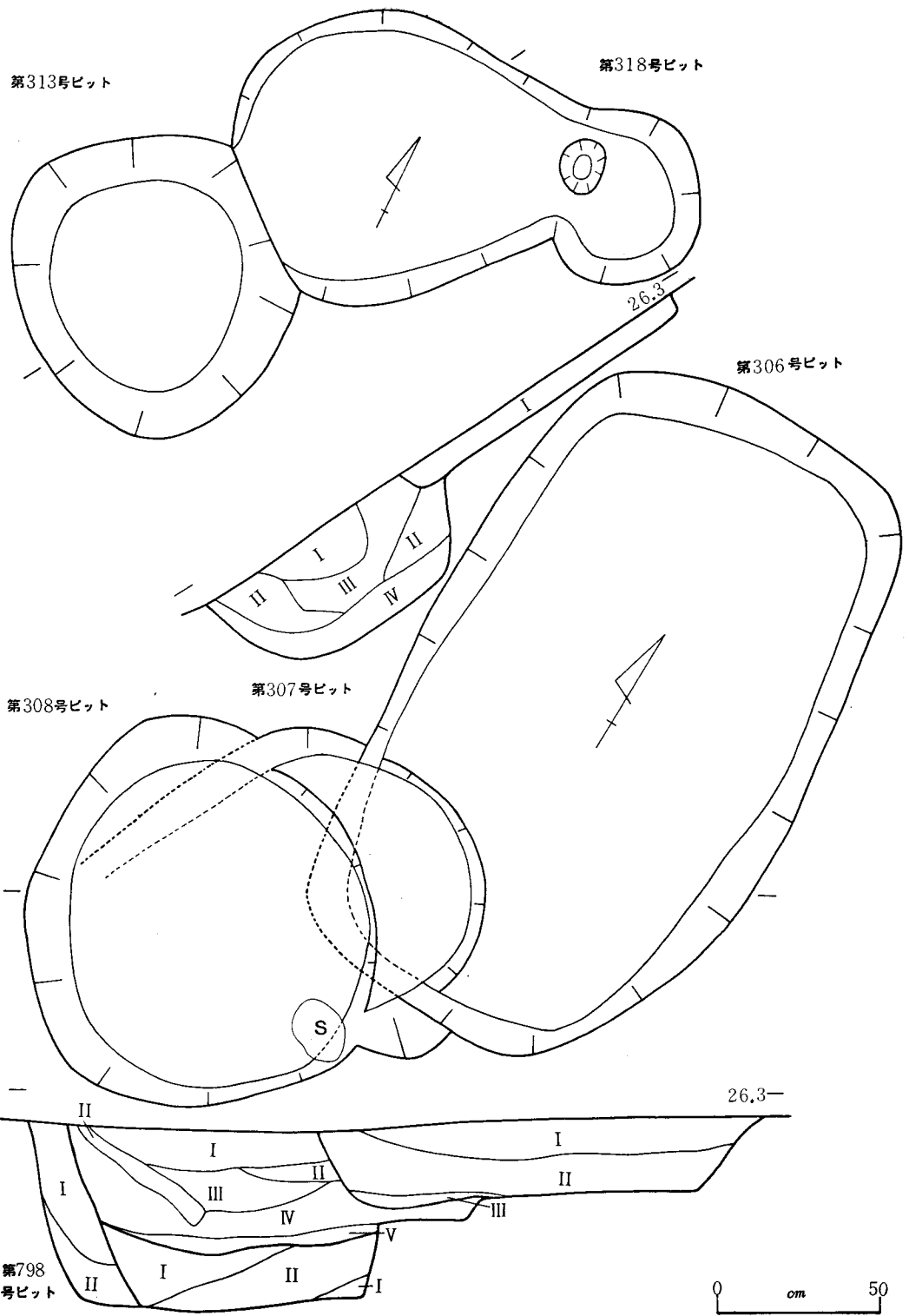
第311号ビット



第310号ビット

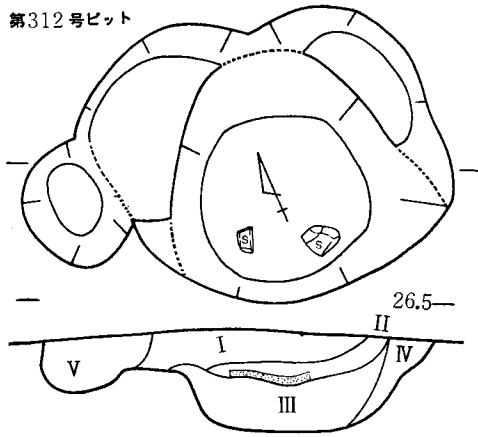


第59図 遺構実測図

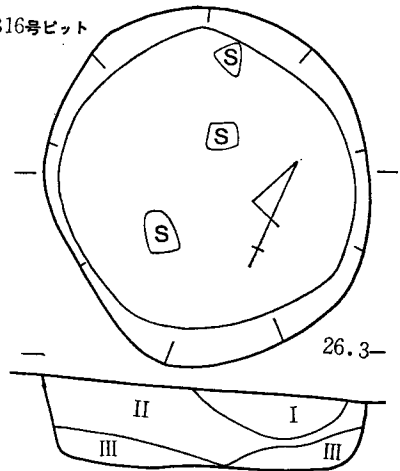


第60図 遺構実測図

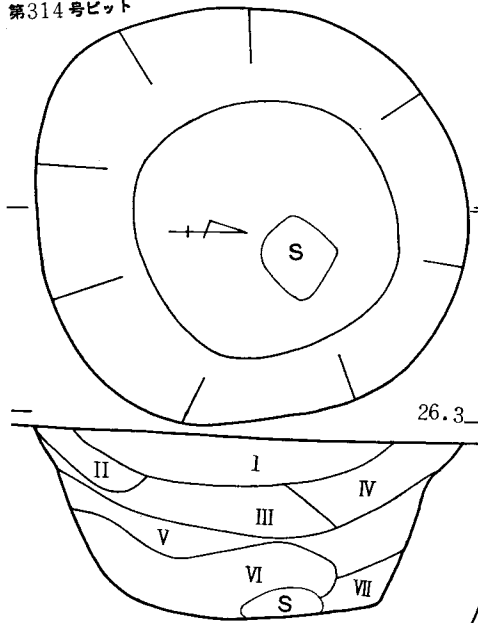
第312号ピット



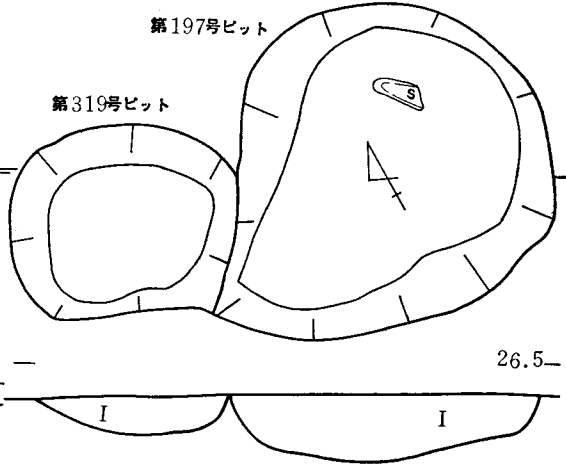
第316号ピット



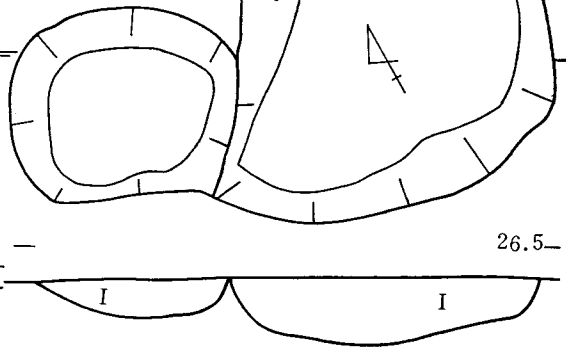
第314号ピット



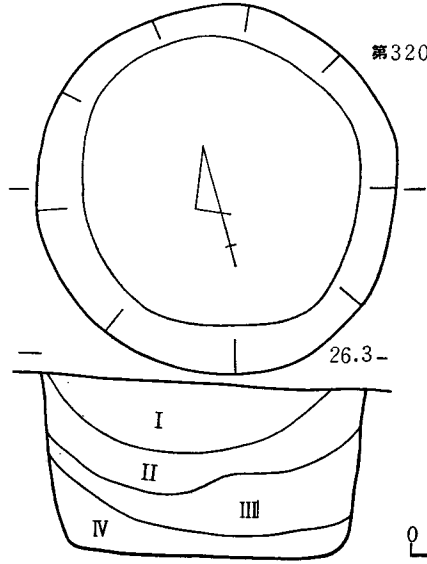
第197号ピット



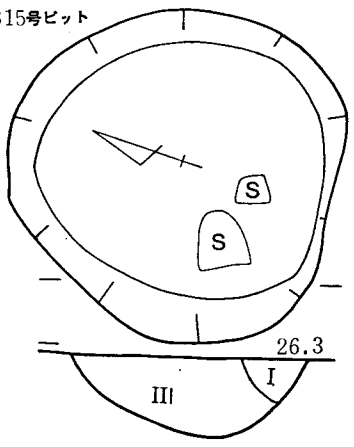
第319号ピット



第320号ピット

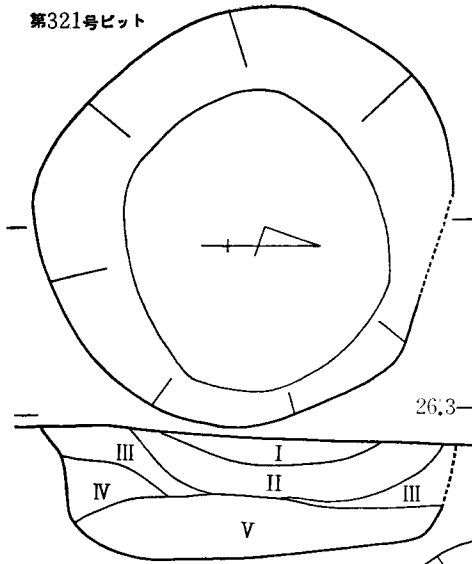


第315号ピット

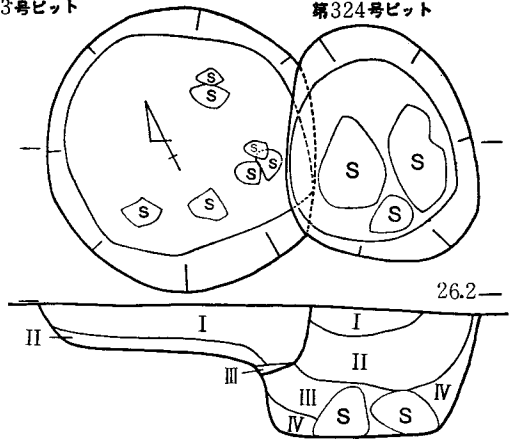


第61図 遺構実測図

第321号ピット

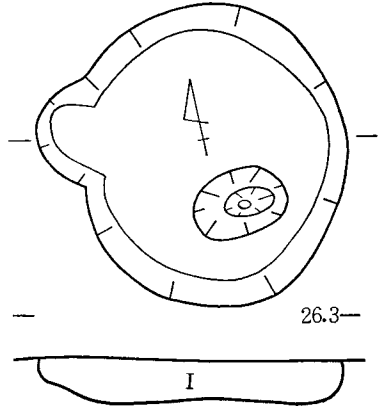


第323号ピット

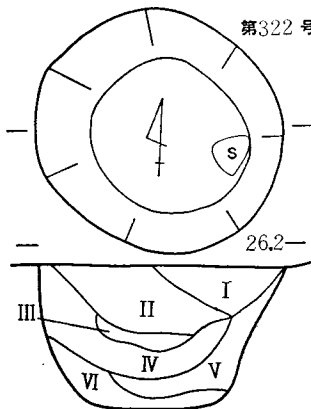


第324号ピット

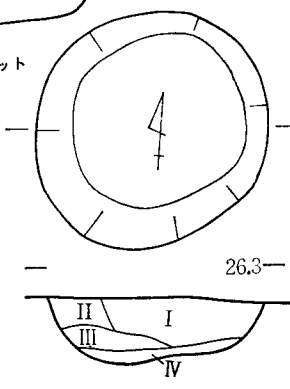
第327号ピット



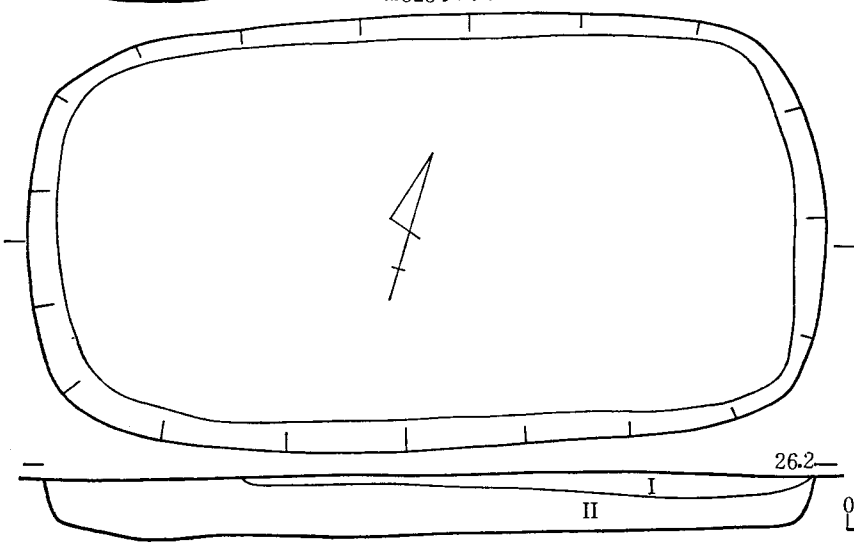
第322号ピット



第328号ピット



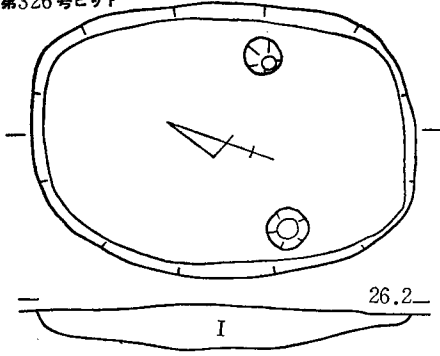
第325号ピット



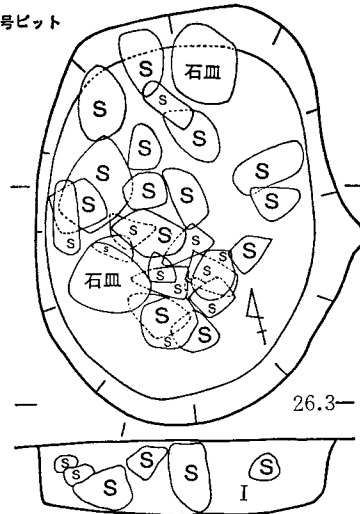
0 cm 50

第62図 遺構実測図

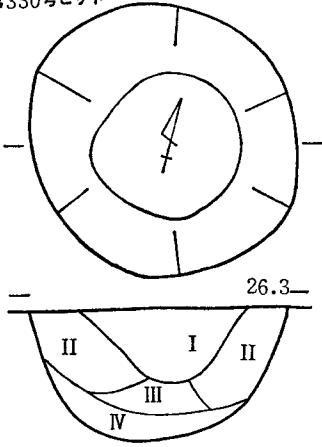
第326号ビット



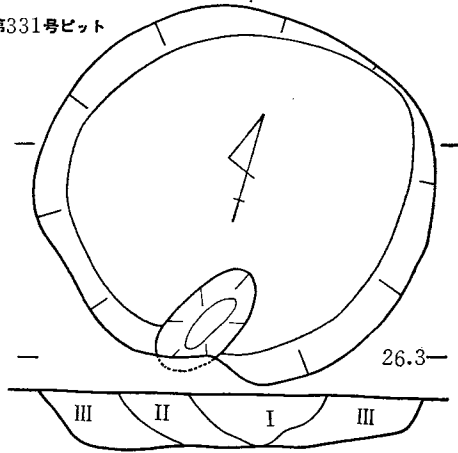
第329号ビット



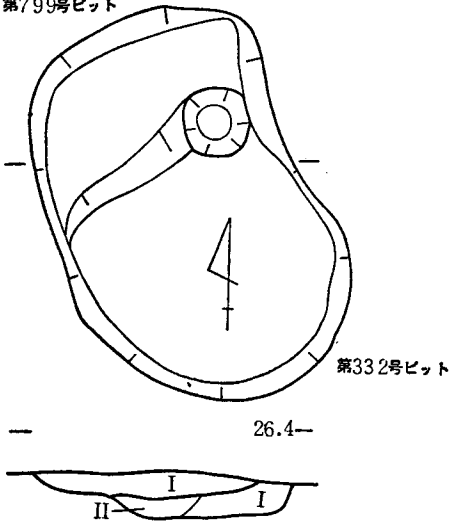
第330号ビット



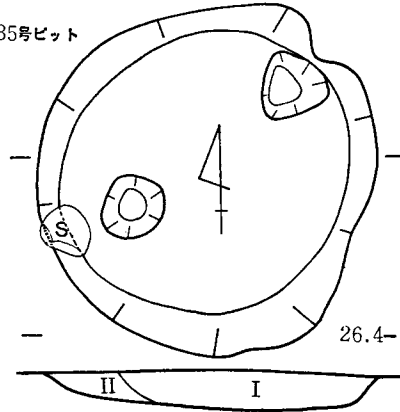
第331号ビット



第799号ビット

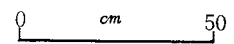
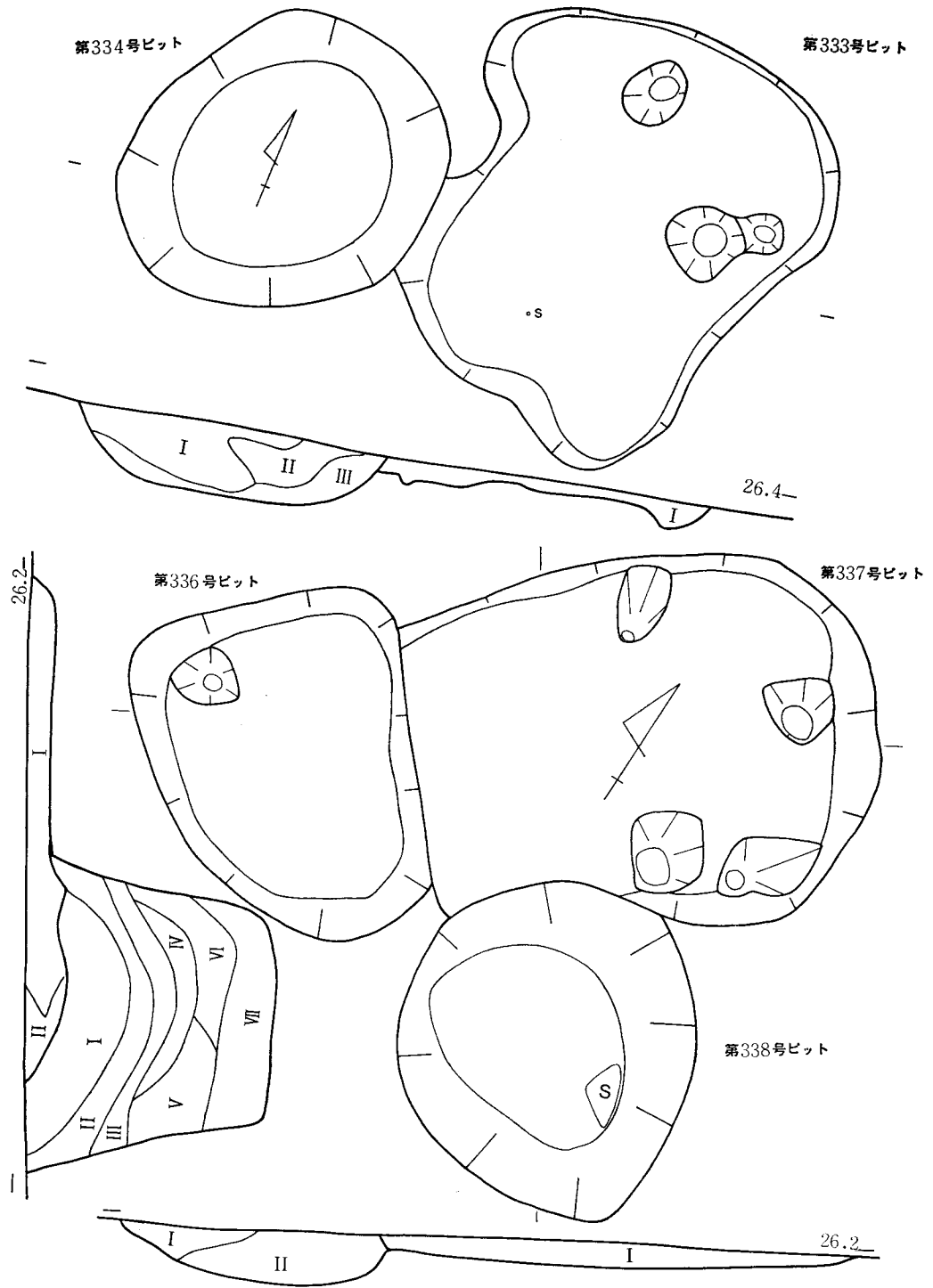


第335号ビット



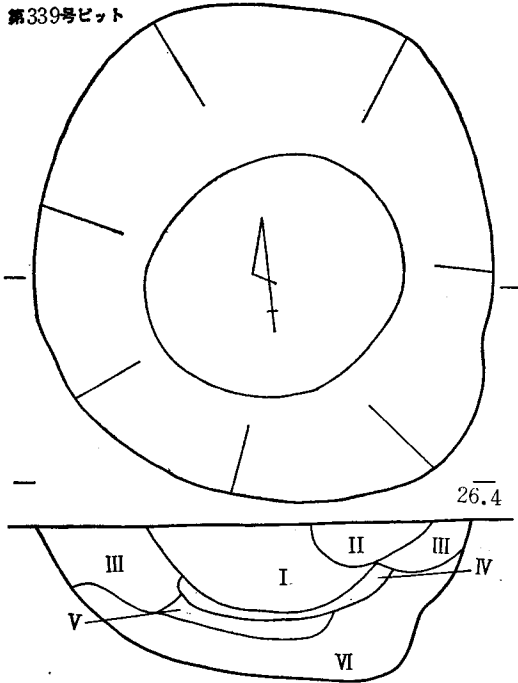
0 cm 50

第63図 遺構実測図

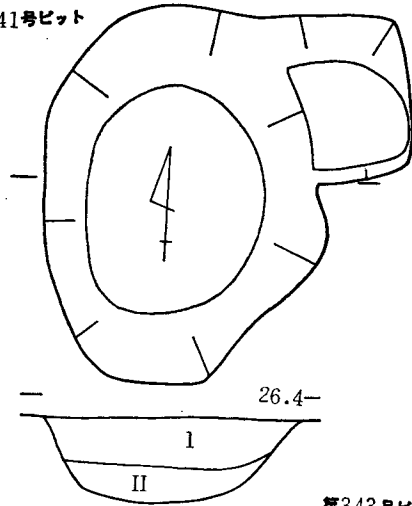


第64図 遺構実測図

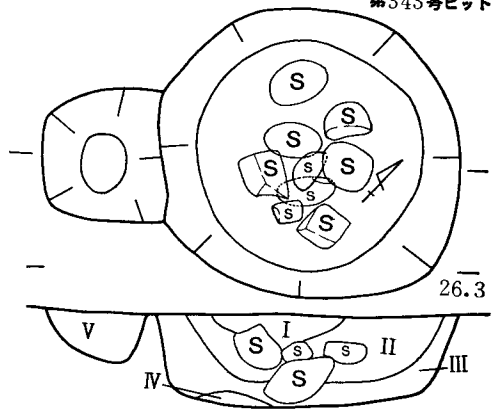
第339号ピット



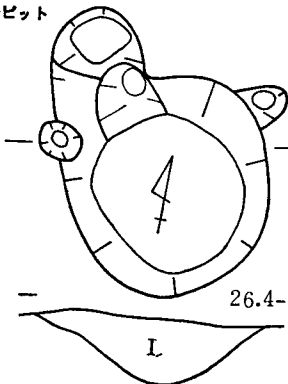
第341号ピット



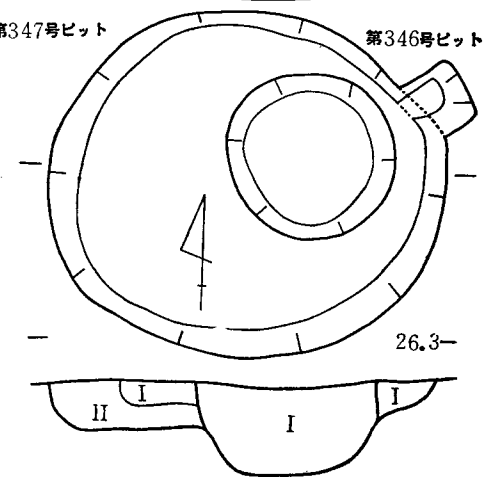
第343号ピット



第340号ピット

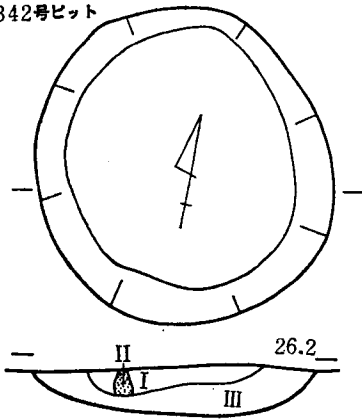


第347号ピット



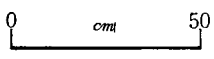
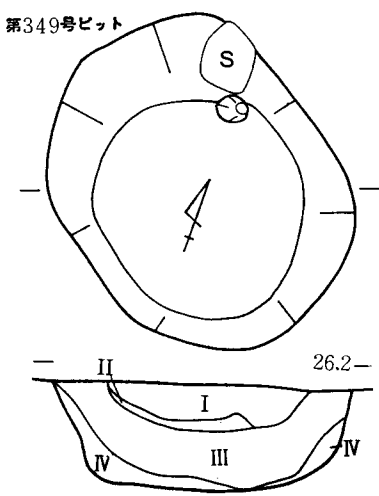
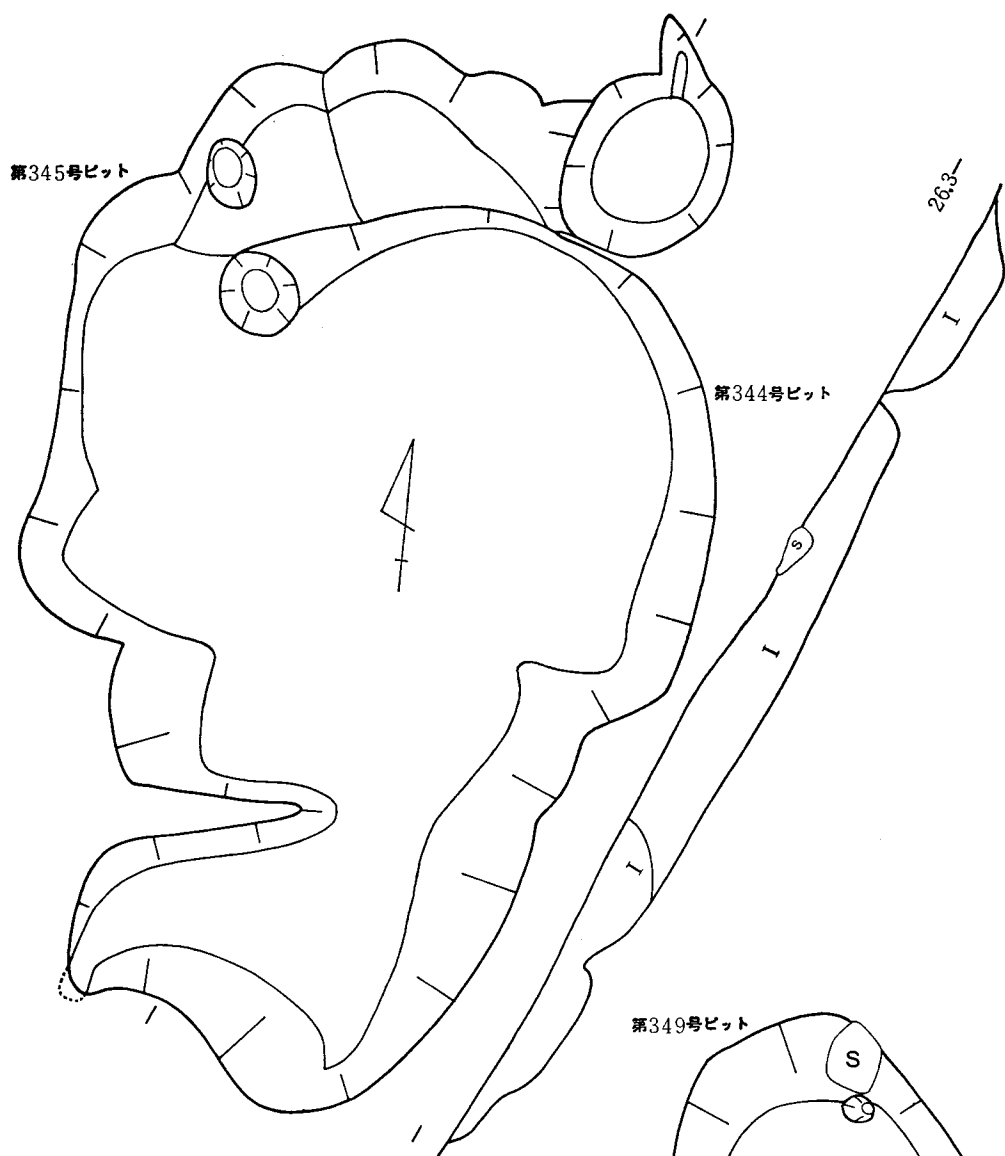
第346号ピット

第342号ピット

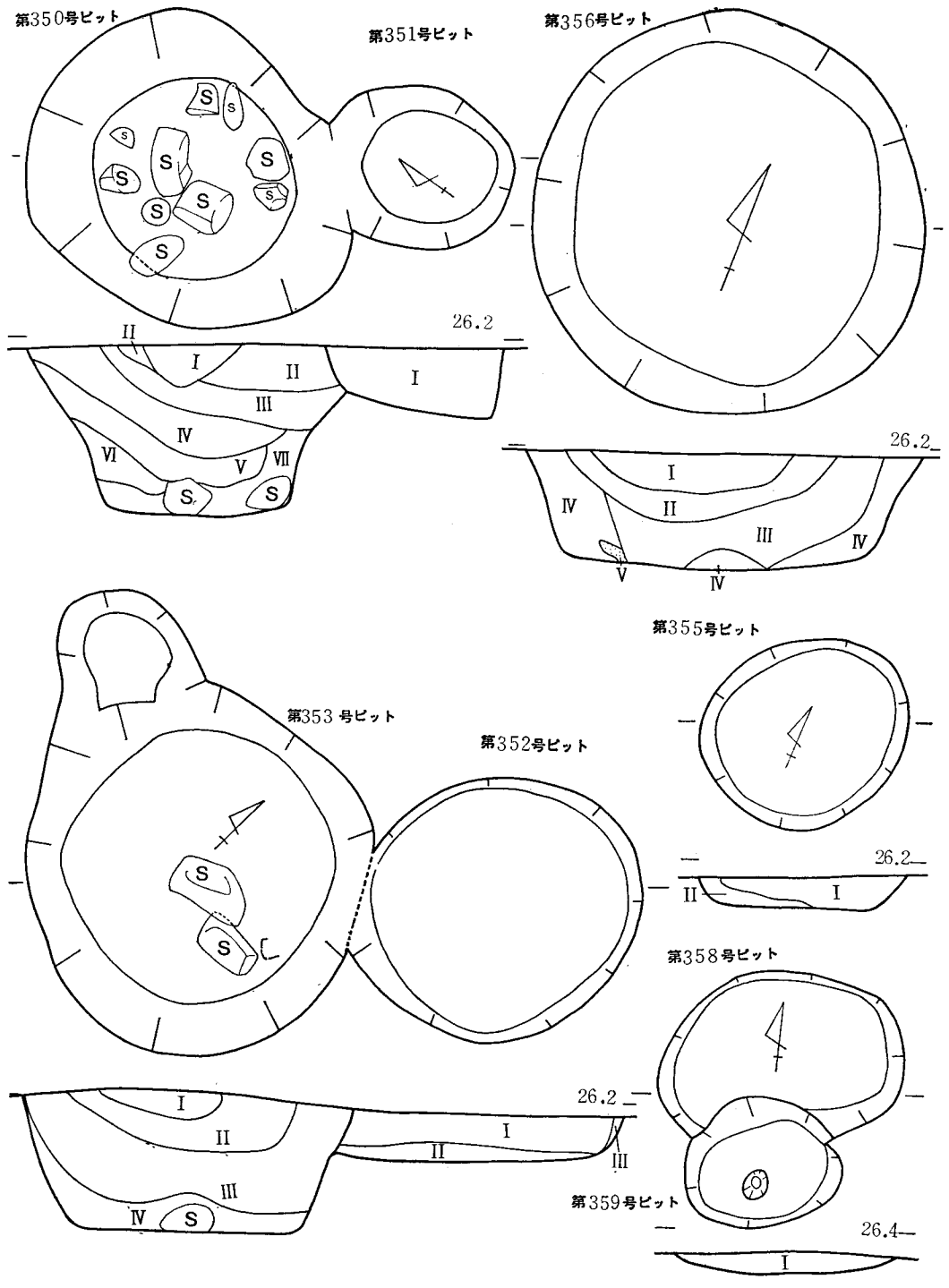


0 cm 50

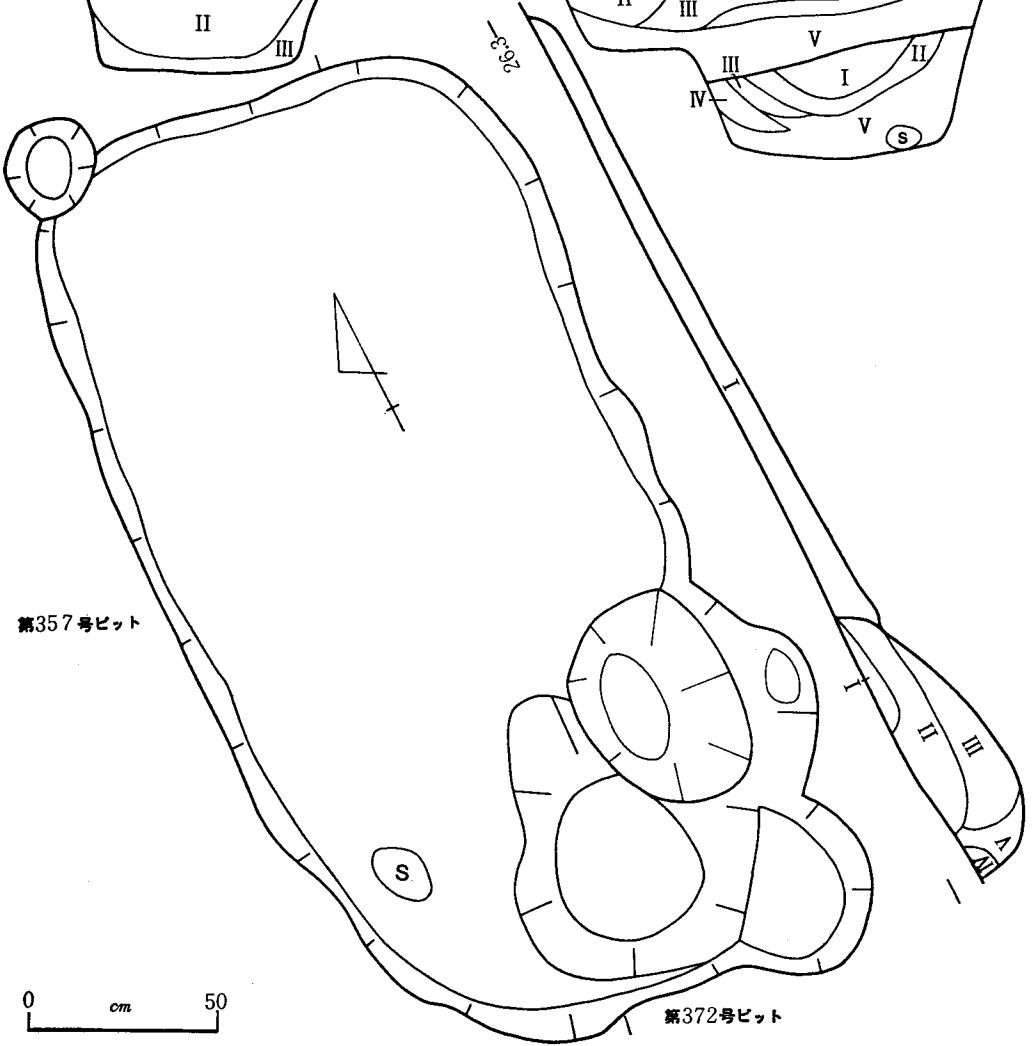
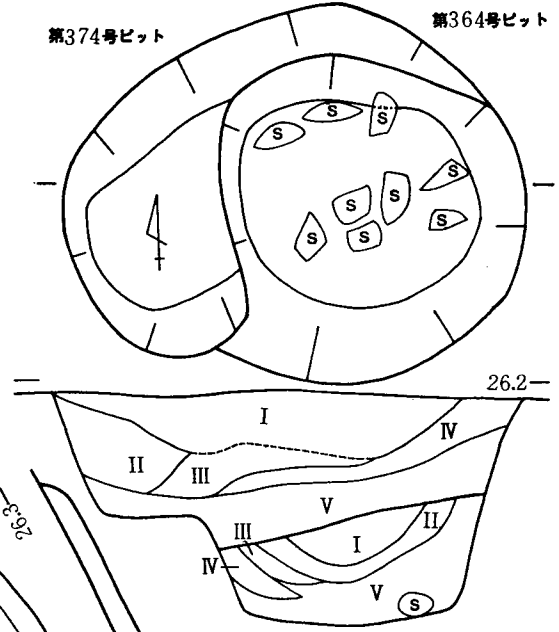
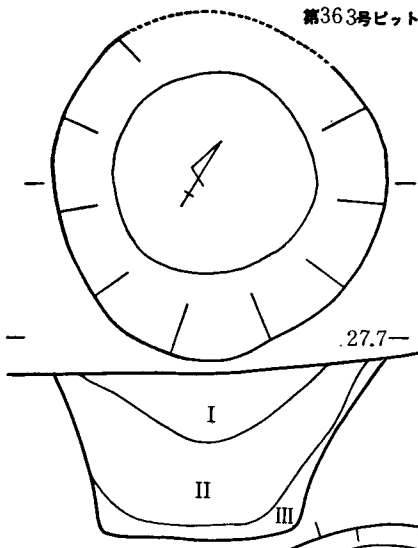
第65図 遺構実測図



第66図 遺構実測図

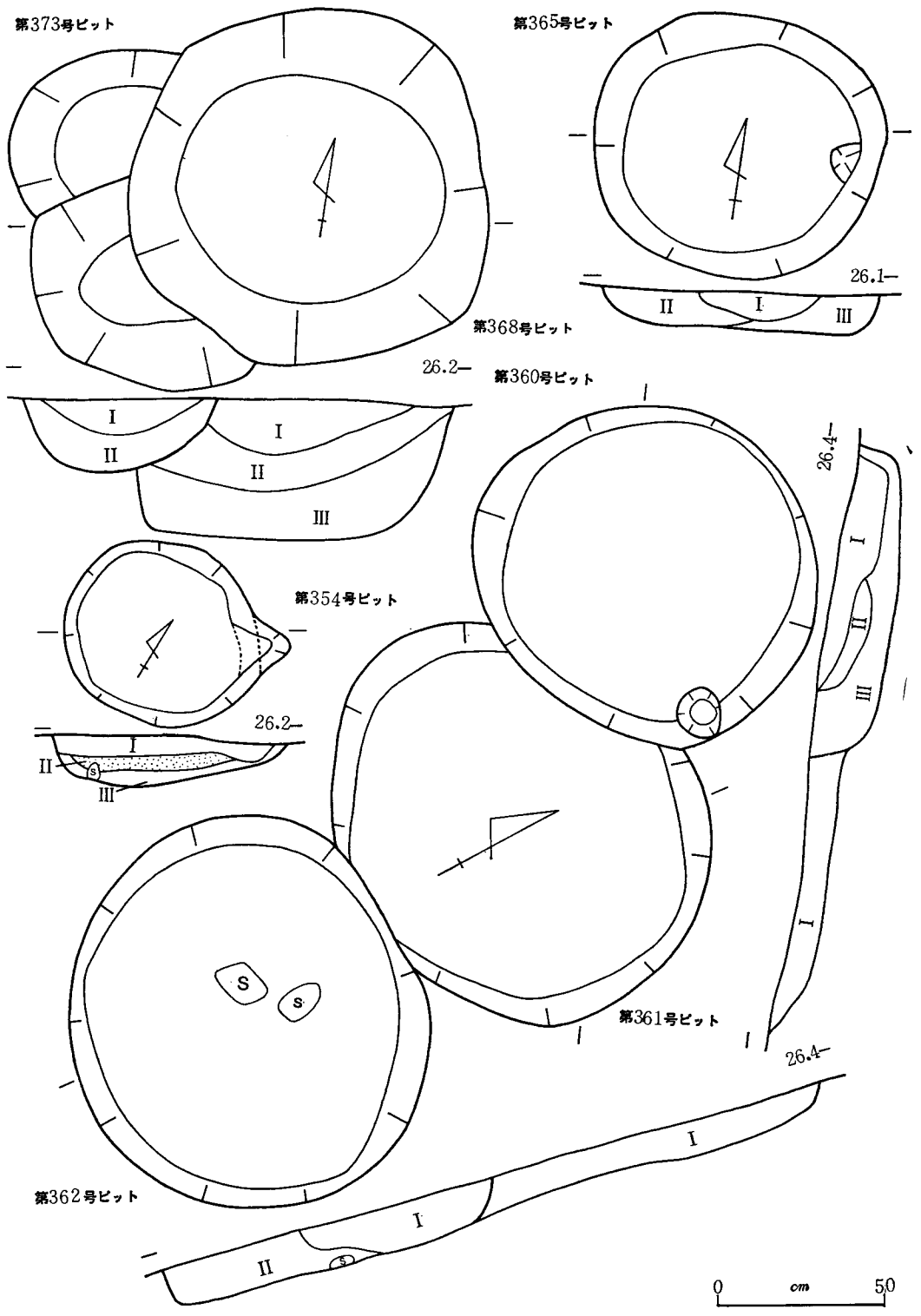


第67図 遺構実測図



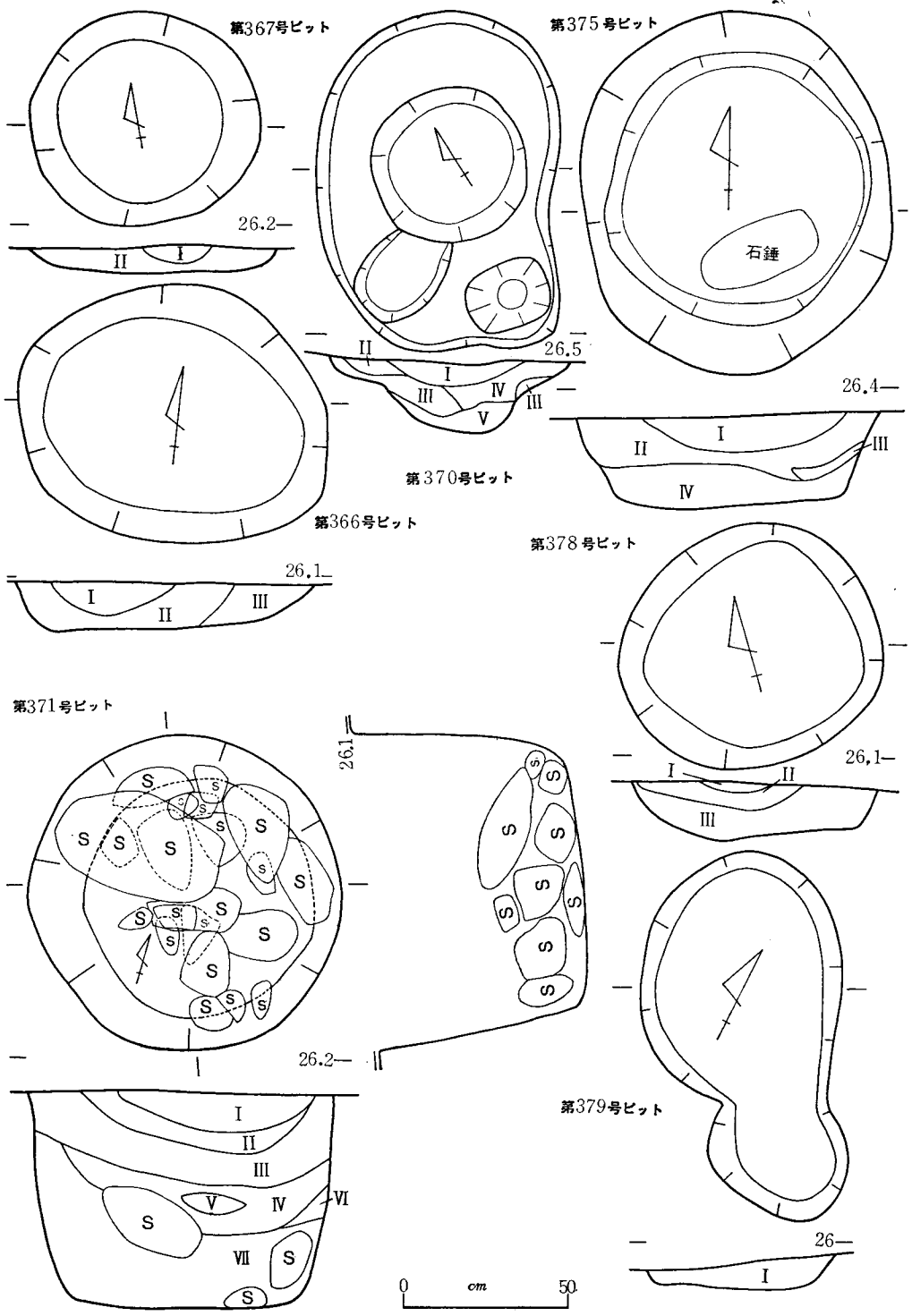
0 cm 50

第68図 遺構実測図



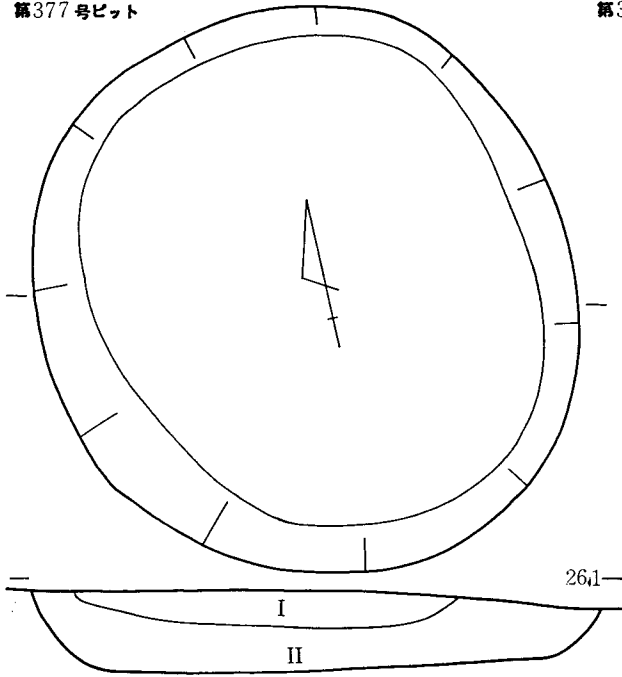
0 cm 50

第69図 遺構実測図

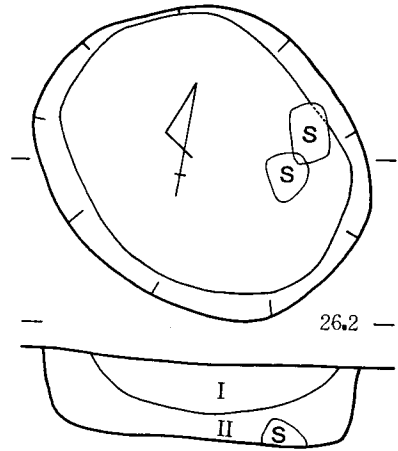


第70図 遺構実測図

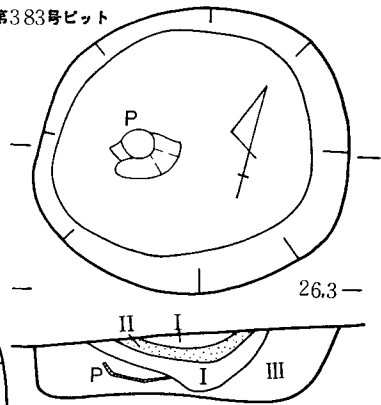
第377号ビット



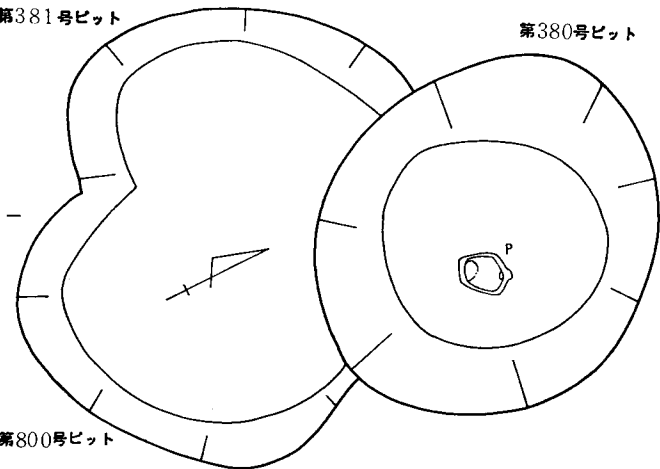
第382号ビット



第383号ビット

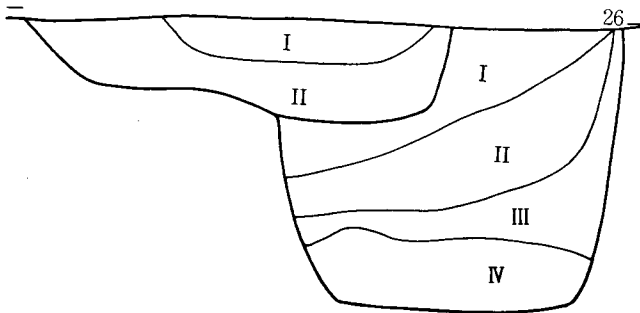


第381号ビット

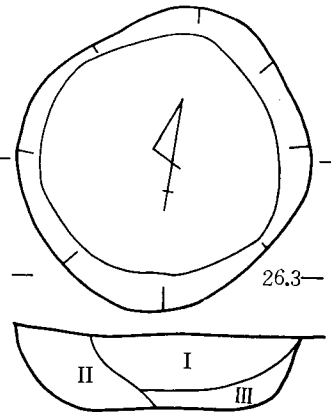


第380号ビット

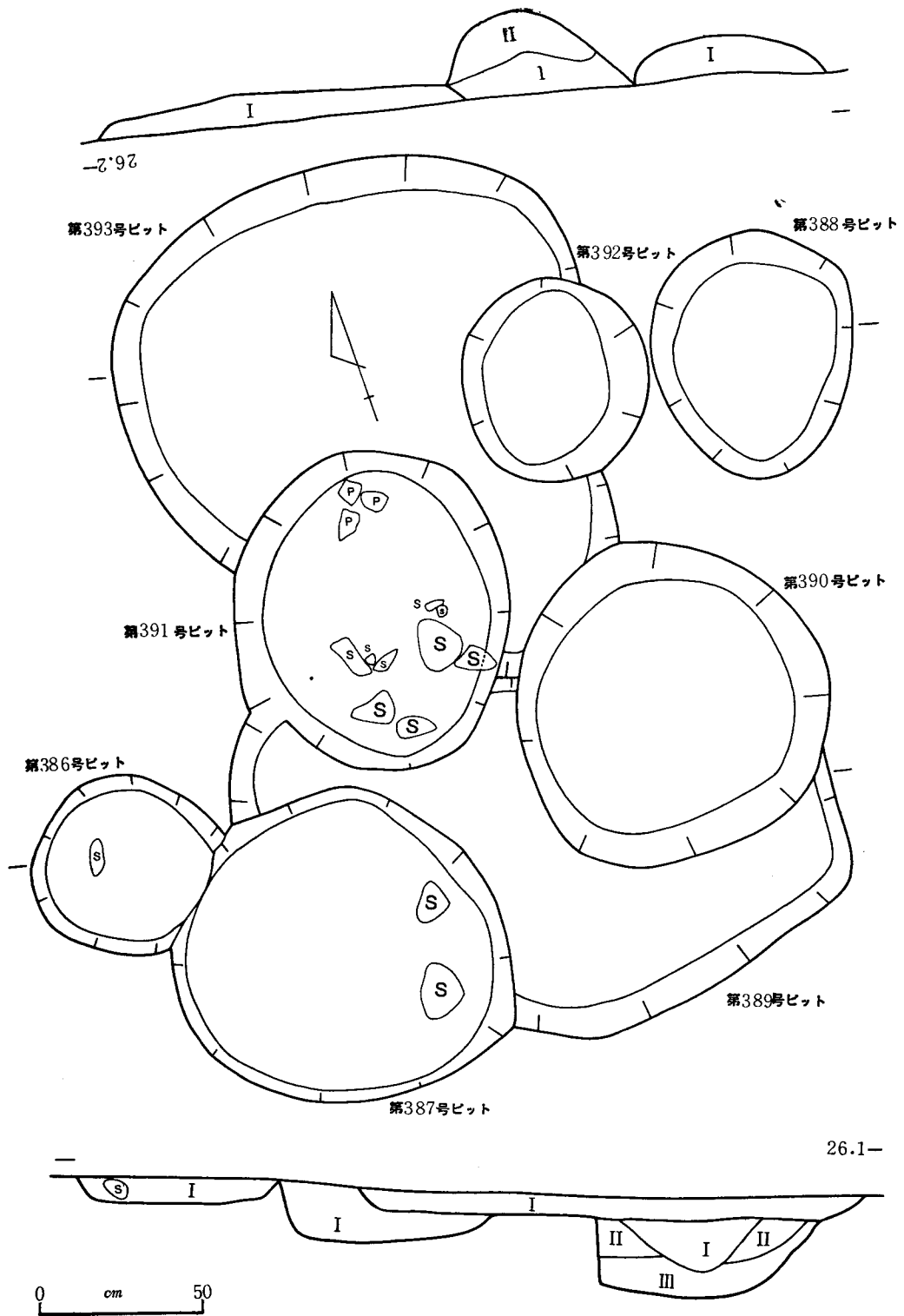
第800号ビット



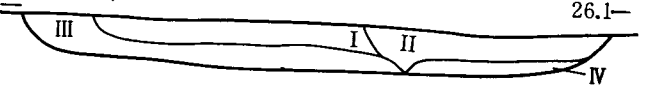
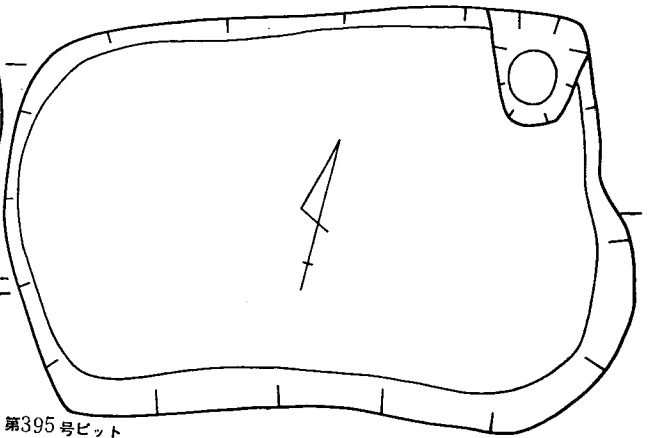
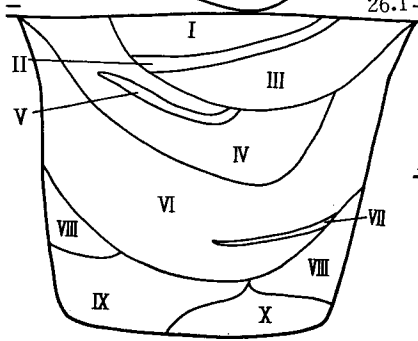
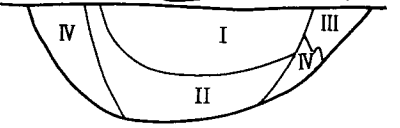
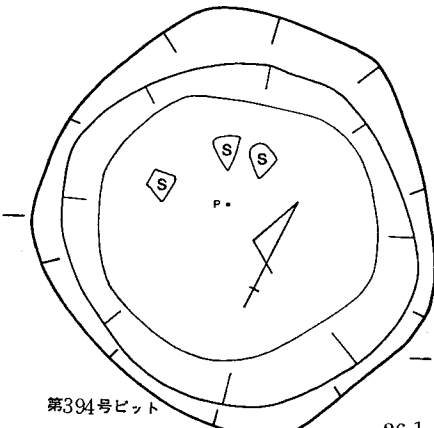
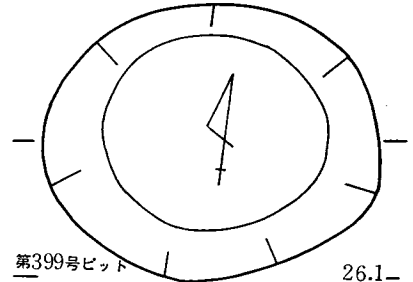
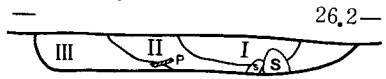
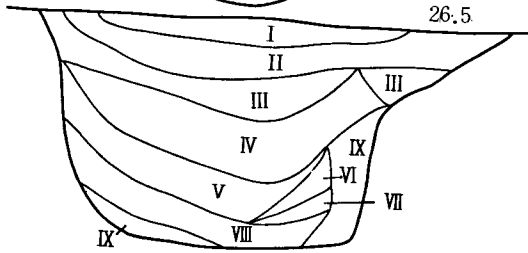
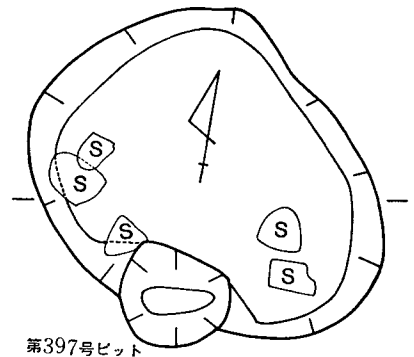
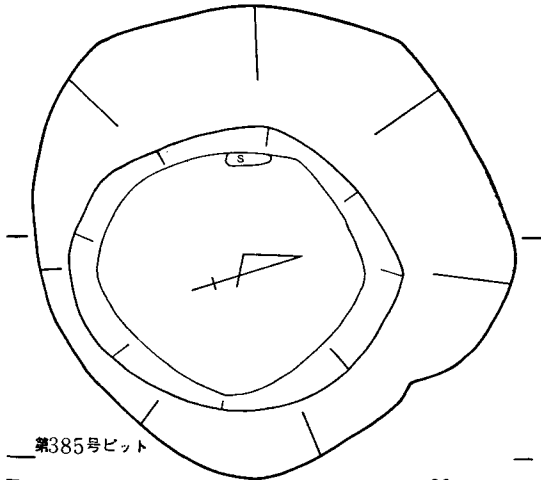
第384号ビット



第71図 遺構実測図

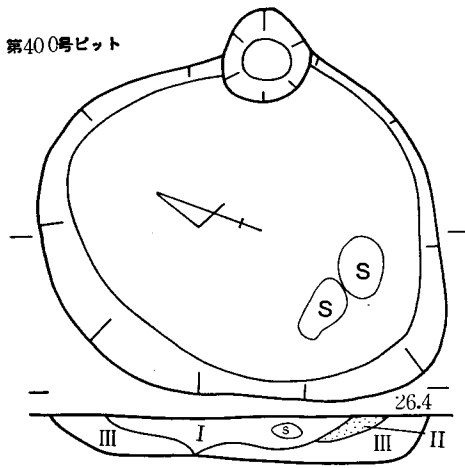


第72図 遺構実測図

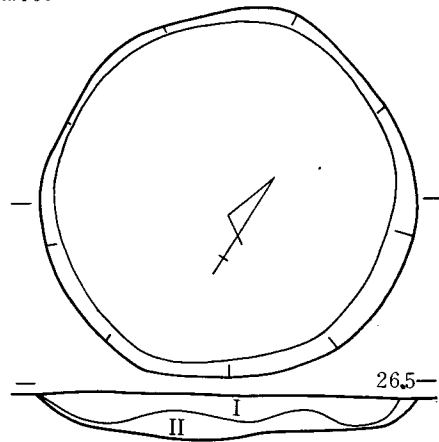


第73図 遺構実測図

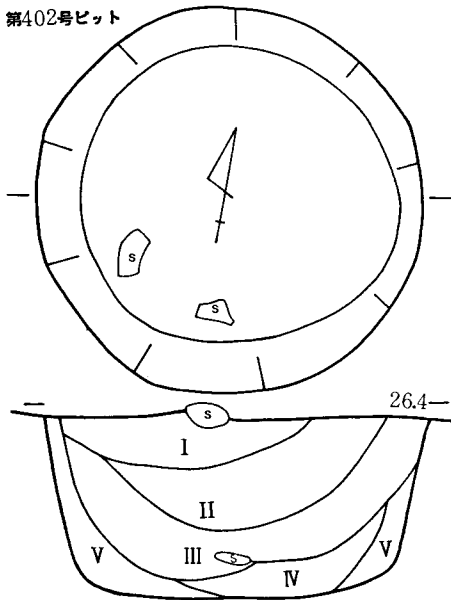
第400号ビット



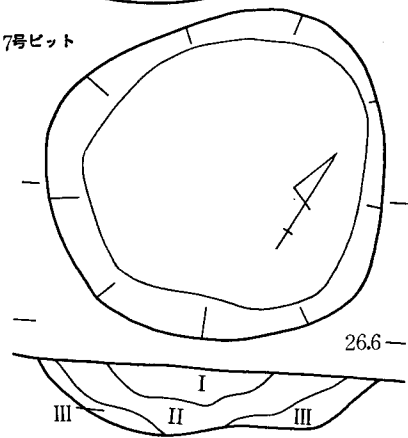
第406号ビット



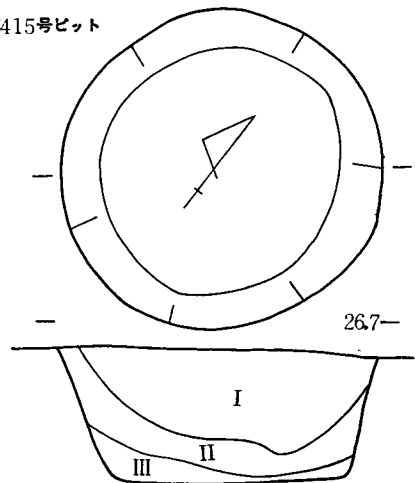
第402号ビット



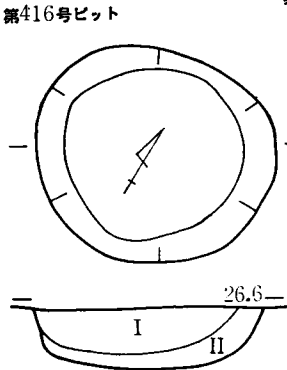
第407号ビット



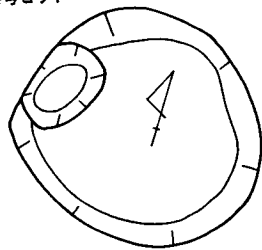
第415号ビット



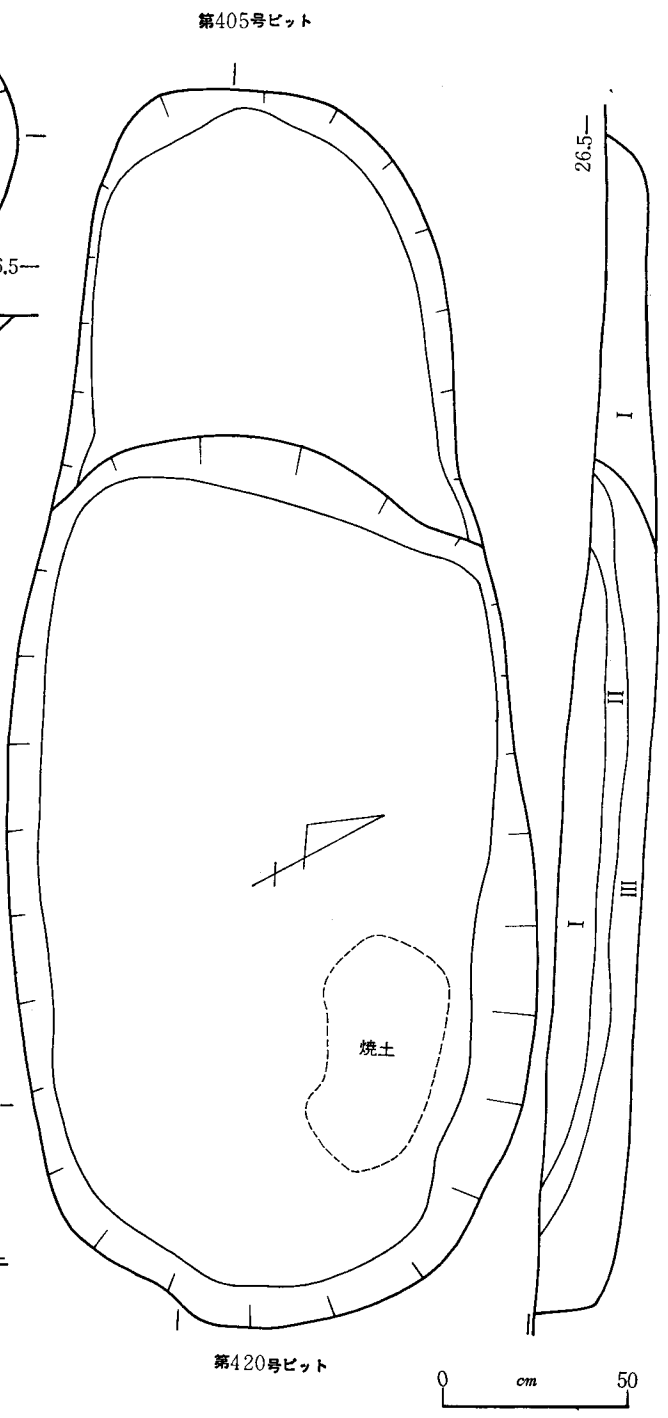
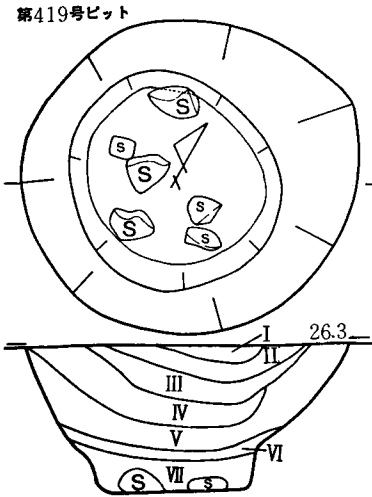
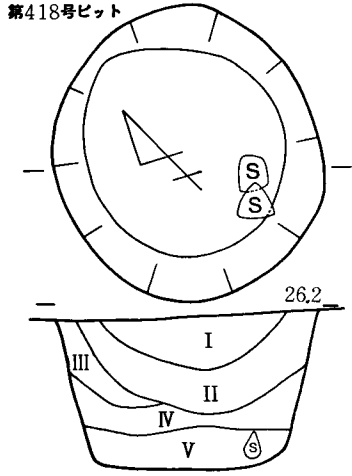
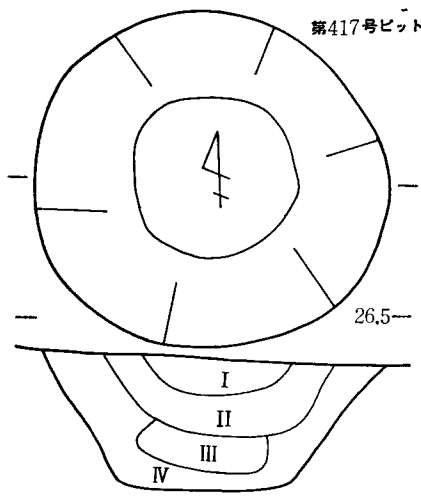
第416号ビット



第404号ビット

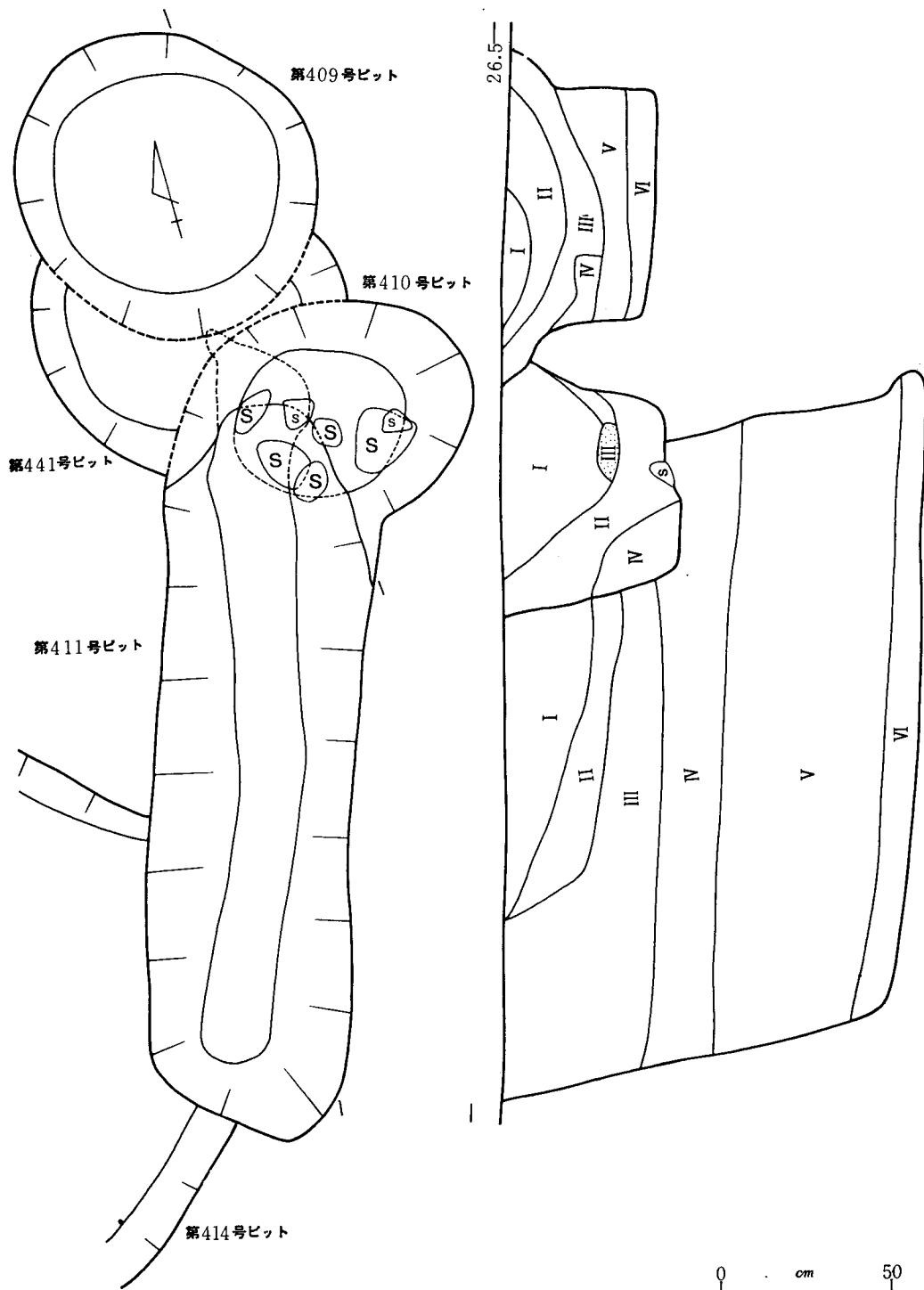


第74図 遺構実測図

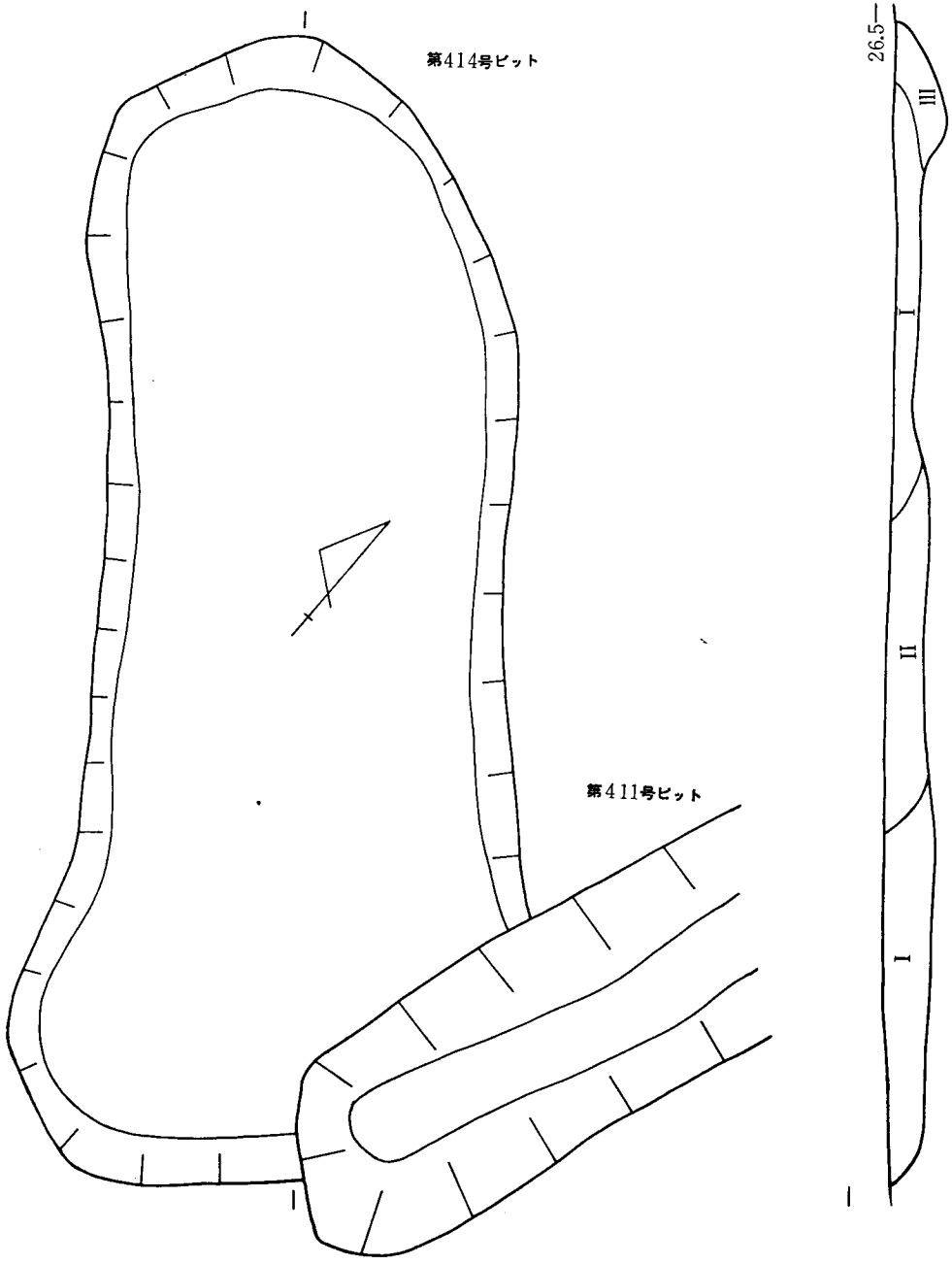


第420号ピット

第75図 遺構実測図

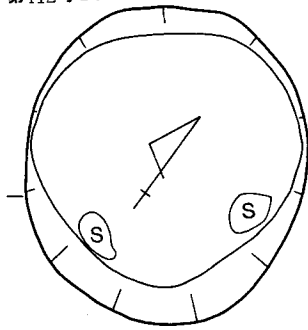


第76図 遺構実測図

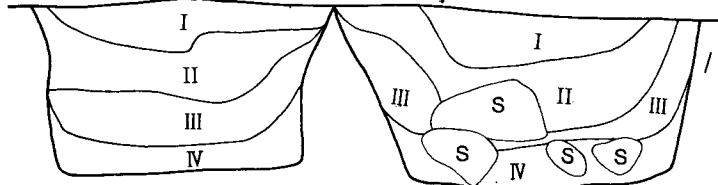
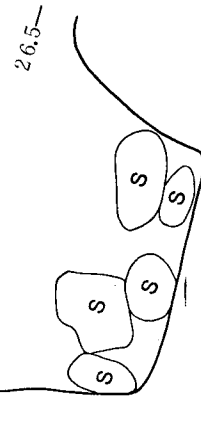
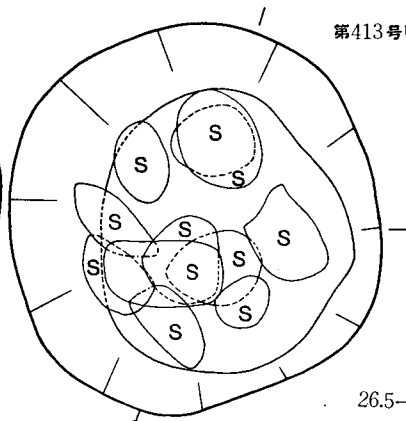


第77図 遺構実測図

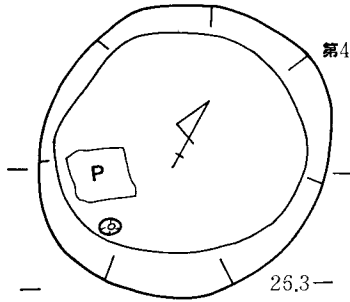
第412号ピット



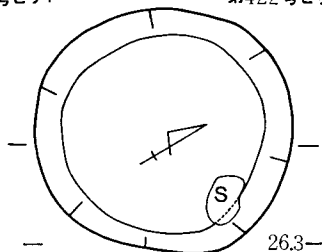
第413号ピット



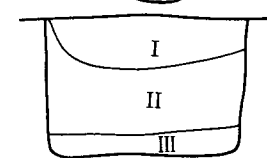
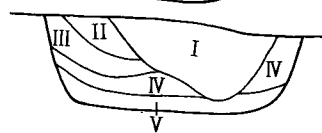
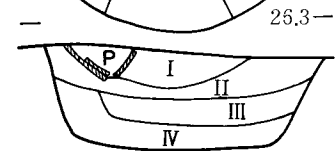
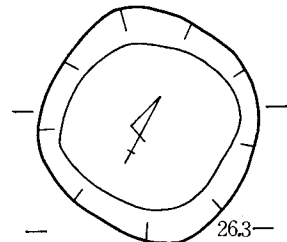
第421号ピット



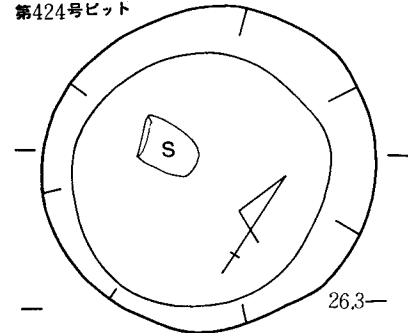
第422号ピット



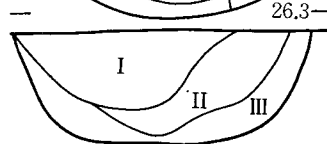
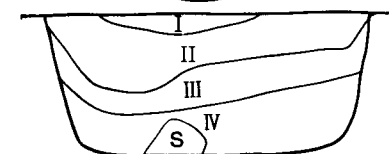
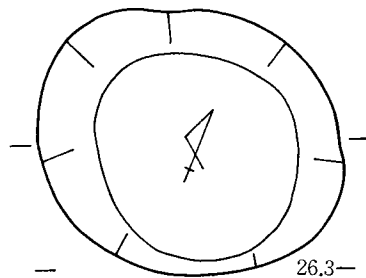
第423号ピット



第424号ピット

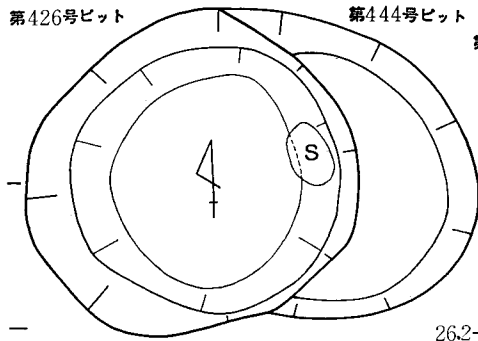


第425号ピット



第78図 遺構実測図

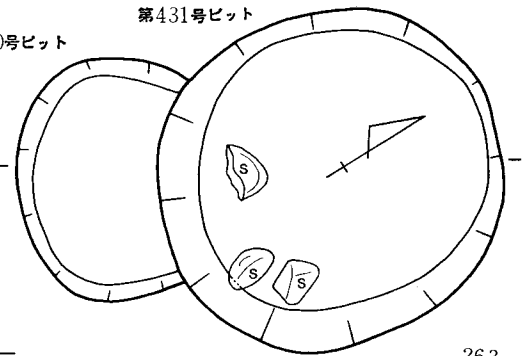
第426号ビット



第444号ビット

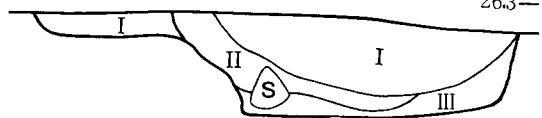
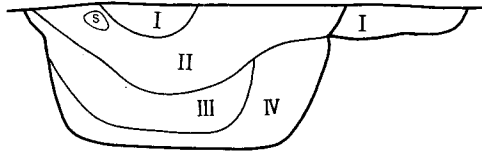
第430号ビット

第431号ビット

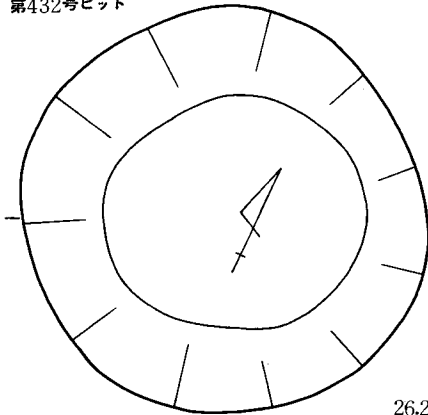


26.2—

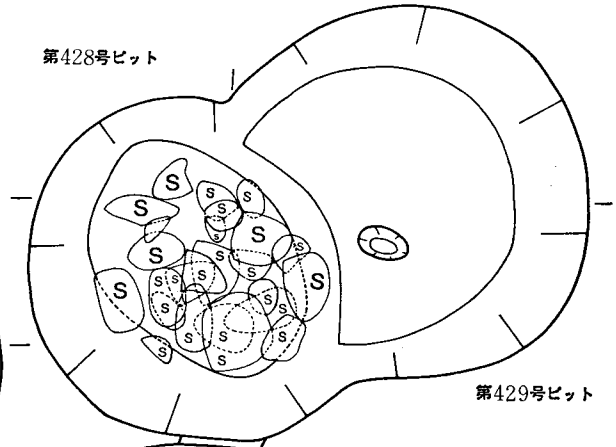
26.3—



第432号ビット

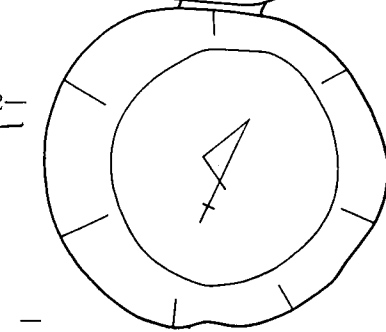
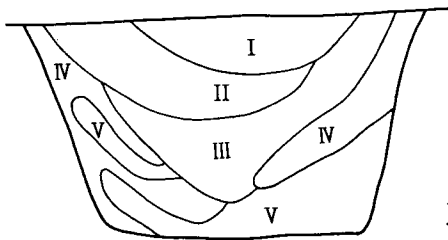


第428号ビット



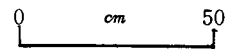
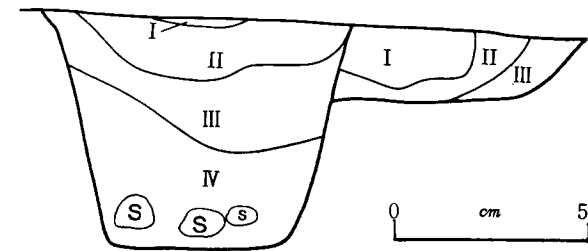
第429号ビット

26.2—



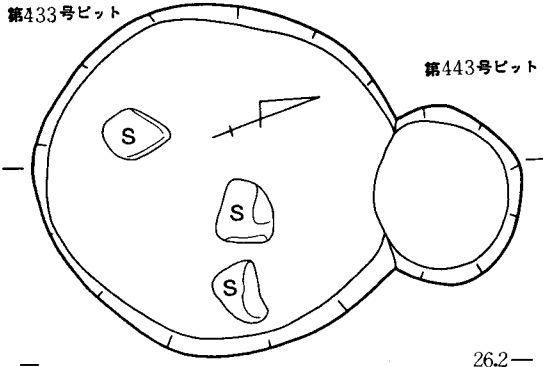
第427号ビット

26.3—

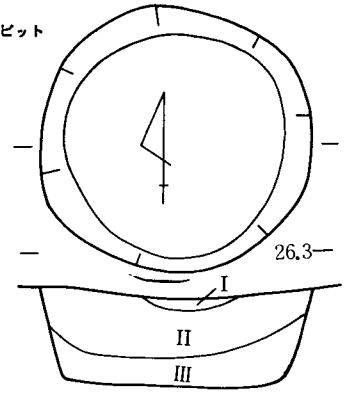


第79図 遺構実測図

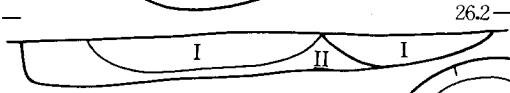
第433号ピット



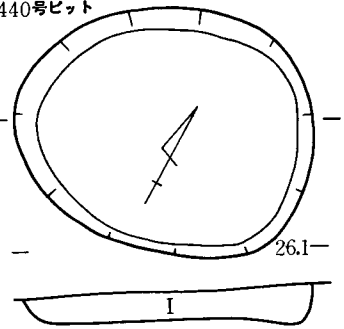
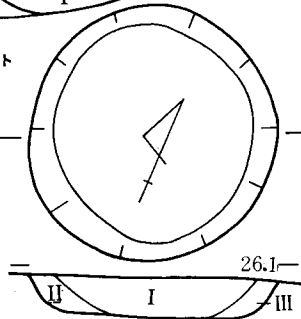
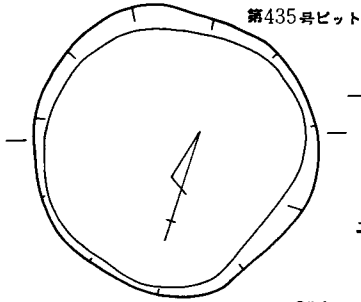
第434号ピット



第443号ピット



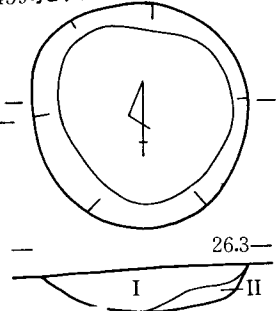
第436号ピット 第440号ピット



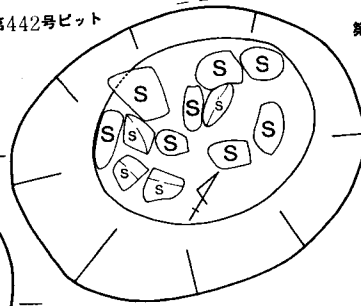
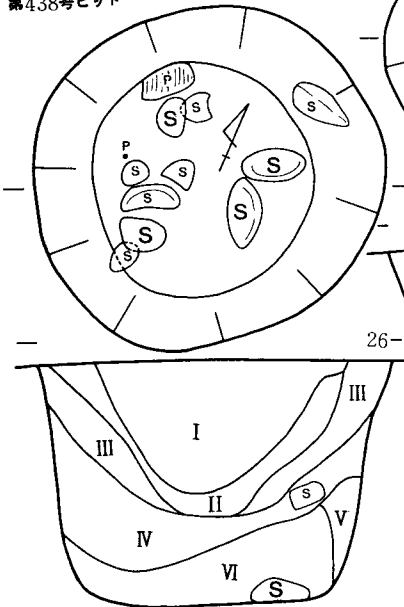
26.1- 第442号ピット



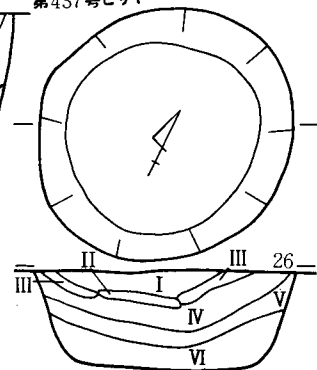
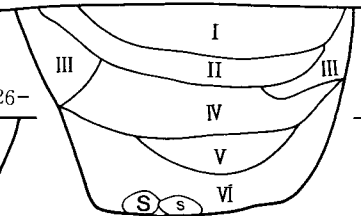
第439号ピット



第438号ピット

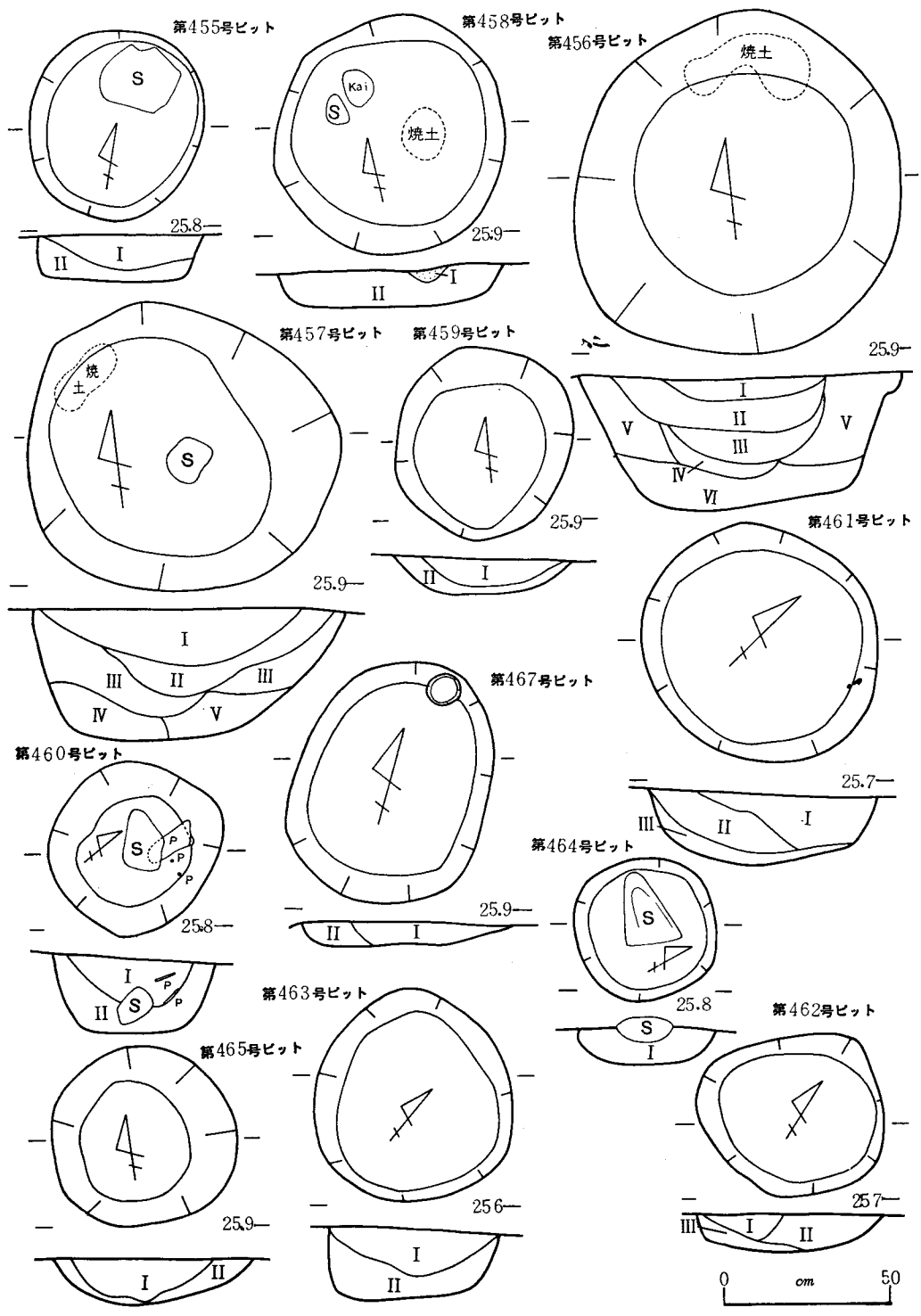


26.1- 第437号ピット

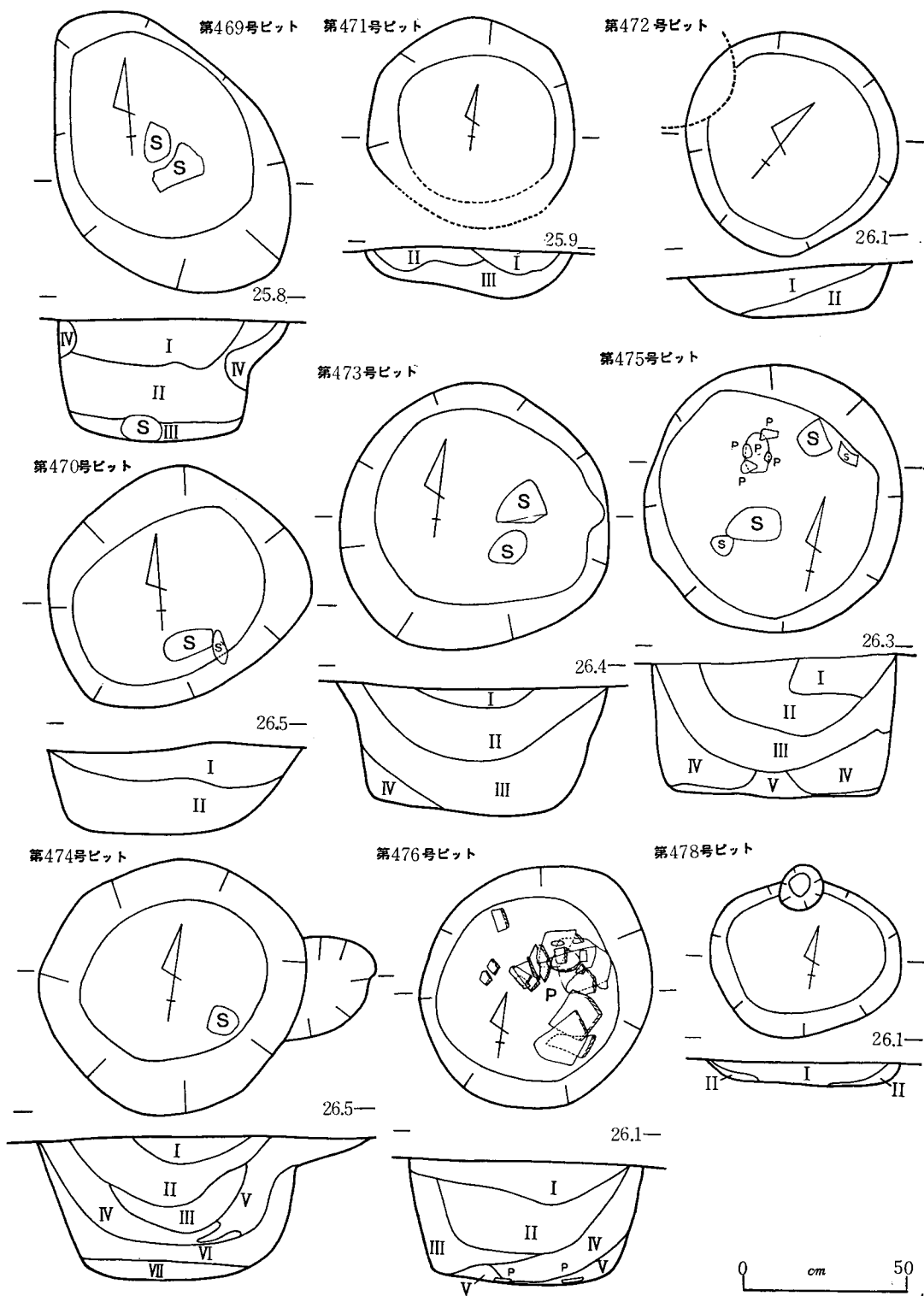


0 cm 50

第80図 遺構実測図

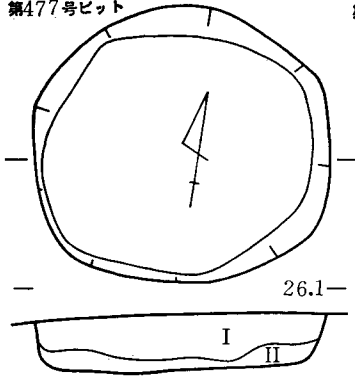


第82図 遺構実測図

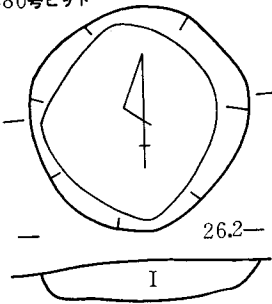


第83図 遺構実測図

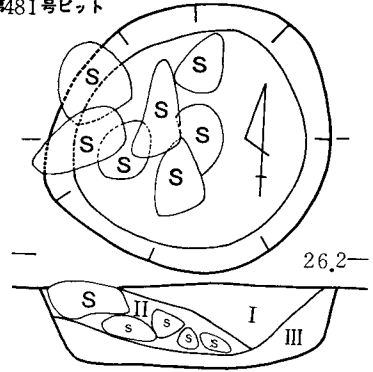
第477号ビット



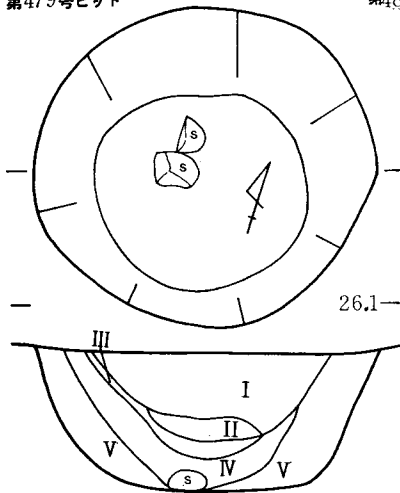
第480号ビット



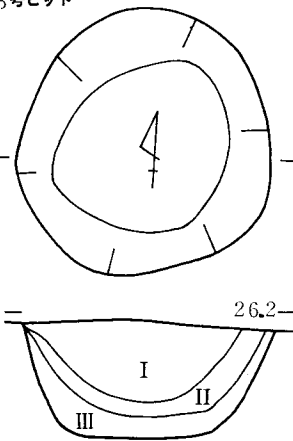
第481号ビット



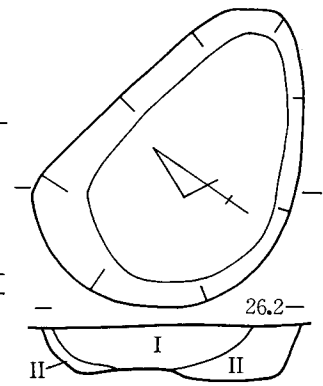
第479号ビット



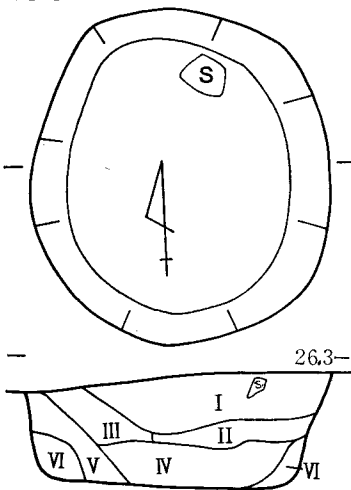
第483号ビット



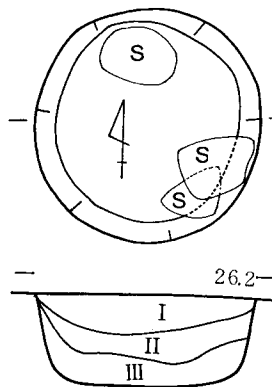
第485号ビット



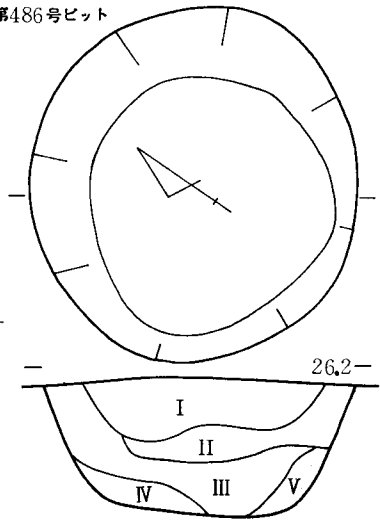
第484号ビット



第482号ビット



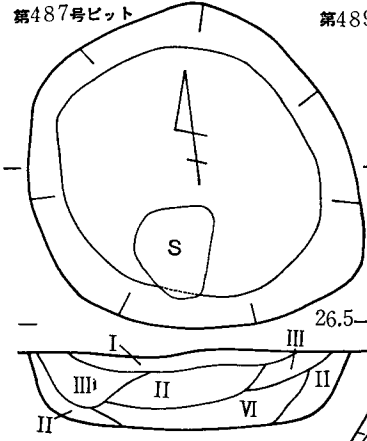
第486号ビット



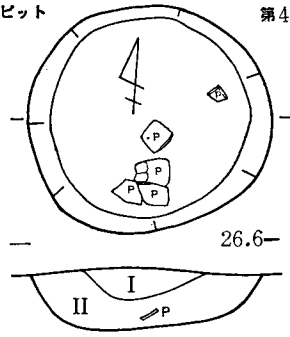
0 cm 50

第84図 遺構実測図

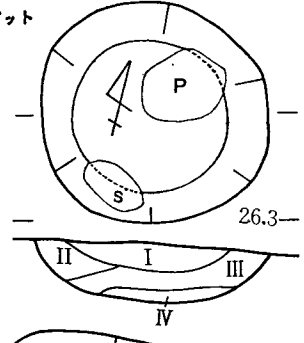
第487号ビット



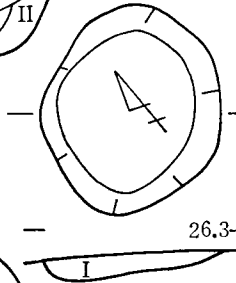
第489号ビット



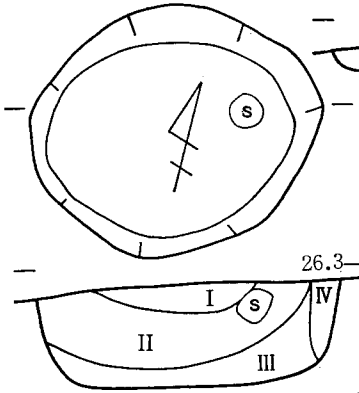
第490号ビット



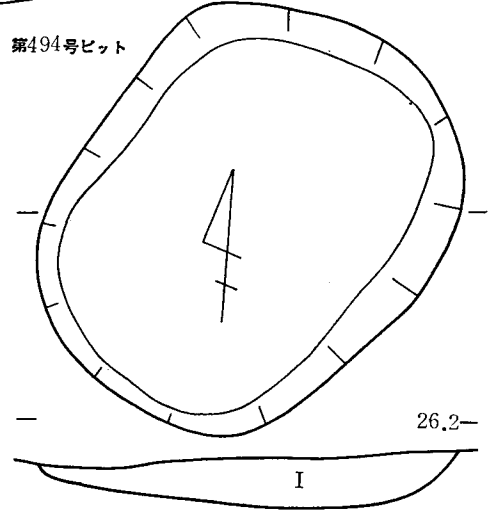
第491号ビット



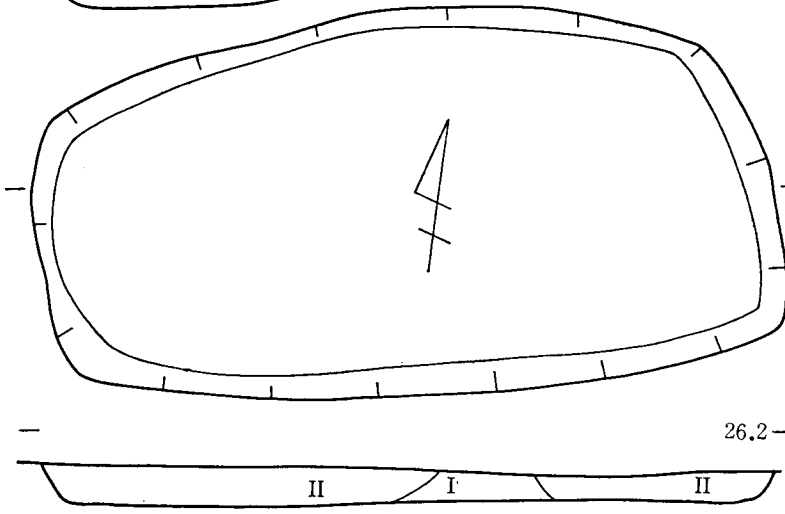
第493号ビット



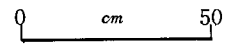
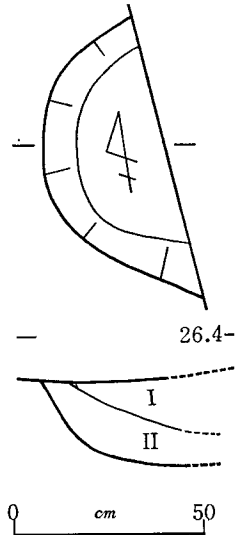
第494号ビット



第488号ビット

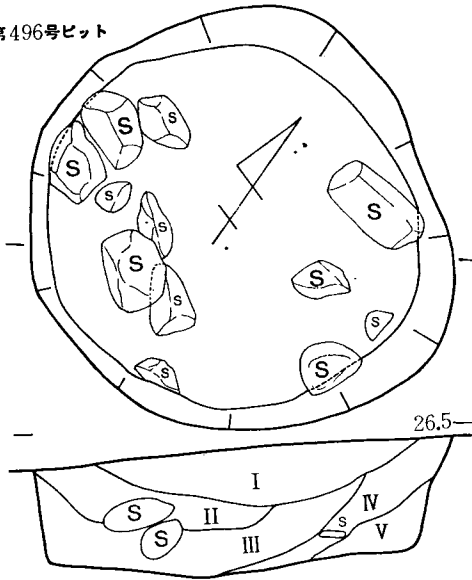


第495号ビット

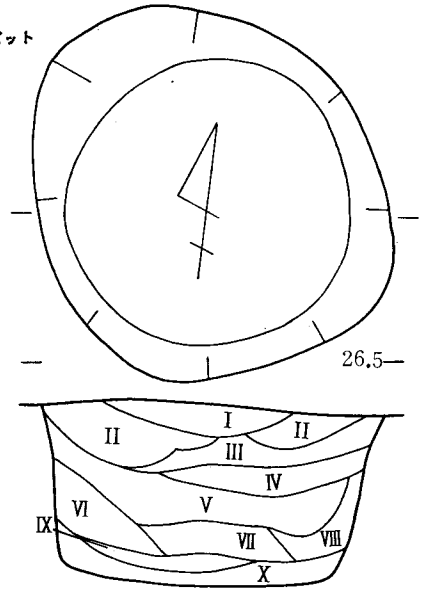


第85図 遺構実測図

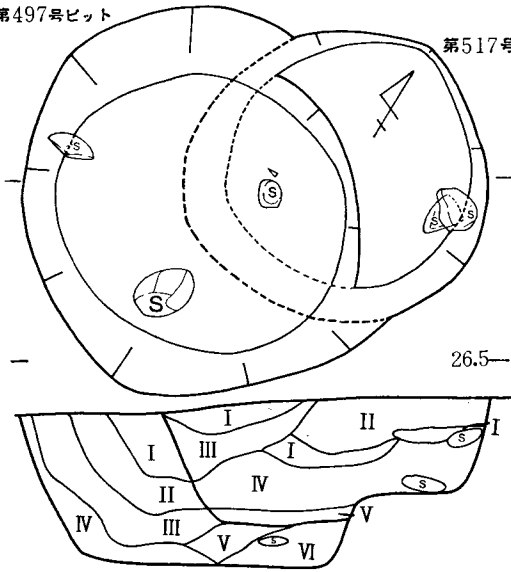
第496号ピット



第498号ピット

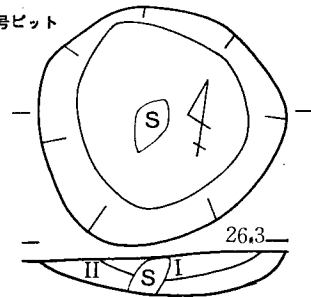


第497号ピット

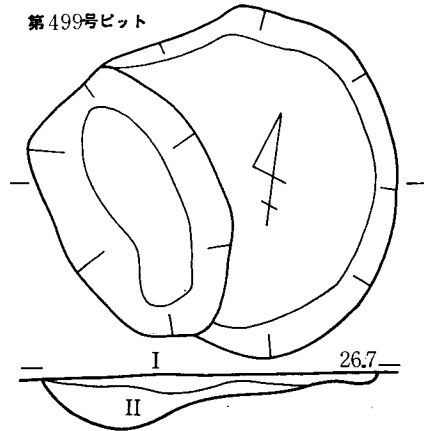


第517号ピット

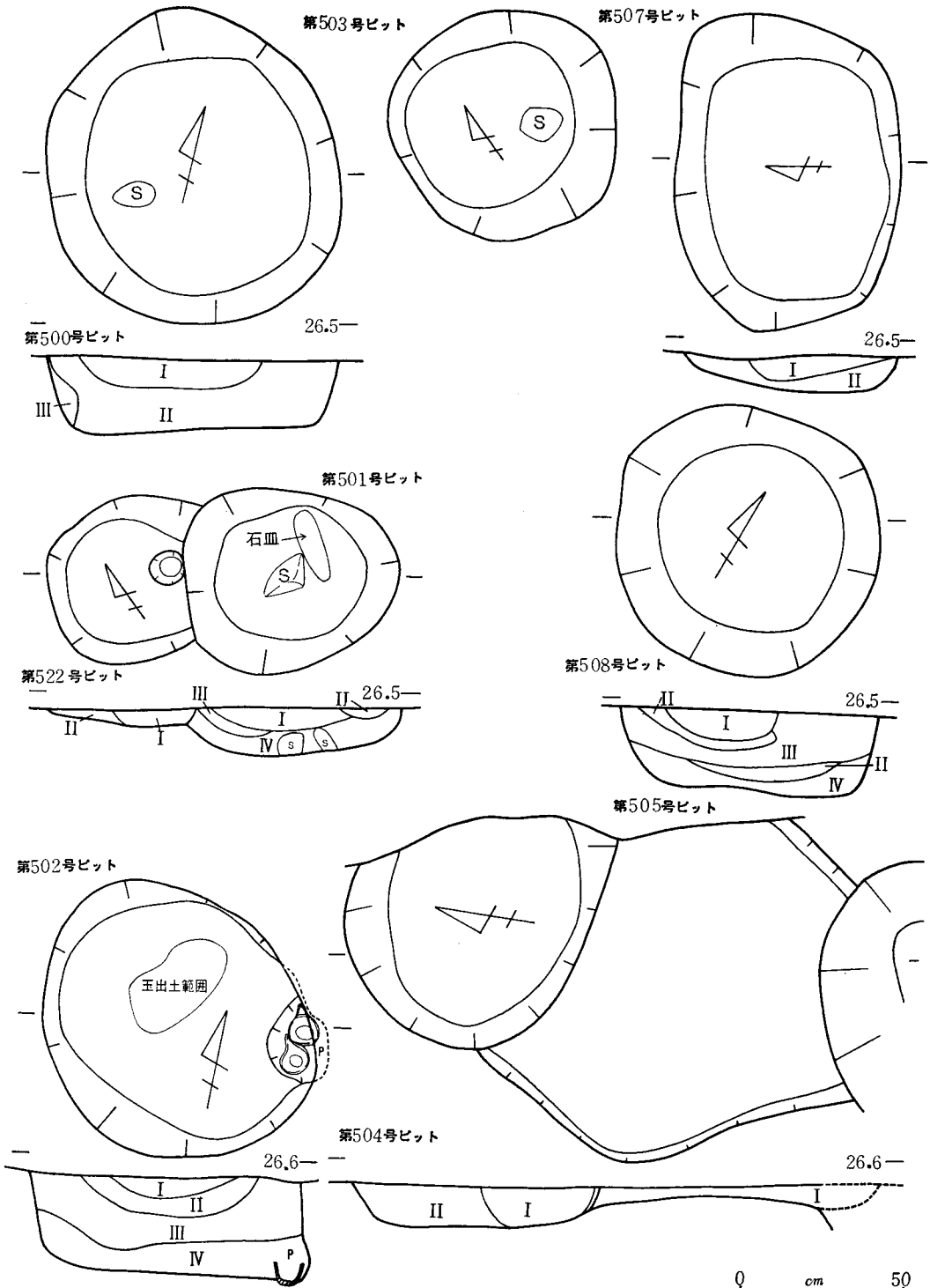
第492号ピット



第499号ピット

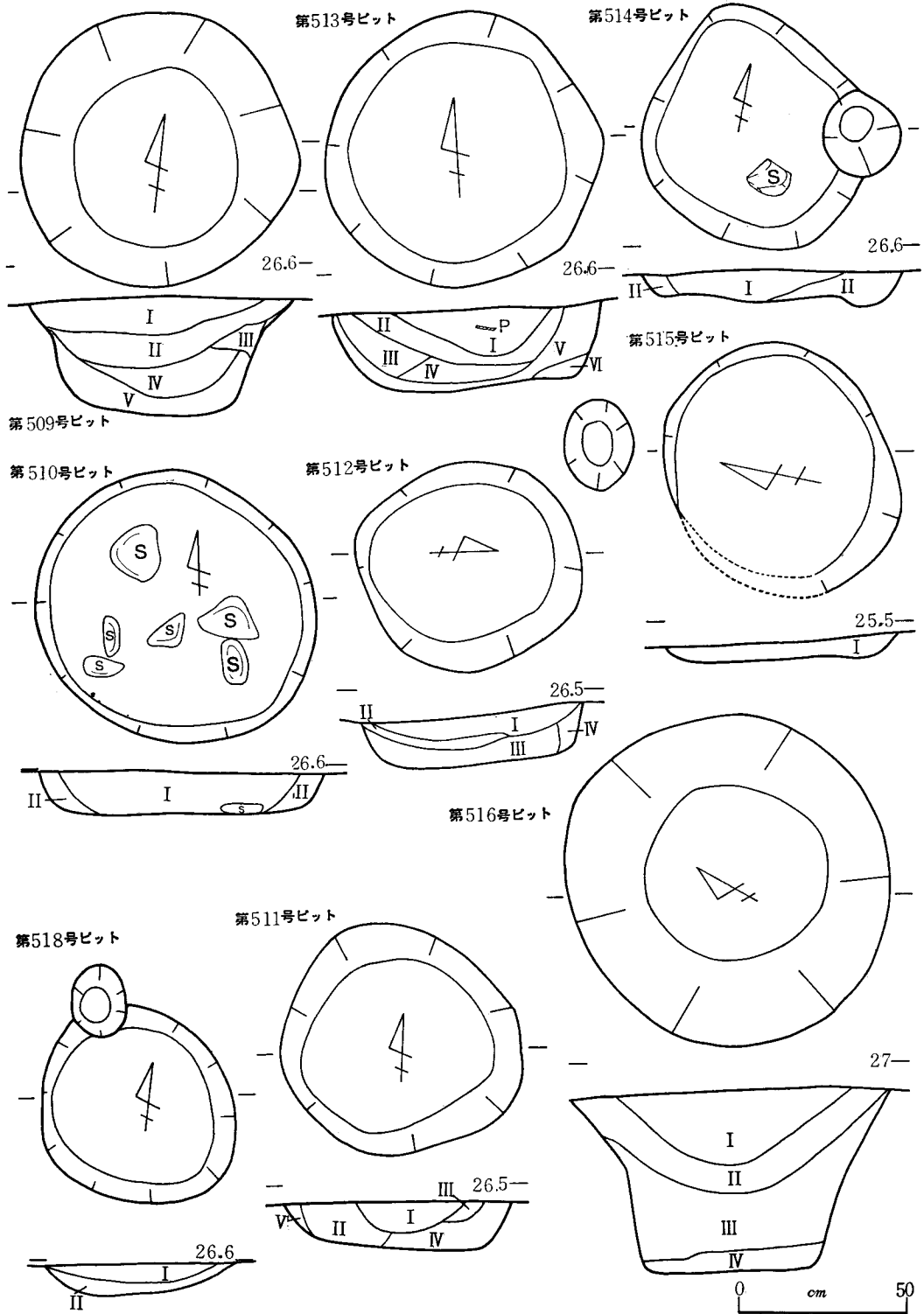


0 cm 50



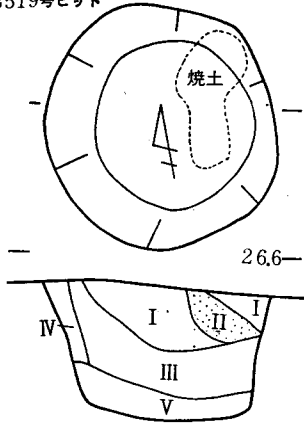
0 cm 50

第87図 遺構実測図

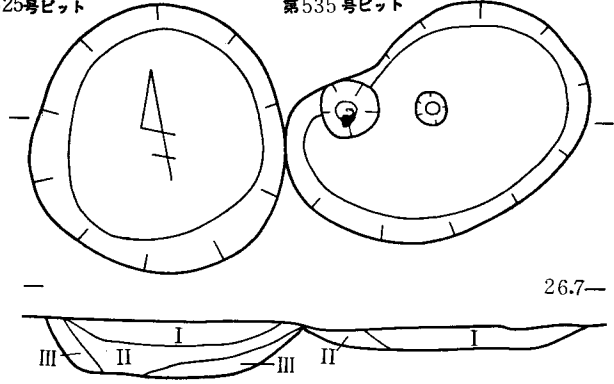


第88図 遺構実測図

第519号ビット

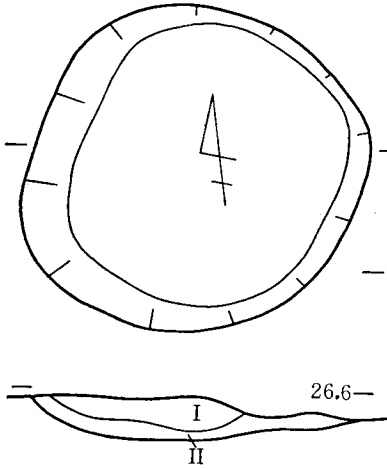


第525号ビット

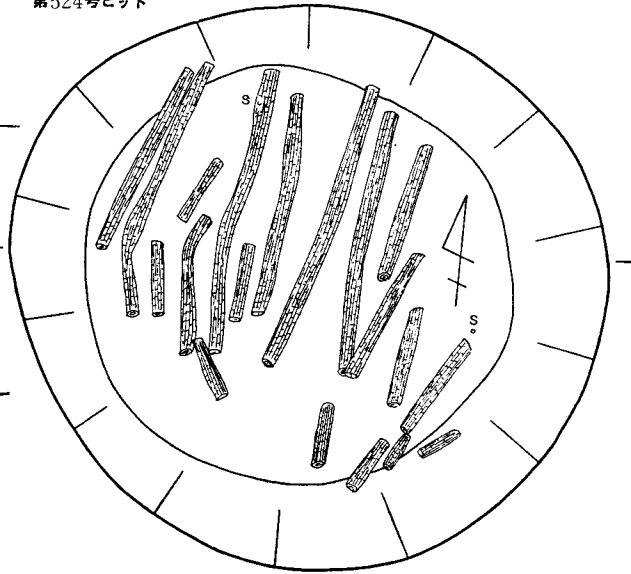


第535号ビット

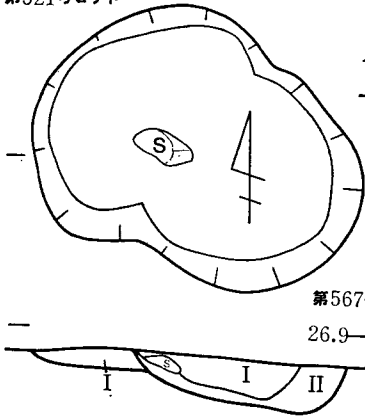
第526号ビット



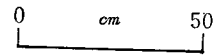
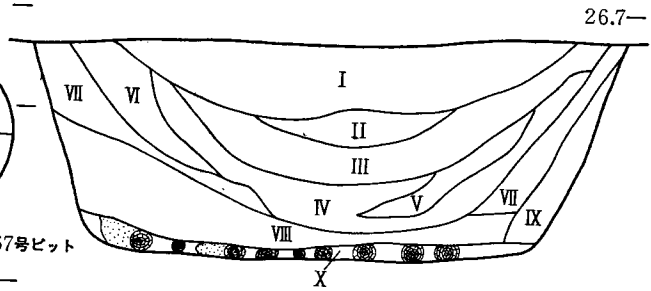
第524号ビット



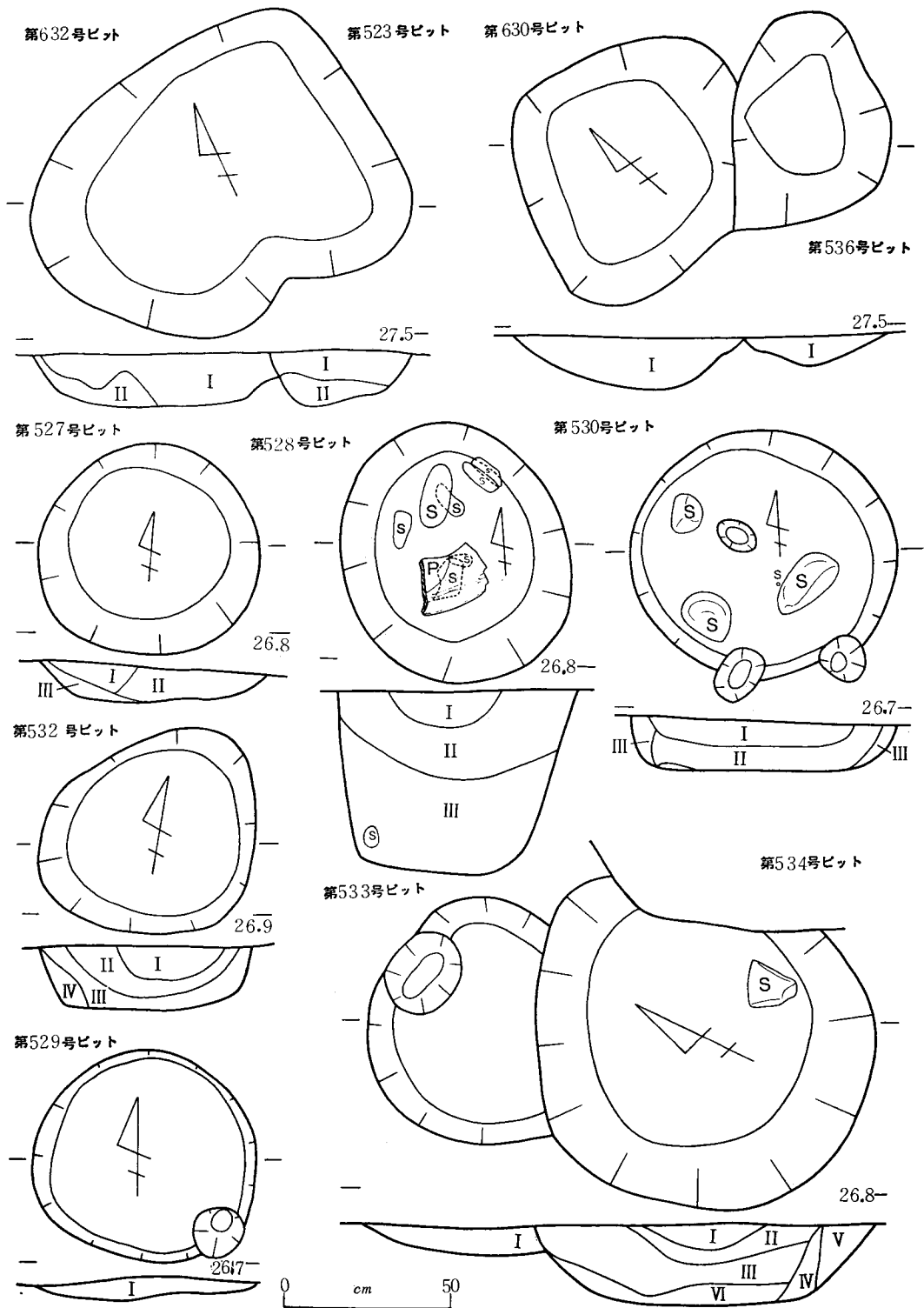
第521号ビット



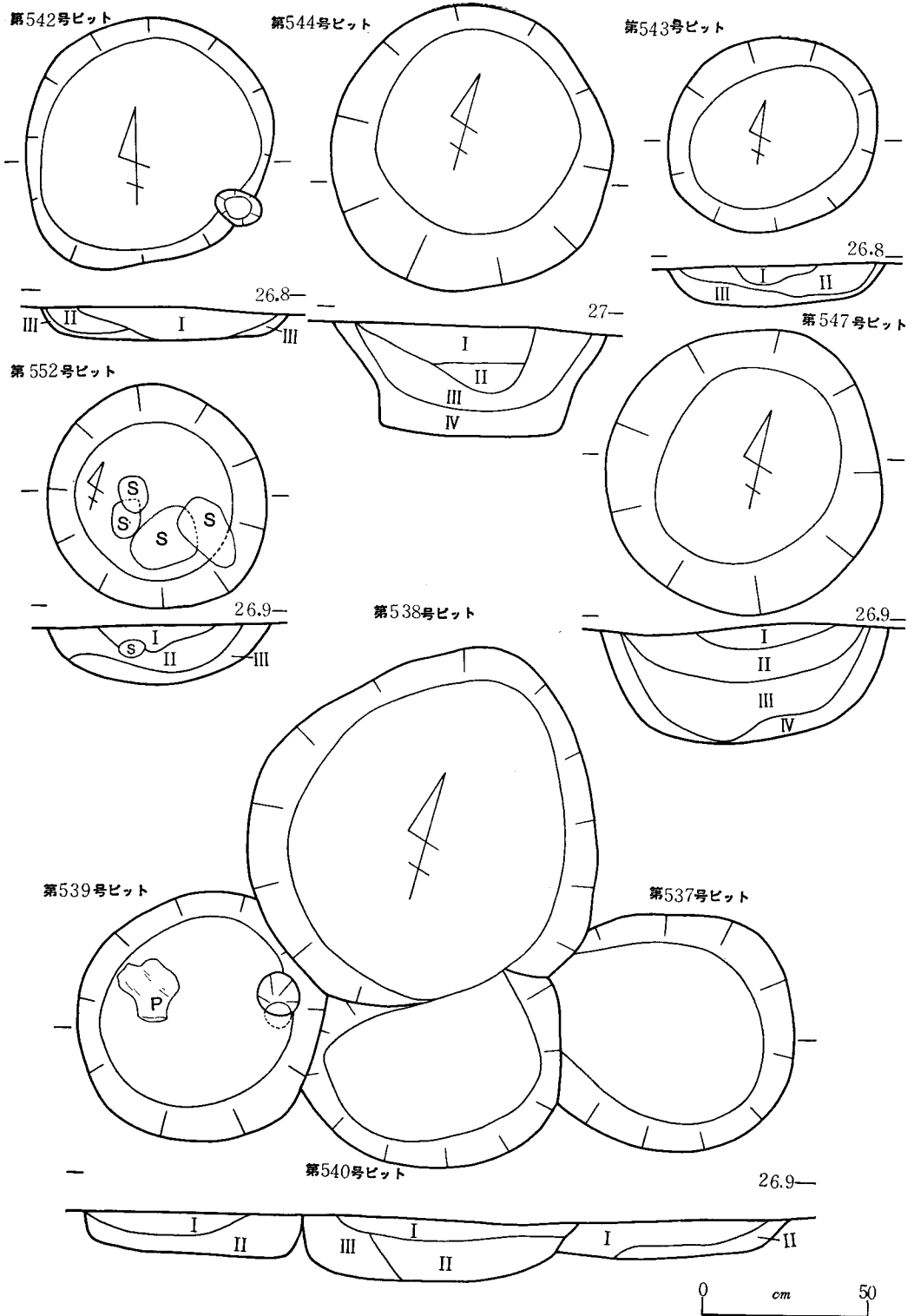
第567号ビット



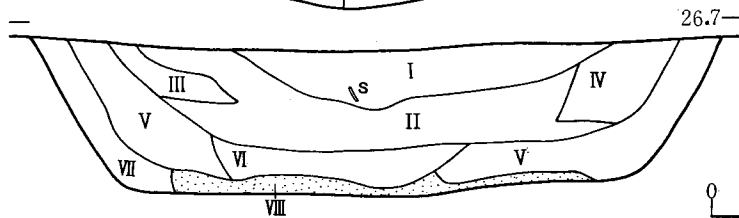
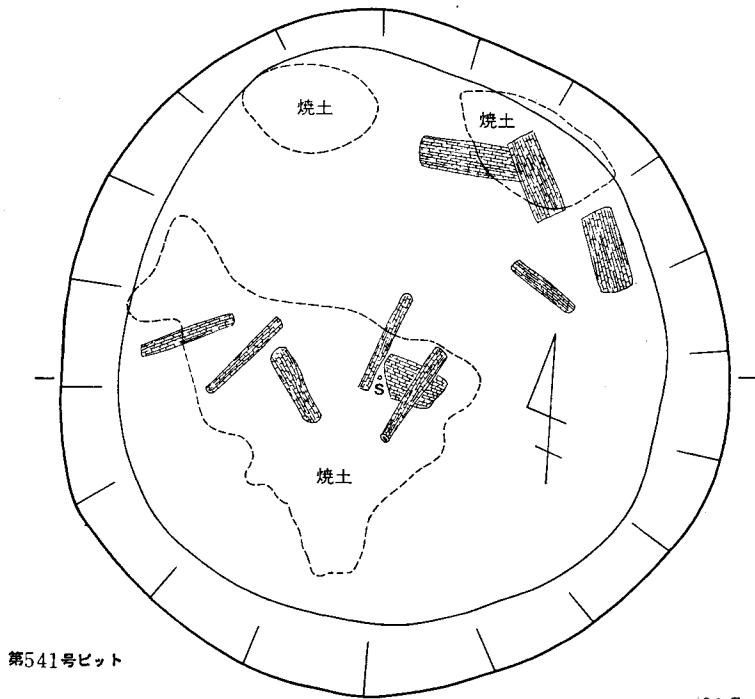
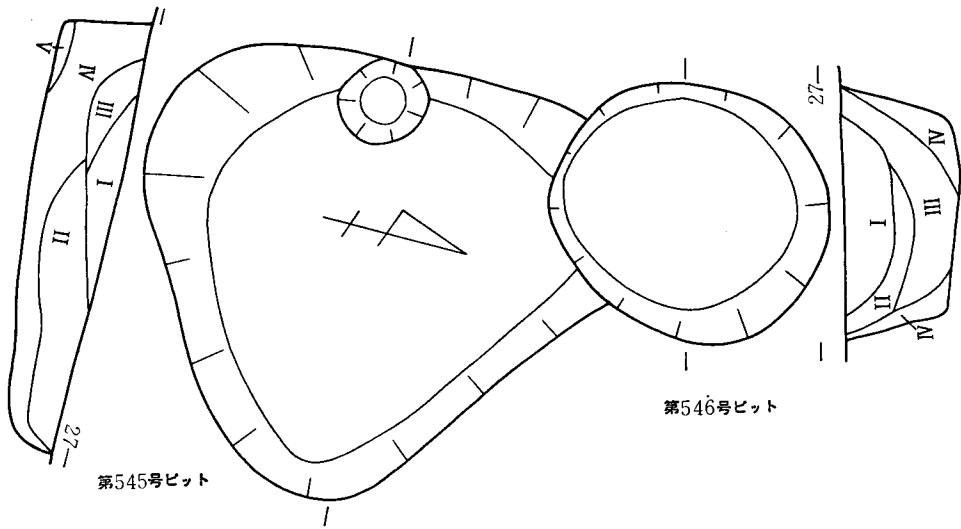
第89図 遺構実測図



第90図 遺構実測図

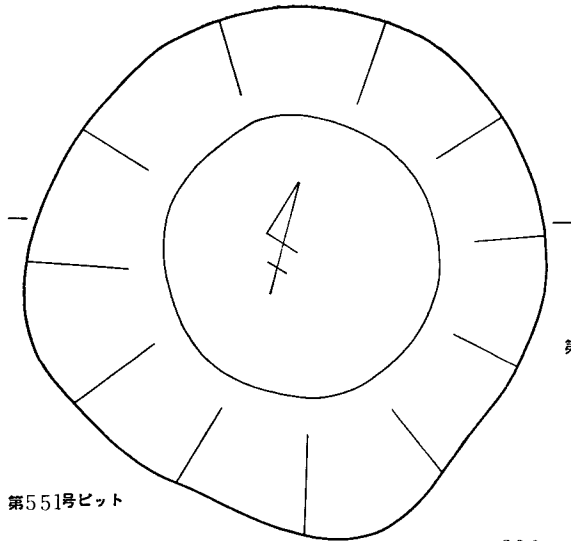


第91図 遺構実測図

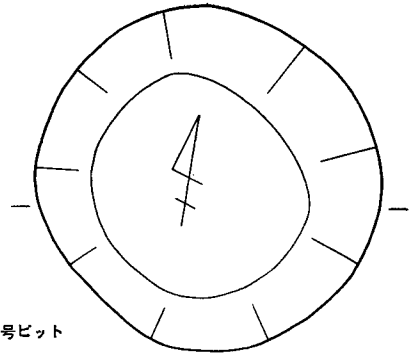


0 cm 50

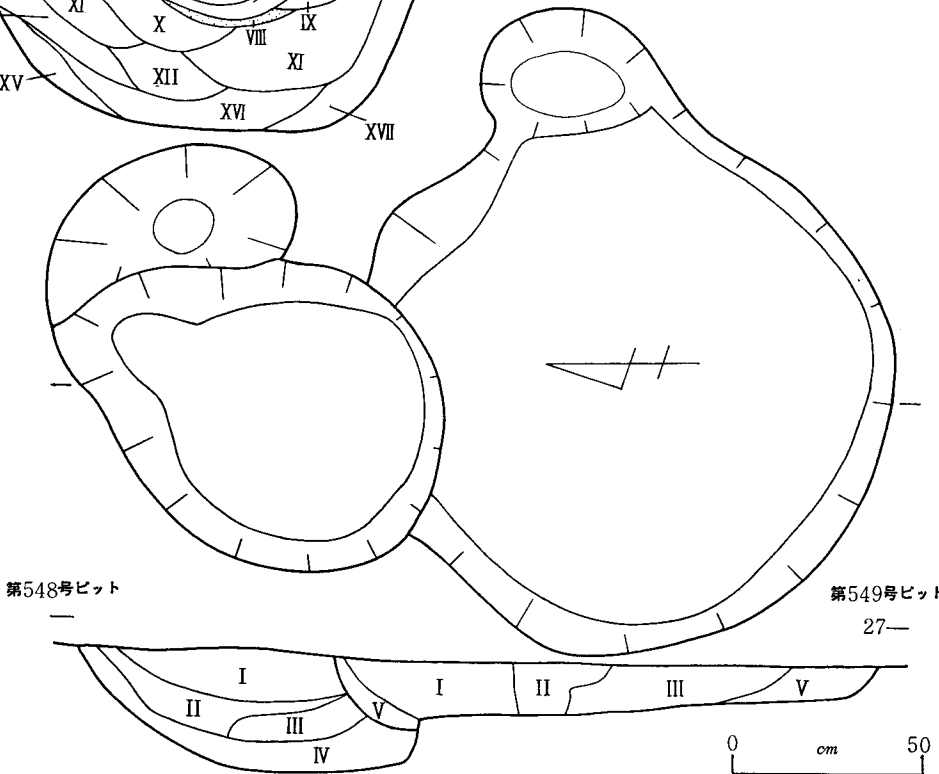
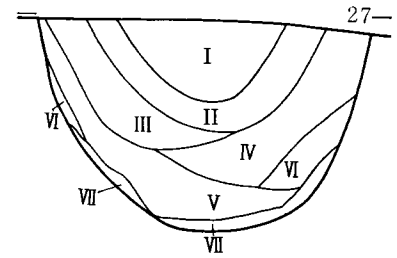
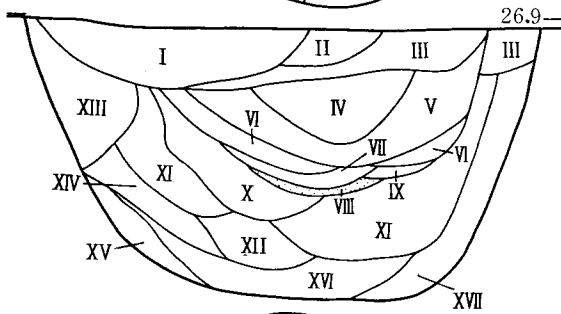
第92図 遺構実測図



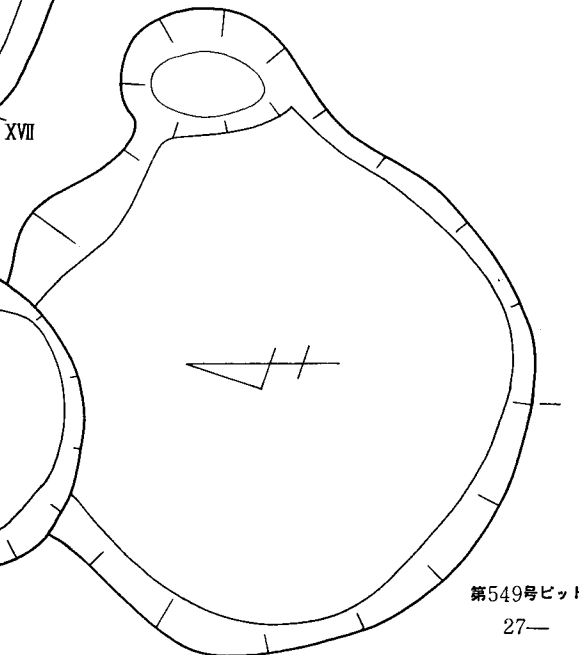
第551号ピット



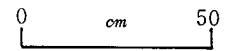
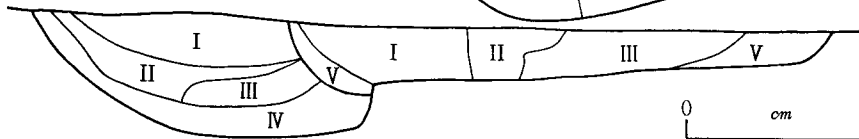
第550号ピット



第548号ピット



第549号ピット

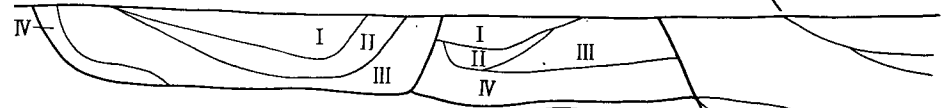
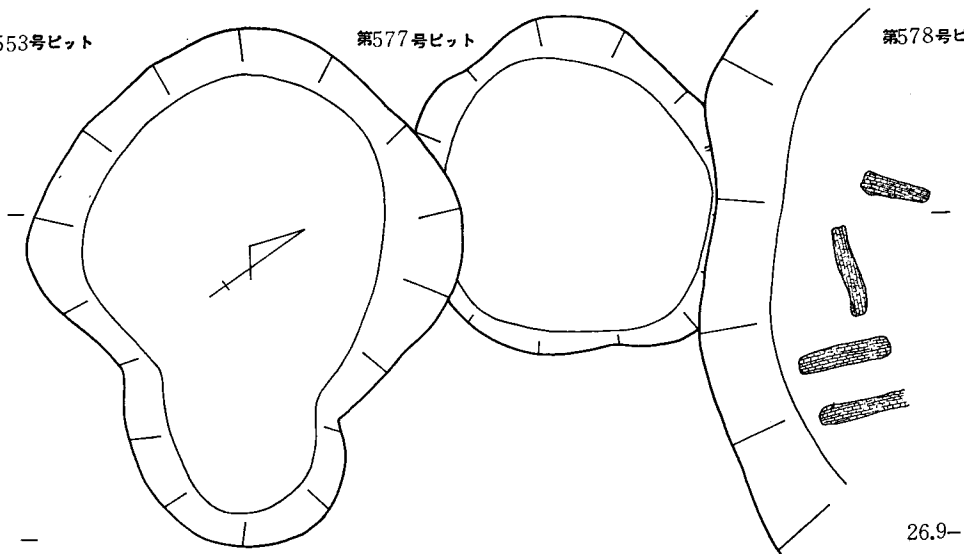


第93図 遺構実測図

第553号ビット

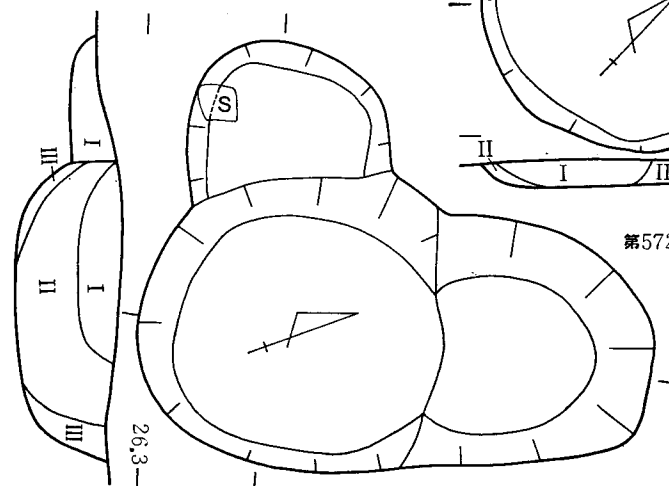
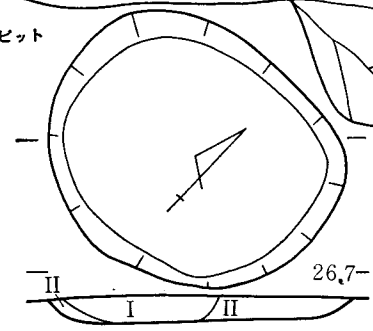
第577号ビット

第578号ビット



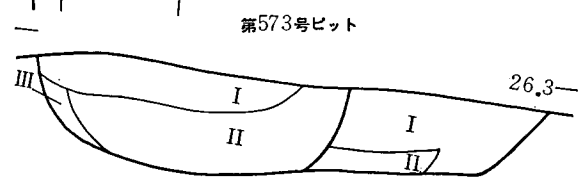
第569号ビット

第574号ビット

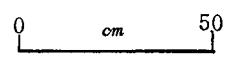
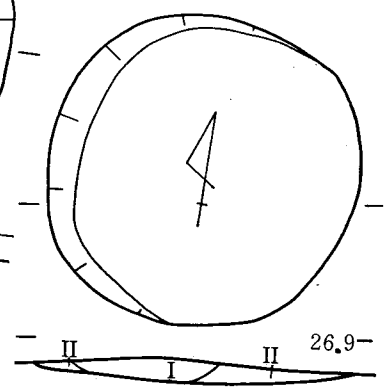


第572号ビット

第566号ビット

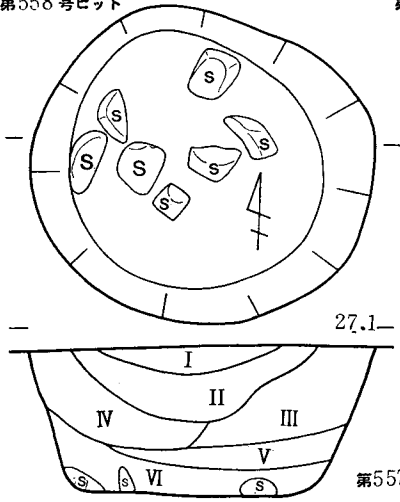


第573号ビット

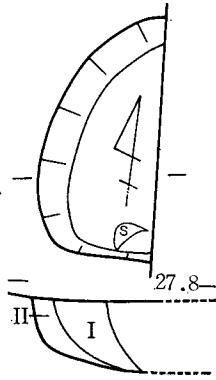


第94図 遺構実測図

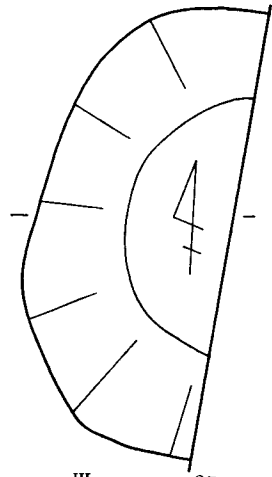
第558号ピット



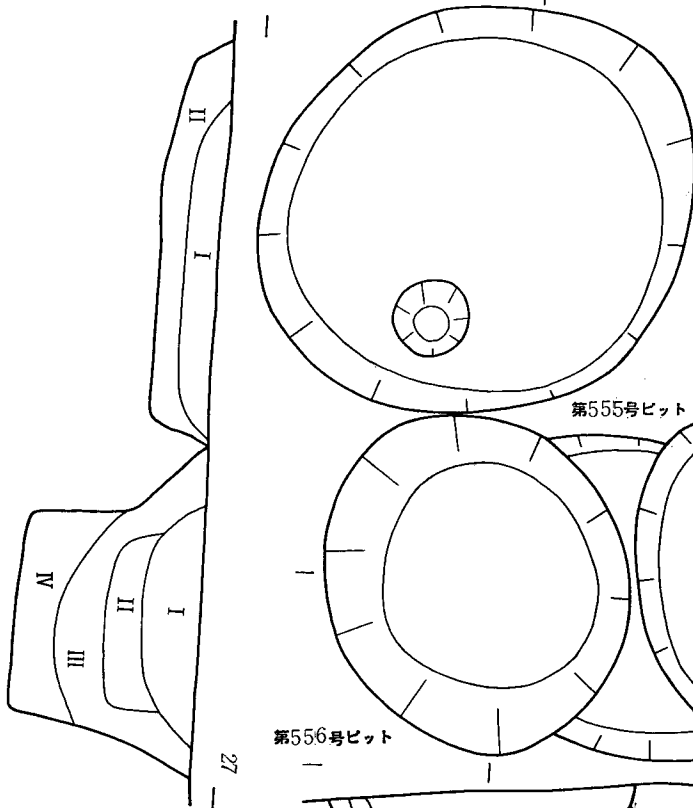
第559号ピット



第560号ピット

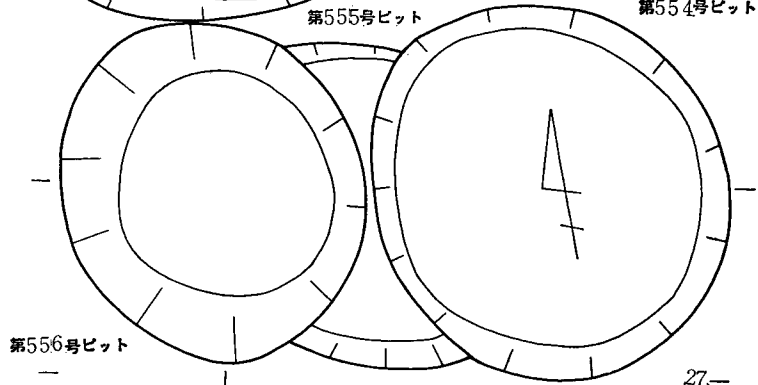


第557号ピット

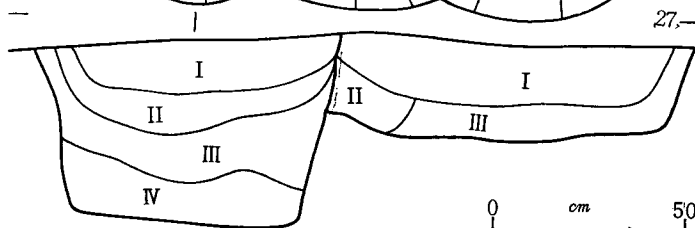


第555号ピット

第554号ピット

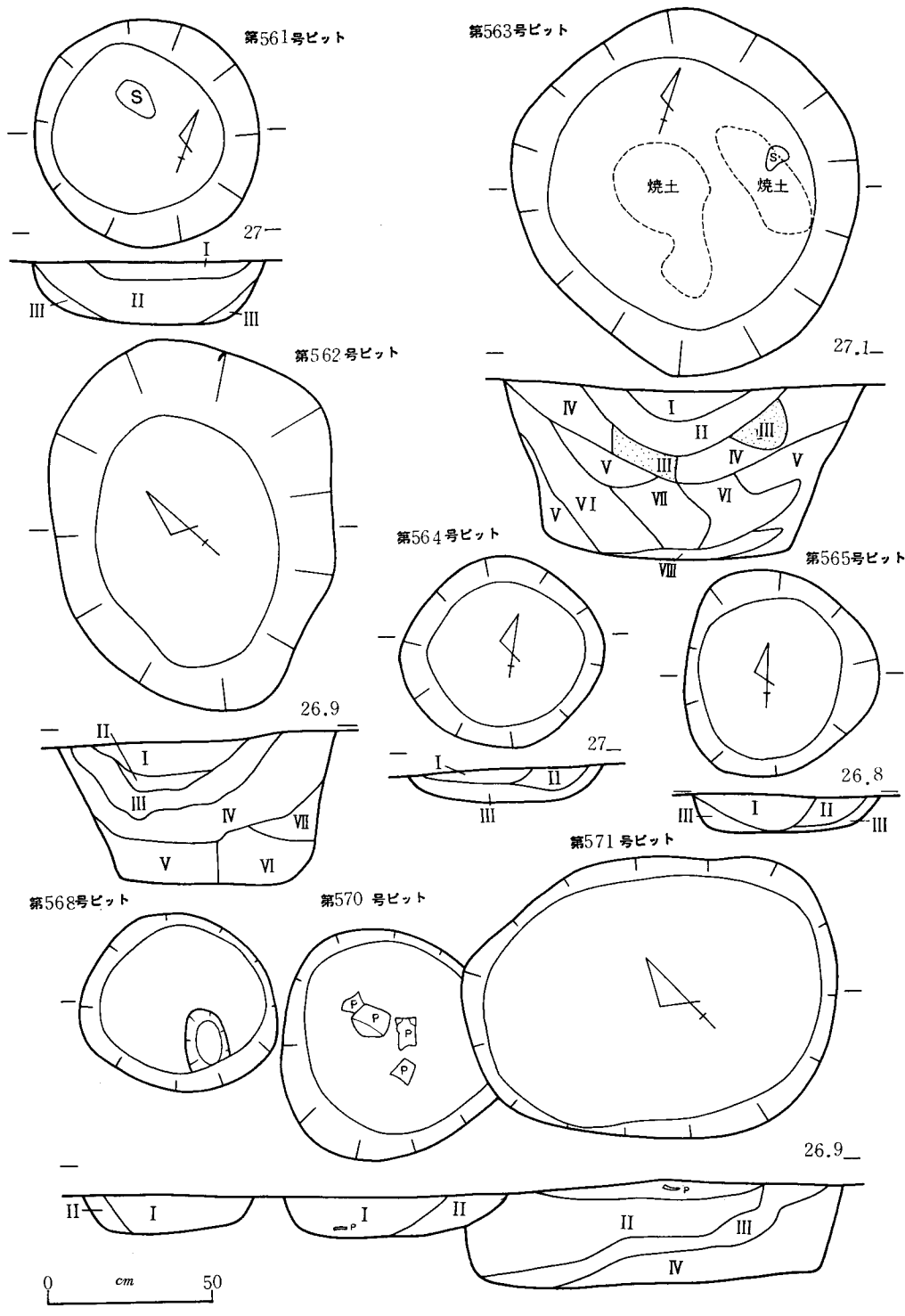


第556号ピット

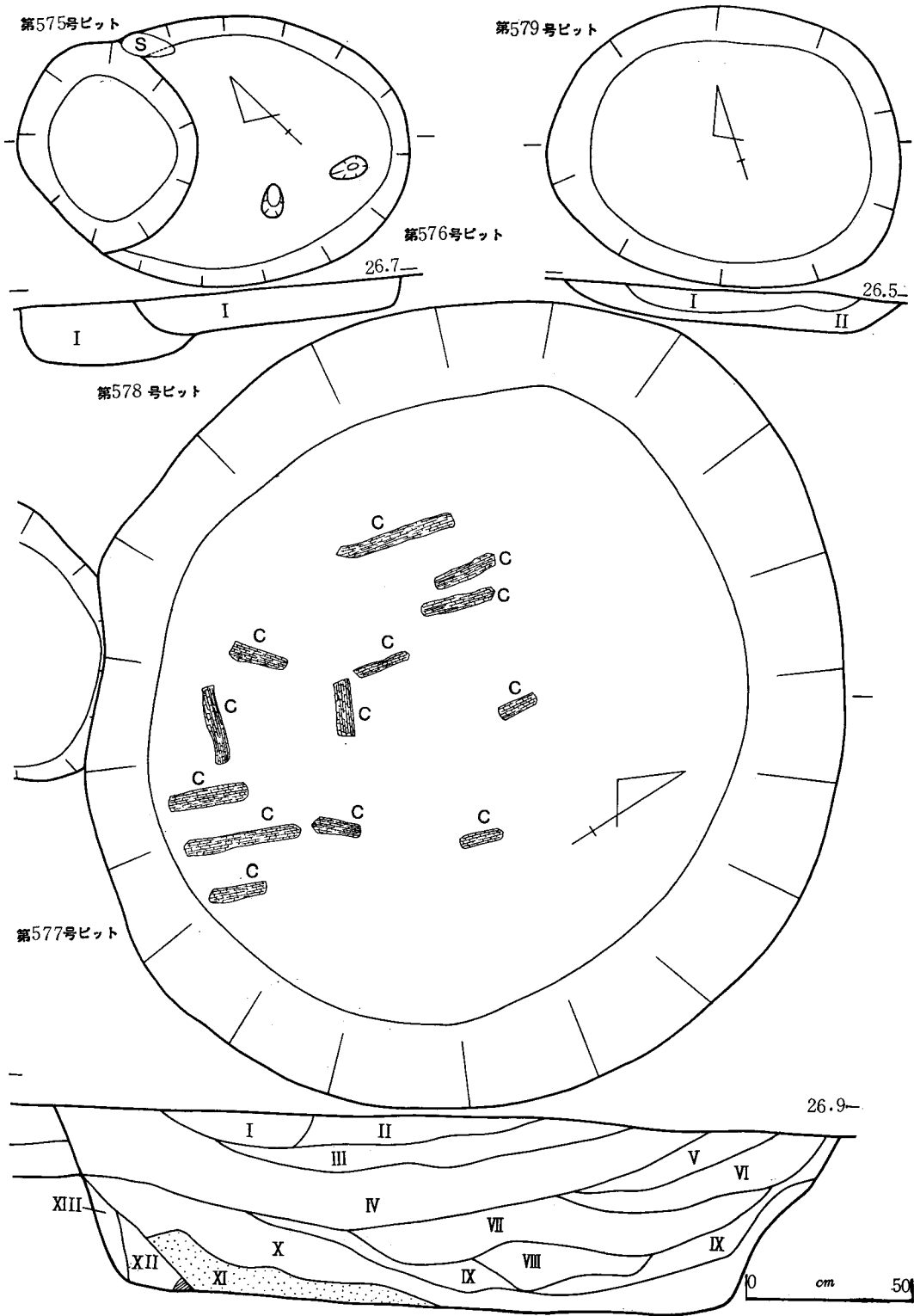


0 cm 50

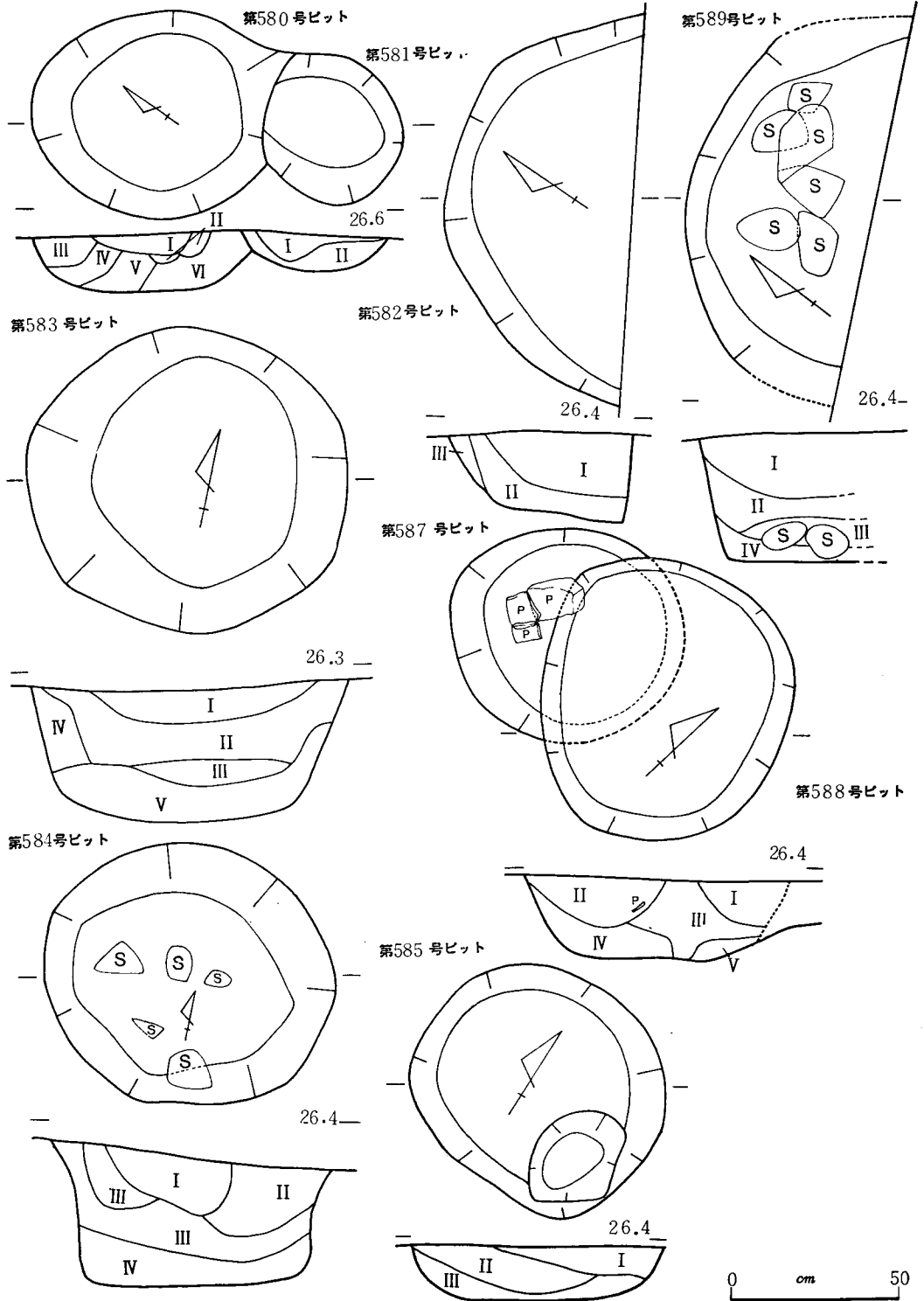
第95図 遺構実測図



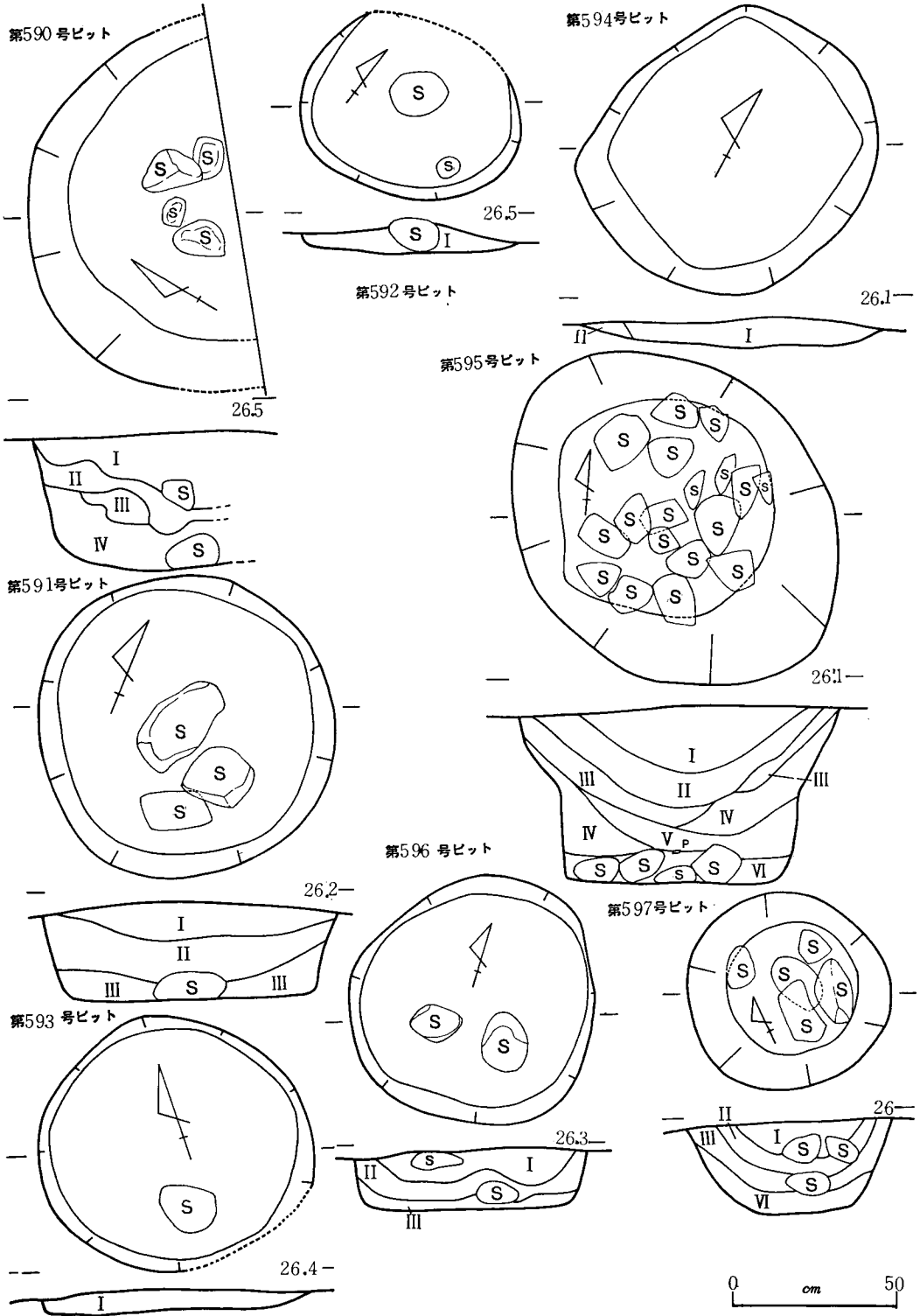
第96図 遺構実測図



第97図 遺構実測図

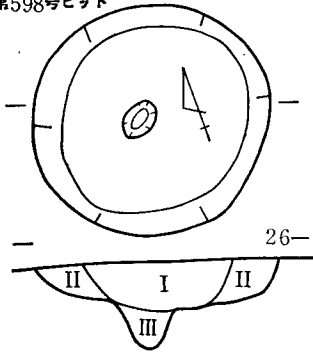


第98図 遺構実測図

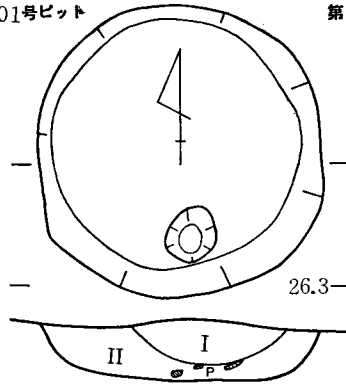


第99図 遺構実測図

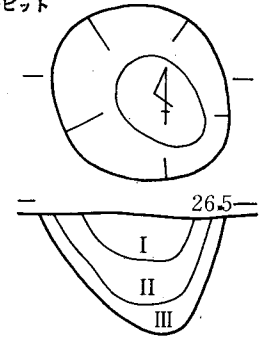
第598号ビット



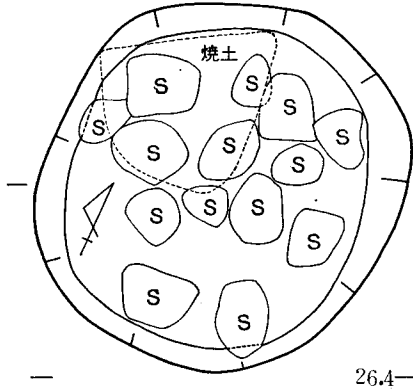
第601号ビット



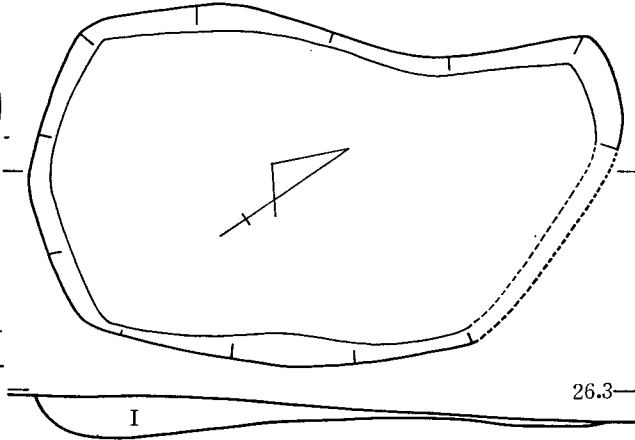
第605号ビット



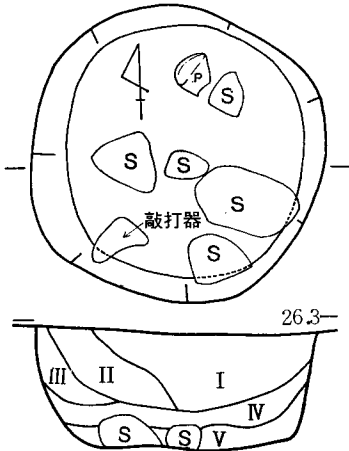
第599号ビット



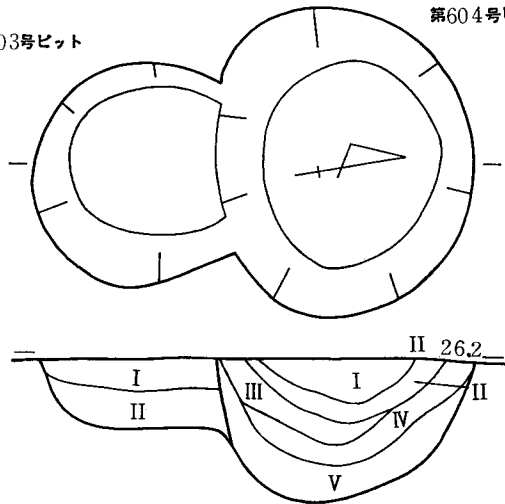
第602号ビット



第600号ビット



第603号ビット

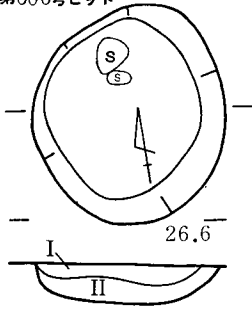


第604号ビット

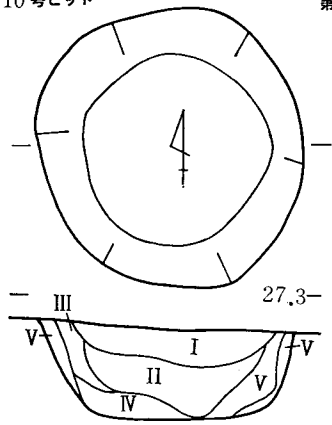


第100図 遺構実測図

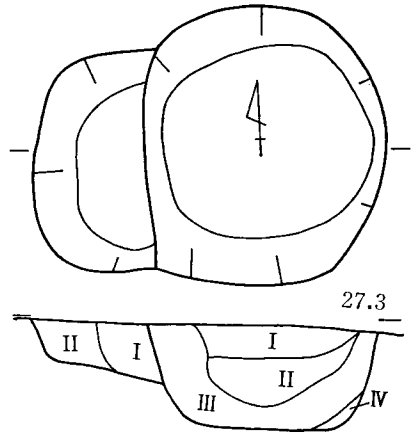
第606号ビット



第610号ビット

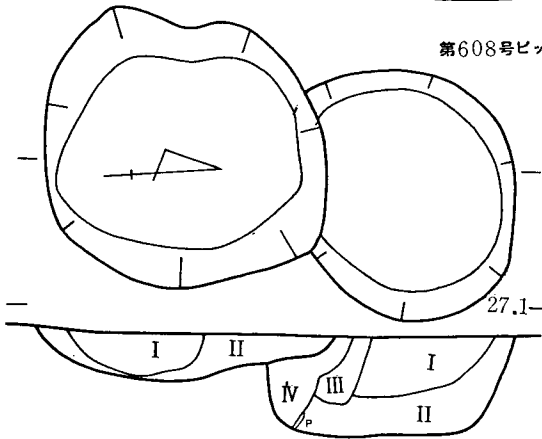


第609号ビット



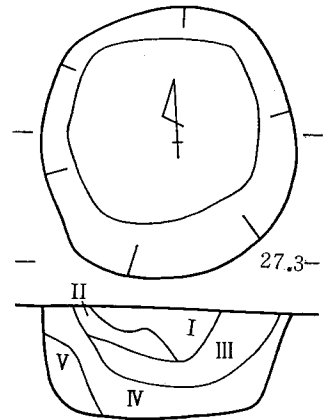
第617号ビット

第607号ビット



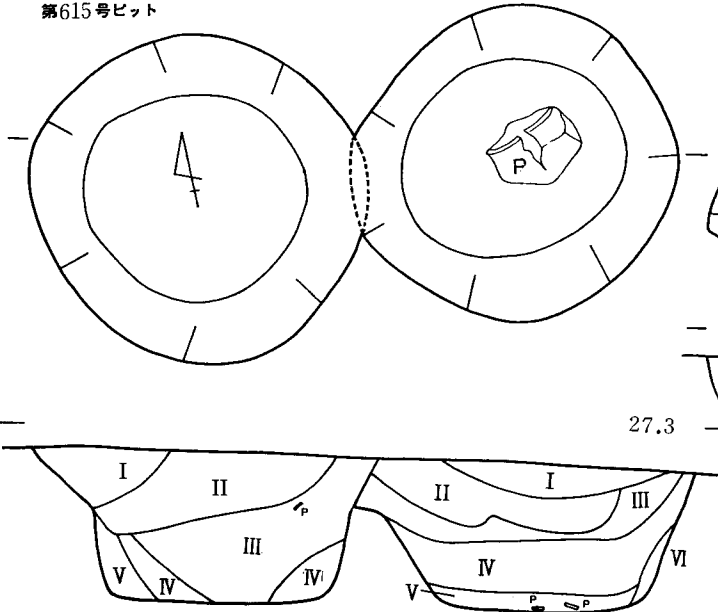
第608号ビット

第611号ビット

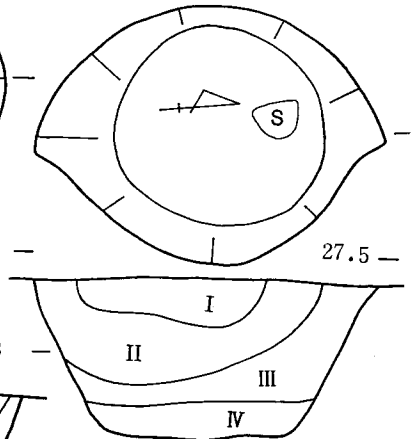


第615号ビット

第616号ビット



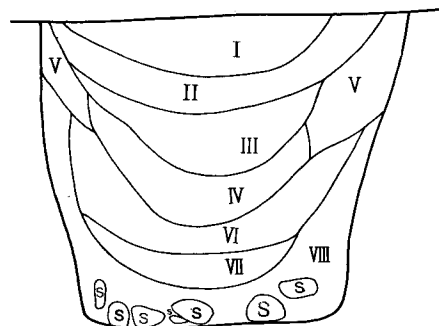
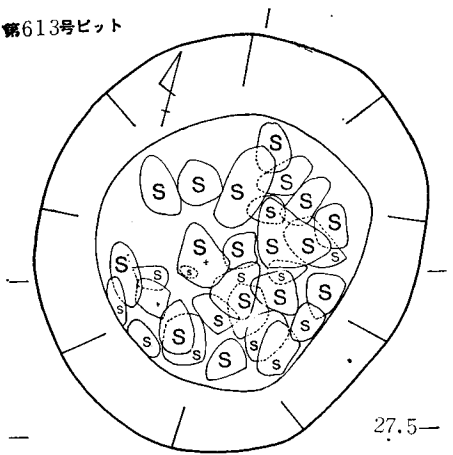
第681号ビット



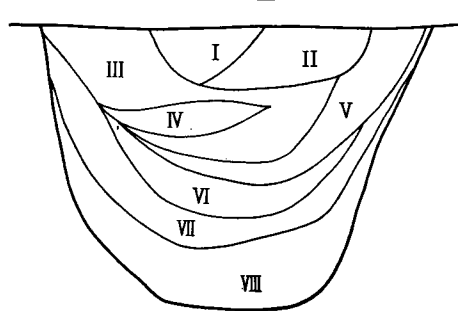
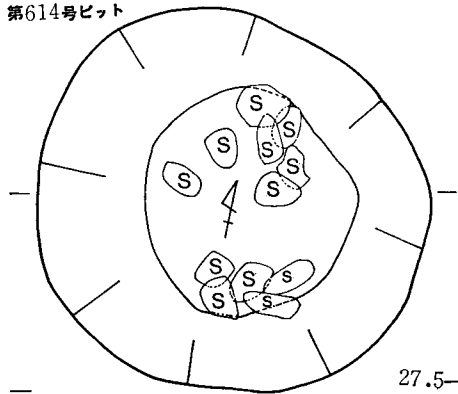
0 cm 50

第101図 遺構実測図

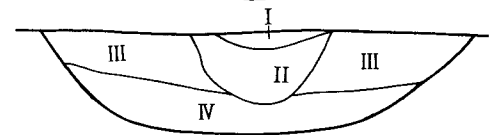
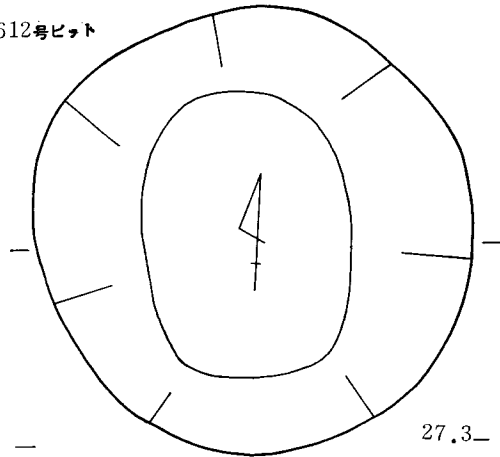
第613号ビット



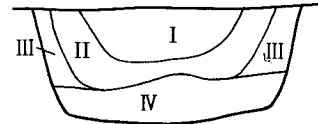
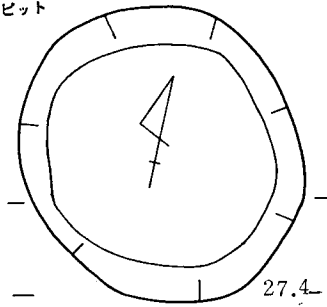
第614号ビット



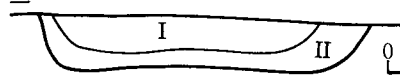
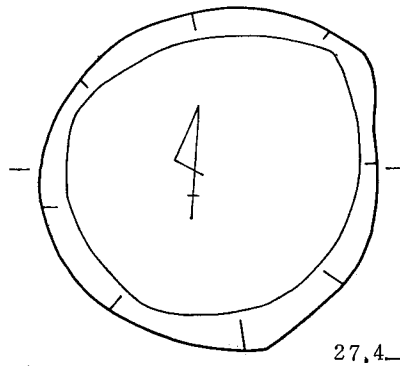
第612号ビット



第618号ビット

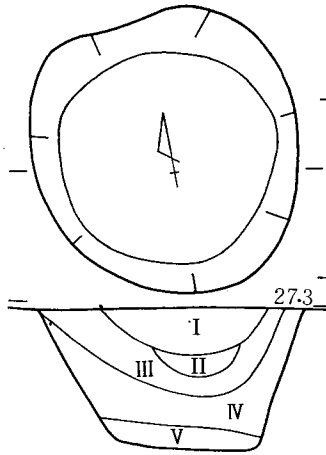


第619号ビット

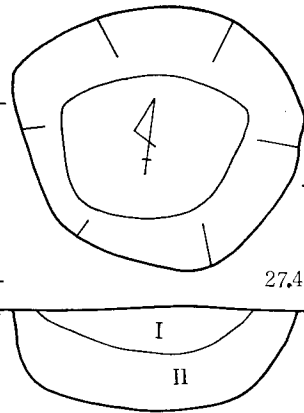


0 cm 50

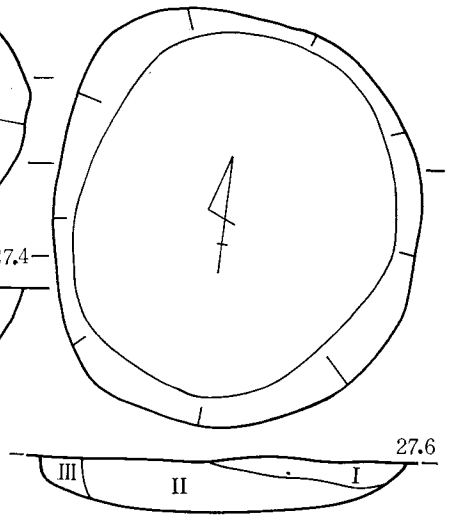
第620号ビット



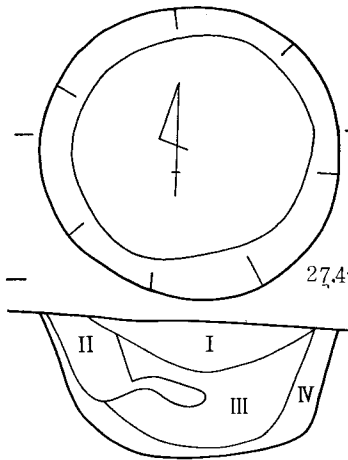
第624号ビット



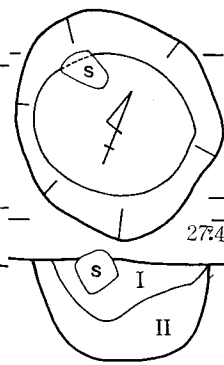
第622号ビット



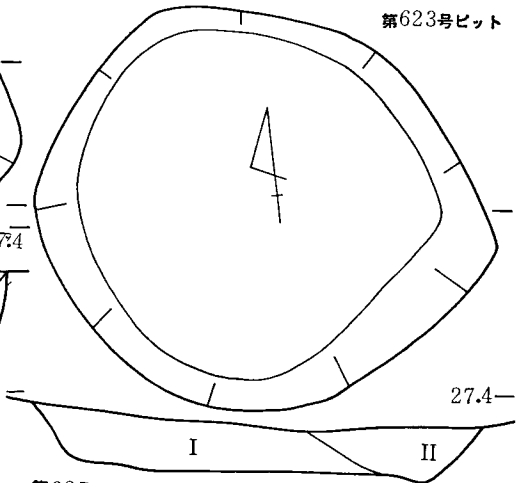
第621号ビット



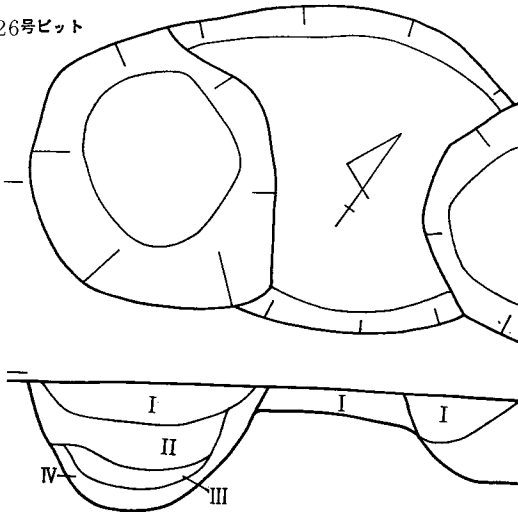
第625号ビット



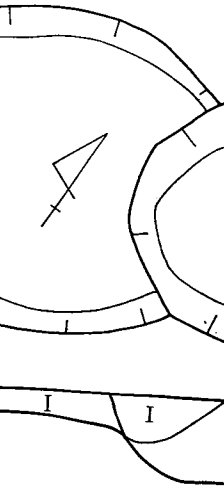
第623号ビット



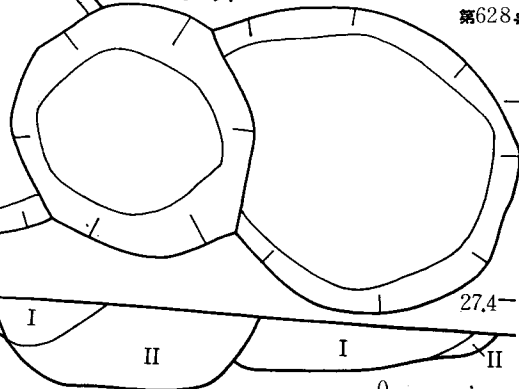
第626号ビット



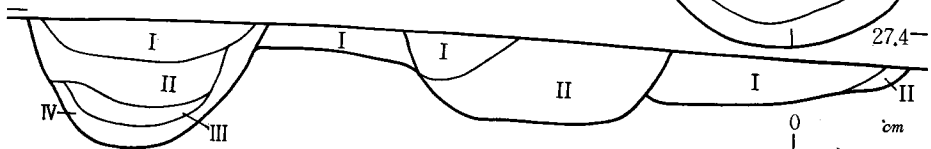
第629号ビット



第627号ビット

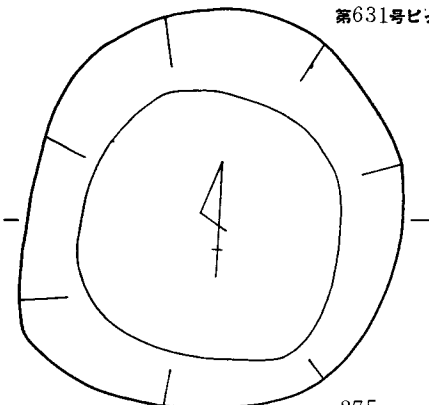


第628号ビット

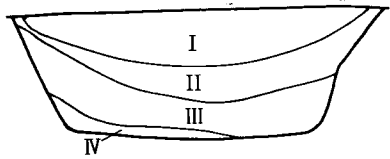


第103図 遺構実測図

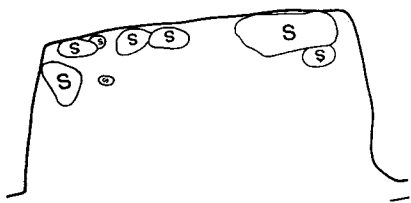
第631号ピット



27.5-

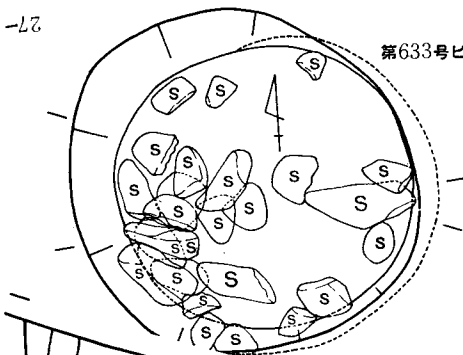


IV

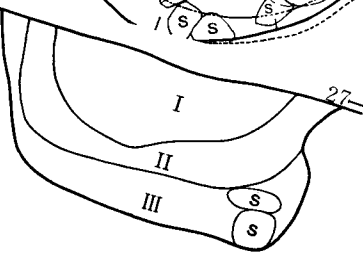


27-

第633号ピット

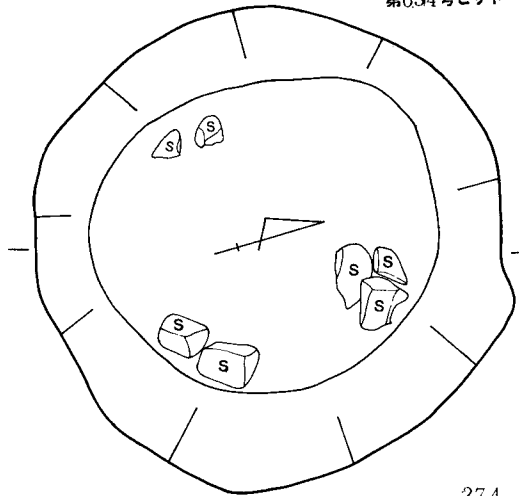


27-

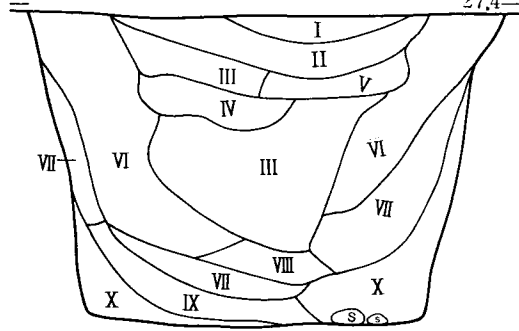


III

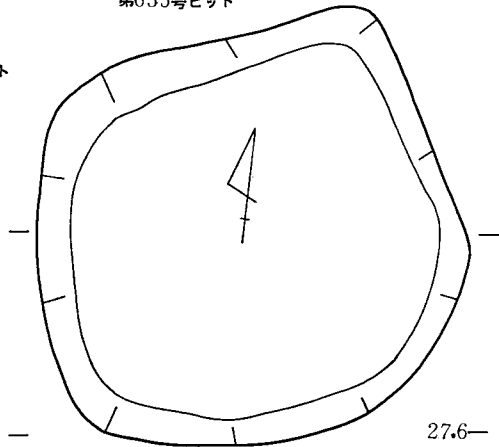
第634号ピット



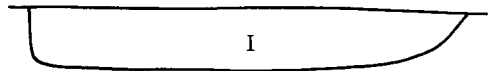
27.4-



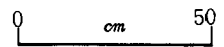
第635号ピット



27.6-

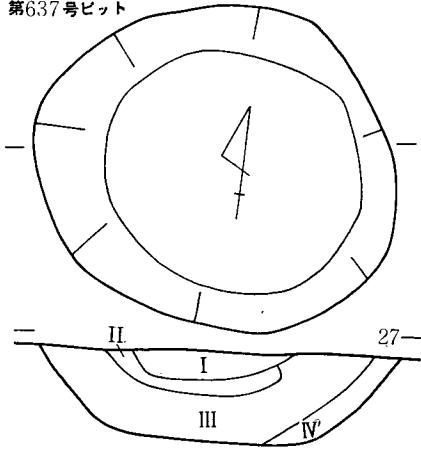


I

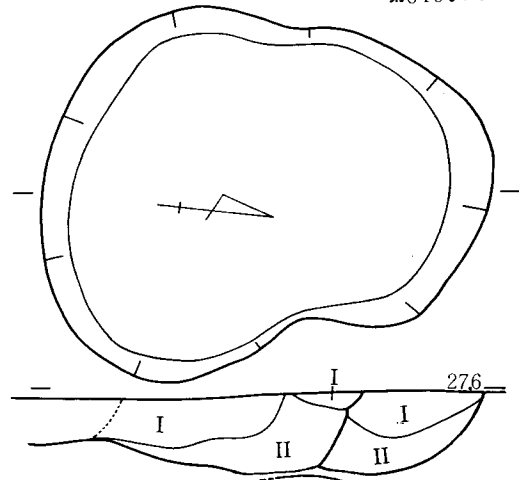


第104図 遺構実測図

第637号ビット

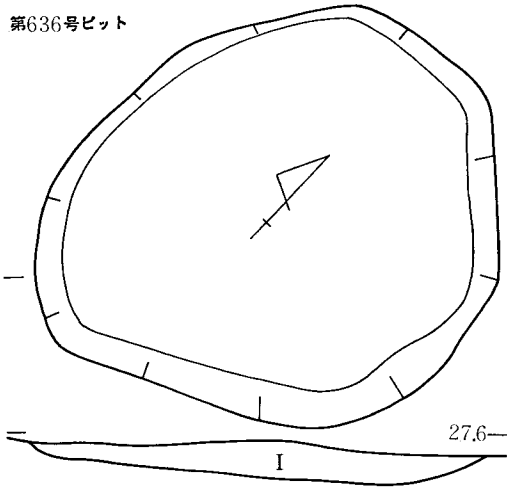


第639号ビット

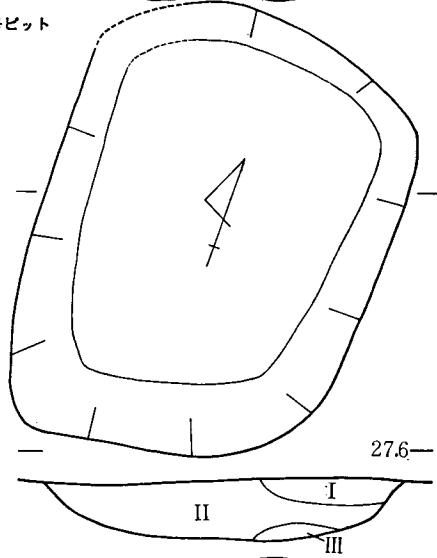


第640号ビット

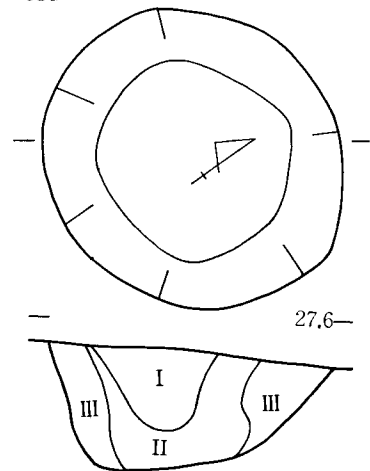
第636号ビット



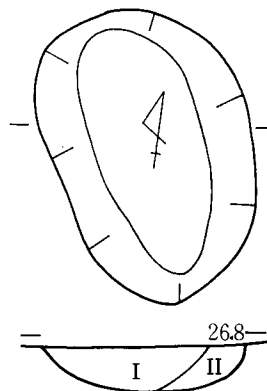
第641号ビット



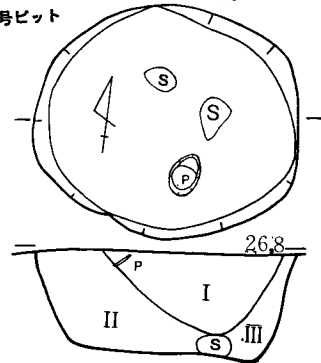
第638号ビット



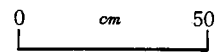
第642号ビット



第643号ビット

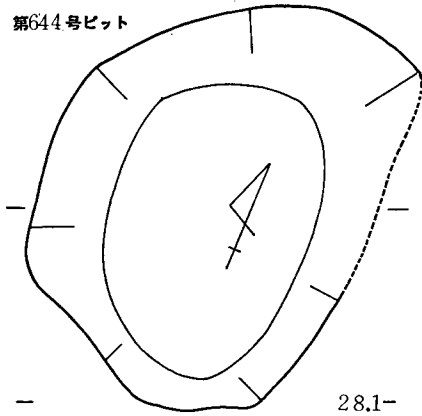


105

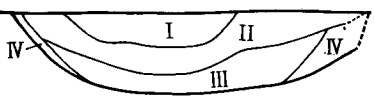


第105図 遺構実測図

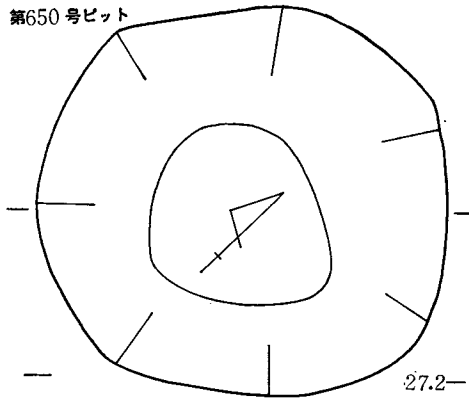
第644号ビット



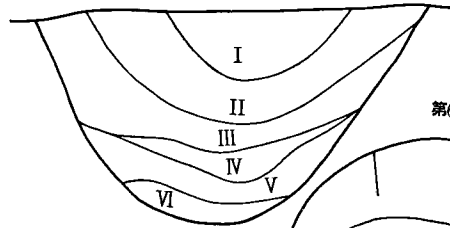
28.1-



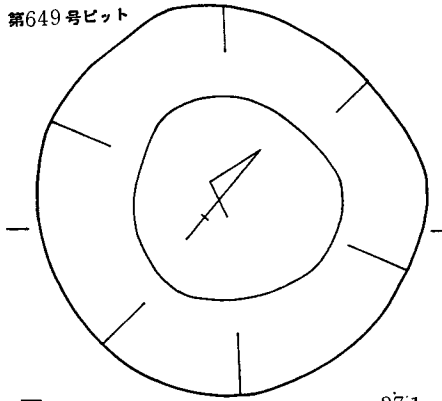
第650号ビット



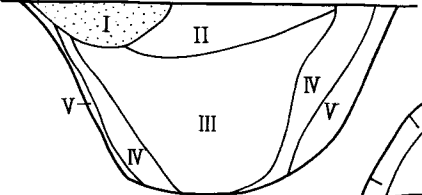
27.2-



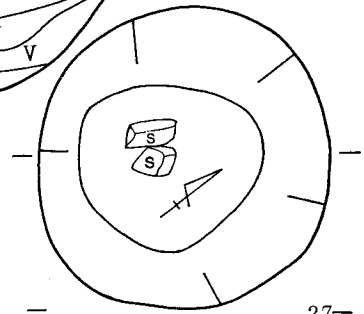
第649号ビット



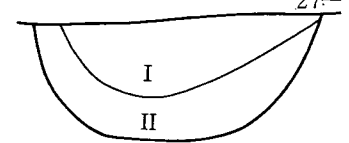
27.1-



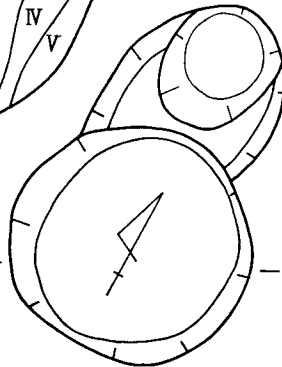
第651号ビット



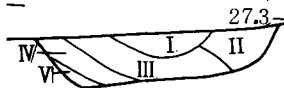
27-



第717号ビット

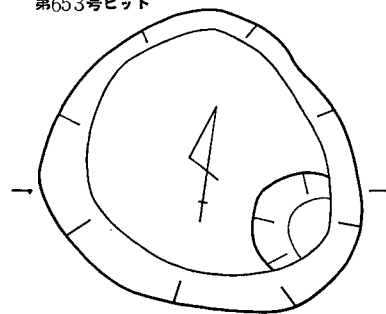


第652号ビット

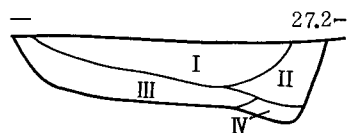


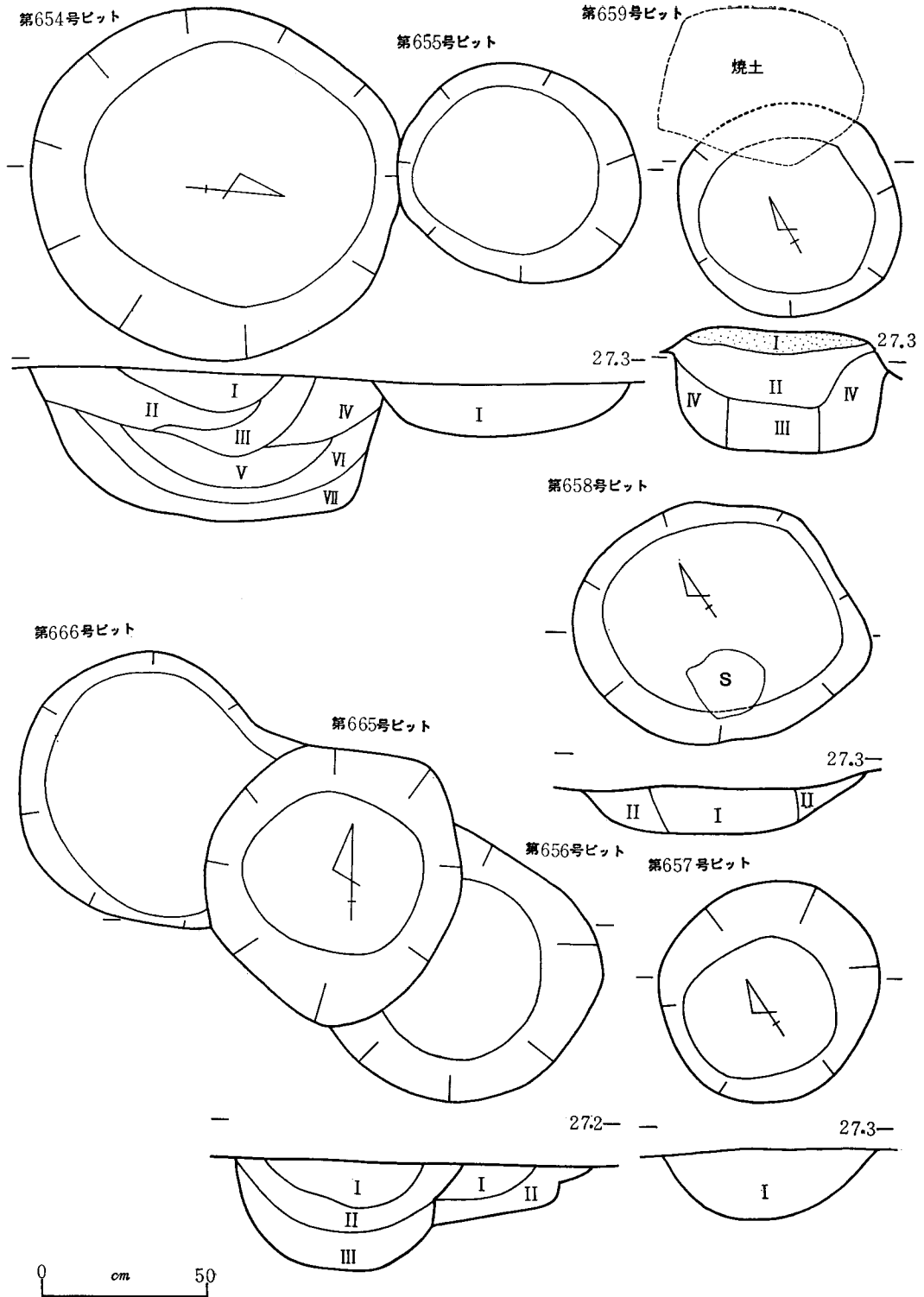
27.3-

第653号ビット

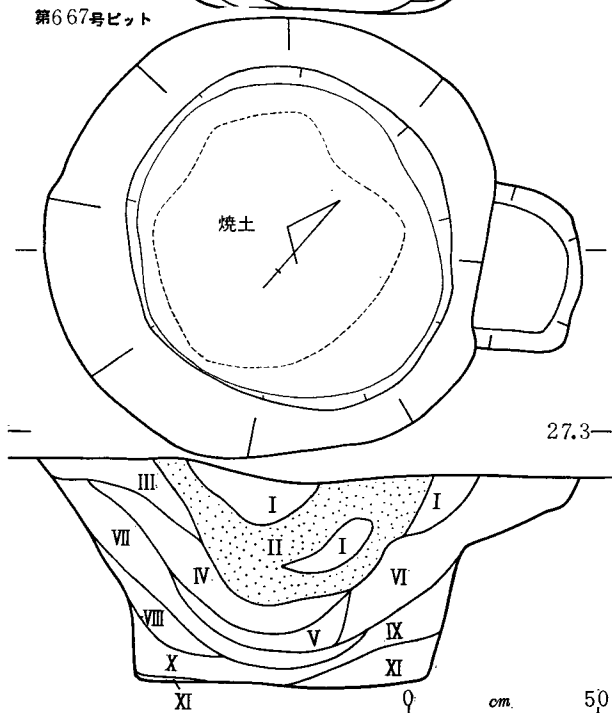
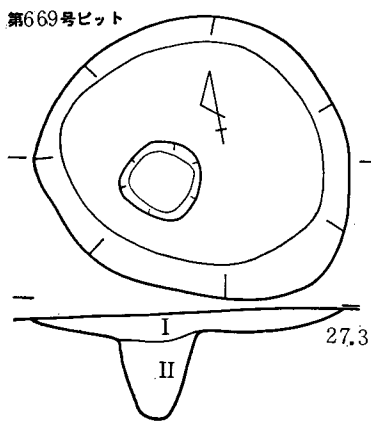
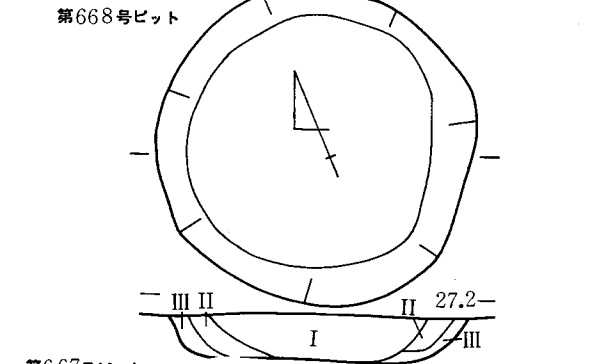
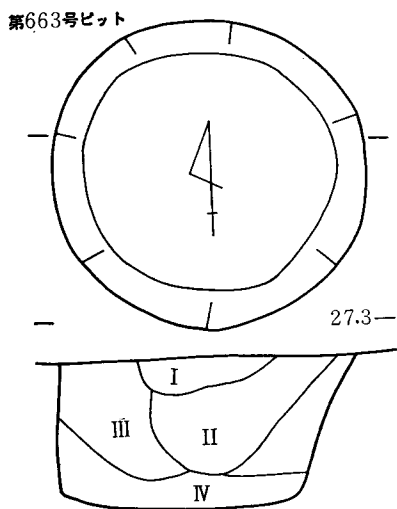
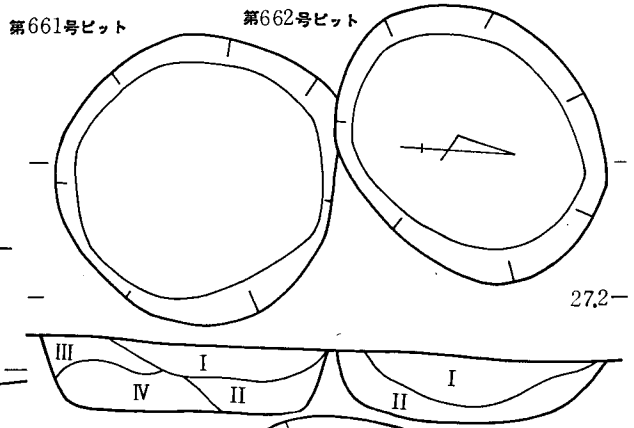
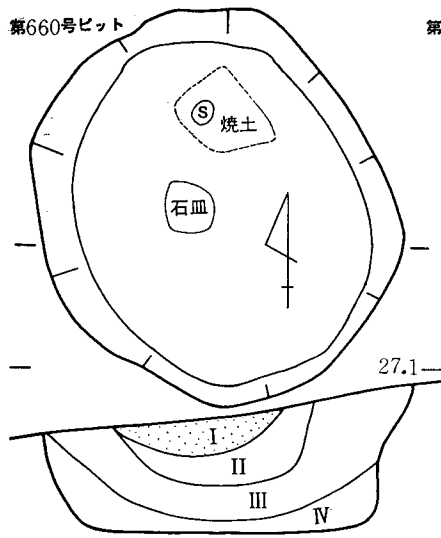


27.2-



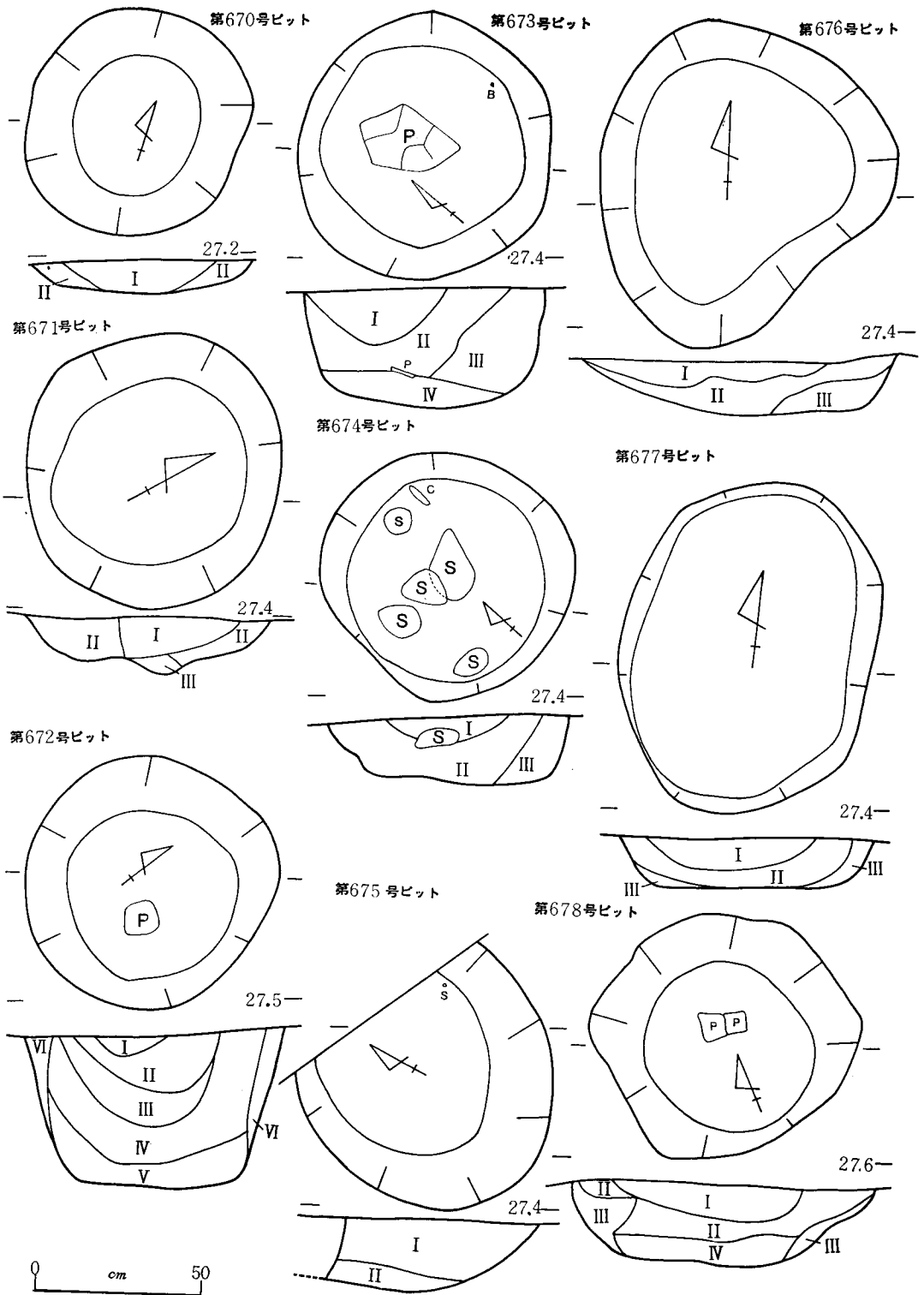


第107図 遺構実測図



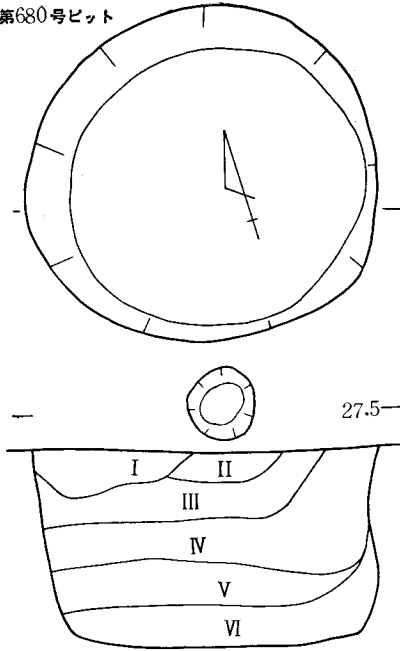
第108図 遺構実測図

0 cm 50

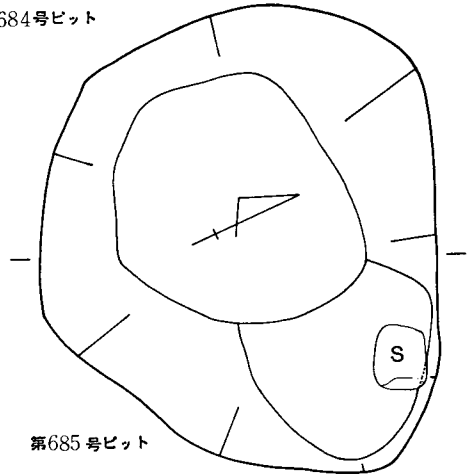


第109図 遺構実測図

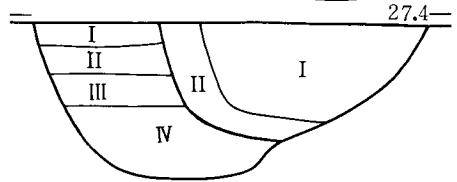
第680号ビット



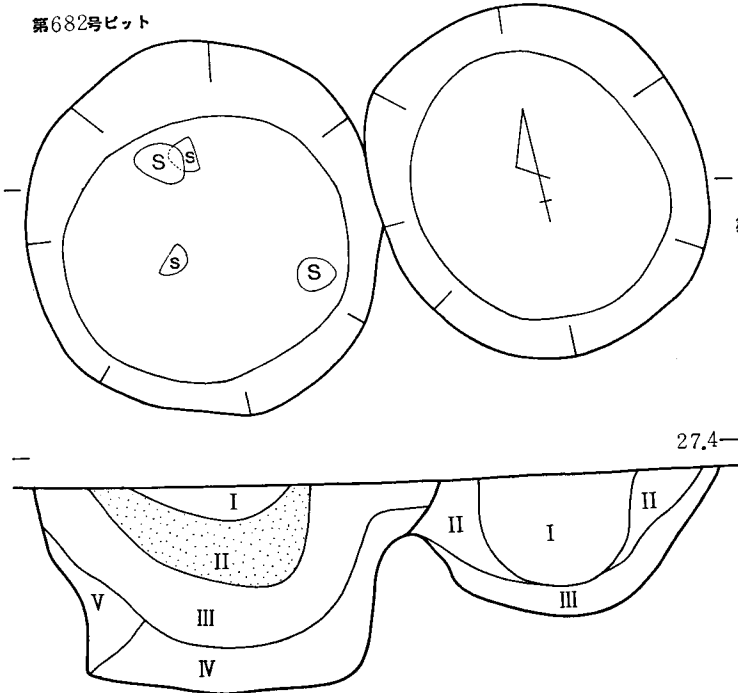
第684号ビット



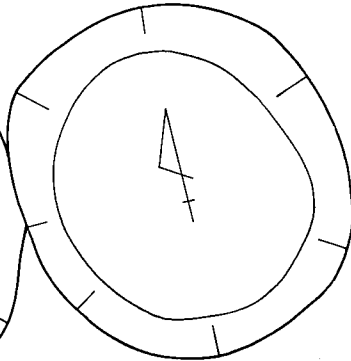
第685号ビット



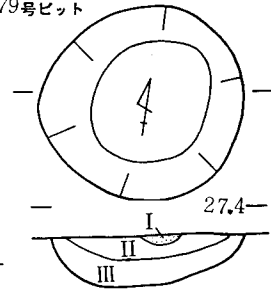
第682号ビット



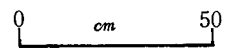
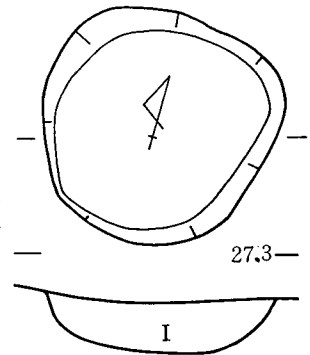
第683号ビット



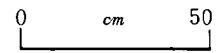
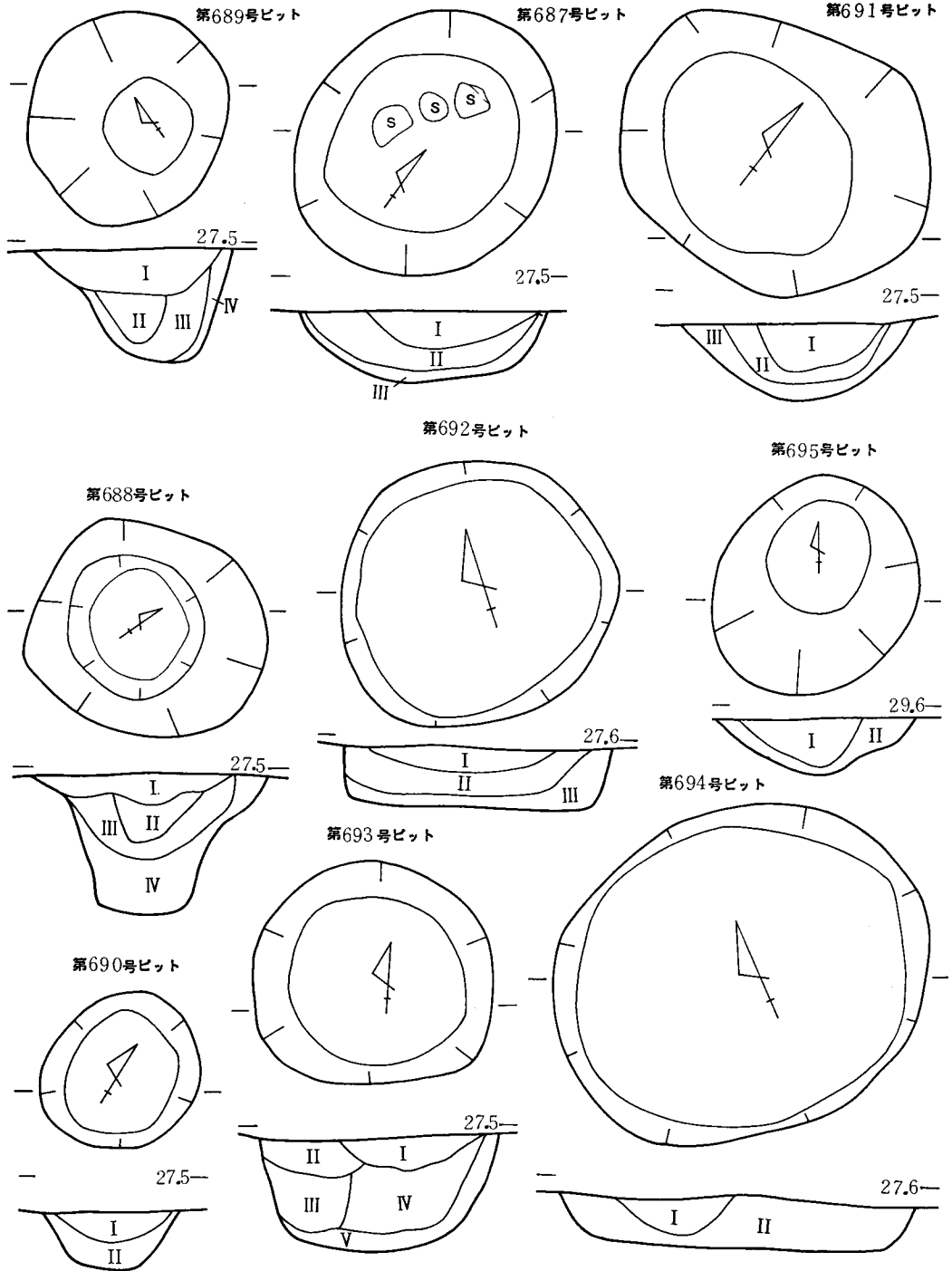
第679号ビット



第686号ビット

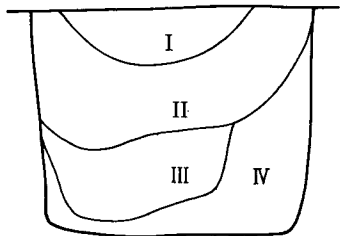
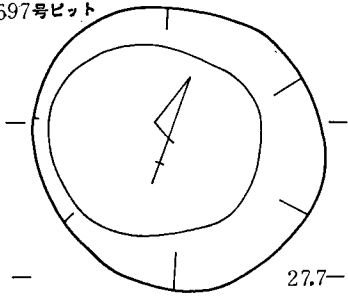


第110図 遺構実測図

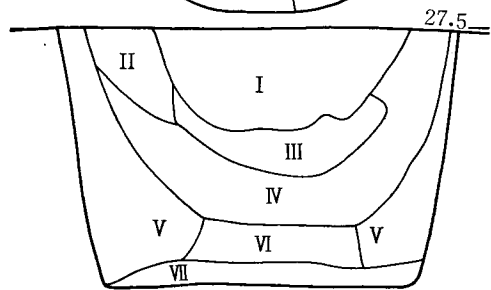
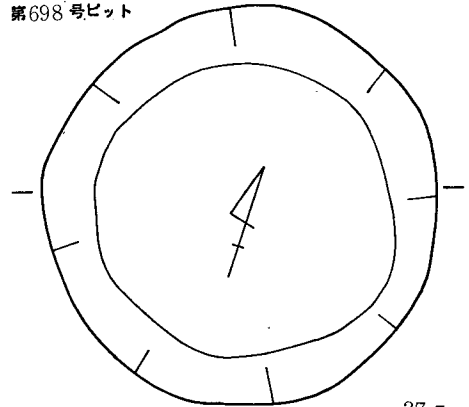


第111図 遺構実測図

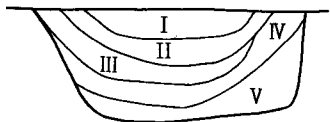
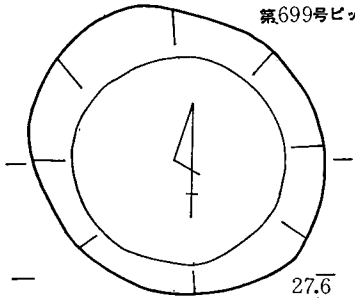
第697号ビット



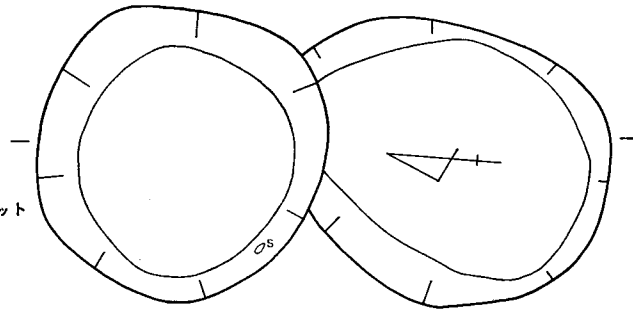
第698号ビット



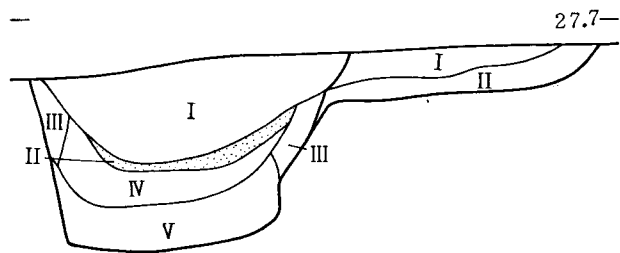
第699号ビット



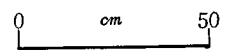
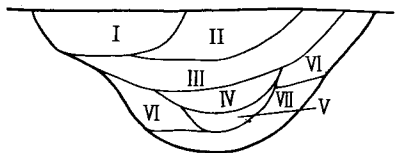
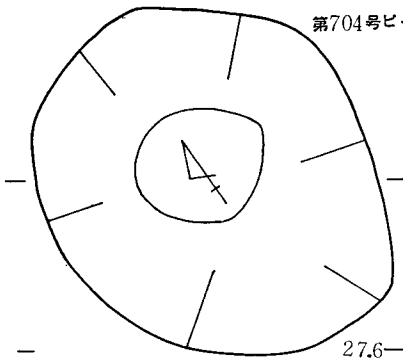
第702号ビット



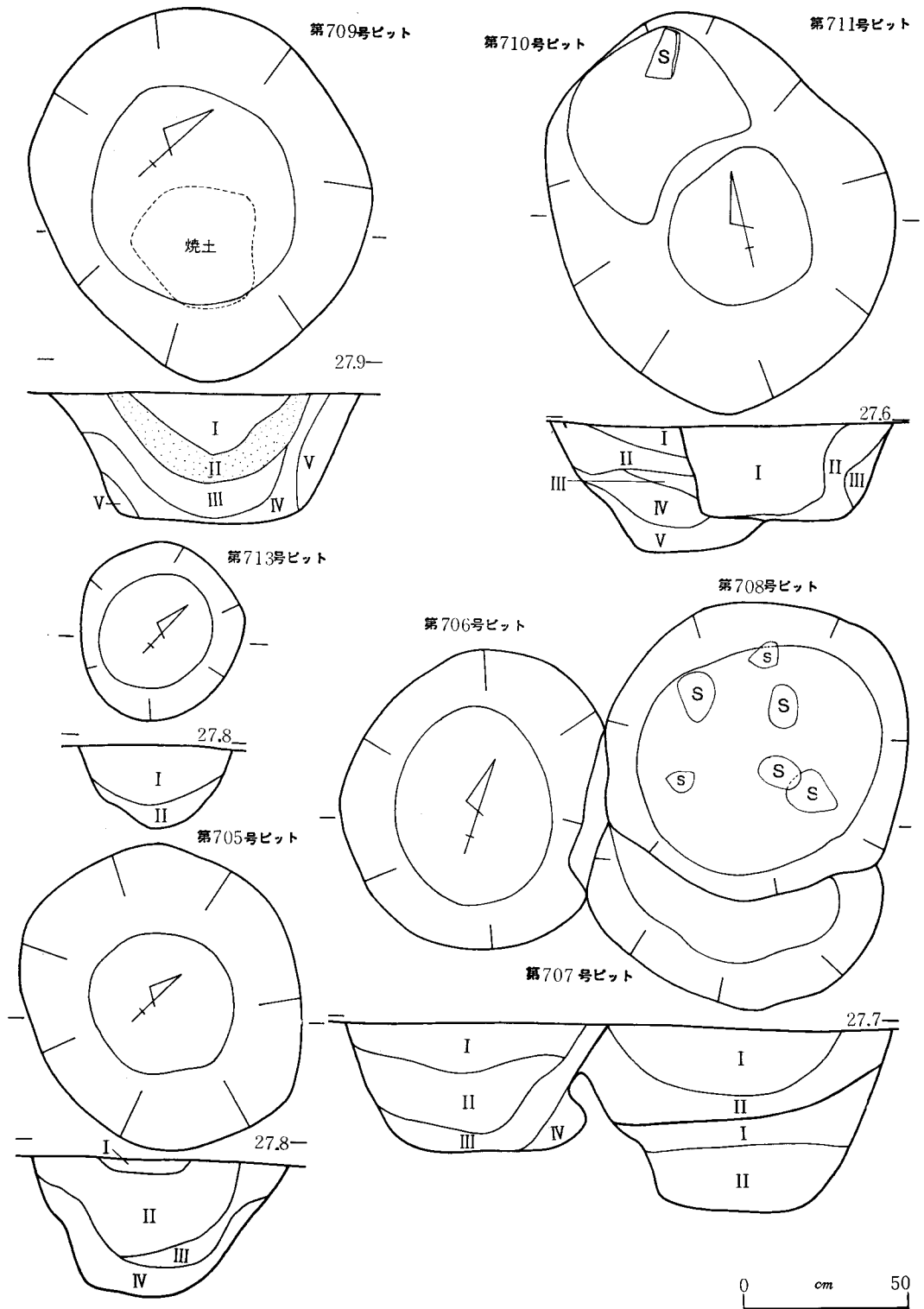
第703号ビット



第704号ビット

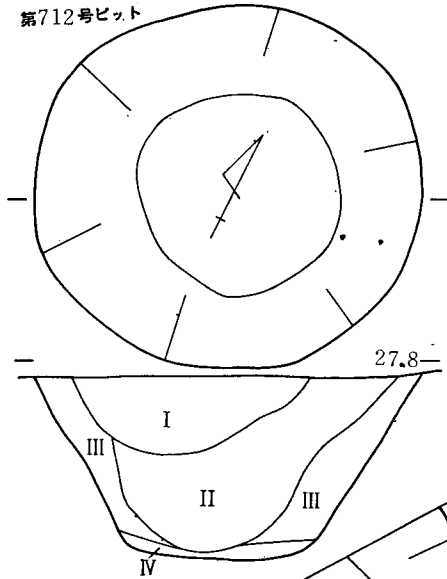


第112図 遺構実測図

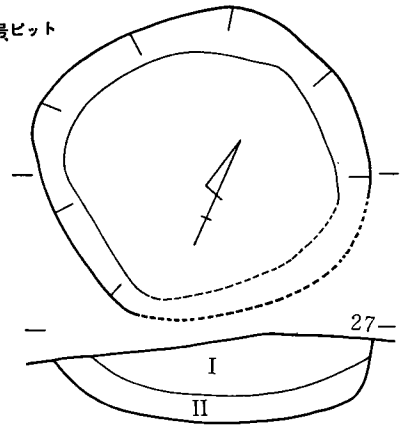


第113図 遺構実測図

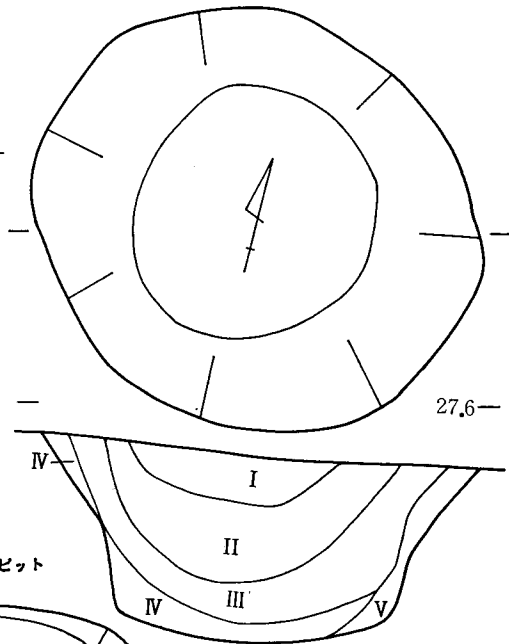
第712号ピット



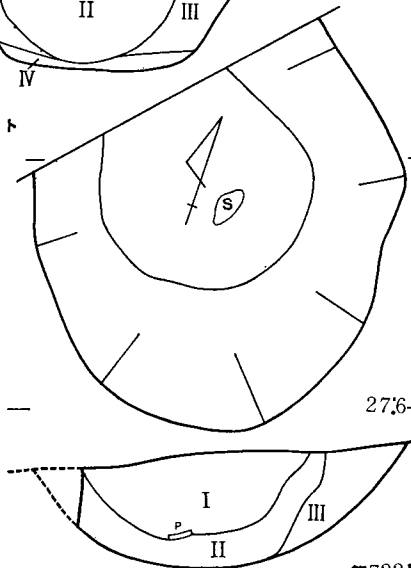
第715号ピット



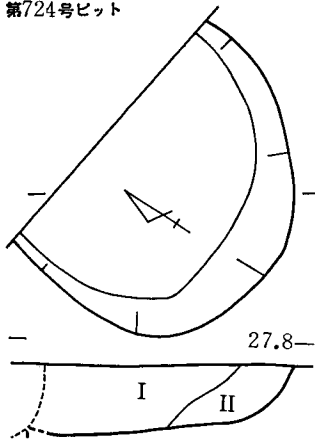
第718号ピット



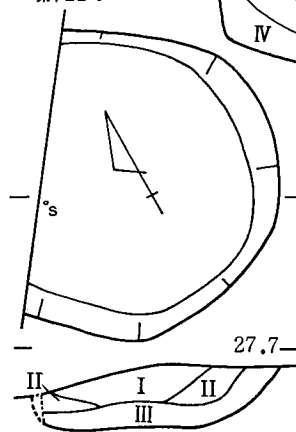
第716号ピット



第724号ピット

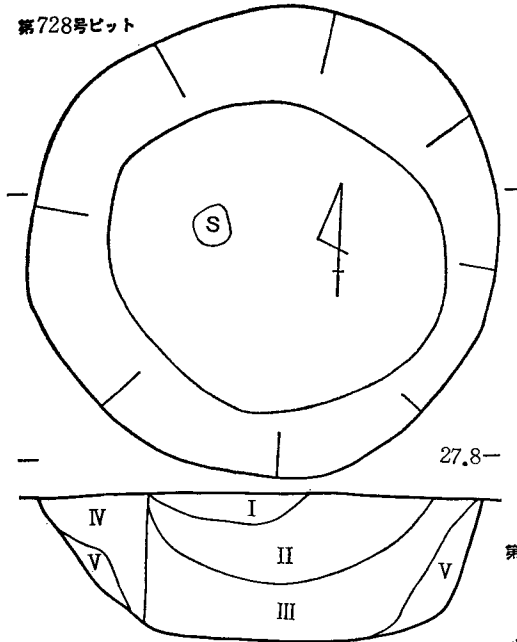


第722号ピット

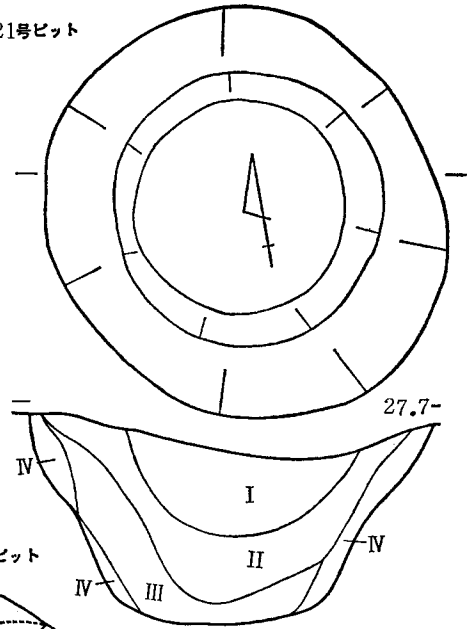


第114図 遺構実測図

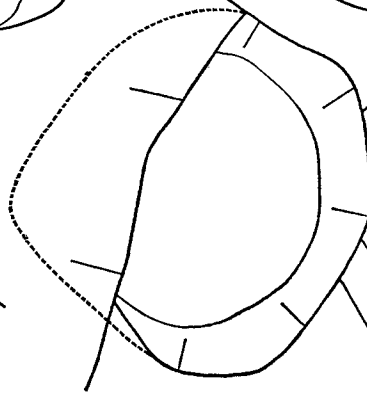
第728号ピット



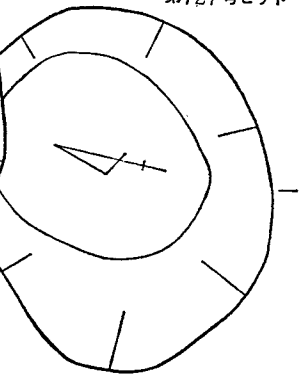
第721号ピット



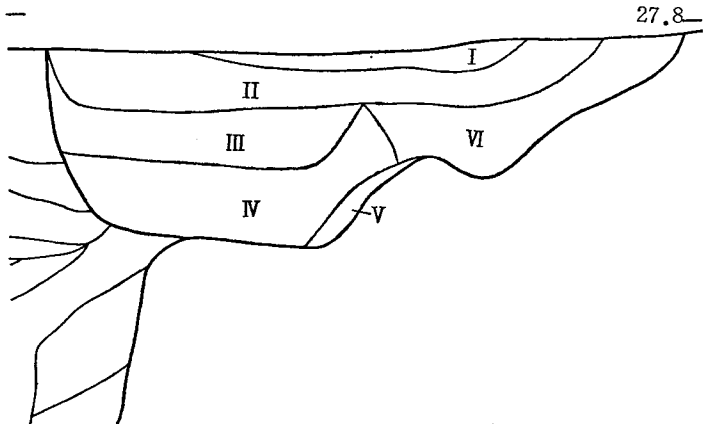
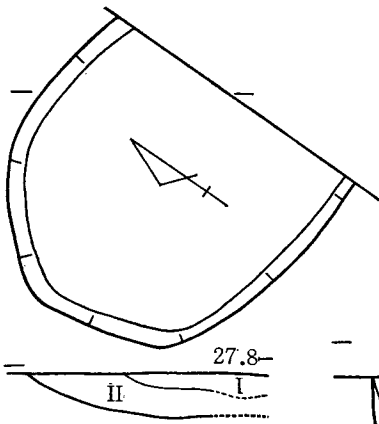
第726号ピット



第727号ピット

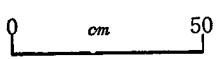
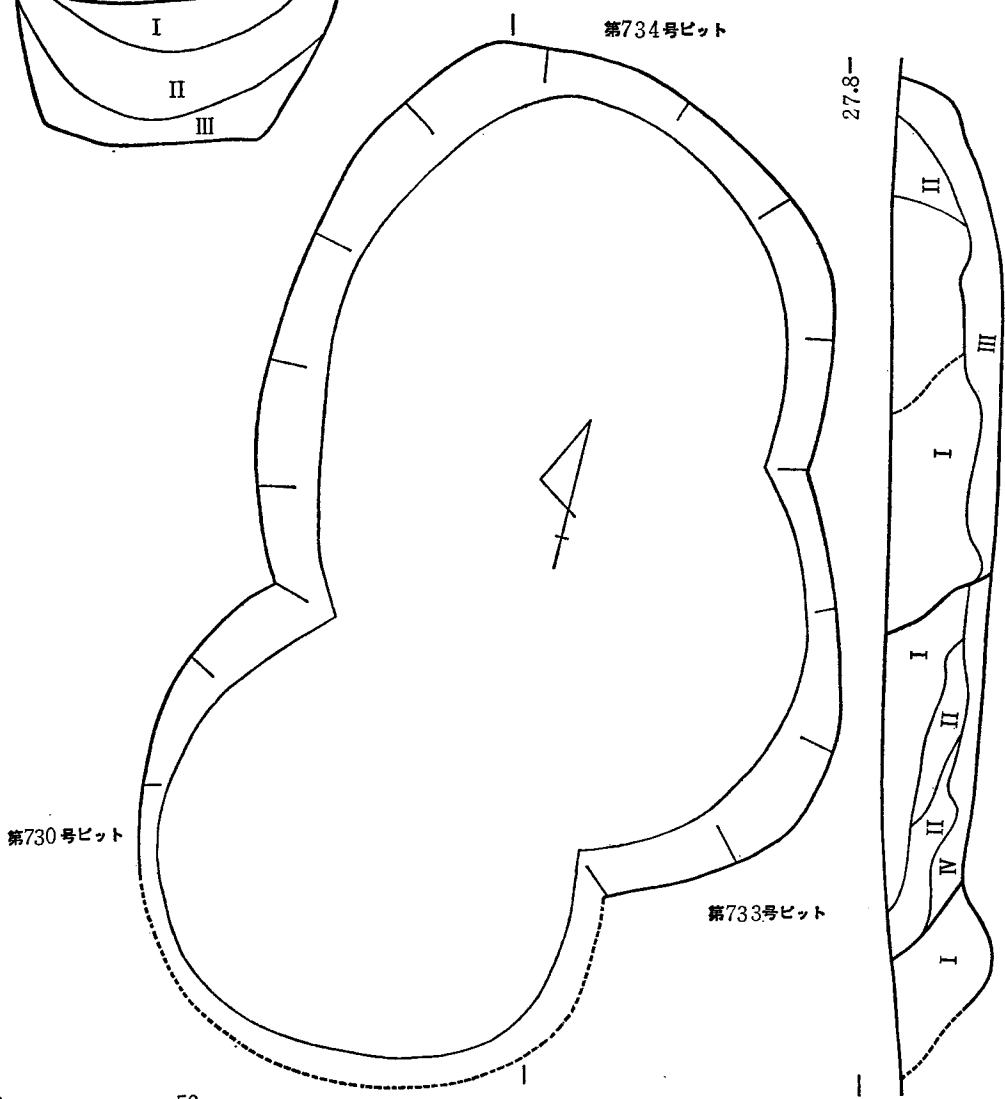
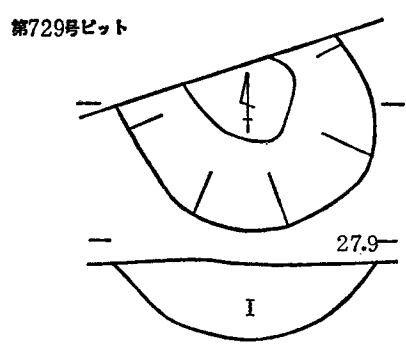
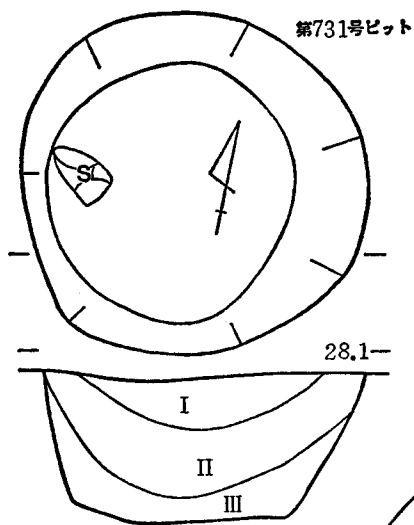


第723号ピット



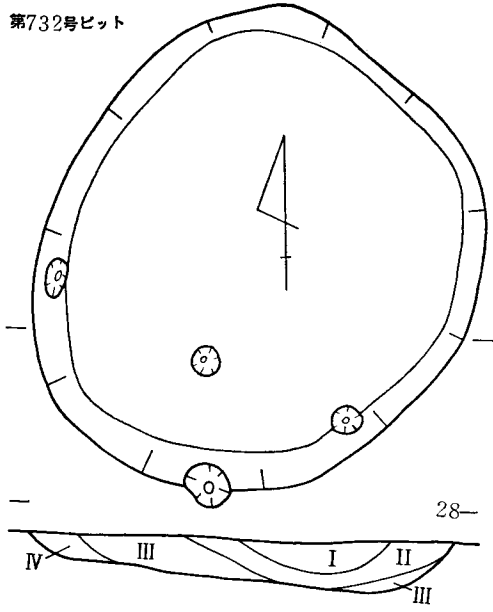
0 cm 50

第115図 遺構実測図

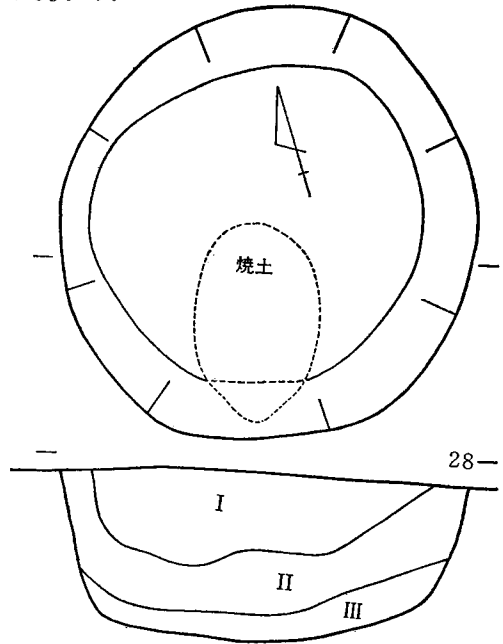


第116図 遺構実測図

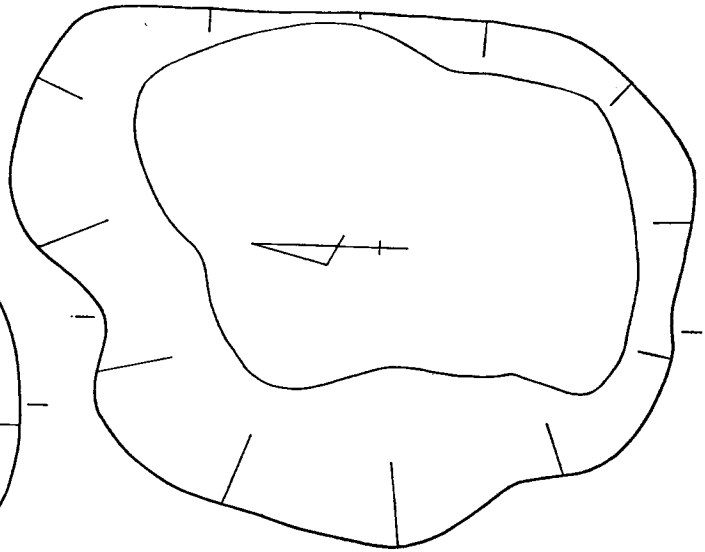
第732号ピット



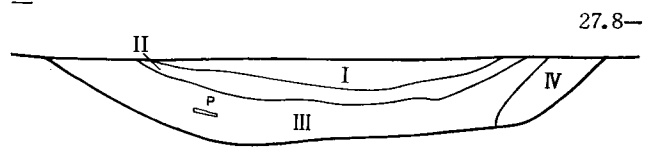
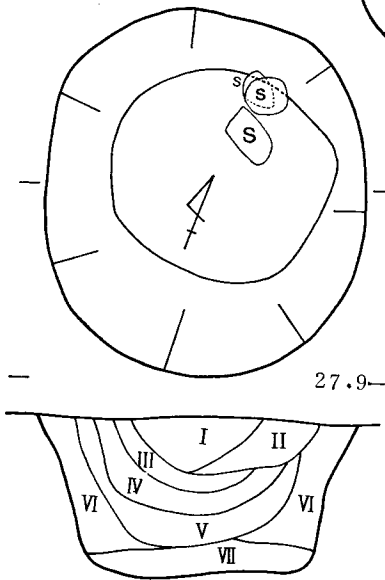
第736号ピット



第735号ピット



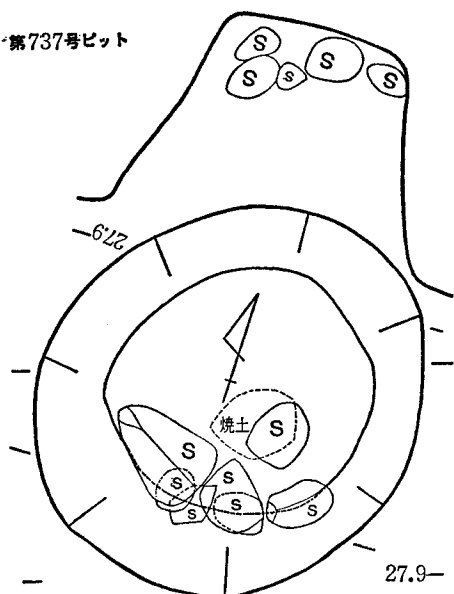
第738号ピット



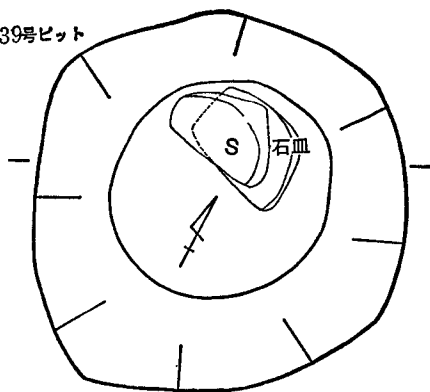
0 cm 50

第117図 遺構実測図

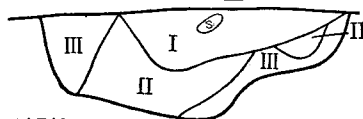
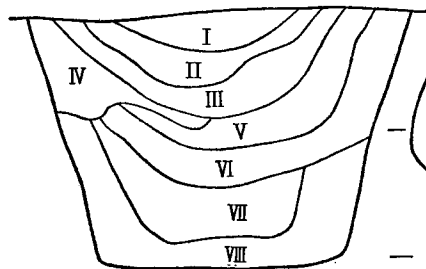
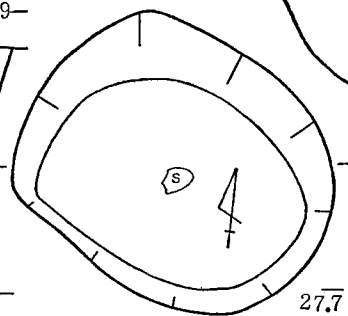
第737号ピット



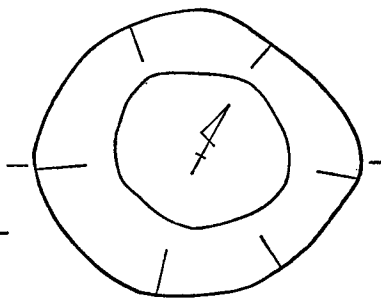
第739号ピット



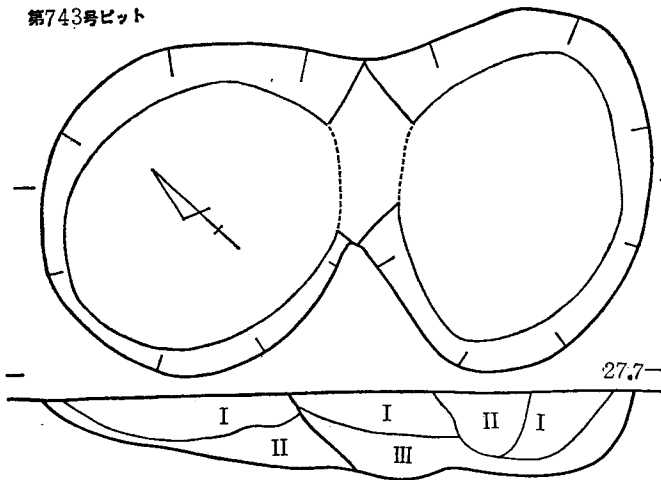
第740号ピット



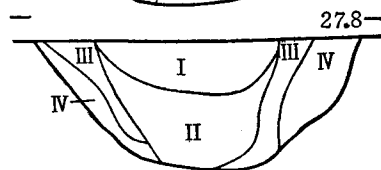
第741号ピット



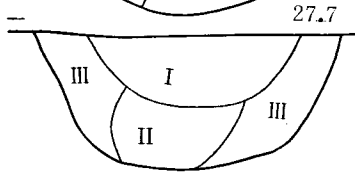
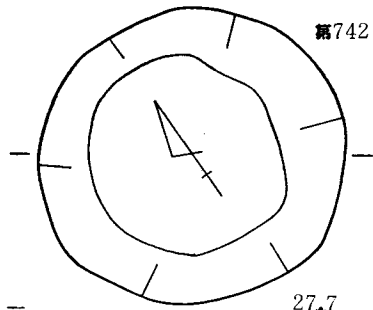
第743号ピット



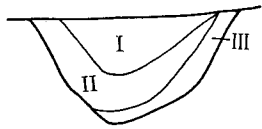
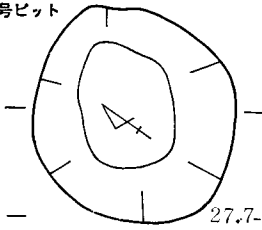
第744号ピット



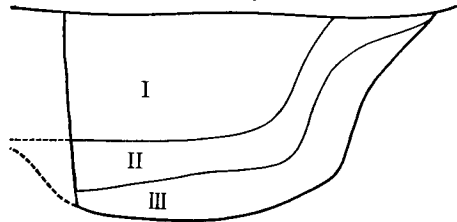
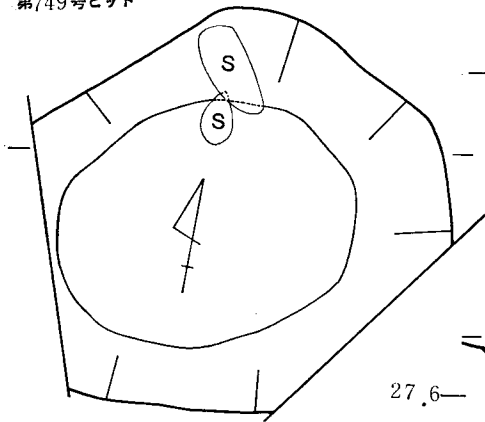
第118図 遺構実測図



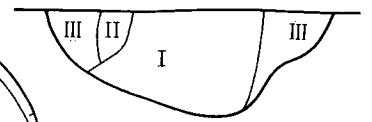
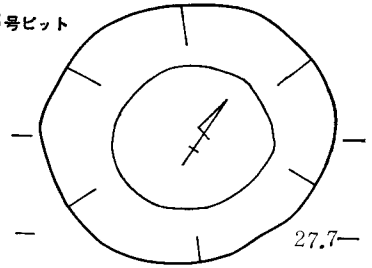
第745号ピット



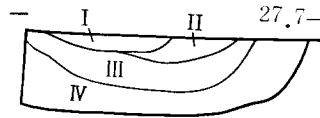
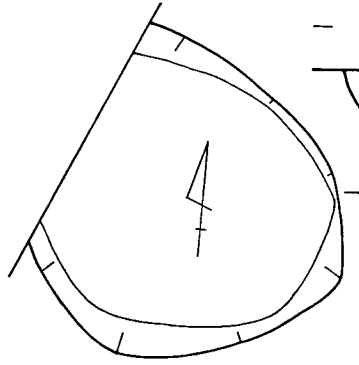
第749号ピット



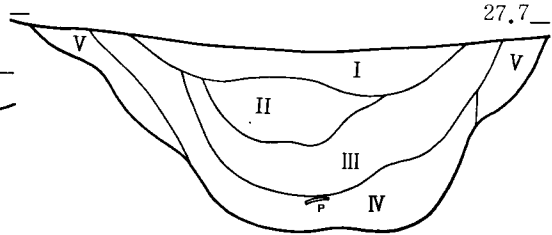
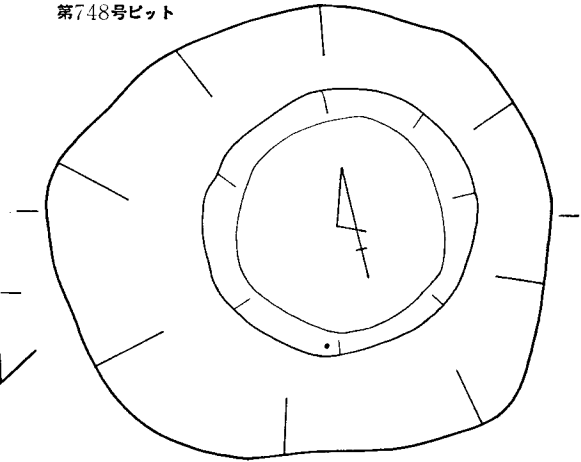
第746号ピット



第747号ピット



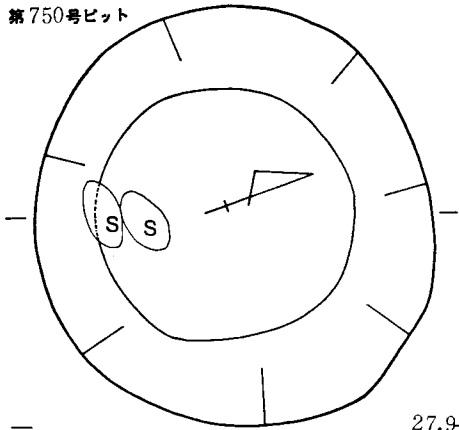
第748号ピット



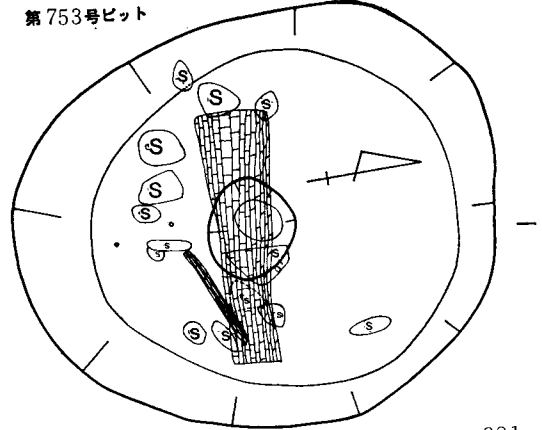
0 cm 50

第119図 遺構実測図

第750号ピット

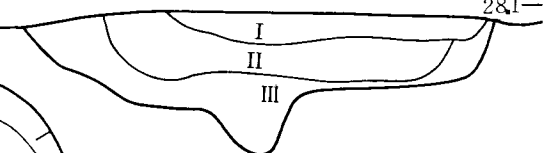
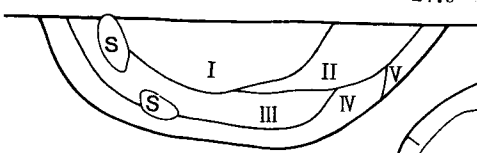


第753号ピット

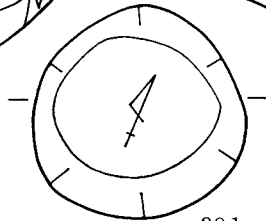


27.9-

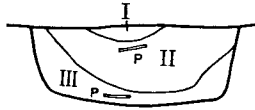
28.1-



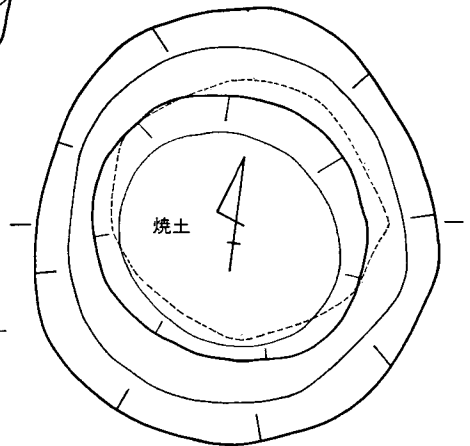
第754号ピット



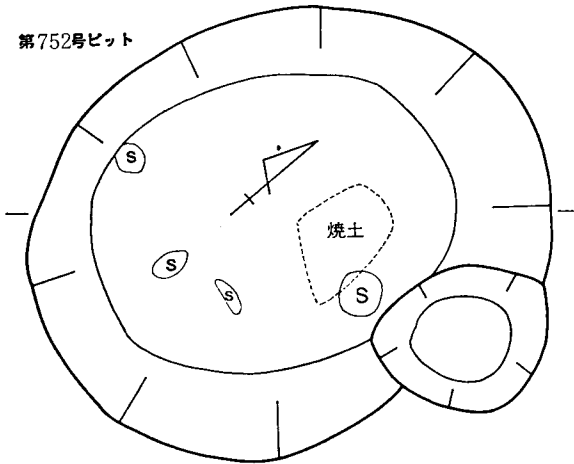
28.1-



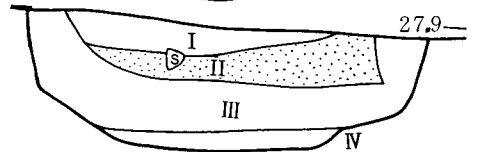
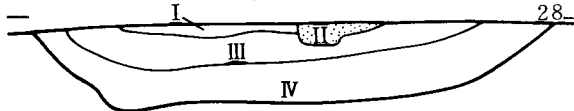
第756号ピット



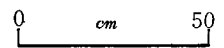
第752号ピット



28-

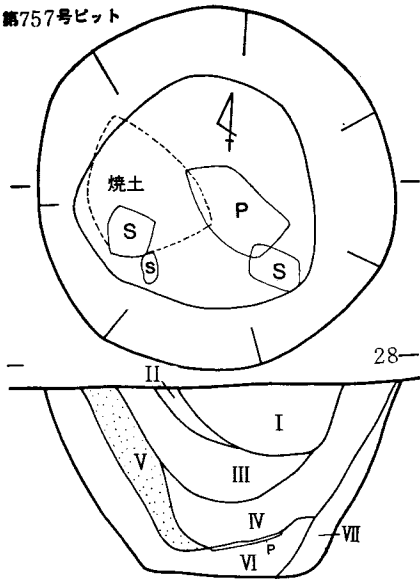


27.9-

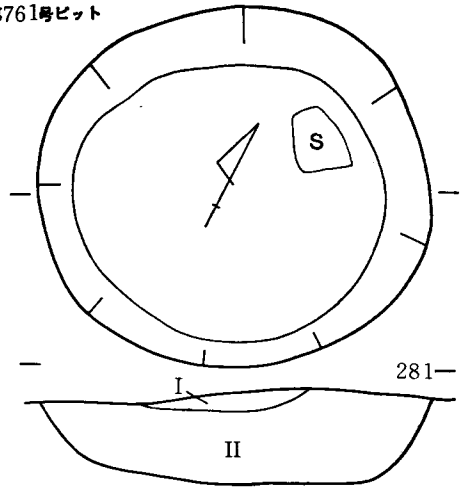


第120図 遺構実測図

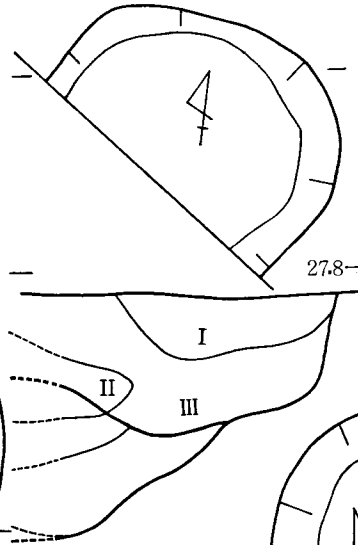
第757号ピット



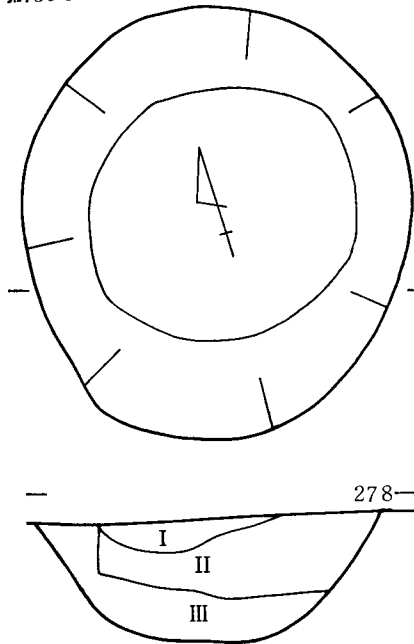
第761号ピット



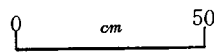
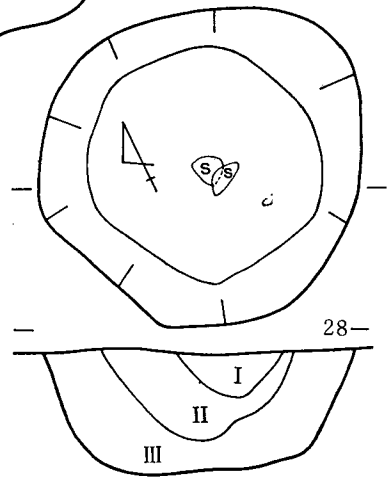
第758号ピット



第759号ピット

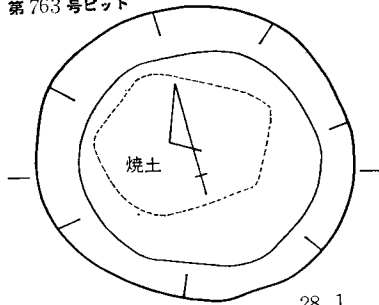


第760号ピット

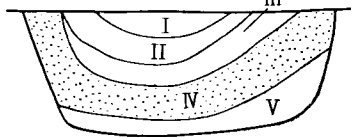


第121図 遺構実測図

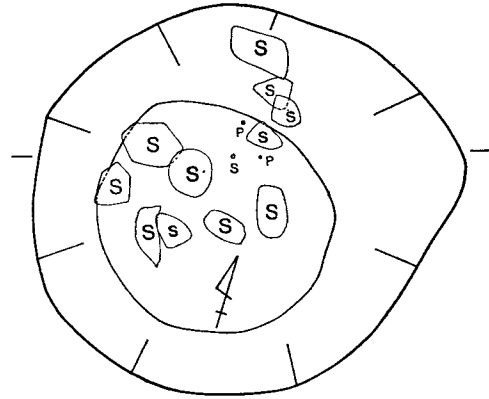
第763号ピット



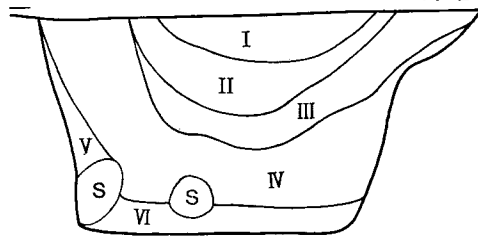
28.1



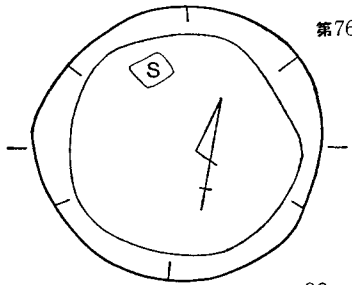
第762号ピット



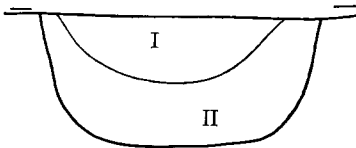
27.9



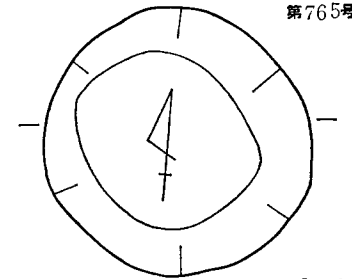
第764号ピット



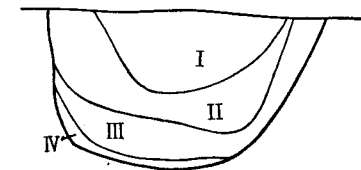
28



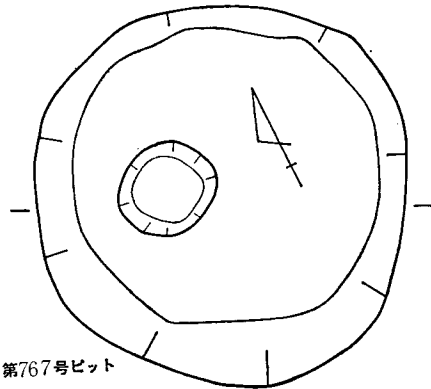
第765号ピット



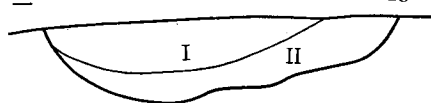
27.9



第767号ピット



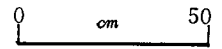
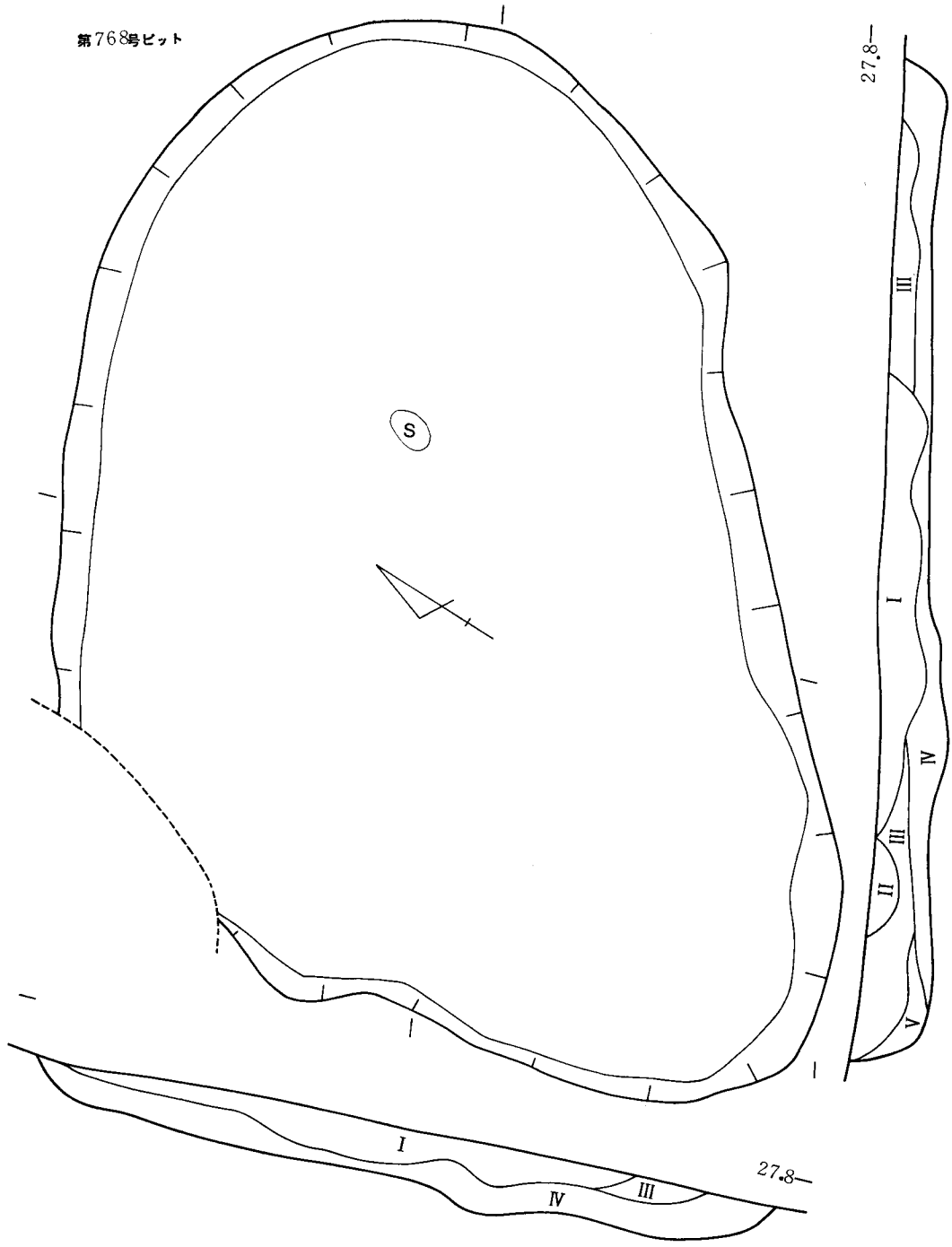
28



0 cm 50

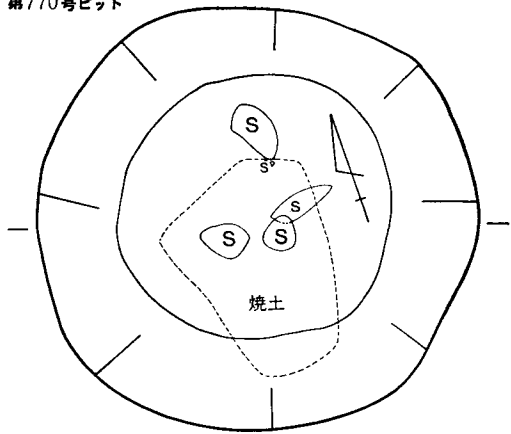
第122図 遺構実測図

第768号ピット

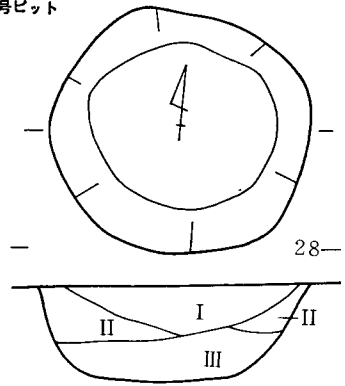


第123図 遺構実測図

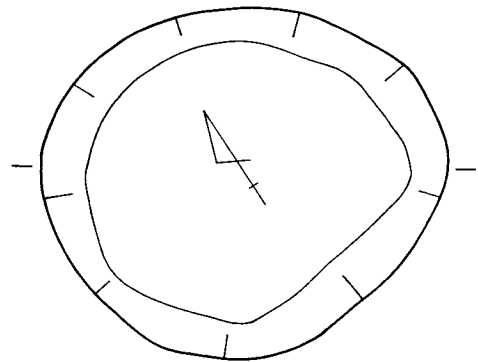
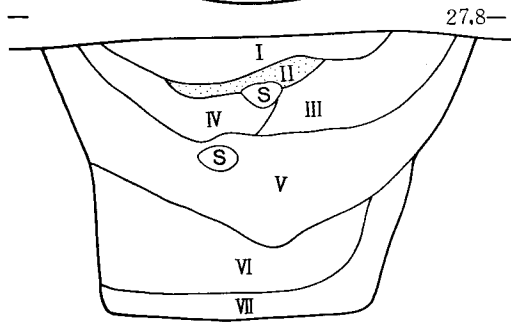
第770号ピット



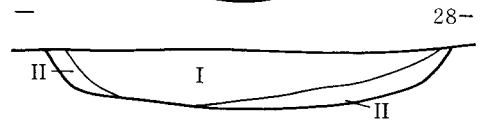
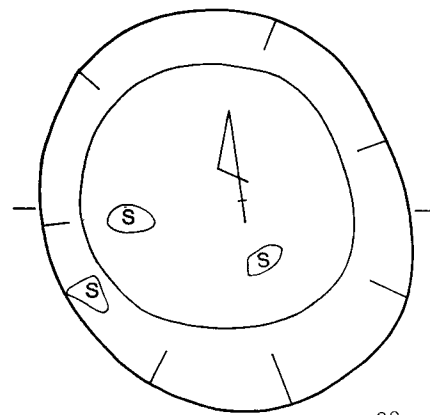
第772号ピット



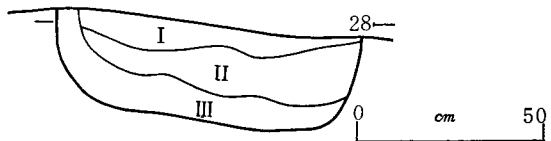
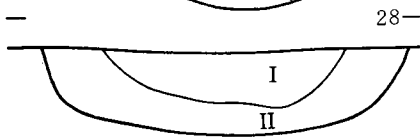
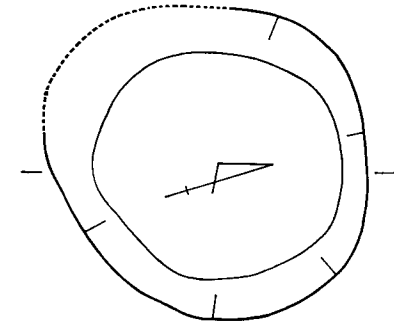
第775号ピット



第774号ピット

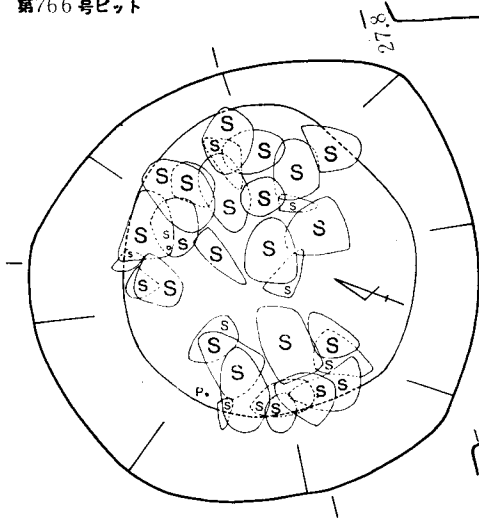


第776号ピット

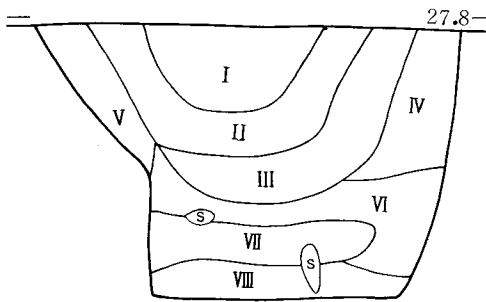
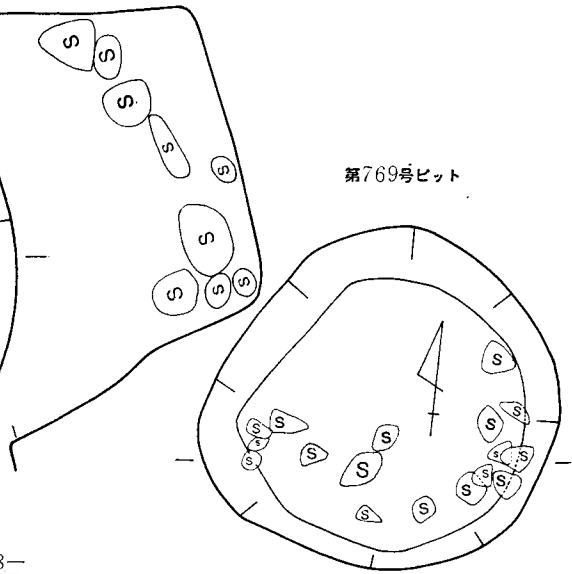


第124図 遺構実測図

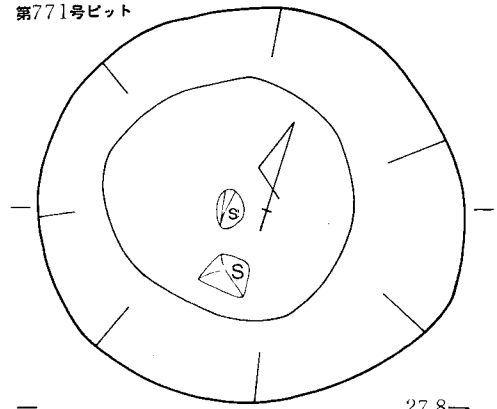
第766号ピット



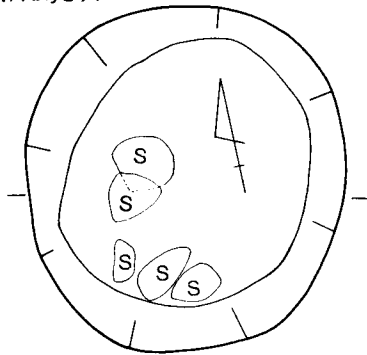
第769号ピット



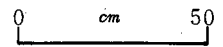
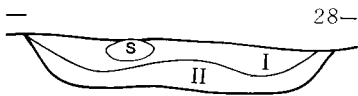
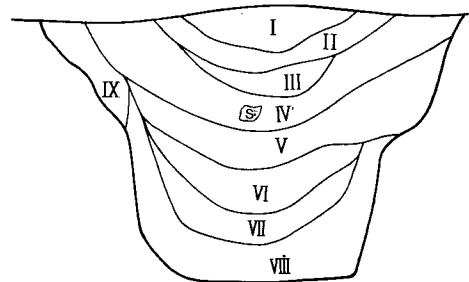
第771号ピット



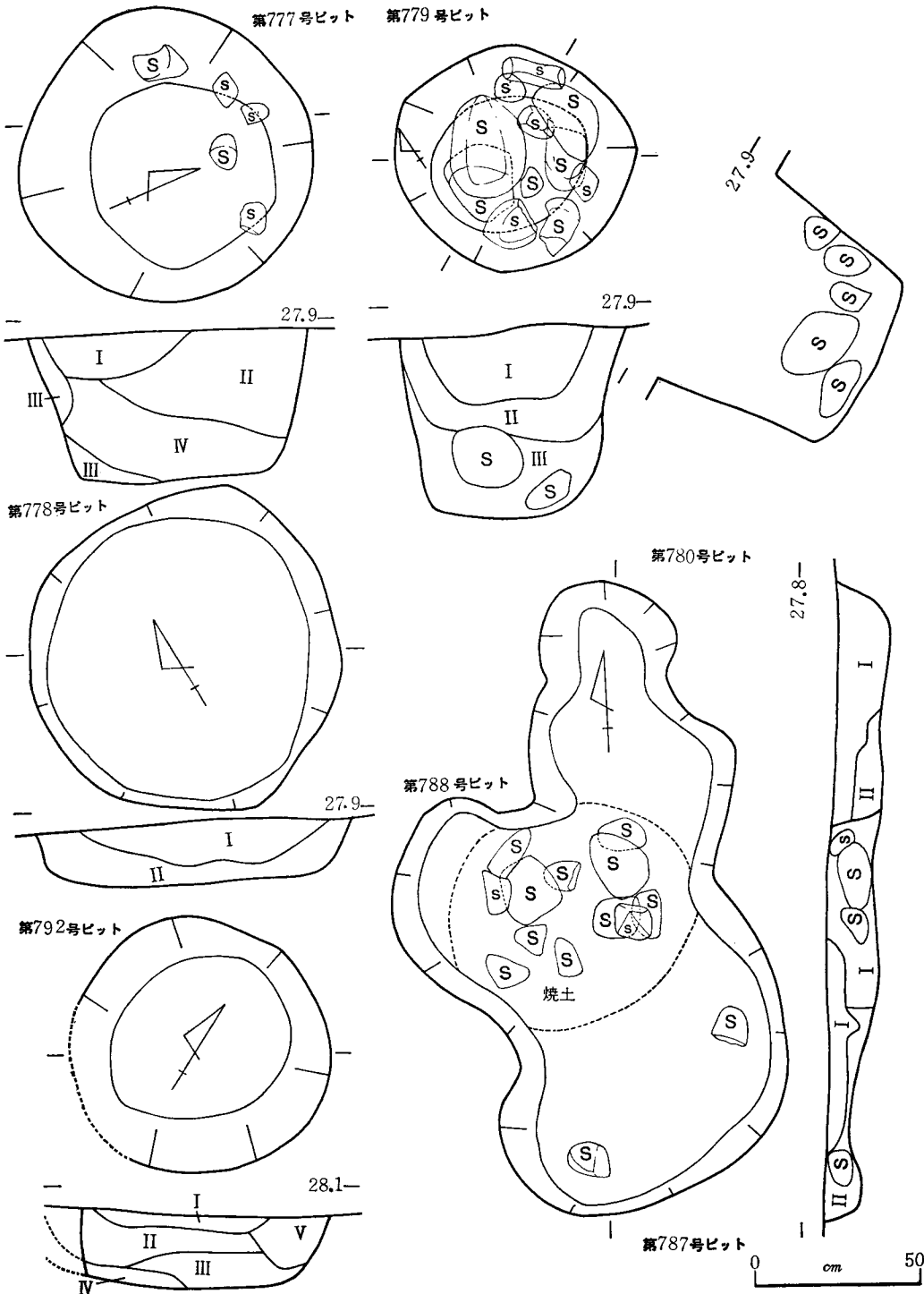
第773号ピット



27.8-

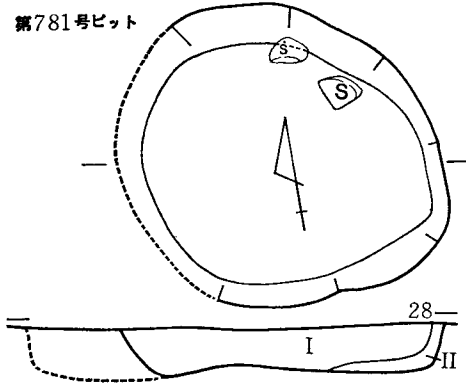


第125図 遺構実測図

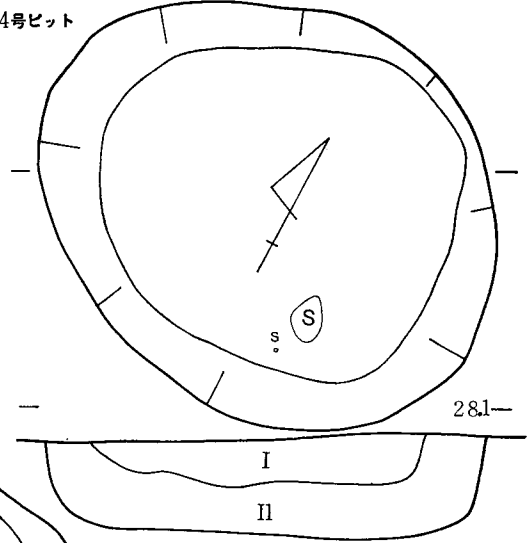


第126図 遺構実測図

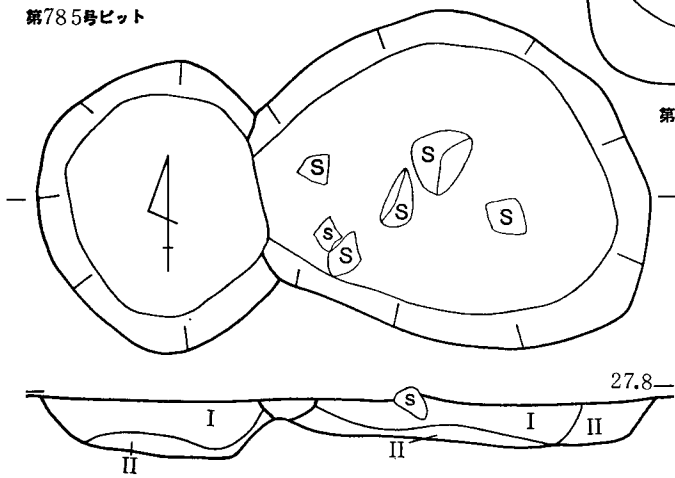
第781号ピット



第784号ピット

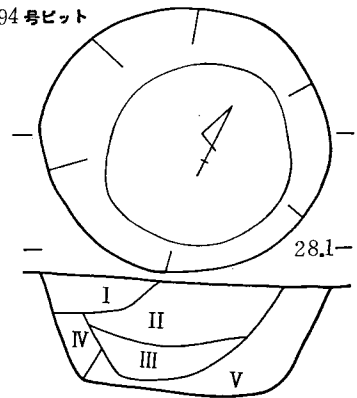


第785号ピット

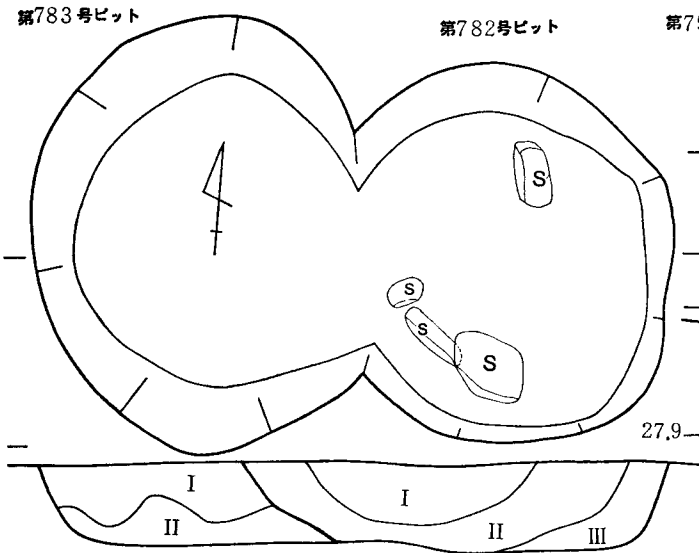


第786号ピット

第794号ピット

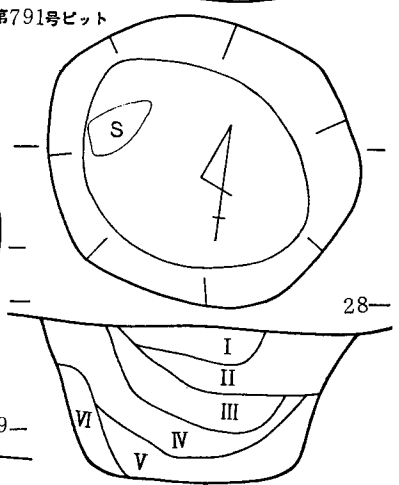


第783号ピット



第782号ピット

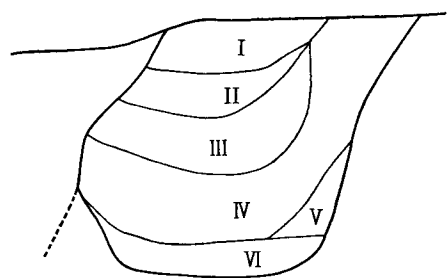
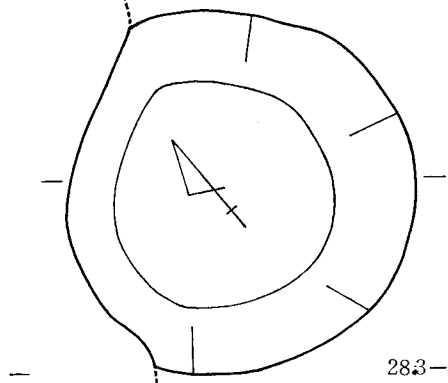
第791号ピット



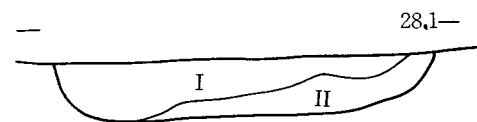
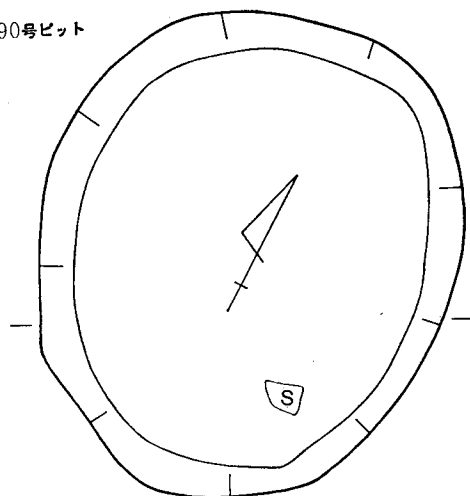
0 cm 50

第127図 遺構実測図

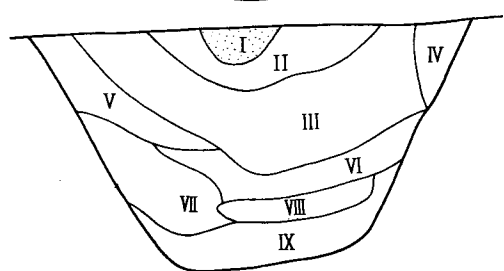
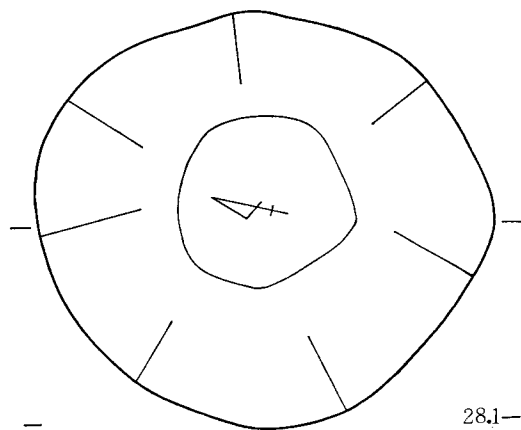
第789号ピット



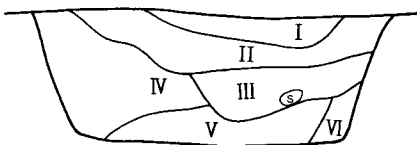
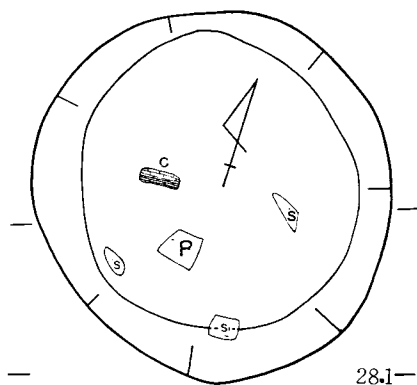
第790号ピット



第793号ピット

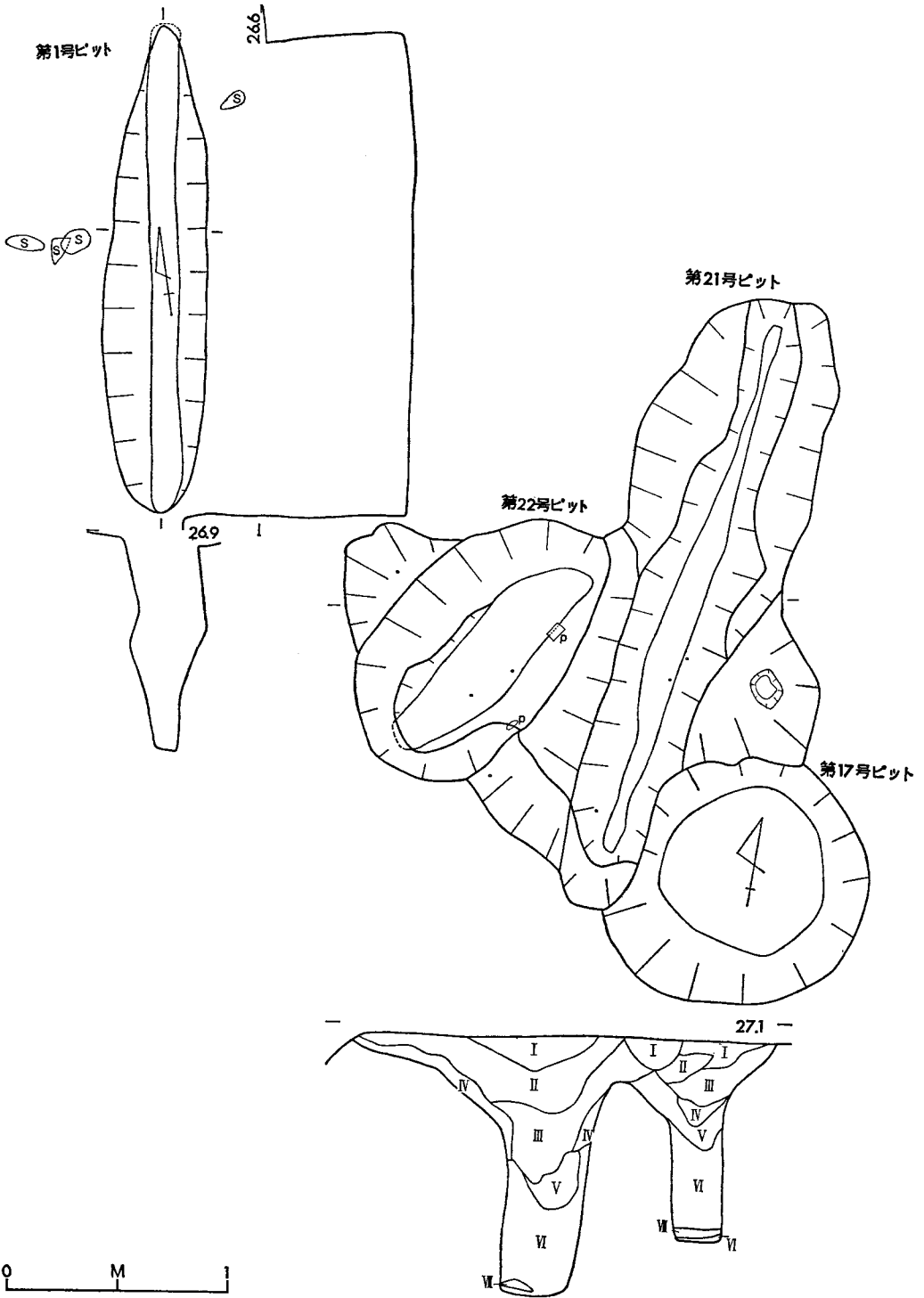


第795号ピット

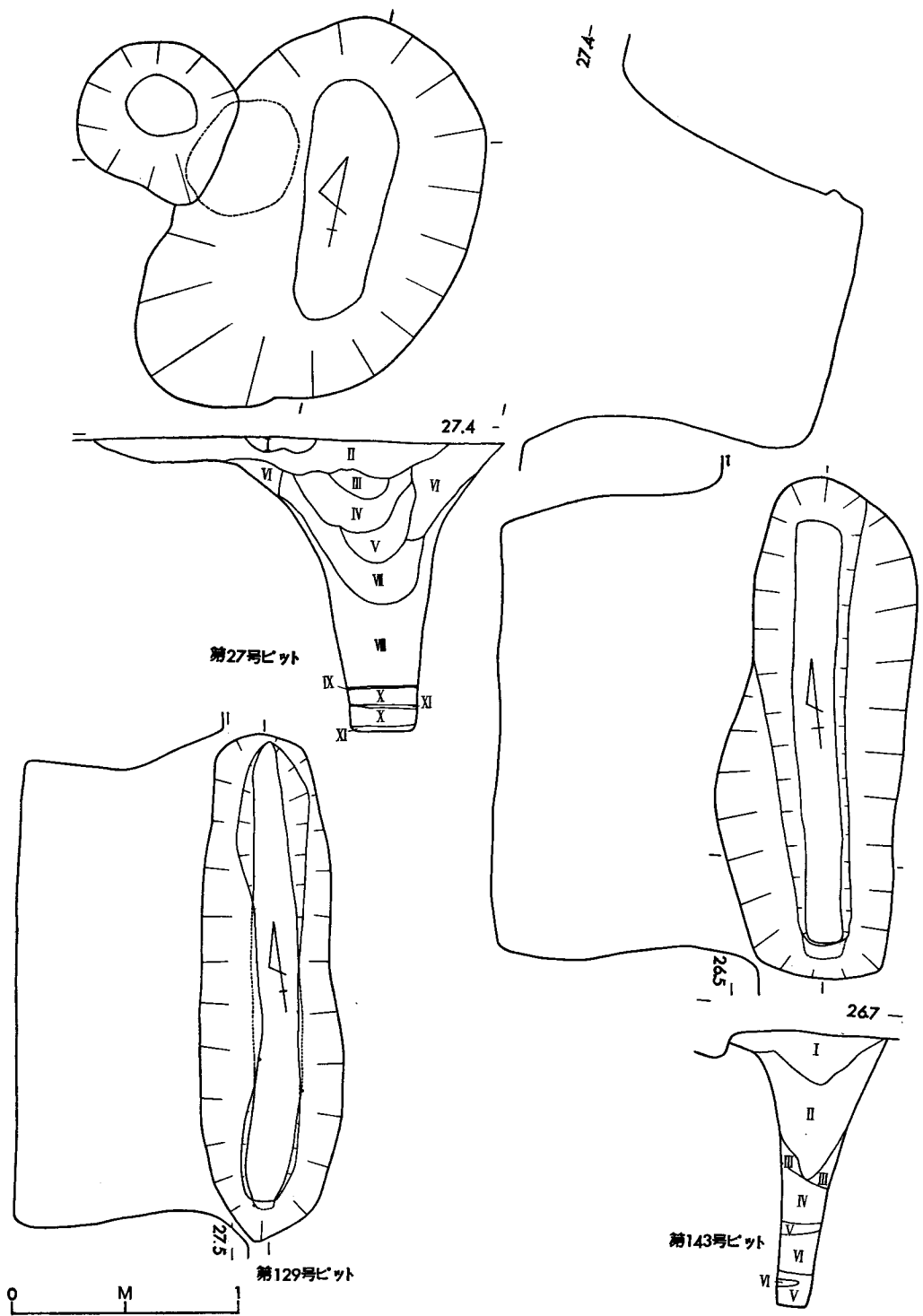


0 cm 50

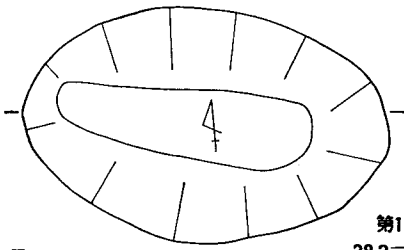
第128図 遺構実測図



第129図 遺構実測図

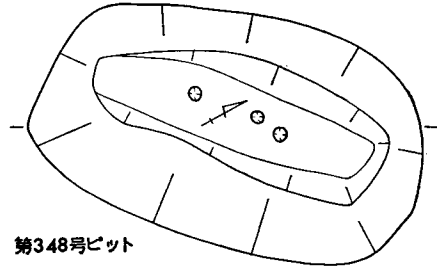


第130図 遺構実測図



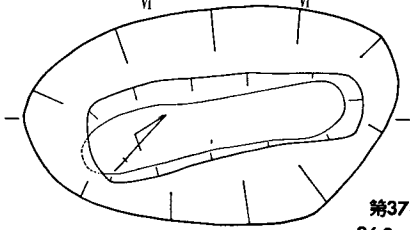
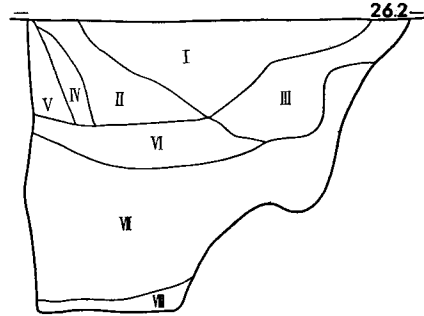
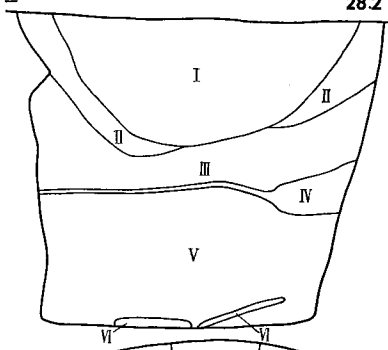
第123号ピット

28.2



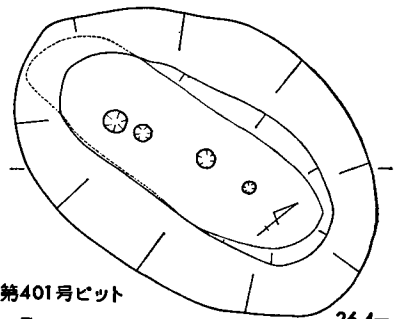
第348号ピット

26.2



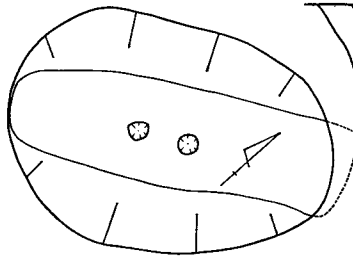
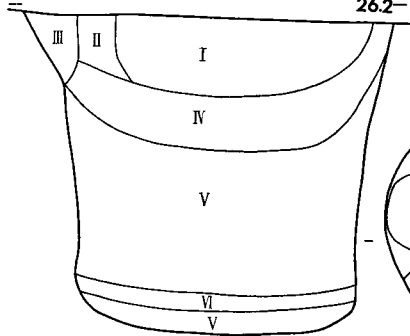
第376号ピット

26.2



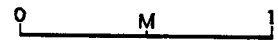
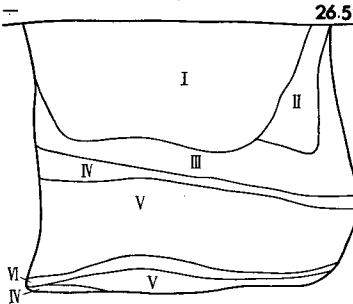
第401号ピット

26.4

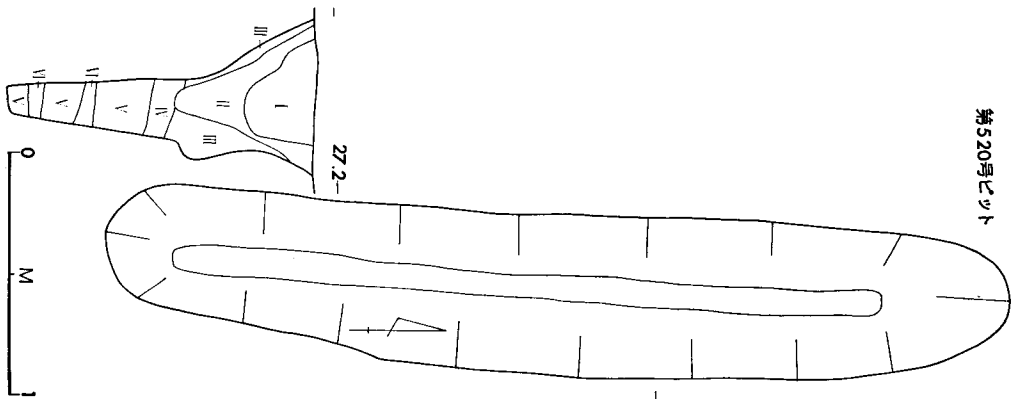


第403号ピット

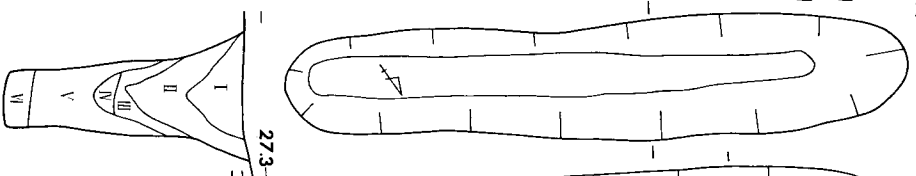
26.5



第131図 遺構実測図



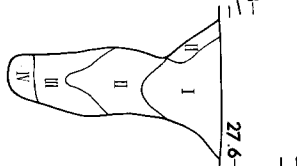
第520号ピット



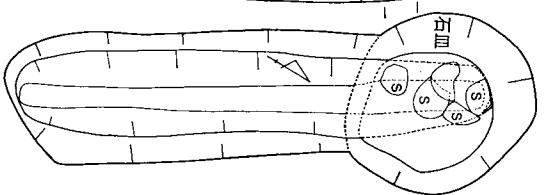
第696号ピット



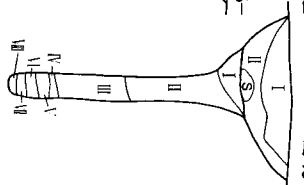
第647号ピット



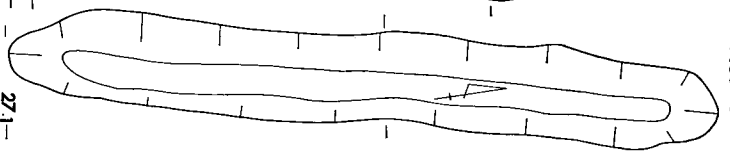
27.6-



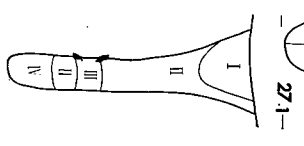
第645号ピット
第646号ピット



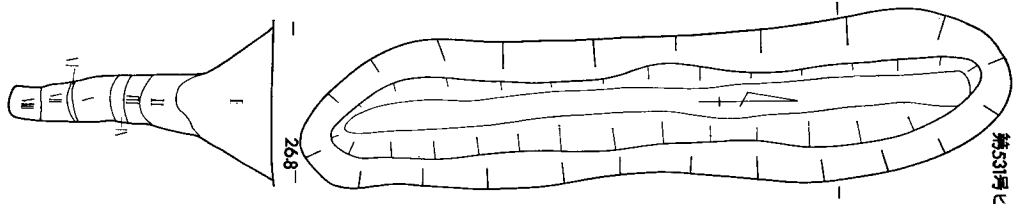
27.0-



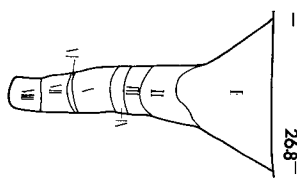
第586号ピット



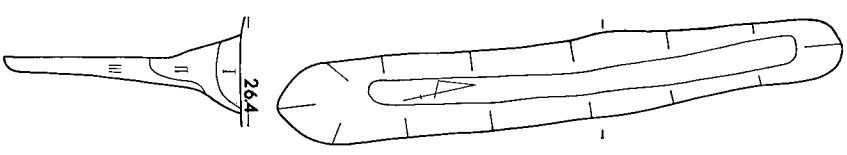
27.1-



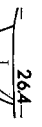
第531号ピット



26.8-



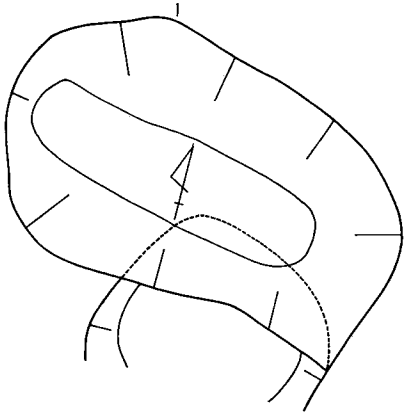
第408号ピット



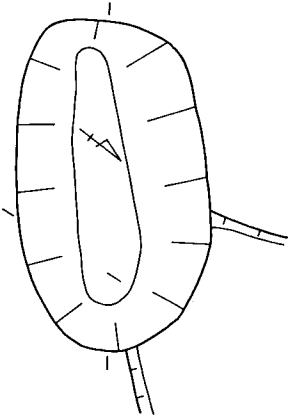
26.4-

第132図 遺構実測図

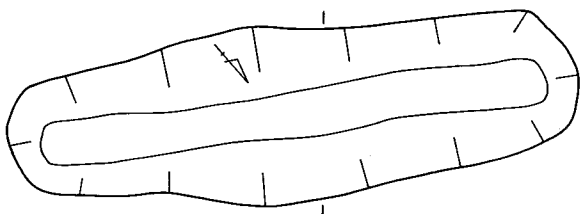
第725号ピット



第506号ピット



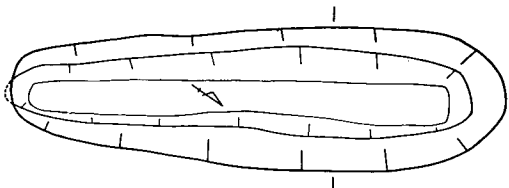
第700号ピット



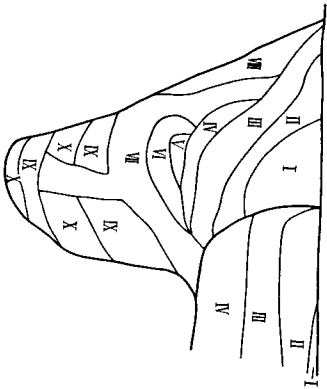
第664号ピット



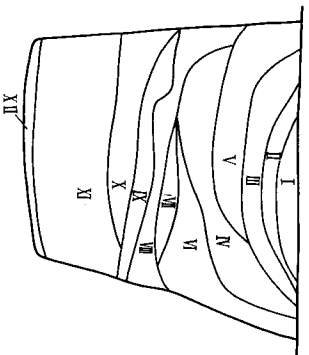
第648号ピット



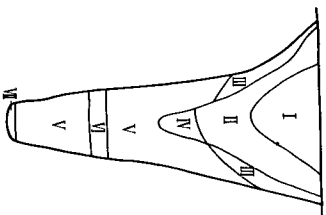
27.8-



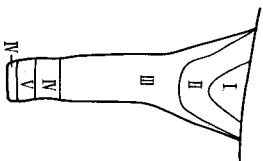
266-



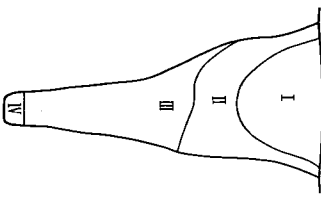
27.6-



27.2-

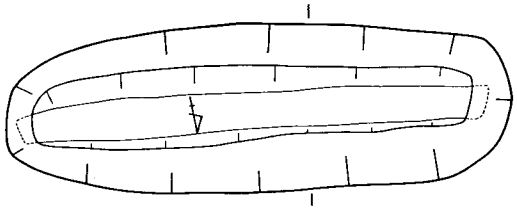


27.1-

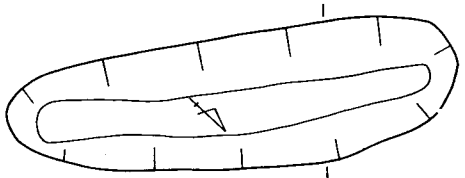


第133図 遺構実測図

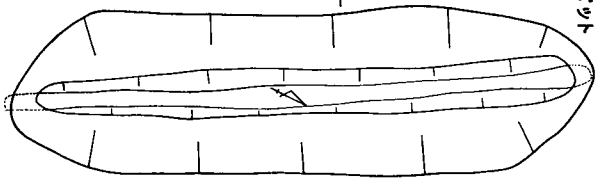
第755号ピット



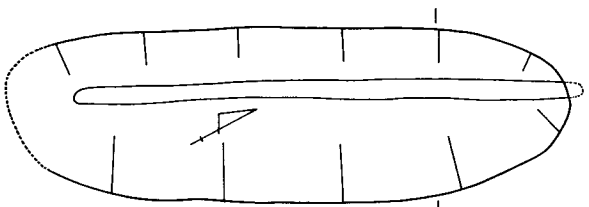
第731号ピット



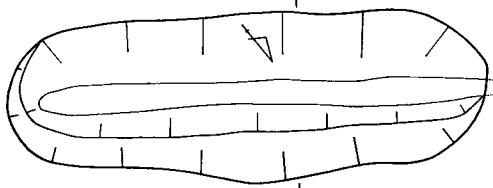
第720号ピット



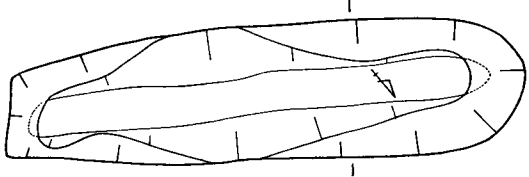
第719号ピット



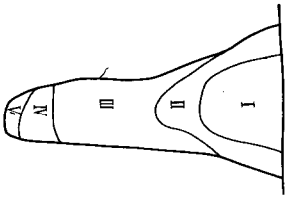
第714号ピット



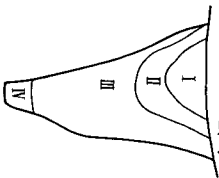
第701号ピット



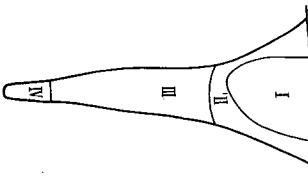
28.1-



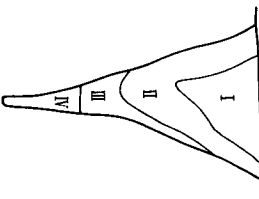
27.9-



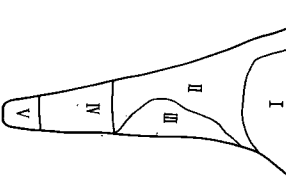
27.2-



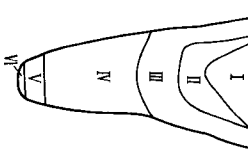
27.6-



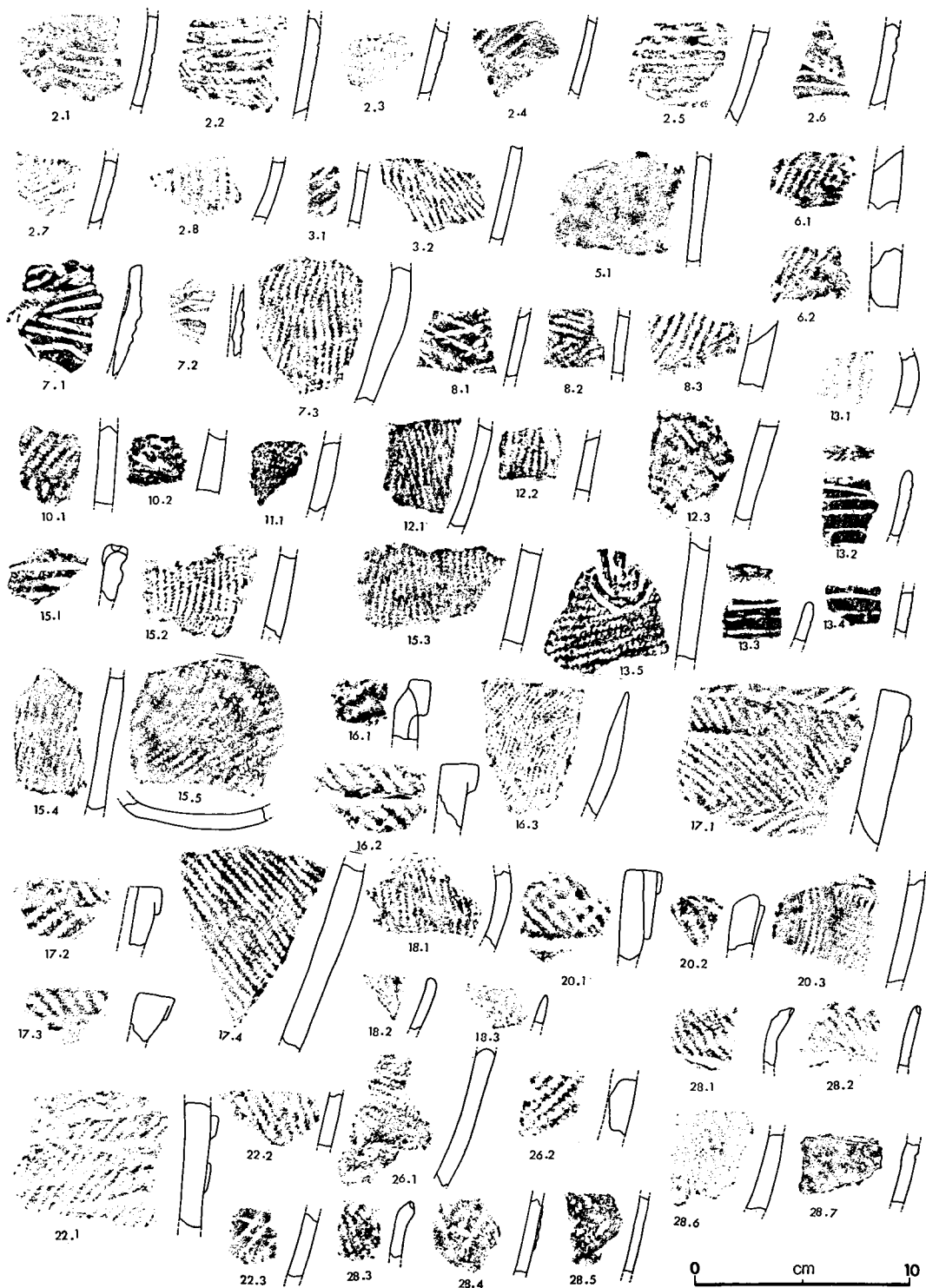
28.0-



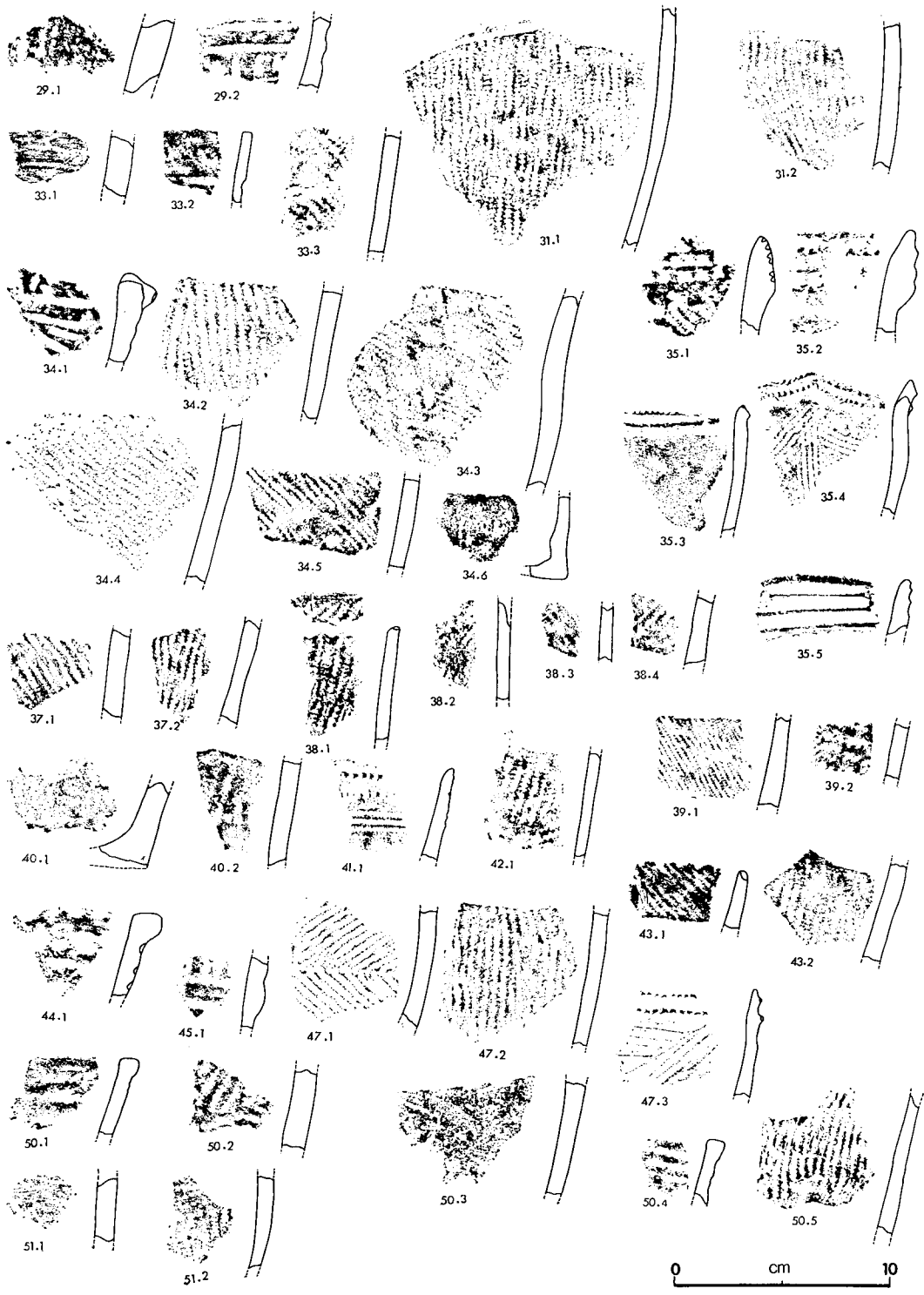
27.7-



第134図 遺構実測図



第135图 遺構出土土器拓影



0 cm 10

第136图 遺構出土土器拓影



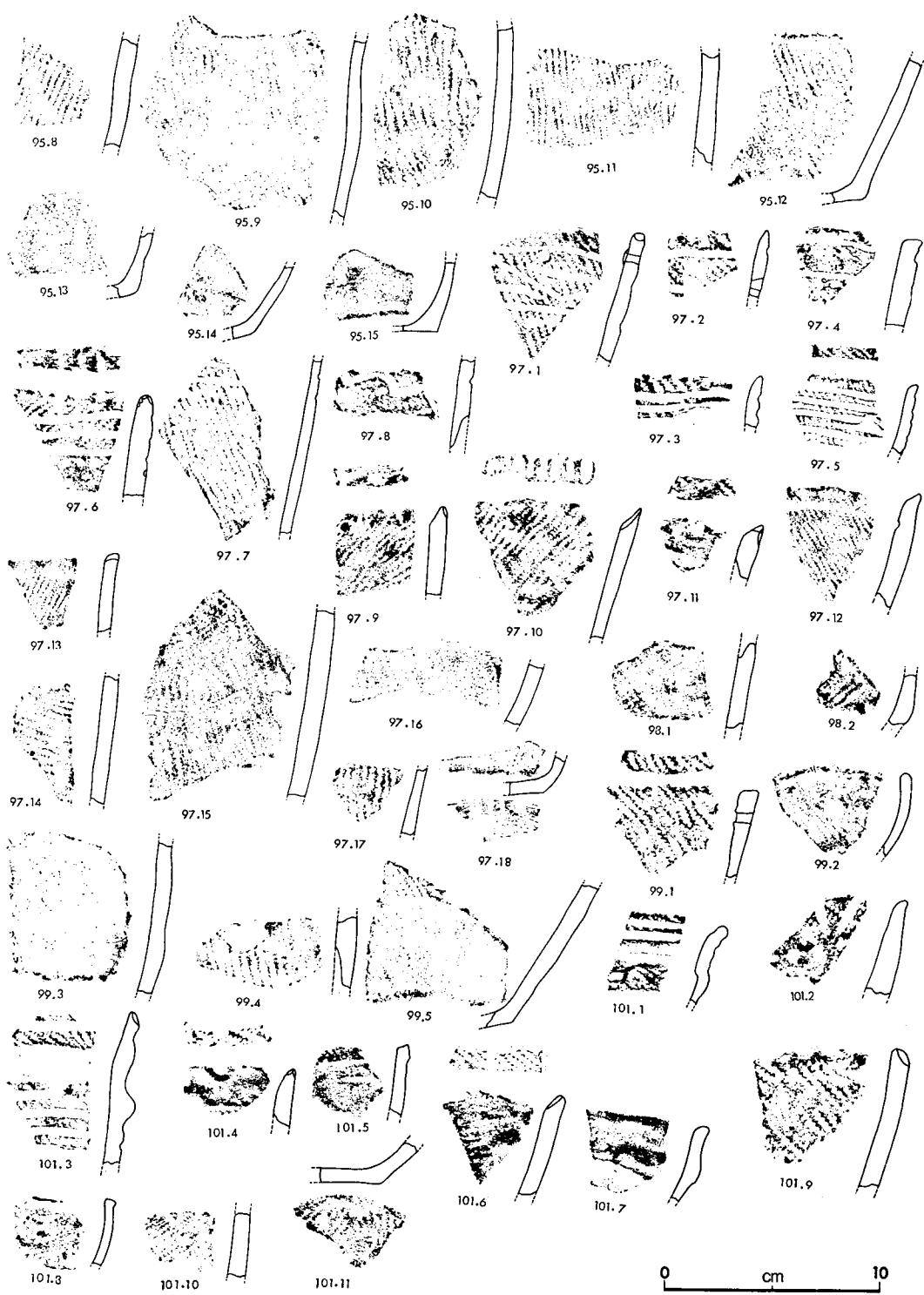
0 cm 10

第137图 遺構出土土器拓影



0 cm 10

第138图 遺構出土土器拓影



第139圖 遺構出土土器拓影



0 cm 10

第140圖 遺構出土土器拓影

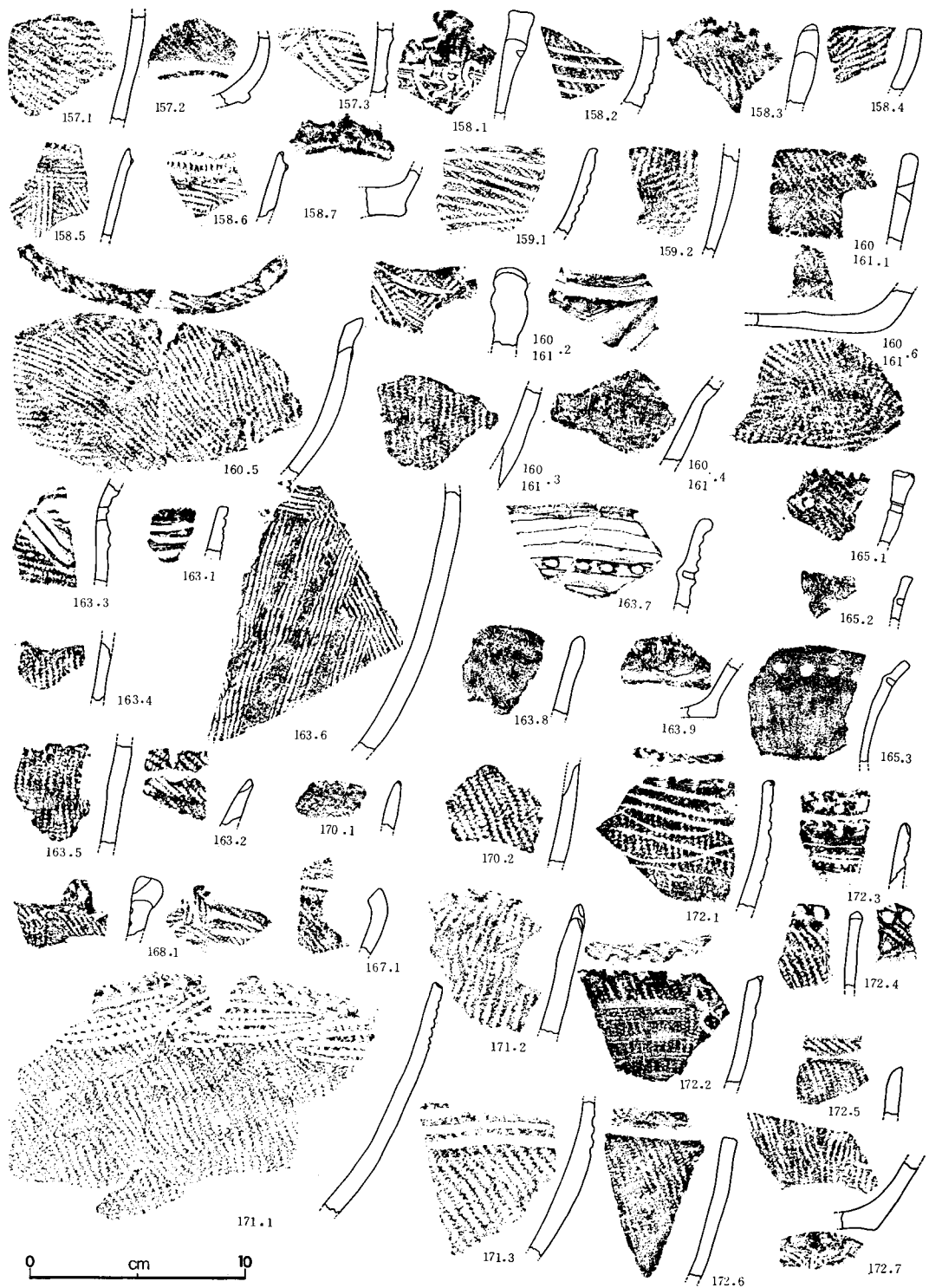


0 cm 10

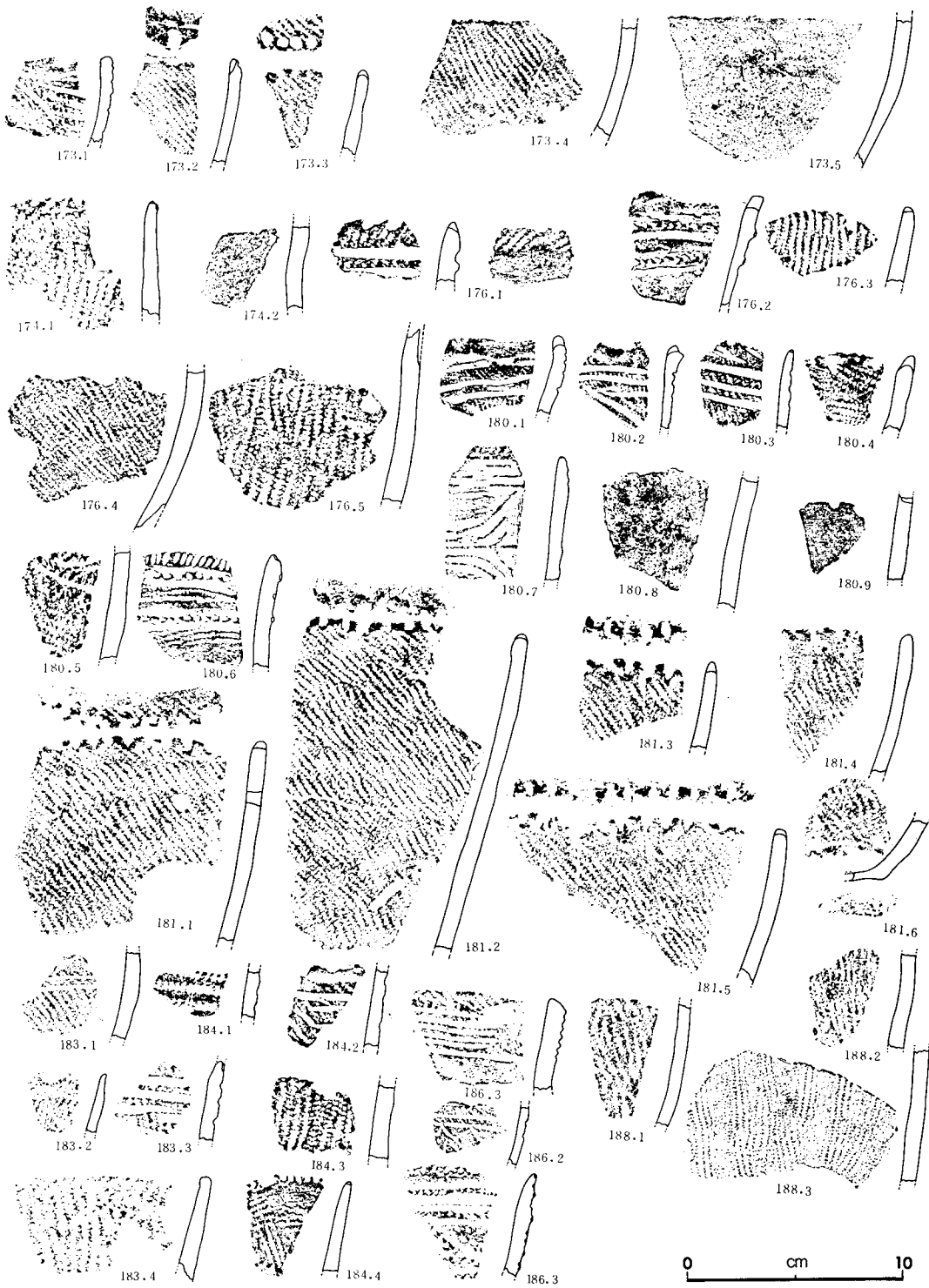
第141图 遺構出土土器拓影



第142图 遺構出土土器拓影



第143图 遺構出土土器拓影



0 cm 10

第144图 遺構出土土器拓影



0 cm 10

第145图 遺構出土土器拓影

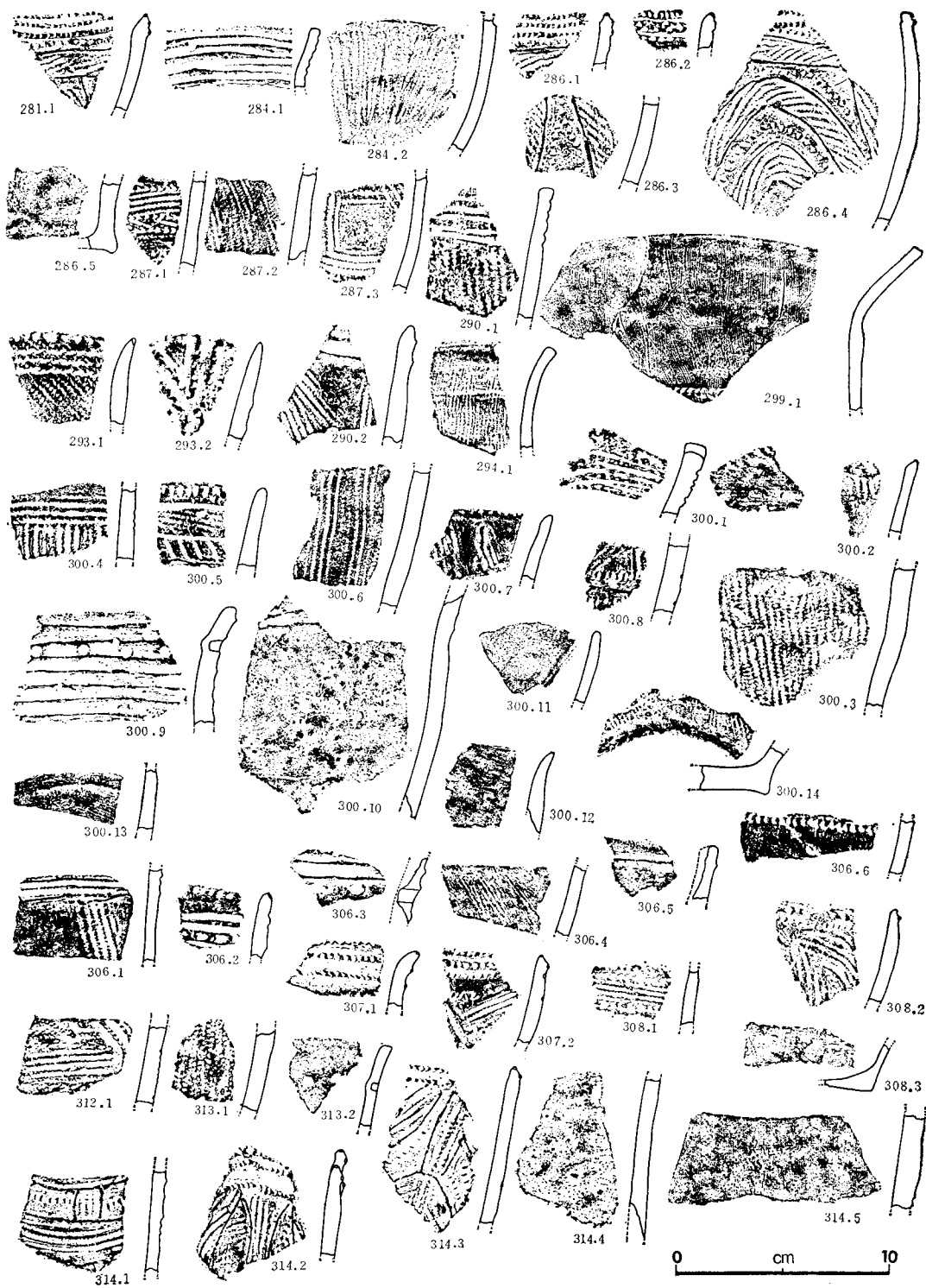


第146図 遺構出土土器拓影



0 cm 10

第147图 遺構出土土器拓影



第148图 遺構出土土器拓影

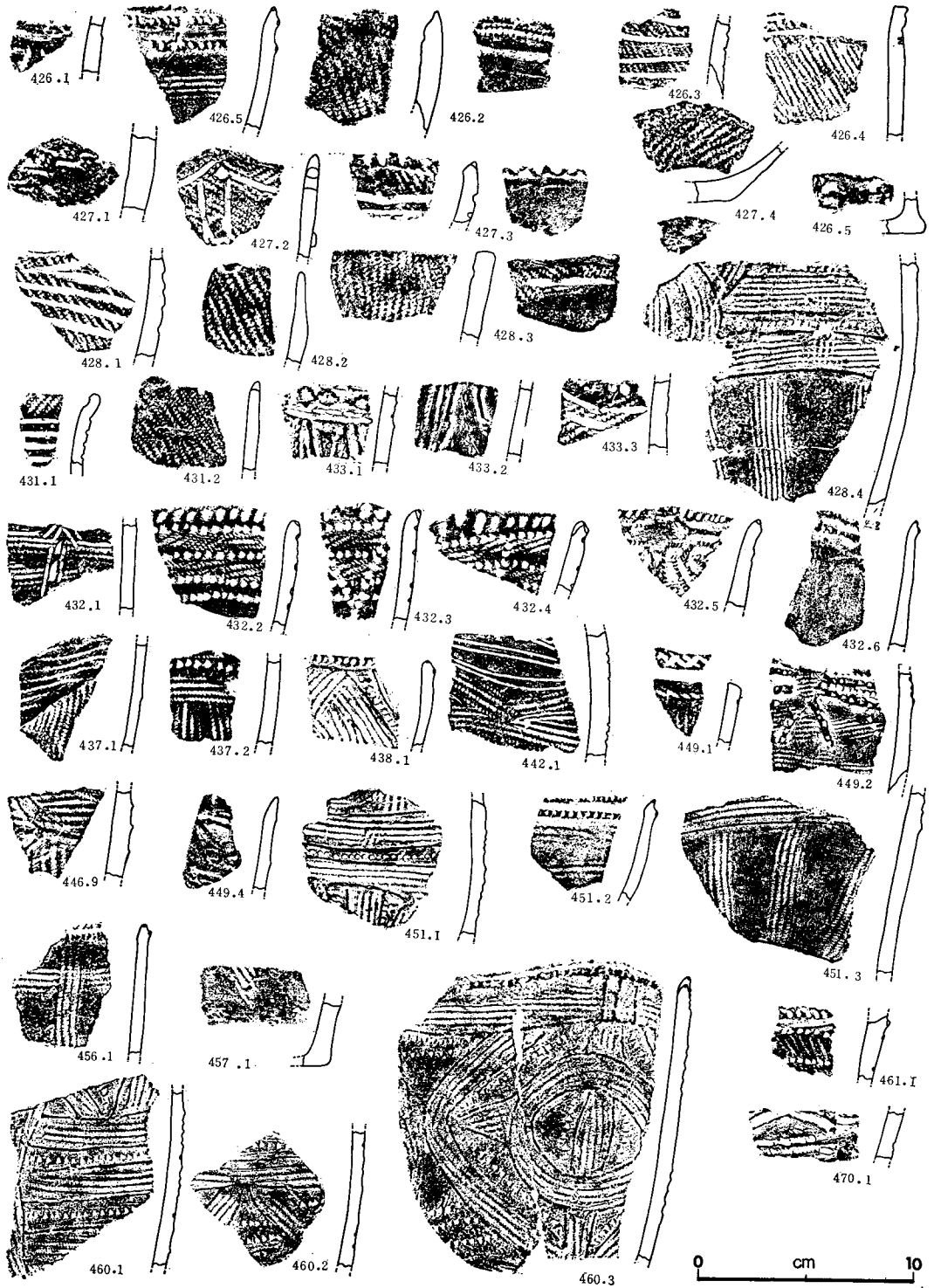


0 cm 10

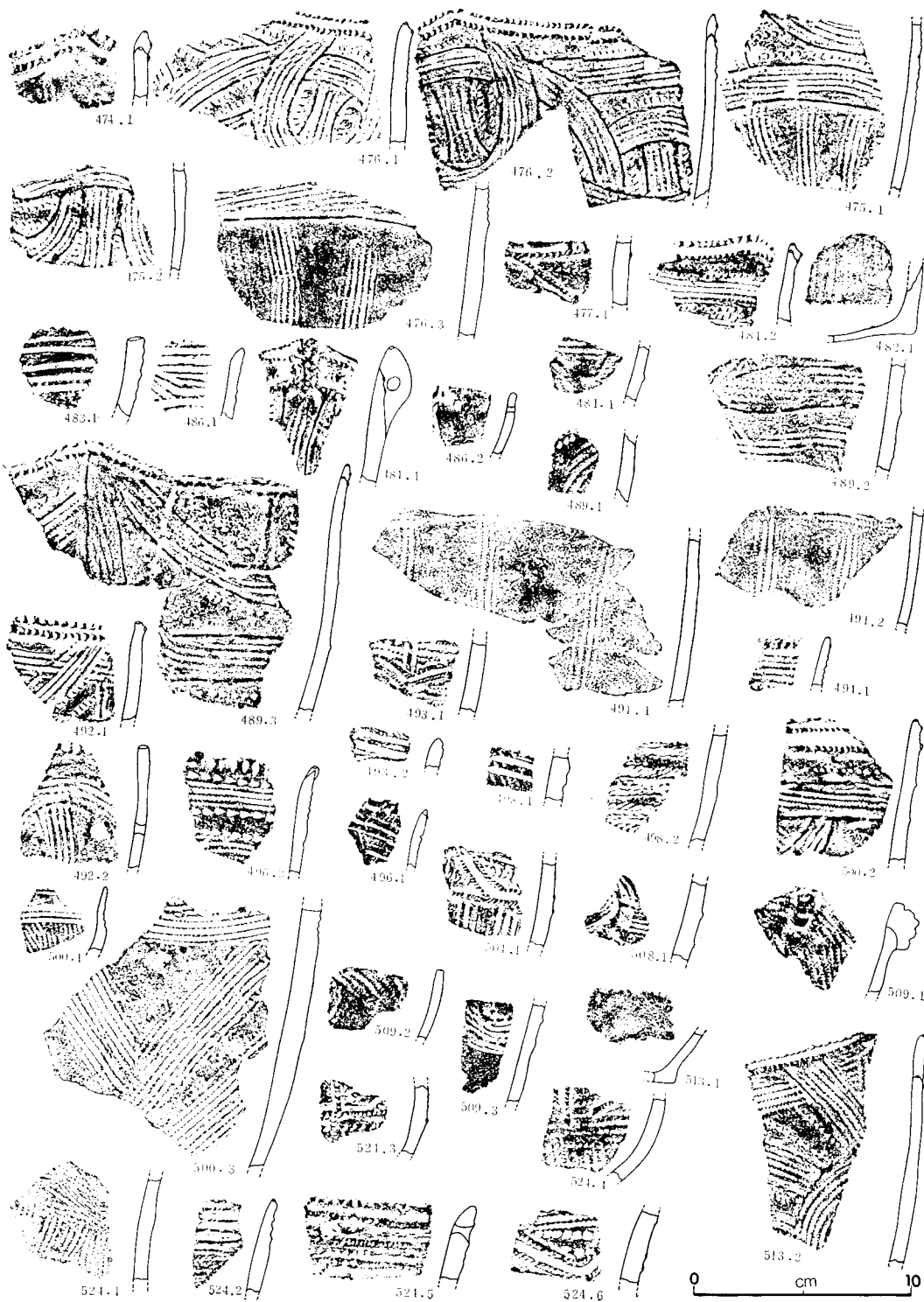
第149図 遺構出土土器拓影



第150图 遺構出土土器拓影



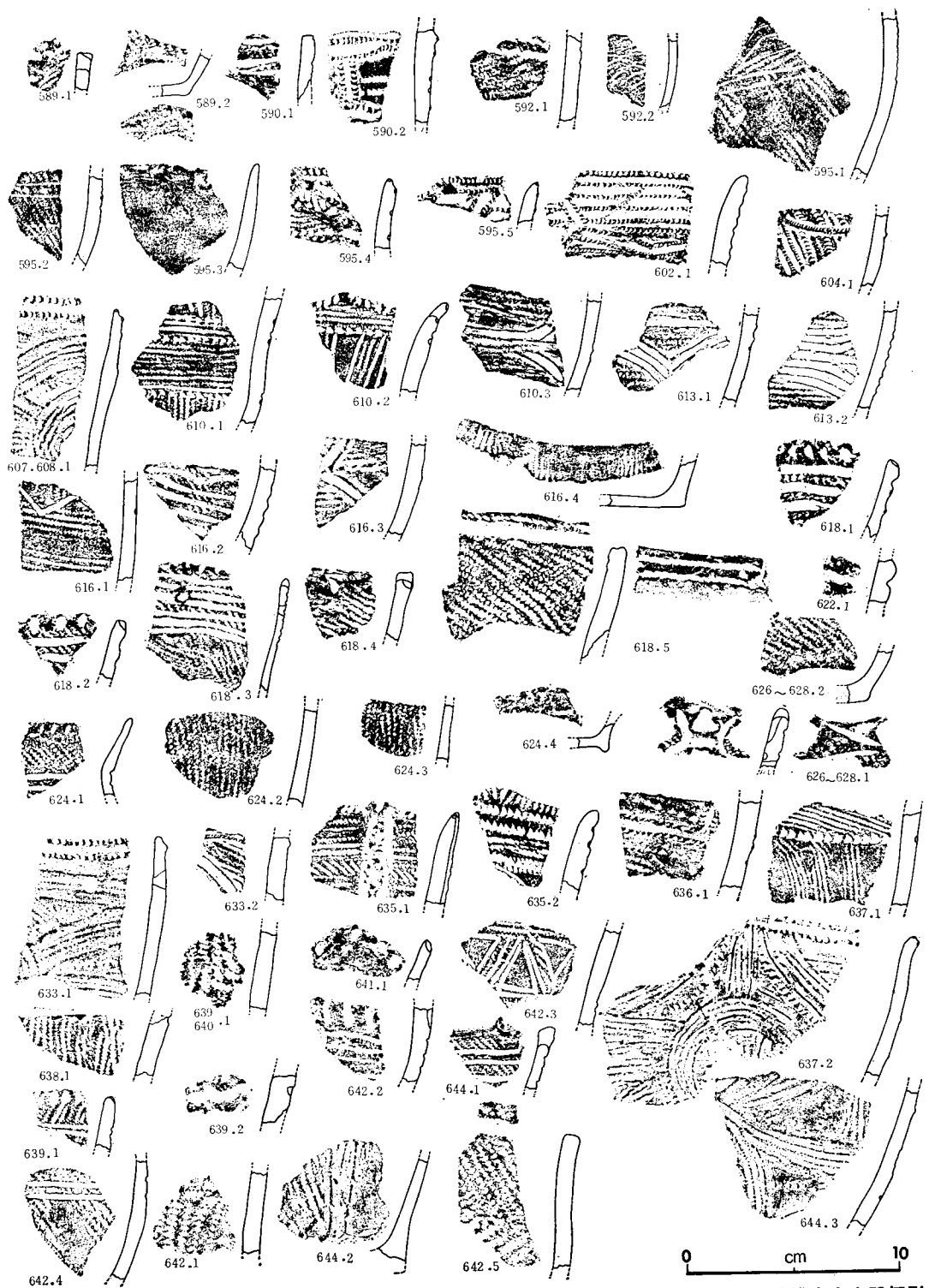
第151图 遺構出土土器拓影



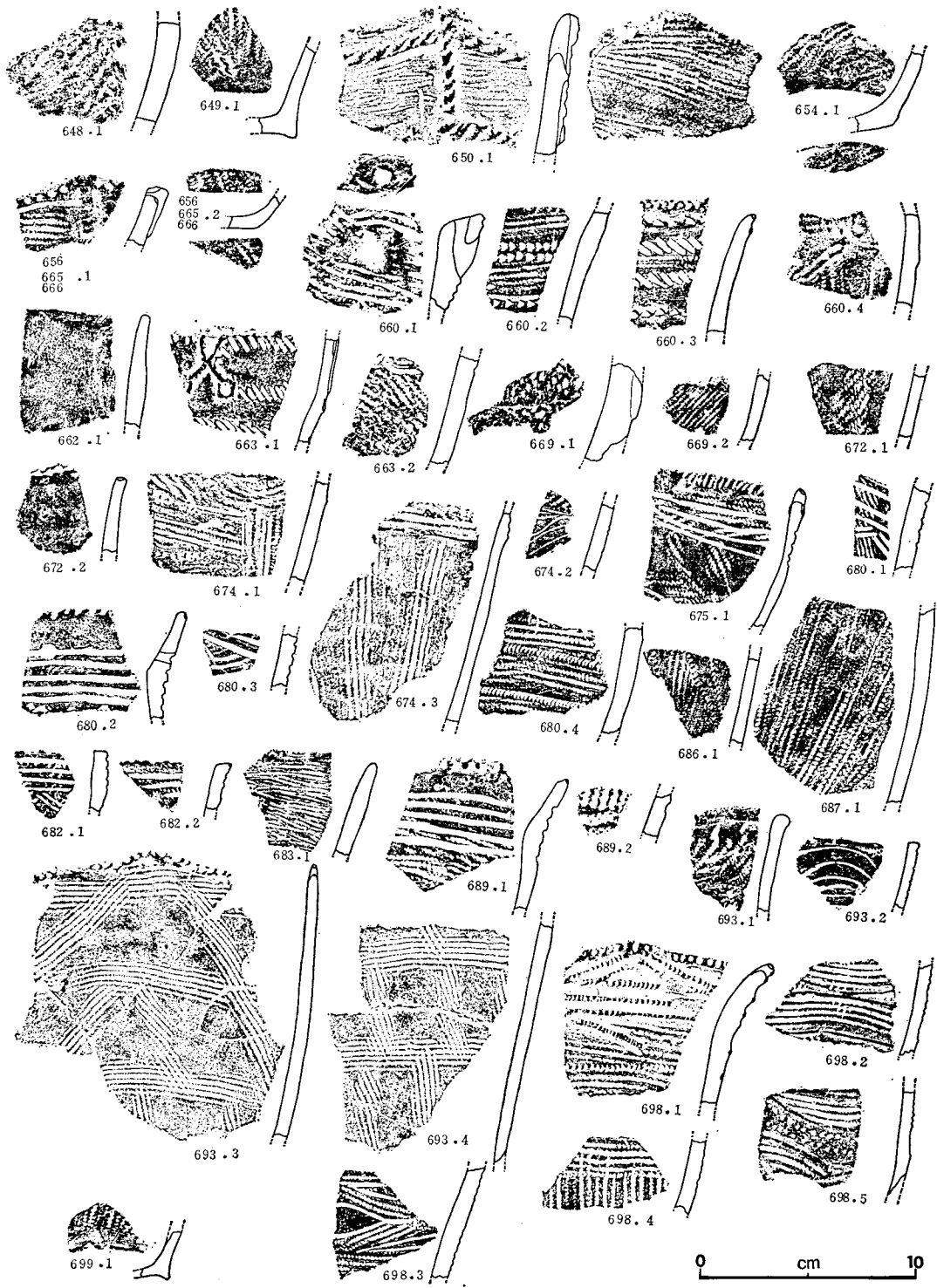
第152图 遺構出土土器拓影



第153圖 遺構出土土器拓影



第154图 遺構出土土器拓影



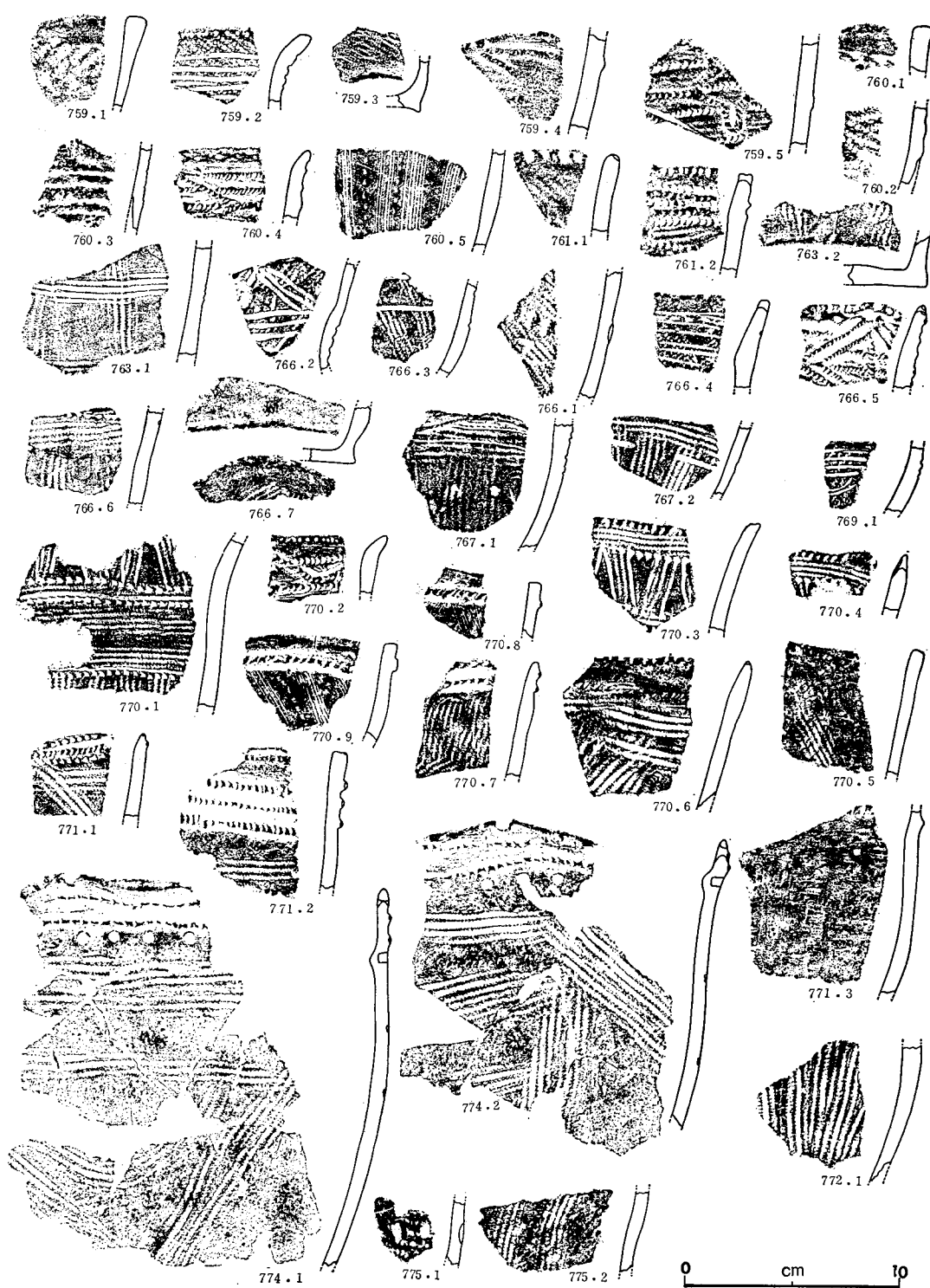
0 cm 10

第155圖 遺構出土土器拓影



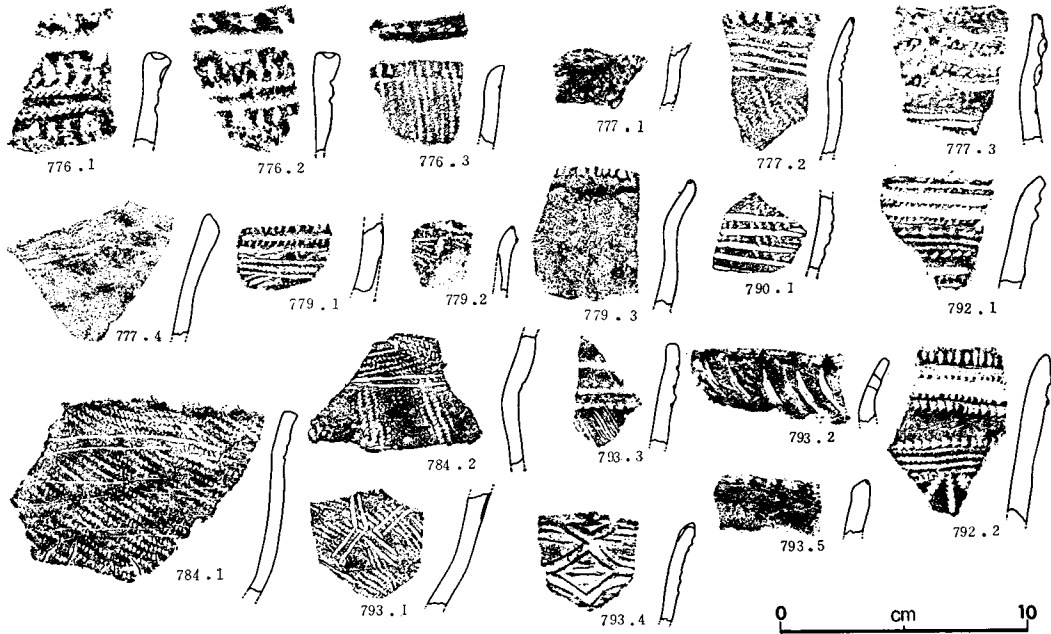
0 cm 10

第156图 遺構出土土器拓影

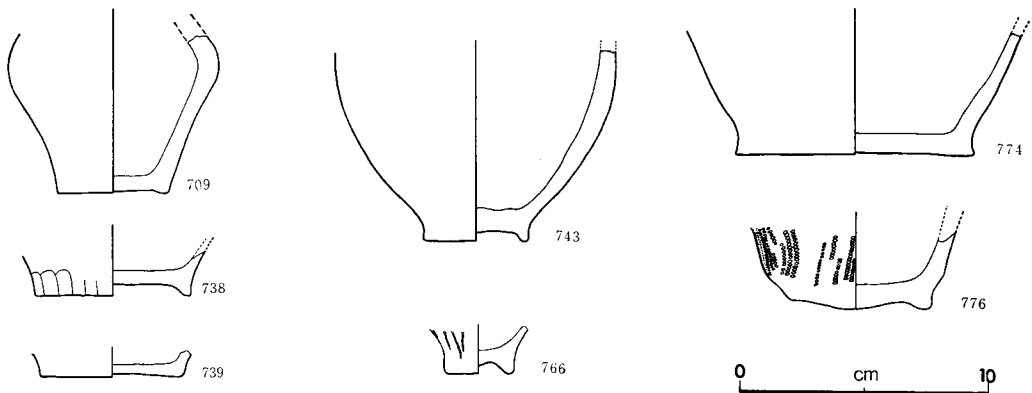


0 cm 10

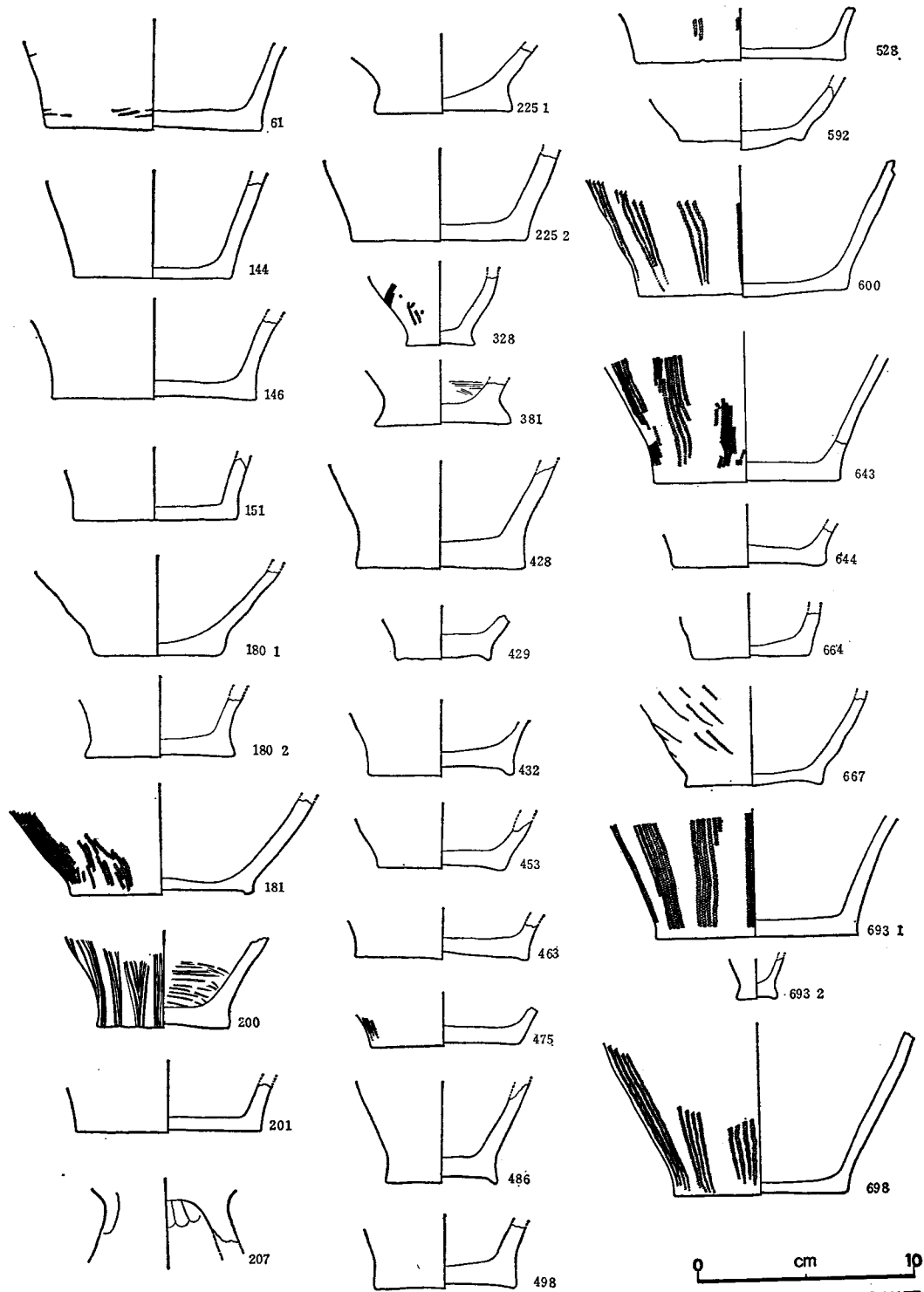
第157图 遺構出土土器拓影



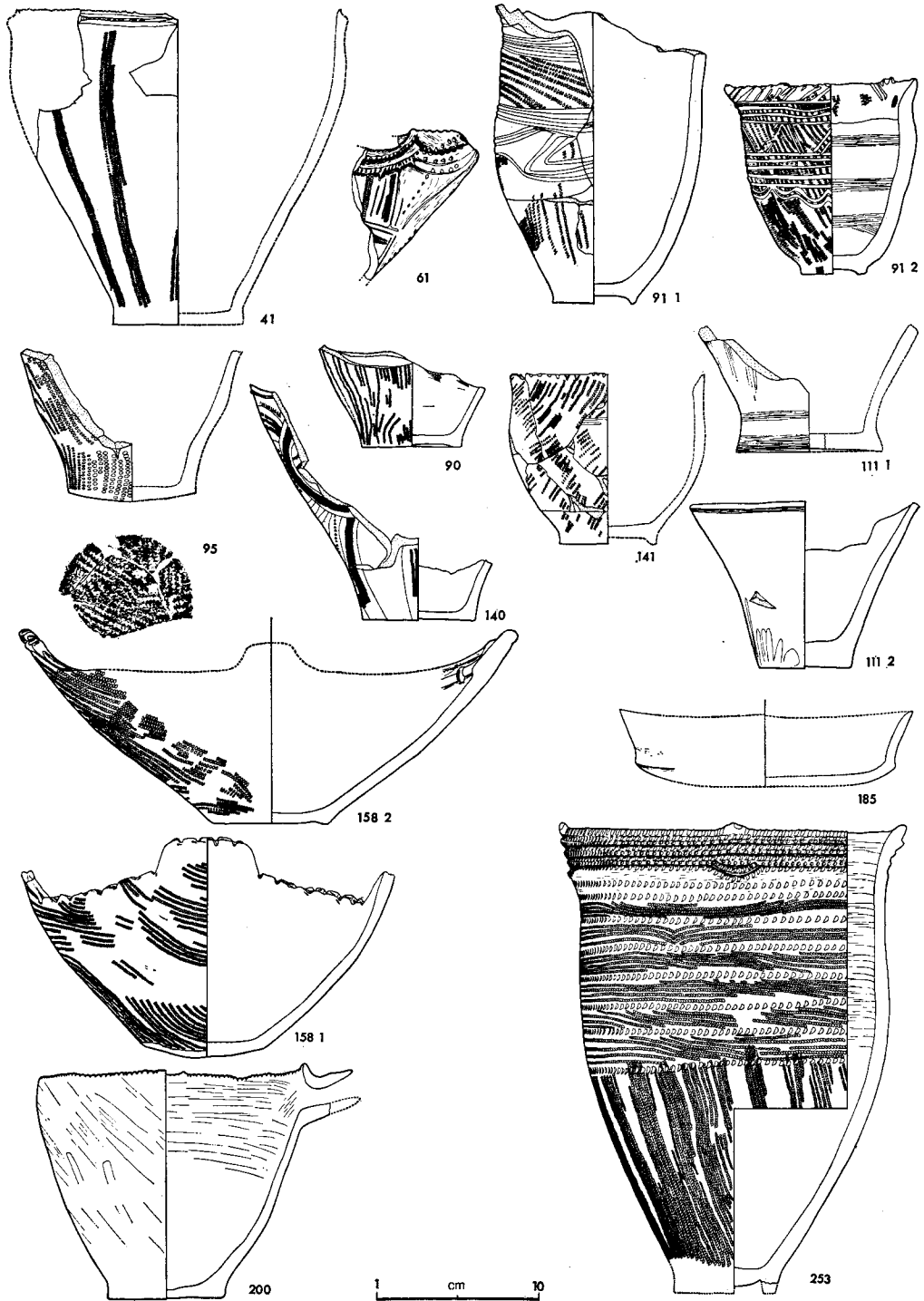
第158图 遺構出土土器拓影



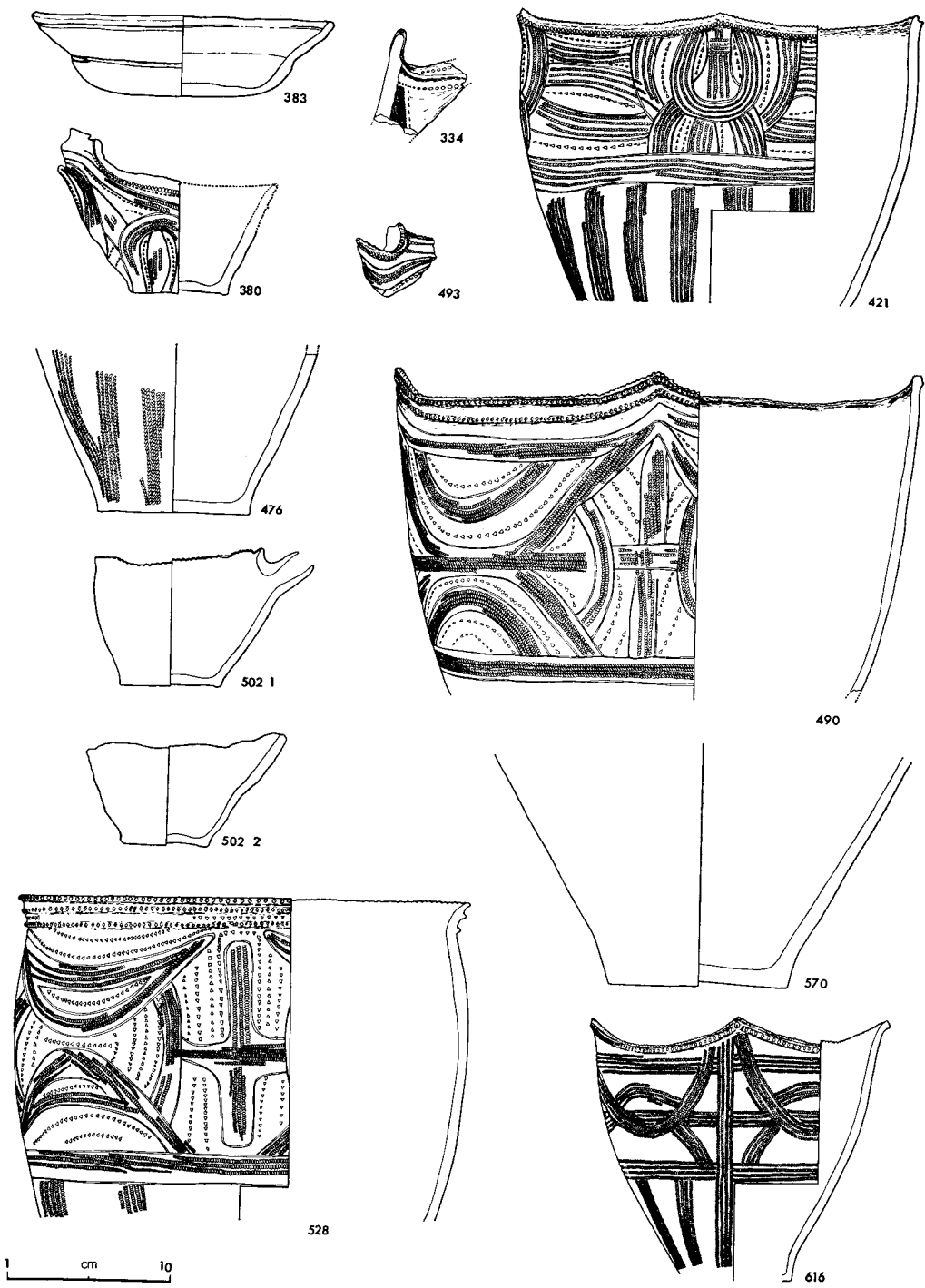
第159图 遺構出土土器実測图



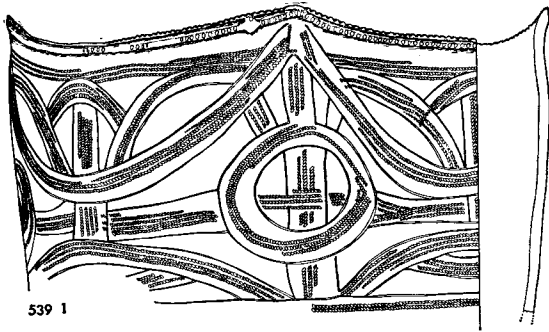
第160図 遺構出土土器実測図



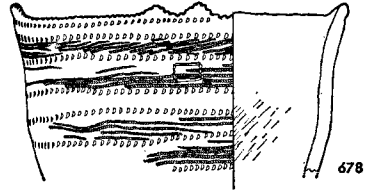
第161图 遺構出土土器実測図



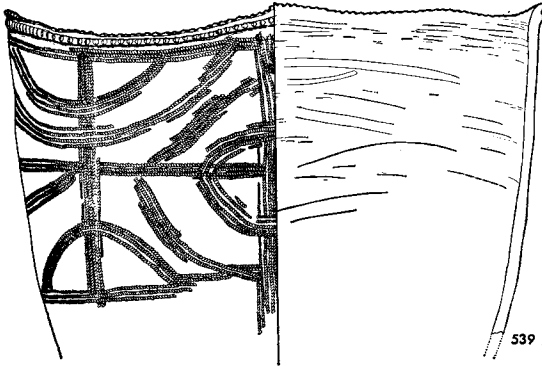
第162图 遺構出土土器実測図



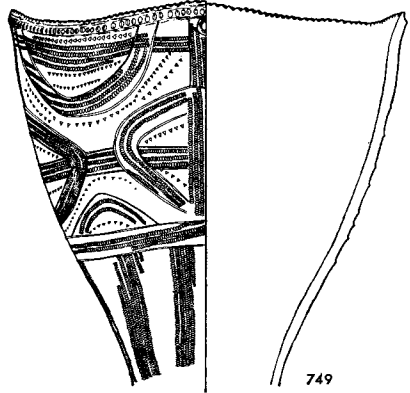
539 1



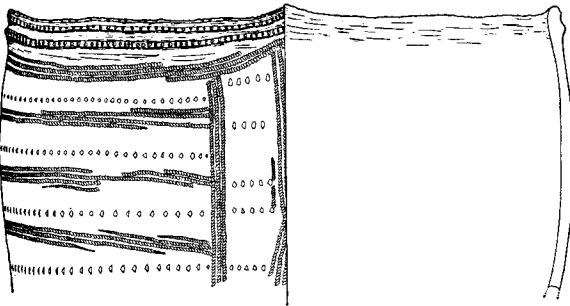
678



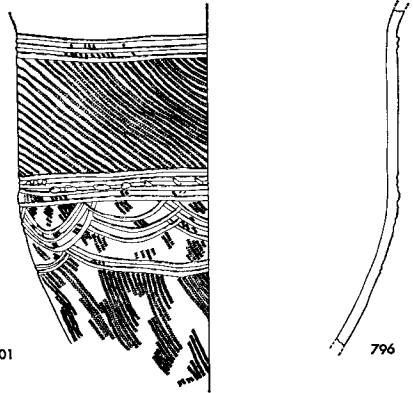
539 2



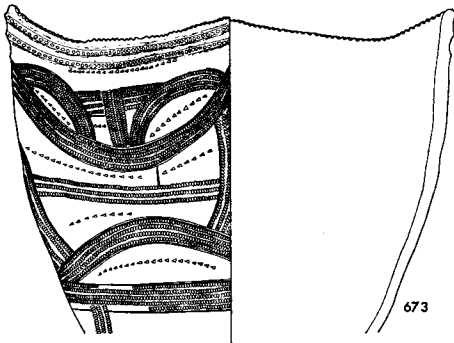
749



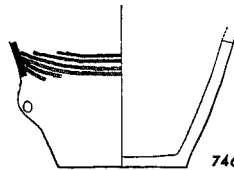
601



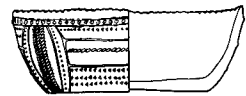
796



673



746



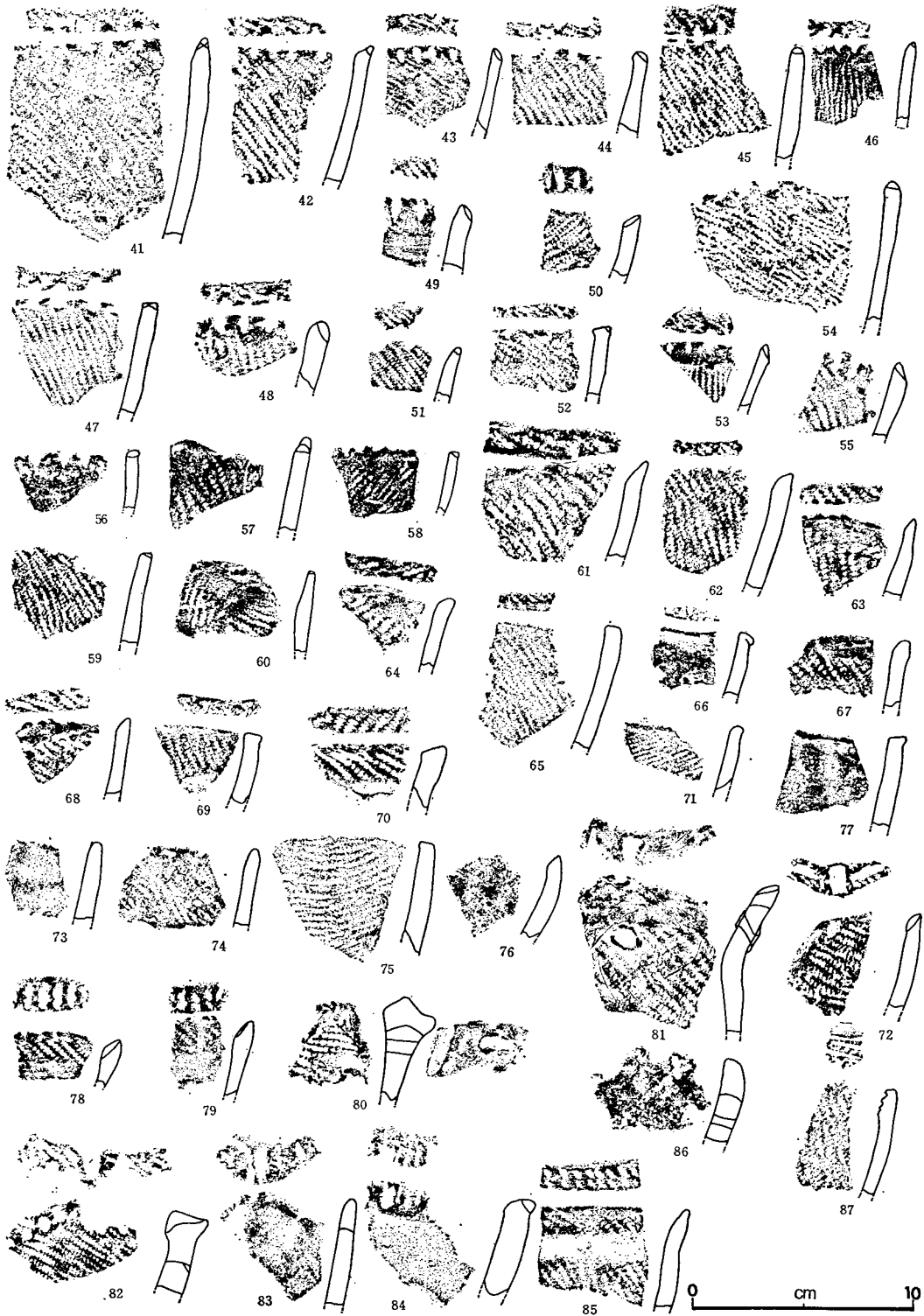
781

1 cm 10

第163图 遺構出土土器実測図



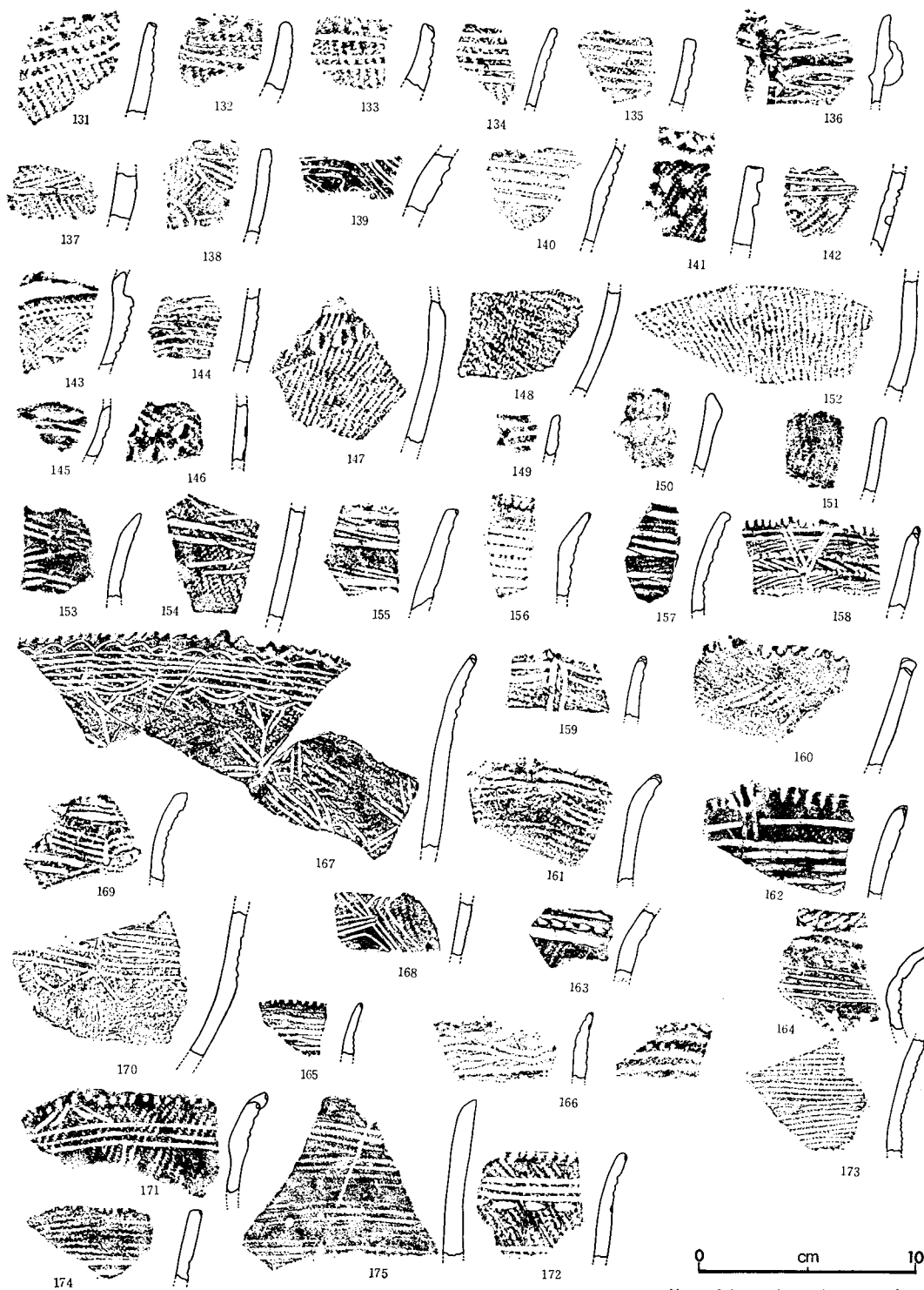
第164图 发掘区出土土器拓影



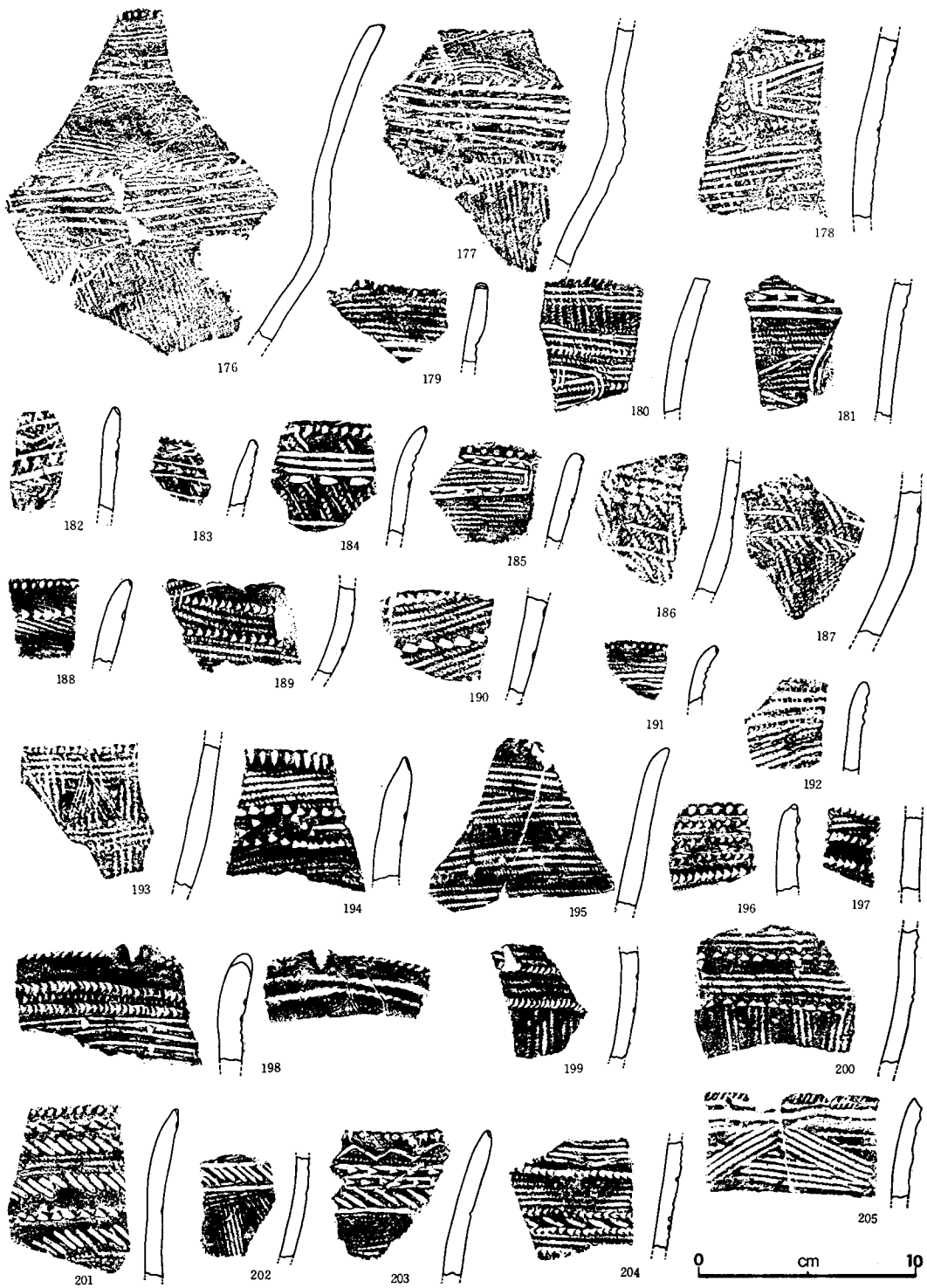
第165图 发掘区出土土器拓影



第166图 尧掘区出土土器拓影



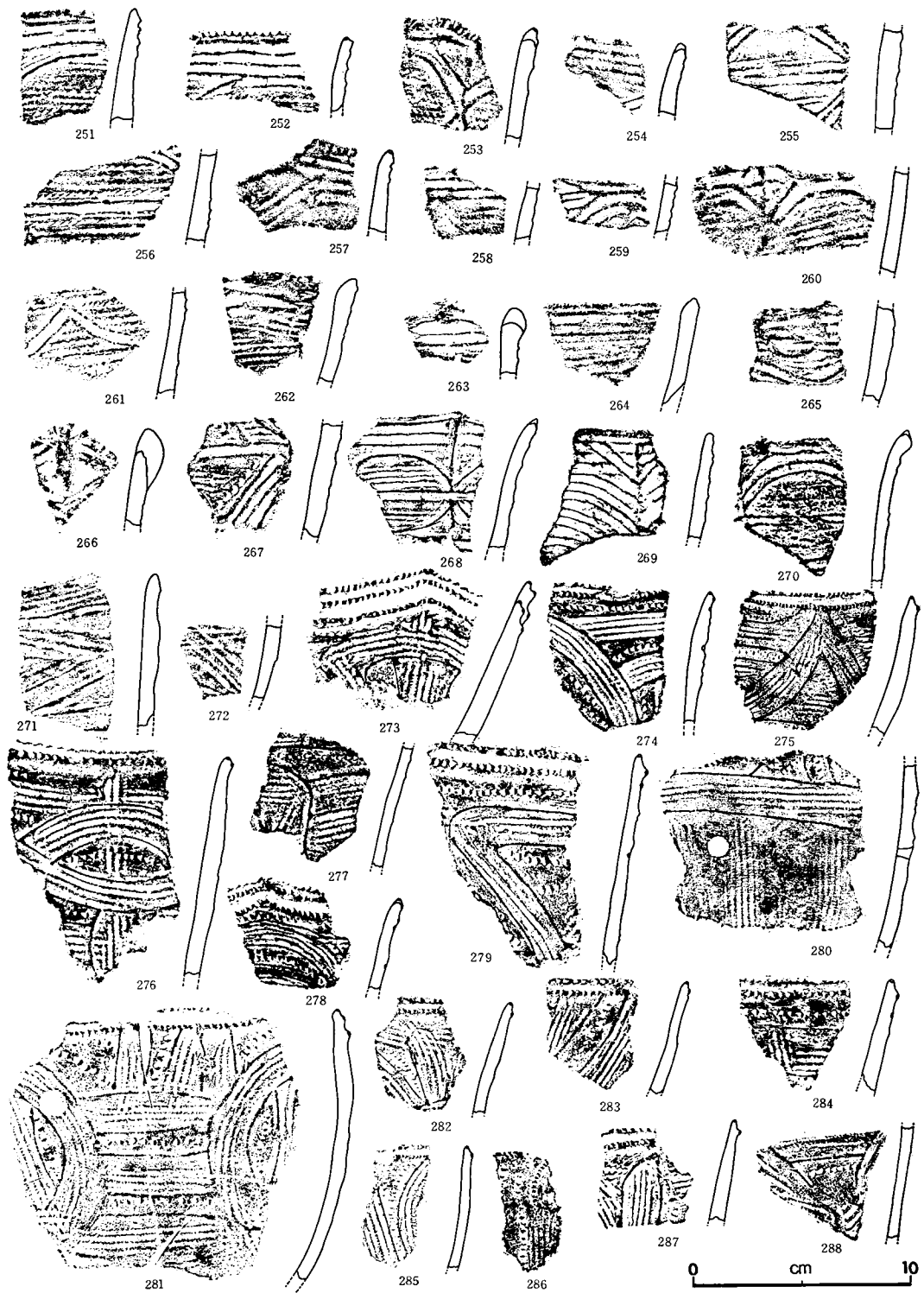
第167图 发掘区出土土器拓影



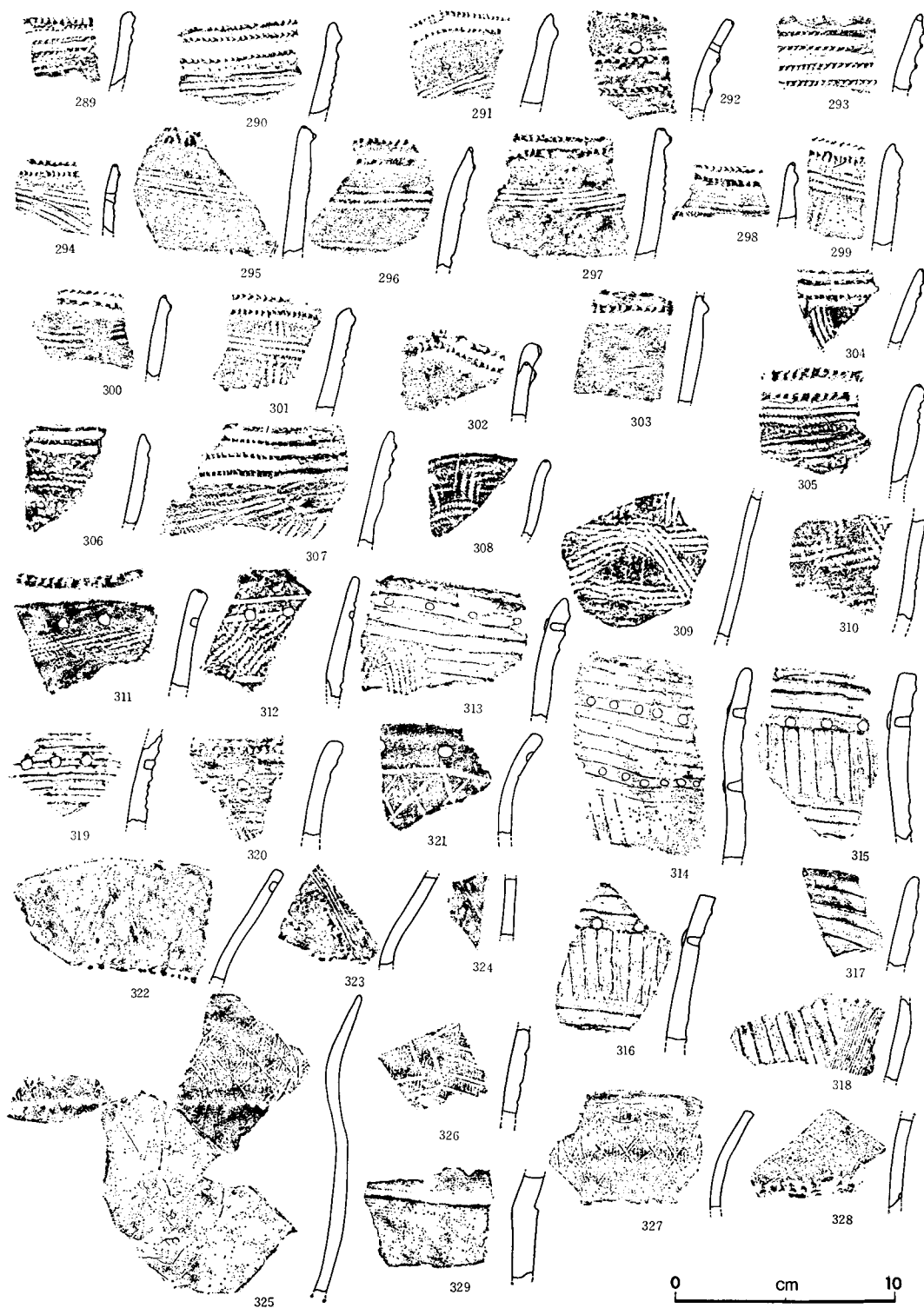
第168图 尧掘区出土土器拓影



第169图 发掘区出土土器拓影



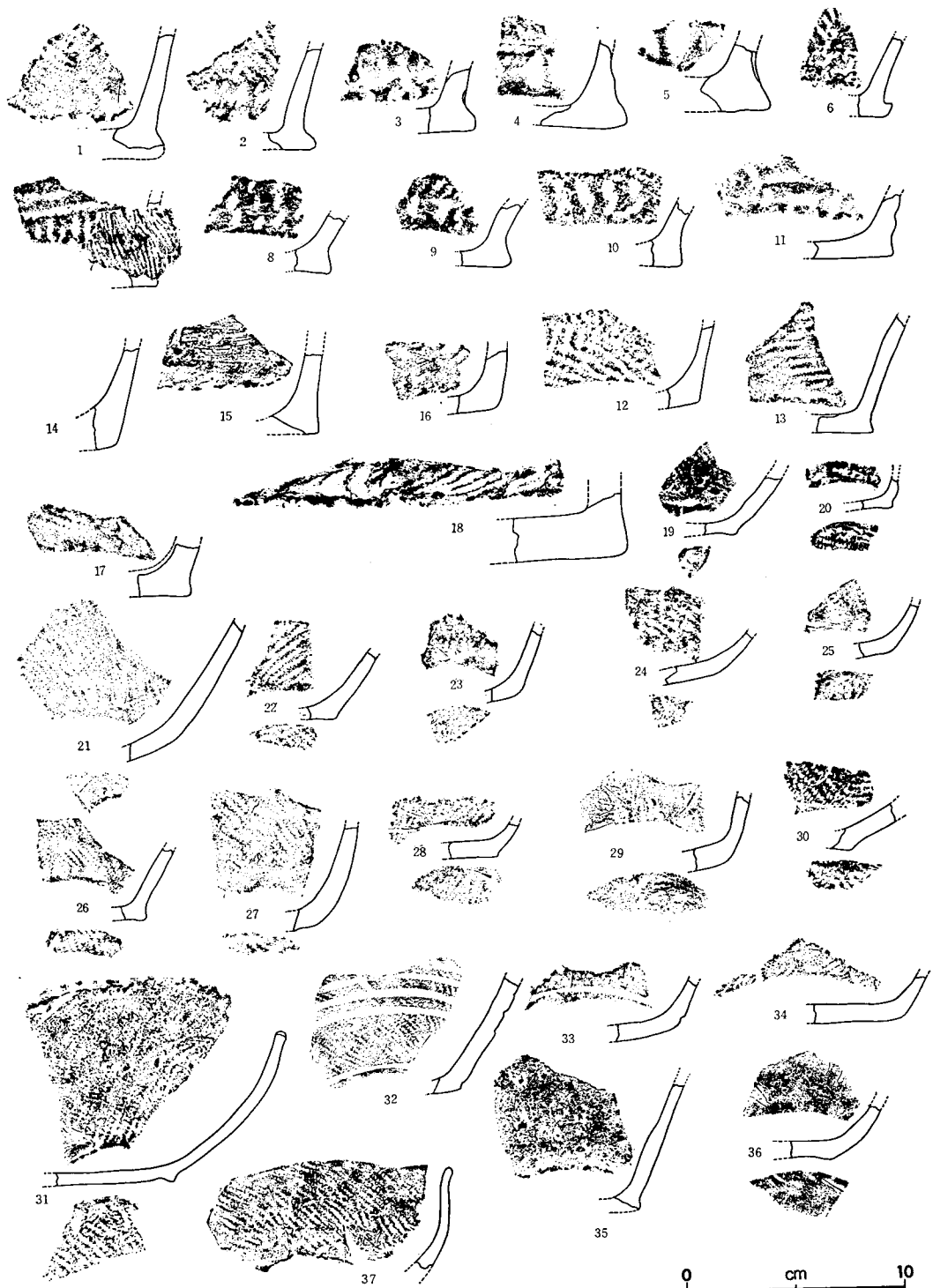
第170图 发掘区出土土器拓影



第171图 发掘区出土土器拓影



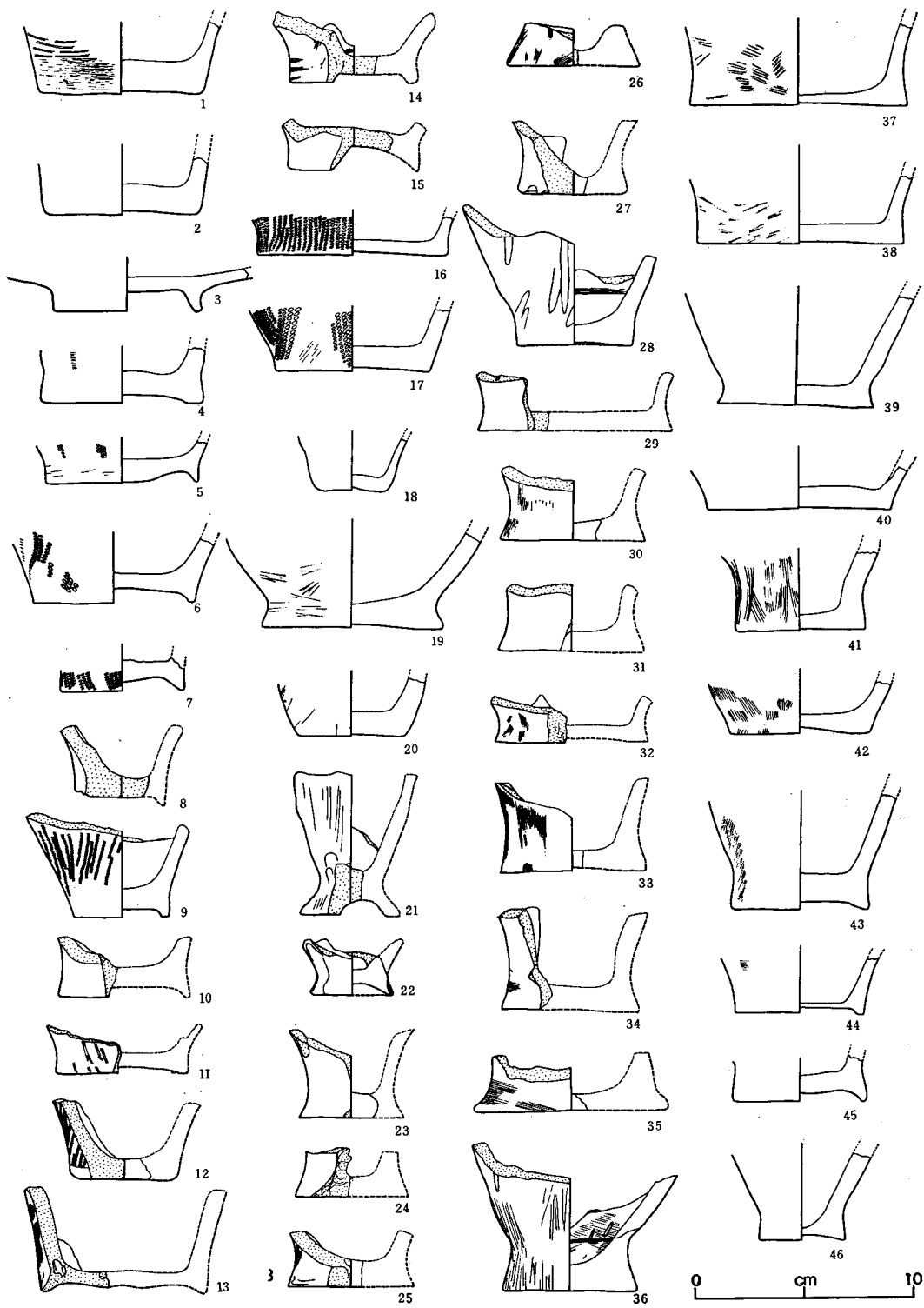
第172图 発掘区出土土器拓影



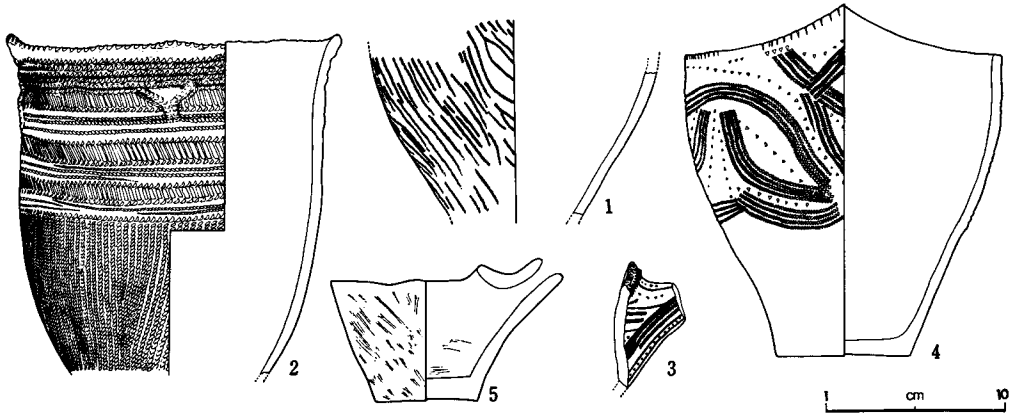
第173图 发掘区出土土器拓影



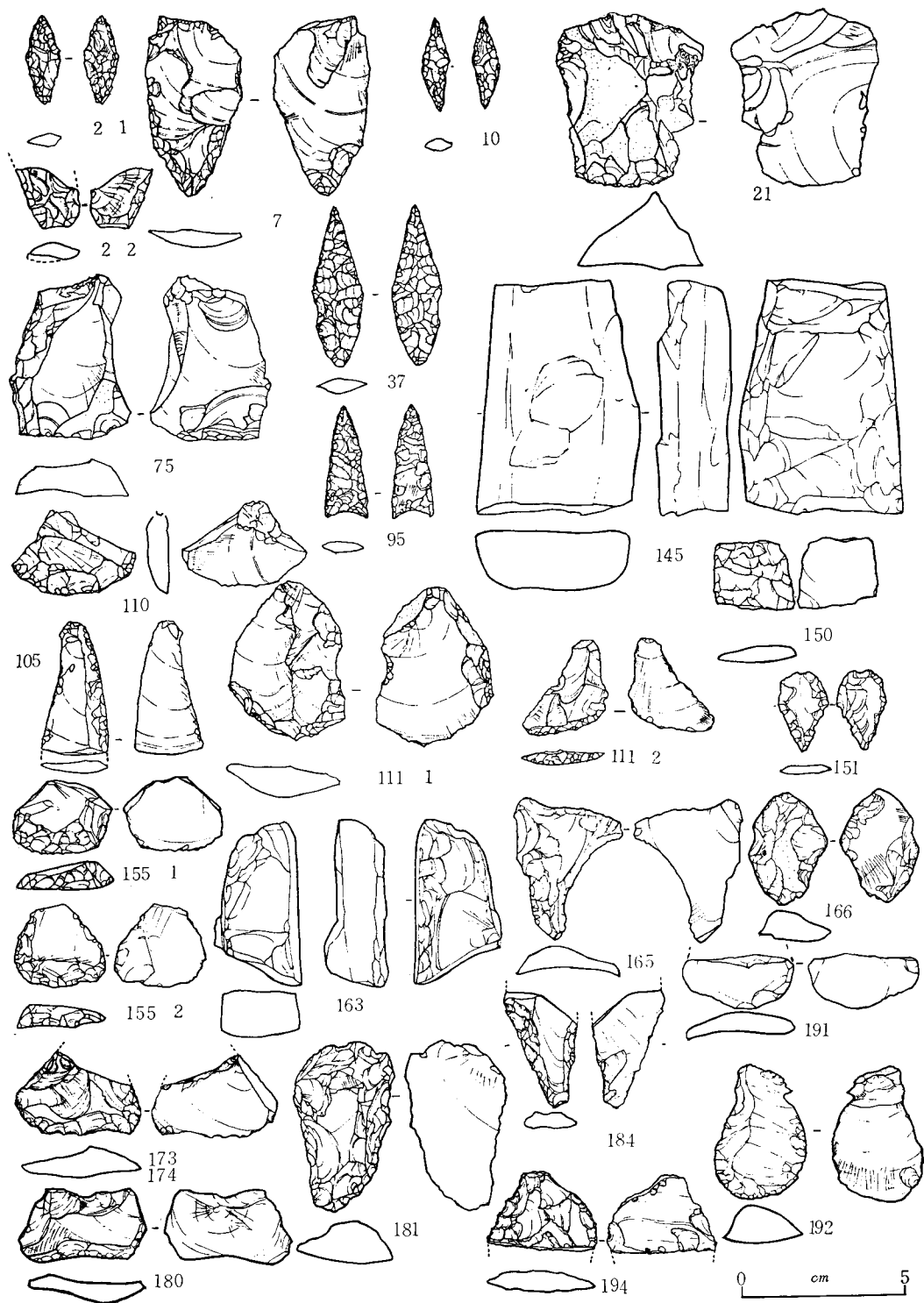
第174图 发掘区出土土器拓影



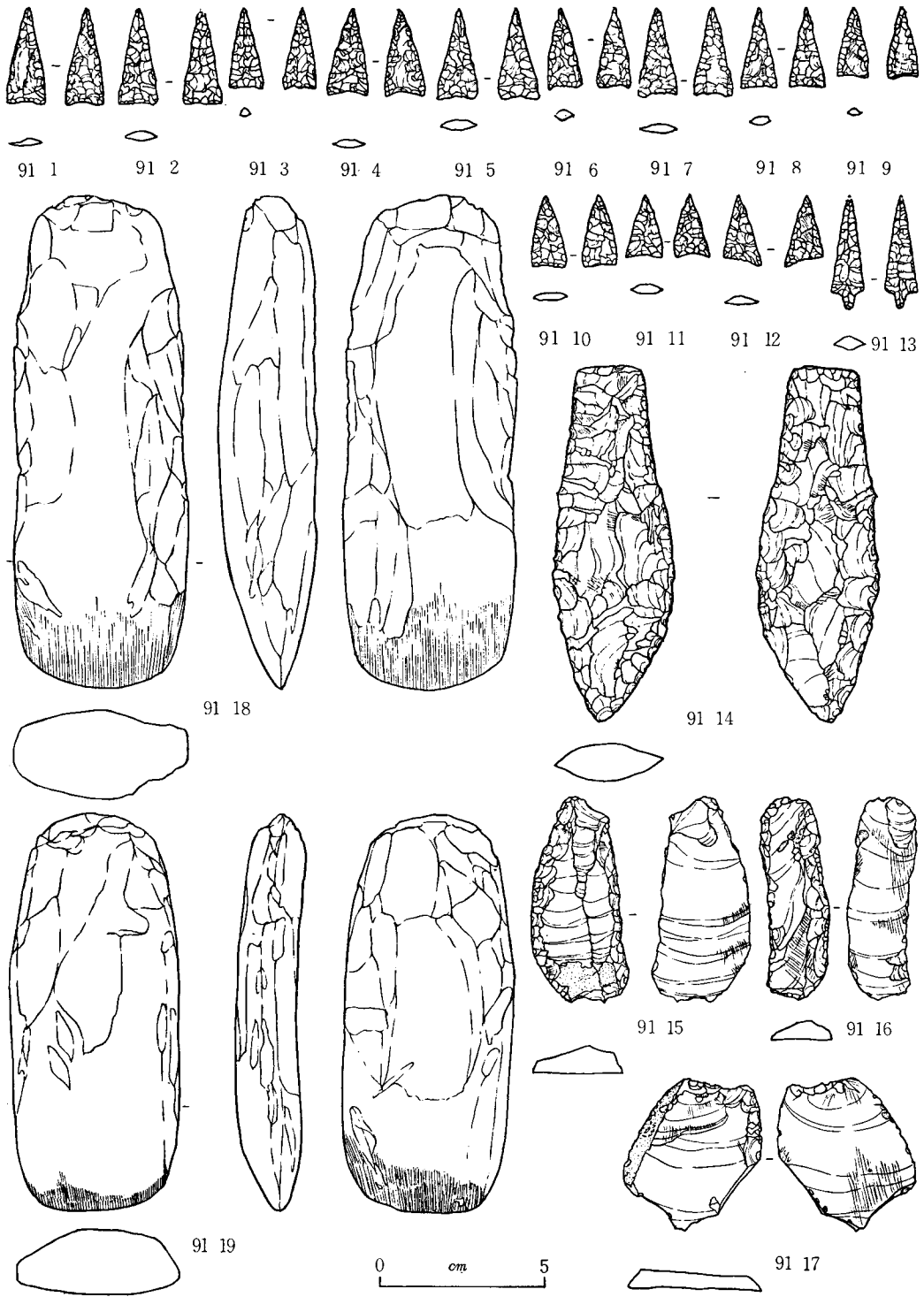
第175图 尧墟区出土土器底部实测图



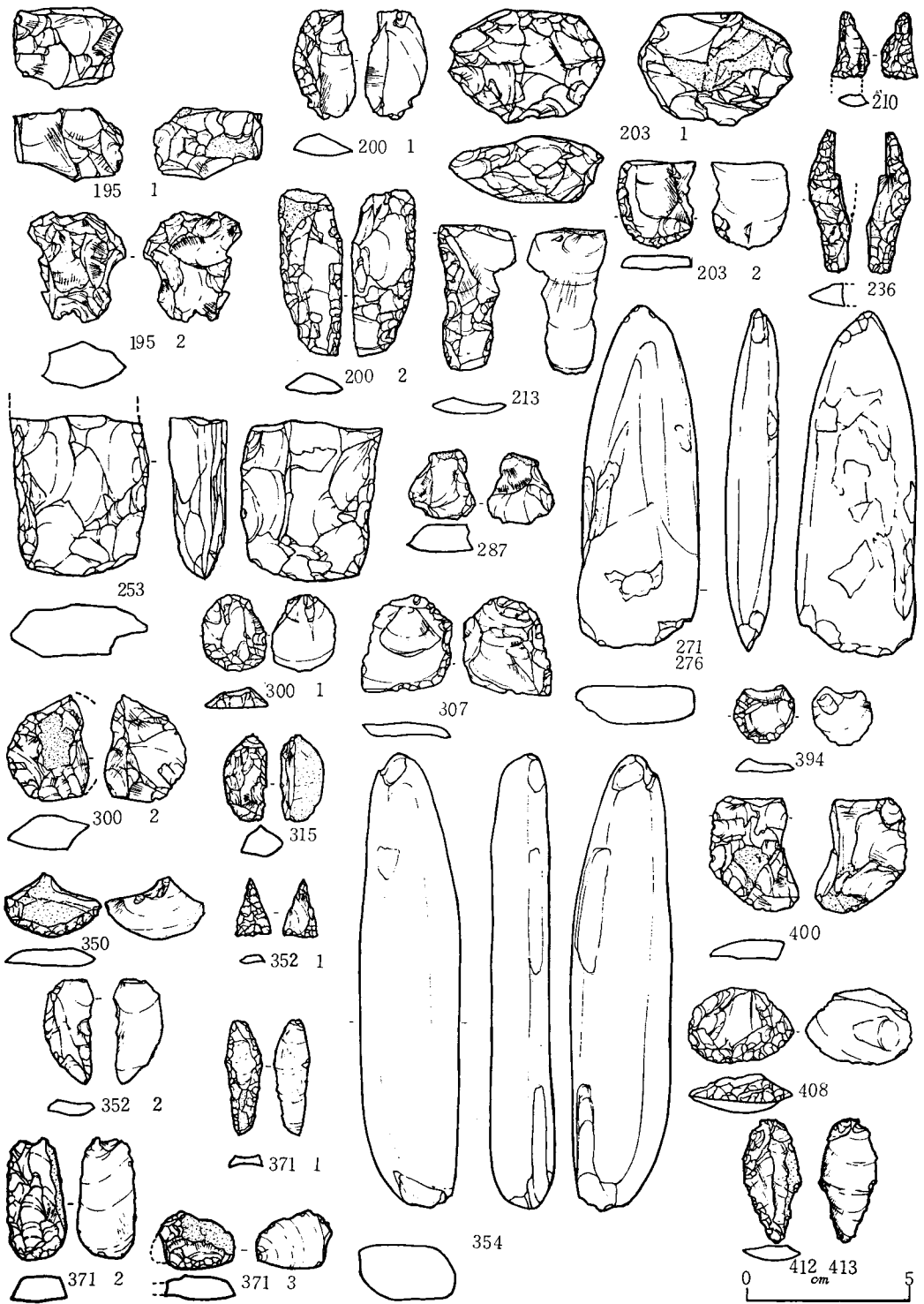
第176图 発掘区出土土器実測図



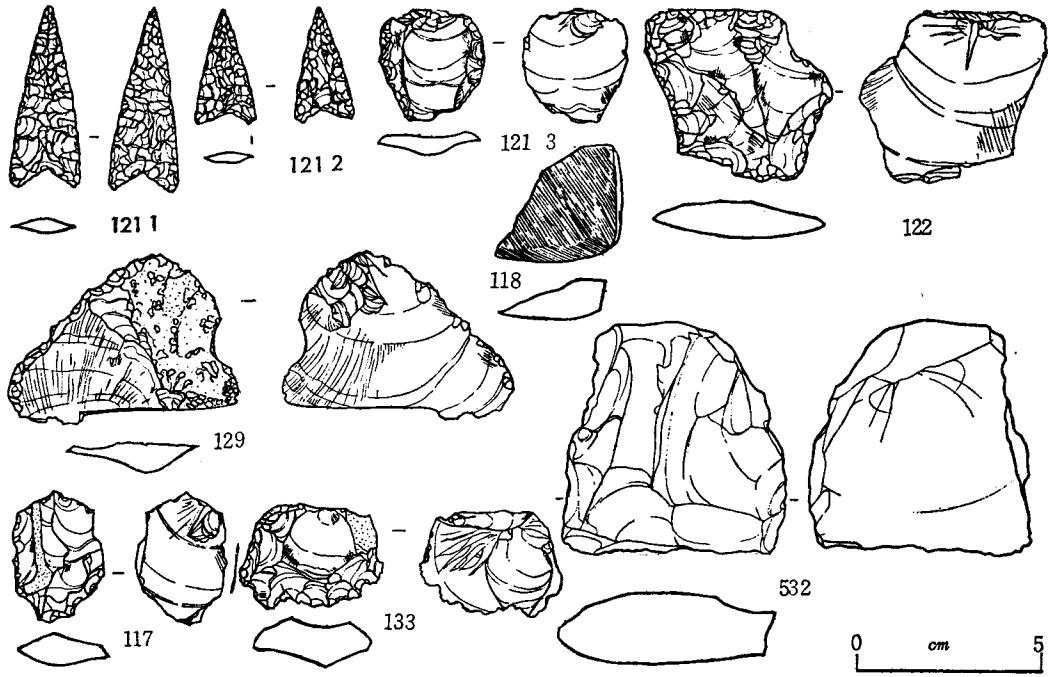
第177图 遺構出土石器実測図



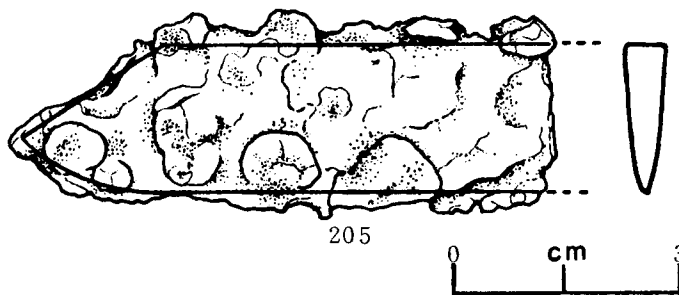
第178图 遺構出土石器実測図



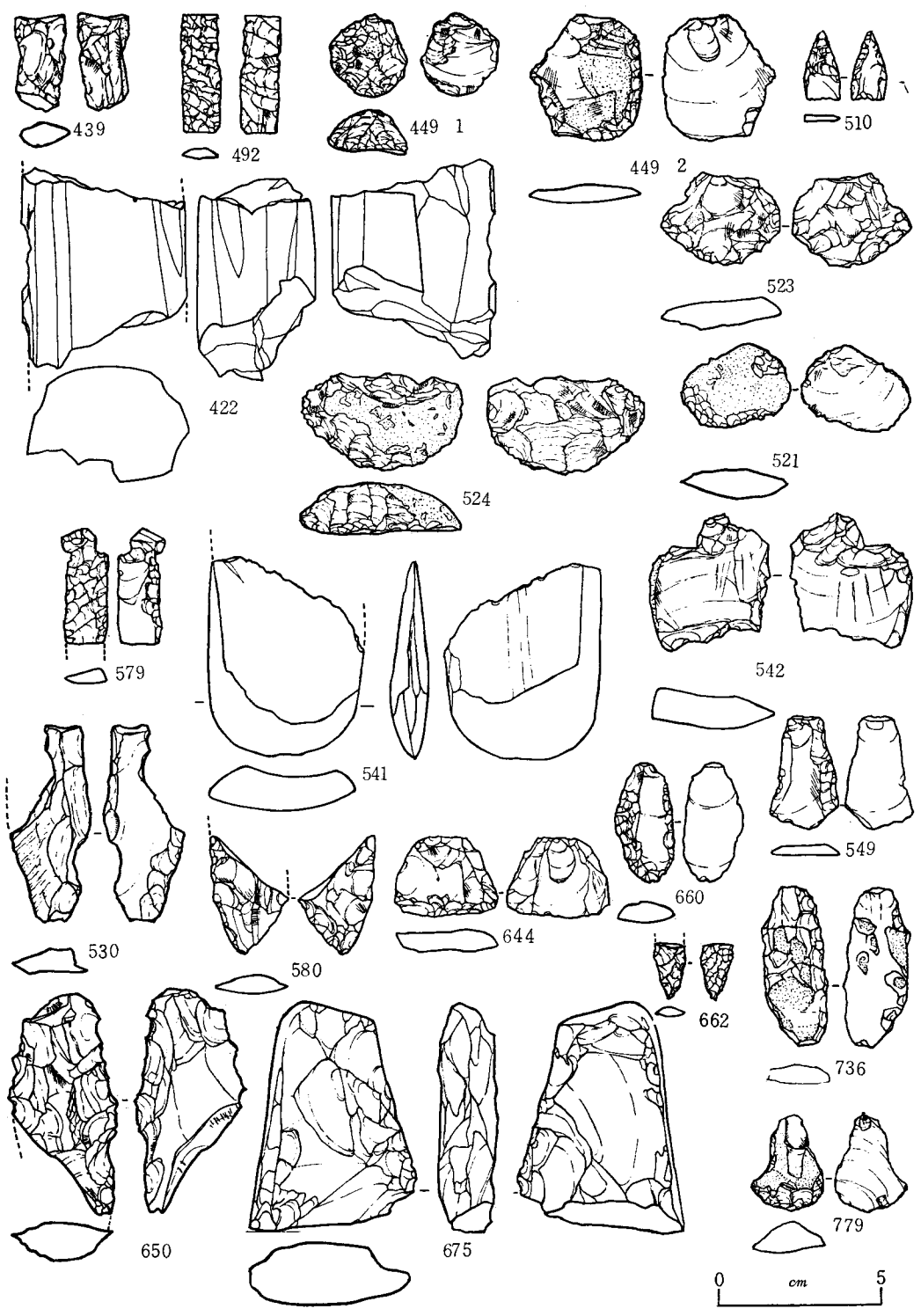
第179图 遺構出土石器実測図



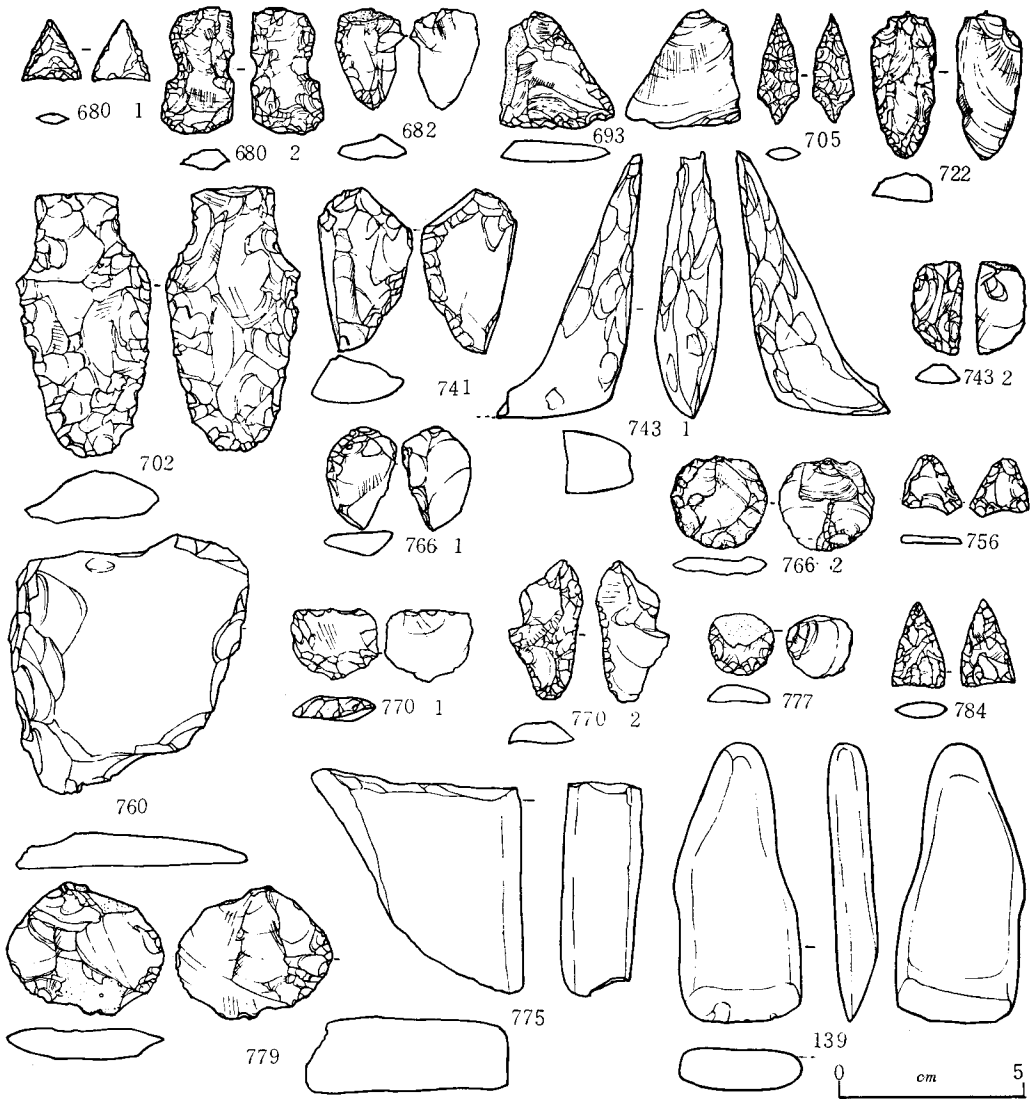
第180図 遺構出土石器実測図



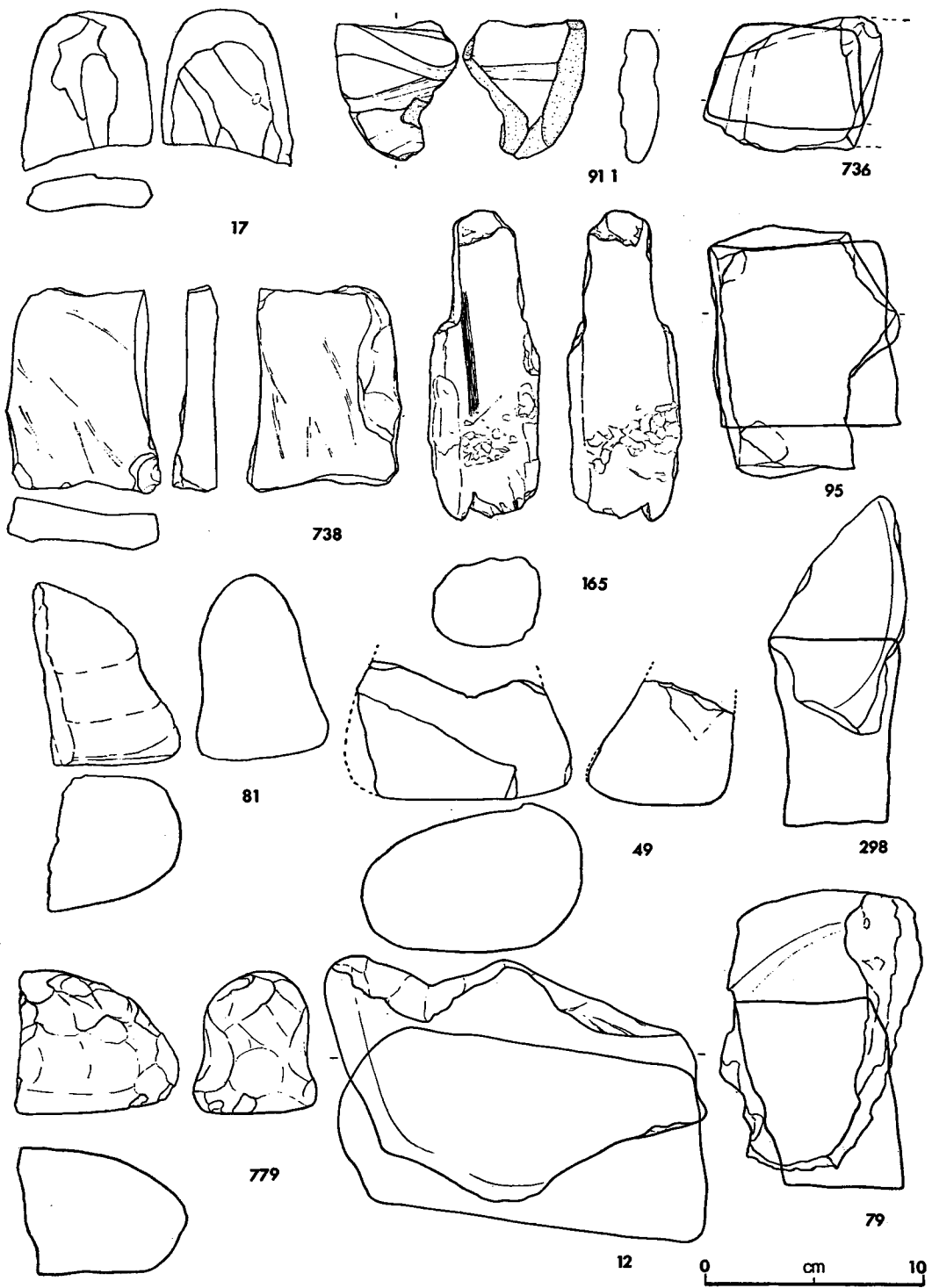
第188図 第205号ピット出土鉄器実測図



第181图 遺構出土石器実測図

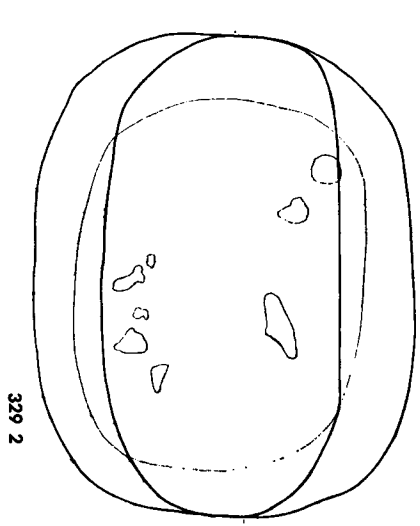


第182図 遺構出土石器実測図

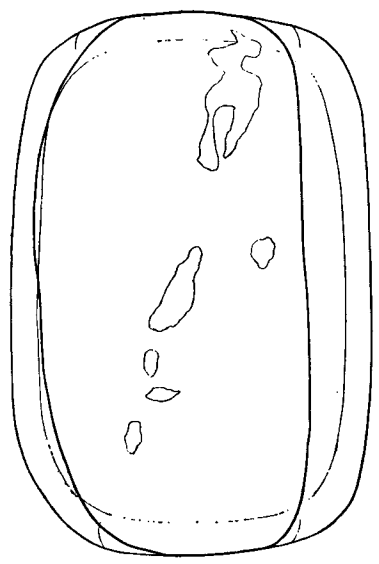


第183图 遺構出土石器実測図

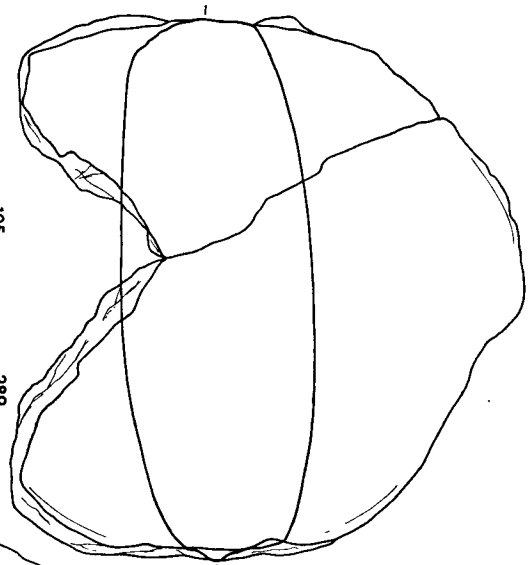
0
cm
10



329 2

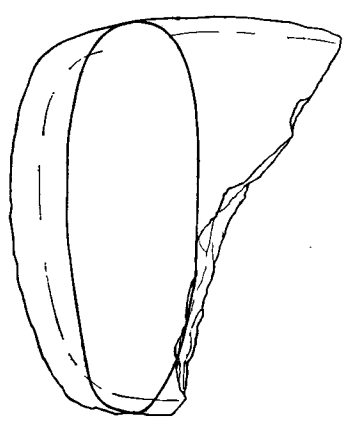


329 1

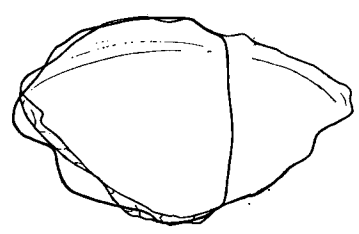


105

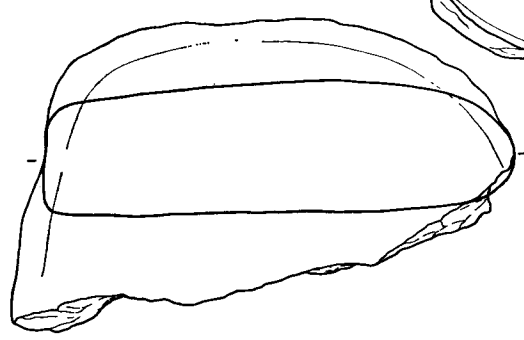
289



645

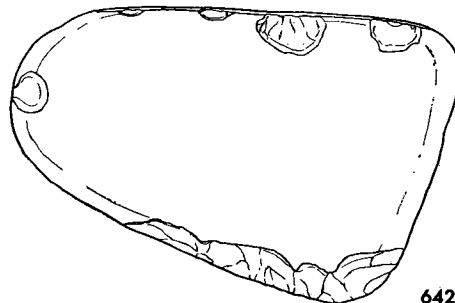
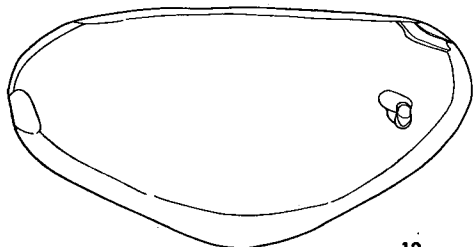
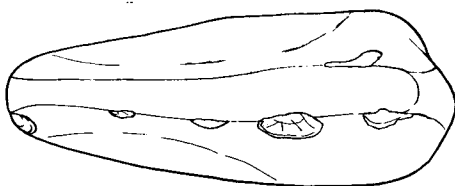
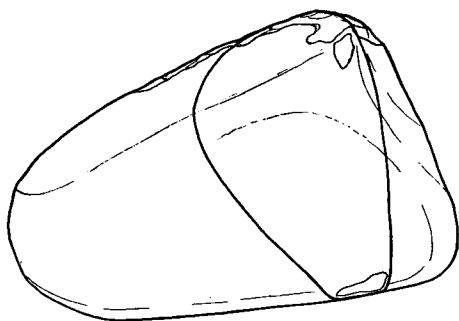
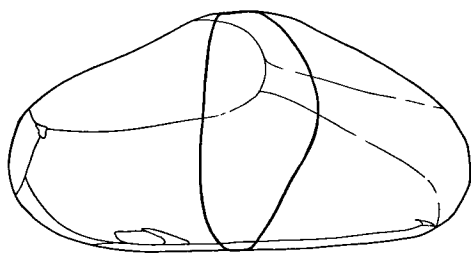


660



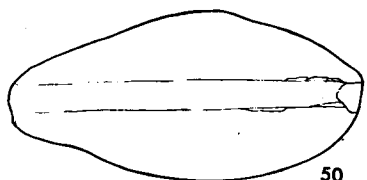
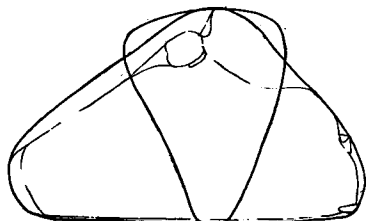
501

第184图 遺構出土石器実測图

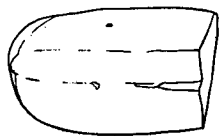
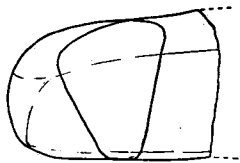
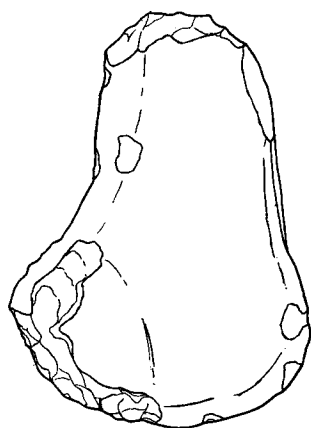
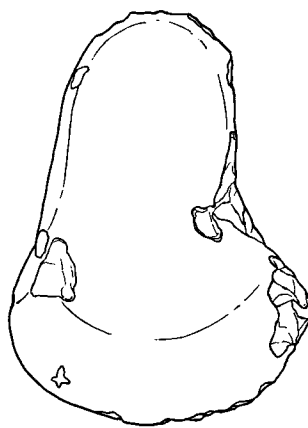


12

642



50



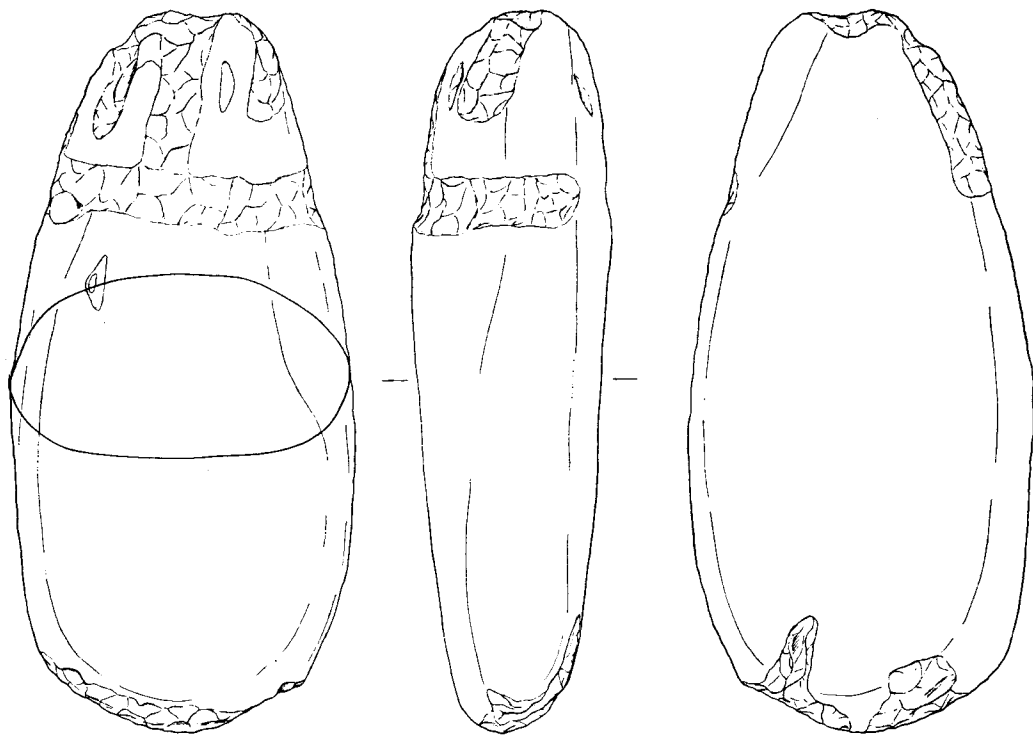
91 2



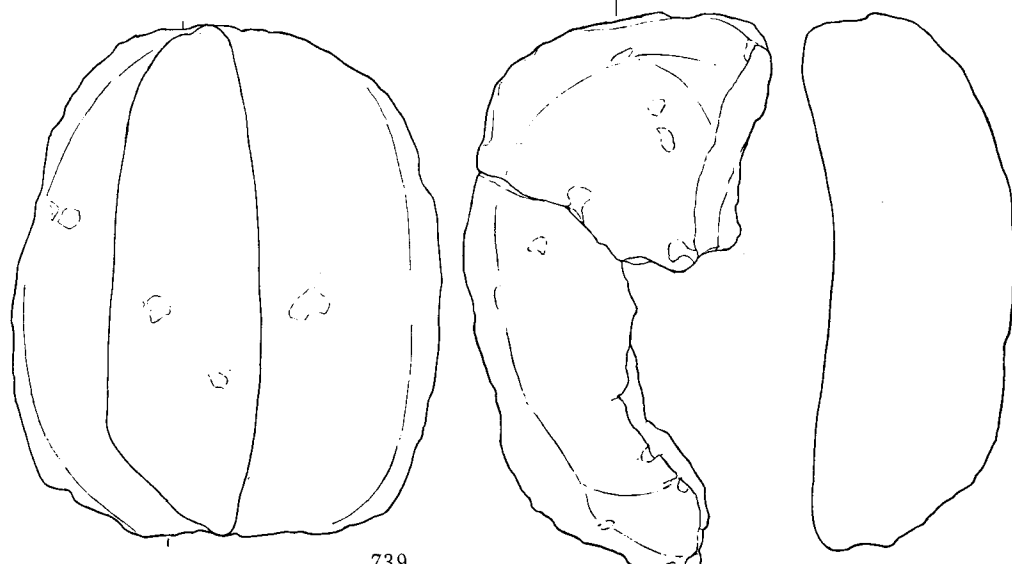
600

0 cm 10

第185图 遺構出土石器実測図



375

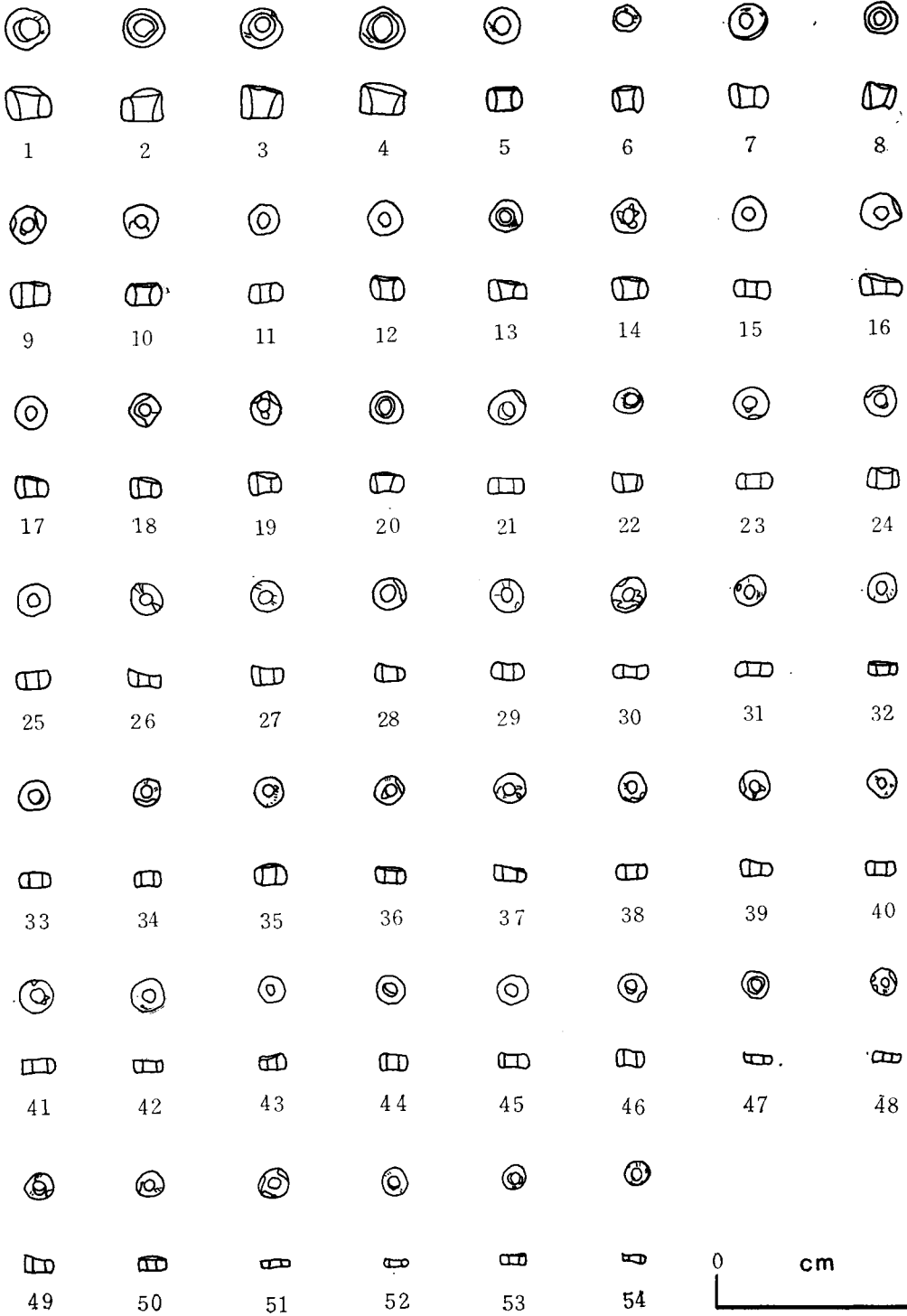


739

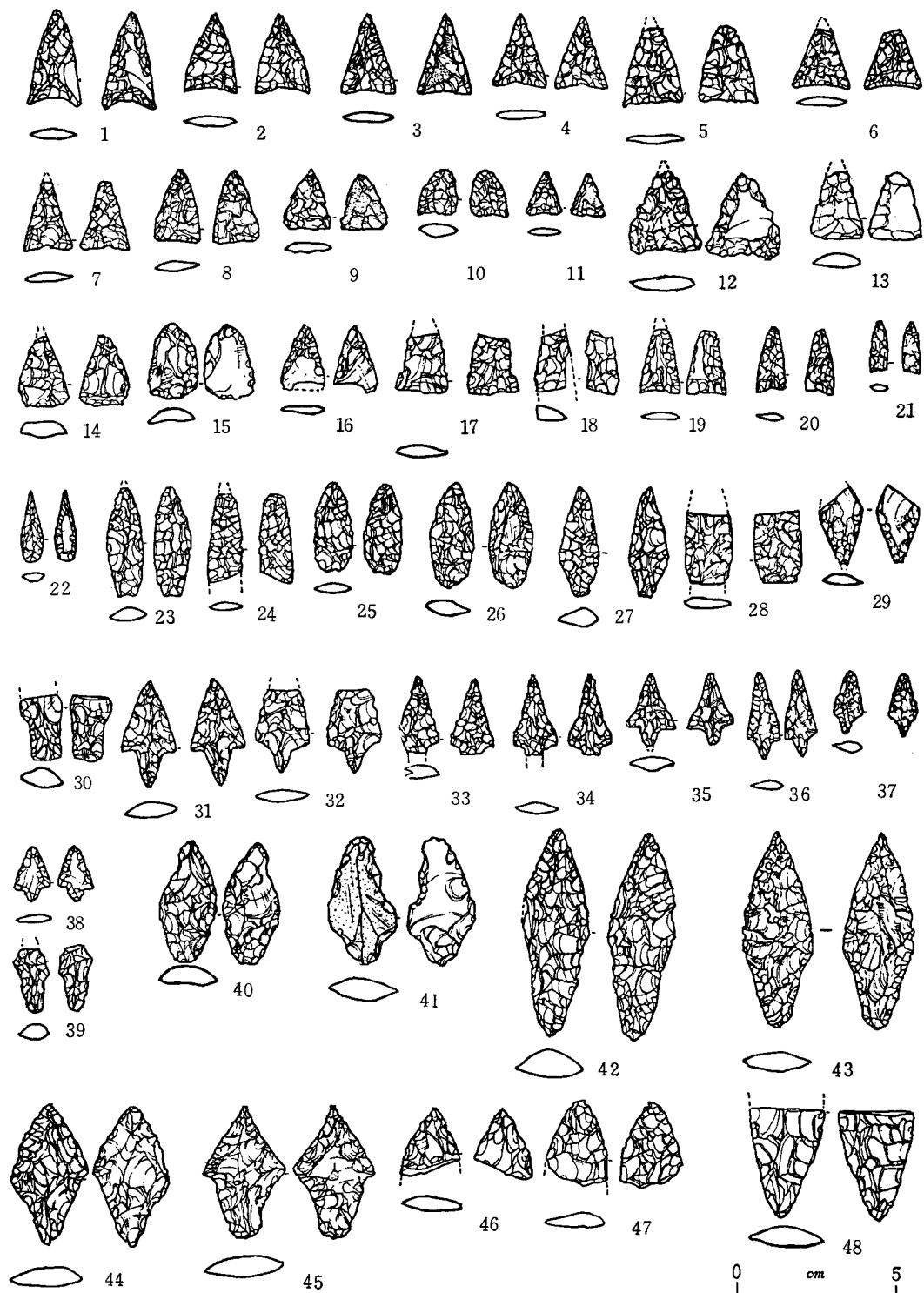
19

0 10cm

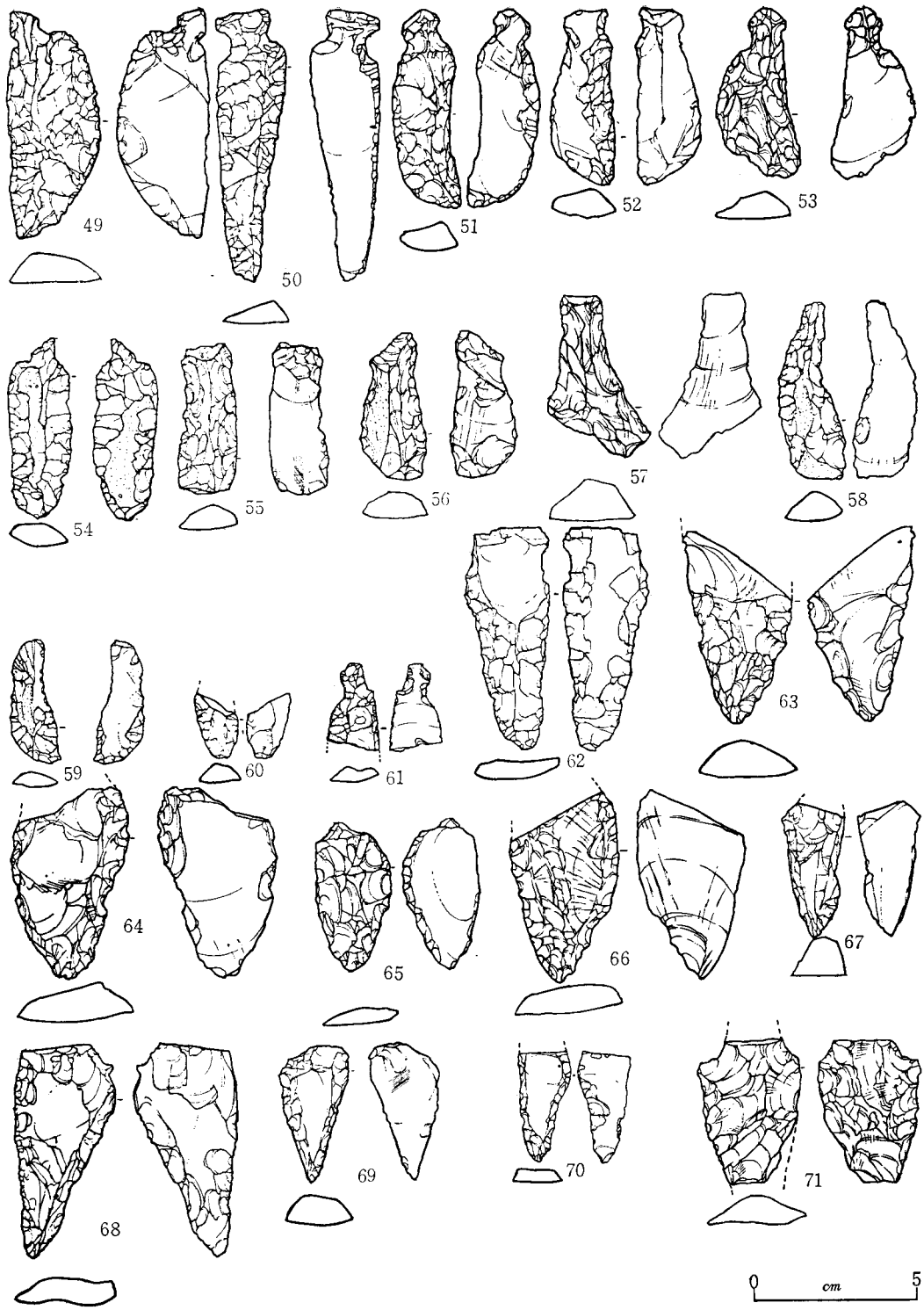
第186図 遺構出土石器実測図



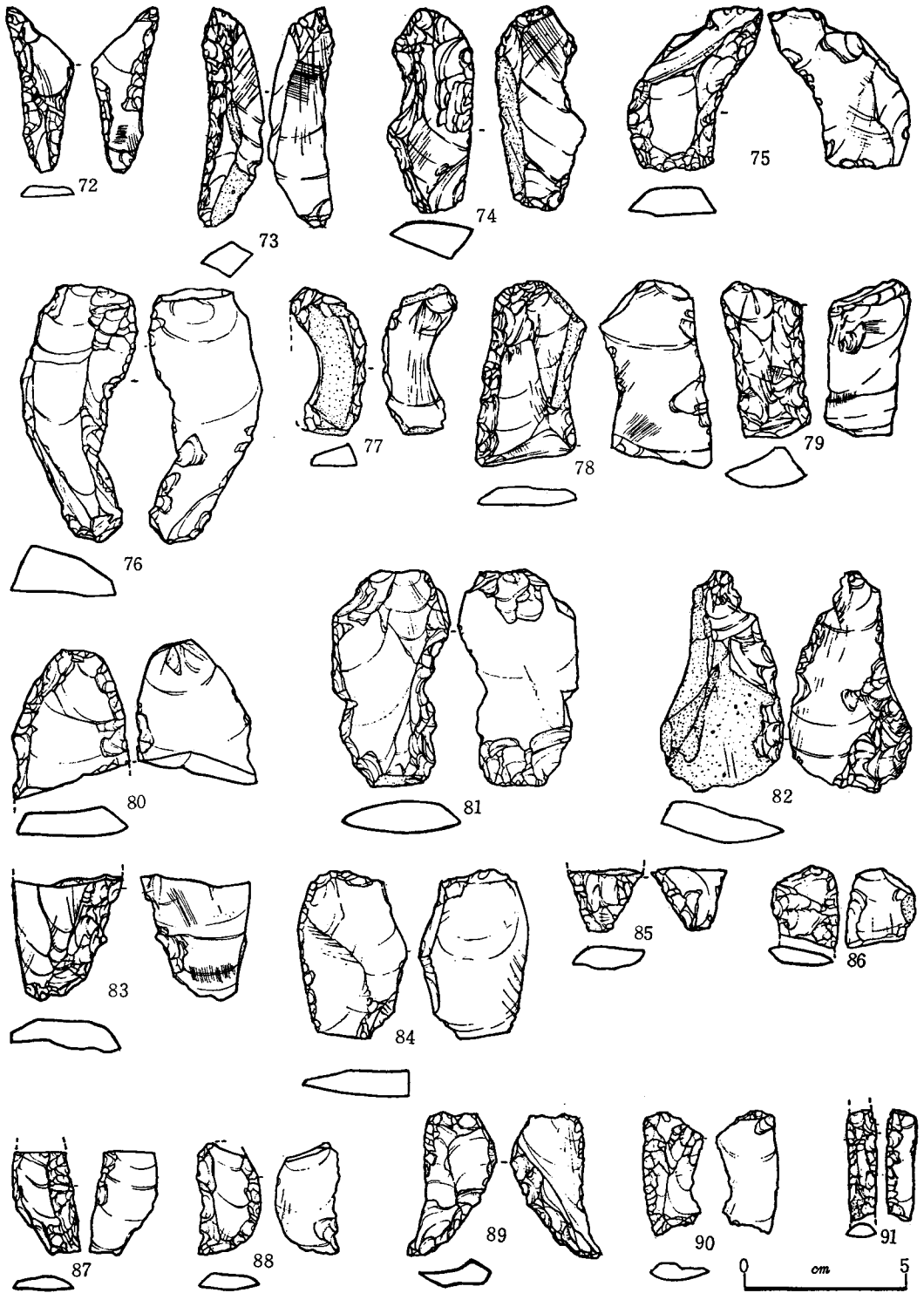
第187図 第502号ピット出土玉実測図



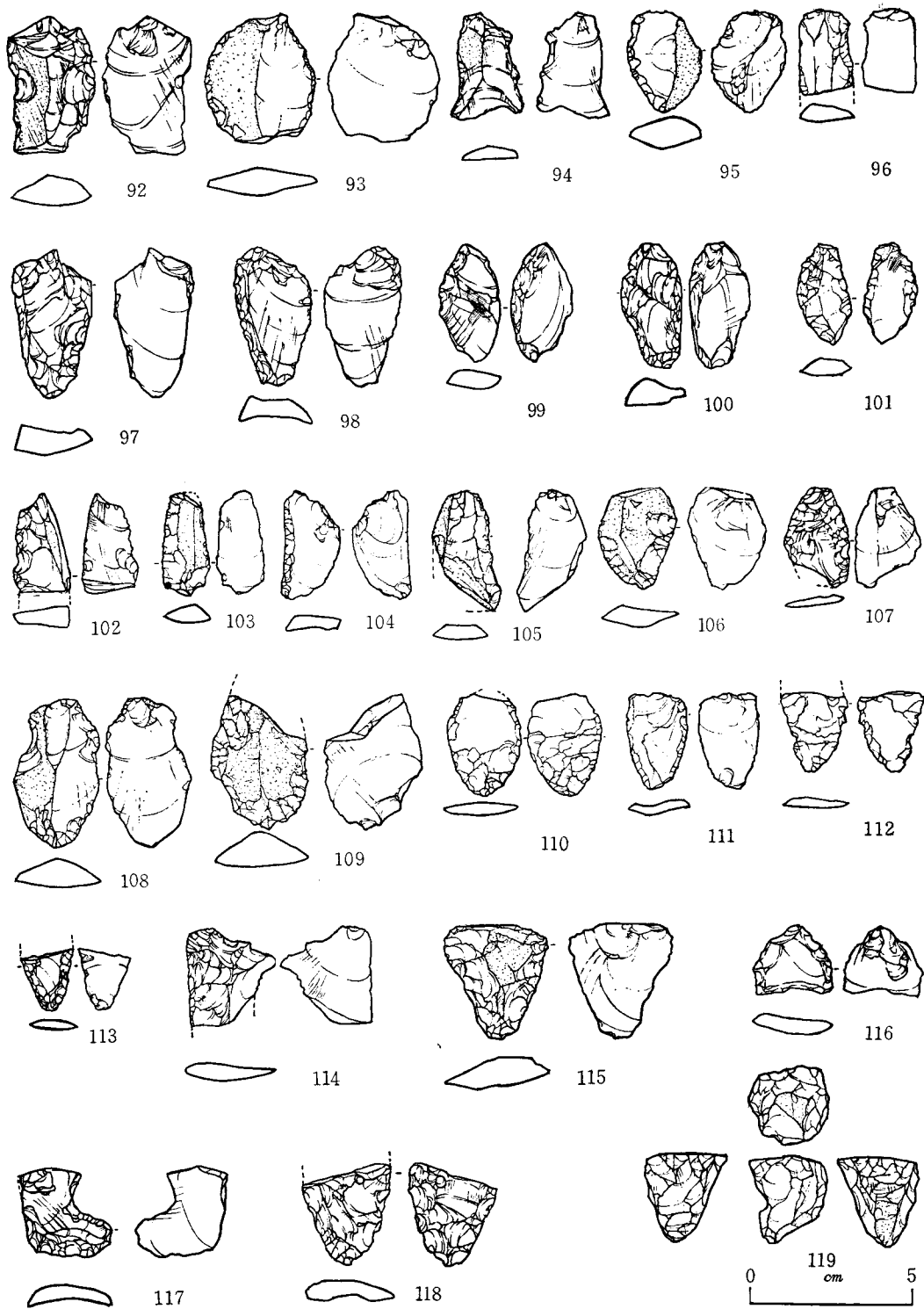
第189图 尧掘区出土石器实测图



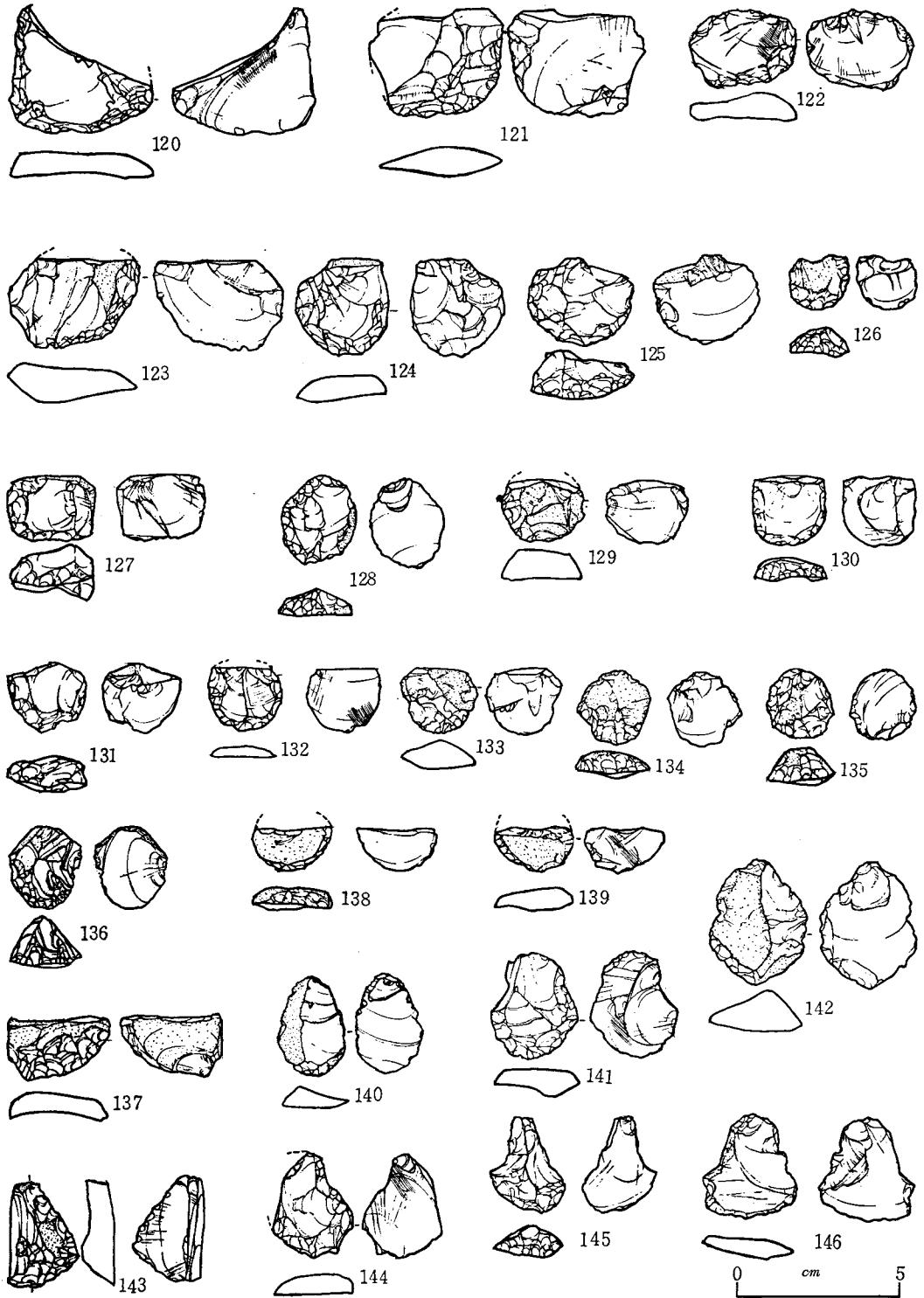
第190图 発掘区出土石器実測図



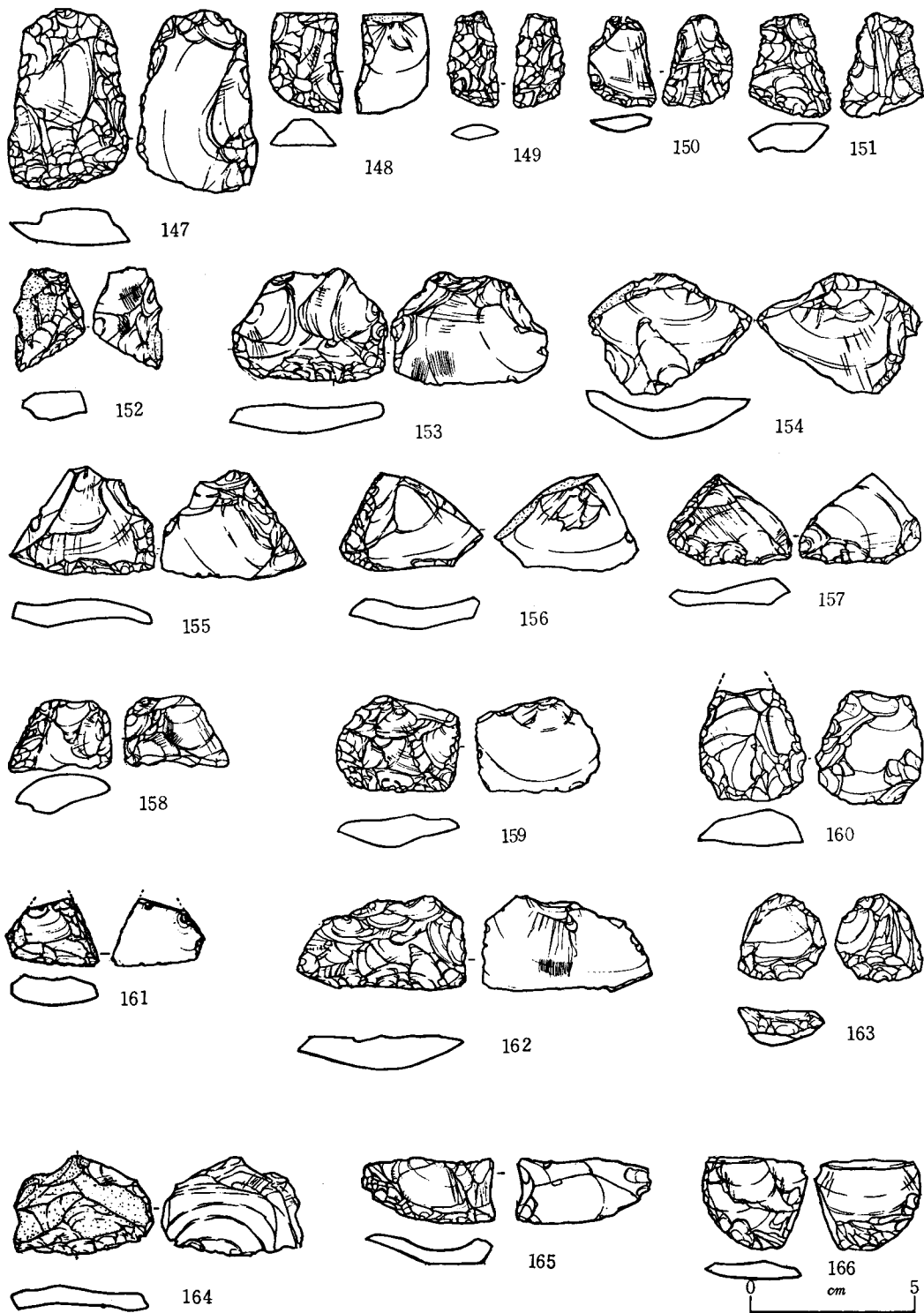
第191图 発掘区出土石器実測図



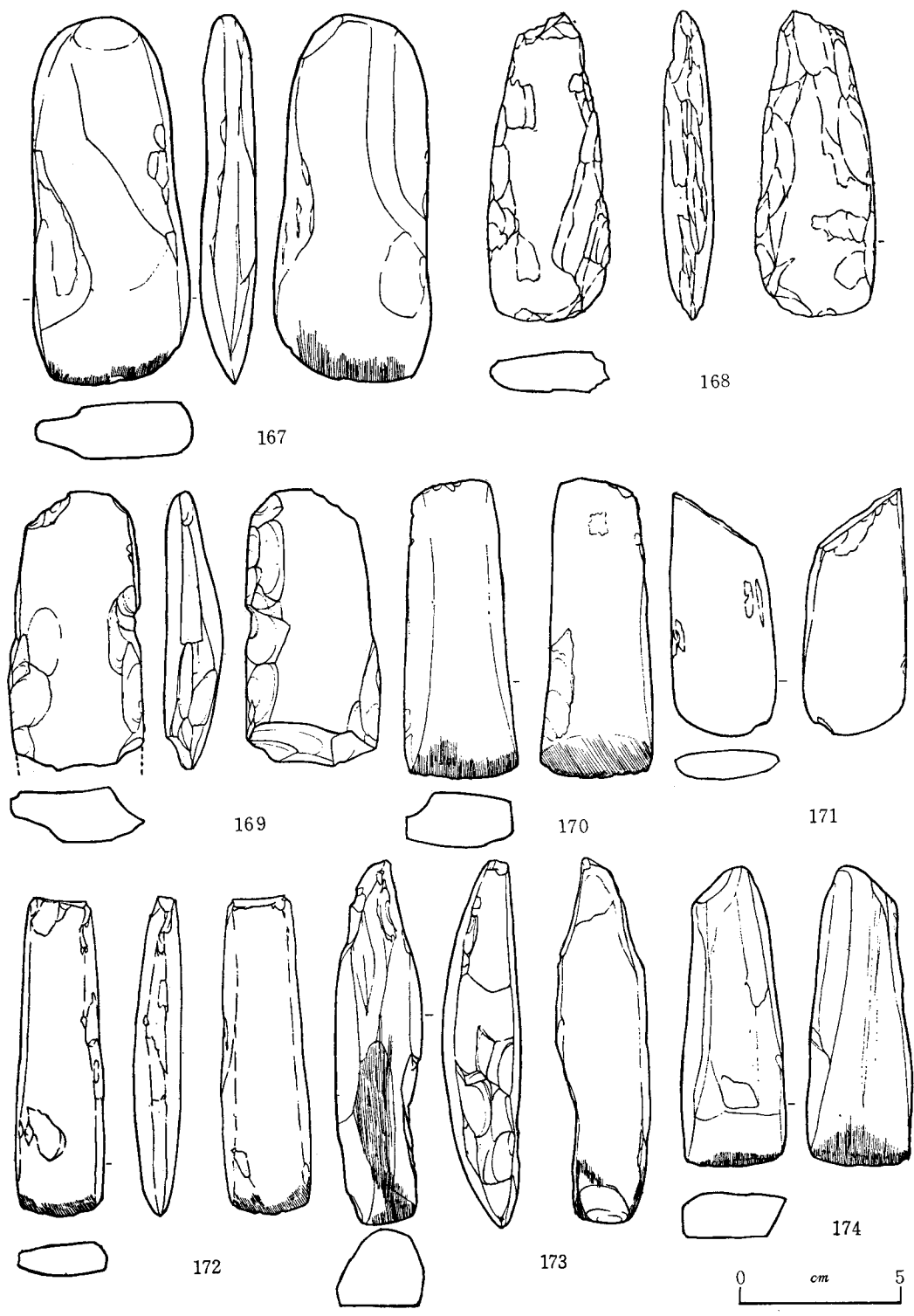
第192图 尧掘区出土石器实测图



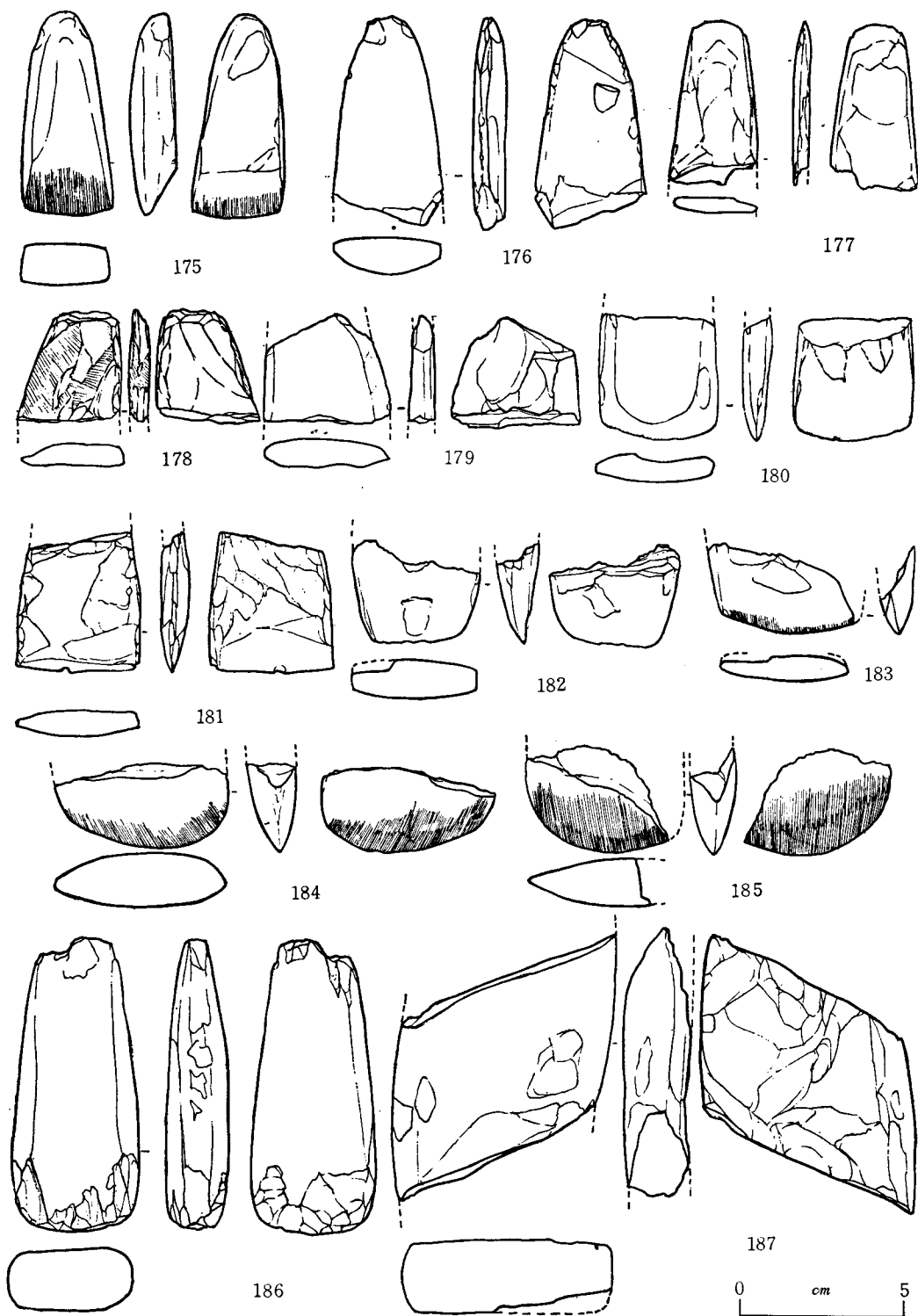
第193图 发掘区出土石器实测图



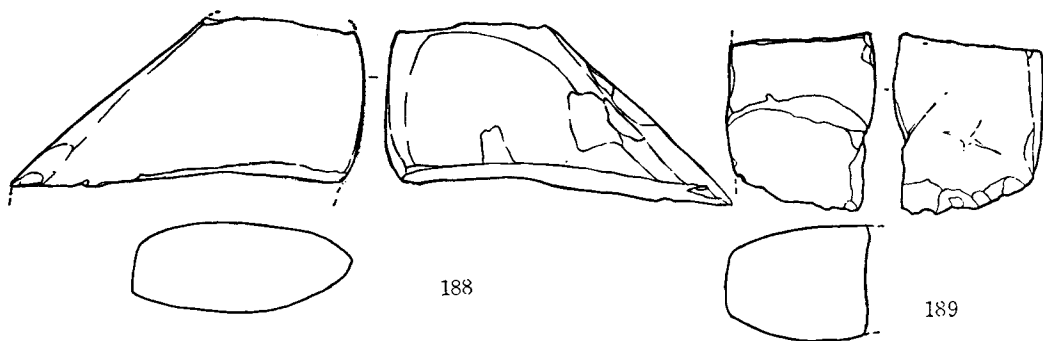
第194图 发掘区出土石器实测图



第195图 发掘区出土石器实测图

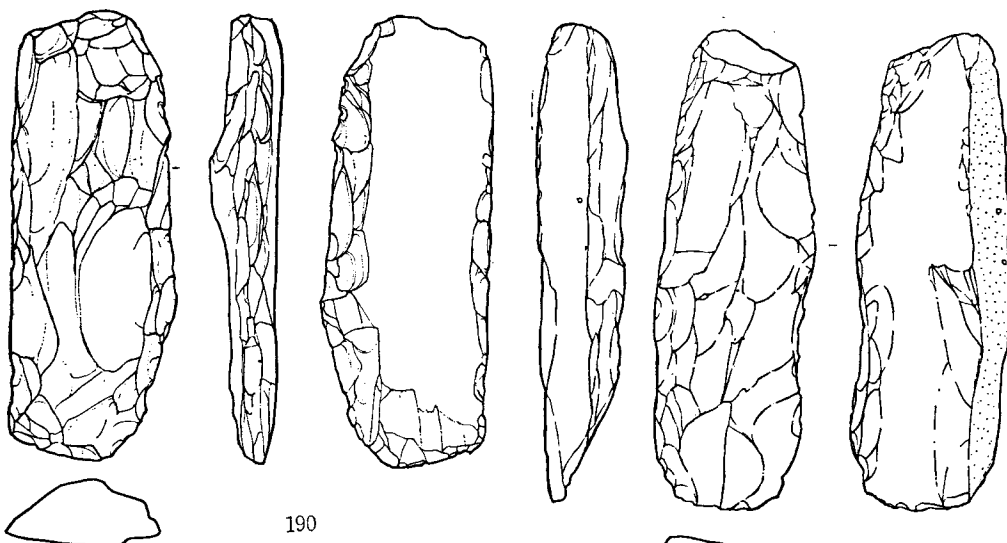


第196图 发掘区出土石器实测图



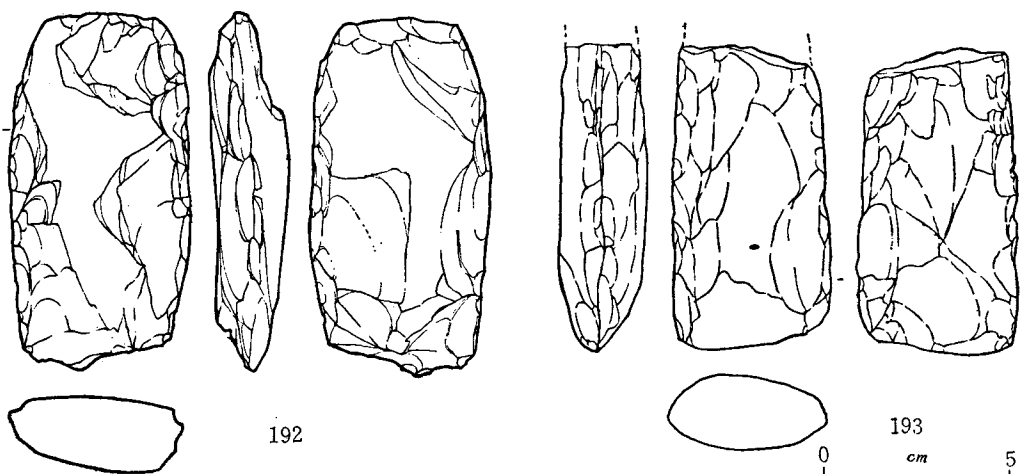
188

189



190

191

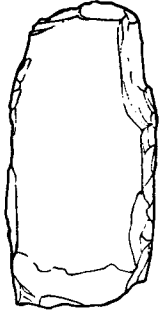


192

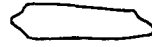
193

0 cm 5

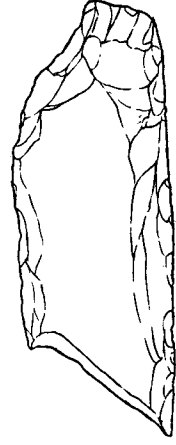
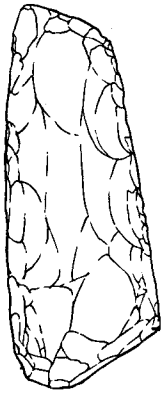
第197图 尧掘区出土石器实测图



194



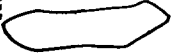
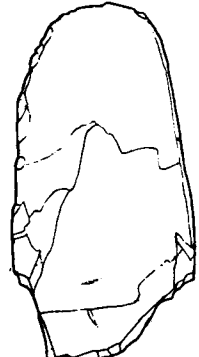
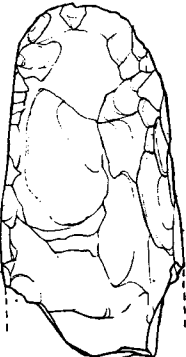
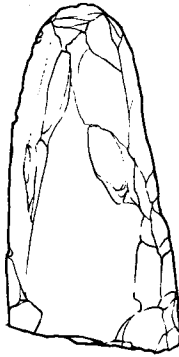
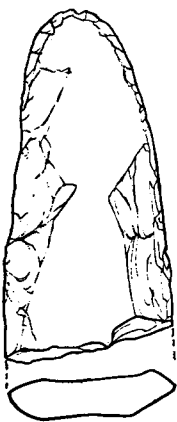
195



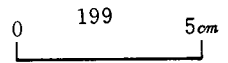
196



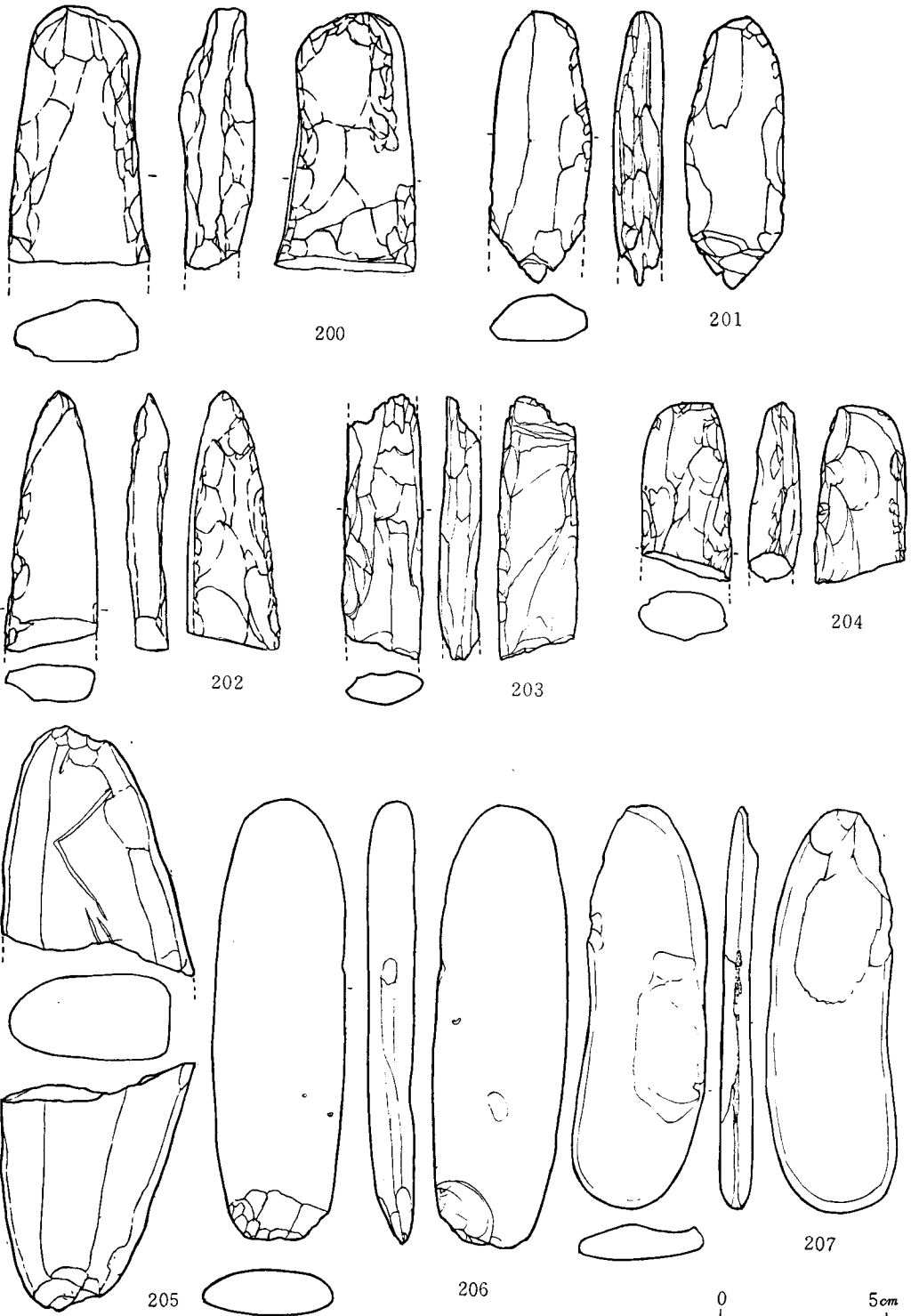
197



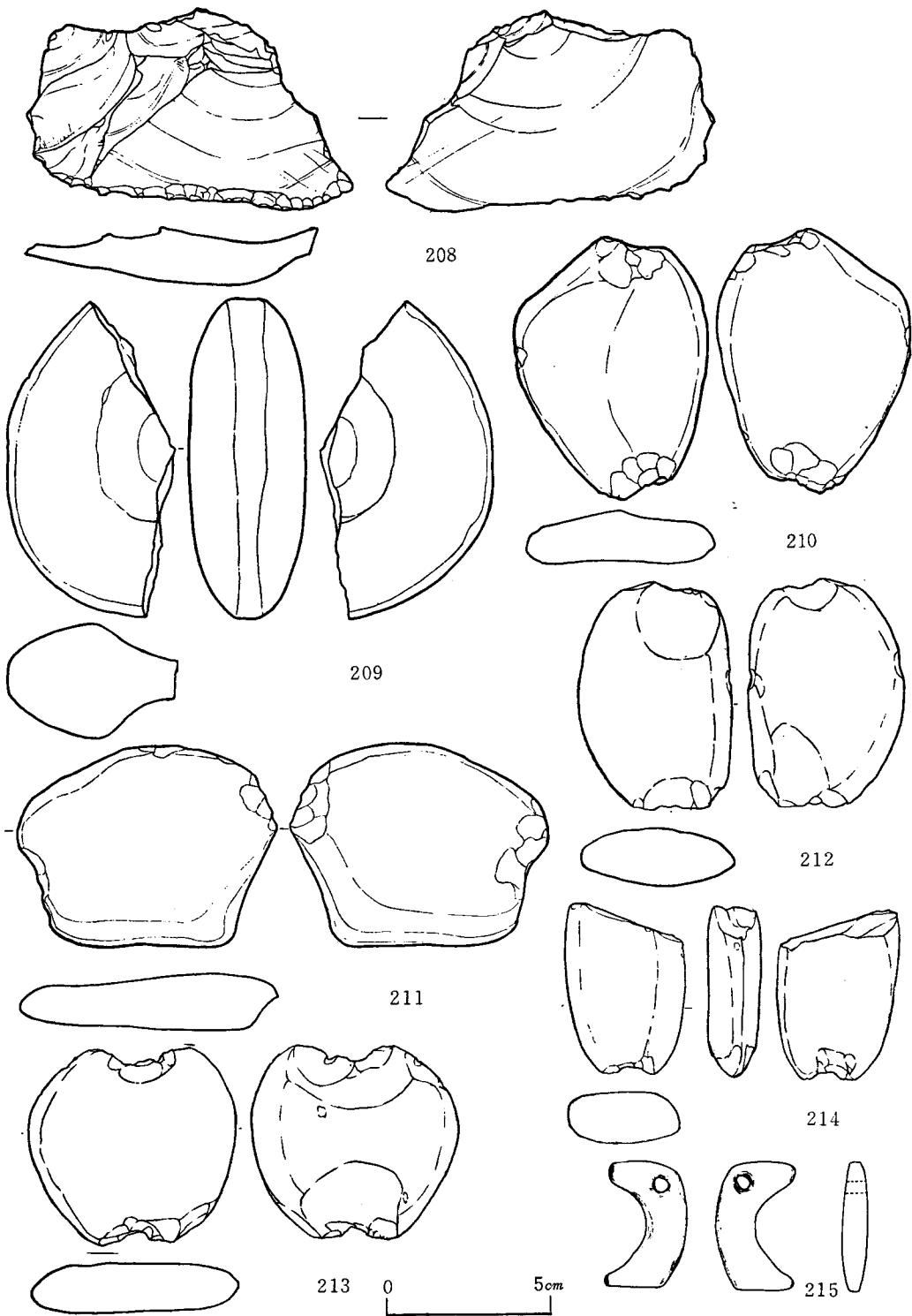
198



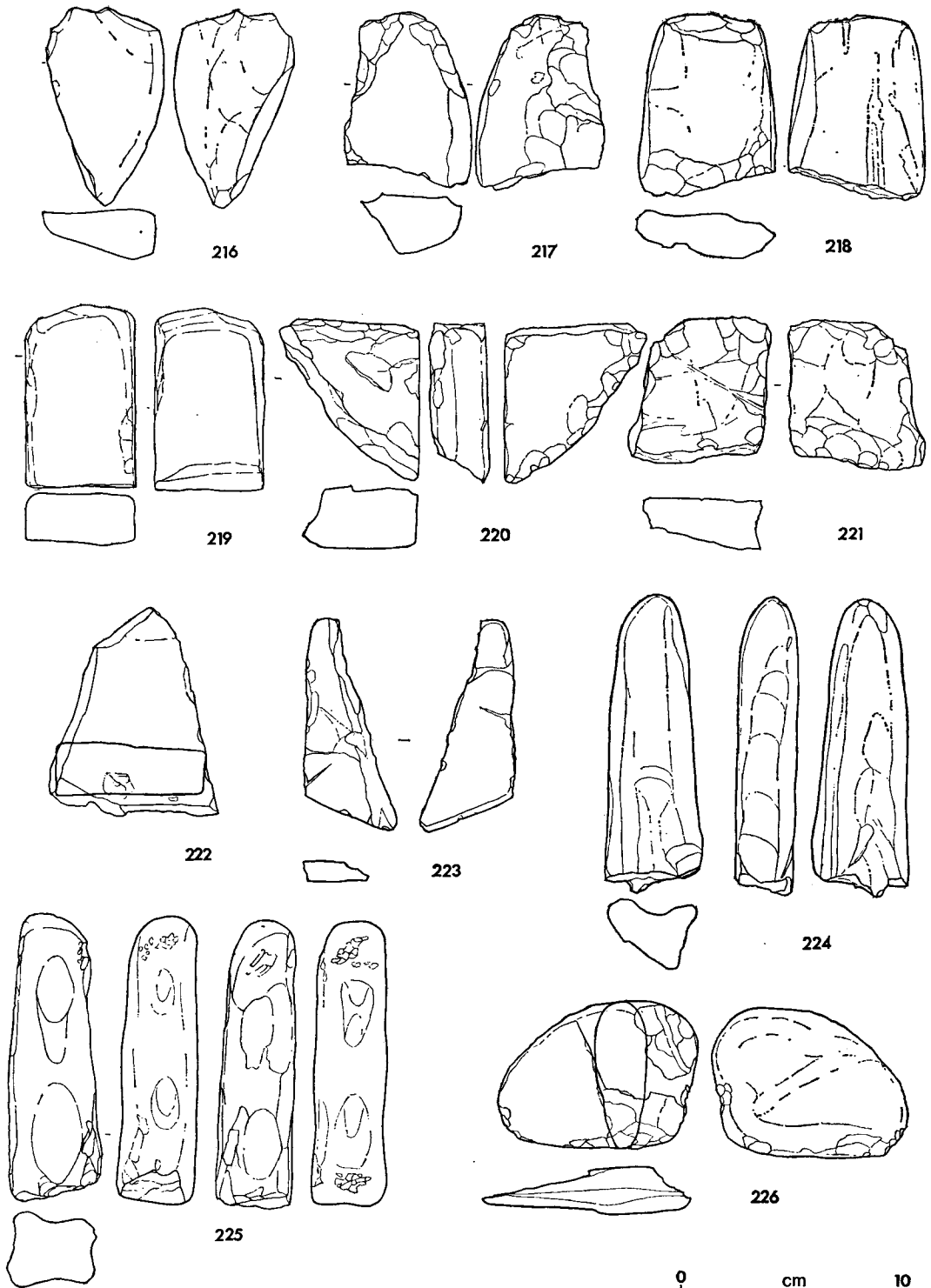
第198图 发掘区出土石器实测图



第199图 発掘区出土石器実測図

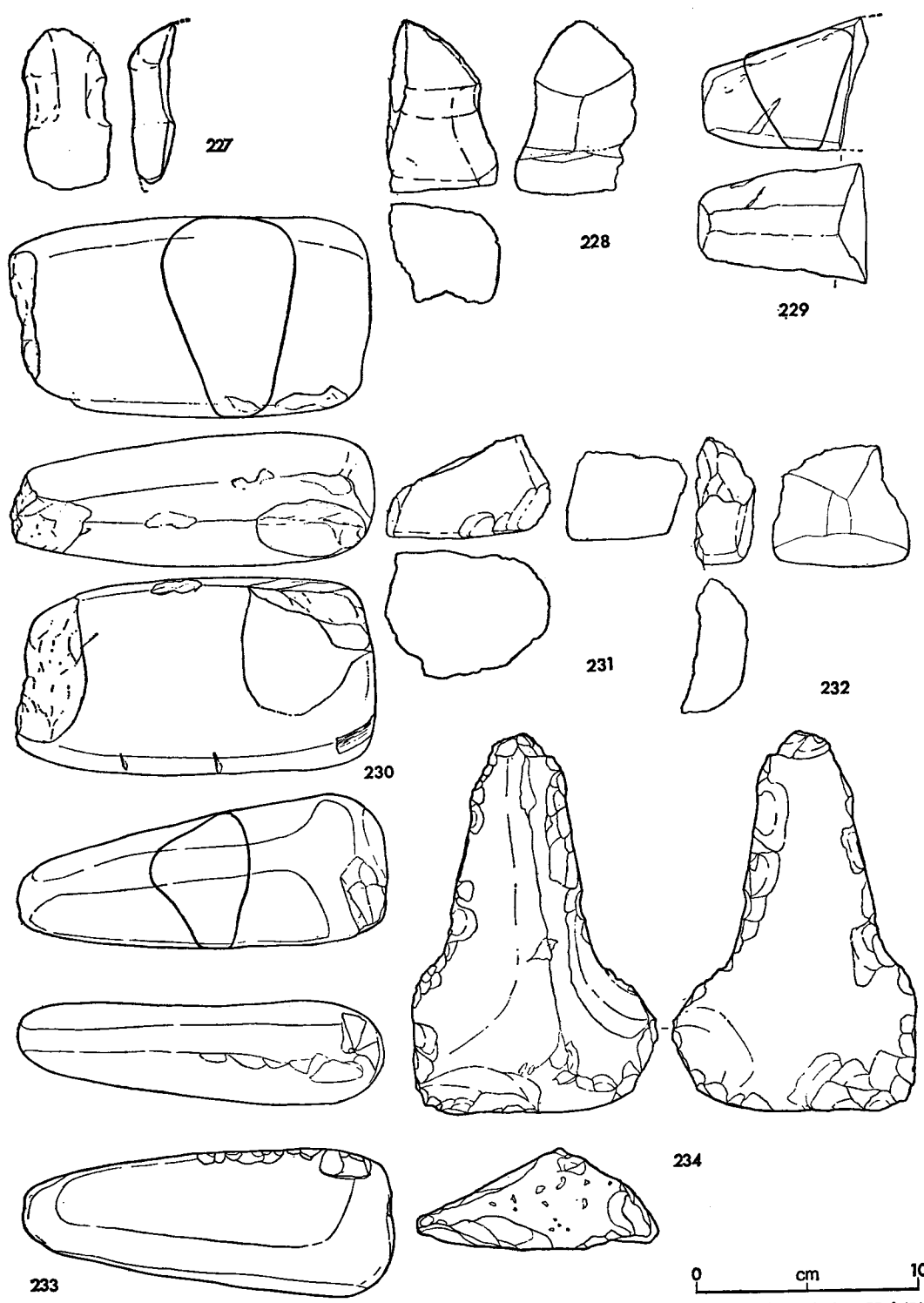


第200图 尧掘区出土石器实测图



0 cm 10

第201图 发掘区出土石器实测图



0 cm 10
第202图 发掘区出土石器实测图



遺跡全景 (昭和48年発掘終了時)



発掘遺構全景（昭和48年発掘終了時点）



遺跡近景



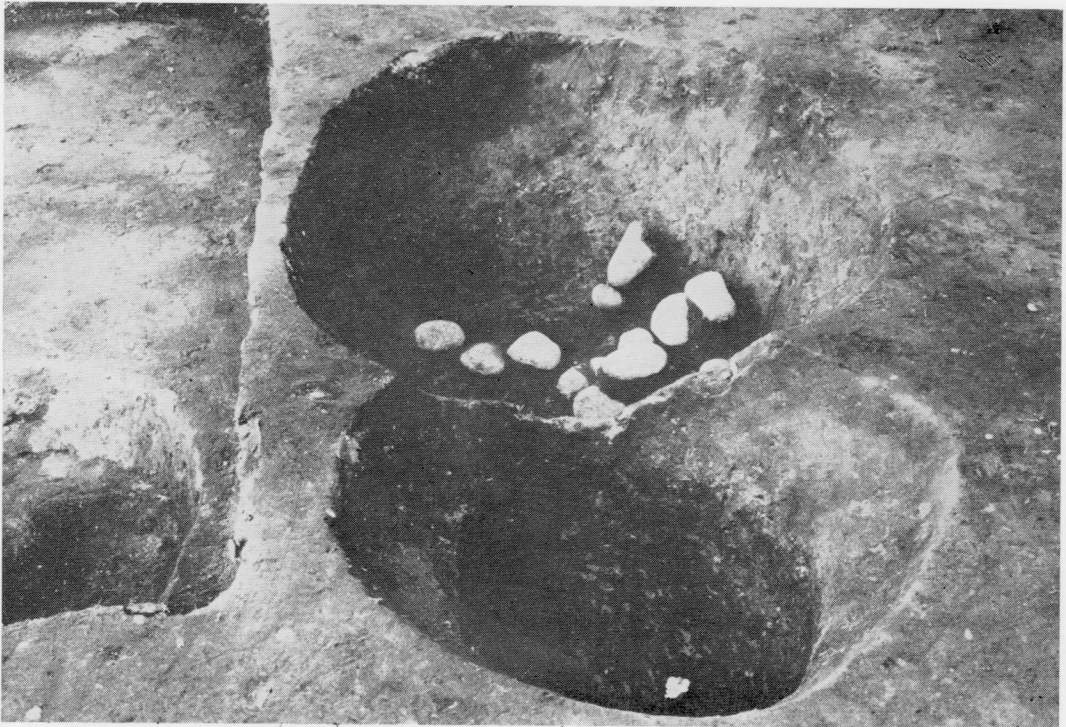
第32号ピット



第41号ピット



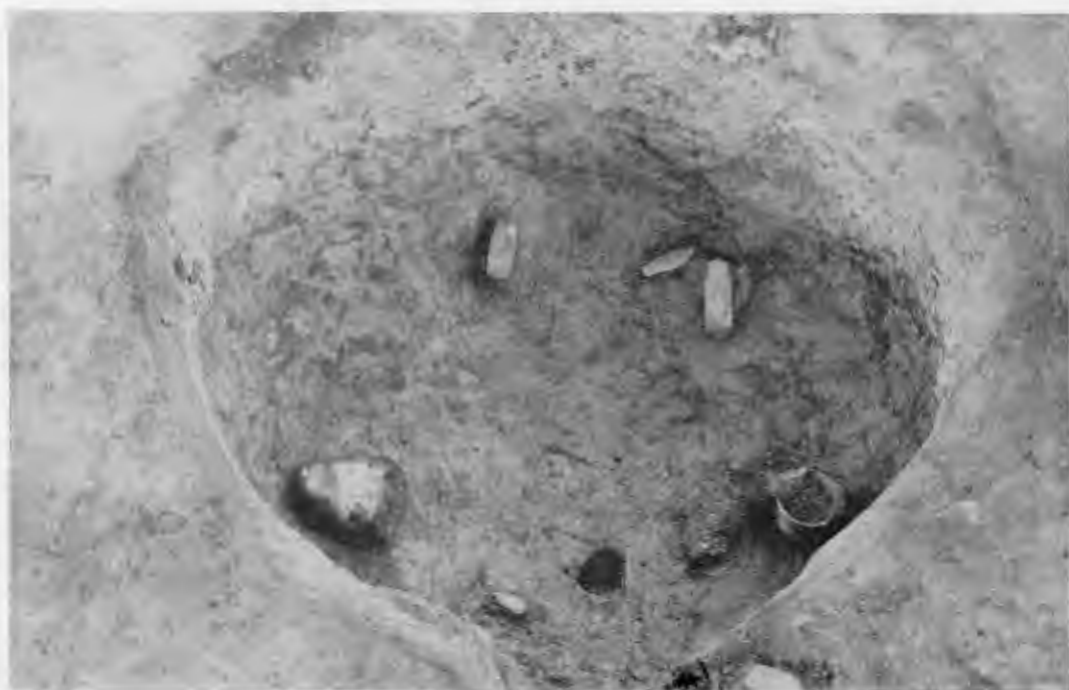
第51, 53, 54, 55号ピット



第47, 52号ピット



第91号ビットセクション



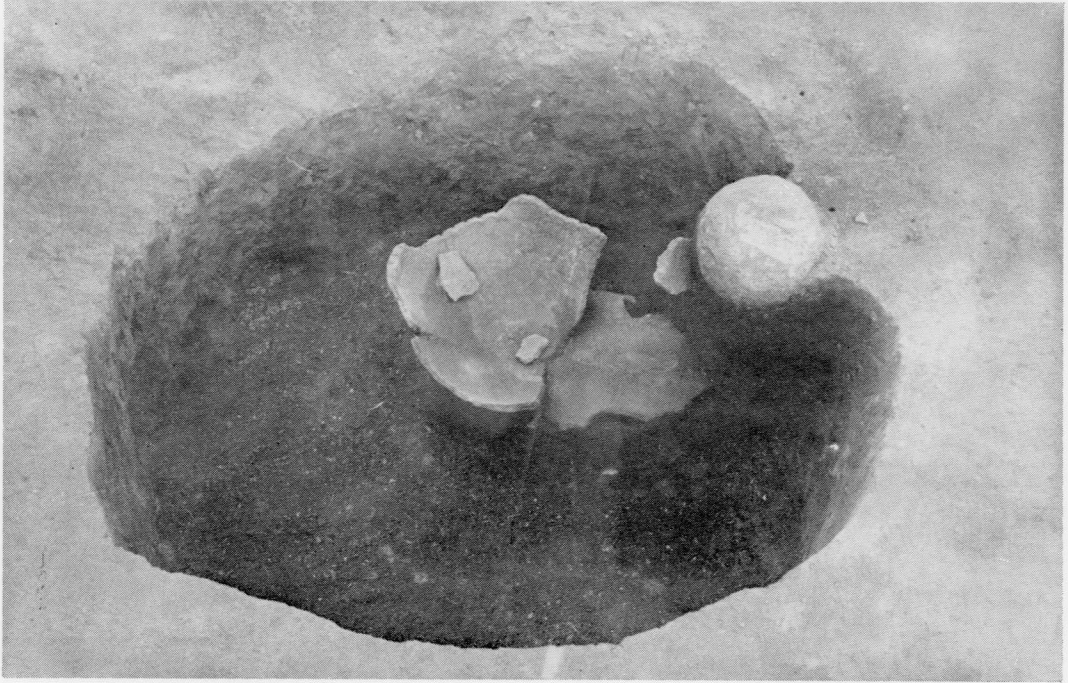
第91号ビット



第91, 96号ビット



第155, 156, 169号ビット



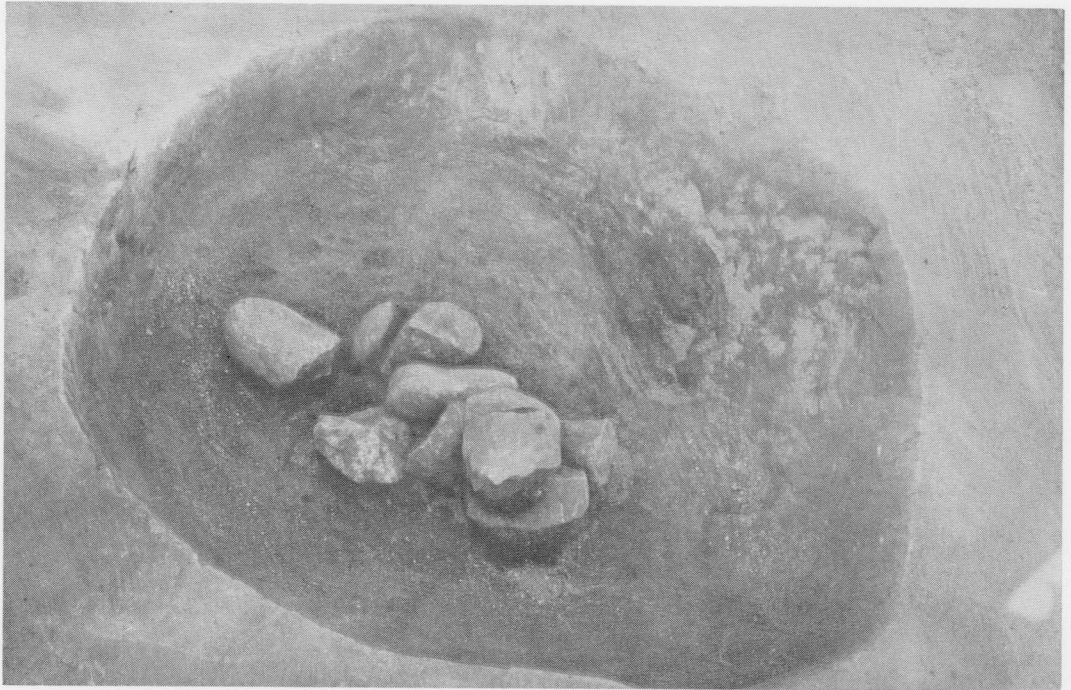
第158号ピット



第162, 163, 164, 165, 170, 193号ピット



第167号ピット



第179号ピット



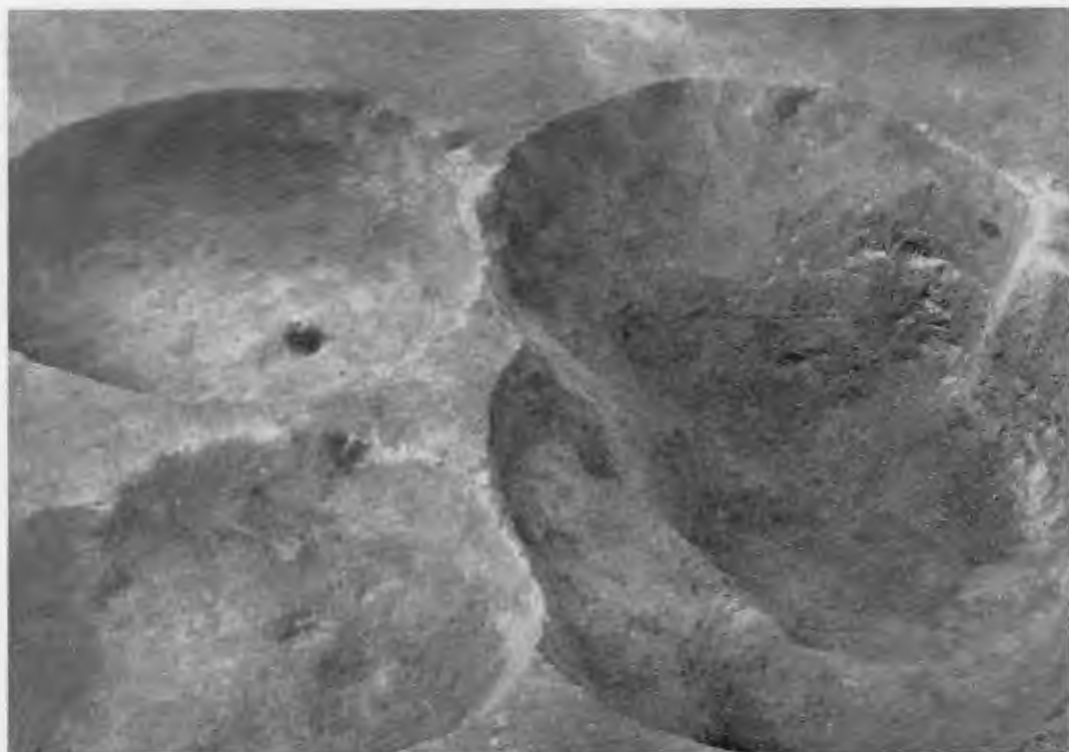
第200号ピット



第200, 210, 214~221号ピット



第205, 206, 207号ピット



第222, 223, 224号ピット



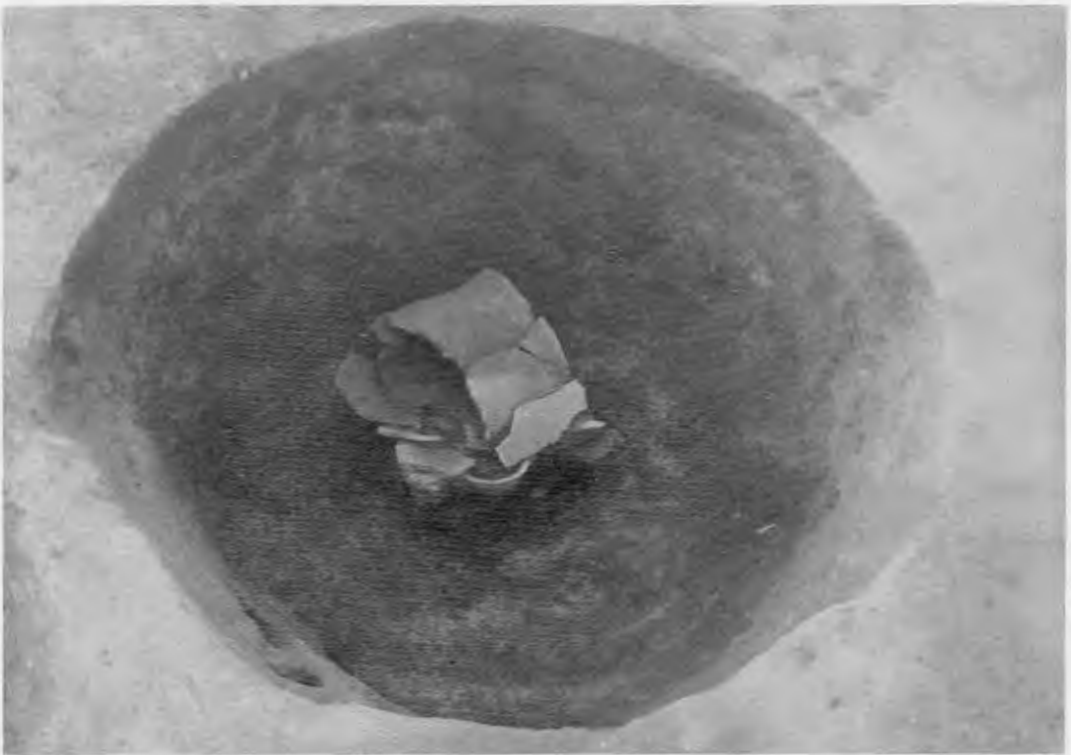
第235号ビット



第241, 242, 243号ビット



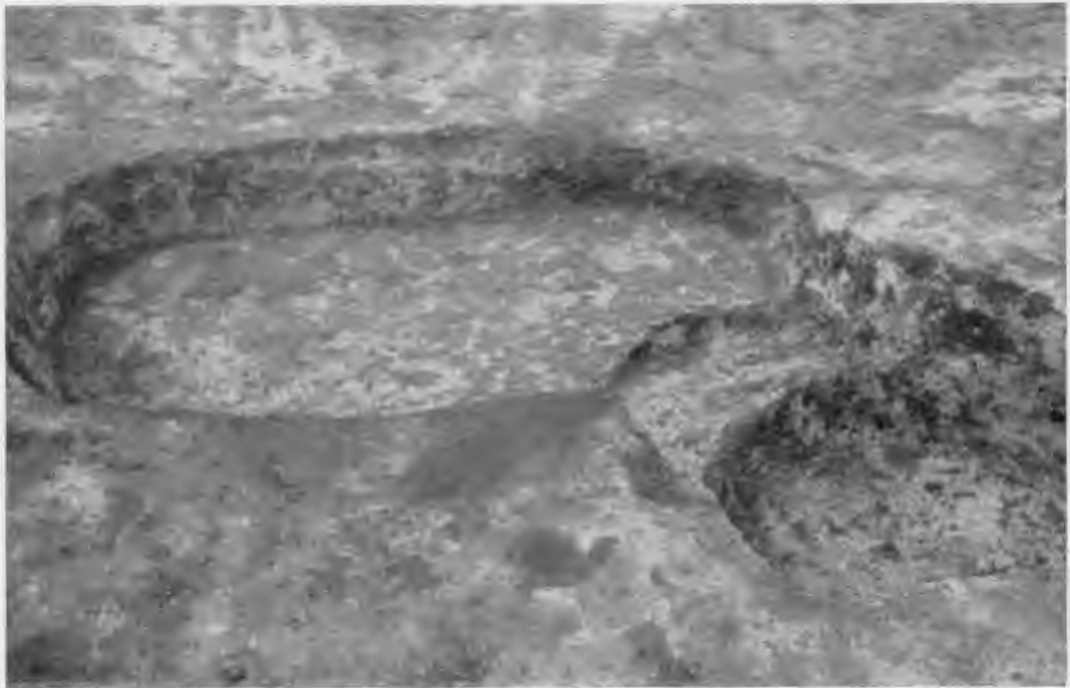
第253号ピットセクション



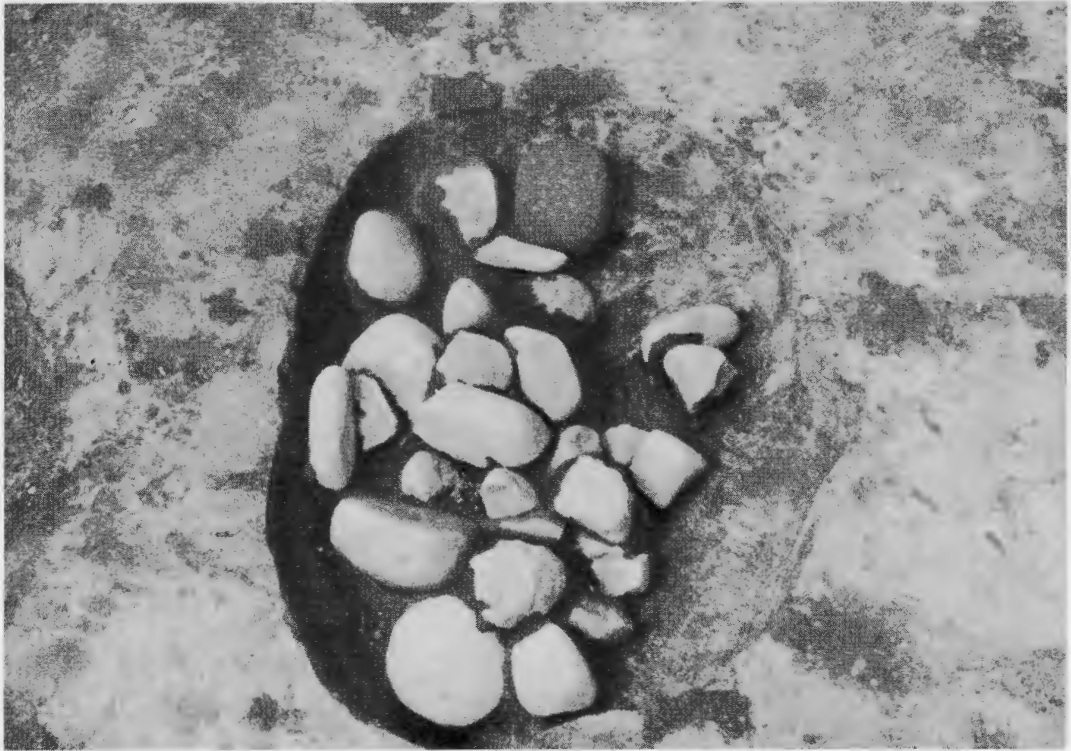
第253号ピット



第296, 297, 298, 299, 300号ピット



第306, 307, 308号ピット



第329号ピット



第350, 351号ピット



第352, 353号ピット



第360, 361, 362号ピット



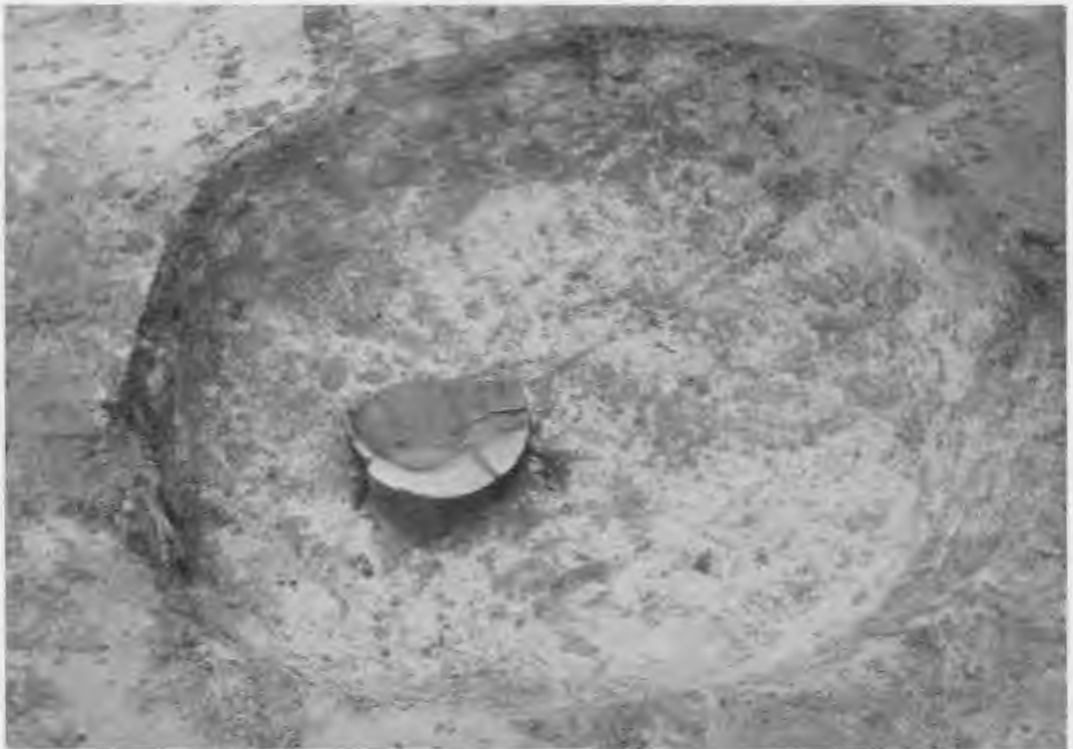
第364, 374号ピット



第371号ピット



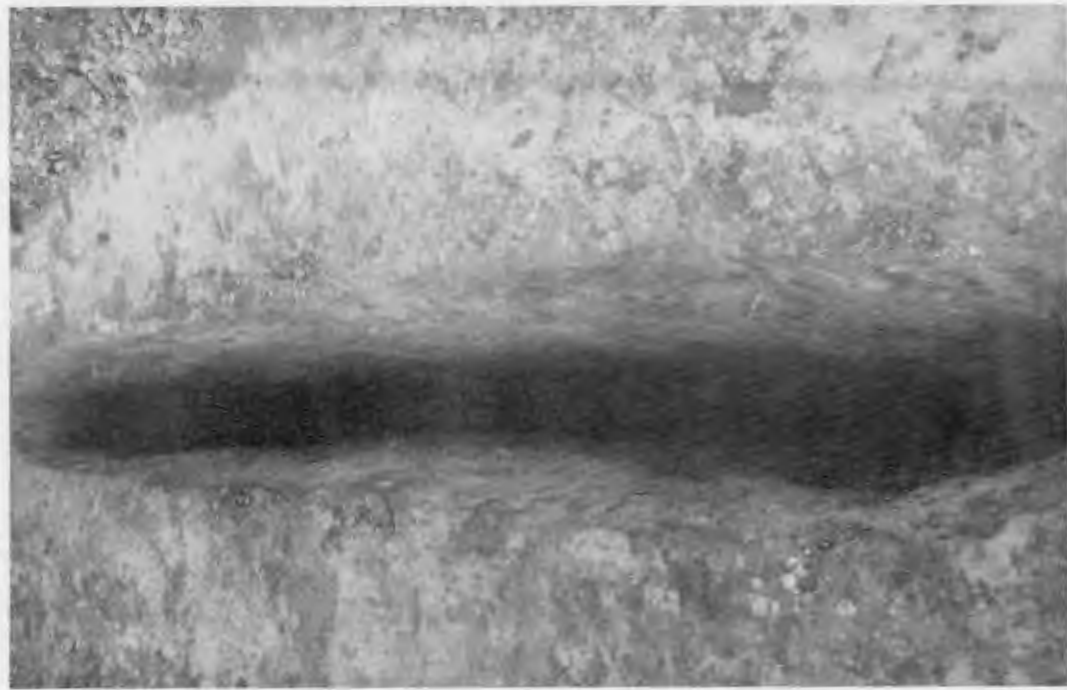
第383号ピットセクション



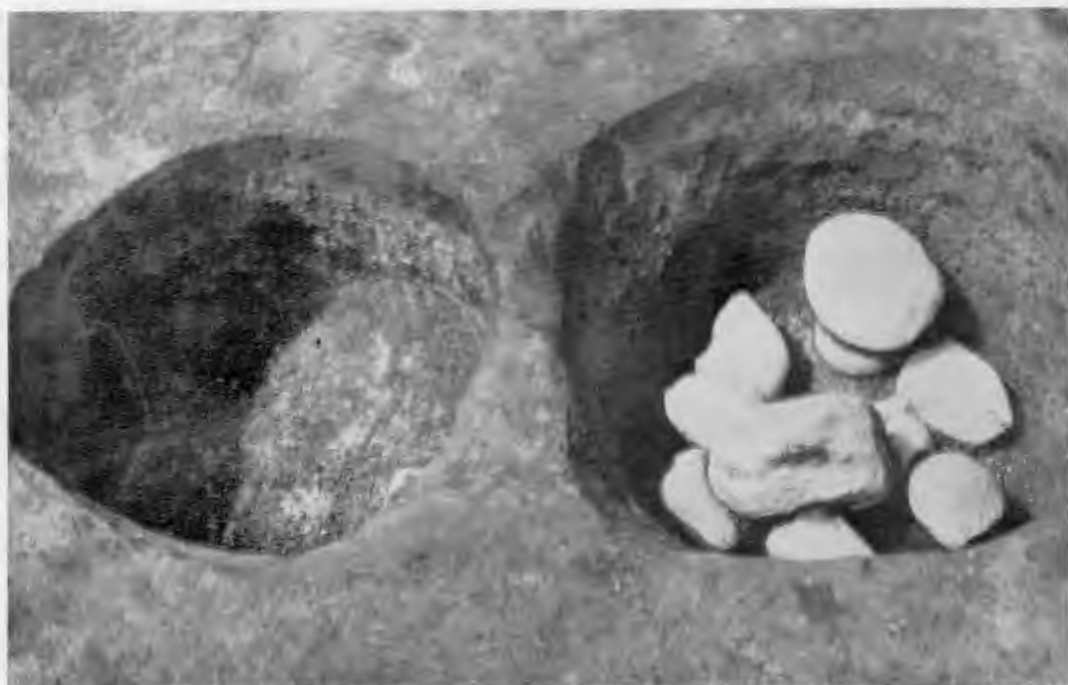
第383号ピット



第403号ピット



第416号ピット



第412, 413号ピット



第476号ピット



第502号ビット



第502号ビットセクション



第613号ビット



第523号ビット



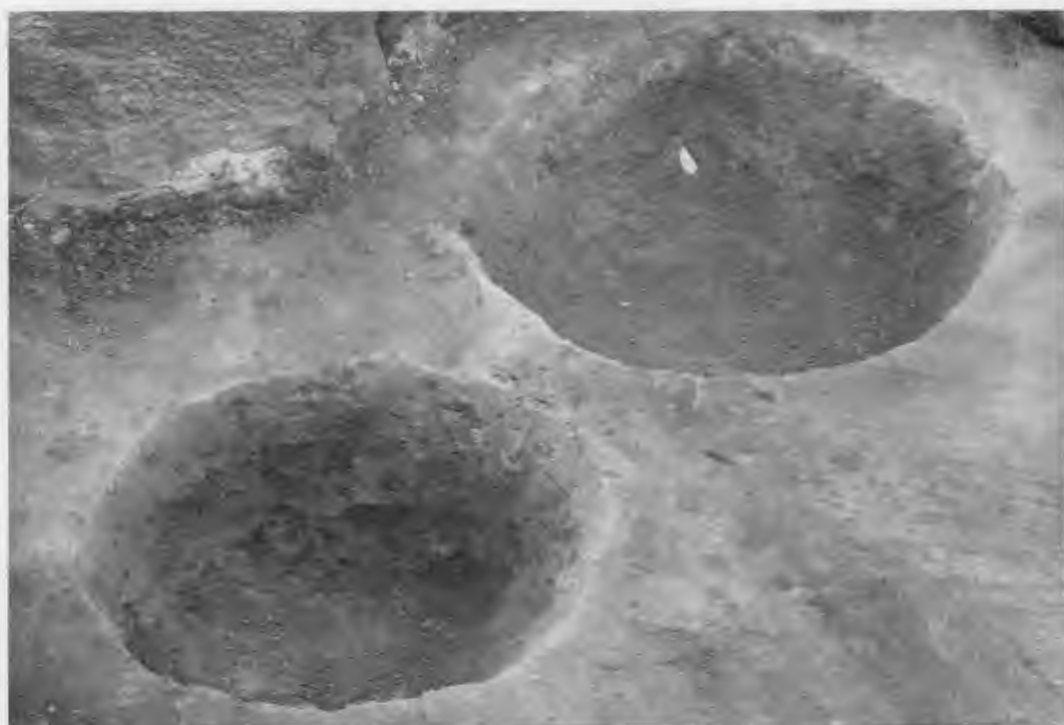
第633号ピット



第701号ピット



第706, 707, 708号ピット



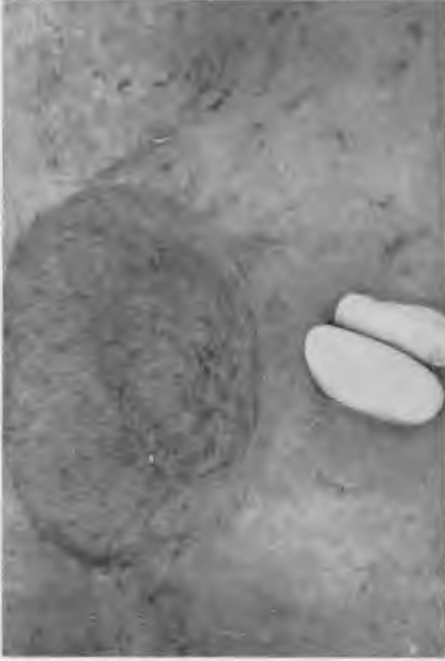
第745, 746号ピット



第766号ピット



第779号ピット



第2号ビット



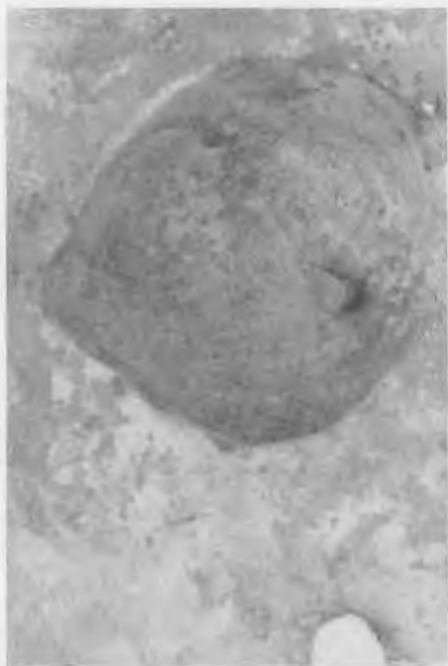
第12号ビット



第14号ビット



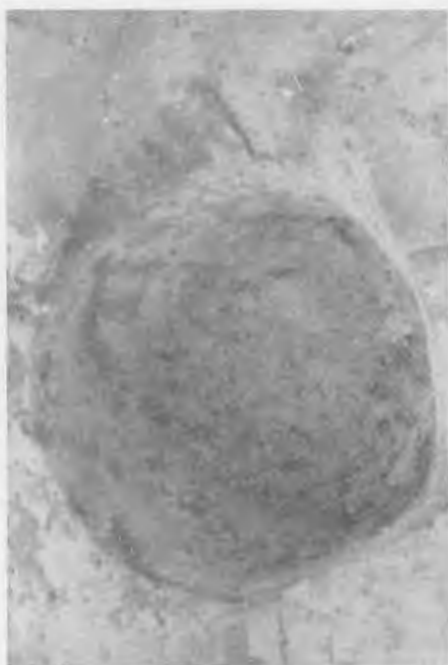
第18号ビット



第20号ビット



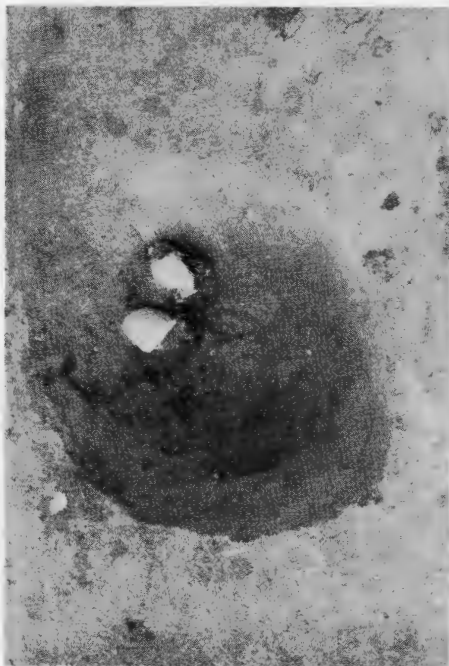
第23号ビット



第24号ビット



第26号ビット



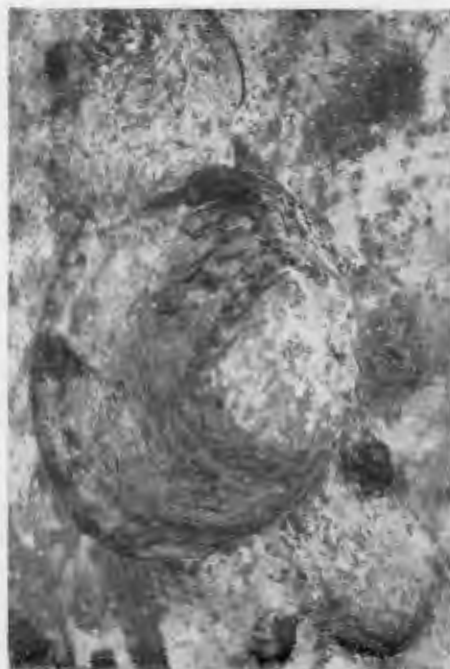
第100号ビット



第87号ビット



第121号ビット



第110号ビット



第47号ビット



第44号ビット



第51～55号ビット



第48号ビット



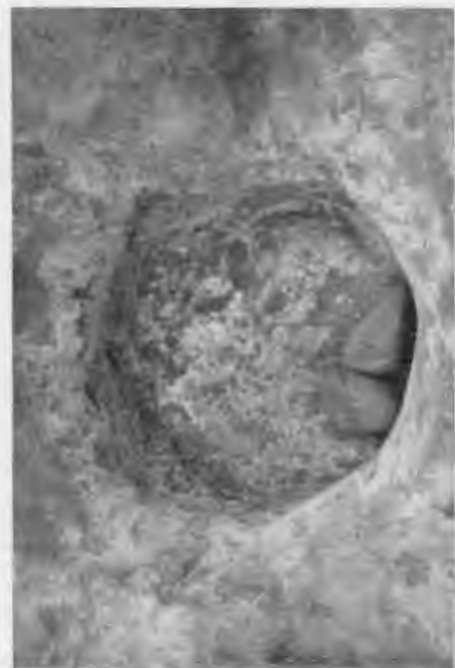
第128号ビット



第130号ビット



第131号ビット



第139号ビット



第140号ピット



第157号ピット



第158号ピット



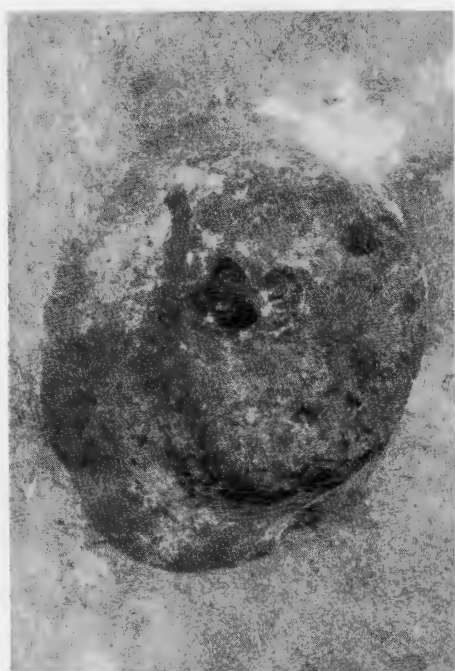
第168号ピット



第187号ビット



第192号ビット



第295号ビット



第318, 318号ビット



第314号ビット



第320号ビット



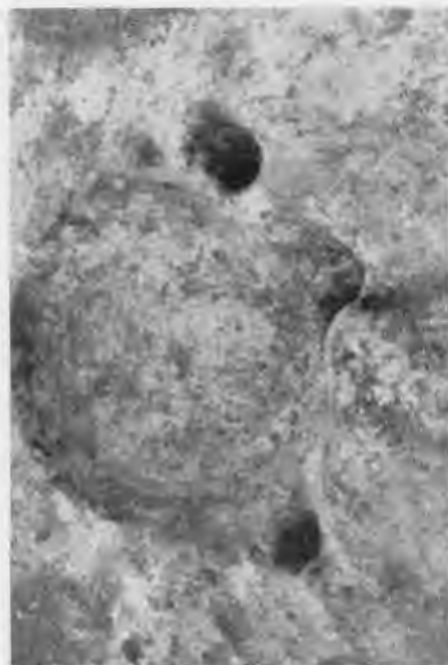
第323, 324号ビット



第325号ビット



第326号ビット



第340号ビット



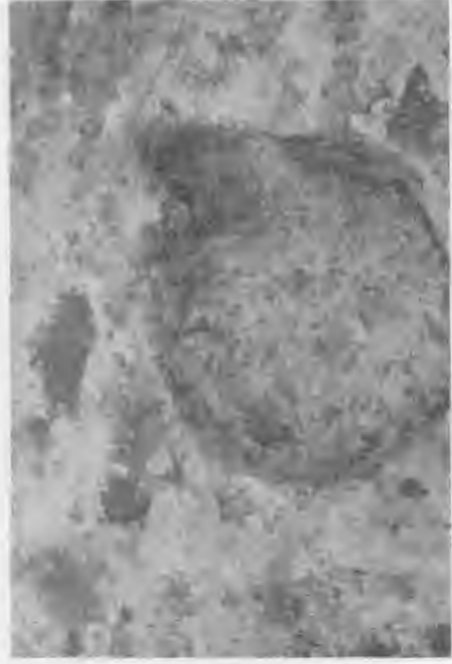
第342号ビット



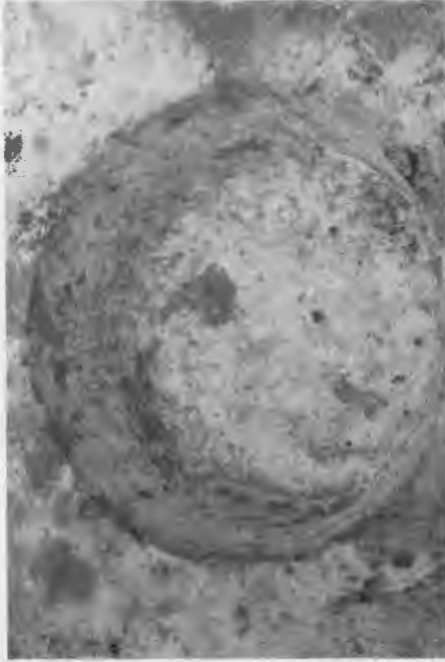
第343号ビット



第349号ビット



第354号ビット



第356号ビット



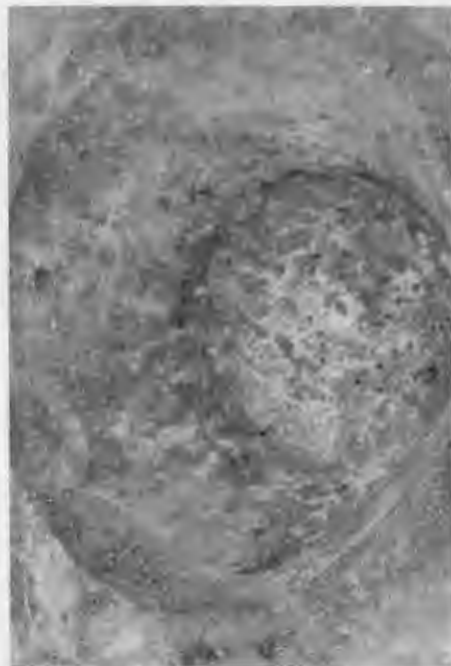
第375号ビット



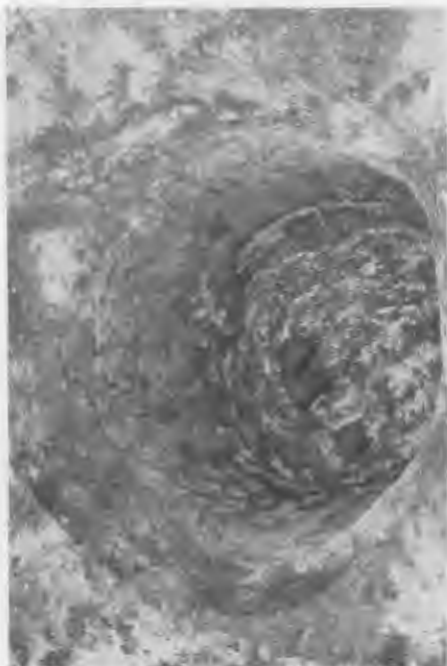
第380, 381号ピット



第382号ピット



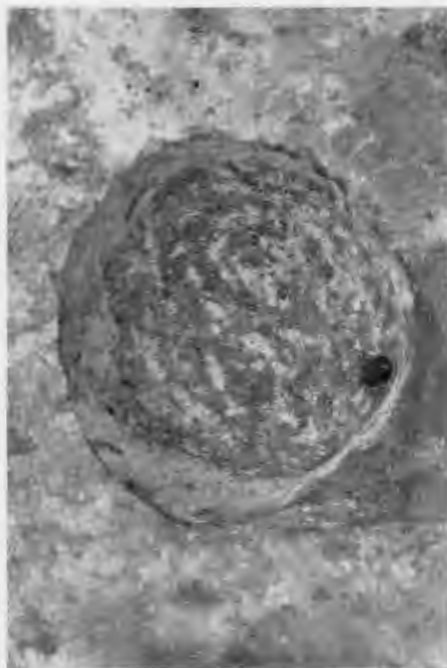
第385号ピット



第394号ピット



第419号ビット



第421号ビット



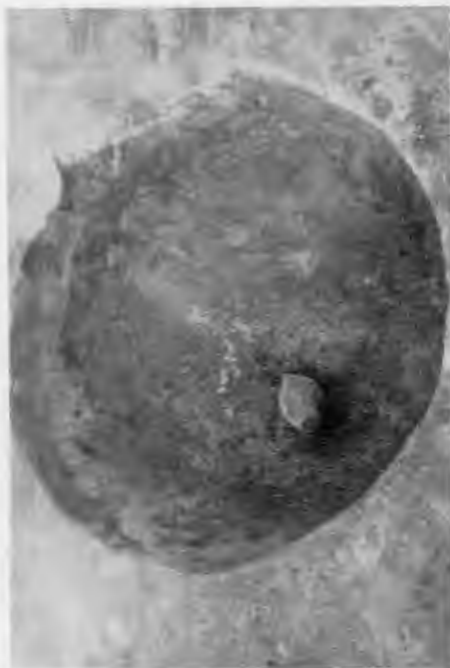
第445, 466号ビット



第496号ビット



第497, 517号ビット



第500号ビット



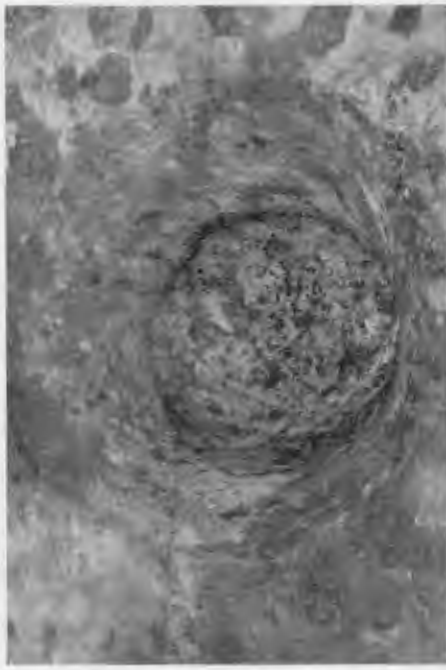
第508号ビット



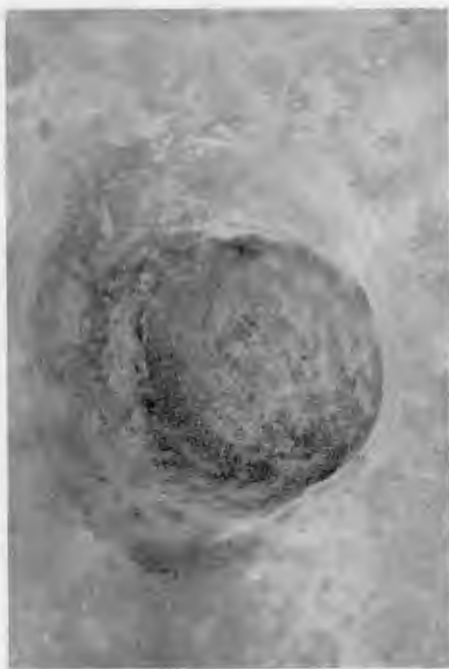
第510号ビット



第514号ビット



第516号ビット



第519号ビット



第530号ビット



第533, 534号ビット



第552号ビット



第607, 608号ビット



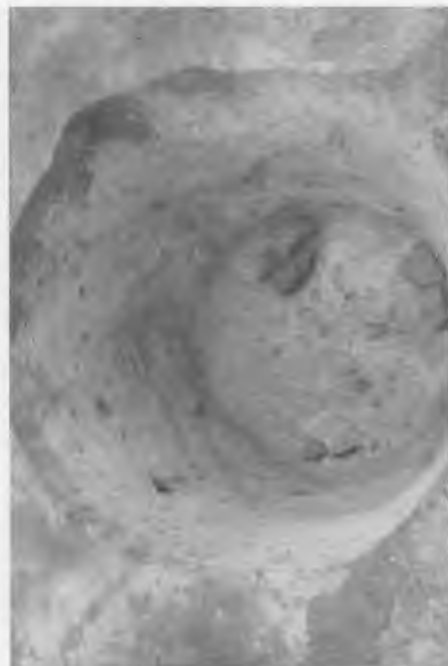
第614号ビット



第615号ビット



第631号ビット



第634号ビット



第635号ビット



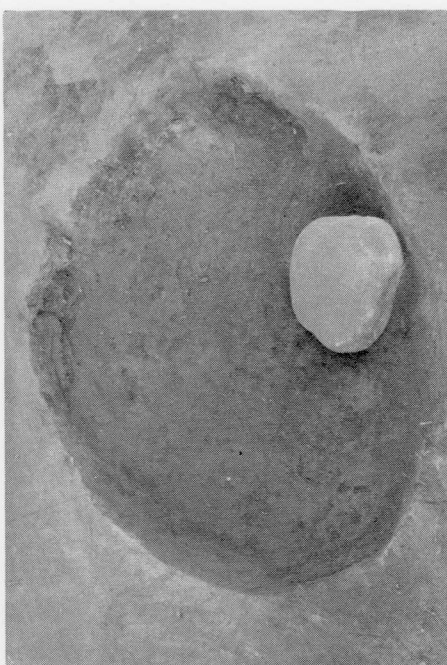
第652号ピット



第654, 655号ピット



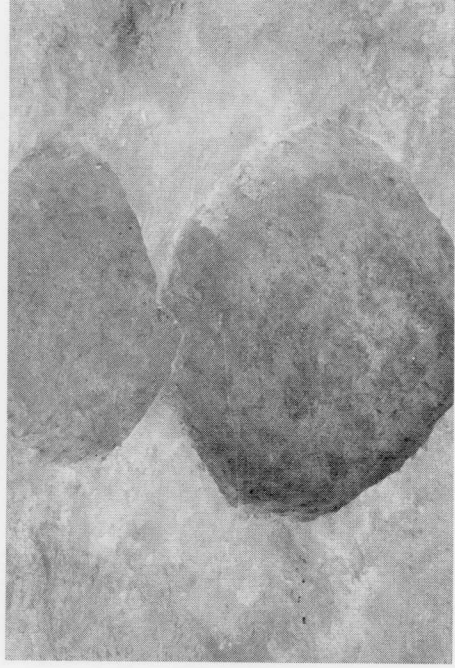
第656, 665, 666号ピット



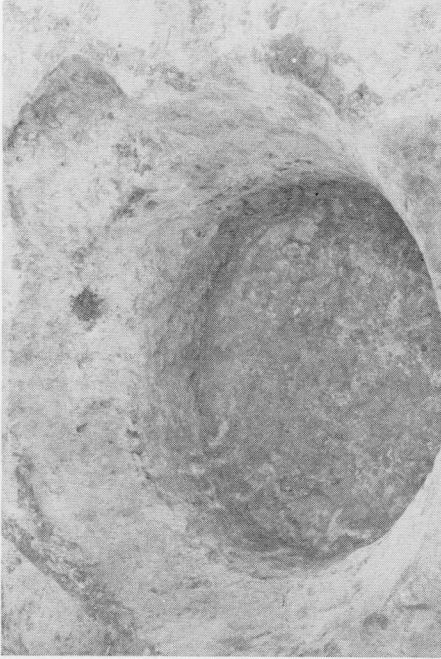
第658号ピット



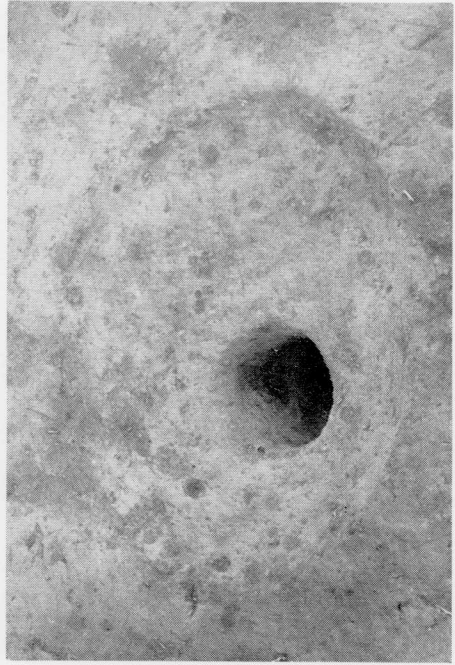
第660号ピット



第661, 662号ピット



第667号ピット



第669号ピット



第674号ピット



第678号ピット



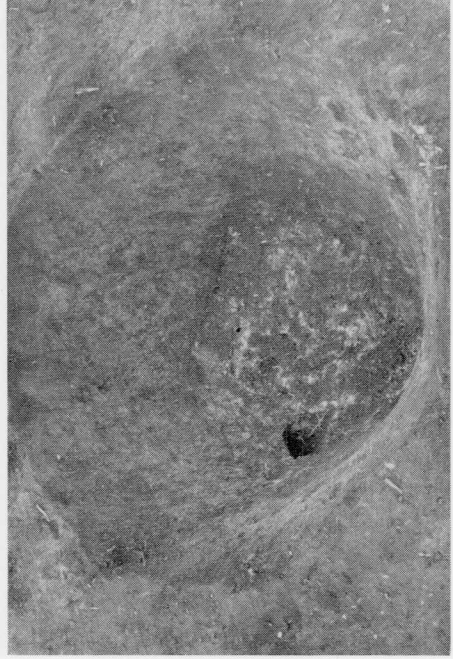
第687号ピット



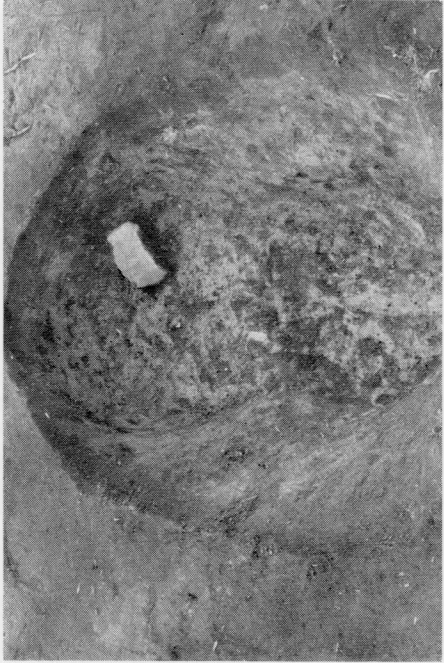
第697号ピット



第698号ピット



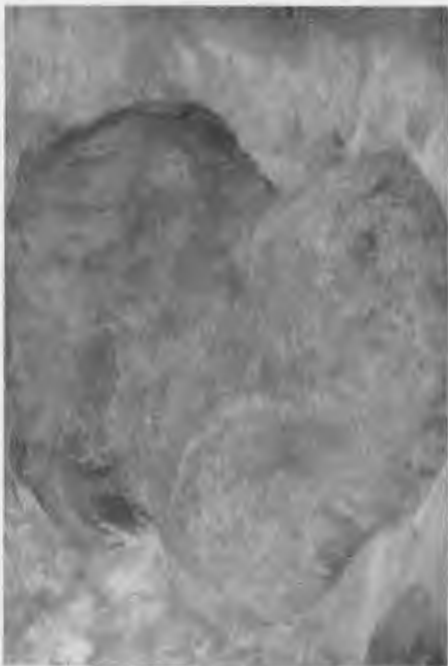
第705号ピット



第710号ピット



第712号ピット



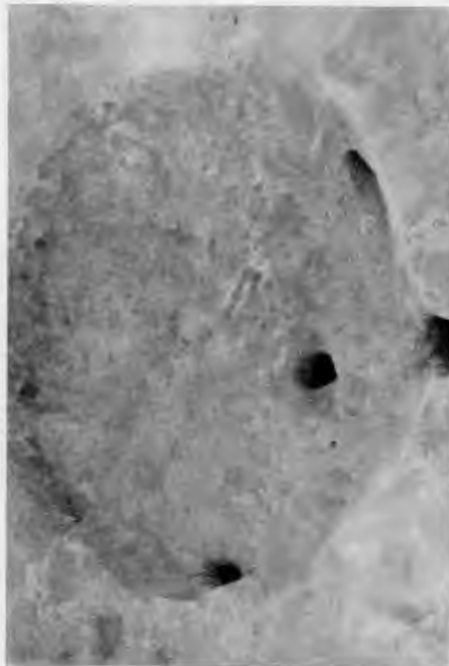
第720, 723号ビット



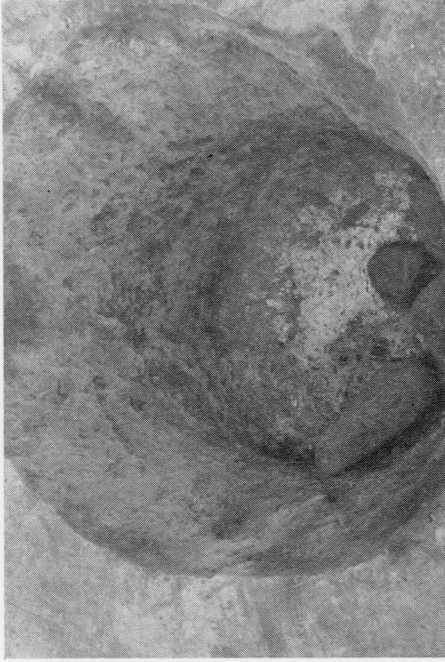
第728号ビット



第731号ビット



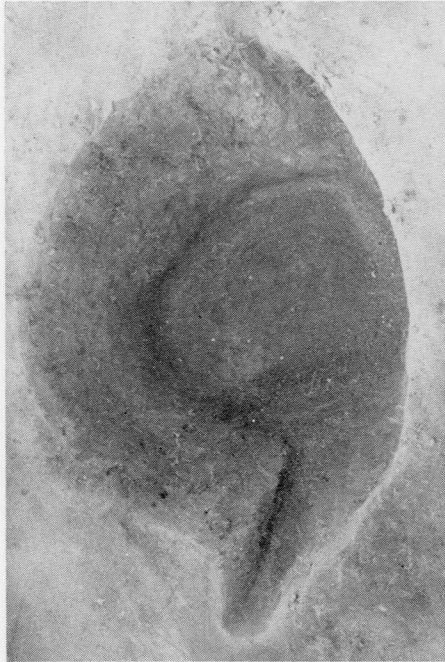
第732号ビット



第737号ピット



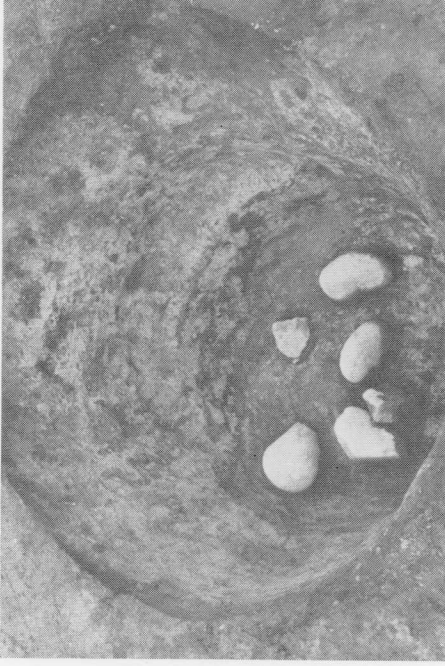
第739号ピット



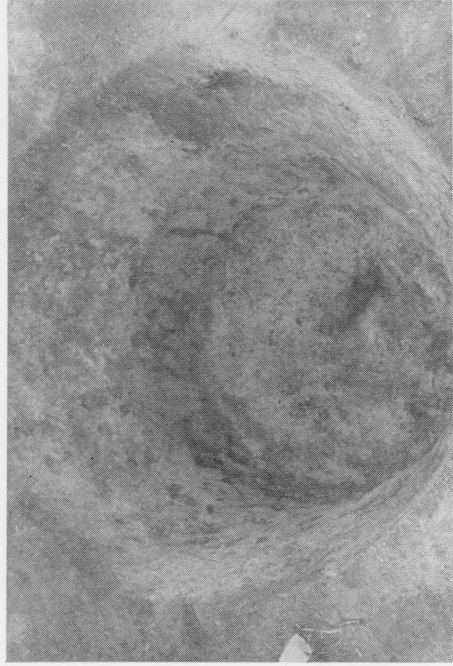
第741号ピット



第737号ピット



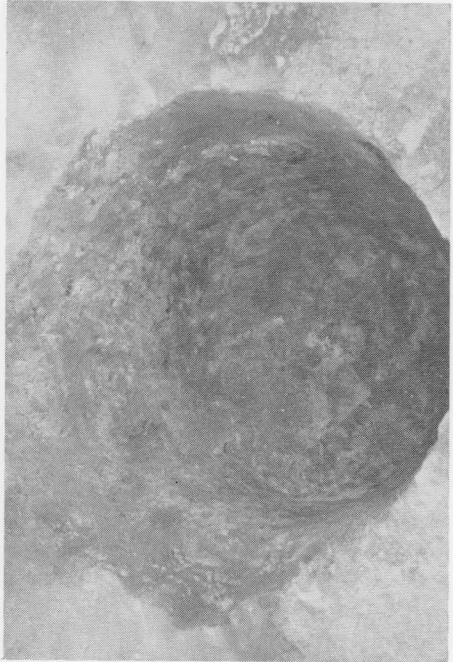
第762号ピット



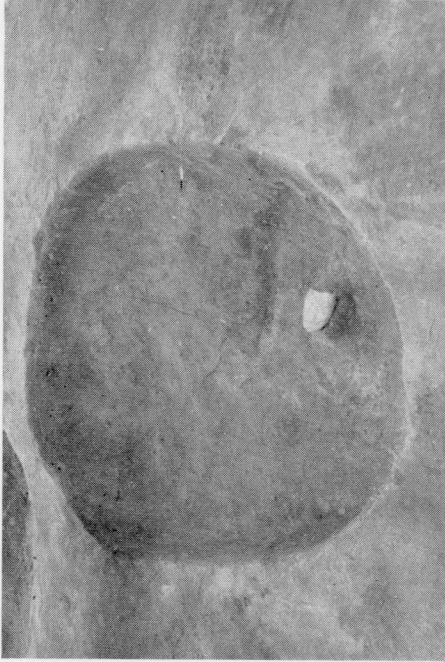
第770号ピット



第779号ピット



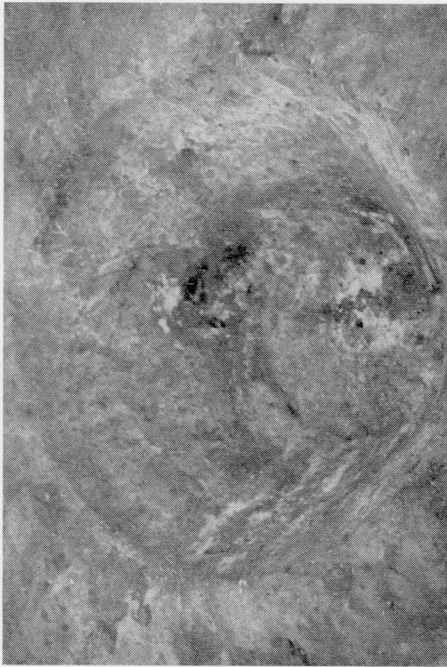
第789号ピット



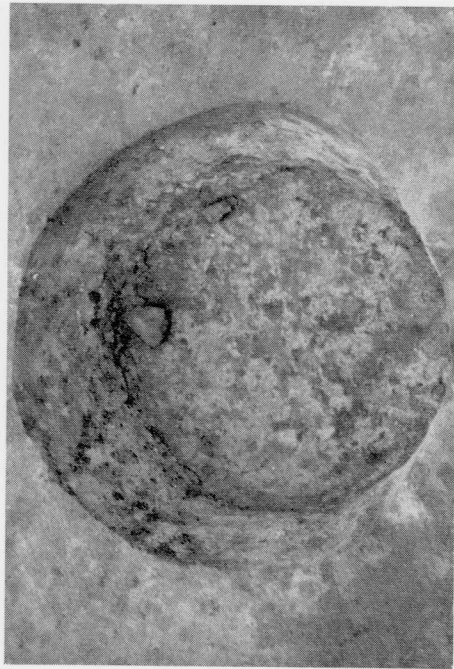
第790号ピット



第791号ピット



第793号ピット



第795号ピット



第1号ビット



第21, 22号ビット



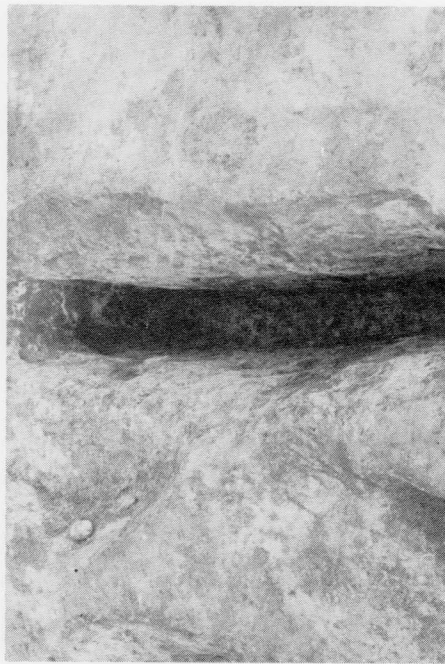
第21号ビット



第22号ビット



第27号ピット



第143号ピット



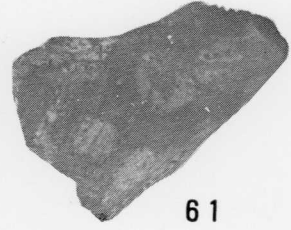
第348号ピット



第376号ピット



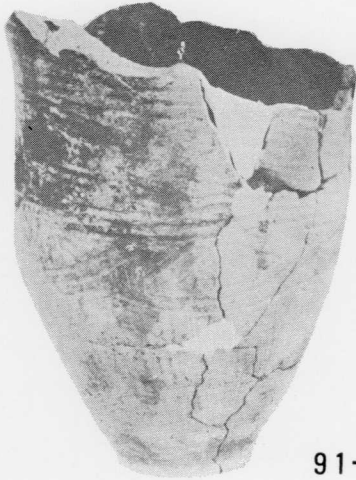
35



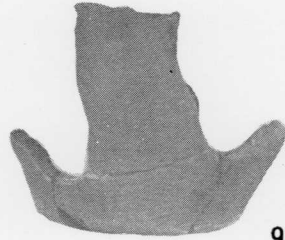
61



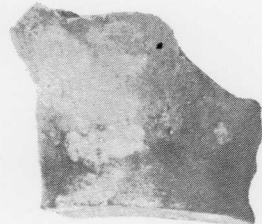
90



91-1



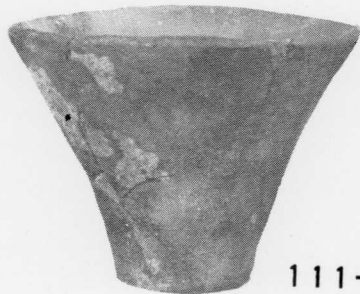
95



111-1



91-2

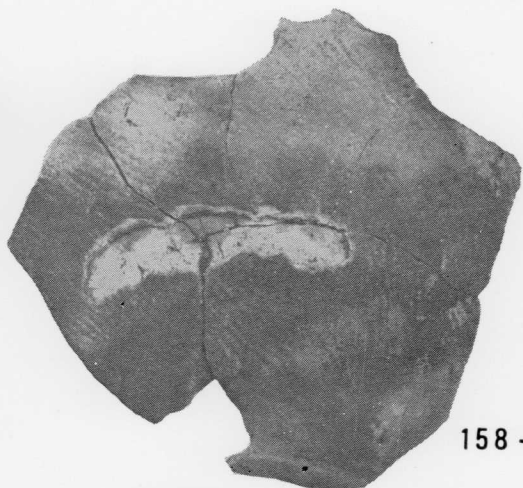


111-2

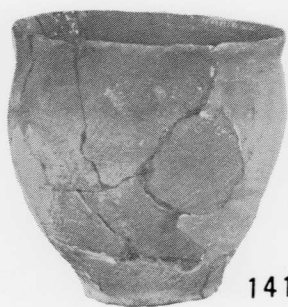
遺構出土土器



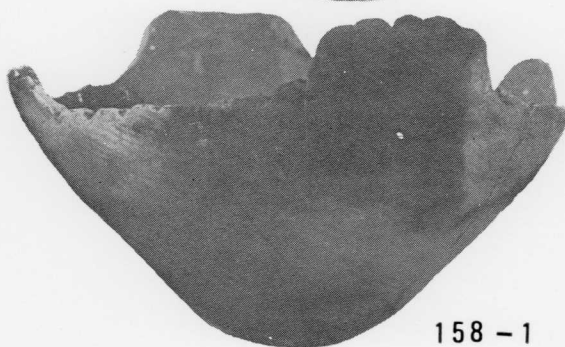
140



158-2



141

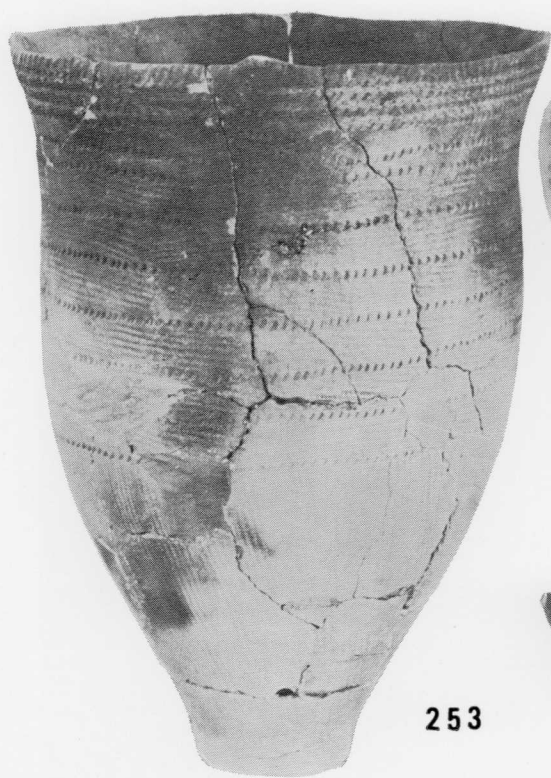


158-1



181

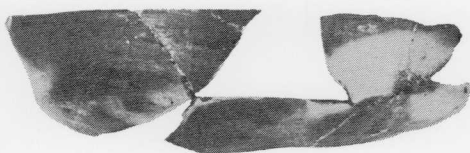
遺構出土土器



253



200



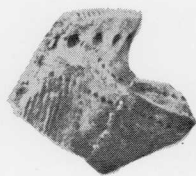
185



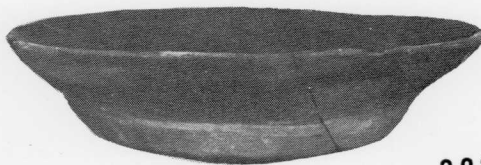
267



380



334

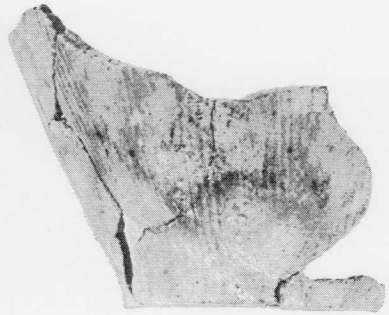


383

遺構出土土器



421



476



493



490



502-2



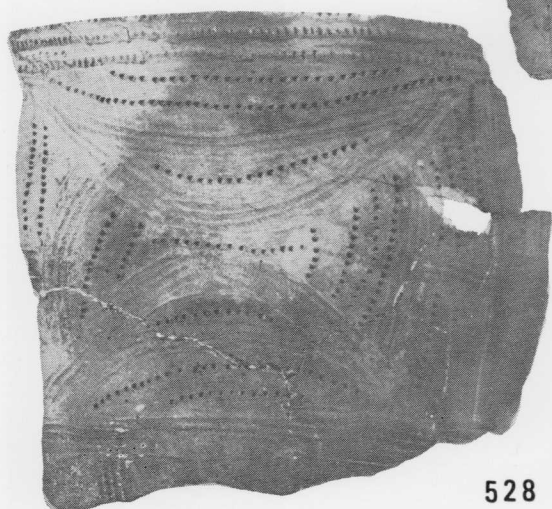
502-1
遺構出土土器



539-1



539-2



528



570

遺構出土土器



601



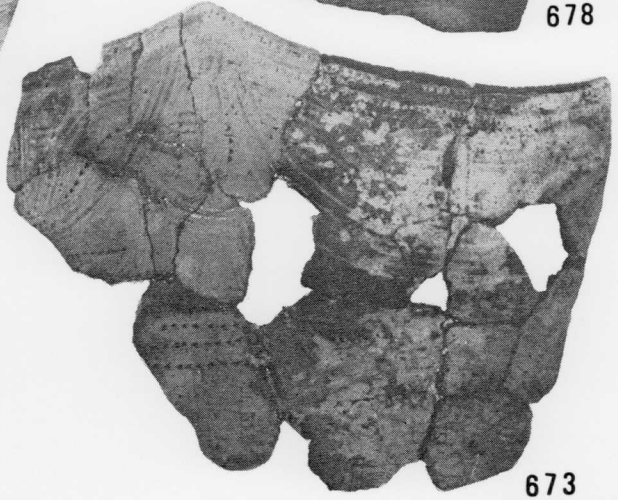
616



678



746



673

遺構出土土器



749



781



754



774

遺構出土土器



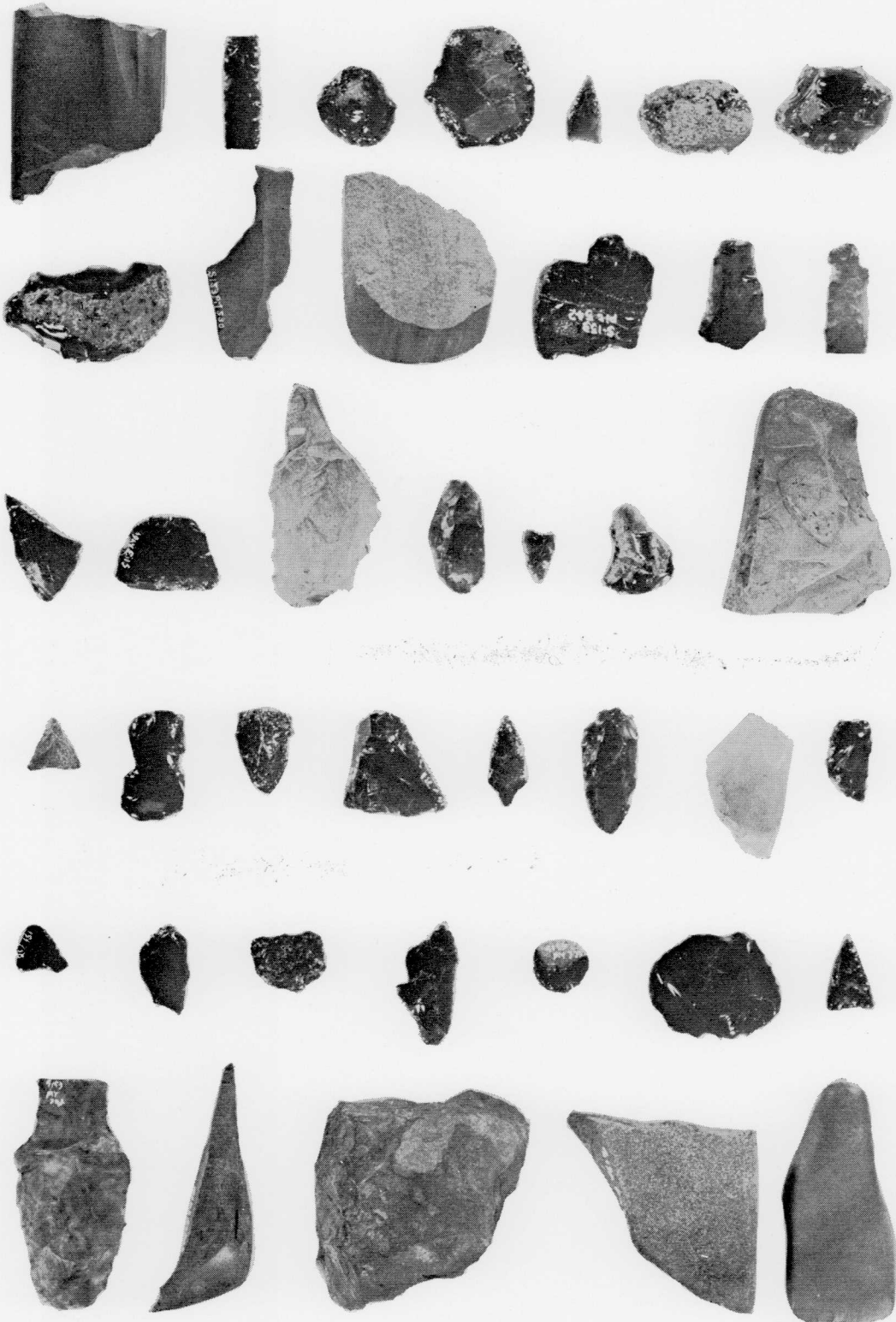
遺構出土石器



第91号ビット出土石器



遺構出土石器



遺構出土石器



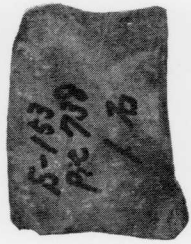
17



91-1



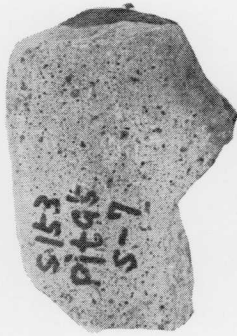
736



738



165



95



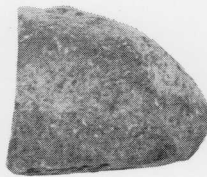
81



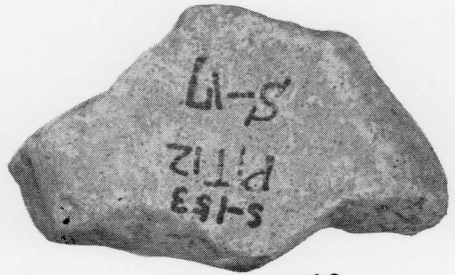
49



298



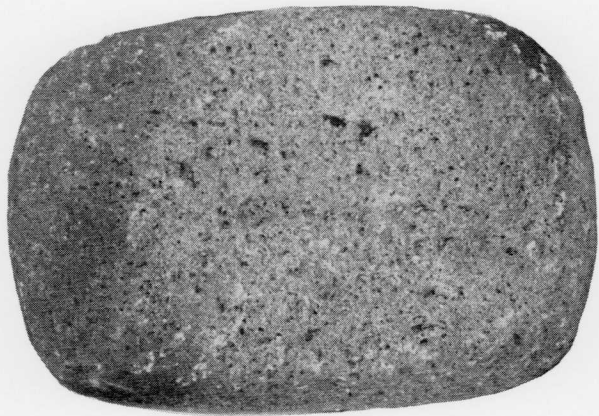
779



12



79



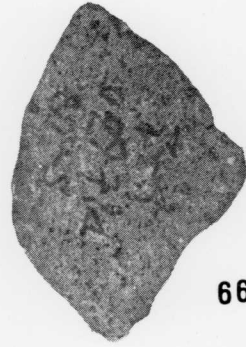
329-1

遺構出土石器

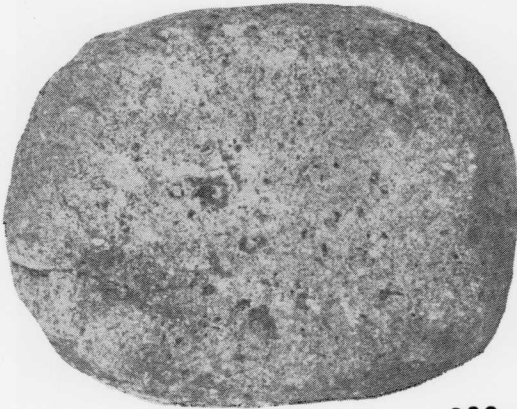


105

289



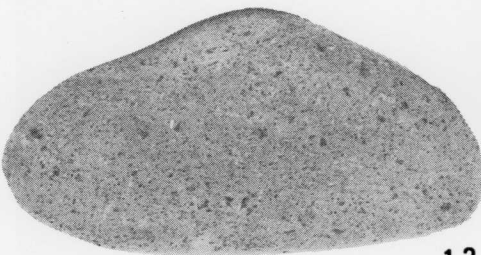
660



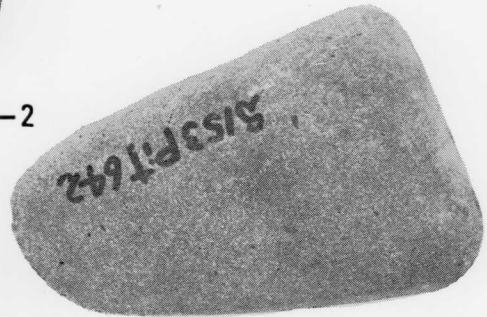
329-2



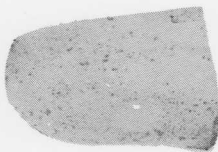
645



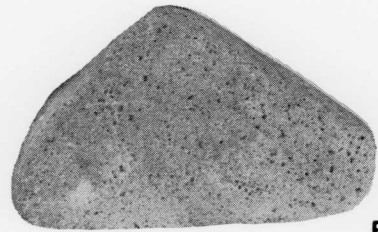
12



642



91-2

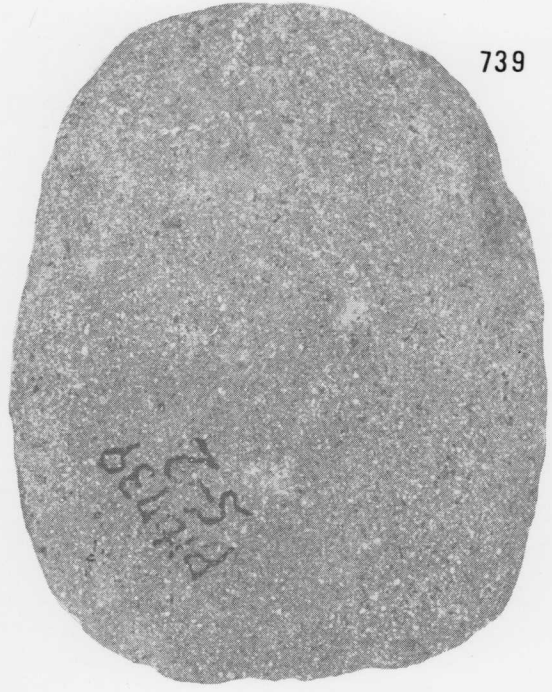


50

遺構出土石器



600



739

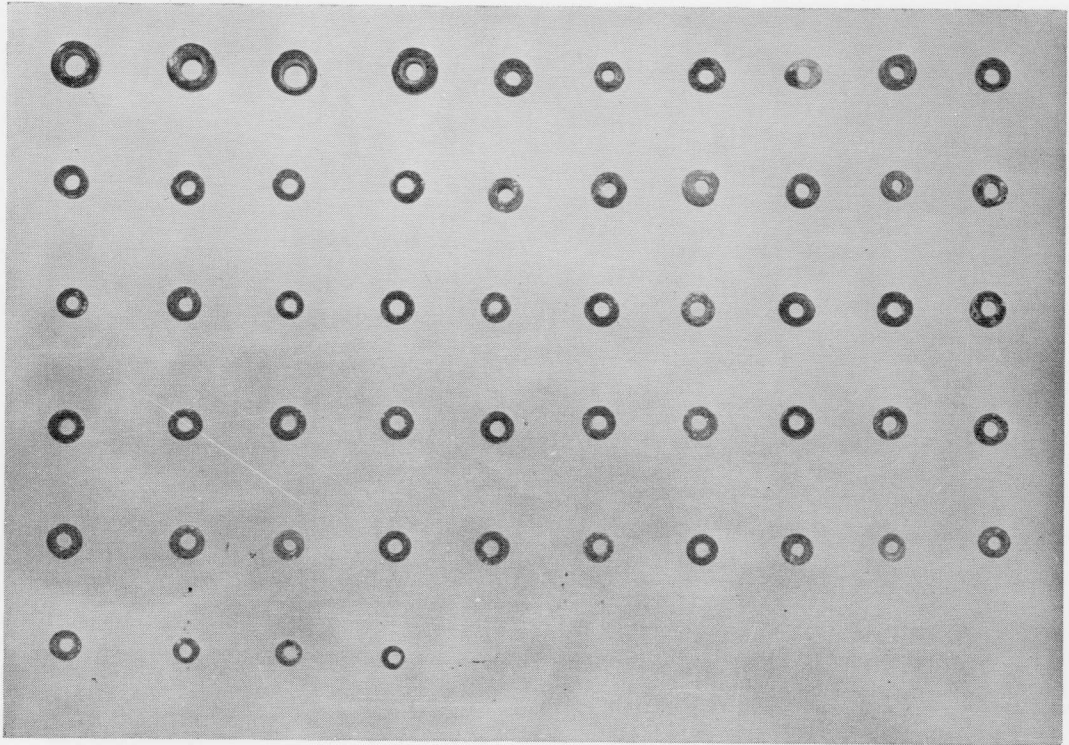


375

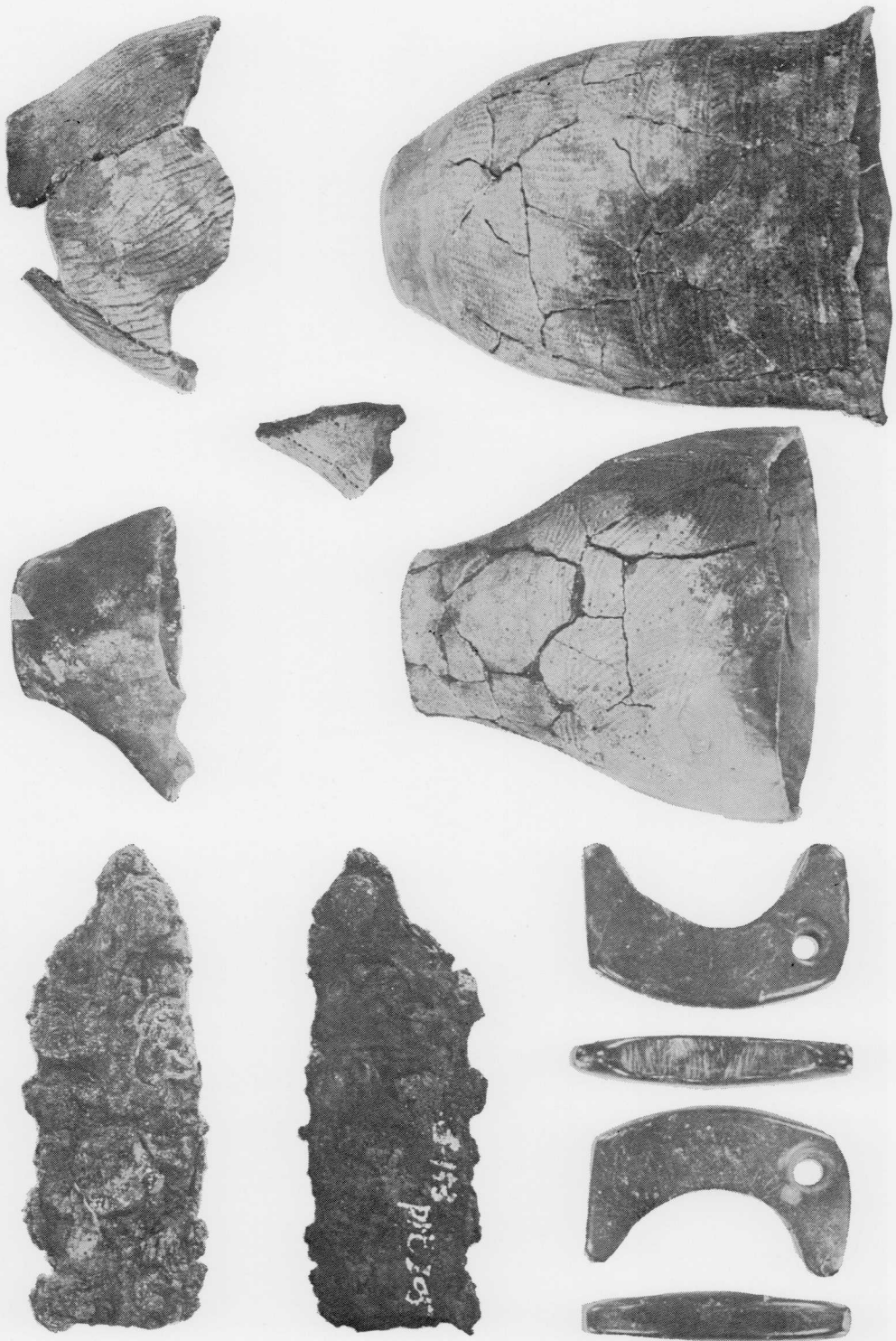


19

遺構出土石器

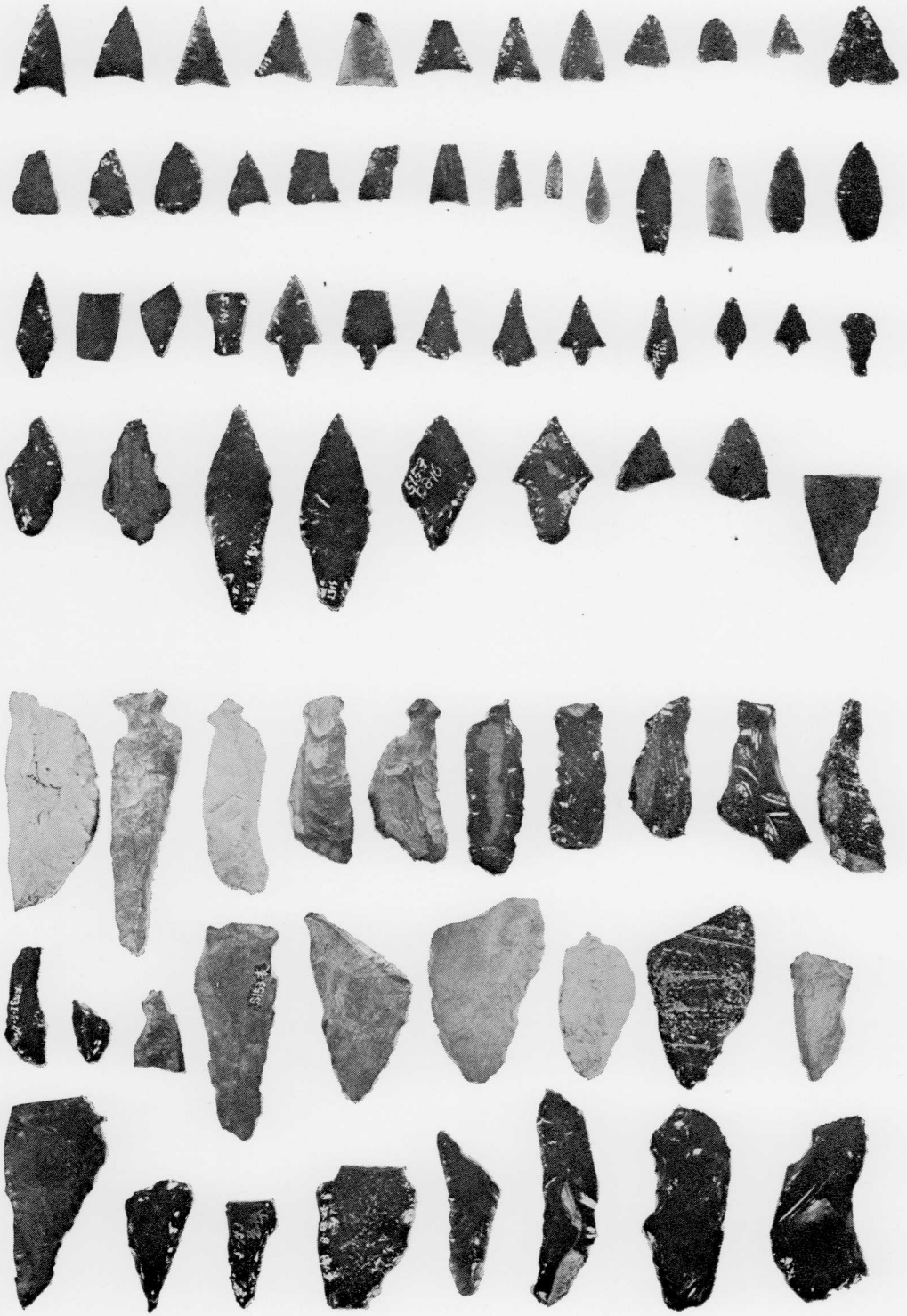


第502号ビット出土玉



図版六十五

発掘区出土土器・石器，第205号ピット出土鉄器



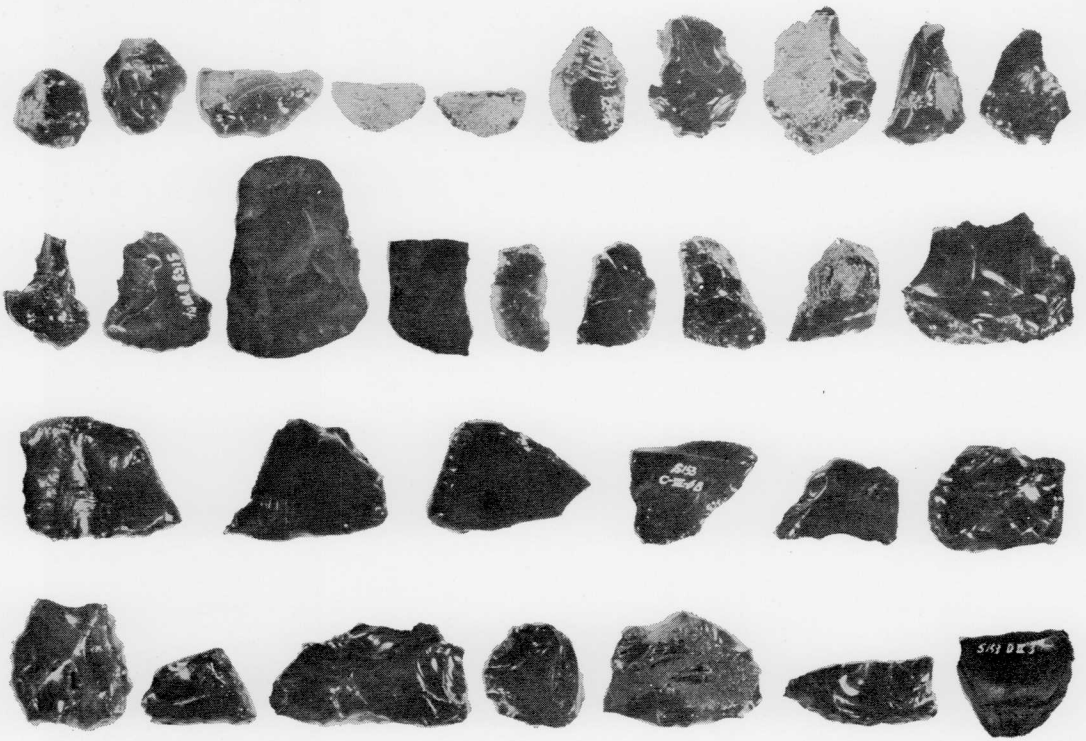
発掘区出土石器



发掘区出土石器



発掘区出土石器



発掘区出土石器



発掘区出土石器

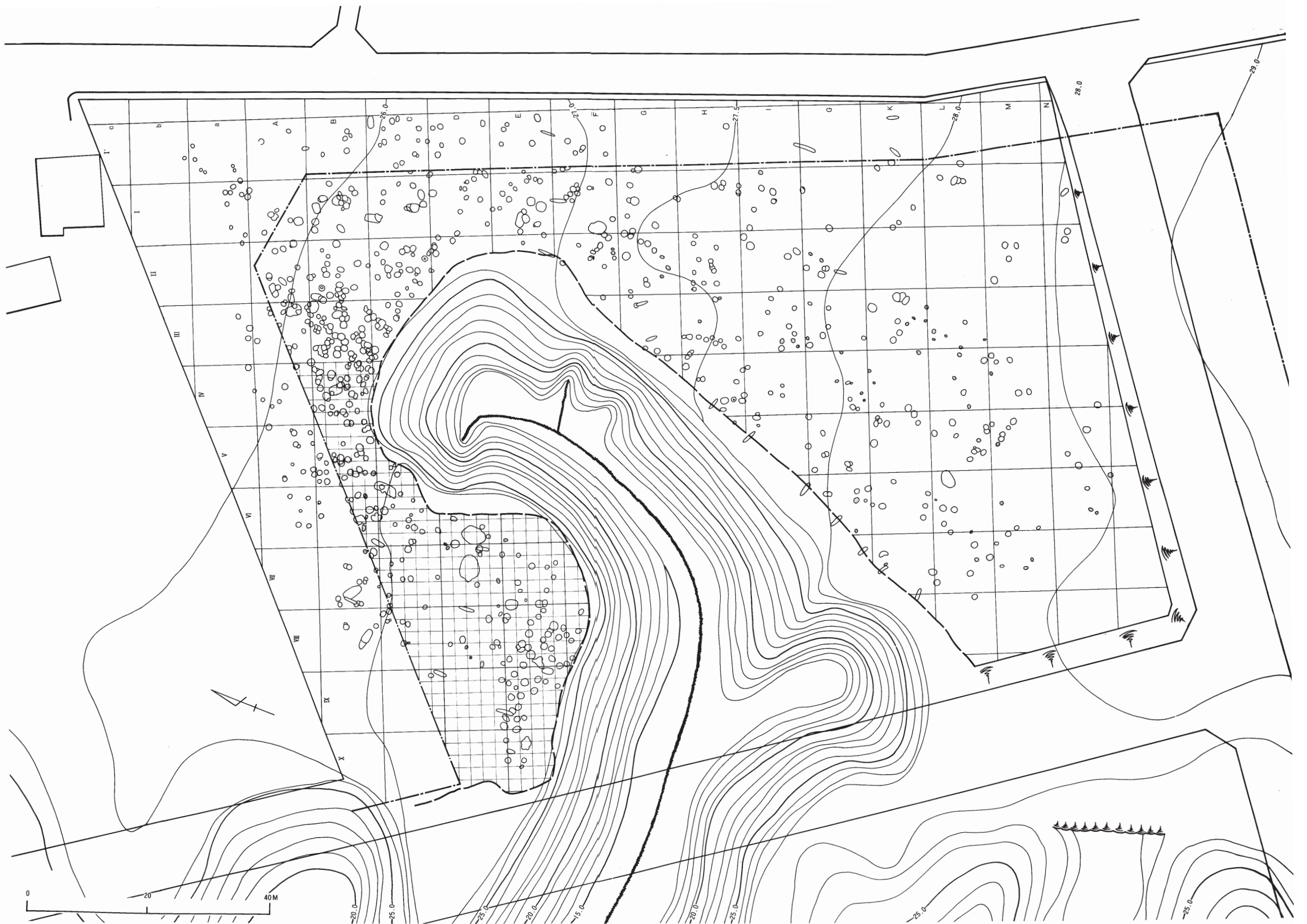


发掘区出土石器

第1表

ビット構築年代と形態分類

		I				II				III				IV				V				小計	備考			
		a	b	c	d	a	b	c	d	a	b	c	d	a	b	c	d	a	b	c	d					
早期	AA								(42)														2	(51)		
	AD								(40)														2			
	CA																						1			
	小計									2													5			
中期	AA																						1	(17)		
	AB																						1			
	BA																						1			
	小計																						3			
晩期	AA				(37), (38), 99 104, (102), (206) (245), (292), (Δ585) (656), (747)	10C, (×144), □158 (493), (618), (621) (626), (702)			(76), 160, (170) ×174, 181, ×182 (□×Δ213), (Δ247) (639)		10A, (11), (15), (861) (147) (87), 101, (106) (739) ×168, 117, ×183 (424), (426), (473) (498), (Δ548), (583) (584), (663)			(Δ177), (205), (Δ206) (Δ429)	(5), (16), (39), (53) 97, □×173 (238), (582), (589) (654)	(180) (432)			(Δ109) (60) (551)							10B, 10D, (□105), (569), 587
	AB																						68			
	AC							(52)			95		(595)			(12)							7			
	AD	(98)	Δ103×118		(645)				(175), (778)							(121)							8			
	BA								(176), (744)							(33), (50), 172							8			
	BD								(204), (642)														4			
	CA								(227)		716												1			
小計	1	2			14	8	2			14		21	3		4		15	3	2	2	2	93				
山	AA							(624)				90, (375), (417)	(428)		(709)		(563)						7	△29		
	AC		754																				3			
	AD		(686)																				2			
	BA				141																		1			
後北	AA																						1	△29		
	AB																						1			
	AC																						1			
	AD																						1			
小計	2				1		1															14				
後北C	AA																						1	(545)		
	AD																						1			
	CA																						0			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(602)		
	AD																						1			
	CA																						0			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																						2			
	小計																						2			
後北C	AA																						2	(613)		
	AD																						2			
	CA																									



第2図 遺跡地形図及び発掘区配置図

(凡例 — 境界線 - - 工事により表土を削られた部分 ~~~~~ 湧水)



第3図 遺構関連図

(●) ローマ数字は焼土

札幌市文化財調査報告書 X

S 153 遺 跡

昭和51年3月15日印刷

昭和51年3月29日発行

発行者 札幌市教育委員会
札幌市中央区北1条西2丁目

印刷所 三陽印刷株式会社
札幌市西区手稲東3北2丁目